健大で学ぶ Well-being

科目区分：**教養基礎**　科目ナンバリング：**LAB000**　学年：**1 年**　開講期：**前期**　選択・必修：**必修**　単位数：**1 単位**　講義形態：**講義**

学位授与方針との対応：

比重 DP

4 豊かな人間性と教養

0 専門的知識

2 問題発見・解決力

3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）

1 自律的・意欲的に学習する力

▌担当教員

【情報】：松尾仁司【福祉】：出雲春明【栄養】：髙梨美穂【薬】：松岡功、須藤豊、高橋恵美利、田中祐司【看護】：吉田久美子、倉林しのぶ、北原恵美【理学】：中川和昌、【子ども】：栗原幸正【農】：橋田庸一、大政謙次、吉積毅、石神靖弘、松岡寛樹、谷顕子

▌科目に関連した実務経験

【子ども】栗原：公立学校教諭・教頭・校長。教育委員会指導主事。群馬県人権教育・啓発推進懇談会座長。

▌SDGs との関連



▌アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

▌実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

　高崎健康福祉大学（健大）を知り、健大への理解と自身の所属学科以外の他学科の理解をもとに、多様な職種に対する理解や自校理解の礎を作る。

　健大の精神「自利利他」は、「人の喜びを自分の喜びとする心」であり、学生生活から将来に至るまで様々な局面での行動・成長基盤となりうるものである。健大精神のあり方を考えるきっかけとなる講義を行い、成長につなげる。SDGs（Sustainable Development Goals）は、持続可能な未来を形成するために意識すべき目標である。SDGs を知り、また具体的な関わりの例などから考えることで、様々な局面で貢献する為の素養を身につける。

　以上を通じて、Well-being 社会に貢献する人材へ成長するための基盤構築を本講義の目標とする。

②講義の実施方法

全講義オンデマンド式とする。

1. 講義の開講について

　講義は第 1 回から 9 回までの講義で構成される。原則として毎週水曜日 15 時に 1 講義分の動画が公開されるので、各自で受講時間を確保して学習を進める。公開から 1 週間以内にオンラインシステムのリンクからアクセスし、講義動画視聴を行い、その後、オンラインシステム内で小テストを実施すること。

　なお、動画へのアクセスは、高崎健康福祉大学グーグルアカウントにログオンした状態でのアクセスが必要となる。第 1 回の講義前、各学科ガイダンス等の中で受講方法に関する説明があるのでその指示に従い、各自で受講準備を行う事。

2. 講義の出席について

原則、各学科が 1 回を担当し学科の理解、学科における自利利他・SDGs との関わりについて例を含めながら講義を行う。講義動画へのアクセスと小テスト実施をもって出席とする。

3. 講義後の入力提出について

講義視聴後に自身が感じた自利利他や SDGs への考え、講義の感想など思った事をオンラインシステム上からアンケートに回答すること。アンケートは自由記述とするが講義改善の指標とするので、積極的な参加を期待する。

▌到達目標

1. 健大の学部・学科について知り、理解を深める。
2. 健大精神「自利利他」を知り、理解を深める。
3.SDGs を知り、理解を深める。■

▌使用教材

各講義回で利用する資料・教材がある場合にはオンラインシステムを通じて電子ファイルで配布を行う。

▌評価方法

第 1 回の受講（4%）と各講義回の講義動画閲覧と小テスト：2〜9 回（各 12 %）の合計 100 %で評価する。

▌課題・評価に対するフィードバック方法

小テストは点数のみ公開する。不正解の問題があった場合には講義を再視聴し、公開期間内に小テストをやり直したのち、自身の考えを醸成させること。小テストは再解答を 3 回まで認めるので、各自で適宜復習を行い、考えを発展させてほしい。

▌オフィスアワー

質問はオンラインシステムの連絡機能やメールで受け付ける。対面による質問を希望する場合はメールで事前に相談すること。

情報：松尾（1 号館 607 研究室）
福祉：出雲（1 号館 511 研究室）
栄養：髙梨（3 号館研究室）
薬：松岡（7 号館 312 研究室）
看護：吉田久（5 号館 410 研究室）
理学：中川（4 号館 413 研究室）
子ども：栗原（8 号館 学部長室）
農：橋田（10 号館 604 研究室）

▌授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	本学の歴史、大学としての自利利他、SDG ｓの考え（高崎健康福祉大学　学園長、学長)。	1,2,3	自利利他の意味、SDGs について調べておく。 自身の端末で高崎健康福祉大学のアカウントにログオンできるようにしておく（各学科ガイダンス等で受講法の説明があるので、各自で第 1 回講義前までにオンライン受講準備を整え、ガイダンス動画を閲覧しておくこと)。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
2	医療情報学科（松尾）：情報技術が支える健康・医療	1,2,3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
3	社会福祉学科（出雲）：誰も置き去りにしない社会	1,2,3	「誰も置き去りにしない社会」や「地域社会における支え合いの意義」について、調べておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。 講義で取り扱ったケースについて調べ、周囲と話しあってみる。	1h
4	健康栄養学科（髙梨）：食と健康・福祉・医療	1,2,3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	薬学部（松岡、須藤、高橋、田中）：Well-being とクスリ	1,2,3	薬剤師の業務について調べておく。オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
6	看護学科（吉田、倉林、北原）	1,2,3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
7	理学療法学科（中川）	1,2,3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h
8	子ども教育学科（栗原）：学校教育と LGBT ■	1,2,3	LGBT に関する新聞等の報道記事に目を通し、社会の動向を掴んでおく。	1h	講義動画での学びを基に、自身が今後どのような行動をすべきかについて、身近な友人・知人との話し合いを通して明確にする。	1h
9	農学部　（橋田、大政、吉積、石神、松岡、谷）	1,2,3	オンラインシステムへのログイン方法を確認しておく。 オンデマンド講義を視聴するための方法、環境を確認しておく。	1h	講義動画での学びを基に、自身の行動にどのように応用するか考える。	1h

▌合計時間（予習・復習）

18h

▌備考

授業の時間について

記載した予習復習時間で、講義内容の不明点が残る場合には各自で補完すること。

動画へのアクセスについて

各回講義動画の閲覧には、「高崎健康福祉大学のグーグルアカウント」にログオンした状態の端末でアクセスする事が必要です。講義動画にアクセスできない場合、アカウント設定やアクセス方法などを確認するようにして下さい。

質問などについて

各講義回で生じた内容に関する質問は講義回担当者へ、受講法に関する事は自学科担当教員に質問する事。

連絡をオンラインシステム経由で行う際には、「連絡・相談機能」を活用し、所属学科と学籍番号、氏名を記載の上、誰に対するどのような質問かを明記する事。返信がない場合には E-mail で再度連絡を行う事。

成績評価について

講義回数は全 9 回で終了だが、成績付与は学期末に行われる。

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。

なお、令和 4 年度以前の入学者が本講義を受講する場合は、単位認定時評価は「認定（N）」となり、GPA 算出、卒業必要単位の対象外となる。また、履修登録時の CAP のカウントには含めない。

■：実務経験に基づく内容を示す

基礎教養ゼミ

英文名：Freshman Seminar (FYE)
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB001
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

町田　修三、長井　茂、小泉　英明、飯島　哲也

科目に関連した実務経験

小泉：人事、社員教育担当として企業にて勤務（経験）

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Think Pare & Share, Round Robin, 作文添削、個別指導など
小テスト等は採点後返却し解説する

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①充実して実り多い大学生活を送るには、どうしたらいいのだろうか？大学で失敗しないためには、初年時に学生生活の送り方を修得しておくことが極めて大切である。本講義では大学生活のキーとなる、学習方法やレポート執筆等にかかる「学習スキル」、コミュニケーション能力や主体性をはじめとした「ソーシャルスキル」、読み書きや数的能力などの「アカデミックスキル」など、学生にとって必要不可欠なスキルをしっかりと身につけていくことを講義の目標としている。また、早期にキャリア意識を獲得することも併せて目指している。受講学生には、積極的に講義に参加する受講態度が求められる。
②本講義は複数の担当講師によるオムニバス形式での実施となる。授業では、ジェネリックスキルをつけるため、できる限りアクティブラーニングを取り入れる。日本語作文能力と数学基礎力は、学習支援センターとのコラボレーションで提出と添削を繰り返して涵養を目指す。

到達目標

1．大学での学習生活を確立する。
2．基礎学力を確認し、自己学習の方向性をつかむ。
3．社会人に必要とされる言葉使い・文章表現を習得する。■
4．総合適性検査（SPI）を意識し、対応するための基礎力を養成する。
5．キャリアデザインの構築を図るために、社会常識・マナー等を学び、自ら考え、自ら問える力を養う。■
6．効果的なアクティブラーニングを自ら体得し、実践できるようになる。

使用教材

資料、プリント

評価方法

参加貢献度50%、提出物50%で総合的に評価する。総合評価60%を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物・レポート・小テストを返却し、解説をする。基礎力テストや実力テスト後に解説や結果を知らせる。

オフィスアワー

学習支援センター（2号館2階）
月～金開室
以下の時間に質問を受け付ける。
●数的処理→月曜日
●言語関係・レポート等→水曜日、金曜日

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	大学で何を学ぶか（意義と目的）		事前にシラバスを読み、目標を確認し、大学生活をプランニングする。	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。	1h
2	書くためのスキル（ノート、レポート・論文の書き方）	1,2,3	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	ノートテ―キング、レポートの書き方をマスターする。	1h
3	基礎力テスト（計算／言葉）	1,2,3,4	言語・作文・計算や数式など基礎力を確認しておく。	1h	今までの学習を振り返り、復習する。	1h
4	解くためのワークⅠ（計算）	1,2,4	計算方法や文章題の復習をしておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
5	書くためのワークⅠ（文章表現、ライティング）■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた作文を書き直す。	1h
6	コミュニケーションスキルⅠ（アクティブラーニングGW）	1,2,6	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	自己のコミュニケーションスキルを分析する。	1h
7	キャリアデザインⅠ■	1,2,5	自らの人生設計について考えておく。	1h	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1h
8	解くためのワークⅡ（数的処理①）	1,2,4	前回の問題を解いておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
9	キャリアデザインⅡ■	1,2,5	自らの人生設計について考えておく。事前配布した教材に目を通しておく。	1h	自らのキャリアを考え、自己分析する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	読むためのスキル（新聞を読み説く）■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた作文を書き直す。与えられた教材を読む。	1h
11	解くためのワークⅢ（数的処理②）	1,2,4	前回の問題を解いておく。	1h	配布した問題の残りを解く。	1h
12	書くためのワークⅠ（文章表現、ライティング）■	1,2,3	事前配布した教材に目を通しておく。	1h	添削を受けた作文を書き直す。	1h
13	コミュニケーションスキルⅡ（プレゼンテーションGW）	1,2,6	事前配布した資料に目を通しておく。	1h	プレゼンテーション資料を作成してみる。興味あるトピックについて発表できるようにする。	1h
14	実力テスト	1,2,3,4	今まで学習した内容を復習しておく。	1h	試験の内容を振り返り、学習する。	1h
15	シンポジウム―より充実した学生生活をめざして	1,2,3,4,5,6	これまでの講義内容を振り返り、どう活用するかを考えておく。	1h	大学生活を有意義に過ごすための方策を考える。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

GW＝グループワーク
記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修や課題の作成等で各自必要な学習時間を補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

日本語表現法

英文名：Japanese Expression Method
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB002
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

古澤　良文

科目に関連した実務経験

記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆、読者欄の投稿を添削。

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①日本人の極端な日本語能力低下が問題視される中で、「書き言葉」の表現力を向上させるために、まず自分の考えをまとめ、書くに至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、自分の考えをいかに文章化するかを修得する。同時に他者の考えを、発言や文面から把握するとともに、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。
②現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、毎回実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を3回程度実施する。

到達目標

1.自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。
2.日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。
3.日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■
4.文章の組み立て方を理解し、習得できる。
5.日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■

使用教材

担当教員作成のプリント。

評価方法

筆記試験（80%）・授業参加度（20%）によって総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。

オフィスアワー

授業の前後1～2時間。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	原稿用紙の書き方（テーマに基づいて実際に執筆する）■	1	400字詰め原稿用紙の使い方	1.5 h	カッコや句読点の書き方 その日の出来事を原稿用紙に書いてみる	1.5 h
2	日常生活の心掛け　小テスト（漢字の特殊読み）■	1,4	社会の変動に関心を持つ	1.5 h	活字を読む習慣を身に付けるにはどうすべきか考える	1.5 h
3	三段論法と逆三角形　小テスト（書けそうで書けない漢字）■	2,4	新聞記事を段落ごとに考えながら読む（新聞は図書館にある）	1.5 h	新聞記事を「逆三角形」を意識しながら熟読する	1.5 h
4	文章をうまく見せる3カ条 小テスト（同音異義語）■	2,4	1回目に書いた文章を見直す	1.5 h	1回目に書いた文章を書き直してみる	1.5 h
5	主語と述語　小テスト（四字熟語ことわざ①）■	2,3	テキストをチェックしておく	1.5 h	テキストの悪文例を正しく直す	1.5 h
6	小論文執筆（複数のテーマから1つを選んで書く）	1,2,3	4回目のプリントチェック	1.5 h	書き足りなかったことがないか	1.5 h
7	修飾語　短歌・俳句　小テスト（間違い探し①）■	2,4	文章はリズムが大切　短歌・俳句を作ってみる	1.5 h	プリントの悪文例を見直す	1.5 h
8	話し言葉と書き言葉　小テスト（四字熟語ことわざ②）■	2,3	「ら」抜き言葉の長所短所	1.5 h	話し言葉を書き言葉にしてみる	1.5 h
9	「心ひかれる一曲」などテーマに応じてエッセイを書いてみる	1,4	その曲になぜ、心ひかれるのか。具体的な体験を交えて表現する	1.5 h	授業で書いたほかにも書いてみる	1.5 h
10	センテンスは短く　小テスト（同義語反対語）■	3,4	新聞のコラムを読む	1.5 h	悪文例を直す	1.5 h
11	小論文執筆（同じ形容詞や動詞を何度も使わないように）■	1,2,3	4回目、7回目のプリント見直し	1.5 h	別のテーマで書いてみる	1.5 h
12	敬語　小テスト（四字熟語ことわざ③）■	3,4	敬語の種類を調べる	1.5 h	プリントの問題を解く	1.5 h
13	推敲　小テスト（間違い探し②）■	2,4,5	書籍、新聞を声に出して読む	1.5 h	自分の文章を直してみる	1.5 h
14	覚えておきたい短詩と台詞	3,4,5	知っている俳句や短歌を思い出してみる	1.5 h	声に出して読んでおく	1.5 h
15	小論文執筆（小論文のテーマに沿ってタイトルを自分で書く）■	1,2,3	社会問題を考える	1.5 h	別のテーマで書いてみる	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す
　読者投稿欄のデスクを長く務めた経験を生かして、「読みやすい文章とは何か」「人の心を捉える文章とは何か」を伝えていきたい。

印刷　閉じる

日本国憲法

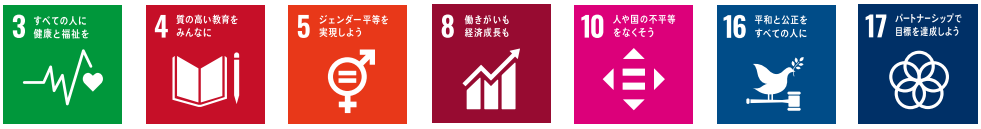
英文名：Japanese Constitution
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB003
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

金井　洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①憲法の基本理念と日本国憲法に関する基礎的知識を習得することを第一義的な学習目標とする。第二に、社会人として要求される価値規範意識を、憲法学習を通して醸成することを目標とする。終局的に、身近な生活関係の中から人々の権利の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題の理解を深めることを目標とする。
②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的あるいは国際的に大きな政治の動きがあった場合には、その話題を飛び入り的に割り込ませることはある。日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。

到達目標

1.日本国憲法を貫いている思考や仕組みと日本国憲法の歴史的背景を理解することができる。
2.憲法が解決すべき紛争について、その歴史的、社会的背景を認識することができる。
3.市民相互間の法的関係や公的部門のそれに対する機能の関連性を考察することができる。
4.政治の世界で起きている出来事について、具体的な憲法規定と結びつけることができる。
5.主要な学説について、その対立の背景と主張のねらいを認識することができる。

使用教材

テーマ別レジュメ、概要・事例資料、憲法条文注釈資料（テキストの代替）
＊テーマによってはDVDの視聴あり。

評価方法

平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間小テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
課題提出は概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する（テーマについては適宜指示）

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	憲法とは何か？－憲法学習の意義と憲法の本質－	1	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	国家・国民・政府－憲法を構成する基本要素の内容－	1	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	日本国憲法の制定過程	1,4	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明、資料；「日本国憲法の有効性」	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	日本国憲法の基本構造と特色	1,2	資料「日本国憲法の体系」熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	国民主権と天皇制	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	平和主義と9条解釈の変遷	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	基本的人権の沿革と観念	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	基本的人権規定の適用問題（範囲と限界）	2,3,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	日本国憲法上の諸権利の性格	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
10	国会の地位と国政選挙の仕組み	1,2,3	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	行政権の意義と内閣の組織・権限の特徴	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	司法権の意義と法令審査権の性格	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	財政処理の基本原則と予算の構造と機能	4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	権力分立制と地方自治・分権	1,4	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	憲法改正と憲法保障	1,2,4,5	条文注釈資料の熟読と疑問点の究明	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。

印刷 閉じる

法学

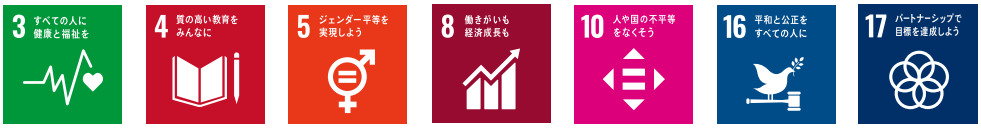
英文名：Law
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB004
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

金井　洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマに関する課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①法の存在意義を人生の節目で生じる法律問題を通して理解することを基幹的目標とする。生活上生じる法律問題や法的処理事項の背景にある法社会学的意味を考える。法律関係は権利義務の変動の関係であるので、それぞれ権利義務とその変動要因にどのような種類があるかを知ることを目指す。法律関係の基本的システムを習得することによって、社会的生活者に要求される法規範意識を身につける。
②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に大きな社会問題が発生した場合には、その話題あるいは関連する事項を飛び入り的に割り込ませることがある。

到達目標

1.法の存在意義や社会的機能の全体的な姿を理解することができる。
2.法制度の社会学的意義を理解することができる。
3.契約関係のシステムの意義と特色を理解することができる
4.家族関係の法律的処理の方法を理解することができる。
5.法的紛争処理の限界を知り円滑な生活関係を維持する手法を考察することができる。

使用教材

テーマ別レジュメ、概要・事例資料（テキストに代替するプリント）　＊テーマによってはDVDの視聴あり。

評価方法

・平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
・課題については概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテストを実施する。

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	法の意義と機能	1,5	高校時の社会の教科書「法分野」の箇所を読んでおくこと	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	成人と法－人の年齢と能力の法的意味	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	就職と法－採用の法的意味と選別の法的問題	2,3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	労働と法－労働契約の内容と労働条件の保護	2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	結婚と法－婚姻の要件と夫婦の法律関係	2,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	親子と法その1－出生をめぐる法律問題と親子関係の形成	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	親子と法その2－親権関係と扶養関係	2,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	教育と法－義務教育の意義と就学過程の法律問題	2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	社会活動と法－団体の法律関係と団体生活の法律問題	1,2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
10	社会負担と法－租税等の国民負担と公共生活上の法律問題	2,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	国際化と法－出入国管理の法律関係と渉外事件の処理	1,2,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	財産関係と法－取引の法律関係と契約締結上の法律問題	1,2,3	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	犯罪と法－犯罪・刑罰の法的意味と科罰手続の法律問題	1,2	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	争い事と法－紛争の法的処理方法と裁判の仕組み	1,2,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	老年期と法－介護・医療の法律問題と人の死の法的意味	1,2,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「概要・事例資料」読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
日々の社会の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりにその背景や解決策を考えておくことを期待する。

印刷 閉じる

経済学

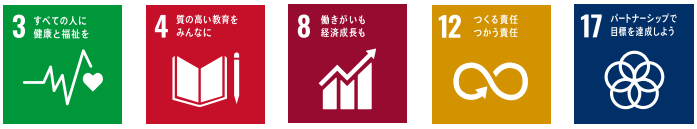
英文名：Economics
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB005
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

町田　修三

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業内での問いかけ、QUIZ、質疑応答（ミニッツペーパー上の質問を含む）などを用いた双方向性授業。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、学生が新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。
②授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。

到達目標

1.日本の経済の現状を説明できる
2.需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる
3.景気やGDPについて理解を深め、概説できる
4.国の予算や税金制度について説明できる
5.お金の流れや物価変動について説明できる

6.経済政策について理解を深め、他者に説明できる
7.為替レートの変動と貿易の実態について概説できる
8.新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる

使用教材

必修テキストはない。講義では毎回資料、データを配布する。

参考文献

推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。

評価方法

学期末試験80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物（クイズ、小レポートなど）20%

課題・評価に対するフィードバック方法

コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する。

オフィスアワー

月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション（一部AL[アクティブラーニング]実施）	8	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1h	ニュースに触れる習慣（新聞、テレビ、ネット）を開始する	1h
2	日本経済の流れ（世界との比較のなかで）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
3	経済政策の2大潮流―マーケットorケインズ（一部AL実施）	1,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
4	需要と供給（需要曲線の意味）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
5	市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
6	価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）	2,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
7	国民所得Ⅰ（国の経済力はどう測るんだろう？GDPって何？）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
8	国民所得Ⅱ（あなたが1万円使うとGDPはいくら増える？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
9	財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）	1,4,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）（一部AL実施）	1,3,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
11	金融（日本銀行は何をするところ？）（一部AL実施）	1,5,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
12	経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？トランプは何をする？）	1,6,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
13	為替レートのメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
14	世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）（一部AL実施）	1,7,8	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1h	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5h
15	まとめと確認のためのテスト	1,2,3,4,5,6,7,8	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3h	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5h

合計時間（予習・復習）

39h

備考

AL（アクティブラーニング）は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど。
記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修（推薦テキストの講読、新聞・雑誌の経済記事講読等）により、必要な学修時間を各自で補完すること。

印刷 閉じる

社会学

英文名：Sociology
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB006
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

安達　正嗣

科目に関連した実務経験

兵庫県庁の家庭問題研究所において3年間、研究員ならびに主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施し調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①社会学的なものの見方とは、どういうものなのか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念・用語には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。
②使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。

到達目標

1.大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。
2.社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。
3.日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につける。

4.社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。
5.現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■

使用教材

篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。

参考文献

講義中に、適宜指示する。

評価方法

平常点（毎回提出してもらうリアクションペーパー（設問形式）については、第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験50%です。

課題・評価に対するフィードバック方法

各受講生の提出したリアクションペーパー（設問形式）に書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前に答える。

オフィスアワー

火曜日5限・6限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、第1章社会学とは何か（1～12頁）について解説する。	1,2,3,4	第1章を読んでおくこと。	1.5h	第1章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
2	第2章社会を観察する方法（13～24頁）を解説する。	1,2,3	第2章を読んでおくこと。	1.5h	第2章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
3	第3章社会で活きる「私」（25～35頁）を解説する。	1,2,3	第3章を読んでおくこと。	1.5h	第3章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
4	第4章変容する家族のかたち（36～47頁）を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■	1,2,3	第4章を読んでおくこと。	1.5h	第4章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
5	第5章性の多様なあり方を考える（48～59頁）を解説する。	1,2,3	第5章を読んでおくこと。	1.5h	第5章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
6	第6章「現実を生きる」ための社会学―労働・産業・消費―（60～72頁）を解説する。	1,2,3,4	第6章を読んでおくこと。	1.5h	第6章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
7	第7章日本で進展する環境・災害社会学（73～86頁）を解説する。	1,2,3,4	第7章を読んでおくこと。	1.5h	第7章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
8	第8章社会学から医療を見つめる（87～97頁）を解説する。	1,2,3,4	第8章を読んでおくこと。	1.5h	第8章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
9	第9章社会学は教育とどう向き合うのか（98～109頁）を解説する。	1,2,3,4	第9章を読んでおくこと。	1.5h	第9章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	第10章逸脱行動と社会問題（110～121頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第10章を読んでおくこと。	1.5h	第10章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
11	第11章「格差」の社会学（122～134頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第11章を読んでおくこと。	1.5h	第11章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
12	第12章生活空間としての地域社会（135～149頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第12章を読んでおくこと。	1.5h	第12章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
13	第13章グローバル社会とエスニシティ（150～162頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第13章を読んでおくこと。	1.5h	第13章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
14	第14章宗教から社会を捉える（163～176頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第14章を読んでおくこと。	1.5h	第14章を再読して、その内容を理解しておくこと。	1.5h
15	第15章社会の中のメディア／メディアが動かす社会（177~189頁）を解説する。	1,2,3,4,5	第15章を読んでおくこと。	3h	第15章を再読して、その内容を理解しておくこと。	3h

合計時間（予習・復習）

48h

備考

各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

生涯健康論

英文名：Lifelong Health Theory
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB007
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

渡邊　秀臣、五十嵐　康、蒲　章則

科目に関連した実務経験

渡邊:非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。
②講義においては、前半はテーマについて概要を説明し、後半は質疑応答する形式ですすめる。レポートについても発表する時間を持ちたい。

到達目標

1.健康の定義と集団の健康評価指標について理解できる。■
2.個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解できる。■
3.環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解できる。■
4.健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解できる。■

使用教材

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

参考文献

参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向2020/2021」を利用する。

評価方法

授業参加内容：40点、課題に対するレポート内容：60点　：総合60点以上を合格とする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートに対し必要なコメントをする。（対面講義でもオンライン講義でも同様）

オフィスアワー

渡邊:（金）13：00～14：30
研究室　4号館2階学部長室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康の定義と健康評価指標（渡邊） WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、<平均寿命>、<平均余命>、<健康寿命>、<最長寿命>などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。■	1	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。	1.5h	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。	1.5h
2	健康を維持するための食物と物質代謝（五十嵐） 食物（栄養素）は健康に欠かすことのできないエネルギー源である。その物質代謝（同化・異化作用）に関わる体の構造とその働きを理解しながら健康維持について学習する。	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5h	食物のエネルギー代謝と健康について理解する。	1.5h
3	恒常性維持機構の役割と相互作用（五十嵐） 生体には様々な生理機能をバランスよく正常に機能・維持するための調節機構、すなわち「恒常性維持機構（ホメオスタシス）」が備わっている。このシステムは主に神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。また、食物の消化・吸収を担う腸管では細菌の侵入を防ぐ恒常性機構が働いている。これらの様々な維持機構の働きと相互作用について学習する	2	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。	1.5h	生体の恒常性機構と健康維持の関係を理解する。	1.5h
4	運動と健康（渡邊） 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。する。また、運動による突然死防止のための運動前内科的メデイカルチェックの重要性について理解する。■	2,3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5h	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	喫煙による健康障害（渡邊） たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの＜喫煙と健康障害＞のメカニズムについて理解する。＜受動喫煙の影響＞についても考える。■	2,3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5h	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.5h
6	生活習慣病の起因となる肥満（五十嵐） 肥満は原因により原発性肥満（エネルギー摂取過多など）と二次性肥満（性腺機能低下など）に分けられるが、いずれも高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの代謝障害の基盤となり、虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を発症する危険因子となる。それらの起因となる肥満の発症と予防について学習する。	2,3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5h	肥満とメタボリックシンドロームの病態と対策を理解する。	1.5h
7	生活習慣病の危険因子としての糖尿病（五十嵐） 2型糖尿病（インスリン抵抗性糖尿病）は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化、さらには腎障害、視力障害及び神経障害の3大合併症の誘発のみならず、健康寿命短縮の危険因子でもある。危険因子としての糖尿病とその予防法について学習する。	2,3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5h	糖尿病の病態と対策を理解する。	1.5h
8	生活習慣病(脳血管障害)と認知症（五十嵐） 血管性認知症はアルツハイマー病に次いで２番目に多い認知症である。脳は全身の20%近い血液を必要とする臓器であることから、その発症は循環器障害などの生活習慣病と密接に関係する。ここでは血管性認知症と他の認知症の病態を比較しながら、その予防と治療の現状について学習する。	1,3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5h	認知症の病態と原因、予防、治療などの現状について理解する。	1.5h
9	ロコモティブシンドローム（渡邊） 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。	3,4	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5h	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.5h
10	生活習慣病(がん)と生活習慣（渡邊） 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣＜(がん発症危険因子)＞を知る。また、＜がん予防のための生活習慣＞及び早期発見・早期治療のための＜がん検診＞の重要性について理解する。■	3,4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5h	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.5h
11	WHOの歴史と活動内容（蒲） 第2次世界大戦後に設立された国際専門機関として、戦後から現代にいたるまでの活動変遷を検証する。WHOの取り組みを理解し、現在あるWHOの問題点、改善点を考察する。健康であることがいかにその国の活力（国力）に寄与するかを理解する。	1,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	WHOの戦略（蒲） アルマータ宣言で採択された「すべての人に健康を」スローガンのもとに、」各国が公衆衛生の原点に立ち返り、保健行政戦略を作成、さらに現代進められている持続可能開発目標（SDGs）に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）にいたることを検証する。	1,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5h	国際機関での世界の保健戦略を学習する	1.5h
13	途上国の保健行政（蒲） 途上国の人種、風土、歴史的背景、宗教等を考察し、独自の保健行政戦略を実施しているが、その成果や反省点を検証し、日本における地域医療の課題を含めて、今後の対策を考察する	1,3,4	WHOウェブサイトで該当部分を学習する	1.5h	国際機関で発展途上国への保健戦略を学習する	1.5h
14	日本の保健行政と世界の保健行政（蒲） 膨大な医療・介護予算をどのように有効に使うか、保健医療行政の立場から検証考察をする。各国の取り組みを比較検証し、今後の行政の取り組みを考える。	1,3,4	厚生労働省のウェブサイトで該当部分を学習する。	1.5h	日本における厚生労働省の保健戦略と動向を理解する。	1.5h
15	地域における健康支援チーム構成員とその役割（チーム医療）（渡邊） これまでは､健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが､地域における集団での支えあいに重点を置くとされた｡地域における健康支援には､本人､家族を中心に､医療専門職者､診療情報管理士、管理栄養士､福祉専門職者､その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である｡どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する｡■	4	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5h	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

レポートの提出をもって出席とする。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

生涯学習概論

英文名：Introduction to Lifelong Learning
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB008
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

平林　茂、三村　国宏

科目に関連した実務経験

（平林）公立小学校・中学校の教員、校長（経験）。群馬県教育委員会(指導主事、所長）では生涯学習教育の推進業務、社会教育主事及び地域・学校ボランティア対象の生涯学習推進に関わる研修会講師（経験）。
（三村）公立中学校の教員、高等学校、中等教育学校の校長（経験）。伊勢崎市教育委員会（指導主事、指導係長、教育プラン推進担当課長、学校教育課長）にてコミュニティ・スクール推進（経験）。大学・企業との教育連携協定推進等（経験）。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト等についてコメントを行い、授業中に振り返り質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人が学習する場は学校だけではなく、図書館・公民館等の社会教育施設やさまざまな団体での学習機会などがある。本授業では生涯学習を実践していく上で必要な基礎的知識や多様な生涯学習施設、学校の現状を学び、理解を深めていく。
②授業の進め方：各テーマの説明に加え、話し合い活動や調査活動などを通して課題に取り組み、その成果の発表などの学習活動を行います。今後、変化の激しい現代社会において重要になる「生涯学習」について学ぶことは、社会の一員としての自己の生き方を考える上で意義が大きいと思います。

到達目標

1.生涯学習の理念や学校や社会教育施設などで行われる学習について理解する。■
2.生涯学習に関わる様々な現代的課題の内容を把握しその解決に向けた考察をする。■
3.社会を構成する一員として自らの生き方を積極的に考える。

使用教材

『よくわかる生涯学習　改訂版』（香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編、ミネルヴァ書房、2024年
2,500円（税別）

参考文献

講義中に適宜、紹介する。

評価方法

テストに50%、小テストの評価30%、日常点（授業への参加。授業態度。課題への取り組み、貢献度等）に20%を配分して総合評価をする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中の貢献度や発表については、その都度評価する。
試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー

月曜・1限、水曜・1限、
教職支援センター

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、生涯学習の定義、制度（平林、三村）	1,3	シラバスを読み、講義の概要及び、「生涯学習とは何か」を理解する。	1.5h	テキストをまとめ、生涯学習の定義や制度について理解する。	1.5h
2	生涯学習と人間形成■（三村）	3	生涯学習にわたる人間形成についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや配布資料をまとめ、生涯学習について理解する。	1.5h
3	生涯学習を支える思想（三村）	1,3	「生涯学習を支える思想」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	生涯学習における「生きがい・健康づくり」についてまとめ、内容を理解する。	1.5h
4	生涯学習の現代的課題①■（三村）	2,3	「健康・高齢者等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
5	現代的課題②■（三村）	2,3	「高度情報化と人権等」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料を読んで、内容を理解する。	1.5h
6	現代的課題③■（三村）	2,3	「国際交流と人権尊重」について、テキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
7	現代的課題④■（三村）	2,3	「まちづくり等」についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	生涯学習の多様な学習方法■（三村）	1,2	学習方法の類型等について関連する図書などで調べる。	1.5h	学習方法及び、持続可能な社会づくりへの取組について理解する。	1.5h
9	行政による生涯学習の振興（前編）（平林）	1,2	国の行政による生涯学習支援策についてテキストなどで調べる。	1.5h	テキストや協議内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
10	行政による生涯学習の振興（後編）■（平林）	1,2	都道府県レベルの生涯学習支援策についテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
11	民間団体・機関による生涯学習支援（前編）■（平林）	1,2	それぞれの団体の活動内容について、テキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや協議・発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
12	民間団体・機関による生涯学習支援（後編）■（平林）	1,2	ＮＰＯ、カルチャーセンターやスポーツ施設について、図書などで調べる。	1.5h	テキストや資料をまとめ、内容を理解する。	1.5h
13	施設に基づいた生涯学習活動（前編）（平林）	1,2	社会教育施設についてテキストや関連する図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
14	施設に基づいた生涯学習活動（後編）■（平林）	1,3	博物館や青少年・女性教育施設についてテキストや図書などで調べる。	1.5h	テキストや発表内容をまとめ、内容を理解する。	1.5h
15	生涯学習社会において、どう生きるか（職業能力開発の生涯学習）（平林）	1,2,3	講義内容に関連する項目について、図書などで調べておく。	1.5h	図書や資料を読んで、内容を理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回小テストや資料の提示をC-learningで行いますので、パソコン等を持参してください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

生命と環境の科学

英文名：Science of Environment and Life
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB009
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

奥　浩之

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。（パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。）

到達目標

1.地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。
2.生命を構成する分子（核酸、タンパク質）について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。
3.私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、プラスチックごみ、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。
4.グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。
5.様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

評価方法

レポート課題50%、授業参加度50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。

オフィスアワー

質問等は、授業中でもよく、授業開始前もしくは終了後にも応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生命と環境－自己紹介と研究について	1,5	（1）免疫系と免疫グロブリンについて調べてみよう。 （2）DNA配列を測定する方法について調べてみよう。	1h	（1）抗体医薬品について （2）免疫グロブリンの分子構造と役割について（特にIgGを構成する重鎖と軽鎖はどのような結合で結びついているか？着目してみよう。） （3）次世代シーケンサーについて	1.5h
2	生命と環境－地球における元素の循環	1,5	元素周期表（http://stw.mext.go.jp/series.html）を読んでみよう。	1h	（1）人体を構成する元素の存在比 （2）主要元素・微量-超微量元素の具体的な元素名 （3）様々な元素の生体または医薬品における役割	1.5h
3	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	（1）ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。	1h	（1）大気・土壌における物質循環 （2）水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 （3）人類の活動による物質循環への影響	1.5h
4	生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化	1,5	（1）温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。	1h	（1）地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する （大気を暖める要因と冷やす要因） （物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測） （2）IPCC第5次報告書（2014年）におけるRCPシナリオ （気候モデルによって予測された21世紀末の世界の気温） （世界全体のCO2累積排出量と気温上昇量は比例する） （3）国連気候変動枠組条約 （日本における温室効果ガス削減目標）	1.5h
5	生命と生体分子・・・DNA二重らせんとX線構造解析	2,5	ワトソンとクリックによるDNA二重らせんモデル （1）当時用いられた分子モデル（ロンドン・サイエンスミュージアム）	1h	（1）DNAの分子構造はX線回折法によって求められる （2）ブラッグの回折条件式 （3）DNA繊維写真のX型パターン	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 （2）1953年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf （3）DNA構造について（英文なので、最初は図を見るのがよい） 特にFigure 5を見て、3種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397			
6	生命と生体分子・・・タンパク質の構造と機能	2,5	（1）タンパク質を構成する20種類のアミノ酸とは？ （2）アミノ酸の“光学活性“とは？	1h	（1）アミノ酸20種類の分子構造 （2）X線回折測定によるタンパク質の3次元構造解析 （3）NMR測定によるタンパク質の3次元構造解析	1.5h
7	生命と生体分子・・・さまざまなタンパク質	2,5	（1）膜タンパク質とは？ （2）リボソームにおけるタンパク質合成 （3）アイスクリームの成分について。特に、低脂肪アイスクリームはなぜ低脂肪なのか？調べてみよう。	1h	（1）70S リボソームとtRNAの分子構造（PDB ID: 4v4j）（PDB ID: 2tra） （2）カルモデュリンの分子構造変化（PDB ID: 3cln ）（PDB entry 2bbm）	1.5h
8	生命と生体分子・・・ヘム蛋白（Mb、Hb、Cyt c、CYP450）	2,5	（1）ヘムタンパク質とは？ （2）ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ （3）CYP3A4とは？	1h	（1）ミオグロビン （PDB ID, 1A6M) （2）チトクロームc （PDB ID, 2B4Z) （3）チトクロームP450 （PDB ID, 1W0E) （4）医薬品の代謝におけるCYP3A4の影響について	1.5h
9	ヒトの活動と環境・・・さまざまな医薬品	2,5	（1）コレステロールと高コレステロール血症 （2）認知症とコリン仮説について （3）ポリ乳酸とは？	1h	（1）スタチン （2）タクロリムス （3）ドネペジル （4）レボフロキサシン	1.5h
10	ヒトの活動と環境・・・バイオマスとバイオリファイナリー	3,5	（1）バイオマスとは？ （2）バイオエタノールとは？ （3）プラスチックゴミ問題とは？	1h	（1）バイオリファイナリーとは？ （2）バイオガソリンの成分は？ （3）バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5h
11	ヒトの活動と環境・・・食品の安全確保（加工食品の成分）	3,5	（1）アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1h	（1）行政（農水省）では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5h
12	ヒトの活動と環境：食べると甘い香りが	3,5	（1）ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう（ヘッドスペース装置の	1h	（1）ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	発散するお菓子について		付いたガスクロトグラフィー/質量分析計） （2）ヒトにおける薬物代謝のしくみ		（2）お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ （ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。）	
13	生命と環境・・・さまざまな感染症（AIDS, 結核, マラリアなど）	4,5	（1）感染症とは？	1h	（1）さまざまな感染症について （2）薬剤耐性について	1.5h
14	生命と環境・・・インフルエンザワクチンの成分	4,5	（1）ワクチンによる予防免疫のしくみ	1h	（1）様々なインフルエンザの治療薬について （2）様々なインフルエンザワクチンについて	1.5h
15	生命と環境・・・グローバル化によって必要となる新しいワクチン	4,5	（1）蚊によって媒介される感染症とは？ （2）グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1h	（1）グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ （2）新しいワクチンの開発例について	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完してください。

印刷 閉じる

国際関係論

英文名：International Relations
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB010
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片桐　庸夫

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回当日の講義内容に関する10-15分程度のレポートを課し、学んだ内容ついての確認を求める。翌週に問題提起、結論、段落の付け方、使用すべき漢字、レポートの書き方、内容の評価、問題点を指導する。授業中に質問をすることによって学生との対話の機会を設け、参加意識を高める。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①新聞、テレビ、インターネット等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。
②配布プリントを中心に、講義を行います。現代世界を象徴するドキュメントを収録したDVDを数回用います。また、授業の最後に毎回レポートを実施する。指導方法は上記の通り。毎回課すレポートの評価を基に成績評価を行うので、前期試験は行わない。

到達目標

1.現代世界の理解
2.第2次世界大戦後の世界の基本構造の理解

3.国家間の対立要因の理解
4.国家間の相互理解の理解
5.自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解
6.現代の戦争の特徴についての理解
7.国家の安全保障の理解
8.核の下の平和の理解
9.国際秩序概念の理解
10.国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解
11.戦後日本の原型についての理解
12.戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解
13.日本の課題である国際貢献問題の理解

使用教材

配布するプリントを教材として用いる。

参考文献

細谷雄一『国際秩序』中公新書。高坂正堯『国際政治』中公新書

評価方法

講義の最後に毎回行うレポート評価試験（60%）、講義参加・貢献度（40%）等により総合評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

原則としてレポートを課した翌週の講義の際に論文やレポートの書き方、文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。

オフィスアワー

・前期木曜日の昼休み
・非常勤講師控室
随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義概要（講義の展開、出席の取り方、レポートの書き方、成績評価等）についての説明を行う。	1	シラバスを読んでおくこと。	0h	講義概要の確認を行いこと。	1h
2	世界の混迷した状況、中国の現状打破勢力としての台頭、米中の覇権争い等について理解する。	1,3,7,8,10	1週間分の新聞の1,2面の記事に目を通しておくこと。	2h	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。	2h
3	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。	1,2,3,9	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。	1.5h	細谷雄一『国際秩序』中公新書のp.115-120,282を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
4	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。	2,4,7	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5h	『国際秩序』のp.121-124を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
5	国際コミュニケーションにとって重要な価値観の共有の意味について理解する。	3,4,5	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.128-130を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。	2,3,4,5,8	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
7	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。	3,5,7	プリントのイデオロギー対立の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.237-241を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
8	米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化（DVD画像による）について理解する。	6,7,8	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	2h	DVD画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	2h
9	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。	2,6,7,8	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5h	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社のp.6-10を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
10	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下の平和について理解する。	1,6,7,8	究極の兵器がもたらした核の下の平和についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.253-255を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
11	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。	1,7,8,9	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.256-260を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
12	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。	2,7,9	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5h	『国際秩序』のp.281-285を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
13	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生の理由、冷戦と呼ばれた戦後の米ソ対立と今日の米中対立との違いについて理解する。	6,7,10	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5h	『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書のP.21-36を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
14	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF講和、憲法第9条、日米安保について理解する。	7,11,12	プリントの終戦からSF講和に至る項を読んでおくこと。	1.5h	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会のp.288-306を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h
15	「戦後」の克服の意味、今日の日本が直面する外交の課題について理解する。	1,10,13	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5h	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

世界の動き、平和、戦争、日本の進路などについて関心のある学生の履修が望ましい。
「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねている。随時利用すること。予習・復習の結果、不明な点、理解しにくい、または出来ない点などあれば、遠慮なく質問すること。

印刷 閉じる ✕

体育理論

英文名：Physical Education: Theory
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB011
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
1 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

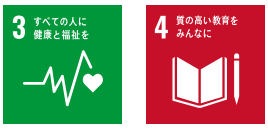
担当教員

山西　加織

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・特別支援学校教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力や生活を見つめるとともに、健康づくり・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。
②各回、テーマについてパワーポイントや配布資料、動画を用いて解説した後に課題や小テストを課す。

到達目標

1.自己の身体活動や生活行動の実態から課題を見つけることができる。
2.体力を評価し、運動プログラムを作成することができる。
3.健康づくり・体力づくりに必要な方法を知り、実際の生活に活用することができる。
4.運動・スポーツによる心身への影響を理解し、説明することができる。

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

参考文献

授業時に紹介する。

評価方法

授業への貢献度（10%）、各回の課題・小テスト（70%）、学期末レポート（20%）を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題は適宜返却する。毎授業後に理解度を問うアンケートを用い、理解不足箇所を解説する。

オフィスアワー

月曜日5時限、木曜日3時限
（8号館505研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 現代のライフスタイルと身体活動		シラバスを読み、健康づくり・体力づくりに関して、興味関心を高める。	1h	自分の生活を振り返り、十分な身体活動を確保できるよう心がける。	2h
2	身体活動量を計算しよう	1	学生生活における身体活動や生活習慣を振り返り、課題を見つける。	1.5h	ライフスタイルや身体活動における課題をもとに、健康な生活を送れるよう意識して行動する。	1.5h
3	体力を測ろう　(1) 体力を測る方法を知る	1,2	新体力テストの実施方法や注意事項を熟読する。	1.5h	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	1.5h
4	体力を測ろう　(2) 体力テストを実施する	1,2	新体力テストの実施方法や注意事項を熟読する。	1.5h	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	1.5h
5	体力を評価し運動カルテを作成しよう	1,2,3	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	1.5h	授業で作成した運動カルテにもとづき、運動を実践する。	1.5h
6	現代の健康問題を理解し健康づくりのための運動方法を知ろう	1,3	健康問題や健康づくりのための運動に関して調べる。	1.5h	授業で学習した健康づくりのための運動を実践する。	1.5h
7	運動・スポーツによる心身の影響を理解しよう	1,3,4	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	1.5h	授業で学んだ健康づくり・体力づくりの方法を実際の生活に活用する。	1.5h
8	ライフプランと健康づくりを考えよう・まとめ	1,2,3,4	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	1.5h	授業で学んだ健康づくり・体力づくりの方法を実際の生活に活用する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

※体力テストの際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ（体育館用）を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。
※オンデマンド型授業の回では、資料の配布や課題の提出はC-learningを用いる。

印刷 閉じる

体育実技

英文名：Physical Education: Sports and Physical Activities
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB012
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
1 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

山西　加織　金子　伊樹

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・特別支援学校教諭・保育士・レクリエーションインストラクター

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識や方法を学び、実際の生活に活用する能力を養う。様々な運動やスポーツの実践をとおして、基礎体力の保持・向上とともに、運動・スポーツを楽しむ習慣を身につける。
②毎回、基本運動やレクリエーションでウォーミングアップを行った後に、ルールを説明した上でスポーツを実践していく。また、毎授業前後に自分の「こころ」と「からだ」の状態を記録するアンケート課題を設ける。

到達目標

1.各基本運動の効果や方法を理解し、実践することができる。
2.さまざまなスポーツの方法やルールを理解し、役割分担をしてゲームを運営することができる。
3.さまざまなスポーツを得意・不得意に関係なく、楽しく実践することができる。
4.仲間と積極的にコミュニケーションをとり、協力しながら行動することができる。
5.生涯にわたり運動・スポーツに親しむために必要な態度を理解し、説明することができる。

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

参考文献

授業時に紹介する。

評価方法

授業への参加度・態度（70%）、アンケート・レポート課題（30%）を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回、アンケート課題を設ける。提出された回答内容から、授業時間内にフィードバックする。

オフィスアワー

月曜日5時限、木曜日3時限
（8号館505研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・レクリエーション	4,5	自己の健康に興味関心をもち、体調を整える。	0.5h	授業を通じて触れ合った仲間と友好関係を深める。	0.5h
2	基本運動：ストレッチ・ヨガ・筋トレ・ジョギング・ウォーキングなど	1,5	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	0.5h	実践したい基本運動を行う。	0.5h
3	ドッジボール	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
4	バスケットボール	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
5	ティーボール	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
6	フットサル	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
7	ソフトバレーボール	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
8	バドミントン	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
9	パドルテニス	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
10	キックベースボール	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
11	キンボール	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
12	タグラグビー	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
13	インディアカ　（1）チーム練習・ゲーム	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h
14	インディアカ　（2）トーナメント戦	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	まとめ	1,2,3,4,5	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5h	実践したいスポーツを仲間と行う。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ（体育館用、外履き用）を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。
※運動する上で配慮を必要とする学生は事前に申し出ること。

印刷 閉じる

キャリア形成論

英文名：Career Development
科目区分：教養基礎
科目ナンバリング：LAB013
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

小泉　英明

科目に関連した実務経験

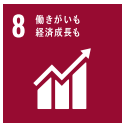
社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し返却、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

ＡＩ（人工知能）をはじめとする各種テクノロジーの進化や地球規模的な気候変動など、社会は今、大きな激動期を迎えています。そのような中で、私たちを取り巻く経済・雇用環境も目まぐるしく変わり、生活や仕事の内容までもが大きく変わりつつあります。
本講座ではそのような社会の動きを見据え、私たちが近い将来に求められる『能力』について理解を深めるとともに、キャリア形成の基盤づくりを行います。
授業では社会で求められている高次元のコミュニケーション能力や思考力、さらには問題解決能力などの『社会人基礎力』を身につけるとともに、ケーススタディ等によって社会適応力を習得します。また本学卒業後、社会人として適切なスター

トを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理ができる自律的人材の養成を目指します。
教員作成のレジュメを使い授業を進めます。C-learningで事前に配信する教材データをもとに予習して授業に臨んでください。教材データはファイリングし、いつでも内容を振り返ることができるようにしてください。また、毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。授業は積み上げ方式で進めていきますから、わからないことのないように授業後は必ず復習してください。新聞、テレビ、ネットなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。また必要な箇所においてはディスカッションを行うとともに、理解度を深めるための演習やレポートを課します。

到達目標

1.社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■
2.自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。■
3.社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■
4.コミュニケーションの本質を理解し、高次元のコミュニケーション力を身につける。■
5.論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。■
6.アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。■
7.気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。■
8.問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■
9.自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■
10.自律型人材に向けての目標管理ができる。■
11.社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。■

使用教材

C-learningを利用し、各学生に教員作成の教材データを授業前に配信します。

参考文献

授業内で提示します。

評価方法

ファイナルレポート60%、毎授業後の提出課題30%、授業参加度・授業態度10%
それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価60%以上を合格とします。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業後の提出課題については、随時コメントをつけてフィードバックします。
ファイナルレポートに関するフィードバックは、出題テーマの意図など掲示等によって示します。

オフィスアワー

木曜日（12～17時）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス／キャリア形成のために必要なこと■	1	事前配信教材をはじめ、新聞、テレビ、ネットなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む。	1.5 h	キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。	1.5 h
2	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■	1,3	事前に配信する第2回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 h	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。	1.5 h
3	自己の理解■	2	事前に配信する第3回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 h	自己理解を深め、自己効力感と自身のパーソナリティを理解する。	1.5 h
4	コミュニケーション力■	3,4	事前に配信する第4回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5 h	チェックシートによって自身のコミュニケーション力	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					を客観的につかむ。	
5	実践コミュニケーション力■	3,4	事前に配信する第5回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	コミュニケーションの重要ポイントを理解し、自身の弱点と強化ポイントをつかむ。	1.5h
6	気づく力（問題発見能力）■	3,7	事前に配信する第6回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究に取り組む。※問題解決に繋がることを理解する。	1.5h
7	考える力Ⅰ（ロジカルシンキング・クリティカルシンキング）■	3,5	事前に配信する第7回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって論理的思考を理解する。	1.5h
8	考える力Ⅱ（クリエイティブシンキング）■	3,6,7,8	事前に配信する第8回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究にて創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想の演習を行う。	1.5h
9	創造力を伸ばす■	3,6,7,8,9	事前に配信する第9回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	事例研究によって創造力の阻害要因を理解し、力を伸ばすポイントをつかむ。	1.5h
10	問題解決能力Ⅰ（問題点を探る・WHYツリー）■	3,7,8,9	事前に配信する第10回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身が抱える問題の「問題点」をWHYツリーで探る。	1.5h
11	働く意味／「仕事力」と「就業力」■	1,3	事前に配信する第11回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の「仕事観」「就業観」を見つめ、自身の将来について深く考える。	1.5h
12	問題解決能力Ⅱ（問題解決の手法・HOWツリー／課題発見・目標設定）■	3,8,9,10	事前に配信する第12回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	自身の課題をHOWツリーで探り、今後の目標・計画を設定する。	1.5h
13	社会における人間関係■	3,11	事前に配信する第13回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5h
14	自己の確立（バリュープロポジションとキャリア自律）■	3,10	事前に配信する第14回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	将来のキャリア形成に向けて、キャリア自律の重要性を理解する。	1.5h
15	ストレスマネジメント■	3,11	事前に配信する第15回教材を読み、内容を理解しておく。	1.5h	ストレス対処法と対人耐性力を理解し、社会進出後のストレスに対する耐性力を高める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

〔人間発達学部の学生に求められる基本的な資質〕
①「保育者」・「教育者」を目指す強い意志を持つ
②子どもを取り巻く社会に対し、幅広い関心と課題意識を持つ
③他者との協調性とコミュニケーション能力
④チームワーキングへの参画
⑤探究心
⑥自己研鑽

■：実務経験に基づく内容を示す。
※オンラインで授業を行う場合（※オンデマンド）
①教材のデータを授業日の3日前までに配信します。
②事前に配信された教材の内容を良く理解して講義に臨んでください。
③毎受講後、提示された課題についてレポートを提出してください。（提出期限を厳守してください）
④提出されたレポートについては、随時コメントをつけてフィードバックします。
⑤授業への出席は、レポートの提出をもって「出席」とします。
⑥期末試験はレポート(ファイナルレポート)にて行い、第15回の授業後に提出の予定です。
⑦評価方法は以下の通りです。
　ファイナルレポート60%　毎授業後の提出課題レポート 30% 授業参加度10%

印刷　閉じる

哲学

英文名：Philosophy
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH001
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大石　桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。
②配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見交換する場を設ける。

到達目標

1.人と人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。
2.共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。
3.各テーマについて、自分の意見をもつことができる。
4.課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。
5.自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。

使用教材

講義中にプリントを配布する。

評価方法

定期試験（60%）、講義中に作成する課題（40%）に、参加態度を加えて総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。

オフィスアワー

水曜日の2時限、金曜日の2時限
（1号館6階601）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。	1h	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。	1.5h
2	自分と他者（1）「人に認められたい」のは本能？――ヘーゲル	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。	1.5h
3	自分と他者（2）「本当の自分」とは何か――キルケゴール	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5h
4	自分と他者（3）人と人の関係性――ブーバー、サルトル	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	第2回から第4回までの内容を整理する。	1.5h
5	ディスカッション――これからの自分に大切なこと	1,3,4,5	第2回から第4回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1h	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5h
6	平等と共生（1）誰もが信じられる正しさはあるか――ロールズ	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	1.5h
7	平等と共生（2）環境は人の心にどう影響するのか	2,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	2h
8	自由・正しい自己決定のために――カント	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	「自律」の意義について理解する。	1.5h
9	心と身体（1）「私」を形づくるのは心か身体か――ニーチェ	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5h
10	心と身体（2）人間の中心は脳なのか	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	脳死の問題について理解する。	1.5h
11	エンハンスメント（1）変化する「病」の定義	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5h
12	エンハンスメント（2）「弱さ」を否定する社会――ハーバーマス、サンデル	2,3	配布プリントに目を通す。	1h	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	ディスカッション――医療技術と自己決定	2,3,4,5	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1h	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5h
14	責任（1）責任の範囲はどこまで？――アリストテレスほか	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	責任が問われる基準について理解する。	1.5h
15	責任（2）「何もしなかった」ことに責任はあるのか――ヤスパース	1,3,4	配布プリントに目を通す。	1h	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

38h

備考

本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組むこと。
予習・復習については試験前の学習で補完すること。
*オンライン授業になった場合は、C-leaning上で講義資料（PDFファイル等）を閲覧し、課題を提出する形式とする。

印刷 閉じる

倫理学

英文名：Ethics
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH002
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中にアンケートを実施し、その結果を共有、分析する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 現代の医療をめぐる問題をとりあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。講義中、一つの問題をめぐって様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。
② C-Learningの教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回、ドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。

到達目標

1. 医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、
2. 自分の考えを表現することができる。
3. また、自分と対立する考えについても理解を深める。

使用教材

講義中に資料を配布する。C-Learningの教材倉庫に毎回アップする。

参考文献

加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療―バイオ・エシックスの練習問題』、PHP新書、1999年。
小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理―「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房、2011年。

評価方法

講義への参加態度（資料の閲覧、ドリルやアンケートの実施など）・・・30%
小テストなどの課題・確認テスト・期末レポート・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

講義中、C-Learning「アンケート」を通じて、意見などを提出してもらう場合がある。有意義な意見に関しては講義中に紹介する。

オフィスアワー

1号館511研究室
面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記メールアドレスまで。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス―生命倫理学について	1	・シラバスやC-learningのニュースを読み、講義の実施方法や目的を理解する。 ・予習資料を確認する。	1.5 h	生命倫理学の成立事情について、技術の発展と人間観の変化から理解する。	1.5 h
2	不妊治療（1）人工授精、体外受精	1,2,3	予習資料を確認し、人工授精（AI）の定義について知り、関連情報を取得しておく。	1.5 h	人工授精の特徴とそこで生じる倫理的問題について理解する。	1.5 h
3	不妊治療（2）代理母出産をめぐる議論	1,2,3	予習資料から、体外受精（IVF）とAIの差異、代理母について確認しておく。	1.5 h	人工授精、体外受精、代理母の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 h
4	遺伝子操作（1）ヒトゲノム計画がもたらす未来	1,2,3	予習資料から、ヒトゲノム計画と現代におけるその活用について知る。	1.5 h	遺伝情報が現在社会においてどのように利用されようとしているか理解する。	1.5 h
5	遺伝子操作（2）遺伝子診断技術がもたらす未来	1,2,3	予習資料より遺伝子診断技術について確認する。	1.5 h	遺伝子診断技術がこれから社会に及ぼす変化を考えてみる。	1.5 h
6	人工妊娠中絶をめぐる問題	1,2,3	予習資料より日本における人工妊娠中絶の法的規定について調べておく。	1.5 h	人工妊娠中絶をめぐる現在の状況、議論について理解する。	1.5 h
7	優生思想をめぐる問題	1,2,3	予習資料より優生思想について知識を得ておく。	1.5 h	これまでの議論を優生思想の問題と関連させて振り返っておく。	1.5 h
8	インフォームド・コンセントと患者の権利	1,2	予習資料からインフォームド・コンセントが求められた歴史的な発端を読み解く。	1.5 h	患者を主役とする医療という考え方について確認しておく。	1.5 h
9	QOLの追求	1,2,3	予習資料からQOLとは何かについて知識を得る。	1.5 h	様々なQOLのあり方について考えてみる。	1.5 h
10	告知をめぐる問題	1,2	予習資料から告知をめぐる現状について知る。	1.5 h	告知について自分ならどのような選択をするか考えてみる。	1.5 h
11	延命医療について	1,2,3	予習資料をもとに延命医療について自分の考えをまとめてみ	1.5 h	延命とQOLを関連させて考えてみる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			る。			
12	安楽死について	1,2	予習資料から安楽死の区分について知る。	1.5 h	安楽死の区分について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 h
13	臓器移植（1）生体臓器移植	1,2,3	予習資料から日本での生体臓器移植の位置づけについて知る。	1.5 h	生体臓器移植の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 h
14	臓器移植（2）死後移植と臓器移植法改正	1,2,3	予習資料から日本における昨今の死後移植の位置づけについて知る。	1.5 h	改正臓器移植法について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 h
15	総括	1,2	これまでのトピックの中から特に関心を持ったものを確認してみる。	1.5 h	紹介した文献や映像資料などを参照しつつ、自分の考えをまとめてみる。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・C-learningの「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週水曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、ドリル・小テストで知識の定着を図ること。
・詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。
・「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。また、授業内容と関連する「報道」などがあった場合には、通常の予習・復習とあわせて確認しておくことが望ましい。

印刷 閉じる

心理学

英文名：Psychology
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH003
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本　香

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義時間中に質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①心理学は，人の行動や感情を科学的に研究することを通して，人間を理解しようとする学問です。本科目では，心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学び，人間の行動と精神活動の本質的な理解を図ることを目標とします。
②講義では，その日のテーマの主要なポイントを開設し，板書をします。板書と教員の話をしっかりノートにとりましょう。また毎回ディスカッション（意見交換等）の時間を設けます。その際は，積極的に話し合いに参加し，テーマについて理解を深めましょう。

到達目標

1.科学としての心理学の基本的な考え方について説明できる。
2.心の基本的な仕組み及び働きについて説明できる。
3.心理学的視点に基づいて心の問題を説明できる。
4.心理的支援の考え方について説明できる。

使用教材

金沢創・市川寛子・作田由衣子『ゼロからはじめる心理学・入門』有斐閣　2015年　1,800円+税

評価方法

毎回の授業態度（積極的発言，ディスカッション参加）30%（2点×15回），学期末筆記試験70%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

学期末筆記試験後に解説を行う。

オフィスアワー

初回講義時に告知する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：心理学の考え方	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。	0.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
2	目に見えない心をどのようにとらえるか：計量心理学	1	教科書P.1～P.15を読み、意味がわからなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
3	さまざまな心のとらえ方（1）：知覚心理学	2	教科書P.18～P.32を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
4	さまざまな心のとらえ方（2）：学習心理学	2	教科書P.31～P.51を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
5	さまざまな心のとらえ方（3）：進化心理学	1	教科書P.52～P.64を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
6	さまざまな心のとらえ方（4）：神経心理学	2	教科書P.65～P.80を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
7	さまざまな心のとらえ方（5）：個人差心理学	1	教科書P.81～P.93を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
8	さまざまな心のメカニズム（1）：認知心理学	2	教科書P.96～P.111を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
9	さまざまな心のメカニズム（2）：発達心理学	2	教科書P.112～P.125を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
10	さまざまな心のメカニズム（3）：感情心理学	2	教科書P.126～P.138を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h
11	さまざまな心のメカニズム（4）：社会心理学	2	教科書P.139～P.149を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5 h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	心の問題のとらえ方（1）：ストレスと心の病気	3	教科書P.152～P.164を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
13	心の問題のとらえ方（2）：発達障害	3	教科書P.165～P.177を読み、読み方や意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
14	心の問題のとらえ方（3）：アセスメントと支援	4	教科書P.178～P.191を読み、意味が分からなかった言葉について調べる。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。ふりかえり課題に取り組む。	1.5h
15	総括	1,2,3,4	これまでの学習内容を振り返る。	1.5h	教科書の該当箇所と配布資料を再読し、ノートをまとめなおす。期末筆記試験に備えて、15回の講義で学んだことを復習する。	2.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

文学と人間

英文名：Literature and Humanity
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH004
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

菅野　陽太郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
近現代の文学作品を読み、文学が人間の営みや文化の形成にどのように関わっているかを考え、文学を今後の生活に役立てていけるようになるための素地を養うことを目標とする。
②講義の実施方法
各回の授業では、予習した教材についての解説や話題提供を行った後、ディスカッションやアンケート等による意見の交流を行う。

到達目標

1.文学を楽しみ、今後の生活に役立てていくことができる。
2.授業で取り上げる文学作品の内容や特徴等について考え、理解することができる。
3.授業で取り上げる文学作品について、オマージュやアダプテーションの見地から批評することができる。

使用教材

『伊豆の踊子』，川端康成，新潮社，1950，473円

参考文献

『〈転生〉する川端康成Ⅰ引用・オマージュの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2022，2700円
『〈転生〉する川端康成Ⅱアダプテーションの諸相』，仁平政人・原善，文学通信，2024，3500円

評価方法

・各回の課題（30%）・レポート（70%）

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは評価とコメントを付して返却する。

オフィスアワー

水曜2限、木曜2限（8号館508研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、「物語」とその効用	1	シラバスを読み、これまでに読んだ文学作品について振り返る。	1h	授業内容を振り返り、課題に取り組む。	2h
2	文学のジャンルと要素	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
3	作品構造の理解①	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
4	作品構造の理解②	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
5	比喩表現の理解と効用	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
6	アフォリズムの魅力	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
7	比べるという思考①（二つの文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
8	比べるという思考②（J-POPと文学作品）	1,2	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
9	引用・オマージュ①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
10	引用・オマージュ②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
11	引用・オマージュ③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
12	アダプテーション①	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
13	アダプテーション②	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
14	アダプテーション③	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h
15	他学問との関わり	1,2,3	教材を読み、課題に取り組む。	2h	授業内容を振り返り、当該作品を読みなおす。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業時にC-learning等を使用した意見の交流を行うので、ノートPCやタブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

印刷 閉じる

芸術論

英文名：Art Theory
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH005
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
1 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

石原　綱成、志尾　睦子

科目に関連した実務経験

志尾：映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○					○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この講義は芸術を通して、人間の営為の総体として芸術を学ぶ。それによって、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術（絵画、映像等）を深く理解する。
②講義は前半が石原による芸術史、後半は志尾による映画芸術論となる（オムニバス形式）となる。

到達目標

1.視覚芸術の歴史を理解できる
2.芸術を人間の営為の総体として理解できる。
3.映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■
4.様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく■

使用教材

講義スライドの資料を配布する。

参考文献

担当教員が逐次紹介する。

評価方法

試験を実施する。（石原50点、志尾50点、計100点）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。

オフィスアワー

石原：月曜3限、金曜2限、
志尾：火曜日2限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（石原・志尾）	2	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する	1.5 h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する	1.5 h
2	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー	1,2,4	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する	1.5 h
3	芸術史概説	1,2,4	芸術史の流れを体系的に理解しておく	1.5 h	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する	1.5 h
4	宗教芸術とは何か	1,2,4	世界の主要な宗教の特色を理解する	1.5 h	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する	1.5 h
5	キリスト教美術とシンボル	1,2,4	シンボルの本質について理解する	1.5 h	キリスト教のシンボルの法則性を理解する	1.5 h
6	ルネサンス美術―古典古代の芸術―	1,2,4	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する	1.5 h	遠近法と人間の「主体」への意識を考える	1.5 h
7	ルネサンス美術―図像解釈学と美術―	1,2,4	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する	1.5 h	イデア論の違いが視覚芸術にいかに現れるかを理解する	1.5 h
8	中間テスト	1,2,4	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 h	試験内容を自分なりに再考する	1.5 h
9	メディア芸術とは何か　映画芸術の入り口に立つ■	2,3,4	メディア　と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 h
10	映画の誕生と変遷を辿る■	2,3,4	映画の仕組みを理解する	1.5 h	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 h
11	映画の表現方法について学ぶ■	2,3,4	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 h	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 h
12	映画の構造を知る■	2,3,4	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5 h	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5 h
13	演習1：見えるもの　見えないもの　映画が伝えることを意識する■	2,3,4	映画を観てみる	1.5 h	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	演習2：演出とは何か■	2,3,4	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5 h	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5 h
15	総論：映画は時代を映す鏡である　映画で世界を知る■	2,3,4	興味のある国について調べる	1.5 h	映画が語る文化、時代性を考える	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

ボランティア・市民活動論

英文名：Civil and Voluntary Activities
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH006
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

一柳　大輔

科目に関連した実務経験

前職でボランティア団体の運営支援に従事。災害ボランティアセンター職員として派遣経験も多数あり。また、様々なボランティア活動実践者と交流がある。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動である。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在である。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成する。
②毎回の授業は、ボランティアのテーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義（予定）、振り返り、次週の予定、という流れで進める。
③1、2回目の講義は対面、3回目以降の講義はオンデマンド形式で進める。詳細は、初回ガイダンス時に説明する。

到達目標

1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■
2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■
3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■
4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■

使用教材

各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業・c-learningにて配布する。テキストは使用しない。

参考文献

その他、講義に必要な教材・資料は適宜配付する。

評価方法

成績評価
①毎回の授業後に作成するリアクションペーパー(c-learning)による評価（84%）。
②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価（16%）。評価方法は、ボランティア実践の回数や時間ではなく、ボランティア活動に参加することによる学びを評価する。
③追再試は実施しない。
その他の評価
①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。
②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出（要添付書類）を提出すれば出席扱いとする。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなす。
③ボランティア実践の時間（1回当たり4時間×2回＝8時間相当）も本時の講義時間に含める。

課題・評価に対するフィードバック方法

質問や相談についてはC-learningで適時回答するほか、必要に応じて授業時に学生全体にフィードバックする。

オフィスアワー

質問は授業の前後、またはC-learningでも受け付ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター（VSC）の活用方法、授業の進め方を確認する。 (教室にて行う)	1,3	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。	1.5h	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC利用方法などを確認する。	1.5h
2	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■ (教室にて行う)	1,2,3,4	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。	1.5h	ボランティアセンターの活用方法を理解する。	1.5h
3	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■(オンデマンド)	1,2,3,4	児童を対象としたボランティア活動を調べる。	1.5h	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか ～欧米と日本の歴史(オンデマンド)	1,2,3,4	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1.5h	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5h
5	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■(オンデマンド)	1,2,3,4	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1.5h	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1.5h
6	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■(オンデマンド)	1,2,3,4	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1.5h	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5h
7	ユニバーサルデザイン・バリアフリーとボランティア活動■(オンデマンド)	1,2,3,4	バリアフリーに関わるボランティア活動を調べる。	1.5h	バリアフリーをすすめるボランティア活動のあり方を理解する。	1.5h
8	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■(オンデマンド)	1,2,3,4	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5h	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5h
9	地域ささえあいのボランティア　～ふれあい・いきいきサロン～■(オンデマンド)	1,2,3,4	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1.5h	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1.5h
10	生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について■(オンデマンド)	1,2,3,4	福祉における"複合的な課題"、"重層的な課題"を調べる。	1.5h	"複合的な課題"、"重層的な課題"等の生活課題を抱えている地域住民の事例紹介、そういった住民を対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関われるかを考察する。	1.5h
11	ボランティアとNPO法人■(オンデマンド)	1,2,3,4	NPO法人とは何かについて調べる。	1.5h	NPO法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5h
12	"ごみ屋敷"とボランティアについて■(オンデマンド)	1,2,3,4	ごみ屋敷の住人に関する課題について調べる。	1.5h	ごみ屋敷の住人の支援において、ボランティアがどのように関わるかという点を理解する。	1.5h
13	行政に協力するボランティア　～民生委員・児童委員の活躍～■(オンデマンド)	1,2,3,4	行政に協力するボランティアについて調べる。	1.5h	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1.5h
14	ボランティアに関する企業の取り組みについて(オンデマンド)	1,2,3,4	ボランティアに関する企業の取り組みについて調べる。	1.5h	民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	まとめ～新しい支え合いと20年後の自分の生き方■(オンデマンド)	1,3,4	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。 また、既に提出のあったボランティアレポートの紹介をする。	1.5h	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・ボランティア実践は、もちろん強制ではないので、自分の興味や関心のある分野や活動に参加する契機として設定している。大学生として様々な活動にチャレンジすること。授業の理解を深めるために現場で活躍するゲストスピーカーから実践を紹介してもらう（予定）。
・ボランティア・市民活動支援センター（VSC、9号館1階）を活用すること。活動を始める前には必ず、ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じる。
VSC直通TEL：027-352-1108、VSCメールアドレス：vsc＃takasaki-u.ac.jp（@→＃）
・シラバス中の■は実務経験に基づく授業内容を表す。

印刷　閉じる

人権論

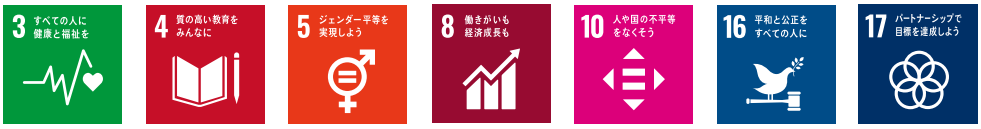
英文名：Theory of Human Right
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH007
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

金井　洋行

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

テーマについての課題の意見レポート→教員の意見に対するレスポンス→受講生の省察

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性（human nature）との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。
②講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入り的に割り込ませることがある。

到達目標

1.人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。
2.人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。
3.個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。
4.人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。
5.人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。

使用教材

テーマ別レジュメ、基礎知識資料（テキストに代替するプリント）　＊テーマによってDVDの視聴あり

評価方法

・平常の授業に対する姿勢・課題提出（35%）、中間小テスト（15%）、期末の定期試験（50%）
・課題は概ね4回のレポート、中間小テストは概ね3回の知識テスト、定期試験は基本的知識と思考力のテスト

課題・評価に対するフィードバック方法

重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する（テーマについては適宜指示）

オフィスアワー

出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人権の観念と内容	1	日本国憲法における基本的人権の項目の資料等による再チェック	2h	予備知識アンケート	0.5h
2	人権の享有主体と人権規定の適用関係	1,2	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
3	人権の制約と限界	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
4	個人主義の観念と幸福追求権の意義	1,2,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
5	法の下の平等－平等権と平等原則－	1,2,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
6	人間の内心の価値と保護	1,3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
7	自由と自由主義	1,3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
8	表現の自由とその抑制	3,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
9	経済活動の自由と財産権	3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
10	人身の自由と刑事手続の保障	3,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
11	政治活動の自由と参政権	3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	生存権の意義と福祉国家の諸権利	3,4,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
13	教育を受ける権利と学習権	3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
14	人権の国際化	3,5	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h
15	世界の情勢と人権(ＡＩと人権、戦争と人権等)	1,4	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と当回「基礎知識資料」の読み込み	1h	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5h

合計時間（予習・復習）

37.5h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
当日に即答できない質問や要望についてはC-learning・連絡メールをもって応答することを原則とする。
日常の身の回りに起こる権利侵害や条理違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。

印刷　閉じる

人間関係論

英文名：Theory of Human Relations
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH008
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
10 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

富田　純喜

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人間関係論という言葉は、大別すると二通りの意味がある。一つは、ホーソン実験を基盤として体系化された、主に経営学で用いられる理論のことである。もう一つは、人間の行為や生活上の諸現象を、人と人との関係において研究しようとする社会科学における研究アプローチのことである。本講義では本学の特性を考慮し、後者の観点から、生活上の人と人との関係を理解することを目的とする。ただし、本講義を受講することで、すぐに良好な人間関係を築けるようになるわけではない。人と人との関係とはいかなるものか、人との関係において喜びや苦しみが生まれるのはなぜか、といった根本的な問いを探ることが中心的な課題となる。
②授業は主に講義形式で進めるが、事前課題や授業内のワークを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

1.人間関係論の基礎的内容を理解している。
2.社会状況・生活形態と人間関係との関連を説明できる。
3.身の回りの人間関係を多角的な視点から説明できる。
4.現代社会で生じている人間関係に関する諸問題への対応について考察できる。

使用教材

菅野仁（2008）『友だち幻想―人と人の〈つながり〉を考える―（ちくまプリマー新書）』筑摩書房.

参考文献

授業内で適宜紹介する。

評価方法

レポート（50%）、試験（30%）、課題・参画度（20%）

課題・評価に対するフィードバック方法

試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー

水曜5限、木曜5限（8号館406）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ホーソン実験と人間関係論	1	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。	1h	人間関係論の成り立ちについて理解する。	1h
2	「友人重視指向」の日本の高校生（はじめに）	1	テキストの該当ページ（p.11-16）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
3	人は一人では生きられない？（第1章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.17-26）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
4	幸せも苦しみも他者がもたらす（第2章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.27-37）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
5	幸せも苦しみの他者がもたらす（第2章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.37-46）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
6	共同性の幻想（第3章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.47-55）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
7	共同性の幻想（第3章）②中盤	2,3,4	テキストの該当ページ（p.55-63）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
8	共同性の幻想（第3章）③後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.63-79）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
9	「ルール関係」と「フィーリング共有関係」（第4章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.80-96）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
10	熱心さゆえの教育幻想（第5章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.97-105）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
11	家族との関係と、大人になること（第6章）①前半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.106-113）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
12	家族との関係と、大人になること（第6章）②後半	2,3,4	テキストの該当ページ（p.113-120）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
13	「傷つきやすい私」と友だち幻想（第7章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.121-131）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	言葉によって自分を作り変える（第8章）	2,3,4	テキストの該当ページ（p.132-153）を読み、事前課題に取り組む。	1.5h	授業内容を踏まえ、テキストを読み直し、理解を深める。	1.5h
15	まとめ（これまでの授業の復習をとおして理解を深める）	4	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理する。	2h	現代社会における人間関係について自身の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

ジェンダー論

英文名：Gender Theory
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH009
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

山田秀頌

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

教員が提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
　ジェンダーをめぐるさまざまな問題についての正しい知識と考え方を身につけることは、自分が生きていく上ではもちろんのこと、多様化する社会においてプロフェッショナルとして働いていく上でも重要なことがらとなっている。この授業では、主に女性やセクシュアルマイノリティに対する不利益がどのような社会的なしくみの下で生み出されているのか、そうしたしくみに対してどのような批判がなされてきたのかを学ぶことで、性にかかわる社会問題について多面的に考えるための方法を獲得する。
②実施方法
　教科書および配布資料の内容をふまえながら、各回のテーマにおける主要な問題や概念について解説する。教員が提示するトピックや課題について、各自で・周りの人と議論しながら考えをまとめる時間を設ける。現在の社会問題とのつながりを意識してもらうため、講義の内容に関連するニュース動画を流すことがある。

到達目標

1. ジェンダーやセクシュアリティにかかわる重要概念について説明できる。
2. ジェンダー論の基本概念や枠組みにもとづいて、性にかかわる社会問題について自分の考えを表現できる。

3. 性の多様性をはじめ、様々な社会的背景を持つ人々とともに性にかかわる社会問題に取り組むための視点を、自分の考えに反映させることができる。

使用教材

『フェミニズムってなんですか？』清水晶子著、文春新書、2022年。他に文献資料を適宜配布する。

評価方法

中間レポート（40%）および期末レポート（60%）で評価する。
総合評価60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

中間レポートについては簡単な講評を行う。

オフィスアワー

質問等は、授業中もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義全体の説明		性にかかわる身近な問題について考える。	1.5h	講義内容、到達目標、成績評価法などを確認する。	1.5h
2	フェミニズムの歴史	1,2,3	教科書の「はじめに」、第１章、第２章を読む。	1.5h	フェミニズムの４つの波について再確認する。	1.5h
3	公的領域と私的領域	1,2,3	教科書第３章、第７章を読む。	1.5h	公的領域と私的領域の違いを確認し、なぜ私的領域の問題が重要なのかについて理解を深める。	1.5h
4	第三波フェミニズムと「ガールパワー」	1,2,3	教科書第４章、対談Ｉを読む。	1.5h	ジェンダーの自由を商業主義的な自由として考えることの問題を理解する。	1.5h
5	インターセクショナリティ	1,2,3	教科書第５章、第６章を読む。	1.5h	さまざまな差別の重なりについて考察を深める。	1.5h
6	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ①（性教育）	1,2,3	教科書第１０章を読む。	1.5h	リプロダクティブ・ヘルス／ライツにおける性教育の重要性について理解する。	1.5h
7	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ②（中絶）	1,2,3	教科書第１４章を読む。	1.5h	中絶をめぐる歴史と現代の状況について理解する。	1.5h
8	セクシュアル・ハラスメントと性暴力	1,2,3	教科書第８章を読む。	1.5h	権力関係の問題として理解する。	1.5h
9	結婚と家族	1,2,3	教科書第１１章を読む。	1.5h	伝統的家族観と制度の問題について理解する。	1.5h
10	フェミニズムとケア	1,2,3	教科書第９章、第１６章を読む。	1.5h	なぜケア労働は軽視されているのか、どのようにケアが重要なのかについて考える。	1.5h
11	セックスワーク	1,2,3	教科書第１２章を読む。	1.5h	セックスワークという考え方について理解を深める。	1.5h
12	セックス／ジェンダー／セクシュアリティの概念	1,2,3	教科書第１５章を読む。	1.5h	ジェンダー論の基本概念について再確認する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	レズビアン、トランスジェンダーとフェミニズム	1,2,3	教科書「対談Ⅱ」「対談Ⅲ」を読む。	1.5h	インターセクショナリティの視点から理解する。	1.5h
14	トランスジェンダーと医療・法律をめぐる問題	1,2,3	指定する文献資料を読んでおく。	1.5h	トランスジェンダーに対するケアのあり方や、戸籍の性別変更をめぐる状況について理解を深める。	1.5h
15	大学教育とジェンダー／全体のまとめ	1,2,3	教科書第１３章、「おわりに」を読む。	1.5h	講義で得た自分の問題関心について、考察を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45

備考

教科書と事前配布する資料を読み込み、授業での理解を深めるよう努力すること。
ジェンダー論では、自身の経験や価値観もふまえながら、自分なりの考えを深め、表現することにもっとも大切な意味がある。したがって、レポート課題で生成AI（chatGPT等）の文章をそのまま使うことは認めないので注意すること。AIの使用が強く疑われる場合は大幅な減点の対象となる。

印刷 閉じる

共生の倫理

英文名：Ethics of Symbiosis
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH010
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大石　桂子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現代では多様な価値観・文化をもつ人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。誰もがもちやすい偏見や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるか。多くの事例から基礎的な理論と方法の知識を習得し、今後の生活に生かす基盤を培うことを目標にする。
②授業ではパワーポイントを用いる。定期的に資料分析、考察する機会を設ける。

到達目標

1.現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。
2.共生の歴史について理解し、説明できる。
3.共生を支える社会学、倫理学、心理学また教育的・臨床的なアプローチを理解し、説明できる。
4.共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。
5.各テーマについて自分の考えをもつことができる。

使用教材

講義中にプリントを配布する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

定期試験（60%）、講義中に作成する課題（40%）に、参加態度を加えて総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日の3時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。	1h	講義の目的や学ぶ意義を理解する。	1.5h
2	ノーマライゼーションから当事者主権へ	1,2	ノーマライゼーションの定義を調べる。	1h	障害者の権利をめぐる歴史を理解する。	1.5h
3	障害者権利条約と意思決定支援	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	各国での意思決定支援の制度・取り組みを理解し、課題を作成する。	1.5h
4	ユニバーサルデザイン	1,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5h
5	優生思想	2,5	配布プリントに目を通す。	1h	20世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。	1.5h
6	援助行為の動機とは	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	人がなぜ他者を援助できるのか、様々な理論を理解する。	1.5h
7	偏見といかに向き合うか	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	偏見が生じるメカニズムを理解し、その解消に向けた取り組みについて考える。	1.5h
8	認知症介護・ケアへの取り組み①社会制度の側面から	1,3	配布プリントに目を通す。	1h	認知症介護をめぐる現代の課題を理解する。	1.5h
9	認知症介護・ケアへの取り組み②身体拘束を減らすために	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	拘束を減らす手法、コミュニケーション改善の取り組みを理解し、考察する	1.5h
10	いじめ問題にどう取り組むか①いじめが発生するメカニズム	3,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内でのいじめの状況、発生メカニズムを理解する。	1.5h
11	いじめ問題にどう取り組むか②いじめへの対応策	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	国内外でのいじめ予防・対応の実践例を理解し、有効な手段を考察する。	1.5h
12	環境問題と世代間倫理①ヨナスの世代間倫理	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	現在世代が未来世代への責任をどのようにもつか、理解できる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	環境問題と世代間倫理② 環境問題をめぐる論争	1,2,3,5	配布プリントに目を通す。	1h	環境問題についての議論を理解し、みずからの考えをもつ。	1.5h
14	社会のレジリエンスを高める	3,4,5	配布プリントに目を通す。	1h	災害復興支援、暴力犯罪の低減などの事例をもとに、有効な手段を考察する。	1.5h
15	まとめ・共生社会へ向けて	1,2,3,4,5	これまでのノート・資料に目を通す。	1h	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

38h

備考

予習・復習については試験前の学習で補完すること。
*オンライン授業となった場合は、C-leaning上で講義資料（PDFファイル等）を閲覧し、課題を提出する形式とする。

印刷 閉じる

チーム医療アプローチ論

英文名：Team Approach to Health Care
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH011
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

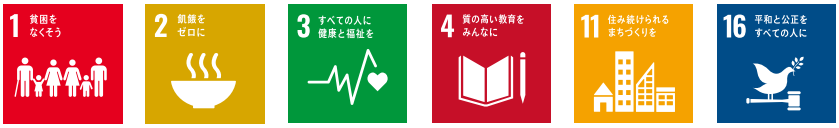
担当教員

大川喜代美、加藤大輔、竹内真理、梅原里実、渡邊秀臣、篠原智行、小竹利夫、高橋雄太

科目に関連した実務経験

大川（情報）：診療報管理士として診療情報管理業務および医事課に勤務（経験）
加藤（福祉）：医療ソーシャルワーカーとしてケアミックス病院に勤務（経験）
竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務
梅原（看護）：看護師として病院に勤務、病棟・外来・地域医療連携室の管理業務（経験）
渡邊（理学）：整形外科医として医療機関に勤務（非常勤）
篠原（理学）：急性期、回復期病院に勤務経験あり。現在は生活期病院に非常勤勤務
小竹（子ども）：障害児母子通所支援施設に勤務（経験）
高橋（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。
①福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。
②各講義ではテーマについて概要を説明する。授業はパワーポイントにより要点を提示する。

到達目標

1.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。■
2.各専門職の役割と活動について理解できる。■
3.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。■

使用教材

講義のスライドのファイルおよび資料をC-learningに公開する。

評価方法

授業参加への積極性40%、レポート60%

課題・評価に対するフィードバック方法

・多学科の学生が参加していることからC-learningの協働板機能を用いてパソコン上での双方向の通信手段によって行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。
・課題レポートや小テストの成果から感じた点や補足すべき点について文章化し、C-learningを用いて受講生にフィードバックする。

オフィスアワー

大川（情報）
木曜3限（1号館609研究室）
加藤（福祉）
火曜4限（1号館515研究室）
竹内（栄養）
金曜3限（1号館308研究室）
梅原（看護）
金曜1~2限（5号館502研究室）
渡邊（理学）
金曜3限（5号館1階学部長室）
篠原（理学）
水曜3限（4号館416研究室）
小竹（子ども）
水曜3時限（8号館403研究室）
高橋（薬学）
水曜2限、7号館323研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について■	1	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。	1.5h	21世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。	1.5h
2	チーム医療における看護師の役割と活動■	1,2,3	看護師の役割や業務について調べる	1.5h	看護師の役割・活動、チーム医療における看護職の役割について講義内容から復習しておく。	1.5h
3	チーム医療における理学療法士の役割と活動■	1,2,3	理学療法士の一般的な役割について調べる	1.5h	チームにおけるリハビリテーションの位置づけを復習し、チーム医療に求められる個人の資質について考察する。	1.5h
4	チーム医療における薬剤師の役割と活動■	1,2,3	チーム医療（病院・薬局）における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。	1.5h	医薬品が患者や社会に与える影響（メリットとデメリット）を考え、その上でチーム医療を行うことの有益性についてレポートにまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	チーム医療における管理栄養士の役割と活動■	1,2,3	今までに学習した1～4のコメディカルの役割と活動について復習し、一般的な管理栄養士の役割と活動について各自で調査する。	1.5h	管理栄養士と他のコメディカルとの関わりについて理解し、それぞれの立場においてチーム医療で求められる役割・活動と、多職種連携について考察する	1.5h
6	チーム医療における社会福祉士の役割と活動■	1,2,3	①高齢化社会の現状を調べる ②地域における医療・介護・福祉の連携、地域包括ケアシステムの進展を調べる。 ③医療ソーシャルワーカーについて調べる。	1.5h	地域での自立生活に必要となる、チーム医療における社会福祉の役割を考察する。	1.5h
7	チーム医療における特別支援学校教諭の役割と活動■	1,2,3	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5h	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5h
8	チーム医療における診療情報士の役割と活動■	1,2,3	診療情報管理士と病院事務職について調べてみる。	1.5h	診療情報管理士と病院事務職について得た知識を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【キーワード】専門職、チーム医療、チームアプローチ、多職種連携
「チーム医療アプローチ演習」（3または4年次開講）履修には、原則として本科目の単位修得が必要となる。
本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

国際保健医療論

英文名：Theory of International Health
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH012
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
5 豊かな人間性と教養
5 専門的知識
0 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

李孟蓉,町田修三

科目に関連した実務経験

開発途上国の健康支援（経験）
元JICA専門家をゲストスピーカーとして招く（第11回）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○		○		○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

クローズドクエスチョン、オープンクエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ、新たな国連の目標であるSDG s を軸に、グローバルヘルスの基本理念と戦略を学び、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識できる。また、地球規模の健康課題やその影響要因、国際保健医療の関連分野の活動の理念と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得し、グローバル化の時代に活躍する医療職を目指すことができる。また本講義では、学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的に、学生が実際に海外に赴き実体験として諸外国の医療事情を見聞することにより、単位を取得することができる。
②授業方法は講義内容の要点について説明し、質問などに対して具体的に説明する。到達目標に向け学習が効果的に積み重ねられるよう学習内容を体系的に提示し進めいく。また、学生が自律的に学習を進められるようグループワークを取り入れ、発表させる。

到達目標

1．国際保健医療学、国際保健医療協力の概念と変遷を理解できる。
2．保健医療分野での国際協力の必要性と意義を理解できる。
3．諸外国の医療教育や医療の実態、医療制度、福祉を理解し、日本との違いを説明できる。
4．国際保健医療協力の実際や実践手法を理解できる。■
5．異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解できる。■
6．日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。（海外研修参加者）

使用教材

配布資料、各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと

参考文献

①「国際保健医療学」第3版　国際保健医療学会編　杏林書院
②「世界で一番いのちの短い国　シエラレオネの国境なき医師団」　山本敏晴　小学館
③「国際協力―その新しい潮流」　下村恭人　有斐閣
④ 世界の厚生労働2019　有限会社正陽文庫/
　厚生労働省. 2023年海外情勢報告 https://www.mhlw.go.jp/stf/toukei_hakusho/kaigai23_00001.html
⑤「国民衛生の動向2024/2025」　厚生労働統計協会
⑥「SDGｓを学ぶ　国際開発・国際協力入門　法律文化社」（電子ブック）
⑦「世界の貧国　1日1ドルで暮らす人びと」 ジェレミーシーブルック　青土社　適宜参考書を紹介する

評価方法

【学内授業の場合】
・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、授業、発表・討論の参加度30点（30%）　（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中 のパフォーマンス（40%）
【オンライン授業の場合】
・定期試験を受験するために必要な出席回数を満たしたことを条件に、レポート10点（10%）、授業・参加度20点（20%）　（個人/グループワーク、プレゼンテーション）、期末レポート70点（70%）の配分で合計60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業後にアンケートを行い、次回の授業初めに振り返りを行う。
発表や討論については、その都度コメントやアドバイスをする。レポーについては、コメントを付して返却する。（対面授業・オンライン授業とも共通）

オフィスアワー

李：木曜日2限目、金曜3限目；研究室：5号館3階 302
町田：月曜日4限目、金曜日2限目; 研究室：1号館 6階 603

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義オリエンテーション、国際保健、国際保健医療学の定義、国際保健医療協力の概念（一部 AL 実施）	1,2	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく。国際保健医療協力に関する新聞・雑誌などの記事を読んでくること。	1.5h	配布資料を目を通し、国際保健協力の定義、世界や国内の国際協力の概念についてまとめ、理解を深めること。また、自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	グローバルヘルスと開発理念の変遷(プライマリーヘルスケア～SDGｓ)（一部 AL 実施）	1,2	参考文献①「国際保健医療学」第3版の第Ｉ部１～４、１０～１１まで目を通しておくこと。	1.5h	配布資料に目を通し、世界の歴史の中でのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション、ＭＤＧｓの基本理念と変遷について理解を深め、ＳＤＧｓの目標と活動について興味関心をまとめること。	1.5h
3	国際保健医療関連の国際機関、NGOの取り組みと日本の国際協力 （一部 AL 実施）	1,2	参考文献②「世界で一番いのちの短い国　シェラレオネの国境なき医師団」、③国際協力―その新しい潮流に目を通しておくこと。	1.5h	配布資料に目を通し、国際保健医療協力の仕組み、国際保健医療関連の国際機関やNGO団体、ODAの活動についてまとめ、理解を深めること。	1.5h
4	日本の医療教育、医療制度、医療制度　（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5h
5	諸外国（イギリス）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5h
6	諸外国（ヨーロッパ①）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5h
7	諸外国（ヨーロッパ②）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5h
8	諸外国（アメリカ）における医療教育・医療制度（一部 AL 実施）	3	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1.5h	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5h
9	諸外国（発展途上国、インドネシア）における健康の格差①（保健指標、母子保健）（一部 AL 実施）	2,3,4	参考文献④世界の厚生労働2019 ｐ. 102-136、⑤「国民衛生の動向2024/2025」を参考し、日本における衛生の主要指標、保健と医療の動向（人口動態、生命表、母子保健など）について目を通しておくこと。	1.5h	配布資料に目を通し、世界で生じている健康格差の実態とその原因についてまとめ、理解を深めること。	1.5h
10	諸外国（発展途上国、タイ・ベトナム）における健康の格差②　（感染症と非感染性疾患）（一部 AL 実施）	2,3,4	参考文献⑥SDGｓを学ぶ　国際開発・国際協力入門　法律文化社（電子ブック）第2章 保健・健康SDG３に目を通しておくこと。	1.5h	開発途上国の保健医療課題とその原因についてまとめて、理解を深めること。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	国際保健医療協力と異文化理解　■（一部 AL 実施）元JICA専門家を招き、異文化の中での国際協力活動について事例をもとに解説を加えて講義する	2,3,4,5	世界で行われてる国際保健医療協力を調べておくこと。	1.5h	配布資料に目を通し、国際協力として行われている支援について、目的、実際の活動内容、異文化適応について考察したことをまとめ、理解を深めること。	1.5h
12	訪日外国人・在日外国人の背景、医療における課題と健康支援	5	日本、群馬県内の在日外国人（人口、国籍、在留資格、居住地域、生活など）について調べ、体験、新聞等の媒体から実情に関心をもち把握しておくこと。	1.5h	在日外国人が抱えている健康問題と健康支援について理解を深める。また、異文化に遭遇した際に求められる必要な対処について考え、今後学習や実践に活用できる資料をまとめておく。	1.5h
13	諸外国の医療事情、グローバルヘルス　個人ワーク/グループワーク①（一部 AL 実施）	2,3,4,5,6	興味ある国の医療事情や興味関心のあるSDGの目標について調べておくこと。	1.5h	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGの目標やターゲットについてまとめて、発表の準備をすること。	1.5h
14	諸外国の医療事情、グローバルヘルス　個人ワーク/グループワーク②（一部 AL 実施）	2,3,4,5,6	興味ある国の医療事情の発表準備、興味関心のあるSDGにおける諸外国、国際機関や世界でのＮＧＯ、企業等の活動・取り組みを調べておくこと。	1.5h	調べてまとめた興味関心のあるSDGについて、第12回講義と関連付けて自分たちが取り組めることをまとめて、発表の準備をすること。	1.5h
15	学生プレゼンテーションとまとめ	2,3,4,5,6	第13回～第14回の個人ワーク/グループワークの発表資料と発表の準備。	1.5h	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

AL（アクティブラーニング）は、ペアワークを含むグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、その他クローズドク
エスチョン、オープンクエスチョンなど、授業中に質疑応答の時間を設ける。
１．単位修得に必要な時間を満たしていない場合
　記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
２．ルール
１）能動的に、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨むこと。
２）他学生の学習の妨げとなるような行為を慎むこと。
３．出席登録の方法
　出席の登録は、C-learningの下記１）～２）のいずれかの方法で行う。方法は授業、「ニュース」で確認すること。
１）「レポート」の課題をする。
２）「アンケート」を提出する。
４．グループワークとレポートの詳細については授業を進めながら提示する。
５．オンライン講義を実施する場合には、講義内容のワークショップを変更することがある。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる ✕

Introduction to Healthcare Sciences

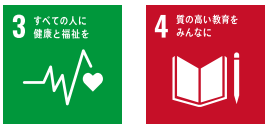
英文名：Introduction to Healthcare Sciences
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH013
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

町田　修三、東福寺　幾夫、松尾　仁司、ターン・クリストファー、應本　真、今井　純、大石　時子、冨田　洋介

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

QUIZ、問いかけ、授業内カンバセーション等による双方向性授業

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。
②数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。

到達目標

1.医療に関する基礎的な内容に関して，英語での説明を理解できる
2.理解した内容について，第三者に説明できる

3.医療に関するトピックに関して，英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる
4.医療に関するトピックについて，外国の学生と話をすることができる

使用教材

各教員が作成した資料やデータを用いて講義する

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する．各教員は，毎回の授業参加度（20%程度）や講義終了時に課す提出物または小レポート（80%程度）により，それぞれの持ち点に応じて学生を評価する

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物や小レポートには，コメントを付して返却する

オフィスアワー

月曜日4限目、金曜日2限目
研究室：1号館6階603

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course （町田）	1	シラバスを熟読し，講義の概要や目標を理解しておく	1h	講義内容の復習，特に専門用語（英語）を覚える	1h
2	Medical globalization and Japan’s healthcare system （町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
3	Healthcare system of foreign countries （町田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
4	Introduction of nursing education in Japan and other countries （大石）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
5	Introduction to telemedicine （東福寺）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
6	Using Medline Plus to obtain medical information in English Ⅰ （小澤）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
7	Using Medline Plus to obtain medical information in EnglishⅡ （小澤）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h
8	Immunity and diseases Ⅰ （今井）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	Immunity and diseases Ⅱ （今井）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
10	Medical information system （松尾）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
11	Introduction to sensory science （應本）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
12	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation Ⅰ （冨田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
13	The integration of Biomechanics and Neuroscience to optimize rehabilitation Ⅱ （冨田）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
14	Mental health and social skills （ターン）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h
15	Summary and concluding remarks （ターン）	1,2,3,4	あらかじめ配布した資料，データに目を通す．特に専門用語（英語）を予習しておき，授業に参加する準備をしておく	1.5 h	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 h

合計時間（予習・復習）

44h

備考

講義内容は学生の興味の持てそうな分野から、基礎的なものを選んでいる。学生の積極的な授業参加が求められる。記載した予習・復習時間に加え、自主的な学修により医療の国際化に関する理解を深め、単位修得に必要な時間を各自確保すること。

印刷 閉じる

囲碁の世界

英文名：Introduction to Igo
科目区分：人間理解
科目ナンバリング：LAH014
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
3 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

三谷　哲也

科目に関連した実務経験

2002年に公益財団法人日本棋院に入段。囲碁教室や他大学の囲碁授業の講師 （現在）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

インターネット・携帯電話アプリケーションでの対局を指示する場合あり

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
　近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。
　また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。
②実施方法
・講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。
・囲碁の心得や法則「ナナメにご用心」等、言葉で表したものを積極的に使い上達を図る。
・決め打ち碁（模範的な碁を並べ、途中から打つ）で布石の考え方を身につけ、初心者でもすぐに終局まで打てるようにする。

到達目標

1.囲碁を全く知らない状態から囲碁の世界を知り、19路盤で最後まで打てるようになる。■
2.「囲碁の心得、法則」の形を言葉で覚え、積極的に使い囲碁の考え方を身につける。■

使用教材

光文社新書「東大教養囲碁講座」　（備考欄を要確認）

参考文献

日本棋院「実践囲碁総合演習」

評価方法

毎回の授業貢献度、コメントシート、技術の習熟度を総合的に判断する（60%）
試験（20%）×2回　※対局結果は成績評価に含まない

課題・評価に対するフィードバック方法

試験後に解説を行う。

オフィスアワー

質問及び学習相談は授業の前後に応じる。状況により次回の授業での対応となる場合がある。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	囲碁の歴史と基本ルール■	1,2	教科書　第1章1～3に目を通し講義の目的を理解する。	1.5 h	囲碁の基本的なルールを理解する。	1.5 h
2	ルールの復習（1）■	1,2	教科書　第2章1-1～1-3に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 h	囲碁の5つの基本ルールを理解する。	1.5 h
3	ルールの復習（2）■	1,2	教科書　第2章1-4～1-5に目を通し基本ルールを確認する。	1.5 h	打てない場所、打てる場所を理解する。インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 h
4	ルールの復習及び初歩技術（1）■	1,2	教科書 P97に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。	1.5 h	基本的な3つの心得を理解する。	1.5 h
5	ルールの復習及び初歩技術（2）■	1,2	教科書　第3章2に目を通し、石の取り方を確認する。	1.5 h	取れている石、シチョウを理解する。	1.5 h
6	問題演習■	1,2	教科書　第2章1～2に目を通し基本的な考え方を理解する。	1.5 h	地の数え方、石のつながりを理解する。	1.5 h
7	技術の解説（1）■	1,2	教科書 P188～199に目を通し終盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の終盤の考え方を理解する。	1.5 h
8	技術の解説（2）■	1,2	教科書 P173～188に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 h
9	技術の解説（3）■	1,2	教科書 P158～172に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 h	19路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 h
10	9子局の解説・連碁（対局）■	1,2	教科書　第5章1に目を通し9子局の打ち方を理解する。	1.5 h	9子局の打ち方を理解する。	1.5 h
11	技術の解説（4）■	1,2	教科書 P207～220に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 h	隅の死活を理解する。	1.5 h
12	技術の解説（5）とペア碁■	1,2	教科書　第4章に目を通し、19路盤の考え方を理解する。	1.5 h	19路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	問題演習■	1,2	教科書　第2章4に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 h	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 h
14	技術の解説（6）■	1,2	教科書 P259～267に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 h	19路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 h
15	イベント対局とまとめ■	1,2	教科書　第4章～5章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 h	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

●履修条件
・本講義は、囲碁を知らない状態から19路盤で最後まで打てるようになることが目標です。
・囲碁の未経験者や囲碁のルールを知らない者を強く求めます。
●その他、授業に関する事項
・第5回目の授業までは基本的なルールを学び復習します。欠席や遅刻などしないこと。
・使用教材（教科書）は、授業形態（オンラインや録画配信）への変更により使用しない場合があります。
・授業では毎回対局を行います。道具の準備や片づけも授業の一環であるため、積極的に関わること。
・PCや携帯端末で囲碁の対局ソフト（アプリ）を指示、使用する場合があります。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

英語IA

英文名：English IA
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL001
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

Louise Arai

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。
②授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1.保育・教育を学ぶ学生にとって基本的な英語の語彙を獲得する。
2.保育・教育についての英語を読めるようになる。
3.保育・教育について英語で話せるようになる。

使用教材

Everything will be provided by the instructor

評価方法

Classroom participation and attitude 30%, Flipgrid videos 30%, Assignments 10%,
Final report 30%

課題・評価に対するフィードバック方法

Most results from videos, assignments and reports will be returned to students after marking.

オフィスアワー

授業の前後に対応する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introductions, review course syllabus, general review and assessment, useful English	1,2,3	Look at syllabus and make name cards	0.5 h	Self introductions and read Useful Classroom/online English	0.5 h
2	Learn how to write an email	1,2,3	Read handout	0.5 h	Send email to teacher	0.5 h
3	Meeting people and Flipgrid introduction	1,2,3	Read handout	0.5 h	Submit video on Fripgrid	0.5 h
4	Restaurant English and Movies	1,2,3	Read handout	0.5 h	Introduce your favorite movie	0.5 h
5	Talking about events and festival	1,2,3	Prepare to talk about your favorite festival	0.5 h	Introduce your favorite festival	0.5 h
6	Food Culture and Cooking in English	1,2,3	Be ready to talk about your favorite recipe	0.5 h	Introduce a healthy recipe	0.5 h
7	Emergencies	1,2,3	Think about emergency kit	0.5 h	Prepare an emergency kit	0.5 h
8	Useful travel English	1,2,3	Read hand out. Be ready to talk about the best place you have visited	0.5 h	Write about your favorite place	0.5 h
9	Talking about pets	1,2,3	Be ready to talk about your pet or your favorite animal	0.5 h	Review the benefits of having pets	0.5 h
10	Online Friends	1,2,3	Be ready to talk about if you prefer online or in person communication	0.5 h	Write about the benefits of both	0.5 h
11	Corona Virus and stress	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
12	A healthy lifestyle	1,2,3	Read handout	0.5 h	Discuss in groups	0.5 h
13	Make a blog	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Prepare blog	0.5 h
14	Blog presentation	1,2,3	Prepare blog	0.5 h	Review blogs in groups	0.5 h
15	Communication activities	1,2,3	Prepare for fun!	0.5 h	Review the activities	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

Syllabus may change a little.

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IB

英文名：English IB
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL001
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

井之川　睦美

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 日常的・社会的なトピックを扱ったテキストに触れ、大学生レベルの英文を読むために必要となる基礎的能力を身につける。また、基礎的な英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 日常的・社会的な話題に関する基礎的な語彙を身につける。
2. 日常的・社会的な話題についての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を簡単な英語で表現できるようになる。

使用教材

Ambitions: Beginner, 靜哲人，望月正道，熊澤孝昭, 金星堂, 2024年, ￥2,200

評価方法

授業への積極的参加（10%）、小テスト／課題遂行度（60%）、試験（30%）から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題提出後、C-Learning上で各自、あるいはクラス内でフィードバックする。

オフィスアワー

授業の前後で対応

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション：教科書・学習方法の確認、自己紹介	1,2,3	シラバスを読み学習方法を確認する	0.5h	学習方法、教科書の活用法の確認	0.5h
2	Unit 1 Cross-Cultural Understanding	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
3	Unit 2 Foods	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
4	Unit 3 Foreign Language Learning	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
5	Unit 4 Sports	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
6	課題１	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
7	課題１	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
8	Unit 5 Fashion	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
9	Unit 6 Living Things	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
10	Unit 8 Global Issues	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
11	Unit 10 Human Rights	1,2,3	Listening Part, Reading Part	0.5h	Review vocabulary, exercises, and the article	0.5h
12	課題２	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
13	課題２	1,2,3	課題手順について確認する	0.5h	課題を復習し理解を確認する	0.5h
14	Review	1,2,3	既習ユニットの復習	0.5h	復習事項の理解を確認する	0.5h
15	Review	1,2,3	既習ユニットの復習	0.5h	学習の振り返り	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

教科書、パソコン必携。
講義予定は授業進行状況により多少の変更有

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IC

英文名：English IC
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL001
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也

科目に関連した実務経験

英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業は、保育者・教育者をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般的な知識と技能を身につけるための科目である。本演習では、小学校での英語教育に関するテキストを使用し、英語の授業を英語で行えることをめざす。英語でのアクティビティやクラスルーム・イングリッシュなど、指導に関する実践的な英語力を修得する。
　授業は主にアクティブ・ラーニングを用いて行い、授業外学修（予習・復習）に基づいたペア・グループ・全体での活動で進められる。

到達目標

1.異文化理解を深め、国際感覚を身につけることができる。
2.教育現場で必要とされる英語表現を修得することができる。 ■
3.アクティブ・ラーニングの学修方法・形態で学ぶことで、主体的に学修することができる。 ■

使用教材

相羽千州子他, Hello, English: English for Teachers of Children（成美堂, 2016年）, 2,400円＋税

参考文献

参考となる文献についてはその都度紹介する。

評価方法

授業参加（10%）、単語テスト（15%）、発表（15%）、試験（60%）等から総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

期末試験は採点の後返却する。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
（9号館306研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3	教科書のはしがき、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5 h
2	Unit 1 ALT's First Visit to Minami Elementary School ■	1,2,3	指示に基づいて、Unit 1の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
3	Unit 2 Getting to Know Each Other ■	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 2の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
4	Unit 3 School Lunch ■	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 3の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
5	Unit 4 Play Time ■	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 4の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
6	Unit 5 The First English Class ■	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 5の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
7	Unit 6 Teaching Numbers 1 ■	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 6の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
8	Unit 7 Teaching Numbers 2 ■	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 7の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
9	Unit 9 Activities at a Kindergarten	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 9の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
10	Unit 10 Growing Plants & Observing the Butterfly Lifecycle	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 10の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	Unit 11 Making Onigiri and Curry	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 11の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
12	Unit 13 Introducing Japanese Culture ■	1,2,3	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 13の予習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
13	Unit 1～Unit 4のまとめ	1,2,3	Unit 1～Unit 4の復習をする。	0.5 h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5 h
14	Unit 5, 6, 7, 9のまとめ	1,2,3	Unit 5, 6, 7, 9の復習をする。	0.5 h	Unit 5, 6, 7, 9の学修事項を身につける。	0.5 h
15	Unit 10, 11, 13のまとめ	1,2,3	Unit 10, 11, 13の復習をする。	0.5 h	Unit 10, 11, 13の学修事項を身につける。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

質問はメールでも受け付ける。授業は、アクティブ・ラーニングの方法を用いて行うので、授業外学修（ワークシートに基づいた予習・復習）を丁寧にやること。また、授業でのペア・グループ・全体での発表などの活動では、積極的に参加することが望まれる。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IIA

英文名：English IIA
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL002
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也

科目に関連した実務経験

英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業は、保育者・教育者をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般 的な知識と技能を身につけるための科目である。本演習では、社会の急速なグローバル化に備え、保 育の現場における日常生活に関した題材を英語で取り扱いながら、特に学生がリスニング能力とスピーキング能力をレベルアップし、保育現場で英語でのコミュニケーションがとれるようになることをめざす。
　授業は主にアクティブ・ラーニングを用いて行い、授業外学修（予習・復習）に基づいたペア・グループ・ 全体での活動で進められる。

到達目標

1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、保育・子どもに関する英語の一般的な知識と技能を備えることができる。■
2.子どもや保護者と英語での会話が行えるように、場面に応じた会話例を身につけることができる。
3.主体的に英語を修得し、英語でのコミュニケーション能力を身につけ職場で活用することができる。

使用教材

Happy English for Childcare、土屋麻衣子著、 金星堂、2015、2,300円＋税

参考文献

参考となる文献についてはその都度紹介する。

評価方法

授業参加（10%）、単語テスト（15%）、発表（15%）、試験（60%）等から総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

期末試験は採点の後返却する。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
（9号館306研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2,3,4	教科書のはしがき、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	Unit 1　Hi, I’m Yuri Tanaka	1,2,3,4	指示に基づいて、Unit 1の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
3	Unit 2　Where Is the Multi-purpose Room?	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 2の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
4	Unit 3　Good Morning. How Are You Today?　■	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 3の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
5	Unit 4　What Color Do You Like?　■	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 4の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
6	Momotaro, The Peach Boy　■	1,2,3,4	単語テストの準備をし、Reading教材　“Momotaro, The Peach Boy”に目を通す。	0.5h	物語を読み、語彙、文法などを理解して内容を正確に把握できる。	0.5h
7	Unit 5　There’s a Ladybug on the Leaf	1,2,3,4	指示に基づいてUnit 5の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
8	Unit 6　It’s Time to Play Outside	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 6の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
9	Unit 7　She Is Allergic to Eggs	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 7の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
10	Unit 8　You Should Go to the Bathroom	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 8の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
11	Unit 9　We Made Masks Today	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 9の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
12	Unit 10　If It Rains, What Happens?	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 10の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
13	Unit 12　I Feel Feverish	1,2,3,4	単語テストの準備をし、指示に基づいてUnit 12の予習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Unit 1～Unit 6のまとめ	1,2,3,4	Unit 1～Unit 6の復習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h
15	Unit 7～Unit 10, Unit 12のまとめ	1,2,3,4	Unit 7～Unit 10, Unit 12の復習をする。	0.5h	授業と課題に基づいて学修内容を理解する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

質問はメールでも受け付ける。授業は、アクティブ・ラーニングの方法を用いて行うので、授業外学修（ワークシートに基づいた予習・復習）を丁寧にやること。また、授業でのペア・グループ・全体での発表などの活動では、積極的に参加することが望まれる。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IIB

英文名：English IIB
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL002
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

ステイシー・クローズ

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Peer to peer review of projects

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

このコースの目標は、実用的で意味のある状況で英語を使用するための基盤を提供することです。本コースでは、話す、書く、聞く、読むという4つの言語スキルを発展させ、個人的および学術的な情報を効果的に伝えることを重視します。学生は、ビデオ、ポスター、スピーチなど、さまざまな形式を活用して自分のアイデアを形にし、意義のある対話に参加します。また、協働活動や仲間からのフィードバックを通じて、英語を使う自信とスキルをさらに向上させます。
The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical and meaningful situations. This course will emphasize the development of all four language skills—speaking, writing, listening, and reading—to effectively communicate personal and academic information. Students will use a variety of formats, such as videos, posters, and speeches, to bring their ideas to life and engage in meaningful interactions. Collaborative activities and peer feedback will further enhance your confidence and proficiency in using English.

到達目標

1. 様々な状況において、話し言葉や書き言葉で明確かつ意味のあるメッセージを英語で伝える。
2. 英語の資料を活用して、世界的または個人的な関心のあるテーマを調査、分析、理解する。

3. 英語を学び、楽しみ、効果的に使うための生涯学習の習慣を身につけ始める。
1. Communicate clear and meaningful messages in spoken and written English in various contexts.
2. Research, analyze, and understand ideas of global or personal interest using English resources.
3. Begin developing lifelong habits for learning, enjoying, and effectively using English.

使用教材

Provided by instructor

評価方法

平常点40%（単語試験、提出物など）、発表30%, 定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法

課題はコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

水曜日の4限、金曜日の2限・質問はメールでも受け付ける(9号館307研究室)

授業計画表

このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
2	Introducing yourself to others	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
3	Narrative story techniques and practice	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
4	Telling a narrative story	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
5	Presenting narrative stories	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
6	Peer review of narrative stories	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
7	Practicing grammar and vocabulary for demonstations	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
8	Practice for demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
9	Techniques and practice for presenting a demonstration	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
10	Demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
11	Peer review of demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
12	Differences in popular culture	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
13	Pop culture and life long learning of English	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Presenting a summary of popular culture topic	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
15	Peer review of popular culture topics	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IIC

英文名：English IIC
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL002
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

姉﨑　達夫

科目に関連した実務経験

姉﨑：英語教師として中学校に勤務（経験）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本授業では、保育・教育の現場で実践的な英語会話力が必要とされていることを考慮し、英語によるリスニング・会話練習に重点を置く。あわせて基本的な語彙、文法を確認しながら、英語のコミュニケーション能力を総合的に高める訓練を行う。

到達目標

1. 基本的な語彙・文法を修得する。■
2. 基本的な教室英語を使い、英語で授業運営できる素地を身につける。■

使用教材

S. Williams & V. Morooka (2014). Student Teacher: Introductory English for Education Majors. 東京：南雲堂. 2,100円 ISBN:9784523177678

参考文献

授業内で紹介する。

評価方法

授業への参加度、発表、レポート（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題のフィードバックは翌週に提示する。

オフィスアワー

月曜2限、水曜3限
（研究室：9号館3階303）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・Warm-up■	1,2	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。	0.5h	Warm-up用の配布プリントの内容を理解する。	0.5h
2	Unit 1: Meeting and Greeting■	1,2	教科書Unit 1の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 1の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
3	Unit 2: Family and Friends■	1,2	教科書Unit 2の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 2の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
4	Unit 3: Likes and Dislikes■	1,2	教科書Unit 3の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 3の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
5	Unit 4: Good Habits and Bad Habits■	1,2	教科書Unit 4の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 4の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
6	Unit 5: Summer and Fun■	1,2	教科書Unit 5の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 5の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
7	Unit 6: Here and There■	1,2	教科書Unit 6の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 6の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
8	Units 1-6のまとめ■パフォーマンス課題	1,2	教科書Units 1-6の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Units 1-6の内容を使って、音読、会話練習をする。パフォーマンス課題の準備を行う。	0.5h
9	Unit 7: Giving and Receiving■	1,2	教科書Unit 7の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 7の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
10	Unit 8: Parties and Fashion■	1,2	教科書Unit 8の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 8の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
11	Unit 9: Physical Education and Health■	1,2	教科書Unit 9の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 9の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	Unit 10: Nursery School and Day Care■	1,2	教科書Unit 10の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 10の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
13	Unit 11: Educating and Caring■	1,2	教科書Unit 11の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 11の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	0.5h
14	Unit 12: Bullying and Other Problems■	1,2	教科書Unit 12の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Unit 12の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。パフォーマンス課題の準備を行う。	0.5h
15	Units 7-12のまとめ■パフォーマンス課題	1,2	教科書Units 7-12の指定された練習問題を解く。	0.5h	教科書Units 7-12の内容を使って、音読、会話練習をする。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IIIA

英文名：English IIIA
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL003
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

松田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目:幼稚園教諭、保育士

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① プロジェクトを通して子どもに関わる英語を理解すると同時に、自分自身がクリエイティヴに英語に関わり、英語を自由に読解し、表現できるようになる。
② ペア・ワーク、グループ・ワーク等によって英語による創作物を読解、紹介、実践するプロジェクトを行う。

到達目標

1. 子どもに関わる英文に登場する語彙や表現を理解する能力を得る。
2. 文化的コンテキストの中で、子どもに関わる英語を理解し、柔軟に解釈する力を身につける。
3. プロジェクトを通して、子どもについて英語で自由に表現する力を身につける。

使用教材

授業の中で提示する。

評価方法

グループ活動への貢献度（30%）、授業ごとの成果（40%）、最終課題（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

成果・課題は授業ごとにコメントし返却する。

オフィスアワー

金曜1限、金曜2限
（9号館304室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション：授業の進め方の説明		シラバスを読む	0.5h	ハンドアウトを読む	0.5h
2	ナーサリー・ライムを読む ① 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
3	ナーサリー・ライムを読む ② 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
4	絵本を読む ① 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
5	絵本を読む ② 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
6	絵本を読む ③ 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
7	児童小説を読む ① 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
8	児童小説を読む ② 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
9	児童小説を読む ③ 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
10	歌詞を解釈する ① 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
11	歌詞を解釈する ② 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
12	Cartoonを理解する ① 聞き取り	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
13	Cartoonを理解する ② 解釈	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
14	Cartoonを理解する ③ 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
15	Cartoonを理解する ③ 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

授業はそれぞれの作業によって進む。ワークシート・辞書・端末を必ず持参すること。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IIIB

英文名：English IIIB
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL003
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

山田HAY美由紀

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○		○				○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

英語会話で必要なアクティブラーニングに使える単語や文を指導する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この講義では、教育の現場において必要とされるコミュニケーション能力を英語をツールとして習得する。各自が自分の考えを持って英語で意見交換できる課題、コミュニケーションを必要とするグループ活動課題等を通し、日常英語の語彙、リスニング能力、英語表現力、プレゼンテーション能力を身につける。また、専門用語に使用される英語についての理解、発音、使用例などに触れる。時事問題について時勢に沿ったテーマを取り上げる時間も設ける。講義は学生の既習内容を考慮した上、英語で行う。質問、疑問、意見等はその都度か講義後に発言すること。質問や意見は、積極的な参加態度、自己表現として奨励し評価の対象となる。グループ課題終了後、自己評価・講義に対する評価用紙に意見を記入することもできる。

到達目標

1. 英語を使って自己の考えを口頭表現することができる。
2. コミュニケーションに必要な英語表現を学び、日常的に実践できる。
3. 協力して課題を解決していくことにより、互いの能力を認め合い、個人を尊重する姿勢を身につける。

使用教材

課題により印刷教材を配布する。

評価方法

講義は実技中心のため、時間内のコミュニケーション状況 (30%)、課題発表 (50%)、講義への参加 (20%)を評価する。個人課題は、内容を講義の始めに毎回評価する。ペア、グループ課題は講義内での実践中、各人の英語によるコミュニケーションの様子を評価する。コミュニケーションのためのキーフレーズを毎時紹介するので、記録して課題実践中に使うことが期待される。講義内外でのコミュニケーション（参加度）も評価の対象となる。自己評価用紙の記入は行うが、筆記試験による評価は行わない。講義に参加することが評価の対象になるので、欠席は3日を超えないよう留意すること。超える場合は要相談。

課題・評価に対するフィードバック方法

実技実施中、グループ課題発表後に口頭にてフィードバックする。

オフィスアワー

授業の前後で対応する。C-Learningを欠席理由報告、講義や課題に対する質問などに活用してもらいたい。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義内容、出欠、評価の概要について理解する。個人活動。	1,2,3	英語に触れる機会を増やすための個人課題を出すので、受講期間中続けること。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
2	個人課題について発表し教員評価を受ける。簡単なグループ活動と発表。ペア活動の紹介と実践。	1,2,3	個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
3	個人課題について発表し教員評価を受ける。ペア活動。グループ課題１の紹介。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
4	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題１について理解する。専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
5	個人課題についてペアで発表し合う。グループ課題１の実践。　専門用語・時事問題等	1,2,3	個人課題を修正しながら続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
6	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題１の実践。専門用語・時事問題等	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
7	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題１の実践。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題１の発表に向けて個人練習すること。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題１のリハーサル。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	グループ課題１の発表に向けて個人練習すること。	0.5h
9	個人課題についてグループ内で評価し発表する。グループ課題１の発表。	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
10	発表について教員から口頭評価。自己評価・講義に対する評価（印刷物配布）。グループ課題２の説明	1,2,3	評価を参考に個人課題を続ける。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
11	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題２の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
12	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題２の内容構成。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題の内容について必要事項を調べておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
13	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題２の練習。英語押韻について	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題２の練習をしておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h
14	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題２のリハーサル。	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題２の練習をしておく。	0.5h	グループ課題２の練習をしておく。	0.5h
15	個人課題のグループ内評価と発表。グループ課題の発表。口頭で評価。自己評価・講義に対する評価の記入（印刷物配布）。	1,2,3	個人課題を続ける。グループ課題２の練習をしておく。	0.5h	コミュニケーションのためのキーフレーズを練習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

・講義内で電子辞書またはスマートフォンによる辞書検索を行うので持参すること。検索以外の使用については学生として品位のある態度で取り扱うこと。
・コミュニケーションのためのフレーズを毎回紹介するので、記録して講義中に使用すること。記録用媒体はノート、スマートフォンなど個人で選択する。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IIIC

英文名：English IIIC
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL003
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

ステイシー・クローズ

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Peer to peer review of projects

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

このコースの目標は、実用的で意味のある状況で英語を使用するための基盤を提供することです。本コースでは、話す、書く、聞く、読むという4つの言語スキルを発展させ、個人的および学術的な情報を効果的に伝えることを重視します。学生は、ビデオ、ポスター、スピーチなど、さまざまな形式を活用して自分のアイデアを形にし、意義のある対話に参加します。また、協働活動や仲間からのフィードバックを通じて、英語を使う自信とスキルをさらに向上させます。
The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical and meaningful situations. This course will emphasize the development of all four language skills—speaking, writing, listening, and reading—to effectively communicate personal and academic information. Students will use a variety of formats, such as videos, posters, and speeches, to bring their ideas to life and engage in meaningful interactions. Collaborative activities and peer feedback will further enhance your confidence and proficiency in using English.

到達目標

1. 様々な状況において、話し言葉や書き言葉で明確かつ意味のあるメッセージを英語で伝える。
2. 英語の資料を活用して、世界的または個人的な関心のあるテーマを調査、分析、理解する。

3. 英語を学び、楽しみ、効果的に使うための生涯学習の習慣を身につけ始める。
1. Communicate clear and meaningful messages in spoken and written English in various contexts.
2. Research, analyze, and understand ideas of global or personal interest using English resources.
3. Begin developing lifelong habits for learning, enjoying, and effectively using English.

使用教材

Provided by instructor

評価方法

平常点40%（単語試験、提出物など）、発表30%, 定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法

課題はコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

水曜日の4限、金曜日の2限・質問はメールでも受け付ける(9号館307研究室)

授業計画表

このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
2	Introducing yourself to others	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
3	Narrative story techniques and practice	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
4	Telling a narrative story	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
5	Presenting narrative stories	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
6	Peer review of narrative stories	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
7	Practicing grammar and vocabulary for demonstations	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
8	Practice for demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
9	Techniques and practice for presenting a demonstration	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
10	Demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
11	Peer review of demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
12	Differences in popular culture	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
13	Pop culture and life long learning of English	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Presenting a summary of popular culture topic	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
15	Peer review of popular culture topics	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IVA

英文名：English IVA
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL004
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

ステイシー・クローズ

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

Peer to peer review of projects

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

このコースの目標は、実用的で意味のある状況で英語を使用するための基盤を提供することです。本コースでは、話す、書く、聞く、読むという4つの言語スキルを発展させ、個人的および学術的な情報を効果的に伝えることを重視します。学生は、ビデオ、ポスター、スピーチなど、さまざまな形式を活用して自分のアイデアを形にし、意義のある対話に参加します。また、協働活動や仲間からのフィードバックを通じて、英語を使う自信とスキルをさらに向上させます。
The goal of this course is to provide a foundation for using English in practical and meaningful situations. This course will emphasize the development of all four language skills—speaking, writing, listening, and reading—to effectively communicate personal and academic information. Students will use a variety of formats, such as videos, posters, and speeches, to bring their ideas to life and engage in meaningful interactions. Collaborative activities and peer feedback will further enhance your confidence and proficiency in using English.

到達目標

1. 様々な状況において、話し言葉や書き言葉で明確かつ意味のあるメッセージを英語で伝える。
2. 英語の資料を活用して、世界的または個人的な関心のあるテーマを調査、分析、理解する。

3. 英語を学び、楽しみ、効果的に使うための生涯学習の習慣を身につけ始める。
1. Communicate clear and meaningful messages in spoken and written English in various contexts.
2. Research, analyze, and understand ideas of global or personal interest using English resources.
3. Begin developing lifelong habits for learning, enjoying, and effectively using English.

使用教材

Provided by instructor

評価方法

平常点40%（単語試験、提出物など）、発表30%, 定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法

課題はコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

水曜日の4限、金曜日の2限・質問はメールでも受け付ける(9号館307研究室)

授業計画表

このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction of the course	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
2	Introducing yourself to others	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
3	Narrative story techniques and practice	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
4	Telling a narrative story	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
5	Presenting narrative stories	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
6	Peer review of narrative stories	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
7	Practicing grammar and vocabulary for demonstations	1,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
8	Practice for demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
9	Techniques and practice for presenting a demonstration	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
10	Demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
11	Peer review of demonstration speeches	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
12	Differences in popular culture	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
13	Pop culture and life long learning of English	2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Presenting a summary of popular culture topic	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h
15	Peer review of popular culture topics	1,2,3	Preparation for the activity	0.5h	Review the new words and phrases	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

このコースの焦点は「英語を使って何ができるか」にあります。特定の語彙や文法を学ぶのではなく、中学・高校で学んだ英語を活用することが重要です。学生は自分自身のプロジェクトを作成し、そのために必要な英語を調査することがコースの重要な要素となります。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IVB

英文名：English IVB
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL004
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

織原　義明（おりはら　よしあき）

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 保育・子どもに関する英語表現に親しみ、専門的な内容を扱った基礎的なレベルの英文読解のためのリーディングスキルを獲得する。
② 授業は基本的に演習形式で進め、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。

到達目標

1. 保育・子どもに関する基礎的な語彙を身につける。
2. 保育・子どもについての英文を読解できるようになる。
3. 読解したことについて、自分の考えや意見を表現できるようになる。

使用教材

Reading Leader 基本文法から始める初級リーディング
金星堂，Robert Hickling 著，税込 ￥2,200

評価方法

授業への参加度と平常点（小テスト含む）40%、期末試験60%から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

小テスト、期末試験は採点後に返却もしくは模範解答を提示する。

オフィスアワー

授業開始前または終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Unit 1 The Cherry Blossom Season in Japan［現在時制］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
2	Unit 2 Travel Pleasures［代名詞］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
3	Unit 3 Lucky Discoveries［過去時制］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
4	Unit 4 Saving Our Precious Water［名詞］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
5	Unit 5 Festival Fun and Games ［前置詞］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
6	Unit 6 Work Pre- and Post-COVID-19［進行形］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
7	Unit 7 Online Social Gaming［不定詞と動名詞］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
8	Unit 8 Women’s Social Advancement［現在完了形］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
9	Unit 9 Music Makers［WH疑問文］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
10	Unit 10 Risks and Rewards of Online Tasks［比較級と最上級］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
11	Unit 11Getting Around in the Future［未来時制］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
12	Unit 12 Virtual Reality Is Really Here［助動詞］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
13	Unit 13 Pet Adoption［接続詞］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Unit 14 Mobile Supermarkets to the Rescue［受動態］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h
15	Unit 15 Time Performance［関係詞］	1,2,3	Grammar Review の内容を理解しする。Reading Helper の問題を解く。	0.5 h	音声教材を使って、Reading Starter と Reading Challenger の発音を確認し、音読する。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

15

備考

音声教材は C-learning にアップします。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

英語IVC

英文名：English IVC
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL004
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

松田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目:幼稚園教諭、保育士

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① プロジェクトを通して子どもに関わる英語を理解すると同時に、自分自身がクリエイティヴに英語に関わり、英語を自由に読解し、表現できるようになる。
② ペア・ワーク、グループ・ワーク等によって英語による創作物を読解、紹介、実践するプロジェクトを行う。

到達目標

1. 現代の創作物やメディアに登場する英語の語彙や表現を理解する能力を得る。
2. 文化的コンテキストの中でオーセンティックな英語を理解し、柔軟に解釈する力を身につける。
3. プロジェクトを通して、自分自身の考えについて英語で自由に表現する力を身につける。

使用教材

授業の中で提示する。

評価方法

グループ活動への貢献度（30%）、授業ごとの成果（40%）、最終課題（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

成果・課題は授業ごとにコメントし返却する。

オフィスアワー

金曜1限、金曜2限
（9号館304室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション：授業の進め方の説明		シラバスを読む	0.5h	ハンドアウトを読む	0.5h
2	ポップ・ソングを解釈する ① 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
3	ポップ・ソングを解釈する ② 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
4	物語を読む ① 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
5	物語を読む ② 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
6	物語を読む ③ 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
7	映像作品を解釈する ① 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
8	映像作品を解釈する ② 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
9	映像作品を解釈する ③ 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
10	詩を解釈する ① 読解	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
11	詩を解釈する ② 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
12	ドラマを理解する ① 聞き取り	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
13	ドラマを理解する ② 解釈	1,2	読解に必要な文化的・社会的コンテキストについての情報収集	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
14	ドラマを理解する ③ 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h
15	ドラマを理解する ③ 発表	1,2,3	発表の準備	0.5h	語彙・表現の確認	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

Integrated English I

英文名：Integrated English Ⅰ
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL005
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

Tarn, Christopher
ターン・クリストファー

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○		○			○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ケーススタディ: 福祉分野のシナリオを英語で分析する。
ロールプレイ: 面接や紛争解決など、現実的な状況を練習する。
フィードバックセッション: コミュニケーションスキルの改善に向けた振り返りを行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1.学生がコミュニケーション能力を向上させ、感情知能（EQ）、異文化理解、実践的な英語の応用力を身につけることを目的としています。基礎的スキル、英語力、リーダーシップの開発を統合し、学生が多様な個人、学術、職業的な場面で自信を持って効果的にコミュニケーションできるよう準備します。
2.グループディスカッション、ケーススタディ、プレゼンテーション、ロールプレイを中心としたアクティブラーニング

到達目標

1.コミュニケーションの概念、自分自身の理解、マインドフルネスについて理解できる。
2.異文化における言語および非言語的コミュニケーションの違いを理解できる。
3.共感、ストレス管理、アサーティブネス、アクティブリスニングを活用できる。
4.リーダーシップのためのコミュニケーション能力を身につけ、効果的にソーシャルメディアとオンラインコミュニケーションを活用できる。

使用教材

授業中に配布されるハンドアウトおよびデジタルリソース

評価方法

1.授業参加: 30%
2.グループワークとプレゼンテーション: 40%
3.最終発表と振り返り: 30%

オフィスアワー

C-Learning + mail

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コミュニケーションとは何か？ ・コミュニケーションの定義（内的、外的、言語的、非言語的）。 ・現在のコミュニケーション習慣の自己評価。 ・コミュニケーションにおける文化的影響（日本の文脈）を探る。	1	コミュニケーションに関する自身の考えや経験を事前に整理する。	1.0 h	授業で提示されたコミュニケーションの定義や文化的影響の具体例をまとめる。	0.5 h
2	EQ（感情知能）と自己認識 ・感情知能（EQ）の導入。 ・自分の感情を認識し、理解する。 ・コミュニケーションにおける感情を管理するための戦略を学ぶ。	1,3	感情知能（EQ）に関する基本的な知識を事前に調査する。	1.0 h	自身の感情認識と管理の傾向について分析し、授業で学んだ戦略を適用する方法を考える。	0.5 h
3	マインドフルネスと内的対話 ・自己認識を高めるためのマインドフルネスを実践する。 ・否定的な自己対話を認識し、再構築する。 ・コミュニケーション経験を振り返るジャーナリングを行う。	1	自己認識を高めるためのマインドフルネスの実践方法を調べ、簡単なエクササイズを試みる。	1.0 h	授業で行ったマインドフルネスの体験を振り返り、自己対話のパターンに気づいた点を記録する。	0.5 h
4	コミュニケーションのための基本的な英語 ・日常の挨拶、自己紹介、質問を練習する。 ・発音とスピーキングの流暢さに焦点を当てる。 ・簡単なロールプレイシナリオを取り入れる。	1	基本的な英語の挨拶、自己紹介、質問の表現を練習する。	1.0 h	授業で学んだ発音や流暢さのポイントを意識しながら、自己紹介などのロールプレイを再度行う。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	異文化における非言語コミュニケーション ・ジェスチャー、ボディランゲージ、表情を解読する。 ・日本と他文化の非言語的手がかりの違いを比較する。 ・感情を当てようなどのアクティビティを通じて練習する。	2	日本と異なる文化における非言語コミュニケーションの例をいくつか調査する。	1.0 h	授業で扱われた非言語的手がかりの違いを整理し、感情を当てるアクティビティでの気づきを考察する。	0.5 h
6	コミュニケーションスタイルと適応 ・直接的スタイルと間接的スタイル、形式性、礼儀正しさを探る。 ・対象者や状況に応じたコミュニケーションを調整する戦略を学ぶ。 ・異なるコミュニケーションスタイルのシナリオを用いたロールプレイを行う。	2	直接的および間接的なコミュニケーションスタイルについて考え、自身がどちらの傾向があるか分析する。	1.0 h	異なるコミュニケーションスタイルのロールプレイを振り返り、状況に応じたコミュニケーションの調整方法を検討する。	0.5 h
7	コミュニケーション障壁の克服 ・日本人学習者が直面する英語コミュニケーションの課題を特定する。 ・誤解や言語的な困難に対処する方法を学ぶ。 ・翻訳ツールや技術を利用してコミュニケーションを支援する。	2	自身が英語コミュニケーションで課題を感じる点を具体的な場面を想定して考える。	1.0 h	授業で学んだ課題への対処法や翻訳ツールの活用方法を、具体的な場面を想定して試す。	0.5 h
8	感情スキルと社会的コミュニケーション •第2回で学んだ共感とアクティブリスニングを再確認する。 •社会的なコミュニケーションにおけるストレス管理を学ぶ。 •共感を実践するロールプレイとアクティブリスニングの練習を行う。	1,3	共感とアクティブリスニングが重要となる具体的な場面を想像する。	1.0 h	共感とアクティブリスニングを意識した会話を実践し、相手の反応や自身の気づきを記録する。	0.5 h
9	実践的かつアサーティブなコミュニケーション	1,3	アサーティブなコミュニケーションの具体的な表現例を調べ、練習する。	1.0 h	授業で行ったアサーティブネスのロールプレイを振り返	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	•コミュニケーションの課題に対してクリティカルシンキングを応用する。 •アサーティブネス（要求を伝える、ニーズを表現する、境界を設定する）を練習する。 •自信を高めるための言葉によるセルフディフェンスを探る。				り、より効果的な自己表現のための改善点を明確にする。	
10	リーダーシップのためのコミュニケーション ・説得力のある技術と明確な指示の出し方を学ぶ。 ・リーダーシップの「声」を発展させる。 ・グループディスカッションをリードする練習を行う。	1,4	効果的なリーダーシップを発揮するためのコミュニケーション要素を考察する。	1.0 h	グループディスカッションをリードする練習を行い、参加者からのフィードバックを分析する。	0.5 h
11	ソーシャルメディアコミュニケーション ・英語で効果的なソーシャルメディア投稿を作成する方法を学ぶ。 ・オンラインのエチケットと自分をポジティブに表現する方法を議論する。 ・グループプロジェクトでシンプルなソーシャルメディアキャンペーンを作成する。	4	英語での効果的なソーシャルメディア投稿の例をいくつか分析し、自身の投稿のアイデアを考える。	1.0 h	授業で作成したソーシャルメディアキャンペーンの内容を改善するためのアイデアを考える。	0.5 h
12	プレゼンテーションと振り返り ・学んだコミュニケーションスキルを活用して短いプレゼンテーションを行う。 ・コース全体の学習成果を振り返る。 ・実生活でのスキル活用について議論する。	1,3,4	これまでの授業で学んだコミュニケーションスキルをどのように活用するかを具体的に考え、プレゼンテーションの構成を計画し、発表練習の準備をする。	1.0 h	自身のプレゼンテーションを振り返り、改善点と今後の学習目標を定める。	0.5 h
13	交渉と紛争解決 ・個人と職業的なコミュニケーションのための交渉戦略を学ぶ。 ・ロールプレイを通じて紛争解決技術を練習する。	2,3,4	個人と職業的なコミュニケーションにおける交渉や紛争解決の基本的な戦略を調べる。	1.0 h	ロールプレイで行った交渉や紛争解決の場面を分析し、学んだ戦略がどのように適用できたか考察する。	0.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	・紛争解決における文化的な違いを議論する。					
14	協力的コミュニケーションとチームワーク ・効果的なコミュニケーションにおけるチームワークの重要性を探る。 ・グループ問題解決タスクなどの協力的な活動を実践する。 ・建設的なフィードバックの提供と受け取り方を学ぶ。	3,4	効果的なチームワークに貢献するために必要なコミュニケーションスキルを考える。	1.0h	グループワークでの自身の役割とコミュニケーションを振り返り、建設的なフィードバックの提供と受け取り方について考察する。	0.5h
15	実世界応用とキャリアコミュニケーション ・職場コミュニケーション技術（例: Eメールの書き方、ブリーフィングの実施）を学ぶ。 ・就職面接やキャリアに関する議論での英語コミュニケーションを練習する。 ・コミュニケーションスキルがキャリアの成功をサポートする方法を議論する。	3,4	職場やキャリアに関する英語コミュニケーションの具体的な場面（メール、面接など）を想定し、必要な表現やスキルを調べる。	1.0h	模擬面接やキャリアに関する議論を振り返り、今後の学習課題を明確にする。	0.5h

合計時間（予習・復習）

22.5h

印刷 閉じる

Integrated EnglishⅡ

英文名：Integrated English Ⅱ
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL006
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
6 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

髙橋栄作

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○								○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
英語の基礎文法事項を整理し、語彙力をつけながらTOEIC®テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を目指す。
②講義の実施方法
TOEIC®テスト形式の問題演習を中心に、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。練習問題の音声をリピートしたり、スクリプトを音読したり、耳に英語が入った瞬間に理解できるようにインプットする。リーディングでは正解不正解の確認だけでなく、解答の根拠を理解し、応用可能な解法を身につける。

到達目標

1.TOEIC®テストの形式と内容を理解できる。
2.語彙力が身につく。
3.文法事項を理解できる。
4.リスニング力が身につく。
5.リーディング力が身につく。

使用教材

Ayako Yokogawa and Tony Cook. (2016). Level-up Trainer for the TOEIC® TEST.　東京：センゲージラーニング.

参考文献

授業内で紹介する。

評価方法

授業への参加度、発表、課題（40%）、期末試験（60%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題は返却して解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・TOEICテストとはPre-test	1, 2, 3, 4, 5	教科書の「はじめに」「目次」「本書の使い方」「シラバス」などの内容を読んで、講義の目標などを理解する。	0.45 h	Pre-testの誤りを復習する。	0.3 h
2	Unit 1: テスト形式を知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 1 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
3	Unit 2: 基本戦略①	1, 2, 3, 4, 5	Unit 2 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
4	Unit 3: 基本戦略②	1, 2, 3, 4, 5	Unit 3 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
5	Unit 4: 英文の基本構造を見抜く	1, 2, 3, 4, 5	Unit 4 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
6	Unit 5: 解答根拠の登場順	1, 2, 3, 4, 5	Unit 5 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
7	Unit 6: 正解の言い換えパターンを知る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 6 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
8	Units 1-6のまとめ	1, 2, 3, 4, 5	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	0.45 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	Unit 7: 機能疑問文を聞き取る	1, 2, 3, 4, 5	Unit 7 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
10	Unit 8: 動詞の時制を見極める	1, 2, 3, 4, 5	Unit 8 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
11	Unit 9: 接続詞 vs. 前置詞	1, 2, 3, 4, 5	Unit 9 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
12	Unit 10: 複数パッセージ問題の攻略	1, 2, 3, 4, 5	Unit 10 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
13	Unit 11: 接続副詞に強くなる	1, 2, 3, 4, 5	Unit 11 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
14	Unit 12: NOT型設問のコツ	1, 2, 3, 4, 5	Unit 12 の語彙の意味を調べる。 練習問題に解答する。	0.45 h	練習問題の誤りを復習する。 時間を測り、改めて練習問題に回答する。	0.3 h
15	まとめ Post-test	1, 2, 3, 4, 5	Post-testの問題を解く。	0.45 h	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	0.3 h

合計時間（予習・復習）

11.25 h

備考

予習をして授業に出席してください。
テキストは新しいものを購入してください。

印刷 閉じる

ドイツ語

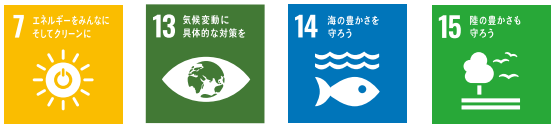
英文名：German
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL007
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ドイツの文化や取り組み、また基礎的な文法を知ることを通じて、多様な価値観への関心を深め、日本の文化と比較することで、自己理解の参照項とする。
②C-Learning「教材倉庫」に公開する資料などを用いて講義を実施する。文化などに関しては、学生による調査やそれにもとづいたディスカッションを組み込みながら行う。語学の部分に関しては、ドイツ語でのコミュニケーションに最低限必要な文法や挨拶などの定型表現を練習する。毎回、C-Learningの「ドリル」「小テスト」で知識の定着を図る。

到達目標

1.ドイツの文化や現代の取り組みを知り、自らと比較し、意見を述べることができる。
2.ドイツ語の初級文法を用いて挨拶や平易な表現をすることができる。

使用教材

C-Learning「教材倉庫」に予習・復習資料を公開する。

評価方法

授業への参加態度（資料の閲覧、ドリル・アンケートの実施状況など）・・・30%
小テストなどの課題、確認テスト・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

C-Learning「ドリル」「小テスト」「アンケート」などに対して解説、コメントを行う。

オフィスアワー

1号館511研究室
面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス―日本とドイツ、外来語としてのドイツ語とそのアルファベット―	1,2	シラバスを読み講義内容を理解する。教材倉庫の予習用資料に目を通しておく	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 外来語としてのドイツ語について調べてみる。	1.5 h
2	母音の発音①、あいさつ ドイツ人の精神における「森」	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの森林について調べてみる	1.5 h
3	母音の発音②、お店での注文 ドイツの食事、料理	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの料理について調べてみる。	1.5 h
4	子音の発音① 首都ベルリン、ユダヤ人慰霊碑、ベルリンの壁	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 現代ドイツが直面した歴史について調べてみる。	1.5 h
5	子音の発音② オクトーバーフェスト	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 オクトーバーフェストと日本のイベントについて調べてみる。	1.5 h
6	子音の発音③ 第三の都市ミュンヒェン	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ミュンヒェンについて調べてみる。	1.5 h
7	ドイツ語の文の作り方（一般動詞①） 第二の都市ハンブルク	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ハンブルクについて調べてみる。	1.5 h
8	ドイツ語の文の作り方（一般動詞②） ドイツの気候・住居	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの住居について調べてみる。	1.5 h
9	ドイツ語の文の作り方（haben） ドイツの城・宮殿・美意識	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの建築文化について調べてみる。	1.5 h
10	ドイツ語の文の作り方(sein動詞①） ドイツの美術	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5 h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツにおけるアートについて調べてみる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	ドイツ語の文の作り方(sein動詞②) ドイツの音楽　クラシック、テクノ、ラブパレード	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの音楽について調べてみる。	1.5h
12	ドイツ語で自己紹介① ドイツのビオ食品	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツのビオの認定基準について調べてみる。	1.5h
13	ドイツの年末年始	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5h	ドリル、小テストで復習する。 ドイツの年末年始について調べてみる。	1.5h
14	ドイツ語で自己紹介② ドイツにおけるエコ	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5h	ドリル、小テストで復習する。 環境先進国ドイツの取り組みを調べてみる。	1.5h
15	まとめ	1,2	教材倉庫の資料に目を通しておく。	1.5h	必要に応じて、補習課題を実施する。　ドイツに対する関心を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・毎回、授業の前週の水曜日に、C-Learning「教材倉庫」に予習用の教材をアップする。授業終了後は、復習用の教材やドリル・小テストを用いて知識の定着を図ること。
・詳細な成績評価の方法や、課題などについての連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。

印刷　閉じる

フランス語

英文名：French
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL008
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

松島　洋子

科目に関連した実務経験

医療通訳・翻訳（産婦人科、形成外科、外科）

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

フランス語を通じて世界に関心を持ち、豊かな人間性を育む。
①フランスの文化や習慣に触れ、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。
②毎回1つのテーマを中心に、「伝わるフランス語」を学ぶ。文法は会話に取り入れ、生徒が楽しんで身に付けられるように進める。

到達目標

1.フランス語で簡単な会話ができる■
2.フランス語検定4級相当の文法を理解する■

使用教材

①新ゼロからスタート　フランス語単語集 BASIC1000／Jリサーチ出版
ISBN-13 978-486392543-4

②フランス語をひとつひとつわかりやすく。―超基礎からの個人授業／学研教育出版
ISBN-13 978-4-05-303813-5

評価方法

授業内の課題及び期末テストにて文法理解度を確認60%、
授業内の発言・質問・ロールプレイ等40%

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内で取り組んだ課題とテストをチェックして返却する。

オフィスアワー

質問等は、開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	フランス語の基本／アルファベの発音、発音記号、挨拶、仏語の特性や文化に触れる■	1,2	第1回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第1回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
2	名詞／男性名詞と女性名詞の単数形、複数形■	1,2	第2回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第2回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
3	動詞の活用①■ ・フランス語の基礎となる不規則動詞 ・名詞「性格」「国名」 ・自分のことを紹介する	1,2	第3回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第3回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
4	動詞の活用②■ ・不規則動詞avoirの使い方 ・英語のhaveとの共通点	1,2	第4回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第4回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
5	動詞の活用③■ ・不規則動詞 aller ・英語のGoとの共通点 ・目的地の場所につける前置詞	1,2	第5回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第5回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
6	所有形容詞■ ・「私の」「彼の」 ・名詞「家族・友人・日用品」 ・名詞と冠詞の関係	1,2	第6回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第6回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
7	否定文の作り方■ ・動詞「話す」の活用 ・名詞「職業」	1,2	第7回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第7回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
8	動詞の活用④■ ・ER動詞の使い方 ・数えられる名詞と数えられない名詞	1,2	第8回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第8回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
9	疑問文①■ ・答えが「はい・いいえ」になる疑問文と「具体的な答え」を求める疑問文	1,2	第9回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第9回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
10	動詞の活用⑤■ ・「faire～する」の使い方 ・日常生活での活用	1,2	第10回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第10回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
11	疑問文②■ ・「どこですか？」 ・「誰ですか？」 ・友人や家族を紹介する	1,2	第11回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第11回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	疑問文③■ ・方向、位置を尋ねる ・「上下」「前後」「左右」	1,2	第12回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第12回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
13	動詞の活用⑥■ ・「faire」の応用 ・名詞「スポーツ」との活用	1,2	第13回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第13回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
14	時計の読み方■ ・時間、曜日、月、季節 ・「何時ですか」と質問する	1,2	第14回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第14回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h
15	動詞の活用⑦■ ・「○○が欲しい」 ・「○○ができる」 ・　基礎～応用まとめ	1,2	第15回で取り組む単元をCDで聞いておく。	0.5h	第15回で取り組んだ単元を再確認しておく。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す

印刷　閉じる

ポルトガル語

英文名：Portuguese
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL009
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

アンジェラ　マルリ　カルステン　角田

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ロールプレイングと教育的ゲーム

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

1. クラスでは、基本的なポルトガル語を紹介し、練習しながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、および基本的な文法知識の習得と語学スキルの向上を目指す。
2. クラスは、ディスカッションやビデオ視聴による日常会話に役立つポルトガル語の導入と、練習で構成され、その後、ロールプレイ、教育的ゲーム、グループ活動を通じて実用性を高める。

到達目標

1．初級レベルの日常会話
2．各回に、ポルトガルの文化に触れる時間を設け、自身の文化と比較し、多様な価値観への関心を深める。

使用教材

教材プリント

参考文献

ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語著者: Silvia Noriko Kaneyasu

評価方法

15% - アンケートへの参加
25% - 宿題
30% - 中間グループプレゼンテーション
30% - 最終グループプレゼンテーション

課題・評価に対するフィードバック方法

教員は学生の授業活動をチェックしながら、実践的な活動や内容についてアドバイスや指導を行う。

オフィスアワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コースとクラスの紹介	1,2	シラバスを読み、疑問点があればメモしておく。	1.5 h	1. 授業で練習した自己紹介や挨拶を覚える。 2. ビデオを見てポルトガル語のアルファベットを覚える。	1.5 h
2	ブラジルについて。 自分自身について話す。(ポルトガル語の“Be”動詞 – ser/estar)	1,2	宿題、 アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	自己紹介文を見直す。	1.5 h
3	家族について。 (私の、あなたの、彼女の、彼の... meu, seu, dele, dela…)	1,2	宿題、 アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	家族についての話し、文を見直す。	1.5 h
4	数字、曜日、月、天気、について。	1,2	宿題、 アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で曜日、1から10までの数字、月を学ぶ。	1.5 h
5	好き嫌いについて。 動詞「gostar」（ポルトガル語で色、食べ物、飲み物など）	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	好きなことや嫌いなことについての話し方、文を見直す。	1.5 h
6	物事の説明。（形容詞、反対語）	1,2	宿題、 アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語の便利な形容詞とその反対語を見直す。	1.5 h
7	日常の活動について。（よく使われる規則動詞）	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞「comprar」、「estudar」、「trabalhar」、「comer」、「beber」、「escrever」、partir、abrir の活用と使い方の練習。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	これまでの内容の復習、中間グループ発表。	1,2	中間グループプレゼンテーション準備。	1.5 h	授業で示される重要語彙の復習。	1.5 h
9	疑問詞の使い方。 (Como? Onde?, O que? Quem?...)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語での質問文を見直す。（どのように、いつ、どこで、誰...）	1.5 h
10	時間について。	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	ポルトガル語で時間を言う練習をする。	1.5 h
11	ポルトガル語の動詞「estar」の使い方。 (前置詞、動詞の動名詞形)	1,2	宿題、アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	動詞の継続時制を使う練習をする。	1.5 h
12	私たちが持っているもの、欲しいもの、やっていること。 （不規則動詞「ter」、「querer」、「fazer」）	1,2	宿題、 アンケート実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	あなたが持っているもの、欲しいもの、やっていることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
13	予定について。（動詞「行く」と「来る」 - 「ir」と「vir」）	1,2	宿題、アンケートの実施。 質問があればメモしておく。	1.5 h	予定の短いリストを書き、読む練習をする。	1.5 h
14	知っていること、できることについて。（動詞「saber」と「conhecer」の使い方）	1,2	宿題、 アンケート実施。 質問があればメモしておく	1.5 h	自分にできることについて書き、話す練習をする。	1.5 h
15	プレゼンテーション。クラス全体でのディスカッション。	1,2	グループプレゼンテーションの準備。	1.5 h	学習した動詞を使用しながら自分自身について話す練習をする。	1.5 h

印刷 閉じる ✕

中国語

英文名：Chinese
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL010
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

渡邊　賢

履修を必須とする資格

無し

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。
②1）授業は全15回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性とある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に着けられたい。
2）毎回、中国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

1.中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。
2.中国語音を表記する音声記号を習得する。
3.中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。
4.中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。
5.日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。

使用教材

教科書『大学一年生のための合格る中国語』小幡敏行著（朝日出版社）
ISBN97-4-255-45224-1C1087

参考文献

講義中に適宜指示する。

評価方法

毎回の小試験20%、発音中間試験30%、学期末筆記試験50%により評価する。
総合評価60%以上を合格とみなす。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。

オフィスアワー

授業開始前もしくは授業終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバス内容、教科書第8頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。	1h	不要	0h
2	発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
3	発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
4	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。	2,3,4	不要	0h	授業で学習したことを、毎日、一日10分程度一週間、発音の練習をする。	1h
5	教科書第1課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第1課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
6	教科書第2課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。	2,3,4,5	教科書第2課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
7	教科書第3課、形容詞述語文や数量表現などの学習。	2,3,4,5	教科書第3課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
8	教科書第4課、存在文や構造助詞「的」などの学習。	2,3,4,5	教科書第4課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
9	教科書第5課、介詞構造や方位詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第5課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	2,3,4,5	教科書第6課、連動文や能願動詞などの学習。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
11	教科書第7課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。	2,3,4,5	教科書第7課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
12	教科書第8課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第8課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
13	教科書第9課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。	2,3,4,5	教科書第9課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
14	教科書第10課、方向補語や結果補語などについての学習。	2,3,4,5	教科書第10課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h
15	教科書第11課、主述述語文や比較表現などについての学習。	2,3,4,5	教科書第11課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5h	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し、暗誦できるまで復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

26h

備考

復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 閉じる

ハングル語

英文名：Korean
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL011
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
0 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

丁　美貞

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。
②ハングルの文字と単語の書き方、読み方から発音練習や会話表現の練習を行う。毎回、韓国の文化に触れる時間を設け、自らと比較し、多様な価値観への関心を深める。

到達目標

1.正確なハングル文字の表記及び発音を習得する。
2.韓国語の叙述・疑問に関する表現を習得する。
3.100語程度を用いた簡単な挨拶や自己紹介などの基本文型を習得する。
4.日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、簡単な会話ができる。

使用教材

朴庾卿,仲島淳子,金美順,徐明煥（2023）『ワンアクション韓国語』朝日出版社

参考文献

斉藤明美（2005）『ことばと文化の日韓比較―相互理解をめざして』世界思想社

評価方法

授業への参加度10%、課題・小テスト30%、定期試験60%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にはコメントを付けて返却する。小テストを毎回返却し解説する。

オフィスアワー

質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくはメールで連絡すること。

メールアドレス（#→@）

mjjeong621#gmail.com

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業概要、ハングルについて、基本母音	1	テキストを用意し、2頁～6頁を読んでくる。韓国語のノートを用意すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
2	基本子音　（平音、激音、濃音）	1	7頁～17頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
3	複合母音	1	18頁～21頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
4	終声（パッチム）	1	22頁～25頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
5	発音の変化	1	26頁～30頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
6	基礎まとめ、日本語のハングル表記、ハングル入力（メール）	1	31頁～32頁を読んでくる。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
7	「挨拶をする」イムニダ、助詞「ヌン/ウン」、助詞「ド」、ラゴ/イラゴ ハムニダ	1,2,3,4	32頁～35頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
8	「挨拶をする」イムニダ、助詞「ヌン/ウン」、助詞「ド」、ラゴ/イラゴ ハムニダ、作文練習	1,2,3,4	34頁～43頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
9	「状況を説明する」ハムニダ体、助詞「ルル/ウル」	1,2,3,4	44頁～47頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 h
10	「状況を説明する」助詞「エソ」、助詞「エ」（位置）、否定形「チアンタ」、作文練習	1,2,3,4	48頁～53頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5 h	次回、授業内容に係る小テストを実施するの	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					で復習をしておくこと。	
11	「買い物をする」指示語、助詞「ガ/イ」、助詞「ワ/クァ」	1,2,3,4	54頁～59頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
12	「買い物をする」漢数詞、ガ/イ アニダ、作文練習	1,2,3,4	60頁～65頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
13	「予定を述べる」固有数詞、助詞「エ」（時間）、助詞「エ」（方向）	1,2,3,4	66頁～71頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
14	「予定を述べる」助詞「エソ/ブト～カジ」、否定形「アン」、ルル/ウル チョアハムニダ、作文練習	1,2,3,4	72頁～77頁を読んでくる。単語及び本文の内容を確認すること。	1.5h	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5h
15	総まとめ	1,2,3,4	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5h		1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回課題や小テストを行うため必ず予習・復習を行うこと。音源を活用しテキストの読みを練習すること。
メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

印刷 閉じる

情報リテラシーⅠ

英文名：Information Literacy Ⅰ
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL012
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪、大橋　博、木幡　直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要なパソコンを利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1. 書誌的事項を過不足なく記載でき、参考資料や引用文献を適切に取り扱い、レポートが作成できる。
2. メールやSNSを正しく扱うことができる。
3. 授業における調べものやレポート作成に使用するパソコンを適切に取り扱うことができる。
4. 大学のメールや学生ポータルサイト、学習支援サイトを適切に利用できる。
5. 情報倫理やアクセシビリティを理解し、パソコンや情報機器を利用できる。

使用教材

配布資料

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

水曜３限
１号館６階６１５研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	レポートの書き方 ①レポートの記載事項 ②参考文献・資料引用の注意点 ③知的財産権・著作権の取り扱い上の注意点	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	メール・SNS利用のマナーと注意点 ①メールの書き方(件名、本文の書き方、TO/CC/BCCの使い分け、署名) ②ファイルの添付/添付ファイルのダウンロード ③不審メールへの対処 ④SNS利用上の注意（マナー、リスク、注意事項) ⑤クラウドサービス利用上の注意事項	2,4	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	Widows PCの操作１(基本操作編) ①起動、シャットダウン、スリープ、ロック、サインアウト/サインイン ②文字入力とカナ漢字変換 ③ネットワークの接続設定(無線/有線)とWebサイトへの接続 ④Webブラウザの便利機能とセキュリティ管理	3	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	Widows PCの操作２(エクスプローラ操作編) ①各種表示機能のON/OFF ②フォルダ・ファイル操作に関する基本機能と応用機能 ③ファイル情報の表示と検索 ④ショートカットの作成	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	Widows PCの操作３(実用操作編) ①画面キャプチャ、アプリ強制終了、スタートアップ設定 ②Windowsの各種設定とメンテナンス ③アプリのインストール/アンインストール、関連付け、メニュー登録 ④パーティションの作成 ⑤クラウドの利用(OneDrive、GoogleDrive)	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	Gメールの設定と利用 ①本学メールシステムへのログイン・ログアウト ②画面構成（受信トレイ・送信済み・迷惑メール・ゴミ箱） ③メールの作成・送信(To/Cc/Bcc)・返信・転送	2,4	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	④署名の設定、ファイルの添付 ⑤実践（履修者同士での練習）					
7	情報の倫理とモラル ①個人情報保護と情報倫理 ②情報利用のモラル	5	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	情報通信のアクセシビリティ ①アクセシビリティについて ②キーボード補助機能・マウス補助機能・見やすさの機能・他機能 ③音声認識アプリ・会話補助装置・意思伝達装置・他	5	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

印刷 閉じる

情報リテラシーⅡ

英文名：Information Literacy Ⅱ
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL013
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪、木幡 直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要なパソコン利用に関わる基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1. 情報量の表示に関わる接頭語が理解でき、正しく使える。
2. 論理演算が理解でき、真理値表やベン図で説明できる。
3. コンピュータの5大要素を説明でき、主要な入出力装置やインターフェースを適切に利用できる。
4. OSの役割を説明できる。

使用教材

オンラインでPDF資料を配布、動画閲覧

評価方法

各単元で実施する小テストの合計を100点満点に換算し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

水曜３限
１号館６階６１５研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コンピュータの仕組み１ ①情報量と補助単位（接頭語） ②2進数、8進数、16進数	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	コンピュータの仕組み２ ①２値論理 ②真理値表 ③ベン図	2	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	コンピュータの仕組み３ ①コンピュータの概要（5大要素） ②コンピュータの種類	3	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	コンピュータの仕組み４ ①入力装置 ②出力装置 ③記憶装置 ④演算装置 ⑤制御装置	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	コンピュータの仕組み５ 周辺装置（入力装置・出力装置） 周辺装置（補助記憶装置） ドライバ	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	コンピュータの仕組み６ OSの種類 OSの役割（ファイル管理） OSの役割（タスク管理・メモリ管理・デバイス管理） OSとGUIインターフェイス	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	コンピュータの仕組み７ LANとインターネット IPアドレスとルーティング ファイヤーウォール WebとWebアプリ	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	コンピュータの仕組み８ パソコンの構造 筐体 マザーボード 各種拡張ボード	3	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

印刷　閉じる

情報リテラシーⅢ

英文名：Information Literacy Ⅲ
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL014
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪、大橋　博、木幡　直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要な文書作成やプレゼンテーションの基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1. Wordを使って各種文書を作成できる。
2. PowerPointを使ってスライドを作成でき、プレゼンテーションが出来る。

使用教材

30時間でマスターOffice2021　実教出版

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

水曜３限
１号館６階６１５研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Word利用の基礎（演習）１ ①Wordの起動と画面構成 ②文書の入力と編集 ③ページ設定	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
2	Word利用の基礎（演習）２ ①文書の作成 ②文字の配置 ③文字の修飾	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
3	Word利用の基礎（演習）３ ①表の作成 ②表のレイアウトの変更 ③表の編集	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
4	Word利用の基礎（演習）４ ①ページの色や罫線 ②ワードアートの利用 ③図形の挿入 ④テキストボックスの挿入	1	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
5	Word利用の基礎（演習）５ ①文書作成のまとめ（文書資料の作成）	1	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2h	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1h
6	PowerPoint利用の基礎（演習）１ ①PowerPointの画面構成 ②プレゼンテーションの作成 ③文字修飾と図形の活用	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
7	PowerPoint利用の基礎（演習）２ ①グラフの活用 ②スマートアートの活用 ③アニメーション効果 ④その他の機能	2	該当する部分の教科書を読んでおくこと。	1.5h	講義内容に関する課題を行い提出すること。	1.5h
8	PowerPoint利用の基礎（演習）３ ①プレゼンテーション資料作成のまとめ（プレゼンテーション資料の作成）	2	ここまで学習した内容を確認しておくこと。	2h	課題内容に関する課題を行い提出すること。	1h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

講義での演習は、大学から推奨された性能のPCで進めること。なお、講義ではoffice系ソフト（Word、PowerPoint）を使用するものとする。

印刷　閉じる

情報リテラシーⅣ

英文名：Information Literacy Ⅳ
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL015
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪、大橋　博、木幡　直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①大学での学習に必要な表計算処理の基礎的技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1. Excelを使って基本的な集計ができる。
2. Excelの簡単な関数機能が利用できる。
3. Excelの表データからグラフを作成できる。
4. Excelでデータの検索や並べ替えができる。

使用教材

30時間でマスターOffice2021　実教出版

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

水曜３限
１号館６階６１５研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Excel利用の基礎（演習）１ ①Excelの画面構成 ②ブックの操作 ③データの入力と編集 ④オートフィル	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	Excel利用の基礎（演習）２ ①計算式の入力 ②表示形式の変更 ③書式の変更	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	Excel利用の基礎（演習）３ ①合計（SUM）関数 ②平均（AVERAGE）関数 ③最大（MAX）最小（MIN）	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	Excel利用の基礎（演習）４ ①グラフの作成	3	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	Excel利用の基礎（演習）５ ①条件判定（IF関数）と順位付け（RANK.EQ関数）I	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	Excel利用の基礎（演習）６ ①条件判定（IF関数）と順位付け（RANK.EQ関数）II ②検索関数の利用	4	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	Excel利用の基礎（演習）７ ①セルの参照機能 ②文字列の結合 ③セルの条件付き書式 ④並び替え	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	Excel利用の基礎（演習）８ ①フィルター ②文字の結合 ③WordとExcelの活用	4	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

講義での演習は、大学から推奨された性能のPCで進めること。なお、講義ではoffice系ソフト(Excel)を使用するものとする。

印刷　閉じる

情報リテラシーV

英文名：Information Literacy V
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL016
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪、木幡　直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①ネットワークに情報機器を接続し、安全かつ適切に利用できる基礎的知識と技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1．ネットワーク利用に必要な基礎知識があり、利用できる。
2．情報セキュリティに関する基礎知識があり、安全に気を配り情報機器やシステムを利用できる。
3．専攻領域におけるICTの利用事例や先進的利用について、説明できる。

使用教材

配布資料

評価方法

単元毎のテストを行い、合計点を100点に換算して、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

水曜３限
１号館６階６１５研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ネットワークの基礎知識１ ①DHCP(IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS) ②ブラウザ ③プロバイダと回線接続業者	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	ネットワークの基礎知識２ ①Wi-Fiによるネットワーク接続（SSIDとパスワード、接続周波数） ②4Gと5G・無線LAN規格、テザリング ③セキュリティの選択、トラブル対策	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	情報セキュリティの基礎１ ①情報資産の脅威・脆弱性とリスク ②サイバー攻撃 ③マルウエア対策	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	情報セキュリティの基礎２ ①アクセス管理と認証 ②不正アクセス対策 ③暗号とディジタル署名	2	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	情報セキュリティの基礎３ ①組織のセキュリティ対策 ②情報セキュリティ関連の法規と制度 ③知的財産保護と個人情報保護	2	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	社会とICT活用１ ①医療・健康分野でのICTの活用 ②社会福祉分野でのICTの活用 「※健康・医療・福祉分野のICT活用」	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	社会とICT活用2 ①教育分野でのICTの活用	3	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	社会とICT活用３ ①農業・食糧生産分野でのICTの活用 ②食品産業分野でのICTの活用 「※食品・農業分野のICTの活用」	3	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

印刷　閉じる

情報リテラシーVI

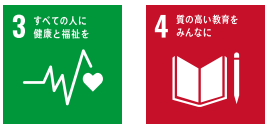
英文名：Information Literacy VI
科目区分：リテラシー
科目ナンバリング：LAL017
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪、大橋　博、木幡　直樹

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①情報数理統計・データサイエンスの基礎的知識と処理の技能を身につけることを目標とする。
②授業はオンライン・オンデマンド開講とする。

到達目標

1．度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理ができ、ヒストグラムによるデータの可視化ができる。
2．最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法が説明できる。
3．四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法を理解し、説明できる。
4．分散と標準偏差の意味、定義、計算方法を理解し、説明できる。

使用教材

オンラインでPDF資料を配布

評価方法

各単元で実施する小テストの合計を100点満点に換算し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

C-learningを利用して学習状況や授業における疑問点や改善要望等を収集し、次回講義時に回答する。

オフィスアワー

水曜３限
１号館６階６１５研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	データサイエンスの基礎１ ①データサイエンスとは何か ②度数分布表、累積度数分布表によるデータの整理 ③ヒストグラムによるデータの可視化 ④ヒストグラムから読み取るデータの特徴	1	1回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	1回目の講義内容を復習する	1.5h
2	データサイエンスの基礎２ ①Excelを使った度数分布とヒストグラムの作成	1	2回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	2回目の講義内容を復習する	1.5h
3	データサイエンスの基礎３ ①最頻値、中央値、平均値の定義と計算方法 ②最頻値、中央値、平均値と度数分布、累積度数分布、ヒストグラムの関係	2	3回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	3回目の講義内容を復習する	1.5h
4	データサイエンスの基礎４ ①Excelを使った代表値の算出	2	4回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	4回目の講義内容を復習する	1.5h
5	データサイエンスの基礎５ ①分位数の考え方 ②四分位数、5数要約、レンジ、四分位範囲の定義と計算方法 ③箱ひげ図による5数要約の可視化 ④箱ひげ図とヒストグラムの形状との関係	3	5回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	5回目の講義内容を復習する	1.5h
6	データサイエンスの基礎６ ①Excelを使った5数要約の算出、箱ひげ図の作成	3	6回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	6回目の講義内容を復習する	1.5h
7	データサイエンスの基礎７ ①Σ記号の定義と性質 ②分散と標準偏差の意味、定義、計算方法 ③データの一次変換と平均、分散、標準偏差 ④変動係数の定義と性質	4	7回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	7回目の講義内容を復習する	1.5h
8	データサイエンスの基礎８ ①Excelを使った分散、標準偏差、変動係数の算出	4	8回目の講義内容を予め読んでおく	1.5h	8回目の講義内容を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

印刷　閉じる

人間発達論

英文名：Human Development
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE001
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

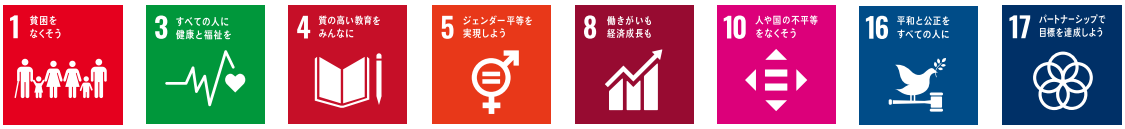
担当教員

角野　善司

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この科目は、人間の発達に関する入門的な講義である。経験則にとどまらず、科学的に人間発達をとらえる目を養い、本学部での４年間の学修の基盤となる力を身に付けることを目標とする。
②授業期間全体を通じた授業の進め方：毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。また、理解を深めるために必要に応じて視聴覚教材を活用する。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。

到達目標

1. 主要な発達理論について説明できる。
2. 生涯発達および各発達段階の概要と課題について説明できる。
3. 発達と家族／社会のかかわりについて説明できる。
4. 生涯発達において保育・教育がもつ意義を論じることができる。

使用教材

「ガイドライン生涯発達心理学　第2版」二宮克美ほか　ナカニシヤ出版　2012年

評価方法

毎回の課題・小レポート45%（3点×15回）、学期末筆記試験30%、学期末レポート25%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	発達の理論 (1) 発達の概念	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。	1.5 h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を始める。	1.5 h
2	発達の理論 (2) 生涯発達	1,2	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を重ねる。	1.5 h
3	発達の理論 (3) 発達の規定因	1	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
4	発達の理論 (4) 発達段階と発達課題	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
5	生涯発達の様相 (1) 胎生期・周産期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
6	生涯発達の様相 (2) 乳児期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
7	生涯発達の様相 (3) 幼児期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
8	生涯発達の様相 (4) 児童期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
9	生涯発達の様相 (5) 青年期	1,2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	生涯発達の様相 (6) 成人期前半	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
11	生涯発達の様相 (7) 成人期後半	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
12	生涯発達の様相 (8) 老年期	1,2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
13	発達と家族	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
14	発達と社会	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
15	発達と保育・教育	4	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

仮に諸事情により対面での学期末筆記試験の実施ができない場合には、成績評価にあたっての配点は以下のとおりとする：毎回の課題・小レポート75%（5点×15回）、学期末レポート25%

印刷 閉じる

現代教育の課題

英文名：Issues in Current Education
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE002
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本　拡子／野田　敦史／富田　純喜／三村　国宏

科目に関連した実務経験

野田敦史：地域支援担当（ソーシャルワーカー）として児童福祉・障害者施設に勤務
三村国宏：教諭・教頭・副校長・校長として公立中学校・中等教育学校・高等学校等に勤務（経験），指導主事・係長・課長として市教育委員会に勤務（経験）

履修を必須とする資格

保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 講義の目標
現代の子どもを取り巻く教育課題は多様であり広く社会の問題としてとらえる必要がある。本授業では就学前教育，学校教育，地域社会など，様々な環境において子どもが直面する課題について考え，どのようにして解決するべきかについて学生相互が意見を出し合うことを通して理解を深める。
② 講義の実施方法
4名の教員によるオムニバスで実施する。演習形式で実施し，各教員の専門分野から提示されたテーマにそって課題を考え，グループで話し合ったり発表したりする。毎回の授業終了時にはリアクションペーパーを提出したり小テストを実施したりする。

到達目標

(1) 現代教育の課題について説明し，課題に対する自分なりの考えを持つことができる。
(2) 保育・教育に対する関心を高めることができる。
(3) 各自の今後の学修の方向性を明確にすることができる。

使用教材

担当教員による講義資料や教材を配布する。

参考文献

各教員がその都度紹介する。

評価方法

各教員から提示されるレポート課題を提出する。各教員は授業の出席状況，課題への取り組み，レポート等を総合的に判断し100点で評価する。
計400点を100点に換算し，60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたリアクションペーパー，小テスト，レポート等に対してコメント等で提示する。

オフィスアワー

岡本：水曜日1・2限
野田：火曜日1・2限
富田：水曜日5限・木曜日5限
三村：水曜日1・2限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 子どもをとりまく現状と課題①子どもと権利（岡本拡子）	(1) (2) (3)	シラバスを読み，本科目の目標を理解する。 子どもの権利条約について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
2	子どもをとりまく現状と課題②子どもと貧困（岡本拡子）	(1) (2) (3)	子どもの貧困問題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
3	子どもをとりまく現状と課題③外国にルーツを持つ子ども（岡本拡子）	(1) (2) (3)	外国にルーツを持つ子どもについて調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
4	就学前教育の課題①待機児童問題（富田純喜）	(1) (2) (3)	就学前教育の課題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
5	就学前教育の課題②遊びと学び（富田純喜）	(1) (2) (3)	就学前教育の課題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	就学前教育の課題③認知能力と非認知能力（富田純喜）	(1) (2) (3)	就学前教育の課題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
7	就学前教育の課題④幼小接続（富田純喜）	(1) (2) (3)	就学前教育の課題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
8	学校教育の課題①学校教育の現状と教育改革（三村国宏）	(1) (2) (3)	昨今の教育改革について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
9	学校教育の課題②学習指導に関わる課題（三村国宏）	(1) (2) (3)	学習指導上の諸問題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
10	学校教育の課題③生徒指導に関わる課題（三村国宏）	(1) (2) (3)	生徒指導上の諸問題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
11	学校教育の課題④家庭・地域との連携に関わる課題（三村国宏）	(1) (2) (3)	地域とともにある学校づくりについて調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
12	地域社会における教育課題①地域・家庭教育の歴史とその実情（野田敦史）	(1) (2) (3)	地域社会における教育課題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
13	地域社会における教育課題②地域・家庭教育支援の在り方（野田敦史）	(1) (2) (3)	地域社会における教育課題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
14	地域社会における教育課題③放課後教育支援・児童健全育成事業の取り組み（野田敦史）	(1) (2) (3)	地域社会における教育課題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間
15	地域社会における教育課題④世代間・地域交流事業の取り組み（野田敦史）	(1) (2) (3)	地域社会における教育課題について調べておく。	1.5時間	資料を読み直し，授業内容の理解を深めるとともに，課題に取り組む。	1.5時間

合計時間（予習・復習）

45時間

印刷　閉じる

教育における情報機器の操作Ⅰ

英文名：Computer Literacy for Teaching Ⅰ
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE003
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪　木幡　直樹

科目に関連した実務経験

片山；教諭（理科）として高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭小学校教諭中学校教諭特別支援学校教諭保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育所，幼稚園，小学校等の教育現場で効果的に校務を遂行するためのコンピュータの基本的な技術を習得する。そのために，インターネット，電子メール，ワープロ，表計算，プレゼンテーション等各種ソフトウェアの基本的な操作方法を身につける。

各講義では，教科書，自作資料にそって教員が各回の内容を説明し，（中間モニター利用）。学生は指示された課題をファイルにまとめて提出する方法で授業を進める。

到達目標

1.インターネットを用いて情報を検索することができる。
2.電子メールを用いて，情報のやり取りをすることができる。
3.Wordの基本的な操作をすることができる。
4.Officeのフォトレタッチ機能の基本的な操作をすることができる。
5.Excelの基本的な操作をすることができる。
6.Power Pointの基本的な操作をすることができる。
7. Adobe Photoshop Elements，Adobe Premiere Elementsを用いて初歩的な画像の処理，動画処理をすることができる。
8.保育・教育の現場でコンピュータを活用して職務を円滑に遂行する能力を身につけることができる。■

使用教材

30時間でマスターoffice 2021（実教出版）。

参考文献

授業において紹介。

評価方法

課題に対する提出物（ファイル）の内容90%，授業への参加度，態度，積極性等10%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物（ファイル）の内容が，求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し，その結果を学生に伝え，必要に応じ，再提出を求める。

オフィスアワー

片山；水曜3限、金曜2限
（9号館4階411研究室），
木幡；水曜日4限，金曜日2限
（1号館6階602研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学内コンピュータの利用法，電子メールの基本操作	1,2,7	シラバスを確認しておく。今までのコンピュータの知識をまとめておく。	1.5h	学内コンピュータの利用法，電子メールの基本操作の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
2	Windowsの基本操作，インターネットの情報検索，情報セキュリティ■	1,7	教科書を読んでおく。	1.5h	Windowsの基本操作，インターネットの情報検索の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
3	Word文書の作成(1) 基本操作・文字列の入力，基本的な文書の作成，書式の設定	3,7	文字列の入力，書式の設定に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	文字列の入力，書式の設定に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
4	Word文書の作成(2)　文書の編集，文書の印刷	3,7	文書の編集，印刷に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	文書の編集，印刷に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	Officeのフォトレタッチ機能■	3,4,7	Officeのフォトレタッチ機能に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	Officeのフォトレタッチ機能に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
6	Word文書の作成(3)　表と図表の作成	3,7	表と図表の作成に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	表と図表の作成に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
7	Word課題，レポート作成■	1,2,3,7	今まで勉強したWord文書の作成方法を復習しておく。指示された写真を用意しておく。	1.5h	授業で指示したレポート課題を完成させる。	1.5h
8	Excel基本操作(1)　セルとワークシート■	5,7	セルとワークシートに関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	セルとワークシートに関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
9	Excel基本操作(2)　集計表の作成	5,7	集計表の作成に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	集計表の作成に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
10	Excelの関数	5,7	Excelの関数に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	Excelの関数に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
11	Excelの便利な機能（条件付き書式，並び替え，フィルター）	5,7	条件付き書式，並び替え，フィルターに関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	条件付き書式，並び替え，フィルターに関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
12	PowerPoint　プレゼンテーション作成の基本操作■	6,7	プレゼンテーション作成の基本操作に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	プレゼンテーション作成の基本操作に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
13	PowerPoint　図形の描画	6,7	図形の描画に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5h	図形の描画に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5h
14	PowerPoint　プレゼンテーション効果の活用，アニメーション	6	プレゼンテーション効果の活用，アニメーションに関する教科書の該当箇所を読んでおく。		プレゼンテーション効果の活用，アニメーションに関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	
15	Adobe Photoshop Elements，Adobe Premiere Elementsの基本操作■	6	シラバスを確認しておく。画像処理ソフト，動画処理ソフトの機能について調べておく。	1.5h	画像処理ソフト，動画処理ソフトの機能を再確認しておく。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

新型コロナウィルスの感染拡大防止の観点で，オンラインで実施する場合がある。その場合は，オンデマンド型授業とし，資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる ✕

教育における情報機器の操作Ⅱ

英文名：Computer Literacy for Teaching Ⅱ
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE004
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：1単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大橋　博　村田　美和

科目に関連した実務経験

【大橋】小学校教員時代に情報教育の指導経験
【村田】高崎先端ICT教育協議会でICT教育の指導・講習（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・特別支援学校教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保育教育現場においてデータとデジタル技術の活用による教育手法の変革を行おうという教育のDXが言われ、情報機器の活用能力は教員として必須となってきている。本講義ではICT機器を用いた双方向かつ個別に最適化された授業を理解し、それを実現することを目指す。また、現実にあるものを数理的かつ論理的に理解し、ICT機器上に再現するプログラミングを学ぶ。
②講義は演習が中心となり、Officeアプリの使い方、LMS（学習管理システム）やプログラミングを用いる。授業内の知識を確認するため、プレゼンやプログラミング課題の提出を求めることがある。

到達目標

1. 情報教育の現状と情報技術の基礎を理解する。■
2. LMSを活用し、生徒と教師の双方向な授業を実現できる
3. 学習指導要領にあるプログラミングを理解し、プログラミング課題をクリアできる。

使用教材

自主作成教材を使用する。

参考文献

●文部科学省・情報教育の推進（2024.1 accessed）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369613.htm
●文部科学省・GIGAスクール構想の実現について（2024.1 accessed）
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm
●初等中等教育にける情報教育（2024.1 accessed）
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/suishinkaigo2018/koyou/dai6/siryou4.pdf

評価方法

授業毎のリフレクションシート（50%）、提出物（50%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業にて解説する

オフィスアワー

大橋：月曜１限
（9号館3階302研究室）、
村田：火曜2限、月曜3限
（8号館5階502研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・iPadのキッティング	1	シラバスを読み、授業の目的を理解する。	0.5h	iPadの資料を読み直し、自分に使いやすいようにカスタマイズする。	2.5h
2	ロイロノートの基本操作■	2	ロイロノートのHPを確認し、用途を知る。	1h	ロイロノートを使った授業実践について、HPの事例を閲覧し復習する。	2h
3	iPad内でのOneDrive（クラウド）活用	2	OneDriveのアカウントにログインする。用途を調べる。	1h	OneDriveにフォルダを作成し、大学の勉学用に整理する。	2h
4	iPad内でのWordによる指導案作成	2	WordをiPadにダウンロードする。指導案のサンプルを読む。	1h	指導案の図表を自身のiPadにて作成し、機能を復習する。	2h
5	iPad内でのPowerPointの活用	2	PowerPointをダウンロードする。ツール内にあるボタンの機能を確認しておく。	1h	より見やすいスライドデザインやフォントサイズを確認し、作成したものをブラッシュアップさせる。	2h
6	PowerPointスライドショーを活用した発表	2	プレゼンの練習をする。	1h	発表が上手だった人の様子を振り返り、そのポイントを書き留める。	2h
7	iPad内でのOffice共同作業	2	マイクロソフト教育センターで共同作業の実践を閲覧する。	1h	エクセルなど、授業で使わなかったOfficeでも、共同作業できることを確認する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	オンラインテレビ会議システムの活用■	1	Zoomをインストールし、基本機能について確認する。	1h	オンラインテレビ会議システムでの実践例と注意点について振り返る。	2h
9	情報技術の基礎②　セキュリティ対応と対策	1	iPadのアップデートをし、アプリのアップデートを確認する。	1h	自分のiPad内のアプリのセキュリティを見直す。	2h
10	プログラミングの基礎①　小学校プログラミング教育と授業での活用事例を知る■	3	参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1h	講義資料とその内容を確認し、プログラミング課題を解く。	2h
11	プログラミングの基礎②　小学校授業での活用事例を学び、体験する1■	3	前回配られた講義資料及び参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1h	講義資料とその内容を確認し、プログラミング教育についての考え方を整理しておく。	2h
12	プログラミングの基礎③　小学校での活用事例を学び、体験する2	3	前回配られた講義資料及び参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1h	講義資料とその内容を確認し、ビジュアルプログラミングについての技能・知識等を整理し、プログラミング課題に取り組む。	2h
13	プログラミングの基礎④ 小学校授業での活用事例を学び、体験する3	3	前回配られた講義資料及び参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1h	講義資料とその内容を確認し、プログラミング課題をすすめる。	2h
14	プログラミングの基礎⑤　小学校授業での活用事例を学び、体験する4	3	前回配られた講義資料及び参考文献「文部科学省・情報教育の推進」の「小学校プログラミング教育」にある文献を読む。	1h	講義資料とその内容を確認し、プログラミング課題をすすめる。	2h
15	まとめ	3	これまでの授業を理解し、内容を整理する。	1h	15回の授業の内容を整理する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・講義は教員と学生が双方向な意見のやり取りを行う。
・履修生によるプレゼンテーションを課すことが多々ある。
・第10～14回のプログラミングについては、教育現場に即してプログラミング教育の内容を扱うため、教材は適宜変更する。そのためテーマに若干の変更が起きる場合がある。
・本講義中に、小中高生向けのプログラミングスタッフや高崎市のICTボランティアの紹介を行う。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

レクリエーション論

英文名：Recreation Theory
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE005
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
0 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大家　千枝子

科目に関連した実務経験

レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成に従事（現在）。
（公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015年度より）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み（専門性）を理解する。支援の目的とそれを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。
②教員による講義がベースとなるが、グループワークによるテーマに沿った共同作業も予定している。「心を元気にする」ための理論をその実践へと結び付けるため、各グループによるレクリエーション活動を用いた短時間のレクリエーション支援を行い、「集団をリードする」、「コミュニケーションを促進する」、「楽しい空間をつくる」という感覚を養う。

到達目標

1.レクリエーション支援の目的と手段について、理解し、説明できる。■
2.レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることについて、理解できる。■
3.コミュニケーションの促進がレクリエーション支援の基盤であることを理解し、説明できる。■
4.授業の性質やグループ内での個人の役割について、理解し、行動することができる。
5.必要な資料や情報を収集し、意見をまとめ、期日を守って提出できる（C-learningも含む）。

使用教材

「楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法」、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,800円+税　ISBN978-4-931180-95-6

参考文献

「基本のアイスブレーキング・ゲーム」、公益財団法人日本レクリエーション協会、2,530円（税込）
ISBN978-4-931180-92-5　C2076

評価方法

授業の取り組み実践点30%、
課題点（小テスト、確認テスト、レク支援経験）70%

課題・評価に対するフィードバック方法

自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learningを使ってフィードバックする。また紙媒体の提出課題は、適宜返却を予定している。ただし最終日の確認テストは返却予定がないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める（視聴覚教材使用）■	1,2,3,4,5	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	レクリエーション支援の方法（アイスブレーキングのプログラムを体験する）■、グループわけ	1,2,3,4,5	自身がこれまで体験したレクリエーション活動について振り返る。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
3	レクリエーション概論（レクリエーションの主旨と手段を理解する）■、レク支援の説明と日程抽選	1,2,3,4,5	テキスト第1章（p.9～17）を読んでおくこと。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
4	楽しさと心の元気づくりの理論（楽しさをとおした心の元気づくりを理解する）①	1,2,3,4,5	テキスト第2章（p.19～32）を読んでおくこと。	0.5h	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。	0.5h
5	楽しさと心の元気づくりの理論（楽しさをとおした心の元気づくりを理解する）②	1,2,3,4,5	テキスト第2章（p.33～36）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
6	レクリエーション支援の理論（コミュニケーションと信頼関係づくりの理論）	1,2,3,4,5	テキスト第3章（p.37～43）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
7	レクリエーション支援の理論（良好な集団づくりの理論）	1,2,3,4,5	テキスト第3章（p.44～49）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
8	レクリエーション支援の理論（自主的、主体的に楽しむ力を高める理論）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.50～55）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	レクリエーション支援の方法（信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.57～65）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
10	レクリエーション支援の方法（ホスピタリティの体験的理解　その1・その）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.66～69）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
11	レクリエーション支援の方法（ハードル設定の習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
12	レクリエーション支援の方法（アレンジ方法の習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
13	レクリエーション支援の方法（CSSプロセスの習得）	1,2,3,4,5	テキスト第4章（p.70～82）を読んでおくこと。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
14	安全管理の方法■	1,2,3,4,5	これまでの自身のレク活動における安全管理について振り返る。	0.5h	授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h
15	授業で学んだことの整理・確認テスト（または課題）・目標到達度の確認	1,2,3,4,5	これまでの授業を振り返る。	0.5h	確認テストについて、授業でとったノートを読み直し、復習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

【単位修得に必要な時間について】
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
【履修条件】
・心を元気にする知識と技術を習得して人前に立つことを目指すため、積極的に参加する学生を求める。
・学内外のレクリエーション活動に関心をもち、問題意識をもつことや自らすすんで支援に関わる姿勢を求める。
【ルール】
レクリエーション論を学ぶうえで、信頼関係づくりの方法における「あたたかくもてなす意識と配慮」の観点より、次の行為は授業中にしないこと。①ガムを噛む、②授業と関係のないスマホ使用、③私語、わがまま、ふざけた態度をとる、④C-learning「出席管理」の不正行為（発覚時には厳正に対処する）
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

子どもと医療

英文名：Children and Health Care
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE006
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
5 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

丸山　健一

科目に関連した実務経験

群馬大学医学部小児科講師、群馬県立小児医療センター院長、群馬県赤十字血液センター所長などを歴任。医学博士、日本小児科学会専門医、日本腎臓学会指導医。現群馬県立小児医療センター顧問。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

子どもは、発熱やけいれん、けがなど突発的な症状を起こすことが多いので、子どもの特性を学ぶ。また、入院中の子どもやその家族への支援方法、疾病を持ちながら保育・教育生活を送っている子ども達が、より快適に過ごすことができるための方策を考えると共に、「命」について、「健康」について考える。
配布資料に基づいて講義を進めるが、適宜スライドやDVDを使用し進めていく。また医学用語が多いため、積極的に質問を促し、その都度回答し、受講者の理解度を図りながら進めていく。

到達目標

1.子どもに多い疾患とその対応について、基礎的な知識を得る。
2.医療を必要とする子どもやその家族の気持ちを理解し、支援方法を考えることができる。
3.「命」の大切さを考えることができる。
4.統計資料から現在の日本の子ども達の健康状態を読みとることができる。

使用教材

その都度配布する。

評価方法

授業参加度・学習態度70%、県立小児医療センター及び県立赤城特別支援学校小児医療センター校見学後のレポート15%、学期末レポート15%で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートの提出は必須とする。コメントを付ける場合もある。医学用語が多いため、積極的に質問を促し、その都度回答するように努める。

オフィスアワー

金曜日　12:30～13:00　14：30～15：00
9号館3階301研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス及び医療統計・保健水準について	1,2,3,4	シラバスの内容を読んで、講義の目標及び健康診断結果を確認する。我が国の保健水準についてのニュースに触れる。	1.5h	講義内容、到達目標、成績評価方法等を確認すると共に、予防接種について確認する。	1.5h
2	健康について、病院の仕組み、用語の解説	1,4	健康について考えると共に、病気になった時の状況を考える。	1.5h	配布資料を読み直し、再度健康について、受診について理解を深める。	1.5h
3	子どもの救急ってどんな時	1,2,4	子どもの救急についてのニュースに触れる。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
4	血液の基礎と輸血療法	1,2,4	健康について考えると共に、輸血を必要とする時の状況を考える。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
5	免疫とウイルス抗体価測定の意義	1,2,3,4	自分自身の予防接種歴や抗体価を調べておく。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
6	医療的ケア児について	1,2,3,4	医療的ケア児についてのニュースに触れる。	1.5h	配布資料を読み直し、子どもや保護者の気持ちを理解する。	1.5h
7	子どもに多い病気	1,4	子どもの頃に罹患した疾病を想い出す。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
8	子どもの薬	1,2,3	子どもの頃の服薬体験を想い出す。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
9	県立小児医療センター及び県立赤城特別支援学校小児医療センター校の見学	1,2,3	子どもを対象とした病院についての情報に触れる。	1.5h	担当者からの説明及び院内見学で得た知識をまとめる。	1.5h
10	県立小児医療センターに於ける病棟保育士の役割	1,2,3	県立小児医療センター見学について振り返る。	1.5h	講義内容と配布資料により、子どもに寄り添う保育者について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	子どものアレルギー疾患	1,2,3	アレルギー疾患についてのニュースに触れる。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
12	先天異常について	1,2,3	中学、高校時代の遺伝に関する知識を整理しておく。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
13	皮膚と運動器の疾患	1,2,3	自分自身の体験を想い出す。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
14	腎臓・泌尿器・消化器の疾患	1,2,3	学校検診について、自分自身の体験を想い出す。	1.5h	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5h
15	小児がん	1,2,3,4	小児がんに関するニュースに触れる。	1.5h	将来、保育者、教育者になった時、「命の大切さ」について理解を深めると共に、何らかの疾病を持ちながら保育や教育を受けている子ども達と保護者の気持ちとその対応について理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・県立小児医療センター等見学及び病棟保育士講義については、日程を変更することがある。また、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症が流行した場合には、中止することがある。
・予防接種の必要な学生は、授業開始前までに必ず済ませておくこと。
・県立小児医療センター等の見学日程は、11月中旬～12月初旬を予定しているため、インフルエンザの予防接種を受けておくこと。
■：すべての講義内容は実務経験に基づく。

印刷　閉じる

宗教と倫理

英文名：Religion and Ethics
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE007
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
1 専門的知識
0 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

出雲春明

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

講義中にアンケートを実施し、その結果と分析を共有する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

① 東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。なるべく平易な表現を用いて講義を行う。「宗教」は「非日常的なもの」として敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、しばしば漠然と過ごされている私たちの日常を省みる絶好の機会を提供してくれる。自分が普段どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。
② C-Learningの教材倉庫にアップした資料に基づいて講義を行い、毎回アンケートに意見を記述してもらう。また、定期的にドリルと小テストを実施して知識の定着を図る。新型コロナの感染状況によってはオンデマンド形式に移行する。

到達目標

1. 講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。
2. そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。

使用教材

C-Learningの教材倉庫に資料をアップする。

参考文献

関根正雄（訳）『旧約聖書 ヨブ記』、岩波文庫、1971年。
金子大栄『歎異抄』、岩波文庫、改版、1981年。

評価方法

授業への取り組み（資料の閲覧、アンケートの実施状況など）・・・30%
課題（小テスト、期末レポート）・・・70%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回、授業終了時に意見や質問などをC-Learning「アンケート」に記述してもらい、それらに対してコメントを返す。有意義な意見に関しても紹介の時間を設ける。

オフィスアワー

1号館511研究室
面談希望の場合はC-Learning「連絡・相談」あるいは下記アドレスまで。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス:宗教と文化、常識	1	シラバスやC-learningのニュース、予習資料を読み、授業のアウトラインや成績評価の方法について理解しておく。	1.5h	自分自身の内にある「思い込み」について考えてみる。	1.5h
2	『聖書』の思想：一神教の系譜	1,2	予習資料から一神教について知識を得ておく。	1.5h	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、それぞれの特徴について確認しておく。	1.5h
3	善人とは何か:『旧約聖書』「ヨブ記」より（1）「契約」について	1,2	予習資料から、「契約」について知識を得ておく。	1.5h	「旧約」、「新約」とは何か、「応報主義」とは何か理解する。	1.5h
4	善人とは何か 「ヨブ記」より（2）生誕の災い	1,2	予習資料から『ヨブ記』のプロローグを確認しておく。	1.5h	ヨブ記、ギリシア神話、仏教などにおけるペシミスティックな人間観を理解する。	1.5h
5	善人とは何か：「ヨブ記」より（3）自己の在り方を省みる	1,2	予習資料をもとに『ヨブ記』の登場人物の関係性について考えておく。	1.5h	自己と他者の間にある鏡像的な相互関係について理解する。	1.5h
6	善人とは何か：「ヨブ記」より（4）現代の事例から考える	1,2	予習資料からヨブと彼の友人たちの議論を確認しておく。	1.5h	自己批判の欠如がもたらす事態について歴史的事件を通じて理解する。	1.5h
7	善人とは何か：「ヨブ記」より（5）「懺悔」ということ	1,2	予習資料から『ヨブ記』エピローグについて確認しておく。	1.5h	聖書の思想における「懺悔」の位置づけについて理解する。	1.5h
8	旧約から新約へ：イエスの教え	1,2	予習資料よりイエスの教えについて知識を得ておく。	1.5h	イエスの教えが登場してくる背景とその意義について理解する。	1.5h
9	悪人とは何か：『歎異抄』より（1）『歎異抄』について	1,2	予習資料から『歎異抄』という書について知識を得ておく。	1.5h	『歎異抄』第三条の特異性について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	悪人とは何か：『歎異抄』より（2）罪の意識	1,2	予習資料から『歎異抄』第三条に関する様々な見解を確認しておく。	1.5h	親鸞の内面を支配していた深い罪の意識を理解する。	1.5h
11	悪人とは何か：『歎異抄』より（3）浄土思想の展開（1）	1,2	予習資料から親鸞の師である法然が登場してきた時代背景について知る。	1.5h	当時の人々の心に去来していた思いについて理解する。	1.5h
12	悪人とは何か：『歎異抄』より（4）浄土思想の展開（2）	1,2	予習資料から親鸞の生涯について知る。	1.5h	親鸞の罪の意識の由来について理解し、自らに引きつけて考える。	1.5h
13	悪人とは何か：『歎異抄』より（5）「悪人正機説」	1,2	予習資料とあわせてこれまでの議論を確認しておく。	1.5h	『歎異抄』第三条の悪人正機説の意味を理解する。	1.5h
14	悪人とは何か：『歎異抄』より（6）悪の不可避性とそれゆえの無力	1,2	予習資料をもとに親鸞における悪について自らに引きつけて考えておく。	1.5h	我々が気づかず捕らわれている自己中心的な考え方について理解する。	1.5h
15	総括：東西の宗教	1,2	聖書の思想と浄土思想の核心部分について確認しておく。	1.5h	東西の宗教、倫理思想の共通点について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・C-learningの「教材倉庫」「ドリル」「小テスト」「アンケート」「レポート」機能を活用する。毎回、授業日の前週木曜日に予習用の教材をアップするのであらかじめ目を通しておくこと。授業終了後は復習用の資料をアップするので、よく確認し、アンケートにコメントを記入すること。
・詳細な成績評価の方法や、期末レポートの課題や規定など連絡事項はC-learning「ニュース」に公開するので、各自でよく確認しておくこと。
・「自分ならどう考え、行動するか」を自らに問いかける姿勢を大切にしてほしい。

印刷　閉じる

人間行動学

英文名：Theory of Human Behavior
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE008
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
8 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
0 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

富田　純喜

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①人間は社会的な存在であり、日常場面では、様々なモノや情報とかかわりながら生活している。私たちは、個々の身体に備わった知識や技能を駆使しながら、それらに能動的にかかわり、適切に利用・使用していると考えがちである。しかし、このような理解では、私たちの日常的な行動を説明できないことがある。ときには、モノや情報が私たちの行動を導いたり、制約したりすることもある。なぜこのようなことが起こるのだろうか。本講義では、主に認知科学の知見をもとに、人間の行動について学んでいく。
②授業は主に講義形式で進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

1.人間の行動の特徴を客観的な視点から説明できる。
2.人間の行動を認知科学の知見に基づいて説明できる。
3.日常生活における様々な行動を1,2との関連から考察できる。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

授業内で適宜紹介する。

評価方法

レポート（60%）、授業内課題・参画度（40%）

課題・評価に対するフィードバック方法

試験前後に出題の意図等を説明する。

オフィスアワー

水曜5限、木曜5限（8号館406）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人間の行動を導くもの	1	日常生活における行動の特徴について考えてみる。	1.5h	人間の行動を分析対象とする学問分野および方法論について理解する。	1.5h
2	世論と統計	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	世論形成における統計の関わりを理解する。	1.5h
3	社会調査	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	社会調査の種類および方法、結果との向き合い方を理解する。	1.5h
4	情報の妥当性と信頼性	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	社会調査の方法や結果の妥当性と信頼性について理解する。	1.5h
5	データの誤解釈	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	データを誤って解釈してしまう心理について理解する。	1.5h
6	データ解釈の歪み	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	データの妥当性とデータがもたらす問題について理解する。	1.5h
7	信念と社会的承認	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	信念の形成過程と人々に共有される際の傾向について理解する。	1.5h
8	伝聞情報	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	伝聞（情報）の特徴と直面するパラドクスについて理解する。	1.5h
9	能力という概念	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	能力の文脈依存性とその不安定さについて理解する。	1.5h
10	知識の所在	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	知識の所在およびその曖昧さについて理解する。	1.5h
11	技能の向上	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	練習の過程で起きている現象について理解する。	1.5h
12	心の理解	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	他者の心を理解の不確実性について理解する。	1.5h
13	道具のデザイン	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	道具のデザインが人間の行動に与える影響について理解する。	1.5h
14	プランと状況的行為	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	プランが行動に与える影響および状況的行為について理解する。	1.5h
15	日常生活におけるエラー	1,2,3	授業で検討する課題に取り組む。	1.5h	エラーの形態と特徴を踏まえた対策について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷　閉じる

幼児音楽基礎Ⅰ

英文名：Basic Music Skills for Nursery Teachers Ⅰ
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE009
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

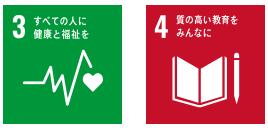
担当教員

岡本　拡子　　佐藤　和貴　　中村 郁野　　田中 悠一郎

科目に関連した実務経験

佐藤和貴：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）
中村郁野：音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務（経験）
田中悠一郎：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○		○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育士，幼稚園教諭および小学校教諭に必要な，音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には，音楽の基礎理論と技術，読譜力，ソルフェージュ力，及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については，テキストを使用して説明した後，毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については，個別の指導を行った後，毎回発表を行う時間を設ける。

到達目標

1．音符，リズムと拍，音階，調号，和声等，音楽に関する基礎知識について理解する。 ■
2．保育所，幼稚園，および小学校（主として低学年）で学ぶ歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。■
3．伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。 ■

使用教材

教材：井戸和秀編「こどものうた100」チャイルド社
教科書：石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー

参考文献

必要に応じてプリントを配布する

評価方法

定期試験において，筆記試験30%，実技試験30%，毎回の授業課題40%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回小テストを実施し，自己採点時に解説する。
毎回実技発表を行い，個々の課題について説明する。

オフィスアワー

岡本拡子：水曜日3限　金曜日2限
　研究室　8号館4階404
佐藤和貴：水曜日2限　木曜日3限
　研究室　8号館5階503
田中悠一郎・中村郁野
　授業開始前，終了後

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　音楽基礎知識に関する課題，実技発表	1,2	シラバスをよく読み，講義目標，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを理解しておく。	1h	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。	1h
2	楽譜の基本①　高音部譜表，音名 ■	1	教科書第1章「五線譜」，第2章「音部記号」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
3	歌唱教材の伴奏技法①「あさのうた」を教材として ■	2	「あさのうた」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
4	楽譜の基本②　音符と休符 ■	1	教科書第3章「音符と休符」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
5	歌唱教材の伴奏技法②「ゆうやけこやけ」を教材として ■	2	「ゆうやけこやけ」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
6	楽譜の基本③　拍子とリズム ■	1	教科書第4章「拍子とリズム」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
7	歌唱教材の伴奏技法③「うみ」を教材として ■	2	「うみ」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
8	楽譜の基本④　音階と調号 ■	1	教科書第6章「音階と調号」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	歌唱教材の伴奏技法④「めだかのがっこう」を教材として ■	2	「めだかのがっこう」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
10	歌唱教材の伴奏技法⑤「あめふりくまのこ」を教材として ■	2	「あめふりくまのこ」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
11	歌唱教材の伴奏技法⑥「やまのおんがくか」を教材として ■	2	「やまのおんがくか」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
12	歌唱教材の弾き歌い技法①「あさのうた」，「ゆうやけこやけ」を教材として ■	2,3	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
13	歌唱教材の弾き歌い技法②「うみ」，「めだかのがっこう」を教材として ■	2,3	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
14	歌唱教材の弾き歌い技法③「あめふりくまのこ」，「やまのおんがくか」を教材として ■	2,3	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
15	音楽の基礎知識をいかして，歌唱教材の弾き歌いをする。 ■	1,2,3	すべての課題曲を練習しておく。	1h	歌唱教材の弾き歌い，伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

選択科目ではあるが，音楽の基礎知識に不安のある学生，音楽初学者は履修することが望ましい。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

初等音楽基礎Ⅰ

英文名：Basic Music Skills for Elementary School Teachers I
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE010
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

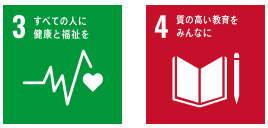
担当教員

岡本　拡子　　佐藤　和貴　　中村 郁野　　田中 悠一郎

科目に関連した実務経験

佐藤和貴：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）
中村郁野：音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務（経験）
田中悠一郎：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○		○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校教諭に必要な，音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には，音楽の基礎理論と技術，読譜力，ソルフェージュ力，及び歌唱技法，ピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。
授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については，テキストを使用して説明した後，毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については，個別の指導を行った後，毎回発表を行う時間を設ける。

到達目標

1．音符，リズムと拍，音階，調号，和声等，音楽に関する基礎知識について理解する。 ■
2．伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。 ■
3．小学校で学ぶ音楽教材（おもに低学年）の歌唱表現技法を習得する。 ■

使用教材

教材：小学校音楽の教科書（1年生～3年生） 教育芸術社
教科書：石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー

参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

評価方法

定期試験において，筆記試験30%，実技試験30%，毎回の授業課題40%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回小テストを実施し，自己採点時に解説する。
毎回実技発表を行い，個々の課題について説明する。

オフィスアワー

岡本拡子：水曜日3限　金曜日2限
　研究室　8号館4階404
佐藤和貴：水曜日2限　木曜日3限
　研究室　8号館5階503
田中悠一郎・中村郁野
　授業開始前，終了後

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題，実技発表 ■	1,2,3	シラバスをよく読み，講義目標，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを理解しておく。	1h	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。	1h
2	楽譜の基本①　高音部譜表，音名 ■	1	教科書第1章「五線譜」，第2章「音部記号」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
3	歌唱教材の伴奏技法①　「かたつむり」を教材として ■	2	「かたつむり」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
4	楽譜の基本②　音符と休符 ■	1	教科書第3章「音符と休符」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
5	歌唱教材の伴奏技法②　「はるがきた」を教材として ■	2	「はるがきた」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
6	楽譜の基本③　拍子とリズム ■	1	教科書第4章「拍子とリズム」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
7	歌唱教材の伴奏技法③　「うみ」を教材として ■	2	「うみ」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
8	楽譜の基本④　音階と調号 ■	1	教科書第6章「音階と調号」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	歌唱教材の歌唱技法① 「ひらいたひらいた」を教材として ■	3	「ひらいたひらいた」の楽譜を読み，歌詞を理解して歌えるように練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
10	歌唱教材の歌唱技法② 「おぼろ月夜」を教材として ■	3	「おぼろ月夜」の楽譜を読み，歌詞を理解して歌えるように練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
11	歌唱教材の歌唱技法⑥ 「ふるさと」を教材として ■	3	「ふるさと」の楽譜を読み，歌詞を理解して歌えるように練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
12	歌唱教材の弾き歌い技法① 「かたつむり」を教材として ■	2	「かたつむり」の弾き歌いの技法を練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
13	歌唱教材の弾き歌い技法② 「はるがきた」を教材として ■	2	「はるがきた」の弾き歌いの技法を練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
14	歌唱教材の弾き歌い技法③ 「うみ」を教材として ■	2	「うみ」の弾き歌いの技法を練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
15	音楽の基礎知識をいかして，歌唱教材の弾き歌いをする。 ■	1,2,3	すべての課題曲を練習しておく。	1h	歌唱教材の弾き歌い，伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

選択科目ではあるが，音楽の基礎知識に不安のある学生，音楽初学者は履修することが望ましい。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

幼児音楽基礎Ⅱ

英文名：Basic Music Skills for Nursery Teachers Ⅱ
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE011
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

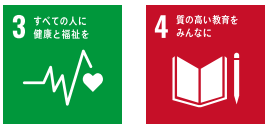
担当教員

岡本　拡子　　佐藤　和貴　　中村 郁野　　田中 悠一郎

科目に関連した実務経験

佐藤和貴：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）
中村郁野：音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務（経験）
田中悠一郎：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○		○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

音楽基礎Ⅰに引き続き，保育士，幼稚園教諭および小学校教諭に必要な，音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には，音楽の基礎理論と技術，読譜力，ソルフェージュ力，及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。
授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については，テキストを使用して説明した後，毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については，個別の指導を行った後，毎回発表を行う時間を設ける。

到達目標

1．音程，音階，調号，和声・コード，および音楽記号と用語等，音楽に関する基礎知識について理解する。■
2．保育所，幼稚園，および小学校（主として低学年）で学ぶ歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。■
3．伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。 ■

使用教材

教材：井戸和秀編「こどものうた100」チャイルド社
教科書：石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー

参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

評価方法

定期試験において，筆記試験30%，実技試験30%，毎回の授業課題40%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回小テストを実施し，自己採点時に解説する。
毎回実技発表を行い，個々の課題について説明する。

オフィスアワー

岡本拡子：水曜日3限　金曜日2限
　研究室　8号館4階404
佐藤和貴：火曜日2限　火曜日5限
　研究室　8号館5階503
田中悠一郎・中村郁野
　授業開始前，終了後

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　音楽基礎知識に関する課題，実技発表 ■	1,2	シラバスをよく読み，講義目標，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを理解しておく。	1h	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。	1h
2	楽譜の基本①　音階と調号 ■	1	教科書第6章「音階と調号」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
3	歌唱教材の伴奏技法①「どんぐりころころ」を教材として ■	2	「どんぐりころころ」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
4	楽譜の基本②　音程 ■	1	教科書第5章「音程」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
5	歌唱教材の伴奏技法②「おかえりのうた」を教材として ■	2	「おかえりのうた」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
6	楽譜の基本③　和声・コード ■	1	教科書第7章「和声」および巻末のコード表を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
7	歌唱教材の伴奏技法③「まつぼっくり」を教材として ■	2	「まつぼっくり」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
8	楽譜の基本④　音楽記号と用語 ■	1	教科書第9章「音楽記号と用語」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	歌唱教材の伴奏技法④「とけいのうた」を教材として ■	2	「とけいのうた」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
10	歌唱教材の伴奏技法⑤「とんぼのめがね」を教材として ■	2	「とんぼのめがね」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
11	歌唱教材の伴奏技法⑥「まっかな秋」を教材として ■	2	「まっかな秋」の楽譜を読み，右手，左手それぞれ練習しておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
12	歌唱教材の弾き歌い技法①「まつぼっくり」，「おかえりのうた」を教材として ■	2,3	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
13	歌唱教材の弾き歌い技法②「どんぐりころころ」，「とけいのうた」を教材として ■	2,3	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
14	歌唱教材の弾き歌い技法③「とんぼのめがね」，「まっかな秋」を教材として ■	2,3	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
15	音楽の基礎知識をいかして，歌唱教材の弾き歌いをする。 ■	1,2,3	すべての課題曲を練習しておく。	1h	歌唱教材の弾き歌い，伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

選択科目ではあるが，音楽の基礎知識に不安のある学生，音楽初学者は履修することが望ましい。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

初等音楽基礎Ⅱ

英文名：Basic Music Skills for Elementary School Teachers Ⅱ
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE012
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本　拡子　　佐藤　和貴　　中村 郁野　　田中 悠一郎

科目に関連した実務経験

佐藤和貴：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）
中村郁野：音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務（経験）
田中悠一郎：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○		○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校教諭に必要な，音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には，音楽の基礎理論と技術，読譜力，ソルフェージュ力，及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。
授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については，テキストを使用して説明した後，毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については，個別の指導を行った後，毎回発表を行う時間を設ける。

到達目標

1．音程，音階，調号，和声・コード，および音楽記号と用語等，音楽に関する基礎知識について理解する。 ■
2．小学校で学ぶ音楽教材を伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。 ■
3．小学校で学ぶ音楽教材の歌唱表現技法を習得する。 ■
4．小学校で学ぶ音楽教材のリコーダーや鍵盤ハーモニカでの演奏技法を習得する。 ■

使用教材

教材：小学校音楽の教科書（1年生～3年生） 教育芸術社
教科書：石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー

参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

評価方法

定期試験において，筆記試験30%，実技試験30%，毎回の授業課題40%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回小テストを実施し，自己採点時に解説する。
毎回実技発表を行い，個々の課題について説明する。

オフィスアワー

岡本拡子：水曜日3限　金曜日2限
　研究室　8号館4階404
佐藤和貴：火曜日2限　火曜日5限
　研究室　8号館5階503
田中悠一郎・中村郁野
　授業開始前，終了後

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　音楽基礎知識に関する課題，実技発表 ■	1,2	シラバスをよく読み，講義目標，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを理解しておく。	1h	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。	1h
2	楽譜の基本①　音階と調号 ■	1	教科書第6章「音階と調号」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
3	弾き歌いの演奏技法①「虫の声」を教材として ■	2	「虫の声」の楽譜を読み，弾き歌いの練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
4	楽譜の基本②　音程 ■	1	教科書第5章「音程」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
5	弾き歌いの演奏技法②「ゆうやけこやけ」を教材として ■	2	「ゆうやけこやけ」の楽譜を読み，弾き歌いの練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
6	楽譜の基本③　和声・コード ■	1	教科書第7章「和声」および巻末のコード表を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h
7	弾き歌いの演奏技法③「日のまる」を教材として ■	2	「日のまる」の楽譜を読み，弾き歌いの練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
8	楽譜の基本④　音楽記号と用語 ■	1	教科書第9章「音楽記号と用語」を読んでおく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら，理解を深めておく。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	歌唱教材の演奏技法①「茶つみ」を教材として ■	3	「茶つみ」の楽譜を読み，歌詞の意味を理解して歌えるようにしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
10	歌唱教材の演奏技法②「もみじ」を教材として ■	3	「もみじ」の楽譜を読み，歌詞の意味を理解して歌えるようにしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
11	歌唱教材の演奏技法③「冬景色」を教材として ■	3	「冬景色」の楽譜を読み，歌詞の意味を理解して歌えるようにしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
12	リコーダーおよび鍵盤ハーモニカの演奏技法①「赤い屋根の家」を教材として ■	4	「赤い屋根の家」の楽譜を読み，階名唱の練習，および楽器での演奏の練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
13	リコーダーおよび鍵盤ハーモニカの演奏技法②「さんぽ」を教材として ■	4	「さんぽ」の楽譜を読み，階名唱の練習，および楽器での演奏の練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
14	リコーダーおよび鍵盤ハーモニカの演奏技法③合奏の練習 ■	4	課題の楽譜を読み，階名唱の練習，および楽器での演奏の練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
15	音楽の基礎知識をいかして，歌唱教材の弾き歌いをする。 ■	1,2,3	すべての課題曲を練習しておく。	1h	歌唱教材の弾き歌い，伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

選択科目ではあるが，音楽の基礎知識に不安のある学生，音楽初学者は履修することが望ましい。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

ぐんま郷土フィールドワーク

英文名：Gunma Local Fieldwork
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE013
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

栗原幸正・中村秀樹

科目に関連した実務経験

栗原幸正：小学校教員（社会科）校長経験者
中村秀樹：小学校教員（社会科）校長経験者

履修を必須とする資格

教員や保育士、また社会教育を目指す学生に受講して欲しい授業です。

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○		○			

「その他」のアクティブラーニング実施方法

群馬県における歴史・自然等で特筆すべき場所へのフィールドワーク。フィールドワークに係るアクティブな調査活動を含む。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
　教育や保育、また社会教育の場では、フィールドワークという取り組みは不可欠です。学習を深めたり、新たな発見を促したり、また人間関係をよりよく育むうえでも、フィールドワークを行う意義は非常に大きいと考えます。また、質の高いフィールドワークを実践するためには、地域を知ることは何よりも大切な事です。そこで、本講義では、教育や保育の現場を目指す学生を対象に、フィールドワーク実施に向けての、事前交渉や安全確保・引率方法などの基本的技術を習得し、フィールドワークへの参加、フィールドワークのプランニング等を通して、皆様の郷土のすばらしさを再発見していただくのが目標です。
②講義の実施方法
　本講義は3つのステージから構成されます。第1ステージでは、フィールドワークの基本的技術を、講義と実際にフィールドワークに参加することで体得していただきます。第2ステージでは、フィールドワークを計画立案・運営する方法等を学んでいきます。そして第3ステージでは参加学生自らがフィールドワークを創出する活動をとおして、フィールドワークの意義を確認し、自らの郷土を見つめなおしていただく事になります。

到達目標

1.フィールドワークについて、具体的な事例を通して理解し、基礎的知識や技術を習得することができる■
2.フィールドワークの現代的課題について討議し、自分の考えを説明することができる。■
3.フィールドワークづくりに必要な郷土の歴史や自然について修得し、活用することができる。

使用教材

講義中に地図やコンパスなどが必要な場合は、講義中に指示いたします。

参考文献

群馬県に居住の学生は、上毛かるたに関する文献やSMSに目を通しておいてください。

評価方法

授業後の簡易レポート（30%）　ステージごとの課題やレポート（40%）　　パフォーマンス評価（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中やCラーニングで随時評価等をフィードバックする。

オフィスアワー

栗原：火曜日2限・金曜日2限　学部長室
中村：質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義ガイダンス フィールドワークの意義について（栗原）	1	自分の小学校・中学校でどのようなフィールドワークが行われていたかを想起しておく。	1,5	本講義の目的を確認し、本講義に何が必要かを考え準備する。	1,5
2	フィールドワークの実際 神奈川県小学校の実践（栗原）■	1・2	神奈川県の地図や情報を集め、どのような特徴がある県なのかを把握しておく。	1,5	郷土の特徴とフィールドワークがどのような関係で成り立っているかを検討し、ノート等に整理しておく。	1,5
3	フィールドワークの実際 群馬県小学校の実践（中村）■	1・2	群馬県の地図や情報を集め、どのような特徴がある県なのかを把握しておく。	1,5	郷土の特徴とフィールドワークがどのような関係で成り立っているかを検討し、ノート等に整理しておく。	1,5
4	フィールドワーク実習① 大学周辺のフィールドーワー	2・3	フィールドワーク場所をHP等でしれべてお	1,5	フィールドワークで気づいたことを学べたことをノートにまと	1,5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ク（古代編）（栗原・中村）		く。		め、プレゼンできるようにしておく。	
5	フィールドワーク実習② 大学周辺のフィールドワーク（古代編）（栗原・中村）	2・3	フィールドワーク場所をHP等でしれべておく。	1,5	フィールドワークで気づいたことを学べたことをノートにまとめ、プレゼンできるようにしておく。	1,5
6	フィールドワークの現代的課題の検討（フィールドワークを経験した課題の整理）（栗原・中村）■	2	フィールドワークの実際から気づいた課題についてノートにまとめて置く。	1,5	協議した事を元にして、効果的で意味あるフィールドワークにするための方策を検討しておく。	1,5
7	フィールドワークづくりの視点について検討する。（栗原・中村）	1・2	前時の内容を元に、フィールドワークの効果的な実施方法についてまとめ、発表できるようにしておく。	1,5	フィールドワーク参加の視点を明確にし、次回のフィールドワークへのかかわり方を模索する。	1,5
8	講義を元にして、目標を明確にしたフィールドワークに参加する。（群馬県内で近代をテーマに3コマの授業を用いて実施）（栗原・中村）	1・2	フィールドワークの目的を再確認し、効果的な参加方法を検討しておく。	1,5	フィールドワークで気づいたことを学べたことをノートにまとめ、プレゼンできるようにしておく。	1,5
9	講義を元にして、目標を明確にしたフィールドワークに参加する。（群馬県内で近代をテーマに3コマの授業を用いて実施）（栗原・中村）	1・2	フィールドワークの目的を再確認し、効果的な参加方法を検討しておく。	1,5	フィールドワークで気づいたことを学べたことをノートにまとめ、プレゼンできるようにしておく。	1,5
10	講義を元にして、目標を明確にしたフィールドワークに参加する。（群馬県内で近代をテーマに3コマの授業を用いて実施）	1・2	フィールドワークの目的を再確認し、効果的な参加方法を検討しておく。	1,5	フィールドワークで気づいたことを学べたことをノートにまとめ、プレゼンできるようにしておく。	1,5
11	フィールドワークを郷土と関連付けて構築するための方法・条件を検討する。	1・2・3	郷土のフィールドワーク可能な対象を調べておく。	1,5	フィールドワーク可能な馬車やコースを選定し、それに関する情報を収集する。	1,5
12	フィールドワークのモデルプランを構築する。（現地調査を含む）	1・2・3	現地調査の準備を行う。	1,5	交流会に向けて、質の高いフィールドワークの企画を構築し、パワーポイントや紙媒体を用いて、自らの企画の秀逸さをアピールできる準備を行う。	1,5
13	フィールドワークのモデルプランを構築する。（現地調査を含む）	1・2・3	現地調査の準備を行う。	1,5	交流会に向けて、質の高いフィールドワークの企画を構築し、パワーポイントや紙媒体を用いて、自らの企画の秀逸さをアピールできる準備を行う。	1,5
14	フィールドワークモデル交流会。	1・2・3	交流会におけるプレゼンの準備を行っておく。	1,5	交流会に向けて、質の高いフィールドワークの企画を構築し、パワーポイントや紙媒体を用いて、自らの企画の秀逸さをアピールできる準備を行う。	1,5
15	郷土とフィールドワークの関係について考える。（期末試験）■	3	交流会におけるプレゼンの準備を行っておく。	1,5	本講義で習得できた知識や技術をまとめ、フィールドワーク企	1,5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					画の際のマニュアルを形として残しておく。	

合計時間（予習・復習）

45時間

備考

・記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

自然科学演習

英文名：Natural Science Exercises
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE014
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪

科目に関連した実務経験

教諭（理科）として高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：なし

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○	○	○	○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①群馬の保育園，こども園，幼稚園，小学校に勤務する上で自然体験の経験は重要である。近年は，上毛かるたに取り上げられているような身近な事物でも，実際に赴いて見学したり，詳しく観察したり，科学的に考察する場面は本当に少なくなってきている。本講義では，自然科学の基本概念と実践的なスキルを習得することを目的とし，講義と実験を通じて，科学的な思考方法や問題解決能力を養うことを目標としている。
②本講義では，子どもを対象とした実験講座を1人1つを企画するための講義演習を行う。夏休みや後期になってしまうが，その企画した実験を学内行事（理科スクールや学園祭（藤龍祭））で実際行ってみる。また，実際に現地に赴き自然体験活動を行う（土日祝祭日に5コマ分）。現職教員による指導をお願いすることもある。

到達目標

1.自然科学の基本概念，科学的な実験方法，観察方法を習得する。■
2.子供向けの実験教室を企画することができる。■
3.子供向けの野外実習を企画することができる。■

使用教材

小学校学習指導要領解説理科編，小学校理科教科書，自作プリント等

参考文献

授業において紹介。

評価方法

実験教室の企画レポートと実践50%，授業への参加度，態度，積極性等20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにおける修正すべき点を示し，再レポートを促す。
実験技術に関して修正すべき点を指摘し，改善のアドバイスを受けることができる。

オフィスアワー

水曜3限、金曜2限
（9号館4階411研究室）

授業計画表

野外実習の候補（半日なら3コマ分，1日なら5コマ分を使う。）
・尾瀬
・日光植物園
・足尾銅山
・渡良瀬遊水地，多々良沼（野鳥や植物の観察）
・ぐんま天文台
・赤城山山頂
・野反湖
・八ッ場ダム
・玉原高原と片品川河岸段丘
・自然史博物館
・ぐんまの森（どんぐり拾い）
・下仁田ジオパーク
・昆虫の森
・サファリパーク，富岡製糸場
・河原の石の調査
・群馬の城を科学する
・榛名山山頂
・浅間山で遷移と噴火
・桐生が丘動物園
・沢で遊ぶ（桐生川源流）
・吉井の鏑川で地層観察と化石採集
・谷川岳で雪や水の働きを実体験する
・プラナリアの採集と観察
・チャツボミゴケと草津温泉
・植物標本づくり
・群馬県内の大木をめぐる
・自然観察の森

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・野外観察に関しての講義■	1,2,3	シラバスを読んでおく。	0.5 h	野外実習の候補から，実習したい場所を調べる（どんな体験ができるか）。	2.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	実験教室体験・野外実習の場所のプレゼン■	1,2,3	野外実習案発表の資料を作成。	1.5 h	実験教室体験を通じて，どんな実験教室を企画できるか考える。	1.5 h
3	安全指導（実験教室・野外実習）■	1,2,3	企画案発表の資料を作成。	1.5 h	実験におけるヒヤリ体験及び子供へ安全に対する配慮事項をまとめる。	1.5 h
4	実験教室予備実験１	1,2	実験教室の実験の準備を行う。	0.5 h	実験結果をまとめる。改善方法を考える。	2.5 h
5	実験教室予備実験２	1,2	実験教室の実験の準備を行う。	0.5 h	実験結果をまとめる。改善方法を考える。	2.5 h
6	実験教室予備実験３	1,2	実験教室の実験の準備を行う。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
7	実験教室実験発表と体験１	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
8	実験教室実験発表と体験２	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
9	野外実習の準備１（野外実習のしおりの作成）■	1,3	野外実習で体験できることをを調べておく。	2.5 h	作成したものを読み返して，足りないところを修正する。	0.5 h
10	野外実習の準備２（野外実習のしおりの作成）■	1,3	野外実習のしおり作成の準備を行う。	2.5 h	作成したものを読み返して，足りないところを修正する。	0.5 h
11	野外実習１（候補先から選択）■	1,3	野外実習のしおりを読んでおく。	0.5 h	野外実習のレポートを書く。	2.5 h
12	野外実習２（候補先から選択）■	1,3	野外実習のしおりを読んでおく。	0.5 h	野外実習のレポートを書く。	2.5 h
13	野外実習３（候補先から選択）■	1,3	野外実習のしおりを読んでおく。	0.5 h	野外実習のレポートを書く。	2.5 h
14	野外実習４（候補先から選択）■	1,3	野外実習のしおりを読んでおく。	0.5 h	野外実習のレポートを書く。	2.5 h
15	野外実習５（候補先から選択）■	1,3	野外実習のしおりを読んでおく。	0.5 h	野外実習のレポートを書く。	2.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。土日祝祭日にフィールドに出るので，授業時間は柔軟に対応する。

印刷 閉じる

算数基礎

英文名：Fundamentals of Elementary Mathematics
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE015
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

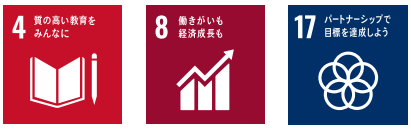
担当教員

大橋　博

科目に関連した実務経験

小学校教諭として新潟県内の公立小学校に26年間勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①1年生から6年生までの内容を順に学びながら、現行の学習指導要領における5つの学習内容領域に基づき、各学年で扱う重要な数学的概念や計算方法、図形の性質などについて理解を深める。
②典型的な単元導入問題、応用問題、児童がつまずきやすい問題など、様々な問題を実際に解きながら算数のおもしろさや指導の仕方について考察していく。

到達目標

1.小学校算数科の各学年における基礎的な学習内容を、5つの領域に基づいて理解し、説明できる
2.学年間のつながりを意識しながら、算数の基本的な概念や原理を理解できる
3.各学年の児童の発達段階に応じた教材の特性を理解できる■
4.算数科の系統性を踏まえた教材研究の基礎を身につける■

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　日本文教出版　224円

評価方法

授業への取り組み具合（振り返りなど30%）、ミニテスト（30%）、期末レポート(40%)

課題・評価に対するフィードバック方法

・振り返りの提出をした場合は、全体へのフィードバックを授業内で行う。ミニテストは提出後解答がわかるような方法で実施する。

オフィスアワー

月曜、火曜1限。授業時間外の質問はメールにて受付。（9号館3階302）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,2,3,4	シラバスおよび参考文献を読んで本講および算数科という教科の概略について知るとともに、専門用語について確認をしておく。	1h	講義内容、到達目標、評価方法などについて確認する。	2h
2	1年生の算数①数と計算■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第1学年の目標及び内容」（P76～P101）に目を通し、概要を理解する。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
3	1年生の算数②図形・測定・データ■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第1学年の目標及び内容」（P76～P101）を読み、理解困難なところをチェックする。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
4	2年生の算数①数と計算■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第2学年の目標及び内容」（P102～P133）に目を通し、概要を理解する。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
5	2年生の算数②図形・測定・データ■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第2学年の目標及び内容」（P102～P133）を読み、理解困難なところをチェックする。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
6	3年生の算数①数と計算■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第3学年の目標及び内容」（P134～P178）に目を通し、概要を理解する。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
7	3年生の算数②図形・測定・データ■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第3学年の目標及び内容」（P134～P178）を読み、理解困難なところをチェックする。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
8	4年生の算数①数と計算・変化と関係■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第4学年の目標及び内容」（P179～P231）に目を通し、概要を理解する。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	4年生の算数②図形・データ■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第4学年の目標及び内容」（P179～P231）を読み、理解困難なところをチェックする。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
10	5年生の算数①数と計算・変化と関係■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第5学年の目標及び内容」（P232～P283）に目を通し、概要を理解する。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
11	5年生の算数②図形・データ■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第5学年の目標及び内容」（P232～P283）を読み、理解困難なところをチェックする。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
12	6年生の算数①数と計算・変化と関係■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第6学年の目標及び内容」（P284～P321）に目を通し、概要を理解する。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
13	6年生の算数②図形・データ■	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「第6学年の目標及び内容」（P284～P321）を読み、理解困難なところをチェックする。	2h	講義内容を振り返り、整理・まとめる。	1h
14	領域間のつながり	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「指導計画の作成と内容の取り扱い」（P322～P338）に目を通し、概要を理解する。	2h	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「指導計画の作成と内容の取り扱い」（P322～P338）に目を通し、概要を理解する。	1h
15	まとめ	1,2,3,4	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「指導計画の作成と内容の取り扱い」（P322～P338）を読み、理解困難なところをチェックする。	2h	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　の「指導計画の作成と内容の取り扱い」（P322～P338）を読み、理解困難なところをチェックする。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・小学校学習指導要領解説算数編については、各自で文部科学省ホームページにある「小学校学習指導要領解説算数編」の指定箇所を十分に読むこと。
・オンラインへの変更時も基本的に、記載の内容で行う。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

手書き文字の表現と文化

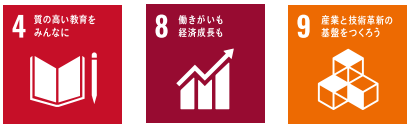
英文名：Expression and Culture of Handwriting
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE016
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
0 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

菅野　陽太郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
書写技能を向上させるとともに、文字文化への関心を高め、学生生活や社会生活において手書きを有効に活用することができるようにする。
②講義の実施方法
前半は、小学校及び中学校の国語科書写に相当する学習をおこない、硬筆の書写技能の向上を目指す。後半は、それまでに学習した内容や成果を生かしながら、日常生活への応用を想定した活動をおこなう。

到達目標

1．日本語表記に用いる文字の歴史やその特徴を理解することができる。
2．平仮名・片仮名・楷書・行書の特徴や書き方を理解し、自身の書写技能を向上させることができる。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

『国語科書写の理論と実践』，全国大学書写書道教育学会，萱原書房，2020，1000円
『書の古典と理論　改訂版』，全国大学書道学会，光村図書，2020，2000円

評価方法

各回の課題（50%），授業内の成果物（50%）

課題・評価に対するフィードバック方法

一部の課題や成果物にコメントを付して返却する。

オフィスアワー

水曜2限・木曜2限（8号館506研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	2	シラバスを確認し、授業計画の概要を理解する。	0.5h	課題に取り組み、自身の書写技能について省みる。	0.5h
2	言語文化と文字文化、日本語表記における文字の歴史	1	配布資料を読む	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
3	字体と字形	1,2	配布資料を読む	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
4	筆記具の持ち方や姿勢など	2	配布資料を読む	0.5h	授業内容を日常生活で応用する。	0.5h
5	平仮名	2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
6	片仮名	2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
7	楷書①特徴と基本的な点画など	2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
8	楷書②点画の長短や方向、交わり方など	2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
9	楷書③文字の組み立て方	2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
10	行書①特徴	2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
11	行書②点画の丸み、方向や形の変化	2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
12	行書③点画の連続や省略、筆順の変化など	2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
13	日常生活への応用①はがき・手紙など	1,2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
14	日常生活への応用②記録・メモなど	1,2	配布資料を読み、練習する。	0.5h	課題に取り組み、提出する。	0.5h
15	日常生活への応用③手書きの良さを生かす	1,2	配布資料を読み、自身の課題を決める。	0.5h	これまでの授業内容を振り返り、考えをまとめる。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

・Bまたは2Bの鉛筆を用意すること。
・第4回までに水書用筆等の筆記具を準備すること。詳細は初回にて説明する。

印刷 閉じる

よりよく生きるための食育

英文名：Shokuiku for Better Living
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE017
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
1 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大塚　恵美子

科目に関連した実務経験

非常勤管理栄養士として小児科医院に勤務。保健所保健衛生事業（赤ちゃん学級、乳幼児健診）における栄養、食生活相談等担当(経験)

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①私たちを取り巻く食環境は日々変化して、多様化している。この授業では、食育の基本概念とウェルビーイング（心身の健康と幸福）との関連性について理解を深め、栄養学、食文化、持続可能な食生活について知識の習得を目指す。また、健康的で栄養バランスのとれた生活習慣を構築する能力を養い、個々の健康だけでなく、地域社会や地球環境に対する影響についても学修することを目標とする。
②講義は、配布資料をもとに講義形式の他、グループワーク等の方法を用いて進める。

到達目標

1.食の基礎知識と食育の基礎について理解できる。
2.栄養素についての知識の習得と栄養バランスの重要性を理解できる。
3.日本および世界の伝統的な食文化や食習慣について理解できる。
4.授業で学修したことを発展させて、より良く生きるために実生活に活かすことができる。

使用教材

毎回、資料を配付する。

評価方法

授業態度と参加意欲（20%）、授業内で取り組む課題（30%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内で提出された課題やレポートにコメントを付し返却、解説をする。

オフィスアワー

水曜日3,4時限。メール対応可能。（研究室：8号館4階407）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　食育の概要について■	1	シラバスの内容を読んで，講義の目標等を理解する。	0.35h	講義内容、講義目標、到達目標、学位授与方針、評価方法などを確認する。	0.4h
2	食の基礎知識①食育とサステナビリティ■	1	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	食育と持続可能性について、様々な視点から考える。	0.4h
3	食の基礎知識②日本の食育推進施策：食育基本法	1	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	食育基本法の内容について理解する。食育推進施策について理解する。	0.4h
4	食の基礎知識③日本の食育の歴史	1	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	食育の歴史について学び、現在の食育の在り方について考える。	0.4h
5	栄養に関する基礎知識①栄養素の種類と働き■	2	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	栄養に関する知識を習得する。	0.4h
6	栄養に関する基礎知識②栄養バランス：食事バランスガイド■	2	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	食事バランスガイドの概要を理科して、自身の食生活について省みる。	0.4h
7	食に関する情報ーフードファディズム	1,2	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	フードファディズムの定義を理解して、消費者の正しい理解の必要性について考える。	0.4h
8	日本の伝統的な食文化①和食■	3	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	日本人の伝統的な食文化について、和食の特徴を理解する。	0.4h
9	日本の伝統的な食文化①郷土料理■	3	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	日本人の伝統的な食文化について、郷土料理の特徴と種類を理解する。	0.4h
10	日本の伝統的な食文化③行事食■	3	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	日本人の伝統的な食文化について、行事食の特徴と意義を理解する。	0.4h
11	世界の食育①栄養問題	3	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	世界の栄養問題について理解する。	0.4h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	世界の食育②フードガイド	3	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	世界の栄養教材について、その特徴と内容を理解する。	0.4h
13	食の安全と安心	1,2,3	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	食の安全と安心の違いについて理解する。	0.4h
14	おいしさとは？■	1,2,3,4	配布した資料を熟読する。必要であれば、参考資料にも目を通す。	0.35h	食の好き嫌いやおいしさの要因について理解する。	0.4h
15	振り返りとまとめ	1,2,3,4	今までの講義内容や資料を見返して整理する。	0.35h	より良く生きるために必要な生活習慣について考える。	0.4h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

・本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『食・農健康学コース』の対象科目である。
・副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（Ｎ）」となり、ＧＰＡの算出や卒業必要単位の対象外となる。
成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。
また、履修登録時にＣＡＰのカウントには含めない。
・■：実務経験に基づく内容を示す。
・グループワークを行うため、積極的に参加する学生を求める。
・受講生の人数によって、講義内容が変更になる場合がある。

印刷　閉じる

哲学する教育の歩み

英文名：Philosophizing about the Progress of Education
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE018
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

北村　陽

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

「超スマート社会」の到来に向け、今日も教育の大きな変革は進行している。そうした目まぐるしく変化する現実を前に、「教育はどうあるべきか？」という本質的な問題を見失ってしまいそうになることがあるのではなかろうか。このような状況においてこそ、教育の根本的な在り方を問い直していくことが重要である。教育を取り巻く諸問題の解決策を見いだすことは容易ではないが、今置かれている状況を確かめ、進むべき方向を探し当てるための羅針盤として、哲学が必要になることは疑い得ない。さらに、不断に変化し続ける現実の世界においては、先哲の英知に頼るだけではなく、我々自身「哲学すること」が、もっと言うならば「哲学し続けること」が求められる。そこでこの科目では、各回のテーマをもとに「哲学すること」・「哲学し続けること」の意義を紐解き、受講者とともに検討を加えていきたい。
受講者には、各回、担当教員の解説内容から学ぶだけではなく、学んだことや調べた事柄に対する自分自身の考えや意見をリアクションペーパー上で活字化し、まとめあげることを通じて理解の深化を期待する。また、ディスカッション等の機会を設定し、対話を重んじた授業展開も試みたい。

到達目標

1.各回のテーマと対峙し、その都度立ち止まって自身の思考を深め、豊かな人間性と教養を身につけることができる。
2.哲学し続ける教師・学び続ける教師になるため、対話や諸課題に対して自身の見解を踏まえ、自律的・意欲的に臨むことができる。

使用教材

『《ポイント・図解》ひと目でわかる！哲学する教育原理』（伊藤潔志編著、教育情報出版、2023年、2,497円（税込））

参考文献

文献等は授業内で適宜紹介する。また、担当教員が作成した資料を配布することがある。

評価方法

期末テスト50%、リアクションペーパー40%（1回目が2%、2回目～13回目が各3%、14回目～15回目が各1%）、科目に関係した課題10%により、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

試験前後に出題の意図などを説明する。また、課題における受講者の解答（回答）に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。

オフィスアワー

月曜5限、金曜5限(9号館305研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、なぜ教育思想を学ぶのか？～①西洋における古代・中世の教育思想～	1,2	シラバスを精読しておくとともに、講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、古代・中世の西洋教育思想を学ぶ意味を理解する。	1.5h
2	なぜ教育思想を学ぶのか？～②西洋における近世の教育思想～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、近世の西洋教育思想を学ぶ意味を理解する。	1.5h
3	なぜ教育思想を学ぶのか？～③西洋における近代の教育思想～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、近代の西洋教育思想を学ぶ意味を理解する。	1.5h
4	なぜ教育思想を学ぶのか？～④日本における前近代の教育思想～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、前近代の日本教育思想を学ぶ意味を理解する。	1.5h
5	なぜ教育思想を学ぶのか？～⑤日本における近代の教育思想～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、近代の日本教育思想を学ぶ意味を理解する。	1.5h
6	教育を基礎から考える～①教育とは何か？～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、教育とは何かについて哲学的観点から理解する。	1.5h
7	教育を基礎から考える～②学びとは何か？～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、学びとは何かについて哲学的観点から理解する。	1.5h
8	教育を基礎から考える～③子どもとは何か？～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、子どもとは何かについて哲学的観点から理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	教育を基礎から考える～④子どもの問題～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、子どもをめぐる問題の諸相について理解する。	1.5h
10	教育を基礎から考える～⑤近代学校の誕生～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、近代学校の誕生に係る意義について理解する。	1.5h
11	教育を基礎から考える～⑥学校という空間～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、学校が生きた空間であることの意味について理解する。	1.5h
12	哲学的思考の基本を学ぶ～①「哲学する」とはどういうことか？～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、「哲学する」ことの意味について理解する。	1.5h
13	哲学的思考の基本を学ぶ～②子どものための哲学～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、どうすれば学校で「哲学する」ことができるのかを考察する。	1.5h
14	哲学的思考の基本を学ぶ～③教育することの倫理～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、「教育は善である」とはどういうことかを理解する。	1.5h
15	教育の現在を哲学する～アクティブ・ラーニング～	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、アクティブ・ラーニングを哲学的観点から考察する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習については、使用教材である『《ポイント・図解》ひと目でわかる！哲学する教育原理』等を活用し、補完してください。

印刷 閉じる

ヨーロッパ思想と多文化理解

英文名：History of European Culture and Philosophy
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES505
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
1 専門的知識
1 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

石原　綱成

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この講義は保育者・教育者をめざす学生が、より広い視野を持ち、社会により実践的に関ることで、
豊かな人間性を育むことができる科目である。
多様な文化を学ぶことで、自己を相対化し、他者理解を深めることをテーマにしている。
講義の進め方は、レポート、発表（報告）、文献購読、視覚教材にて行う。講義に関して必ずフィードバックを行う。

到達目標

1．あらゆる文化を総合的に理解できる
2．異なる文化を学ぶことで、自国の文化を相対的に理解できる。
3．保育者・教育者に必要な豊かな教養を身に着けることができる。
4．国際紛争の原因を理解することにより、異文化理解を深めることができる。

使用教材

講義スライドの資料を配布する。

参考文献

担当教員が逐次紹介する。

評価方法

学期末にレポート課題50点、与えられたテーマのプレゼンテーション30点、日常点20点

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。

オフィスアワー

月曜３限、金曜2限
（8号館501研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	2	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する。	1.5 h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。	1.5 h
2	子どもの発見－アリエスの学説	1,2,3	アリエスの『子供の発見』の指定されたページを読む。	1.5 h	現代の子ども観を再考する。	1.5 h
3	ペーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」を巡って①	1,2,3	配布したプリントをもとにブリューゲルの芸術作品を理解する。	1.5 h	「子どもの遊戯」の図像のテーマを理解する。	1.5 h
4	ペーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」を巡って②	1,2,3	配布したプリントをもとに子どもの図像から子どもの姿を理解する。	1.5 h	中世の子ども像を概観する。	1.5 h
5	絵で読む子供の社会史①	1,2,3	配布したプリントをもとに子どもの図像から子どもの姿を理解する。	1.5 h	中世の子ども像を概観する。	1.5 h
6	歴史の中の女性①―ジェンダーの起源ー	1,2,4	配布したプリントをもとに図像に現れた女性の姿を理解する。	1.5 h	近世における女性像を理解する。	1.5 h
7	歴史の中の女性②－聖書の中の女性―	1,2,4	キリスト教の教義を理解する。	1.5 h	配布した聖書を読む。	1.5 h
8	世界の宗教を理解する。―キリスト教―	1,2,4	キリスト教の教義を理解する。	1.5 h	キリスト世界の特徴を理解する。	1.5 h
9	世界の宗教を理解する。―仏教―	1,2,4	仏教の教えを理解する。	1.5 h	多神教と一神教の特色を理解する。	1.5 h
10	教育史のなかの「よい子」を考えるー戦中の教育―	1,2,3,4	配布したプリントをもとに戦争中現れた子どもの姿を理解する。	1.5 h	軍事教育とは何かを理解する。	1.5 h
11	戦争の本質ー多文化理解欠如の悲惨ー	1,2,4	戦争の歴史を理解する。	1.5 h	戦争の原因を理解する。帝国主義の末路を考える。	1.5 h
12	原子爆弾投下の背景	1,2,4	原子爆弾の構造と破壊力への理解。	1.5 h	ヒロシマ・ナガサキで起こったことを理解する。	1.5 h
13	ナチス・ドイツと戦争	1,2,4	ホロコーストについて調べる	1.5 h	人種差別の問題を問い直す	1.5 h
14	ハンナ・アーレントと全体主義	1,2,4	ハンナ・アーレントの思想を理解する。	1.5 h	全体主義の現代的意味を考察する	1.5 h
15	多文化理解と他者理解	1,2,3,4	今までの授業を総合的に振り返る。	1.5 h	教育者・保育者が心がけるべき「平和」を考える。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

運動方法論

英文名：Sports methodology
科目区分：専門教養科目
科目ナンバリング：LSE020
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野村　孝路

科目に関連した実務経験

（公財）日本オリンピック委員会ナショナルヘッドコーチとして飛込トップ選手の動作分析ならびに技術指導に従事している。
　また小学校・中学校での教科体育実務経験や幼児から老年までの水泳指導経験を有している。

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○		○	○			

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各理論を学習し実践し、指導方法の研鑽を進める。各自の携帯端末を活用し動作や姿勢を撮影し、分析および課題把握、解決方法を分析する。t対面の座学・実技に加えオンラインによる講義を踏まえ実施する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①自分の身体やこころに関する知識を深め、日常生活やスポーツ実践場面、スポーツ指導場面で活かすことができる。
②講義の実施方法
スポーツでは心身の状態を理解し、コントロールすることが求められる。本授業では心身両面のトレーニング方法、コンディショニングに関する知識を獲得し、自身の身体やこころの理解につなげていく。そして、本授業で得た知識を自身の競技や指導場面に活かせるようになることを目指す。
　各授業では講義および技法の実践、グループワークを行い、授業内容を深めていく。毎回の授業ではリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業でフィードバックを行う。
各理論を学習し実践し、指導方法の研鑽を進める。各自の携帯端末を活用し動作や姿勢を撮影し、分析および課題把握、解決方法を分析する。対面の座学・実技に加えオンラインによる講義を踏まえ実施する。

到達目標

１,現代における運動やスポーツの意義を理解し、生涯スポーツとして実践するための基礎知識を学び、運動の実践方法や観察方法を理解し役立てることができる。
２.幼児から高齢者目での体力。運動能力の発育。発達および様々な身体活動における動作様式をバイオメカニクスや運動生理学的な観点から理解する。
３,心身の運動動作について理解を深める。
４,心身のコンディション調整について理解を深める。
５,スポーツの実践者、指導者としての活動に役立てられるようする。

使用教材

プリントを適宜配布する。

参考文献

参考文献を適宜紹介する。クルトマイネル運動学、他

評価方法

(1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度・リアクションシートが60%、
(2) 期末レポートが40%です。

課題・評価に対するフィードバック方法

自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが相互理解を深めるため、C-Learningを使ってフィードバックを行なう。

オフィスアワー

質問や学習相談には、授業開始前もしくは終了後に対応する。

授業計画表

幼児から高齢者までの運動の伝承者は指導者能力（促発能力）が問われる。それは観察能力（運動問題を発見する。）、交信能力（動感コミュニケーションをとる。）、代行能力（学習者の動ける感じに身におく）、処方能力（練習方法を作り出す。）の４観点が必要である。それらを駆使し幅広い年齢層に体力。運動能力の発育・発達および様々な身体活動における動作様式をバイオメカニクスや運動生理学的な観点から理解する。これにより心身の学習者の間身体性に基づいて考える能力（身体知）の育成に努めることで心身の運動動作やコンディション調整について理解を深める。

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 運動方法論とは	1,5	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、成績評価方法を確認する。	0.5h
2	基礎的な運動法則を知る。 ・ニュートンの運動法則について（座学）	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
3	基礎的な運動法則を知る。 ・ニュートンの運動法則について（実践・実技）	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
4	基礎的な運動法則を知る。 並進運動と回転運動（座学）	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
5	基礎的な運動法則を知る。 並進運動と回転運動（実践・実技） ・歩行運動　実技	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
6	基礎的な運動法則を知る。 並進運動と回転運動	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	（実践・実技） ・走運動　実技					
7	基礎的な運動法則を知る。 （実践・実技） ・跳運動　　実技	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
8	基礎的な運動法則を知る。 （実践・実技） ・投運動　実技	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
9	基礎的な運動法則を知る。 （実践・実技） ・器械運動　マット運動（前周り）　実技	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
10	基礎的な運動法則を知る。 （実践・実技） ・器械運動　マット運動（後ろ周り）　実技	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
11	基礎的な運動法則を知る。 （実践・実技） ・器械運動　跳び箱運動 実技	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
12	基礎的な運動法則を知る。 （実践・実技） ・器械運動　鉄棒運動 実技	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
13	心身のコンディション調整について理解を深める。 メンタルコンディショニング （座学）	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
14	心身のコンディション調整について理解を深める。 コーチング法（実技）	1,5	配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを記入する。	0.5h
15	まとめ 全講義の最終リアクションペーパー作成	1,5	今までの講義メモや配布れた資料に目を通す。	0.5h	C-learningにリアクションペーパーを提出する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

１５時間

備考

全講義を通じて座学は教室で実施する。実技・理論実践は体育館等で行う予定であり、別途指示する。
記載した予習・復習時間では、単位習得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。

印刷 閉じる ✕

保育原理

英文名：Principles of Early Childhood Care and Education
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP151
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

石川　徹

科目に関連した実務経験

保育士として保育所に勤務（経験）
幼稚園教諭として幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育という営みの背後にある歴史や原理を理解することを目指す。授業は講義形式で行う。テキストとともに毎時教員が作成した資料を配布し説明を行う。復習では，毎時配布する資料に記載された課題に取り組むこととする。

到達目標

1．保育の意義を理解する。
2．保育所保育指針における保育の基本について理解する。
3．保育の内容と方法の基本について理解する。■
4．保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5．保育の現状と課題について理解する。

使用教材

教科書①　「幼稚園教育要領解説」平成30年3月
教科書②　「保育所保育指針解説」平成30年3月
教科書③　「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」平成30年3月
教科書④　「福祉・保育小六法<2025年版>」

参考文献

授業時に紹介する

評価方法

授業内での課題30%・期末試験70%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にコメントし返却する

オフィスアワー

水曜1、2限（研究室301）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　保育について学ぶ意義・保育の理念とは	1,5	シラバスを読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
2	児童の最善の利益を考慮した保育	1	児童の最善の利益とは何かについて考え、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
3	保育の社会的意義	1	保育の社会的意義とは何かについて考え、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
4	保育所保育における原則	1	保育所保育の特徴とは何かを考え、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
5	保育所保育指針の制度的位置づけ	1	保育所保育指針第1章を読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
6	保育の基本①養護と教育の一体性	2	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
7	保育の基本②環境を通しておこなう保育	2	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
8	保育の基本③発達過程に応じた保育	2	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
9	保育の基本④家庭及び地域、小学校等との様々な連携	2	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
10	保育の方法①生活と遊びを通して総合的におこなう保育■	3	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	保育の方法②保育における個と集団への配慮■	3	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
12	保育の方法③計画・実践・記録・評価・改善の循環過程■	3	保育所保育指針の該当ページを読んでくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
13	保育の思想①諸外国の保育思想	4	諸外国の保育思想について調べてくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
14	保育の基本②日本の保育思想	4	日本の保育思想について調べてくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h
15	まとめ：保育における現代的課題	4,5	保育における現代的課題について自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容にかんする小レポート	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインとなった場合は、オンデマンド形式で実施予定である。
■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 閉じる

教育原理

英文名：Principles of Early Childhood Care and Education
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：A002
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
5 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

富田　純喜

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本講義は、教育を体系的に学んでいくための基礎の習得、教育と福祉との関連の理解を目的とします。序盤では教育を支える理念や福祉との関連、中盤では教育の制度・思想の歴史的変遷、終盤では今日の教育を支える制度や法律、家族や社会との関連について学びます。身近な営みである教育について、誰もが多くのことを知っていて、何かしら語ることができます。しかし、経験に基づいた教育論のみで教育者は務まりません。そこで、上記の学習をとおして、学問としての教育の知見を広げるとともに、自身の教育観や子ども観を深めていくことを目指します。
②授業は主に講義形式で進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

①教育に関する基礎的な概念や理論を説明できる。
②教育制度・教育思想の歴史を理解し、今日の教育との関連を説明できる。
③教育の制度や法律、教育と家族や社会との関連を説明できる。
④教育を多角的な視点（教育観、子ども観、人間観など）で考察できる。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館.
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館.
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説（平成30年3月）』フレーベル館.

評価方法

試験（60%）、課題・参画度（40%）

課題・評価に対するフィードバック方法

各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。

オフィスアワー

水曜5限、木曜5限（8号館406）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育原理を学ぶ意味	1	教育という営みについて現時点の考えを整理する。	1h	教育を学問として扱う必要性について理解する。	1h
2	教育とは何か	1	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	教育の定義や特徴、福祉との関連を理解する。	1.5h
3	人間形成と教育	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	人間形成における教育の役割や必要性について理解する。	1.5h
4	教育の目的	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	教育の目的について多角的な視点から理解する。	1.5h
5	公教育制度の意義	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	公教育の意義と必要性について多角的な視点から理解する。	1.5h
6	近代学校の成立と特徴	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	近代学校がどのように成立し発展してきたのかを理解する。	1.5h
7	子ども観の変遷と教育	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	子どもが教育の対象となった歴史を理解する。	1.5h
8	西洋における教育の歴史と思想（1）古代・中世～近代	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	近代以前の西洋における教育の歴史と思想を理解する。	1.5h
9	西洋における教育の歴史と思想（2）近代～現代	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	近代以降の西洋における教育の歴史と思想を理解する。	1.5h
10	日本における教育の歴史	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	日本の教育を制度の歴史から理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	日本における教育の思想	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 h	日本の教育を思想の歴史から理解する。	1.5 h
12	教育の制度と法律	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 h	今日の教育制度とそれを支える法律について理解する。	1.5 h
13	学校と家族の関係	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 h	学校と家族の関係について歴史的変遷を踏まえて理解する。	1.5 h
14	生涯学習社会と教育	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5 h	生涯学習社会における教育の役割を理解する。	1.5 h
15	教育の課題と展望	1,2, 3,4	第1～14 回の内容を復習し、疑問点などを整理にする。	2h	授業内容を整理するとともに、関連する文献を読んで理解を深める。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

教育基礎論A

英文名：Principles of Education A
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP201
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

浦﨑　源次　　北村　陽

科目に関連した実務経験

北村：教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本講義は、教育学の基礎的な知識となる、教育の原理、歴史、思想、教育制度、様々な現代的問題や様々な教育実践について学び、教職に携わる者に求められる基礎的な資質の獲得を目指す。特に、近・現代の公教育の歴史を学ぶことや、教育の原点と言われる障害児教育の実践から学ぶこと、さらには教育に関わる様々な事象を社会問題として認識する方法を学ぶことを通して、教育の現代的問題について、歴史や社会構造の観点を含んで考察できる力の獲得を目指す。
授業の進め方：2名の担当者がそれぞれの専門分野を講義し、その後「小テストで理解度を確認していく」という方法をとる。予習・復習については、とりわけ小テストに向けての学習等で補完すること。

到達目標

1.教職に携わる者に求められる教育学に関する基礎的な知識を身につけることができる。
2.教育実践を行うにあたり必要となる基礎的な資質を身につけることができる。■

使用教材

各授業担当者の作成資料による。

参考文献

講義中に適宜、紹介する。

評価方法

各担当者が行う小テスト・その他の課題と授業参画度を総合して評価する。その内訳は、浦﨑：40点、北村：60点とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題を指示する際および小テスト実施前後に出題の意図などを説明する。

オフィスアワー

（浦﨑）金曜昼休み（9号館301研究室）
（北村）月曜5限、金曜5限(9号館305研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・教育基礎論を学ぶ意義（北村）	1,2	シラバスを読んで、毎回の授業内容を確認し、自分との関連などを考えておく。	1.5 h	資料を読み直し、授業の概要を確認し、教育基礎論を学ぶ意義を理解する。	1.5 h
2	教育とは何か　（北村）	1	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
3	人間形成と教育　（北村）	1	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
4	子ども観の変遷　（北村）	1	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
5	西洋の教育の歴史（北村）	1	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
6	日本の教育の歴史(1)古代～近世　（北村）	1	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
7	日本の教育の歴史(2)近代～現代　（北村）	1,2	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
8	青年期と教育■　（北村）	1,2	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
9	教育の公共性と教師の問題■　　（北村）	1,2	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
10	学校における「教える」・「学ぶ」　（浦﨑）	1,2	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	学習指導要領の変遷（浦﨑）	1	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
12	授業と評価（カリキュラムを含む）　（浦﨑）	1,2	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
13	現代日本の障害児教育（浦﨑）	1,2	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
14	「能力」の問題　（浦﨑）	1,2	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h
15	障害児の教育実践から見た教育のあり方（浦﨑）	1,2	講義内容に関する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 h	資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。
オンライン授業で実施する場合は、担当教員がその都度指示を出す。

印刷　閉じる

教育制度論A

英文名：Theory of Educational Systems A
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP001
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

北村　陽

科目に関連した実務経験

教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

教師を目指す者にとって、我が国の教育制度を正しく理解することは重要である。本授業では、「子ども」や「教育」に関わる制度について、主に「社会」との関係から考察する。授業の進め方は、テーマに関する各種資料を用いた説明や、教科書を基本とした文献研究的手法を用いて課題に取り組むことにより、理解の深化を図っていく。また、期末テストに向けての学修や文章作成課題を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう自学自習を促していく。なお、講義内容を充分理解することができるように、指定された予習と復習は必ず行うこと。

到達目標

1.我が国の教育制度の概要・特長・課題について理解することができる。■
2.資料や教科書を基に、各種の課題に対して積極的に取り組むことができる。
3.各回のテーマについて意欲的に調べ、その結果や自身の見解を文章にまとめることができる。

使用教材

『教師のための教育学シリーズ11　子どもと教育と社会』腰越滋編著、学文社、2021年、2,100円（税別）

参考文献

学習指導要領解説　総則編

評価方法

期末テスト50%、リアクションペーパー40%（1回目が2%、2回目～13回目が各3%、14回目～15回目が各1%）、科目に関係した課題10%により、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

試験前後に出題の意図等を説明する。また、課題における受講者の解答（回答）に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。

オフィスアワー

月曜5限、金曜5限(9号館305研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、教育制度を学ぶ意義について	1,3	シラバスおよび教科書のまえがきを読んでおく。	1.5h	配布資料を読み授業の概要を再確認し、教育制度を学ぶ意義を理解する。	1.5h
2	学校の制度■	1,2,3	教育関係法規について、関連する図書などで調べておく。	1.5h	関係資料を読み直し、教育法規について理解する。	1.5h
3	教員の制度■	1,2,3	教科書の関連する記述箇所について、他の図書などでも調べておく。	1.5h	関係資料を読み直し、教員の制度について理解する。	1.5h
4	社会教育の制度■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、他の文献・資料などでも調べておく。	1.5h	配布資料を読み授業の概要を再確認し、専門用語等について理解する。	1.5h
5	教育の機会均等■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、他の文献・資料などでも調べておく。	1.5h	配布資料を読み授業の概要を再確認し、専門用語等について理解する。	1.5h
6	日本国憲法と教育基本法	1,2,3	日本国憲法と教育基本法に関連する項目について、各種資料を手掛かりに調べておく。	1.5h	関係資料を読み直し、日本国憲法と教育基本法について理解する。	1.5h
7	世界の子育て事情	2,3	教科書の第1章（1～18ページ）を読んでおく。	1.5h	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5h
8	教育とジェンダー	1,2,3	ジェンダーについて、インターネット等を用いて、現状や動向を把握しておく。	1.5h	教科書を読み直し、教育におけるジェンダーの意味について理解する。	1.5h
9	学習する意義■	2,3	教科書の第5章（81～99ページ）を読んでおく。	1.5h	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5h
10	生涯学習社会	1,2,3	教科書の第8章（148～169ページ）を読んでおく。	1.5h	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等に	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					ついて理解する。	
11	大学教育の変容■	1,2,3	教科書の第6章（100～126ページ）を読んでおく。	1.5h	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5h
12	学校教育と受験体制■	1,2,3	日本の受験体制について、インターネット等を用いて、現状や動向を把握しておく。	1.5h	教科書を読み直し、受験体制が教育全体に与える影響について考えをまとめる。	1.5h
13	学校と地域との連携■	2,3	今日の学校は地域とどのような繋がりを求められているのか、インターネット等を用いて現状や方向性を把握しておく。	1.5h	配布資料を読み授業の概要を再確認し、専門用語等について理解する。	1.5h
14	学校安全と子どもの事故■	1,2,3	学校内での事故にはどのようなものがあるか、それを防ぐためにどのような対応が求められるのか、インターネット等を用いて現状などを把握しておく。	1.5h	配布資料を読み授業の概要を再確認し、専門用語等について理解する。	1.5h
15	日本社会における子ども	1,2,3	教科書の第9章（170～185ページ）を読んでおく。	1.5h	教科書および配布資料を読み直し、専門用語等について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・予習・復習については、使用教材である『教師のための教育学シリーズ11　子どもと教育と社会』等を活用し、補完してください。
・状況に応じて、オンラインで授業を実施する場合は、C-Learningで行います。その際、内容等に変更が生じる場合は、適宜C-Learning　　で指示します。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

子ども家庭福祉

英文名：Child Family Welfare
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：A005
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

千葉　千恵美

科目に関連した実務経験

公立保育所に保育士として勤務(経験)　学内子ども・家族支援センターで保育士　心理相談員勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現代の子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷や現代社会の子ども家庭福祉の課題、制度や実施体系、子ども家庭福祉の動向と課題、解決方法を目指す。
授業の進め方：授業内容は前半と後半に分け、前半は講義形式をとり、後半はグループ・ディスカッションを行い話し合った内容を板書し、まとめ理解を深める方法を取る。又授業終了後に毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式を取る。

到達目標

子ども家庭福祉の現状と課題、動向について理解する事が出来る。　■
子ども家庭福祉の歩みと歴史、子どもの人権について理解することが出来る。

子ども家庭福祉に関する法制度と実施機関、障害を持つ子どもを理解する事が出来る。　■
母子保健、ひとり親支援、社会的養護を含む子ども家庭福祉を理解することが出来る。　■

使用教材

保育士をめざす人の子ども家庭福祉　伊達悦子・辰巳隆編集　(株)みらい　2023年度版
講義のスライドを随時プリントして配布する

参考文献

保育所保育指針　厚生労働省編　フレーベル館

評価方法

事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート20%、定期試験80%とする

課題・評価に対するフィードバック方法

授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィートバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。

オフィスアワー

火曜日　４，５限目
（８号館４階４０１研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,3,16	シラバスを読み子ども家庭福祉についての目標や到達目標等を予備知識について予習する。	1.5h	子ども家庭福祉にむけた組み立て講義内容を振り返り理解を深める	1.5h
2	子どもの権利について	1,3,16	子どもの権利条約について事前に第2章P24-P39を読み、内容にふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子どもの権利条約について理解を深める	1.5h
3	子ども家庭福祉の成り立ちについて	1,3,4	事前に第3章p40-p55を読み、講義内容についてふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子ども家庭福祉の成り立ちの理解を深める	1.5h
4	子ども家庭福祉の法と行政・実施機関について　■	1,3,4	事前に第4章p56-p78を読み、内容にふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、法と行政・実施機関について理解を深める	1.5h
5	子ども家庭福祉に必要な児童福祉施設について　■	3,4,5,11,16	事前に第5章p79-p95について読み、内容にふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、児童福祉施設について理解を深める	1.5h
6	子ども家庭福祉に必要な社会的養護について　■	3,4	事前に第6章p96-p115を読み、内容にふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、社会的養護について理解を深める	1.5h
7	保育サービスと地域子育て支援	1,3,4	事前に第7章p116-p130について読み、内容にふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し保育サービスや地域子育て支援の理解を深める	1.5h
8	障害児福祉サービスについて	3,4,11	事前に第8章ｐ131-p149について読み、内容にふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、障害児保育について理解を深める	1.5h
9	子どもを取り巻く諸問題について　児童虐待を含む　■	1,3,4	事前に第9章p95150-p161を読み、内容にふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子どもの取り巻く諸問題の理解を深める	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	少年非行について	3,4,11	事前にｐ162-p167までを読み、内容についてふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、少年非行について理解を深める	1.5h
11	子育て支援と健全育成について	1,3,4,11	事前に第10章ｐ168-177を読み、内容についてふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子育て支援と健全育成の理解を深める	1.5h
12	ひとり親家庭への支援について　■	1,3,4,5,8.11	事前にp177-p182まで読み、内容についてふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、ひとり親家庭への支援について理解を深める	1.5h
13	母子保健と子育て支援サービス　■	4,8,11,16	事前にp182-p186を読み、内容についてふれる	1.5h	講義内容資料及びDVD視聴の感想を記載し、母子保健の理解を深める	1.5h
14	子ども家庭福祉の専門職と専門技術について　■	3,4,5,8,11,16	事前に第11章p188-p205を読み、内容についてふれる	1.5h	講義内容の資料を読み返し、専門職及び専門技術について理解を深める	1.5h
15	まとめ　子ども家庭福祉で学んだ内容について	1,3,4,11.16	今後保育現場で必要な子ども家庭福祉について事前に調べる	1.5h	子ども家庭福祉で学んだ事項を整理し、総合的なまとめとして理解を深める	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

KEY　WORD　子ども家庭福祉　現状　課題　保育サービス　虐待防止　　オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
（■は実務経験に基づく内容を示す）

印刷　閉じる

社会福祉

英文名：Social Welfare
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP153
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野田　敦史

科目に関連した実務経験

社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現代社会における社会福祉の意義と国内外の歴史的変遷について理解し、社会福祉と児童家庭福祉および児童の人権や家庭支援との関連について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、今後の社会的動向と福祉的課題について考える。そのために身近な事例やビデオ教材などを用いて基礎を理解してから諸問題について考えていくようにする。具体的な進め方としては、テキスト・社会統計資料・ビデオ教材をもとに講義し、テーマに基づく社会問題をアクティブラーニングの方法を用いて共有・理解の深化できるよう実施する。

到達目標

1.社会福祉の歴史について説明することができる。
2.わが国の社会福祉の制度および実施機関について体系的理解と説明ができる。■
3.社会的統計資料から、わが国の社会福祉的課題について説明できる。
4.社会福祉現場にかかわりのある各種の専門職の役割について説明することができる。■

使用教材

資料：①　保育福祉小六法　②　テキスト「保育と社会福祉」（みらい）
その他、適宜レジュメを配布。DVDビデオも視聴する。

参考文献

適宜、授業で紹介する。

評価方法

定期試験50%、平常点25%、小テストおよびレポート点25%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レジュメは授業回１～２ごとに配布し、毎回、回収し評価点（A～C）を付けて返却する。
定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。

オフィスアワー

火曜２限と金曜1限、質問はメールでも受け付ける（8号館4階402研究室）。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス　―社会福祉を学ぶ意義―	2	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する	1.5h	講義内容、到達目標、単位付与方針、成績評価方法など確認する。	1.5h
2	保育と社会福祉	3	教科書　第1章を読んでおく。	1.5h	現代社会が抱える福祉課題を理解する。	1.5h
3	社会福祉の考え方と役割	2	教科書　第2章を読んでおく。	1.5h	社会福祉の概念，構造などを理解する。	1.5h
4	社会福祉のあゆみ	1	教科書　第3章を読んでおく。	1.5h	日本及び福祉先進国における社会福祉の歴史を理解する。	1.5h
5	児童の人権擁護と子ども家庭福祉	2	教科書　第8章　全てを読んでおく。	1.5h	児童の権利に関する条約の内容などを理解する。	1.5h
6	社会保障	2	教科書　第4章-1　全てを読んでおく。	1.5h	日本の社会保障の概念・体系などを理解する。	1.5h
7	社会保険	2	教科書　第4章-2　全てを読んでおく。	1.5h	社会保険制度の体系・種類・目的などを理解する。	1.5h
8	公的扶助	2	教科書　第4章-3　全てを読んでおく。	1.5h	公的扶助の原理・原則・種類などを理解する。	1.5h
9	社会福祉の制度・法体系(1)■	2	教科書　第5章-1，2　全て　を読んでおく。	1.5h	福祉関連法の体系・名称・目的などを理解する。	1.5h
10	社会福祉の制度・法体系(2)■	2	教科書　第5章-3　全てを読んでおく。	1.5h	高齢者福祉の法制度の概要を理解する。	1.5h
11	社会福祉の制度・法体系(3)■	2	教科書　第5章-4　全てを読んでおく。	1.5h	障害者福祉の法制度の概要を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	社会福祉の実施機関(1)■	2	教科書　第6章-1，2　全て　を読んでおく。	1.5h	国・都道府県・市町村の福祉行政機関の概要を理解する。	1.5h
13	社会福祉の実施機関(2)■	2	教科書　第6章-3,4　全て　を読んでおく。	1.5h	民間専門機関の概要を理解する。	1.5h
14	社会福祉の施設	2	教科書　第7章　全て　を読んでおく。	1.5h	社会福祉施設の種類・動向などを理解する	1.5h
15	社会福祉の専門職と倫理	4	教科書　第9章　全て　を読んでおく。	1.5h	社会福祉の専門職及び関連専門職の概要と倫理について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。
社会的要請がある場合はC-Learningを通じたオンデマンド授業で実施する。

印刷　閉じる

社会的養護Ⅰ

英文名：Social Care Ⅰ
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP154
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野田　敦史

科目に関連した実務経験

社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○			○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

社会福祉の授業内容を踏まえて、現代社会における社会的養護の意義や国内外の歴史的変遷について理解をめざす。合わせて社会的養護の制度や仕組み、実践体系について理解する。また、施設養護の実際について、その原理や社会的養護との関連、施設養護の実際について、テキストのほかに施設の様子のわかるビデオを視聴し、理解する。さらに児童家庭福祉との関連性や児童の権利擁護について考える。なお、授業の進め方としては、テキスト・動画視聴をもとに講義し、テーマに基づく課題を提示し、アクティブラーニングの方法を用いて共有・理解の深化できるよう実施する。

到達目標

1.社会的養護の歴史について説明することができる。
2.わが国の社会的養護の制度および実施機関について体系的理解と説明ができる。■
3.社会的統計資料から、わが国の社会的養護の課題について説明できる。■
4.要保護児童の支援について児童家庭福祉や権利擁護の視点から説明することができる。■

使用教材

教科書：大竹智　山田利子編「保育と社会的養護Ⅰ」みらい。
その他、適宜レジュメを配布。DVDビデオも視聴する。

参考文献

適宜、授業で紹介する。

評価方法

定期試験50%、平常点25%、小テストおよびレポート点25%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レジュメは授業回１～２ごとに配布し、毎回、回収し評価点（A～C）を付けて返却する。
定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。

オフィスアワー

火曜２限と金曜1限、質問はメールでも受け付ける（8号館4階402研究室）。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス　―社会的養護を学ぶ意義―	2	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する	1.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。	1.5 h
2	社会的養護の定義・理念・基本原理	2	教科書　第1章を読んでおく。	1.5 h	社会的養護の定義・理念・基本原理などを理解する。	1.5 h
3	社会的養護の体系	2	教科書　第6章を読んでおく。	1.5 h	施設養護と家庭養護、家庭的養護の体系的理解をする。	1.5 h
4	施設養護の特質と基本原則	2	教科書　第8章を読んでおく。	1.5 h	施設養護の特質、基本原理、各施設運営指針などを理解する。	1.5 h
5	施設養護の実際（1）乳児院■	1,2,3,4	教科書　第9章-2を読んでおく。	1.5 h	乳児院の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 h
6	施設養護の実際（2）母子生活支援施設■	1,2,3,4	教科書　第9章-3を読んでおく。	1.5 h	母子生活支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 h
7	施設養護の実際（3）児童養護施設　自立援助ホーム■	1,2,3,4	教科書　第9章-4を読んでおく。	1.5 h	児童養護施設，自立援助ホームの目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 h
8	施設養護の実際（4）障害児入所支援■	1,2,3,4	教科書　第10章-1,2を読んでおく。	1.5 h	障害児入所支援の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 h
9	施設養護の実際（5）障害児通所支援■	1,2,3,4	教科書　第10章-3を読んでおく。	1.5 h	障害児通所支援の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 h
10	施設養護の実際（6）児童心理治療施設，児童自立支援施設■	1,2,3,4	教科書　第11章-1,2,3を読んでおく。	1.5 h	児童心理治療施設，児童自立支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	施設養護の実際（7）障害者支援施設■	1,2,3,4	前週で配布した障害者支援施設に関する資料を読んでおく。	1.5h	障害者支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5h
12	家庭養護の実際（1）里親制度	1,2,3,4	教科書　第7章-1,2を読んでおく。	1.5h	里親の定義，種類と要件，支援などを理解する。	1.5h
13	家庭養護の実際（2）養子縁組制度	1,2,3,4	教科書　第7章-3,4を読んでおく。	1.5h	養子縁組，特別養子縁組を理解する。	1.5h
14	社会的養護にかかわる専門職・専門機関	2,4	教科書　第13章を読んでおく。	1.5h	児童相談所，児童家庭支援センター、FSWなどの専門機関・専門職を理解する。	1.5h
15	社会的養護とソーシャルワーク■	2,4	教科書　第8章を読んでおく。	1.5h	個別支援計画の目的・意義、作成過程などを理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

教育心理学A

英文名：Educational Psychology A
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP002
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
8 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木　典彰

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
幼児教育、初等中等教育に関連する心理学の基礎知識を修得し、それを実際の教育現場でどのように活用できるかを考える。
②講義の実施方法
双方向の授業のために、適宜質問をしたり意見を求めたりする。

到達目標

1. 教育心理学に関する専門用語等の基礎知識を理解する。
2. 教育心理学の基礎知識を教育現場でどのように活用できるかを具体的に述べる。

使用教材

テキストは使用しない。適宜、資料等を配布する。

参考文献

藤田哲也 編著　絶対役立つ教育心理学　ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

評価方法

定期試験70%、リアクションペーパー30%

課題・評価に対するフィードバック方法

定期試験の結果をフィードバックする。その方法は別途伝える。

オフィスアワー

初回授業時に伝える。
（8号館409研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子どものやる気①	1,2	「教育心理学」を図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
2	子どものやる気②	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
3	子どもの行動原理	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
4	ほめるとしかる	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
5	上手な覚え方	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
6	上手な勉強法	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
7	上手な教え方	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
8	子どもの能力	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
9	子どもの評価	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
10	集団心理	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
11	学級崩壊	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
12	集団を育てる	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
13	いじめ	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
14	不登校・登園拒否	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
15	振り返り	1,2	講義全体を振り返る。	1.5h	講義全体のポイントを確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

保育者論

英文名：Theory of Kindergarten and Nursery Teachers
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP102
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
5 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

富田　純喜

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本講義では、保育者の職務や専門性、子どもとの関係、地域社会との連携などを学んでいく。保育者は、子どもの傍に寄り添い、一緒に生活するだけの存在ではない。また、実践に有用な知識・技術を身につけるだけでは保育者の職務を遂行することができない。幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設等で営まれる保育は公共性が高く、そこで働く保育者には高度な専門性が求められている。本講義では、客観的な視点から保育者像を捉え直し、自らの保育観を鍛え上げることを目標とする。
②授業は主に講義形式で進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

1.保育職の社会的意義と保育者の役割について説明できる。
2.保育者に求められる資質能力について説明できる。
3.地域社会における保育施設の役割を理解したうえで、連携・協働について説明できる。
4.保育の専門家としての役割を多角的な視点から考察できる。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

授業内で適宜紹介する。

評価方法

試験（60%）、課題・参画度（40%）

課題・評価に対するフィードバック方法

各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。

オフィスアワー

水曜5限、木曜5限（8号館406）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育者とは？	1	保育者という言葉から連想する人や仕事について現時点の考えを整理する。	1h	保育者の定義と本講義で扱う内容について理解する。	1h
2	保育者の役割と職務（1）免許状・資格の誕生と変遷	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	歴史的視点から保育者の役割の変遷を理解する。	1.5h
3	保育者の役割と職務（2）保育者の職務内容と養成の仕組み	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育者の職務と養成の仕組み・カリキュラムとの関連について理解する。	1.5h
4	保育者の役割と職務（3）保育者の倫理	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育者に求められる職業倫理について理解する。	1.5h
5	保育者の専門性（1）免許状・資格と専門性	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	免許状・資格の保有と専門性の関係について理解する。	1.5h
6	保育者の専門性（2）専門的知識・技術	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育者の専門性と知識・技術の関係について理解する。	1.5h
7	保育者の専門性（3）保育における省察	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	省察の意義と方法から保育者の専門性について理解する。	1.5h
8	保育者の専門性（4）研修とキャリア形成	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	学び続ける保育者像と研修の意義、キャリア形成について理解する。	1.5h
9	子どもと保育者（1）指導と援助	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	指導と援助の違いと、それぞれのかかわりの必要性を理解する。	1.5h
10	子どもと保育者（2）主体性の尊重	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育には子どもと保育者双方の主体性の尊重が必要なことを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	子どもと保育者（3）個性の尊重	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育において個性を尊重することの意義と課題について理解する。	1.5h
12	現代社会の課題と保育者（1）同僚性と協働性	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育者間の連携を同僚性・協働性の観点から理解する。	1.5h
13	現代社会の課題と保育者（2）保育ニーズの多様化と子育て支援	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育ニーズへの対応、子育て支援における保育者の役割について理解する。	1.5h
14	現代社会の課題と保育者（3）地域社会および関係機関との連携	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	地域社会・関係機関との連携における保育者の役割について理解する。	1.5h
15	まとめ（これまでの授業の復習をとおして理解を深める）	1,2,3,4	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理にする。	2h	授業内容を整理するとともに、関連する文献を読んで理解を深める。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

教師論A

英文名：Theory of Teacher’s Profession A
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP202
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

北村　陽

科目に関連した実務経験

教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校・中学校および特別支援学校における教職の意義と役割を学ぶ。具体的には、さまざまな課題が山積しうる教育現場の現状に鑑み、学校教育における教師のあり方や求められる教師像について、歴史的および実践的に考察する。 さらに、受講者が授業を通して自らの適性を考え、将来に対する展望を持つべく、進路選択の機会を提供する。授業の進め方については、各回、担当教員の解説（説明）から学ぶだけではなく、学んだことや調べた事柄に対する受講者自身の考えや意見をリアクションペーパー上で活字化し、まとめあげること等を通じて理解の深化を図りたい。

到達目標

1.教師の社会的責任や教師の任務・職務および教師としての生き方について理解している。■
2.いかにして教師の力量および人間性を高めて子どもたちに接していくべきかを理解している。

使用教材

『新・教職のための教育原理』（内海﨑貴子編著、八千代出版、2022年、2,310円（税込））

参考文献

文献等は授業内で適宜紹介する。また、担当教員が作成した資料を配付することがある。

評価方法

期末テスト50%、リアクションペーパー40%（1回目が2%、2回目～13回目が各3%、14回目～15回目が各1%）、科目に関係した作文課題10%により、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

試験前後に出題の意図などを説明する。また、課題における受講者の解答（回答）に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。

オフィスアワー

月曜5限、金曜5限(9号館305研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、教育課程での「学び」について	1,2	本学科のカリキュラムについて調べ、シラバスを読んでおく。	1.5 h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、教師論を学ぶ意味を理解する。	1.5 h
2	西洋における教師の歴史	1	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 h
3	日本における教員養成の歴史　①戦前	1	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 h
4	日本における教員養成の歴史　②戦後	1	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 h
5	日本における教員養成の歴史　③現在	1	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 h
6	教員の任用と服務■	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 h
7	教師の研修■	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 h
8	教師の役割と仕事■	1,2	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	テキストや資料を再読して授業の概要を確認し、講義テーマについて理解する。	1.5 h
9	教員免許状と資格	1	小学校の教師となるために必要な履修科目および単位数を調べる。	1.5 h	資料の再読に加え、教員免許をめぐる新たな課題をまとめる。	1.5 h
10	専門職としての教師■	1,2	「専門職とは何か？」を調べ、その意義を考えてみる。	1.5 h	専門職をめぐる諸問題を理解し、専門職のあり方をまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	学校運営①：校務分掌・生徒指導■	1	「校務分掌とは何か？」を調べる。また、生徒指導の語義についても調べる。	1.5h	校長の「校務分掌権限」等および「生徒指導の意義と課題」についてまとめる。	1.5h
12	学校運営②：特別支援教育・安全教育・健康指導など■	1,2	特別支援教育・安全教育・健康指導の語義について調べる。	1.5h	特別支援教育・安全教育・健康指導の意義と課題についてまとめる。	1.5h
13	教員の資質・適格性■	1,2	教師にふさわしい資質・適格性について調べる。	1.5h	教師は子ども・保護者・社会などから何を求められているのかをまとめる。	1.5h
14	「チーム学校」とその背景■	1,2	チーム学校の語義と、その考え方が登場した背景について調べる。	1.5h	チーム学校の意義と、クレームやトラブルの処理・解決には何が重要かをまとめる。	1.5h
15	教職への展望■	1,2	これまでの学びを基に、理想的な教師のあり方とは何か、その具体像を考える。	1.5h	講義を振り返り、教職への理解と意欲を高める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・予習・復習については、使用教材である『新・教職のための教育原理』等を活用し、補完してください。
・状況に応じて、オンラインで授業を実施する場合は、C-Learningで行います。その際、内容等に変更が生じる場合は、適宜C-Learning　　で指示します。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

子どもの発達

英文名：Development of Children
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：A011
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
8 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木　典彰

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
保育者として子どもを適切に理解し、目の前の子どもに対応できるようになるための基礎を学ぶ。
②講義の実施方法
双方向の授業のために、適宜質問をしたり意見を求めたりする。

到達目標

1. 子どもの発達段階を理解する。
2. 子どものさまざまな事例に対して、子どもの心理と保育者の対応例を具体的に考える。

使用教材

テキストは使用しない。適宜、資料等を配布する。

参考文献

文部科学省　幼稚園教育要領
内閣府　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
厚生労働省　保育所保育指針
その他、適宜紹介する。

評価方法

定期試験70%、リアクションペーパー30%

課題・評価に対するフィードバック方法

定期試験の結果をフィードバックする。その方法は別途伝える。

オフィスアワー

初回授業時に伝える。
（8号館409研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	発達とは	1	「発達」を図書やインターネット等で調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
2	人間の誕生	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
3	乳児の発達①	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
4	乳児の発達②	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
5	幼児の発達①	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
6	幼児の発達②	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
7	児童期以降の発達	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
8	発達障害等について①	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
9	発達障害等について②	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
10	子どもの事例①	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
11	子どもの事例②	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
12	子どもの事例③	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
13	子どもの事例④	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
14	子どもの事例⑤	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
15	振り返り	1,2	講義全体を振り返る。	0.375h	講義全体のポイントを確認する。	0.375h

合計時間（予習・復習）

11.25h

印刷 閉じる

特別の支援を必要とする子ども理解と支援法

英文名：Understanding and Supporting Children with Special Need
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP003
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

千葉　千恵美　堀田　椋

科目に関連した実務経験

千葉:公立保育所に保育士として勤務(経験)

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童生徒の学習上又は生活上の困難上の理解を目指す。
個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を目指す。■
授業の進め方：配布した講義用プリントに基づき授業を行う。授業内容によっては視覚機器を用いながら説明を行う。毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式をとる。

到達目標

特別な支援を必要とする子どもについて説明出来る。
特別な支援を必要とする子どもへの教育的対応について説明出来る。

特別な支援を必要とする子どもに対する支援システムについて説明出来る　■

使用教材

講義のスライド等を随時プリントして配布する。

参考文献

授業内で紹介する

評価方法

定期試験70%と毎回のリアクションペーパー30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

コメントに対して、随時授業内でフィードバックする。

オフィスアワー

千葉千恵美（8号館4階401）：火曜日　4.5限目
堀田椋（8号館5階508）：初回講義で提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	特別の支援が必要とする子ども理解とは		シラバスの内容を読んで講義目標等を理解する。	1.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5 h
2	特別支援教育の概要とシステム	1,2	事前に配布した資料や参考書に目を通し予習する。	1.5 h	特別支援教育の概要とシステムについて理解する。	1.5 h
3	障害の基礎知識	1	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容についてふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、障害の基礎知識について理解を深める。	1.5 h
4	知的障害の理解	1	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、知的障害について理解を深める。	1.5 h
5	発達障害の理解Ⅰ　自閉症スペクトラム障害	2	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、自閉症スペクトラムについて理解を深める。	1.5 h
6	発達障害の理解　Ⅱ　ADHD・LD	1	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、ADHD・LDについて理解を深める。	1.5 h
7	発達障害の理解　Ⅲ　言語障害・情緒障害	1	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、言語障害・情緒障害の理解を深める。	1.5 h
8	運動・感覚面に困難のある幼児・児童生徒の理解	1	事前に配布した資料や参考書に目を通、講義内容にふれる。	1.5 h	講義内容資料を読み返し、運動・感覚面に困難のある児童の理解を深める。	1.5 h
9	通常学級における教育的支援	2	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる	1.5 h	講義資料を読み返し、通常学級の教育支援が必要な児童の理解を深める。	1.5 h
10	特別の支援を必要とする幼児・児童生徒への個別的支援■	2	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。	1.5 h	講義資料を読み返し、特別の支援が必要な幼児・児童生徒の理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	外国籍や貧困問題のある子ども等特別の教育的ニーズのある子どもの理解	1	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。	1.5 h	講義資料を読み返し、外国籍や貧困家庭の子どもについての理解を深める。	1.5 h
12	幼稚園・保育所における特別の支援が必要する幼児への支援	2	事前に配布した資料や参考書に目を通し、講義内容にふれる。	1.5 h	講義資料を読み返し、特別支援が必要な幼稚園等幼児の理解を深める。	1.5 h
13	乳幼児時期への支援システム	3	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる。	1.5 h	講義資料を読み返し乳幼児に向けた支援システムの理解を深める。	1.5 h
14	関係機関との連携・協働■	3	事前に配布した資料や参考書を読み、講義内容にふれる	1.5 h	講義資料を読み返し、関係機関との連携・協働の必要性の理解を深める。	1.5 h
15	まとめ　特別の支援を必要とする子どもがいると家族支援	2,3	今までやった資料を振り返り、総合的な内容を整理する	1.5 h	講義資料をまとめ、総合的に特別支援を必要とする子どものまとめをする	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

KEY WORDS　特別の支援　子どもの理解　支援方法
(■は実務経験に基づく内容を示す。)
・オンラインで実施する場合、c-learningを通じて課題を提示する。

印刷　閉じる

子ども家庭支援論

英文名：Child Family Support theory
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP155
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

千葉　千恵美

科目に関連した実務経験

公立保育所に保育士として勤務(経験)　学内子ども・家族支援センターで保育士　心理相談員勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○						○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

授業中では、事例検討の実践力習得方法としてロールプレイを取り入れる。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

子育て家庭を取り巻く社会状況の変化や子育て家庭の支援体制、多様なニーズに応じた支援の展開と多職種連携・協働の必要性について習得を目指す。
授業の進め方：講義内容のスライド資料を配布して講義を行う。講義の中では前半と後半に分け、前半は家族支援に必要な

支援方法として事例検討を講義で行い、後半はグループワークによる話合いを取り入れ、問題解決に向けた内容を深め、発表し、出てきた内容をクラス全体に周知できるように展開する。授業内容で出た発表内容を板書し、まとめを行う方法を取る。又授業終了後に毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式を取る。

到達目標

家庭の意義と機能、役割等子育て家庭への支援や施策について理解する事が出来る。　■
家庭支援の必要性、保育場面での子育て支援方法を考え、応用的に活動する事が出来る。■
様々な課題を持つ家庭への事例検討を行い、地域支援の必要性を理解する事が出来る。　■
多機関連携・協働の必要性や保育現場が対応する役割機能を理解する事が出来る。　■

使用教材

保育士をめざす人の家庭支援　白幡久美子編著　(株)みらい　2021年度版

参考文献

保育所保育指針　厚生労働省編　プレーベル館

評価方法

事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート20%、定期試験80%とする

課題・評価に対するフィードバック方法

授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィートバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。

オフィスアワー

火曜日　４，５限目
（８号館４０１講義室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1,3	シラバスやを読み子ども家庭支援を予習する。	1.5h	子ども家庭支援にむけた組み立て講義内容を振り返り理解を深める。	1.5h
2	家族や家庭と子育て　■	4,11	事前に第1章p13-p32を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、家庭や家族、子育て支援について理解を深める。	1.5h
3	子ども家庭支援とは　■	3,4,10,11	事前に第2章p36-p49を読み、講義内容についてふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子ども家庭支援の課題について理解を深める。	1.5h
4	子育て家庭を支える施策・社会資源　■	3,5,8,11	事前に第3章p50-p69を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子育て家を支える施策と謝意資源について理解を深める。	1.5h
5	子ども家庭支援の基本としての相談支援　■	3,4,5,11	事前に第4章p70-p86について読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子ども家庭支援の基本としての相談支援について理解を深める。	1.5h
6	保育所による家庭支援の実際　■	1,3,4,10,11	事前に第5章p87-p106を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、保育所による家庭支援の実際について理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	地域の子育て家庭への支援■	1,3,5,8,9,16	事前に第6章p107-p122について読み、内容にふれる。	1.5h	地域の子育て家庭への支援について理解を深める。	1.5h
8	特別な配慮を要する家庭への支援の実際（1）養育を必要とする家庭・外国にルーツのある家庭　■	1,3,4,5,10,16	事前に第7章ｐ123-p135について読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、特別な配慮を要する野支の支援の実際（1）養育を必要とする家庭・外国にルーツの禍る家庭について理解を深める。	1.5h
9	特別な配慮を要する家庭への支援の実際（2）障害児のいる家庭■	3,4,5,10,11	事前に第7章p137-p143を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、特別な配慮を要する家庭への支援（2）障害児のいる家庭について理解を深める。	1.5h
10	特別な配慮を要する家庭への支援の実際（3）多様な形の家庭への支援■	1,3,4,10,11,16	事前に第7章p144-p152を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、特別な配慮を要する家庭への支援（3）多様な形の家庭への支援について理解を深める。	1.5h
11	保育所と専門機関との連携■	3,4,5,10,11	事前に第8章p153-p167を読み、内容にふれる	1.5h	講義資料を読み返し、保育所と専門機関との連携について理解を深める	1.5h
12	子ども家庭支援における課題と展望	3,4.5,10,11,16	事前に第9章p168-p172を読み、内容にふれる	1.5h	講義資料を読み返し、子ども家庭支援における課題についての理解を深める	1.5h
13	子ども家庭支援における展望	3,4,5,8,10	事前に第９章p175-p181を読み内容にふれる	1.5h	講義資料を読み返し、子ども家庭支援における展望について理解を深める	1.5h
14	子ども家庭に対する支援の実際　様々な支援方法（ジェノグラム・エコマップ・箱庭療法）を体験する	3,4	事前に第４章p81を読み、内容にふれる	1.5h	講義資料を読み返し、家庭及び保護者への適切な相談支援について理解を深める	1.5h
15	子ども家庭支援についてのまとめ	1,3,4,10,11,16	今までやった資料を振り返り、総合的な内容を整理する	1.5h	講義資料をまとめ、総合的に子ども家庭支援のまとめをする	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

KEY　WORDS：子育て支援、家庭支援、子育て支援、虐待防止、子ども家庭
オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
（■は実務経験に基づく内容を示す）

印刷　閉じる

教育課程論A

英文名：School Curriculum A
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP203
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

三村　国宏

科目に関連した実務経験

公立学校の教歴：中学校教員、中等教育学校・高等学校の教頭、副校長、校長として学校と地域が連携・協働した教育活動の推進をする（経験）。研修歴：群馬県総合教育センター長期研修員「学校経営」、教育委員会の職歴：伊勢崎市教育委員学校教育課長及び教育プラン推進担当課長として学校や地域の教育課題の解決に務める（経験）。

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小・中学校教育における教育課程の意義や編成の方法について、学習指導要解説領総則編を活用して理論的に理解するとともに、学校の実情を踏まえた、現代的な教育的課題に対応するカリキュラム・マネジメントの重要性について理解する。本講義は、教科書に沿った講義を中心としつつ、関連した項目について、協議・演習を組み合わせたアクティブラーニングを目指す。また、授業後に行う授業感想記述等を活用して理解度を把握するとともに、レポートを課し課題解決力や小論文作成の技能を高める。資料の配布や課題の提出にはc-learningを用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予

習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際には、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。

到達目標

1.教育課程とは何かについて具体的に理解し、設問等に解答し、記述することができる。
2.教育課程が不易な教育的内容の定着を図るためにあるのと同時に、社会的背景を踏まえて編成されていることを理解する。
3.教育課程編成の基本原則を理解するとともに、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列することを例示できる。■
4.教育課程編成の主体である学校組織について理解を深め、家庭や地域と連携を含めカリキュラム・マネジメントの重要性を認識している。■

使用教材

学習指導要領解説総則編、幼稚園教育要領
また、その他必要な教材は講義内容ごとに配布する。

参考文献

講義中に適宜配布する。

評価方法

最終テストに40%、毎回の小テストの評価30%、日常点（リアクションペーパー、発表活動やグループ活動等の取組、貢献度等）に30%を配分して総合評価をする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業における取組の評価や課題のフィードバックはその都度行う。

オフィスアワー

水曜・１限、木曜・１限
教職支援センター

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育課程の視座	1,2	学習指導要領解説総則編（小）や幼稚園教育要領に目を通して講義目標等を理解し見通しをもつ。	1.5	授業目標や内容及び、教育課程の意義を理解する。	1.5
2	教育の目的と教育課程の編成■	1,2	学習指導要領解決総則編の資料により教育基本法等に目を通す。	1.5	教育の目的と教育課程の関連や編成の原理を理解する。	1.5
3	社会の変化と教育課程の変遷①	1,2	学習指導要領の資料「学習指導要領の改訂の経過」に目を通す。	1.5	昭和期の社会の変化と教育課程の関連について、自分の考えを説明できる。	1.5
4	社会の変化と教育課程の編成②	1,2	学習指導要領の資料「現行学習指導要領の改訂の背景」に目を通す。	1.5	平成以降の社会の変化と教育課程の関連及び、現行の学習指導要領の特徴について、自分の考えを説明できる。	1.5
5	幼児教育における教育課程■	2,3	現行の幼稚園教育要領改訂の背景等に目を通す。	1.5	幼児教育の変遷を理解するとともに、現行の学習指導要領の特徴について、自分の考えを説明できる。	1.5
6	初等教育と教育課程■	2,3	教育基本法や学校教育法に目を通し小学校教育の目的や目標を調べる。	1.5	各教科等の目標を踏まえて、具体的な単元において指導計画を構想する。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	中等教育と教育課程■	2,3	教育基本法や学校教育法に目を通し中校教育の目的や目標を調べる。	1.5	中等教育の変遷及び、現在の課題について理解し自分の考えを説明できる。	1.5
8	特別支援教育と教育課程■	2,3	特別支援教育にかかわる関連法規についてインターネット等で調べる。	1.5	特別支援教育の変遷やその課題を理解し自分の考えを説明できる。	1.5
9	学校における教育課程　学校要覧Ⅰ（小・中学校）■	2,3	教育実習に行く学校の概要について調べておく。	1.5	教育課程を具現化するために機能する学校体制を理解する。	1.5
10	学校における教育課程　学校要覧Ⅱ（特別支援学校）■	2,3,4	教育実習に行く学校の概要について調べておく。	1.5	教育課程を具現化するために機能する学校体制を理解する。	1.5
11	教育課程にかかわる諸課題Ⅰ（教科外の科目）■	2,3	学習指導要領で道徳科、外国語科、総合的な学習の時間等、現行の学習指導要領で教科化されるなど変化したもの目標や内容に目を通しておく。	1.5	目標の具現化に向けて教育課程をどう工夫するのか、自分の考えを説明できる。	1.5
12	教育課程にかかわる諸課題Ⅱ（特別な教育課程）	2,3,4	特別な教育課程を編成する学校（特例校）について調べておく。	1.5	不登校や外国籍の児童生徒を対象とした特例校について理解するともに、それぞれの課題に対しての自分の考えを説明できる。	1.5
13	教育課程にかかわる諸課Ⅲ（カリキュラム・マネジメント）■	2,3,4	学習指導要領から「カリキュラム・マネジメント」にかかわる文章に目を通す。	1.5	各学校の学校、家庭、地域が連携協働した教育課程、カリキュラム・マネジメントについて説明ができる。	1.5
14	教育課程にかかわる諸課題Ⅳ（個性や能力を伸ばす教育）	2,3	私立学校の教育課程や才能教育について調べておく。	1.5	公立学校と私立学校の教育課程の違いを理解し、公教育について自分の考えをまとめる。	1.5
15	教育課程にかかわる諸課題Ⅴ（諸外国の教育課程と令和の日本型学校教育）	1,2,3,4	インターネット等を活用して令和の日本型学校教育について調べておく。	1.5	諸外国の教育課程について知るとともに、その比較を通して日本が目指す令和の日本型学校教育について自分の考えを説明できる。	1.5

合計時間（予習・復習）

45

備考

毎回小テストや資料の提示をc-learningで行いますので、パソコン等を持参してください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

カリキュラム論

英文名：Curriculum Theory
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：CEP104
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
5 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

富田　純喜

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保育は意図的に実践を展開するものであり、計画や評価なしには成立しない。また、それらは所与のものではなく、長い歴史のなかで構想、構築されてきた。本講義では、カリキュラム研究の動向やカリキュラムに関する基礎的な理論、わが国に幼稚園が創設された明治初期から保育所・認定こども園の創設を経て今日に至るまでの保育内容等の変遷、さらには、保育の基本的な考え方を踏まえた計画の作成、評価の方法に関する理解を深めることを目標とする。
②授業は主に講義形式で進めるが、課題に取り組んでもらい、それを受講者全員で共有することもある。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

1.カリキュラムに関する基礎的な理論を説明できる。
2.保育に関するカリキュラムの変遷を説明できる。
3.保育における計画および評価の要点を説明できる。
4.保育実践とカリキュラムの関連を多角的な視点から考察できる。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

評価方法

試験（60%）、授業内課題（40%）

課題・評価に対するフィードバック方法

各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。

オフィスアワー

水曜5限、木曜5限（8号館406）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1	シラバスを読み、授業の概要を理解する。	1h	本講義で扱う内容について理解する。	1h
2	カリキュラムとはなにか	1	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	カリキュラムの意味と機能について理解する。	1.5h
3	制度としてのカリキュラム	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	カリキュラムを制度的側面から理解する。	1.5h
4	カリキュラムの必要性とその類型	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	カリキュラムの必要性と複数あるカリキュラムの類型を理解する。	1.5h
5	カリキュラムの諸要素	1,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	カリキュラムの要素と作用について理解する。	1.5h
6	カリキュラムの変遷（1）戦前から戦後	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育制度と保育内容の歴史的展開について理解する。	1.5h
7	カリキュラムの変遷（2）現行の要領・指針	2,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	現行の要領・指針に至るまでの変遷を理解する。	1.5h
8	教育課程・全体的な計画から指導計画へ（1）関係と特徴	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	教育課程・全体的な計画と指導計画の違いとそれらの関係を理解する。	1.5h
9	教育課程・全体的な計画から指導計画へ（2）編成と作成	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	編成および作成における基本事項を理解する。	1.5h
10	教育課程・全体的な計画から指導計画へ（3）指導計画作成の留意点	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	指導計画の作成における留意点を理解する。	1.5h
11	教育課程・全体的な計画から指導計画へ（4）各施設の違い	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	幼稚園・保育所・認定こども園の指導計画の違いを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	保育の評価（1）省察と記録	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	評価の基本となる省察と記録の意義を理解する。	1.5h
13	保育の評価（2）要録と新たな評価観	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	要録の記載内容を例に評価観の変化を理解する。	1.5h
14	保育の評価（3）カリキュラム・マネジメント	3,4	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育におけるカリキュラム・マネジメントの必要性と重要性を理解する。	1.5h
15	まとめ（これまでの授業の復習をとおして理解を深める）	1,2,3,4	第1～14回の内容を復習し、疑問点などを整理にする。	2h	授業内容を整理するとともに、関連する文献を読んで理解を深める。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。

印刷 閉じる

対人関係とメンタルヘルス

英文名：Human Rerations and Mental Health
科目区分：保育及び教育の基礎的理解
科目ナンバリング：A016
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
4 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木　典彰

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
日常生活における対人関係はメンタルヘルスに影響を及ぼす。本講義では、現代の対人関係の特徴や、対人関係に関連する心理学的な現象を学びながら、メンタルヘルスについて考える。
②講義の実施方法
双方向の授業のために、適宜質問をしたり意見を求めたりする。

到達目標

1.メンタルヘルスの重要性を理解する。
2.良好な人間関係を築くためのポイントを修得する。

使用教材

テキストは使用しない。適宜、資料等を配布する。

参考文献

福間詳 著　ストレスのはなし メカニズムと対処法　中公新書
その他、適宜紹介する。

評価方法

レポート課題70%、リアクションペーパー30%

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート課題の評価結果をフィードバックする。その方法は別途伝える。

オフィスアワー

初回授業時に伝える。
（8号館409研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	メンタルヘルスとは	1	「メンタルヘルス」を図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
2	良好な対人関係①	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
3	良好な対人関係②	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
4	カウンセリングマインド①	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
5	カウンセリングマインド②	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
6	現代人の心①	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
7	現代人の心②	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
8	人間の本能	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
9	ストレスとは	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
10	教師や保育者のストレス	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
11	ストレスへの対処法	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
12	ハラスメントについて	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
13	ひきこもりについて	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
14	人事評価について	1,2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
15	振り返り	1,2	講義全体を振り返る。	1.5h	講義全体のポイントを確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる ✕

乳児保育Ⅰ

英文名：Infant Care and Education I
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES151
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　麻美

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目:保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業では，乳児の発達を知り，発達に即した保育環境や保育内容について理解を深めることを目標とする。
授業は，講義形式のほか，グループワークやディスカッションを用いながら進める。講義形式の授業では，主にパワーポイントを使用する。そのほか，映像資料や事例など，具体的な保育実践がイメージできる教材を使用する。

到達目標

1.乳児の発達を理解する
2.乳児の発達に応じたかかわりの必要性について理解する
3.乳児の発達に応じた生活や遊びについて考えることができる
4.乳児保育において，一人一人に応じるための保育方法の必要性について理解する

使用教材

「保育所保育指針解説書」厚生労働省編著(フレーベル館)　2018年320円+税
「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)　2018年240円+税

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)　2018年350円+税
そのほか，資料を配布する。

評価方法

授業内で取り組むレポート（20%），最終試験（70%）に加え，授業への参加態度（10%）を加味して評価を行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題にはコメントや解説を付けて返却する。

オフィスアワー

金曜日1限，2限。メール対応可能。
（研究室：　8号館　5階 504　）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、乳児保育の概要	1,2,3,4	シラバスの内容を読んで，講義の目標等を理解する。	1.5h	講義内容，講義目標，到達目標，評価方法等を確認する。	1.5h
2	乳児保育の基本と実践　①乳児保育の実践を知る・グループディスカッション	1,2,3,4	これまで学んできた授業内容を乳児保育という視点から振り返える	1.5h	実践場面を見て気づいた内容を自分なりに整理する	1.5h
3	乳児保育の基本と実践　②まとめ	1,2,3,4	グループディスカッションを通して，考えたことをグループメンバーと整理する	1.5h	授業を通して得た気づきや考えを，保育所保育指針に照らし合わせながら理解を深める	1.5h
4	乳児保育の必要性と意義	1,2,3,4	乳児保育の必要性について，自分なりに考えてくる	1.5h	乳児保育の歴史的変遷と現在の乳児保育の意義について理解を深める	1.5h
5	0歳児の発達と保育　①身体・運動能力の発達	1,2,3,4	保育所保育指針解説書第2章を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
6	0歳児の発達と保育　②対人関係の発達	1,2,3,4	保育所保育指針解説書第2章を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
7	0歳児の発達と保育　③発達に即した保育環境	1,2,3,4	保育所保育指針解説書p108~112を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
8	1歳児の発達と保育　①身体・運動能力の発達	1,2,3,4	保育所保育指針解説書第2章を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
9	1歳児の発達と保育　②対人関係・言葉の発達	1,2,3,4	保育所保育指針解説書第2章を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
10	1歳児の発達と保育　③発達に即した保育環境	1,2,3,4	保育所保育指針解説書p112～115を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
11	2歳児の発達と保育　①自我の育ち	1,2,3,4	保育所保育指針解説書第2章を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
12	2歳児の発達と保育　②遊び	1,2,3,4	保育所保育指針解説書第2章を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
13	2歳児の発達と保育　③発達に即した保育環境	1,2,3,4	保育所保育指針解説書p112～115を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
14	乳児の生活（食事・基本的生活習慣の自立）	1,2,3,4	保育所保育指針解説書第2章を読み，予習する	1.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	乳児の発達過程とその理解の必要性について整理する	1.5h	乳児の発達過程に即した保育環境や援助方法について整理	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					する	

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は，C-learningを用いてオンデマンド型授業とします。

印刷 閉じる

障害児保育I

英文名：Childcare for Children with Disabilities I
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES152
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野田　敦史

科目に関連した実務経験

社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

現代は、幼稚園・保育所にも必ずと言ってよいほど障害を持った乳幼児が在籍している。その子どもに対して保育者は個別的にもクラス集団の中でも十分な保育の対応ができなければならない。まず、障害児保育を支える理念や歴史的変遷を理解し、障害児保育の実際について原理・原則を踏まえた実践方法の習得をめざす。次に、身体障害、知的障害、発達障害など様々な障害について知り、その特性を理解する。そして一人ひとりに合った援助の方法や環境構成について分析・提示する思考力の獲得をめざす。さらに障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。なお、授業の進め方としては、テキスト・ビデオ視聴をもとに講義し、テーマに基づく課題を提示し、アクティブラーニングの方法を用いて共有・理解の深化ができるよう実施する。

到達目標

1.障害児保育を支える理念・理論に基づく実践が示せる。
2.障害児保育の実践形態と効果・留意点を踏まえた保育者の実践が示せる。■
3.身体障害、知的障害、発達障害等の障害特性に基づく対応方法が示せる。■
4.障害児保育に必要な保護者や関係機関との連携の在り方について説明できる。■

使用教材

教科書：野田敦史・林恵編著「保育と障害のある子ども」みらい
その他、適宜レジュメを配布。DVDビデオも視聴する。

参考文献

適宜、授業で紹介。

評価方法

定期試験50%、演習貢献度25%、小テスト25%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レジュメは授業回１～２ごとに配布し、毎回、回収し評価点（A～C）を付けて返却する。
定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。

オフィスアワー

火曜２限と金曜1限、質問はメールでも受け付ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス　―障害児保育を学ぶ意義―		シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する。	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。	1.5h
2	障害とは	1	教科書　第1章，第2章の演習課題に目を通しておく	1.5h	医学モデル，社会モデル、ICFなどを理解する。	1.5h
3	発達と障害	1	教科書　第3章の演習課題に目を通しておく	1.5h	就学前までの発達における阻害要因などを理解する。	1.5h
4	障害児保育とその歴史	1	教科書　第4章の演習課題に目を通しておく	1.5h	日本の障害児・者観、障害児教育と保育のあゆみなどを理解する。	1.5h
5	肢体不自由児の理解と援助■	2,3,4	教科書　第5章の演習課題に目を通しておく	1.5h	肢体不自由の定義，程度，支援方法などを理解する。	1.5h
6	視覚障害の理解と援助■	2,3,4	教科書　第6章の演習課題に目を通しておく	1.5h	視覚障害の定義，程度，支援方法などを理解する。	1.5h
7	聴覚障害の理解と援助■	2,3,4	教科書　第7章の演習課題に目を通しておく	1.5h	聴覚障害の定義，程度，支援方法などを理解する。	1.5h
8	知的障害の理解と援助■	2,3,4	教科書　第8章の演習課題に目を通しておく	1.5h	知的障害の定義，程度，支援方法などを理解する。	1.5h
9	発達障害の理解と援助（1）AD/HD　LD■	2,3,4	教科書　第9章の演習課題に目を通しておく	1.5h	AD/HD　LDの定義，程度，支援方法などを理解する。	1.5h
10	発達障害の理解と援助（2）自閉症スペクトラム■	2,3,4	教科書　第10章の演習課題に目を通しておく	1.5h	自閉症スペクトラムの定義，程度，支援方法などを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	配慮を必要とする子どもの理解と援助■	2,3,4	教科書　第11章の演習課題に目を通しておく	1.5h	愛着障害の定義，原因，支援方法などを理解する。	1.5h
12	障害児保育の方法と形態	2	教科書　第12章の演習課題に目を通しておく	1.5h	分離保育と統合保育の違いについて理解する。	1.5h
13	個別の指導計画と個別の（教育）支援計画■	2,4	教科書　第13章の演習課題に目を通しておく	1.5h	個別の指導計画と個別の（教育）支援計画の違いについて理解する	1.5h
14	障害児保育の記録と評価■	2,4	教科書　第15章の演習課題に目を通しておく	1.5h	障害児現場における評価・記録の在り方などを理解する	1.5h
15	基本的生活習慣獲得の援助■	2,4	教科書　第16章の演習課題に目を通しておく	1.5h	障害を持つ子どもに対する基本的生活習慣獲得の援助方法について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

子どもと音楽

英文名：Music for Children
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B003
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本拡子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士・幼稚園教諭

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

乳幼児期の子どもの音楽表現について理解し，保育の中で子どもの遊びや音楽活動を豊かに展開するために必要な保育者の音楽表現の知識や演奏技法を習得する。
授業は演習形式で行い，グループワークを中心に進める。
毎時，取り組むテーマに関するプリントを配布し，要点について説明を行った後，グループで課題に取り組む時間を設ける。

到達目標

1．子どもの発達と音楽表現の基本について理解する。
2．基本的な歌唱法や楽器の奏法を習得し，音の出る仕組みについて理解する。
3．保育内容における音楽表現について理解する。
4．様々な音楽表現について理解し，豊かな音楽表現力を習得する。
5．音楽表現に必要な音楽の基礎的知識に関する理解を深める。

使用教材

こどものうた100(チャイルド社)，続こどものうた200（チャイルド社），はじめての楽譜の読み方(kmp)

評価方法

課題への取り組み10%，実技試験60%，筆記試験30%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎時，授業についての振り返りの時間を設け，課題を明確にし，改善点について助言を行う。

オフィスアワー

水曜日1限　金曜日2限
研究室　8号館4階404

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子どもの発達と音楽表現の基本について理解する。	1	シラバスをよく読み，授業内容について理解を深めておく。	1.5h	子どもの発達と音楽表現の基本について理解を深めておく。	1.5h
2	幼児の声帯と発声および歌唱表現の発達について理解する。	1	テキストの該当箇所を読み，事前に理解しておく。	1.5h	幼児，児童の歌唱表現の発達について理解を深めておく。	1.5h
3	基本的な発声法の習得　発声のメカニズム，姿勢，呼吸法	2	自身の歌唱表現についての課題を明確にしておく。	1.5h	授業で学んだ発声法について繰り返し復習する。	1.5h
4	保育内容における子どもの音楽表現について理解する。	3	テキストの該当箇所を読み，事前に理解しておく。	1.5h	保育内容における音楽表現について理解を深めておく。	1.5h
5	歌唱教材①　手遊び歌に関する知識と演奏技法を習得する。	3,4	手遊びについて予め下調べをしておく。	1.5h	授業で学んだ手遊び歌を繰りかえし練習する。	1.5h
6	歌唱教材②　乳幼児の歌唱曲に関する知識と演奏技法を習得する。	2,3,4	テキストの該当箇所を読み，事前に理解しておく。	1.5h	授業で学んだ曲を繰りかえし練習する。	1.5h
7	輪唱や合唱など，重なり合う声の響きを楽しむ音楽表現技法を習得する。	2,3,4	テキストの該当箇所を読み，事前に理解しておく。	1.5h	授業で学んだ曲を繰りかえし練習する。	1.5h
8	楽器作りと音遊び①　叩いたりこすったりして音を出す楽器の表現技法を習得する。	2,3,4	楽器作りにいかせる身近な材料を探しておく。	1.5h	製作した楽器を用いた音楽表現を行う。	1.5h
9	楽器作りと音遊び②　吹いたり吸ったりして音を出す楽器の表現技法を習得する。	1,2,3,4	楽器作りにいかせる身近な材料を探しておく。	1.5h	製作した楽器を用いた音楽表現を行う。	1.5h
10	手作り楽器を製作し，音の鳴る仕組みを理解する。	2,3,4	楽器作りにいかせる身近な材料を探しておく。	1.5h	手作り楽器を用いたアンサンブルの練習をしておく。	1.5h
11	器楽合奏　様々な楽器を組み合わせたアンサンブルの演奏技法を習得する。	2,3,4	様々な楽器の奏法について予め調べておく。	1.5h	課題曲の練習を行う。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	生活や遊びの中での音楽表現について理解する。	3,5	テキストの該当箇所を読み，事前に理解しておく。	1.5 h	生活や遊びの中でどのような音楽表現を用いているか理解を深める。	1.5 h
13	自然の中にある音に気づき，聴くことへの意識を高め，音の環境について理解する。	3,5	自然の中にある音，音環境について考えておく。	1.5 h	授業で学んだことをいかし，日常生活の中での音や自然音を書きだす。	1.5 h
14	子どもの音楽表現を引き出すための音楽的な環境構成について理解する。	3,5	テキストの該当箇所を読み，事前に理解しておく。	1.5 h	音楽的な環境構成について理解を深める。	1.5 h
15	音楽表現に必要な音楽の基礎的知識に関する理解を深める。	3,5	テキストの該当箇所を読み，事前に理解しておく。	1.5 h	音楽の基礎的知識について理解を深めておく。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

子どもと造形

英文名：Art and Craftwork for children
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B004
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

石原　綱成

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○	○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業は、実際の制作を通して、教育者・保育者に必要な専門的知識を身につけ、豊かな人間性を育むことを目標としている。さらに、造形表現を通して、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、豊かな人間性を持った保育者を養成する。

到達目標

1.子どもの造形原理を理解できる。
2.保育者に必要な造形への実践力が身につく。
3.保育現場にてすぐに役立つ造形の指導力がつく。
4.保育者に必要な人間力をつけることができる。

使用教材

授業中に行った制作を作品として提出することにより評価する。

参考文献

教科書は使用せず、逐次制作のプリントを配布する。必要な教材は別途指示する。

評価方法

授業中に逐次指示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回課題を出し、完成させる。
課題の意味や意義は毎回解説する。
制作のアドバイスは丁寧に行う。

オフィスアワー

月曜日3限、木曜日4限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	2	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する	1.5 h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する	1.5 h
2	子どもの絵画の原理を学ぶ①（子どもの絵画の造形原理）	1,2,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
3	子どもの絵画の原理を学ぶ②（対象へのまなざし）	1,2,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
4	子どもと画材①（クレヨンの特色と使い方を学ぶ）	1,2,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
5	子どもと画材②（絵の具の特色と使い方を学ぶ）	1,2,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
6	子どものイマジネーションを考える（糸引き版画とデカルコマニー）	1,2,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
7	画材の安全性の指導を理解する（マーブリングの実践）	1,2,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
8	保育者に必要なデッサン力（キャラクター作りの実践）	1,2,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
9	壁面構成の作成①（保育室にある小物を作る）	2,3,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
10	壁面構成の作成②（夏の壁面構成）	2,3,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
11	壁面構成の作成③（秋の壁面構成）	2,3,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
12	壁面構成の作成④（冬の壁面構成）	2,3,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
13	壁面構成の作成⑤（お誕生日の壁面構成）	2,3,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	造形表現と言葉かけ	2,3,4	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく	1.5 h	課題を完成させる	1.5 h
15	造形表現と保育者の関わり（提出課題の確認）	2,3,4	提出課題が完成しているか確認する	1.5 h	提出課題を完成させる	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業ごとに出された課題を実践することにより、演習形式で進める。試験は課題提出とする。また、制作を中心に授業を進めるが、途中で、制作に関する全体的なアドバイスをする。また、画材、文具等を指定することがある。

印刷 閉じる

子どもと絵本

英文名：Picture book for children
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B005
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本　拡子／今井　邦枝／村田　美和／小柳　聡美

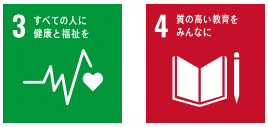
科目に関連した実務経験

今井：非常勤講師として幼稚園、小学校、子育て支援センターに勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士・認定絵本士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①絵本に関する専門的な知識・技能・感性を身につける。また、実際に絵本の魅力や可能性を伝え、教育・保育現場や地域の読書活動を充実させる役割を担うことができるようになることを目標とする。
②講義は、学科教員とゲストスピーカーでのオムニバスで実施する。各専門分野のゲストスピーカーの講義で、より専門的な知識を深めてもらう。

到達目標

1.絵本に関する専門的な知識、技能、感性を身につける。
2.絵本に関する活動の意義を理解し、教育・保育での実践力を養う。
3.絵本を通じて社会を豊かにできるような総合的なプロデュース力を身につける。

使用教材

絵本専門士委員会　認定絵本士養成講座テキスト（「第2版）　中央法規出版　2024　1,800円

参考文献

授業内に提示する。

評価方法

授業内課題70%、授業外課題30%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出したレポート、振り返りシートにコメントして返却する。

オフィスアワー

初回の授業時に伝える。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション【岡本】	1	教科書ｐ1～14までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	我が国の読書推進活動と認定絵本士の役割についてまとめる。	0.5h
2	絵本総論(絵本とは何か)【今井邦】	1	教科書ｐ16～21までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	「絵本」について理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
3	「絵本」について理解したことをレポートにまとめる。	1	教科書ｐ28～33までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	視覚表現や言語表現に特徴ある絵本を選び、分析してレポートにまとめる。	0.5h
4	さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本)【今井邦】	1	教科書ｐ46～51までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	物語を内容とした絵本について理解したことをまとめる。	0.5h
5	さまざまなジャンルの絵本②（昔話、童話を基にした絵本）【今井邦】	1	教科書ｐ52～57までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	昔話及び童話を題材にした絵本について理解したことをまとめる。	0.5h
6	さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本等)【今井邦】	1	教科書ｐ58～63までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	自然科学や社会科学に関する絵本について理解したことをまとめる。	0.5h
7	絵本を紹介する技術③（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割）【村田】	1	教科書ｐ120～127までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	障がい者、病児及び高齢者等、配慮が必要な人の絵本との関わりについて理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
8	絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術）【小柳】	1,2	教科書ｐ90～95までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	絵本検索に係る各手段と活用方法について理解したことをまとめる。	0.5h
9	絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）【小柳】	1,2	教科書ｐ108～113までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	ブックトーク及びビブリオトークについて理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
10	絵本を紹介する技術②(書評・紹介文の書き方)【小柳】	1,2	教科書ｐ114～119までを読み、疑問	0.25h	絵本の内容及び特質について理解したことをまとめる。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			点などを見つける。			
11	絵本の世界を広げる技術③（絵本コンシュルジュ術）【小柳】	1,2	教科書ｐ102～107までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解したことをまとめる。	0.5h
12	絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる）【ゲストスピーカー：浦中　・岡本】	1	教科書ｐ178～183までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	絵本作家の思いについて理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
13	絵本の世界を広げる技術②（ワークショップ）【ゲストスピーカー：横山・今井邦】■	1,2	教科書ｐ96～101までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	絵本を活用した表現活動について理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
14	おはなしの会の手法①（おはなしの会を開こう）【ゲストスピーカー：横山・今井邦】■	1,2	教科書ｐ128～133までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	「おはなしの会」について理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
15	おはなしの会の手法②（おはなしの会のテクニック）【ゲストスピーカー：横山・今井邦】■	1,2	教科書ｐ134～140までを読み、疑問点などを見つける。	0.25h	「おはなしの会」を実施して、理解したことをまとめるレポートにまとめる。	0.5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

ゲストスピーカー：横山由美子（おはなしの会）、浦中こういち(絵本作家)
認定絵本士を申請する場合は、全授業の8割以上の出席が必要です。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

子どもと遊び

英文名：Play for Children
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B006
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

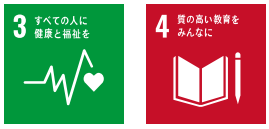
担当教員

内田　祥子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

幼児教育の原理を踏まえ、遊びによる総合的な指導と教師の役割について理解できるようにする。授業は教員の作成した資料に基づき、適宜映像資料を用いながら講義形式でおこなう。

到達目標

1.遊びによる総合的な指導について理解し説明ができる
2.遊びにおける教師の役割について理解し説明ができる
3.現代の遊びをめぐる状況を踏まえ、教師に求められている役割について説明できる
4.海外における保育実践の特徴やICTの活用に仕方について理解し説明できる
5.保育における記録の方法の基本を理解する

使用教材

幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

参考文献

授業時に紹介する

評価方法

授業内での課題30%・期末試験70%　※評価方法は初回にアナウンスする

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にコメントし返却する

オフィスアワー

月曜3限（8号館410研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児教育における指導とは	1,2	シラバスを読んでくる	0.5h	幼児教育における指導の特徴をまとめる	0.25h
2	幼児教育における遊びとは	1,2	幼児教育における遊びの位置づけをまとめる	0.5h	幼稚園教育要領解説の遊びに関する記述を読む	0.25h
3	幼児教育における総合的指導とは	1,2	総合的な指導の意味をまとめる	0.5h	幼稚園教育要領解説の総合的指導に関する記述を読む	0.25h
4	幼児期の発達特性と幼小連携：生活概念の形成	1,2,3	子どもの遊びにおける学びとはどのようなものかを考える	0.5h	幼小連携における課題を考える	0.25h
5	遊びにおける「主体的・対話的で深い学び」とは	1,2,3	キーワードについて調べる	0.5h	実践例を考える	0.25h
6	3歳児の発達と遊び環境	1,2,3	3歳児の発達段階について調べる	0.5h	実践例を考える	0.25h
7	4歳児の発達と遊び環境	1,2,3	4歳児の発達段階について調べる	0.5h	実践例を考える	0.25h
8	5歳児の発達と遊び環境	1,2,3	5歳児の発達段階について調べる	0.5h	実践例を考える	0.25h
9	保育者に求められる遊び指導者としての役割	1,2,3	保育者のあそびにおける役割について考える	0.5h	現代の保育者に求められる役割を考える	0.25h
10	現代の遊びをめぐる状況	1,2,3	遊び環境の変化を調べる	0.5h	遊び環境の変化要因をまとめる	0.25h
11	海外の保育アプローチ①フレーベル	4	フレーベルについて調べる	0.5h	日本の保育との違いをまとめる	0.25h
12	海外の保育アプローチ②モンテッソーリ	4	モンテッソーリについて調べる	0.5h	日本の保育との違いをまとめる	0.25h
13	ICTを活用した保育実践	4	保育における情報機器の活用方法を調べる	0.5h	遊びの指導におけるICTの活用事例を考える	0.25h
14	保育における記録の役割	5	保育における記録の役割を調べる	0.5h	記録の方法を理解し、課題に取り組む	0.25h
15	保育における記録の役割（実践編）	5	時系列記録を作成する	0.5h	記録の方法を理解し、課題に取り組む	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

オンラインで実施する場合は、オンデマンド形式を中心とする。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

幼児と健康

英文名：Health in Early Childhood
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES105
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

山西　加織

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士・レクリエーションインストラクター

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①乳幼児期の心身の健康および発育発達について理解を深め、子どもに必要な体験とは何かを学ぶ。また、園生活をとおして子どもたちが心と体の健康を培っていくために、保育者として子どもの運動遊びや基本的生活習慣の形成、安全等をどのように支え、役割を果たしていけばよいのかを考えていく。
②パワーポイントや視聴覚メディア（DVD）等を活用し、講義とグループワークで授業を進める。「運動遊びの実際」の回では、実技を中心に補足説明を加えながら進め、終了後に毎回レポート課題を課す。

到達目標

1.乳幼児期における心身の発達に関する知識を身につける。
2.幼児期の運動発達の特徴と発達に必要な運動経験を説明できる。
3.幼児期の生活習慣形成と安全教育に関する意義や基本的な考え方を理解している。
4.子どもの健康をめぐる現代的課題とその背景を理解している。

使用教材

教科書「乳幼児の健康―教育・保育に向けた計画と実践―〈改訂版〉」宮下恭子監修・茗井香保里・平山素子・山西加織編著（大学図書出版）、幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省）、幼稚園教育要領解説（文部科学省）、その他適宜資料を配布する。

参考文献

授業時に紹介する。

評価方法

授業への参加度（30%）、貢献度（10%）、レポート課題（30%）、筆記試験（30%）を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。期末試験後に、問題出題の意図を説明する。

オフィスアワー

月曜日5時限、火曜日5時限
（8号館505研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 子どもの健康とは	1	教科書第1章を読み、子どもの健康について興味関心を高める。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
2	子どもの健康をめぐる現代的課題	1,4	子どもの健康や運動経験で課題となっていることを新聞、雑誌、インターネット等で調べる。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
3	乳幼児期の身体発達	1,2	教科書第1章（12～24頁）をよく読む。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
4	乳幼児期の運動発達	1,2	教科書第2章（25～34頁）をよく読む。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
5	子どもの体力・運動能力	1,2,4	教科書第2章（47～57頁）をよく読む。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
6	子どもの健康な生活習慣の獲得	1,3	教科書第2章（64～78頁）をよく読む。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
7	子どもの安全への配慮と安全教育	1,3	教科書第2章（79～82頁）、第3章（123～132頁）をよく読む。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
8	幼児期の運動遊びや身体活動	1,2	幼児期の運動遊びや身体活動をいくつか挙げ、対象年齢や遊び・活動内容をノートにまとめる。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
9	多様な動きを引き出す運動遊びの実際（1）3歳未満児	1,2,3	3歳未満児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	1.5 h	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	1.5 h
10	多様な動きを引き出す運動遊びの実際（2）3歳児	1,2,3	3歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	1.5 h	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	多様な動きを引き出す運動遊びの実際（3）4歳児	1,2,3	4歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	1.5 h	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	1.5 h
12	多様な動きを引き出す運動遊びの実際（4）5歳児	1,2,3	5歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	1.5 h	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	1.5 h
13	多様な動きを引き出す運動遊びと環境構成	1,2,3	授業で取り上げた遊びについて、環境構成を考えノートにまとめる。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
14	これからの子どもの健康づくり	4	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
15	まとめ　定期試験	1,2,3,4	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5 h	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ（体育館用、外履き用）を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。

印刷　閉じる

幼児と人間関係

英文名：Human Relationships in Early Childhood
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES106
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

内田　祥子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項を理解することを目指す。授業では、様々な保育事例を紹介しながら、子どもの発達や指導方法について具体的に講義する。

到達目標

1.乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明することができる。
2.保育内容「人間関係」の位置づけを理解し、説明することができる。
3.「人間関係」の育ちを促す保育者の援助について理解し、説明することができる。
4.「人間関係」をめぐる現代的課題について理解し説明することができる。

使用教材

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「認定こども園保育・教育要領解説」

参考文献

授業時に紹介する

評価方法

授業の取り組み30%　期末試験70%　※評価の具体的方法と基準は初回にアナウンスする

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にコメントし、返却する

オフィスアワー

月曜3限（8号館410研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業概要・評価方法の確認	1,2	シラバスを読んでくる	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
2	乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題	1,2	幼稚園教育要領等の「人間関係」のねらいと内容を読んでくる	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
3	乳幼児期の発達と領域「人間関係」①身近な大人との関わり	1,2	保育者が人間関係に果たす役割を考えてみよう	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」②保育者の関わり	1,2	保育者が人間関係に果たす役割を考えてみよう	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
5	乳幼児期の発達と領域「人間関係」③幼児同士のかかわり	1,2	幼児のいざこざの特徴を考えてみよう	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
6	乳幼児期の発達と領域「人間関係」④遊びと生活	1,2	遊びにおける人間関係の特徴を考えてみよう	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
7	自立心の発達過程	1,2	自立心はどのように発達するのかを考えてみよう	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
8	事例を通じて考える自立心の育ちと援助	1,2,3	援助方法を考えてみよう	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
9	協同性の発達過程	1,2,3	幼児の協同性の発達について考えてみよう	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
10	事例を通じて考える協同性の育ちと援助	1,2,3	協同性をはぐくむ保育活動について考える	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
11	道徳性・規範意識の芽生え	1,2,3	規範意識の発達について考えよう	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
12	事例を通じて考える規範意識の育ちと援助	1,2,3	児童期の人間関係について考える	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
13	保育における人間関係の育ちを支える環境	3,4	年間を通してどのような行事があるかをまとめてくる	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					習課題	
14	家庭との関わりと人間関係	1,2,3,4	保育者と保護者との関わりについて考える	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h
15	地域の人々との関わりと人間関係	1,2,3,4	地域にどのような人がいるかをまとめてくる	1.5h	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合はオンデマンド形式を中心とする。

印刷 閉じる

幼児と環境

英文名：Environment in Early Childhood
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES107
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

石川　徹

科目に関連した実務経験

保育士として保育所に勤務（経験）
幼稚園教諭として幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本講義では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養うことを目的とし、子どもにとって身近な環境との関わり、発達等に必要な領域「環境」についての知識や技能を身に付ける。さらに領域「環境」の指導の基礎となる現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題及び子どもにとって望ましい環境はどのような環境であるのか授業を通して学んでいく。
毎時間講義内容に関するプリントを配布する。内容については、講義内容を基礎としながら、その内容がどのように保育実践に活かされているのかを想定しながら進めていく。

到達目標

1．乳幼児を取り巻く環境(人的環境・物的環境・自然環境)を理解する。
2．領域「環境」への乳幼児の関わり方が説明できる。

3．領域「環境」に関する知識・技能を身に付ける。■
4．乳幼児の物理的、数量・図形との関わりが説明できる。
5．乳幼児の自然物との関わりに必要な事項を説明できる。
6．乳幼児期における環境の重要性を理解する。

使用教材

教科書①　「幼稚園教育要領解説」平成30年3月
教科書②　「保育所保育指針解説」平成30年3月
教科書③　「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」平成30年3月
教科書④　「新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　環境」無藤隆・福元真由美、萌文書林、2018年、2,100円

評価方法

筆記試験(50%)、課題等への取組(30%)、発表(20%)

課題・評価に対するフィードバック方法

・提出物等は適宜返却するので、各自見直しを行うこと。

オフィスアワー

水曜1、2限（研究室301）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	現代社会を取り巻く乳幼児の環境について　－ディスカッション－	1,2	子どもを取り巻く環境の実態について調べておく。	1.5 h	乳幼児を取り巻く現代社会の環境について理解する。	1.5 h
2	子どもにとっての身近な環境とは　－領域「環境」との関わり方について－	2,3	教科書①、②、③及び教科書④の第2章を読んでおく。	1.5 h	領域「環境」について理解を深める。	1.5 h
3	乳幼児期・児童期の認知的発達と環境との関係	2.6	教科書①、②、③及び教科書④の第1・2章を読んでおく。	1.5 h	乳幼児期・児童期の認知的発達と環境との関係について理解を深める	1.5 h
4	乳幼児期の生活に関連の深い情報との関わり　－子どもの興味・関心にあった素材とは－■	2,3	子どもが興味・関心を抱く素材とは何かを考えておく。	1.5 h	乳幼児期に適した素材とは何かを理解する。	1.5 h
5	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり①　－身近な素材を用いたおもちゃの理解－	3,4	教科書①、②、③及び教科書④の第5・6章を読んでおく。	1.5 h	数量・図形に関する学びの実際について理解する。	1.5 h
6	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり②　－身近な素材を用いたおもちゃの発表－	3,4	身近な素材を用いたおもちゃの作成を行う。	1.5 h	作成したおもちゃの評価と改善を行う。	1.5 h
7	乳幼児の自然物との関わり①－保育場面を想定した栽培方法の検討－■	3,5	保育場面で栽培されている自然物を調べておく。	1.5 h	保育場面で栽培されている自然物の栽培方法や配慮事項を理解する。	1.5 h
8	乳幼児の自然物との関わり③－身近な生物探し－	1,5	子どもを取り巻く身近な環境にどのような生物がいるか調べておく。	1.5 h	身近にいる生物が子どもの発達にどのような影響を与えるのか理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	乳幼児の自然物との関わり④ －自然を活用したアクティビティの理解－	1,5	子どもの身の回りにある自然を活用した遊びを調べておく。	1.5h	ネイチャーゲームなどの自然を生かした遊びを知り、どのように実践するのかを理解する。	1.5h
10	乳幼児の自然物との関わり⑤ －栽培物の収穫－	2,5	栽培物の収穫時の注意点を調べておく。	1.5h	栽培物をどのように保育の中に取り入れるのか理解する。	1.5h
11	乳幼児の環境を題材としたオリジナルカード作り　－絵、文字、図形、マーク等－	2,4	環境を題材としたオリジナルカード作りの案を考える。	1.5h	どのような文字、図形、マーク、素材を使用して作成するのか理解する。	1.5h
12	オリジナルカードの実践	4,6	カード作成時に使用する材料、素材等の準備を行う。	1.5h	カードを実際の保育場面でどのように活用するのか考える。	1.5h
13	園外の様々な環境体験　－幼児向けマップの作成－	5,6	園外にはどのような自然や施設があるのか調べておく。	1.5h	幼児向けマップ作成の手順を理解する。	1.5h
14	文化と伝統に触れる　－園行事から考える－	1,6	日本の文化と伝統について調べておく。	1.5h	どのような園行事があるのか理解する。	1.5h
15	子どもにとって望ましい環境とは　－グループワーク－	1,6	教科書④の第9章を読んでおく。	1.5h	子どもにとって望ましい環境とは何か理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・教科書①、②、③については読み込んでおくこと。
・質問等がある場合は授業の前後及びメールまたはオフィスアワーにて応じる
■：実務経験に基づく内容を示す

印刷　閉じる

幼児と言葉

英文名：Language in Early Childhood
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES108
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　邦枝

科目に関連した実務経験

非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務（経験）
非常勤職員として子育て支援センターに勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を、具体的な乳幼児の姿や児童文化財を通して身に付ける。
授業は、講義形式と個人発表を含むグループワーク形式で実施する。

到達目標

1．言葉の意義や機能を理解する。
2．言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。■
3．乳幼児とっての児童文化財（絵本・パネルシアター・エプロンシアターなど）の意義を理解する。■
4．言葉を育てる環境について理解する。

使用教材

ことばと保育(改訂版)　近藤幹生他４名著　ひとなる書房　2016

参考文献

授業内で提示する。

評価方法

作品30%、発表と課題レポート40%、毎時間の授業振り返りシート30%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題、振り返りシートにコメントし、返却する

オフィスアワー

月曜日３・４限（５０７研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能をどのように理解していくのか、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。	1,4	シラバス、教科書p2－29を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業の内容に関する復習をする。	1.5h
2	言葉の意義や機能について、「言葉獲得前の伝え合い」（共同注意）を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な乳幼児の姿を基に理解する。	1,4	教科書p32－42を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業の内容に関する復習をする。	1.5h
3	言葉の意義や機能について、「言葉による伝え合い」（コミュニケーションとしての機能）を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解する	1,4	教科書p43－64を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業の内容に関する復習をする。	1.5h
4	言葉の意義や機能について、「文字の意味や役割」（文字の機能）を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解する。	1,4	教科書p65－79を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業の内容に関する復習をする。	1.5h
5	幼児にとっての児童文化財の重要性を理解し、様々な児童文化財について種類や特性を理解する。■	2,3	教科書p100－133を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業の内容に関する復習をする。	1.5h
6	様々な絵本を実際に読むことを通して、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に話し合う。■	2,3	絵本を保育に用いるための教材研究をする。	1.5h	保育に用いる絵本についてまとめる。	1.5h
7	様々なパネルシアターを分析することで、描かれている子どもの姿を読み解き、子ども理解を深めるとともに保育教材として教材研究をする。■	2,3	教材とするパネルシアターを選び、その理由について考える。	1.5h	パネルシアターの分析から明らかになったことをまとめる。	1.5h
8	パネルンシアターの題材を決め、乳幼児が楽しめるような工夫を考える。■	2,3	絵本・物語・歌から題材を決める。	1.5h	作品が楽しくなるように工夫し、製作する。	1.5h
9	保育教材パネルシアターを製作する。■	2,3	作品が楽しくなるように工夫し、製作する。	1.5h	作品が楽しくなるように工夫し、製作する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	制作したパネルシアターを発表するための留意点を考え、その留意点を踏まえて発表できるようにする。■	3	完成した作品を演じて、発表の仕方を考える。	1.5h	発表の練習をする。	1.5h
11	作品の発表①	3	発表の準備をする	1.5h	発表について振り返り、改善点を考える。他の人の発表を見て、工夫点や改善点を考える。	1.5h
12	作品の発表②	3	発表の準備をする。	1.5h	発表について振り返り、改善点を考える。他の人の発表を見て、工夫点や改善点を考える。	1.5h
13	作品の発表③	3	発表の準備をする。	1.5h	発表について振り返り、改善点を考える。他の人の発表を見て、工夫点や改善点を考える。	1.5h
14	様々なエプロンシアターを分析することで、描かれている子どもの姿を読み解き、子ども理解を深めるとともに保育教材として教材研究をする。■	2,3	教材とするエプロンシアターを選び、その理由について考える。	1.5h	エプロンシアターの分析から明らかになったことをまとめる。	1.5h
15	言葉を育てる環境について、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。	4	教科書p80－99を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業の内容に関する復習をする。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・作品発表については、各自事前に準備をすること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

幼児と表現

英文名：Arts and Expression in Early Childhood
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES109
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本　拡子　石原　綱成

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境について実践的に学び，幼児期の表現活動を援助するための知識・技能・表現力を習得する。
授業に臨んでは予習・復習をしておくこと。授業は演習形式で実施し，ディスカッションや発表を中心に進める。
毎時，取り組むテーマに関するプリントを配布し，要点について説明を行った後，グループで課題に取り組む時間を設ける。

到達目標

1．幼児の表現の姿やその発達過程を理解する。
2．音楽表現の基礎的な知識・技能を学び，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
3．造形表現の基礎的な知識・技能を学び，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
4．様々な表現の基礎的な知識・技能を学び，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。

使用教材

幼稚園教育要領解説，保育所保育指針解説，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

参考文献

その他必要に応じて資料を配布する。

評価方法

課題への取り組み30%，期末レポート70%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回授業終了時に振り返りを行い，個々の課題を明確化し共有する。
期末レポートについては個々の課題を明確に示したコメントを付して返却する。

オフィスアワー

岡本：水曜日1限　金曜日2限
研究室　8号館4階404
石原：月曜日3限　木曜日4限
研究室　8号館5階501

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	領域「表現」のねらい及び内容について理解する(その１)(岡本)。 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて理解する。	1	保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領，幼稚園教育要領に示される領域「表現」のねらい及び内容を読んでおく。	1.5h	領域「表現」についての理解を深めておく。	1.5h
2	領域「表現」のねらい及び内容について理解する(その２) (岡本)。 自分自身の表現を振り返り，その生成過程における「感じる・気づく・考える」といった内的な作用の重要性やモノとの関わりについて理解する。	1	自分自身の表現の生成過程の振り返りをおこなう。	1.5h	領域「表現」についての理解を深めておく。	1.5h
3	乳幼児の表現の発達を理解する(その１) (岡本)。 映像や事例から，乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解し，幼児の素朴な表現に気づき，共感的に理解する。	1	テキストの当該箇所を熟読する。	1.5h	視聴したビデオに関する課題をまとめる。	1.5h
4	幼児の表現の発達を理解する(その２) (石原)。 小学校低学年における音楽科や図画工作科での学習内容を低学年の学習指導要領や教科書から理解し，学びの連続性について考える。	1,2,3,4	テキストの当該箇所を熟読する。	1.5h	表現における学びの連続性に関する課題をまとめる。	1.5h
5	乳幼児の表現を育むための環境について理解する(岡本)。 乳幼児が，どのように身体の諸感覚を通して環境と対話し，豊かな感受性を育むか，そのために必要な環境とは何かについて，実際に自身と環境との対話を通して理解する。	1,2,3,4	テキストの当該箇所を熟読する。	1.5h	表現と環境に関する課題をまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び(その１) (岡本)。 生活や遊びの中にある音や声の面白さに気づく。声や動き等，自ら創り出す音の多様性を生かした表現をおこなう。	1,2	予習課題を行う。	1.5h	身近な音に関する課題をまとめる。	1.5h
7	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び(その２) (岡本)。 声や楽器などを用いて，応答的な音楽表現を即興的に行う。	1,2	予習課題を行う。	1.5h	音楽表現に関する課題を行う。	1.5h
8	音・歌遊びがどのようにして「学び」に繋がるのかを理解する(岡本)。 簡易な楽器を用いて，乳幼児の発達に即したリズム遊びの展開について考える。わらべうたや手遊び歌を体験することを通して，乳幼児の「音楽を通した学び」について考える。	1,2	予習課題を行う。	1.5h	音楽表現に関する課題を行う。	1.5h
9	身の周りの様々な素材を用いた造形遊び(その１) (石原)。 　絵具やクレヨン等，様々な画材に触れ，その特性を生かした造形表現を体験する。	1,3	予習課題を行う。	1.5h	造形表現に関する課題を行う。	1.5h
10	身の周りの様々な素材を用いた造形遊び(その２) (石原)。 折り紙，布，廃材など，様々な造形遊びに用いる素材に触れ，その特性を生かした造形表現を体験する。	1,3	予習課題を行う。	1.5h	造形表現に関する課題を行う。	1.5h
11	造形遊びがどのようにして「学び」に繋がるのかを理解する(石原)。 身近な素材を用いて，乳幼児の発達に即した造形遊びの展開について考える。絵を描くことや遊びに用いるモノを作る体験をすることを通して，乳幼児の「造形を通した学び」について考える。	1,3	予習課題を行う。	1.5h	造形表現に関する課題を行う。	1.5h
12	コミュニケーションとしての表現活動について理解する(岡本)。 表現は対象への呼びかけ-応答であるコミュニケーションとして成り立つことを体験し，表現を生成する過程を分析的にとらえる。楽しさを生み出す要因について理解を深める。	1,4	予習課題を行う。	1.5h	楽しさを生み出す表現の要因に関する課題を行う。	1.5h
13	乳幼児の表現を読み取る力を身に着ける(岡本)。 乳幼児の表現する姿をみることを通して，何を感じ，どのように表現しようとしているのかを理解する。素朴な表現を見出し，受け止め，共感的に理解し分析的に読み取る力を習得する。	1,4	予習課題を行う。	1.5h	表現の読み取りや理解に関する課題を行う。	1.5h
14	音楽・身体・造形的な表現を統合し，総合的表現として乳幼児の表現を理解する(石原)。 様々な表現媒体を用い，それらを統合した	1,2,3,4,5	予習課題を行う。	1.5h	総合的表現として乳幼児の表現を理解に	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	劇遊びを体験することを通して，総合的な表現としての乳幼児の表現とそのために必要な環境について理解する。				関する課題を行う。	
15	ICTの活用と総括(石原) ICTを活用した表現活動の実践例を具体的に考える。学習のまとめを発表する。	1,2,3,4,5	予習課題を行う。	1.5h	ＩＣＴを活用した表現活動に関する課題を行う。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

国語

英文名：Japanese Language
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES201
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

菅野　陽太郎

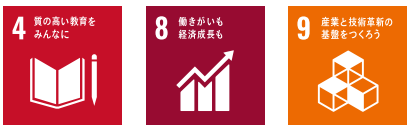
科目に関連した実務経験

中学校での国語科の指導（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
小学校学習指導要領国語の目標及び内容を理解するとともに、国語に関する能力を高め、授業を構想するための基礎を養う。
②講義の実施方法
学習指導要領の目標及び内容の理解と、各内容に関わる知識・技術を高めることを目的として、講義形式の授業のほか、ワークショップ等の活動をおこなう。

到達目標

1．学習指導要領に示される国語科の目標及び内容について理解することができる。
2．国語科の内容に関する知識・技術を高めることができる。■

3．国語および国語科教育に関する諸問題について関心をもつことができる。
4．小学校国語科の代表的な教科書教材から、学習内容を構想することができる。

使用教材

『小学校学習指導要領』，授業配布プリント，課題図書1冊（詳細は初回授業にて説明する）

評価方法

・課題の提出状況及び内容（60%）　・レポート（40%）
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにコメントをつけて返却する

オフィスアワー

水曜2限・木曜2限（8号館506研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（学習上の留意点、全15回の概要など）	1,3	シラバスを読んで、講義の概略について知る。	1h	講義内容・到達目標・評価方法を確認し、課題図書を選定する。	2h
2	国語とは何か（言語によるコミュニケーションについて、国語科の成立など）	1,3	現代における国語に関する課題について考えたり調べたりする。	1h	学習指導要領の目標と内容に目を通す。	2h
3	「話すこと・聞くこと」について	1,2,3	紹介する事物・対象についての内容をまとめる。	1.5h	話し手あるいは聞き手として必要なことについて考える。	1.5h
4	話しことばと書きことばの違いについて	1,2,3	話しことばと書きことばの特徴について考えをまとめる。	1.5h	日常生活における話しことばと書きことばに関する問題について考える。	1.5h
5	助詞について	1,2,3	配布された資料を読み、課題に取り組む。	1.5h	授業時に示されたテーマに沿って、例文を作成する。	1.5h
6	語順について	1,2,3	配布された資料を読み、課題に取り組む。	1.5h	授業時に示されたテーマに沿って、例文を作成する。	1.5h
7	「読むこと」について(1)文学的文章	1,2,3,4	指定された文章を読み、自身の解釈をまとめる。	1.5h	講義内容を振り返りながら、文学的文章教材を読む。	1.5h
8	「読むこと」について(2)説明的文章	1,2,3,4	指定された文章を読み、題材・内容を整理する。	1.5h	講義内容を振り返りながら、説明的文章教材を読む。	1.5h
9	「書くこと」について(1)論理的な文章を書く	1,2,3,4	論理的な文章を書くために必要なことについて考えをまとめる。	1h	講義内容を振り返りながら意見文を書く。	2h
10	「書くこと」について(2)説得力を高める	1,2,3,4	前回の内容を確認する。	1h	講義内容を振り返りながら意見文を書く。	2h
11	漢字の成立と説文解字、漢字政策などについて	1,2,3	自身の漢字に関する知識についてまとめる。	1h	講義で示された課題に取り組む。	2h
12	書写(1)字体と字形、点画など■	1,2,3	手書きされた文字に関する考えをまとめる。	1h	講義で示された課題に取り組む。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	書写(2)筆順など■	1,2,3	筆順に関する考えをまとめる。	1h	講義で示された課題に取り組む。	2h
14	書写(3)正しく整った字を書くために■	1,2,3,4	教員として必要な書字に関する能力について考える。	1h	講義で示された課題に取り組む。	2h
15	読書行為と読書指導	1,2,3	課題図書を読み終える。	1.5h	国語科における読書指導の意義について考えをまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・小学校学習指導要領および小学校学習指導要領解説国語編については、授業時に適宜該当箇所を紹介するが、各自必要に応じて購入（「小学校学習指導要領解説国語編」文部科学省・東洋館出版社・2018・175円）したり、文部科学省ホームページで確認したりすること。
・課題図書についての詳細は初回授業にて説明する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

社会

英文名：Social Studies
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES202
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

栗原　幸正

科目に関連した実務経験

・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務（経験）
・市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○		○		○		○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

・社会科の授業で活用するパワーポイント資料に加え、地図や新聞等の作成活動を通して、授業を受ける子供側視点にたったアクティブラーニングの在り方を体験的に習得する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

社会認識に係る社会科の意義と内容について、具体的事例を通して、理論や歴史的背景等を元に考察し、理解する。また、社会科の授業づくりにおいて必要な方法を習得する。学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議・演習を組み合わせて、アクティブ・ラーニングを目指す。また、授業後に行う授業感想記述の入力・作成を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。小テストや小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。
なお、オンラインでの授業になった場合も、本シラバスの内容に沿った授業内容で個人発表等もC-learningのレポート機能を用いて実施する。

到達目標

1.主に小学校社会科の学習内容について、具体的な事例を通して理解し、指導の見通しを持つことができる。
2.社会科における現代的課題について討議し、自分の考えを説明することができる。■
3.社会科の授業づくりに必要な知識や方法並びにその意義を習得することができる。■

使用教材

小学校学習指導要領解説社会編

参考文献

講義内容に準じて適宜印刷配布する。

評価方法

定期試験（小論文を含む）５０％　　日常の提出物（小テストや感想を含む）やプレゼンテーション（５０％）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。

オフィスアワー

8号館１階　学部長室　　水曜日2限・金曜日2限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（北海道に係る地域学習の導入示範授業）・群馬の農業に係る協議。	1,3	小学校学習指導要領解説社会編に目を通しておく。	2h	示範授業からの気づきをカードに記述しておくと共に、講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。	1h
2	社会科の目標と内容の概略説明。社会科個人調査活動ガイダンス。	1	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所に目を通しておく。	1.5h	社会科の目標と内容について理解すると共に社会科個人調査活動の目的・方法を理解する。	1.5h
3	第3学年の内容（地域学習の解説）	1	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所に目を通しておく。	2h	第3学年の学習内容の特色と留意点について理解する。社会科個人調査活動に取り組む。	1h
4	第3学年の内容（絵地図づくり演習）	2,3	社会科における絵地図とはどのような教育的な効果があるのか調べておく。	1.5h	3年生の児童に効果的な絵地図の見本作成に取り組む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	第4学年の内容（地域学習の目標と内容）と社会科個人調査発表①	2,3	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所に目を通しておく。	1.5h	第4学年の内容について理解する。	1.5h
6	「社会に開かれた教育課程」と社会科と社会科個人調査発表②	1,3	「社会に開かれた教育課程」について、インターネット等を用いて調べておく。	1.5h	コミュニティスクールが社会科教育に貢献できる内容についてまとめておく。	1.5h
7	第3・4学年の実践から学ぶ①（佐々木実践：地域の介護施設＝命の授業）・社会科個人調査発表③■	2,3	事前配布の実践資料に目を通しておく。佐々木実践の意義について検討しておく。	1.5h	佐々木実践を理解し、概要をノートにまとめておく。	1.5h
8	第3・4学年の実践から学ぶ②（佐々木実践の授業研究）・社会科個人調査発表④■	1,3	佐々木実践の概要をまとめたノートを読み、実践を振り返っておく。	1.5h	実践を通して体験学習の重要性や保護者参加型授業の必要性について理解する。	1.5h
9	第5学年の内容（国土学習・食料学習）・社会科個人調査発表⑤	1	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所に目を通しておく。	2h	第5学年の国土学習と食料学習の特色と留意点について整理しノートにまとめる。	1h
10	第5学年の内容（工業・情報・環境学習）・社会科個人調査発表⑥	1	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所に目を通しておく。	1.5h	第5学年の工業・情報・環境学習の特色と留意点について整理しノートにまとめる。	1.5h
11	第5学年の実践から学ぶ（栗原実践：野菜づくり）・社会科個人調査発表⑦■	1,3	事前配布の実践資料に目を通しておく。	1.5h	栗原実践の意義について整理しまとめる。	1.5h
12	社会科と新聞Ⅰ（社会科とNIE教育）・社会科個人調査発表⑧■	2,3	小中高の社会科関連の授業を想起し、新聞が使われた授業を記述しておく。	1.5h	社会科において、新聞を資料として用いることの効果と課題についてまとめる。	1.5h
13	社会科と新聞Ⅱ（家族新聞づくり演習）・社会科個人調査発表⑨	1	新聞づくりについて、関係資料やインターネット等で調べておく。	1.5h	5年生の児童における新聞づくりの示範となる家族新聞を作成する。	1.5h
14	第6学年の内容（歴史学習・政治学習）と社会科と新聞Ⅲ（新聞投稿演習）・社会科個人調査発表⑩	2,3	小学校学習指導要領解説社会編の関係する箇所に目を通しておく。日本の現代的な社会科的問題についての情報を集めておく。	1.5h	歴史学習・政治学習における指導上重要なポイントをノートに整理し、必要な知識を中学校の歴史・公民の教科書を通して習得する。社会科における態度化の一つとして新聞投稿に挑戦する。	1.5h
15	社会科教育のまとめと期末試験・社会科個人調査発表⑪	1,3	小学校学習指導要領解説社会編と配付資料に目を通しておく。	1.5h	社会科教育の内容と目的について、講義をもとにまとめておく。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・PowerPointを活用できる準備しておく。
・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

算数

英文名：Elementary Mathematics
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES203
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大橋　博

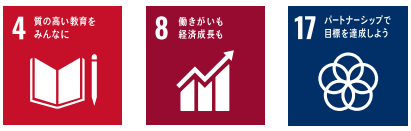
科目に関連した実務経験

小学校教諭として公立小学校に26年間勤務。

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①小学校算数科の授業を構成・実施する上で、基盤となる算数の知識や考え方について理解を深める。
②算数の問題解決学習活動とその表現活動をグループにより協働的に行って、算数科授業づくりで大切にすべきことを経験的に理解する。
11回目までの講義は、小学校の授業の形式（問題提示→グループ協働解決→発表）で行いながら履修生は算数授業に関連する内容となる問題を考えたり、その考えを発表したりする。１２回目以降は、受講生は担当から提示された探究課題をグループで調査し、調査結果の発表を行う。発表は受講生同士で評価し合ったり、担当教員が評価したりする。

到達目標

1.小学校算数科授業構成の背景にある知識や考えについて、理解をすることができる。
2.小学校算数科授業の指導内容について授業者と学習者、両方の視点から理解することができる。■

3.数学的活動の意義・必要性について、活動を通して具体的に考え、理解することができる。■
4.数学的な問題について、協働的に解決することのよさを感得することができる。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　日本文教出版　224円

評価方法

授業での取り組み（活動及び授業内課題80%・発表会10%）、提出物の充実度（期末レポート10%）により総合的に評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

・課題レポートについてはコメントを付けて返却する。
・発表会においては、受講生同士の他者評価も取り入れる。

オフィスアワー

月曜、火曜1限。授業時間外の質問はメールにて受付。（9号館3階302）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスおよび参考文献を読んで本講および算数科という教科の概略について知るとともに、専門用語について確認をしておく。	1h	講義内容、到達目標、評価方法などについて確認する。	2h
2	「数と計算」領域における算数科授業に関わる知識	1,2	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　に目を通し、「数と計算」領域の内容を理解しておく。	2h	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1h
3	「数と計算」領域における数学的活動について（教科書の問題などから）■	1,3	小学校算数「数と計算領域」の学習内容となる「記数法や計算様式」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	1h	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	2h
4	「図形」領域における算数科授業に関わる知識	1,2	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　に目を通し、「図形」領域の内容を理解しておく。	2h	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1h
5	「図形」領域における数学的活動について（教科書などの問題から）■	1,3	小学校算数「図形領域」の学習内容となる「図形やその学習内容」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	1h	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	2h
6	「測定」領域における算数科授業に関わる知識	1,2	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　に目を通し、「測定」領域の内容を理解しておく。	2h	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1h
7	「測定」領域における数学的活動について（教科書などの問題から）■	1,3	小学校算数「測定領域」の学習内容となる「量とその単位」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	1h	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	「変化と関係」領域における算数科授業に関わる知識	1,2	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　に目を通し、「変化と関係」領域の内容を理解しておく。	2h	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1h
9	「変化と関係」領域における数学的活動について（教科書などの問題から）■	1,3	小学校算数「変化と関係」の学習内容となる「比例や割合などの関数に関する内容」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	2h	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	1h
10	「データの活用」領域における算数科授業に関わる知識	1,2	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　に目を通し、「データの活用」領域の内容を理解しておく。	2h	講義で示された専門用語などを調べ理解し、その指導内容について整理・まとめをする。	1h
11	「データの活用」領域における数学的活動について（教科書などの問題から）■	1,3	小学校算数「データの活用領域」の学習内容となる「統計に関する内容」について、学習指導要領解説や教科書等で調べる。	1h	課題に取り組みながら、前回や今回の講義の内容を振り返り、整理・まとめをする。	2h
12	グループでの課題探究活動①（課題選択・解決）	1,3,4	講義中に配付された資料に目を通し、理解しておく。	1h	提示された課題の解決に向けて考える。	2h
13	グループでの課題探究活動②（課題解決・発表準備）■	1,3,4	提示された課題を解決する。	2h	課題解決の過程を振り返り、表現の仕方について考える。	1h
14	課題探究活動発表会①	1,3,4	発表の準備を行う。	2h	他のグループの発表内容について振り返り、まとめる。	1h
15	課題探究活動発表会②	1,2,3,4	この講義での学習内容を網羅的に振り返る。	1h	指定された期末レポートを作成する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・小学校学習指導要領解説算数編については、各自で文部科学省ホームページを確認したり、購入（「小学校学習指導要領解説算数編」文科省・日本文教出版・2018・224円）したりして、読み込む。
・受講者をグループ分けし、グループで協働的課題探究活動を行い、発表を実施する。
（オンラインへの変更時も基本的に、記載の内容で行うが、12回以降の演習部分については変更の可能性あり。）■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

理科

英文名：Science
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES204
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪

科目に関連した実務経験

教諭（理科）として高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校理科に関連した物質，エネルギー，生命，地球に関わる発展的な内容を学び，観察・実験を通じて科学的リテラシーを身につける。また，小学校理科の実験を計画することで，科学的な見方や考え方を身につけ，小学校理科実験の指導に関する汎用的な能力を養う。
各講義の前半は，学生主体の小学校理科実験の模擬実験を行い，後半は教員主体の理科実験をおこなう。各会2時間連続で7回の講義（14コマ分）と2回のパフォーマンステスト（15コマ目分）を行う。期末試験（16コマ目）を行う。

到達目標

1.理科を総合的に学習することで科学的な見方や考え方を身に付けることができる。■
2.小学校で理科を教えるにあたっての基本的な知識，観察及び実験の技能を習得することができる。
3.自ら調べ，教材を開発する能力を養うことができる。■

4.小学校理科以降に，どのように小学校理科が発展するのか，サイエンスとしてどのような背景があるのか知ることができる。■

使用教材

小学校学習指導要領解説理科編，小学校理科教科書，自作プリント，
小学校採用試験理科問題集等

参考文献

授業において紹介。

評価方法

毎回提出するレポート80%，パフォーマンステスト及び期末試験10%，授業への参加度，態度，積極性等10%で評価する。総合評価で評定を決めるが，考査は一定の水準を超えることを条件とする。また，全てのレポートの提出が必須で，パフォーマンステストを合格しておく必要がある。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにおける修正すべき点を示し，再レポートを促す。パフォーマンステストの不合格者には，不十分な点を指摘し，後日再テストを行う。

オフィスアワー

水曜3限、金曜2限
（9号館4階411研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション，学習指導案について	1,2	学習指導要領解説理科編の総説，小学校理科の目標を読んでおく。	1.5h	講義の方針を確認するとともに，学習指導案の内容を理解する。	1.5h
2	実験の計画と実践，実験レポートの書き方■	1,2,3,4	コンピュータ入門で学習したWordやExcelの使い方を復習しておく。	1h	実験のレポートを書く。	2h
3	化学（小学校で扱う主な薬品とその調整）■	1,2,3,4	濃度計算に関する課題を行う。	1h	実験のレポートを書く。	2h
4	小学校理科実験（3年生：エネルギー・粒子）	1,2,3	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	1.5h	実験のワークシートをまとめる。	1.5h
5	現場教師による指導の実際（魚の誕生）	1,2,3,4	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	1h	レポート（メダカの発生の観察記録）を書く。	2h
6	小学校理科実験（3年生：生命・地球，4年生：エネルギー）	1,2,3	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	1.5h	実験のワークシートをまとめる。	1.5h
7	生物（生命倫理，体のつくりとはたらき）	1,2,3,4	生命倫理に関する課題をまとめておく。	1h	実験のレポートを書く。	2h
8	小学校理科実験（4年生：粒子：生命・地球）	1,2,3	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	1.5h	実験のワークシートをまとめる。	1.5h
9	地学（地質，天文）	1,2,3,4	方位磁針，星座早見，実態顕微鏡の使い方を調べておく。	1h	実験のレポートを書く。	2h
10	小学校理科実験（5年生：エネルギー・粒子）	1,2,3	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	1.5h	実験のワークシートをまとめる。	1.5h
11	生物（水の中の小さな生き物）■	1,2,3,4	顕微鏡の使い方を調べておく。	1h	実験のレポートを書く。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	小学校理科実験（5年生：生命・地球，6年生：エネルギー）	1,2,3	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	1.5 h	実験のワークシートをまとめる。	1.5 h
13	物理（速度，エネルギー）	1,2,3,4	速度やエネルギーの計算に関する課題を行う。	1h	実験のレポートを書く。	2h
14	小学校理科実験（6年生：粒子・生命・地球）	1,2,3	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	1.5 h	実験のワークシートをまとめる。	1.5 h
15	パフォーマンステスト（薬品の調整，顕微鏡の使い方）■	1,2	教師として薬品の準備や顕微鏡の指導ができるように練習しておく。	1.5 h	指摘事項を確認し，再度練習する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

生活

英文名：Living Environment Studies
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES205
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

栗原　幸正

科目に関連した実務経験

・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務（経験）
・市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）
・保幼小連携教育協議会の役員として協議会を運営（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○		○	○	○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

・講義中、チームを組んで授業分析をおこない、22の実践紹介をすることを通して、生活科の具体的な授業イメージを習得する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校教育における生活科の意義と内容について、具体的事例を通して、方法や内容について理解する。また、生活科においては、近年幼児教育との関連性が重視されてきていることから、その方向性について検討する。学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議・演習を組み合わせて、アクティブラーニングを目指す。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。セレクトレポートや小論文の作成を通して、教師となるためのさらなる資質向上が図れ

るよう進める。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。

到達目標

1.小学校生活科の学習内容について、具体的な事例を通して理解し、指導の見通しを持つことができる。
2.生活科の成立過程を知ることを通して、生活科の意義を理解し説明することができる。
3.生活科の授業づくりについての具体的知識や方法を習得することができる。■

使用教材

小学校学習指導要領解説生活編（１３４円）　　新しい生活科教育の創造―体験を通した資質・能力の育成ー（学術図書出版　1900円＋税）

参考文献

講義内容に沿って印刷配布する

評価方法

定期試験（小論文を含む）５０％　　日常の提出物（小テストや感想を含む）やプレゼンテーション（５０％）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。

オフィスアワー

8号館1階　学部長室　　火曜日2限・金曜日2限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生活科の意義と目標	1,2	小学校学習指導要領解説生活編に目を通しておく。	2h	目標と意義について、事例をもとにノートにまとめる。	1h
2	生活科個人調査活動のまとめ	3	春期課題として課せられた虫についての調査研究をまとめておく。	2h	虫調べシートに調査研究内容をまとめる。	1h
3	生活科の成立と変遷	1	「新しい生活科教育の創造―体験を通した資質・能力の育成ー」の関連箇所に目を通しておく。	2h	生活科導入の経緯と、学校における定着の推移についてノートにまとまる。	1h
4	生活科の内容構成	1,2	小学校学習指導要領解説生活編及び「新しい生活科教育の創造―体験を通した資質・能力の育成ー」の関連箇所に目を通しておく。	2h	生活科の内容構成について理解し、ノートにまとめる。	1h
5	教育課程と生活科（教育課程における位置づけ）・生活科単元のセレクトレポート①	1,2	小学校学習指導要領解説生活編の関連する箇所に目を通しておく。	2h	講義全体をふり返り、教育課程における生活科の位置づけを理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
6	生活科の指導計画Ｉ（年間指導計画の理解）・生	1,2,3	小学校学習指導要領解説生活編の関連する箇所に目を通しておく。	1h	生活科の年間指導計画について理解し、年間指導計画のモデルを構想す	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	活科単元のセレクトレポート②■				る。生活科単元セレクトレポートを作成する。	
7	生活科の指導計画Ⅱ（年間指導計画の作成）・生活科単元のセレクトレポート③■	1,2,3	年間指導計画のモデル作成の構想を立案する。	2h	学習指導要領に基づいた年間指導計画モデルを作成する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
8	生活科の年間指導計画の変遷・生活科単元のセレクトレポート④■	1,3	小学校学習指導要領解説生活編の関連する箇所に目を通しておく。	2h	生活科の年間指導計画の変遷についてノートにまとめる。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
9	生活科と単元（単元構想シートの作成演習）・生活科単元のセレクトレポート⑤■	1,3	学習指導要領と自身の年間指導計画表をもとに、単元構想を検討する。	2h	単元構想シートに、単元構想を記述し提出する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
10	生活科の内容Ⅰ・Ⅱ（自然・動植物に係る領域）・生活科単元のセレクトレポート⑥■	1,3	小学校学習指導要領解説生活編・「新しい生活科教育の創造―体験を通した資質・能力の育成ー」の講義内容に係る箇所に目を通しておく。	2h	自然・動植物に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
11	生活科の内容Ⅲ（遊び・季節に係る領域）・生活科単元のセレクトレポート⑦■	1,3	小学校学習指導要領解説生活編・「新しい生活科教育の創造―体験を通した資質・能力の育成ー」の講義内容に係る箇所に目を通しておく。	2h	遊び・季節に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
12	生活科の内容Ⅳ（社会生活に係る領域）・生活科単元のセレクトレポート⑧■	1,3	小学校学習指導要領解説生活編・「新しい生活科教育の創造―体験を通した資質・能力の育成ー」の講義内容に係る箇所に目を通しておく。	2h	社会生活に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
13	生活科の内容Ⅴ（自分・家族に係る領域）・生活科と単元（学習指導案作成演習）・生活科単元のセレクトレポート⑨■	2,3	自分の年間指導計画及び単元構成シートを元に学習指導案の構成を検討しておく。	2h	自分・家族に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。学習指導案を年間指導計画、単元構想と整合性をもって学習評価も考慮して作成する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
14	生活科の内容Ⅵ(人々・学校・地域に係る領域)・生活科単元のセレクトレポート⑩■	1,3	小学校学習指導要領解説生活編・「新しい生活科教育の創造―体験を通した資質・能力の育成ー」の講義内容に係る箇所に目を通しておく。	2h	人々・学校・地域に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。生活科単元セレクトレポートを作成する。	1h
15	生活科単元のセレクトレポート⑪■・期末試験	2,3	配付資料並びに教科書に目を通しておく。	1.5h	生活科単元セレクトレポートを作成する。	2h

合計時間（予習・復習）

45.5h

備考

・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

家庭

英文名：Home Economics
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES206
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

内田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校５・６年生の家庭科で学ぶ学習内容について理解し、小学校家庭科の指導に必要な基礎的知識と技術の習得をめざす。小学校教員に必要となる、衣生活、食生活、家庭生活、消費生活について知識と技術を身に着ける。授業の進め方は到達目標を達成できるようパワーポイントによる講義のほか、板書、プリント配布による解説を行う。また、実際の授業場面における実践力を身につけられるよう、衣生活実習、調理実習も行う。

到達目標

1.小学校家庭科で学ぶ学習内容について関心を深めることができる
2.衣生活、食生活、家庭生活、消費生活の基礎的な知識・技術を身につける
3.各分野の課題に意欲的に取り組むことができる

使用教材

教科書「わたしたちの家庭科」（開隆堂）ISBN978-4-304-08064-7
プリント

参考文献

参考図書「授業力UP家庭科の授業」鶴田敦子他（日本標準）ISBN978-4-8208-0416-1

評価方法

定期試験70%、レポート30%で評価する　総合評価60%以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは評価してフィードバックする
定期試験後に掲示で正解を示す

オフィスアワー

火曜日4限 (1号館 505研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、小学校家庭科の目標及び内容	1,2	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5h
2	衣生活：衣服の働きと快適な着方	1,2	教科書4，9に目を通す	1.5h	暑い季節と寒い季節を快適にする工夫を理解する	1.5h
3	衣生活：衣服の手入れ	1,2,3	教科書4に目を通す	1.5h	手洗いによる洗濯をしてレポートを作成する	1.5h
4	衣生活：実習（手縫いのしかた）	1,2,3	教科書3に目を通す	1.5h	手縫い、ボタンつけ、フェルトの小物を完成させレポートを作成する	1.5h
5	衣生活：実習（ミシン縫い・小物作成）	1,2,3	教科書6に目を通す	1.5h	ミシンの安全な使い方を理解して作品を完成する	1.5h
6	住生活：快適な住まい	1,2	教科書4，9に目を通す	1.5h	あたたかく住まう工夫、涼しく住まう工夫を理解する	1.5h
7	住生活： 掃除のしかた	1,2	教科書3に目を通す	1.5h	掃除のしかたを理解する	1.5h
8	家庭生活：子どもと家庭生活	1,2	教科書8に目を通す	1.5h	生活時間を調査し、家庭でできる仕事を理解する	1.5h
9	家庭生活：お金の管理と消費生活	1,2	教科書8に目を通す	1.5h	生活とお金、金銭の管理と消費生活、SDG s と家庭科について理解する	1.5h
10	家庭生活：地域での暮らし	1,2	教科書7に目を通す	1.5h	家庭生活・地域での生活を理解する	1.5h
11	食生活：食事の意義	1,2	教科書7に目を通す	1.5h	「なぜ食べるのか」食事の意義について理解する	1.5h
12	食生活：栄養素の種類と働き	1,2	教科書7に目を通す	1.5h	栄養素の種類と働きを理解する	1.5h
13	食生活：献立作成と調理のしかた	1,2	教科書2に目を通す	1.5h	献立作成と調理のしかたを理解し、調理実習Ⅰ、Ⅱの手順を確認する	1.5h
14	食生活：調理実習Ⅰ	1,2,3	調理実習プリントに目を通す	1.5h	各グループで安全に調理、試食、片付け、レポートを作成する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	食生活：調理実習Ⅱ	1,2,3	調理実習プリントに目を通す	1.5h	各グループで安全に調理、試食、片付け、レポートを作成する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

音楽

英文名：Music
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES207
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐藤　和貴

科目に関連した実務経験

音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本講義では、小学校における児童の音楽活動を豊かに展開するための、音楽表現の知識や技能を実践的に習得する。具体的には、(1)小学校教師に必要な実践的な音楽表現知識の習得、(2)小学校音楽科で扱うアンサンブル、合奏曲の表現技能の習得、(3)音楽指導のために必要な、リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の楽器及び指揮等の表現技能の習得を目的とする。
授業では、音楽科の教材を実際に体験することを通し、小学校教師として身に着けるべき技術を確認しながら、主体的に音楽表現の知識技能を学んでいくことができるように進める。また、表現技能の習得に当たっては、一斉指導とグループ活動により、毎時の課題と習熟度を確認しながら、目標に到達できるように進める。授業の最終回には、グループごとに演奏作品を練習、準備し発表会として評価を行う。

到達目標

1.小学校音楽科における音楽表現の実際を理解する。■
2.器楽におけるアンサンブルや、合奏曲の表現技能を身につける。■
3.音楽指導における基礎技能を身につける。■
4.児童の自発的な表現を促すための打楽器・鍵盤楽器等の演奏・指揮等の指導技術を身につけることができる。■

使用教材

①『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』初等科音楽教育研究会編、音楽之友社
②『小学生のおんがく１』教育芸術社
③『小学生の音楽２』教育芸術社
④『小学生の音楽３』教育芸術社

参考文献

①『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編』文部科学省

評価方法

実技発表の評価（各回で設定する課題50%・15回目のアンサンブル発表50%）を総合する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業課題はコメントをつけて返却する。実技課題はその都度コメントをする。

オフィスアワー

水曜・2時限または、木曜・3時限
(503研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・小学校音楽科における音楽表現■	1	シラバスを読み、授業概要を理解する。	1.5 h	授業内容を確認する。小学校音楽科における音楽表現を復習する。	1.5 h
2	歌唱の内容・リコーダー①■	1,3,4	指示された歌唱教材を練習する。リコーダーの運指を確認しておく。	1.5 h	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 h
3	器楽の内容・リコーダー②■	1,3,4	指示された楽曲を練習する。指示されたパートを練習しておく。	1.5 h	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 h
4	鑑賞の内容・鍵盤ハーモニカ①■	1,3,4	指示された楽曲を予習する。鍵盤ハーモニカの演奏方法を確認しておく。	1.5 h	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 h
5	音楽づくりの内容・鍵盤ハーモニカ②■	1,3,4	指示された課題を練習する。指示されたパートを練習しておく。	1.5 h	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 h
6	器楽アンサンブル	2	担当するパートを練習しておく。	1.5 h	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 h
7	指揮の方法■	3,4	拍子について調べておく。	1.5 h	拍子ごとの指揮の図形を復習しておく。	1.5 h
8	打楽器とその奏法①■太鼓、他	2,4	小学校音楽科で扱う打楽器の奏法を調べる。	1.5 h	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 h
9	打楽器とその奏法②■シロフォン、他	2,4	シロフォン等、鍵盤打楽器の奏法を調べる。	1.5 h	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	打楽器アンサンブル	2	担当のパートを練習しておく。	1.5 h	打楽器の奏法について復習する。	1.5 h
11	楽曲の編曲①「編曲の方法」■	3	コードネームと主要三和音について調べる。	1.5 h	編曲のために必要な知識を復習する。	1.5 h
12	楽曲の編曲②「教材の編曲」■	3,4	言語ごとの音名の読み方を確認しておく。	1.5 h	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 h
13	アンサンブル発表会の準備	2,4	楽器の構成、アンサンブルの編成を調べる。	1.5 h	グループで決めた発表内容を踏まえ、練習の計画を確認する。	1.5 h
14	アンサンブル発表会の練習	2,4	発表に向けて個別練習をする。	1.5 h	発表へ向けた課題を確認し、次回までに練習をする。	1.5 h
15	アンサンブル発表会	2,4	発表に向けてグループ練習する。	1.5 h	発表を振り返り、スキルアップに向けて、自己課題を設定する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

1)「音楽」を履修するにあたり、「幼児音楽基礎Ⅰ」と「幼児音楽基礎Ⅱ」、または「初等音楽基礎Ⅰ」と「初等音楽基礎Ⅱ」を履修済みであること、またはそれに相当する技術・知識が求められます。
2)講義で扱う教材は、充分に譜読みを行っておいてください。
3)講義で扱う楽曲はインターネット上で検索閲覧するなどして鑑賞し、予習をしておいてください。
4)ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカを使用します。音楽科授業で使用する上で適切な楽器を準備しておいてください。
5) 実技課題は、毎日練習して授業に臨んでください。
■：実務経験に基づく経験を示す。

印刷 閉じる

図画工作

英文名：Drawing and Handicrafts
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES208
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

増田　金吾

科目に関連した実務経験

中学校美術科教諭として東京都公立中学校に勤務（経験）、幼稚園長として国立大学附属幼稚園に勤務（経験）、東京都公立小学校で教育実習の指導教員を行う（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

図画工作科を指導する際、子ども理解とその教科内容の把握が重要である。
「小学校学習指導要領　図画工作」が示す造形遊びをする活動、絵や立体に表す活動、工作に表す活動、鑑賞の活動など各学年の内容を、美術教育の意義や諸領域の教育的意義・目標を踏まえた上で演習し習得する。
全員が演習（実技中心）を充実して行えるよう努める。

到達目標

1.小学校図画工作科の目標と内容、及びその意義を理解できる。
2.教材や資料等について触れ、演習を通して実践的な指導力を身に付ける。 ■
3.題材研究について、演習を通して理解し習得する。

使用教材

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編」、文部科学省著作、日本文教出版、平成30年発行、100円＋税。この授業は題材に関わる実技中心の内容であるが、実技を行う上での教育的意義を知り、指導上の理解を深めるために本書を用いて説明する。
プリントも配付するのでファイルにとじるなどしておき、とじたもの全体を毎回持参すること（このシラバスもとじておくこと）

参考文献

教科教育学シリーズ⑧図工・美術科教育、橋本美保・田中智志監修、増田金吾編著、一藝社、平成27年発行、2,200円十税。これは、「図画工作科指導法」で使用教材として用いる。

評価方法

3課題作品(60%)、「造形遊び」・「鑑賞」の活動に関わる自己の記録(40%)により総合的に判断する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題作品は、必要に応じてコメントを付して返却する。「造形遊び」・「鑑賞」の活動に関わる自己の記録も、コメントを付して返却する。これらの返却の際、評価規準などをクラス全体に解説する。

オフィスアワー

出講日の昼休み、9号館3階301研究室（または、講師控室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス。美術教育映画「トントンギコギコ」の鑑賞　（DVD使用）（1.2回目は、指定した教室で行う）。実践に基づいた説明を行う。■	1	シラバスを読んで、本講義の目標などを理解しておくこと。	1.5h	本演習の到達目標、内容、学位授与方針、成績評価方法などを確認すること。	1.5h
2	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編』を通して図画工作科の目標と内容、意義を理解する。併せて作品製作の趣旨を理解する。	1,3	使用教材（教科書）の第２章　図画工作科の目標及び内容、を中心に目を通すこと。	2h	作品製作の趣旨と意義を理解すること。	1h
3	絵に表す：「想像の世界」⑴。製作（題材）の意義説明。「絵に表す」の説明。アイディアを基に下絵作成。導入で実践に基づいた説明を行う。■　以下、14回まで実技製作。	1,2,3	想像の世界の構想を練る。併せて、使用材料を考えること。	1.5h	「絵に表す」の題材としての意義を理解すること。	1.5h
4	絵に表す：「想像の世界」⑵。製作（作品完成）	1,2,3	作品の完成を想定すること。	1.5h	作品製作を通じて学んだことを振り返ること。	1.5h
5	立体に表す：「ぎゅっとしたい私の友だち」⑴。「立体に表す」の説明。本題材の意義説明。製作（アイディアを生かす）。導入で実践に基づいた説明を行う。■	1,2,3	動物や魚など、どんな「友だち」にするか考えること。	2h	「立体に表す」の題材としての意義を理解すること。	1h
6	立体に表す：「ぎゅっとしたい私の友だち」⑵　製作（クラフト紙で袋を作り、中に紙を詰め込んで製作）	1,2,3	製作の過程を考えること。	1.5h	アイディアと製作活動との結びつきを理解すること。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	立体に表す：「ぎゅっとしたい私の友だち」⑶　製作（作品完成）	1,2,3	製作の表現としての意味を考え、今まで受けた授業の理論面について整理すること。	1.5h	作品製作を通じて学んだことを振り返ること。	1.5h
8	造形遊び：「新聞紙で何ができるかな」⑴。「造形遊び」の説明。本題材の意義説明、活動（アイディアを生かす、新聞紙など）。導入で実践に基づいた説明を行う。■	1,2,3	新聞紙で何ができるか、加えて自分が使いたい材料を準備すること。	1.5h	「造形遊び」の題材としての意義を理解すること。	1.5h
9	造形遊び：「新聞紙で何ができるかな」⑵。活動（新聞紙など）。「造形遊び」の活動を記録	1,2,3	どんな活動になるか構想してみること。	1.5h	「造形遊び」を通じて学んだことを振り返ること。	1.5h
10	工作に表す：「紙工作」⑴。「工作に表す」の説明。作品例の提示と製作（題材）趣旨・製作工程の説明。作品のコンセプト（着想による考え、主張）を練り文章化する。導入で実践に基づいた説明を行う。■	1,2,3	工作の製作の意図について考えること。	1.5h	「工作に表す」の題材としての意義を理解すること。	1.5h
11	工作に表す：「紙工作」⑵。アイディアスケッチ（作品）を描く。	1,2,3	アイディアスケッチを構想すること。	2h	コンセプト（文章）とアイディアスケッチ（作品）を固めること。	1h
12	工作に表す：「紙工作」⑶。製作（本製作）を行う。	1,2,3	コンセプト（文章）とアイディアスケッチ（作品）をもとに、完成作品を想像すること。	1.5h	計画通りに本製作に入れたか考えること。	1.5h
13	工作に表す：「紙工作」⑷。製作（本製作、前回の続き）を行う。	1,2,3	本製作に向けて考えること。	1.5h	思い通りに進んでいるか確認すること。	1.5h
14	工作に表す：「紙工作」⑸。製作（作品完成）	1,2,3	作品完成に向けて、問題点などないか考えること。	1.5h	思い通りに製作できたか、また作品製作を通じて学んだこと、を振り返ること。	1.5h
15	題材研究のまとめ：「合評会」（プレゼンテーション、ディスカッション）を通して鑑賞を行い、題材研究について考える。実践に基づいた説明を行う。■	1,2,3	鑑賞の活動としての題材研究にふさわしく、最も他の人に見てもらいたい自分の作品１点を準備すること。	1h	自己評価を行うと共に、表現と鑑賞の意味について理解し、題材研究の意義を理解すること。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・授業は、通常は実習室で行いますが、パワーポイントやDVDを使用する1.2回目の授業は普通教室で実施します。
・予習・復習の際に生じた不明な点があれば、当日の授業中のことも含め質問を授業中にしてください。クラス全員で共有することが大切であるためです。しかし、その後別の質問等が生じたら、メールで連絡してください。できるだけ速やかに答えます。
・ルールとして、けじめのある態度で受講するようお願いします。

・製作の際に、ヒント（アイディア）を得るためにスマートフォンを見ることは認めますが、そこにあるものをそのまま引き写して自分の作品とすることはしないこと。
・オンラインで実施する場合は、おおむねこの講義内容で、C-learningを用いてオンデマンド式（授業動画とパワーポイントのpdfを使用）による授業を行います。
■：この印は、実務経験に基づく内容を示します。

印刷 閉じる

体育

英文名：Physical Education
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES209
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

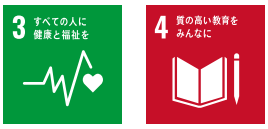
担当教員

山西　加織　金子　伊樹

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭・レクリエーションインストラクター

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①小学校における体育科学習領域の内容について、さまざまな運動や運動遊びの実践をとおして理解を深めていく。それぞれの運動の特性を理解するとともに、子どもの発達段階に応じた教材の工夫や援助・指導の方法について学習する。
②実技を中心に、補足説明を加えながら授業を進めていく。教材研究と教材の紹介は、グループで行う。

到達目標

1.幼少期の運動発達の特徴を説明することができる。
2.各運動の基本的技術を身につけることができる。
3.発達に適した教材を選択し、活動内容を工夫することができる。

使用教材

教科書「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省（東洋館出版社）、その他適宜資料を配布する。

参考文献

授業時に紹介する。

評価方法

授業への参加度・態度（60%）、グループワークへの貢献度（10%）、小テスト・レポート課題（30%）を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。

オフィスアワー

月曜日5時限、木曜日3時限
（8号館505研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　幼少期の運動遊び・体育	1	シラバスと教科書に目を通し、授業でどのようなことを学んでいくのかを確認する。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
2	体つくりの運動遊び・体つくり運動	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 h
3	走の運動遊び・運動	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 h
4	跳の運動遊び・運動	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 h
5	器械・器具を使っての運動遊び	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 h
6	器械運動	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 h
7	ゲーム・ボール運動（ゴール型）	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 h
8	ゲーム・ボール運動（ネット型）	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 h
9	ゲーム・ボール運動（ベースボール型）	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	表現リズム遊び・表現運動	2	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5h	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5h
11	教材研究	3	児童期の運動発達を踏まえ、どのような運動・運動遊び経験が必要とされているのか、教科書をよく読む。	1h	グループで教材研究を進める。	2h
12	教材の紹介（1）低学年の運動・運動遊び	3	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5h	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5h
13	教材の紹介（2）中学年児童の運動	3	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5h	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5h
14	教材の紹介（3）高学年児童の運動	3	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5h	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5h
15	まとめ	1,3	授業全体を振り返り、要点を復習する。	1h	運動・運動遊びの教材研究におけるポイントと、子どもの運動経験をどのように支えていきたいのかを考え、レポートにまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ（体育館用、外履き用）を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。

印刷 閉じる

外国語（英語）

英文名：Foreign Language (English) Learning and Teaching
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES210
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

姉﨑 達夫・松田 幸子・ステイシー クローズ・鈴木 文也

科目に関連した実務経験

姉﨑：英語教師として中学校に勤務（経験）
クローズ：英語教師として小学校に勤務（経験）
鈴木：英語教師として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ピアレビュー

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力と授業を担当するために必要な背景的な知識を身につける。これらの授業は、テキストなどを中心とした講義と、グループ単位の討議や英語での言語活動の実践を行うことで進める。

到達目標

1. 外国語（英語）教育を理解し、児童に対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。
2. 外国語(英語)に関する実践的な英語運用力を身につけるために、英語に関する基本的な知識・技能を身につけることができる。■
3. 第二言語習得・児童文学・異文化理解に関する基本的な知識を学び、授業実践に生かすことができる。
4. 自ら進んで小学校の外国語教育に携わる意欲を高めることができる。

使用教材

『最新 小学校英語教育法入門』（樋口忠彦他、研究社、2023、2,420円）
ISBN：9784327411084
Let’s Try! 1 （文部科学省）ISBN：978-4-487-25870-3
Let’s Try! 2 （文部科学省）ISBN：978-4-487-25871-0

参考文献

小学校学習指導要領　（平成29年3月31日告示　文部科学省）https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf
その他、適宜授業内で紹介する。

評価方法

レポート60%、授業内の貢献度40%で評価する。
総合60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにはコメントを付けて返却する。
授業中の貢献度についてはその都度評価する。

オフィスアワー

姉﨑：火曜3限、水曜3限
（研究室：9号館3階303）
松田：木曜3限，金曜2限
（研究室：9号館3階304）
クローズ：月曜4限，火曜3限
（研究室：9号館3階307）
鈴木：火曜2限、木曜2限
（研究室：9号館3階306）
質問はメールでも受け付ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・知識・技能と宣言的知識・手続き的知識（姉﨑）■	1,2,4	シラバスおよび学習指導要領解説外国語編第1章をよく読む。	1.5h	知識・技能と宣言的知識・手続き的知識の関係を理解する。学習指導要領解説外国語編を読み直し、外国語の目標を理解する。	1.5h
2	Let’s try! 1, 2を用いた英語の語彙と発音の指導（姉﨑）■	1,2,4	テキスト第4章とLet’s try! 1, 2に目を通し、どのような語彙が使われているのかを確認する。	1.5h	Let’s try! 1, 2に収録されている語彙の種類・レベルを理解し、児童への単語の発音指導の具体例を身につける。	1.5h
3	母語習得と第二言語習得の違いについて（姉﨑）	1,2,3,4	テキスト第2章の母語習得と第二言語習得の違いに関する記述と配布資料に目を通す。	1.5h	母語習得と第二言語習得の違いについて復習し、児童の発達段階にあわせた外国語教育のあり方を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	第二言語習得と学習者要因について（姉﨑）	1,2,3,4	テキスト第2章の第二言語習得と学習者要因に関する記述と配布資料に目を通す。	1.5h	学習者における様々な認知・情意要因が第二言語習得にどのように影響しているのかを理解する。	1.5h
5	第二言語習得と児童の発達段階に即した動機づけについて（姉﨑）	1,2,3,4	テキスト第2章の動機づけに関する記述と配布資料に目を通す。	1.5h	動機づけの種類を理解したうえで、児童の発達段階においてどのようにすれば外国語学習の動機づけが高まるのかを考えてみる。	1.5h
6	児童向けの絵本と小学校におけるその使用法（松田）	1,2,3,4	テキスト第7章4節の絵本について読む。	1.5h	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	1.5h
7	英語による歌・チャンツと小学校におけるその使用法（松田）	1,2,3,4	テキスト第7章1節のうた・チャンツについて読む。	1.5h	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	1.5h
8	英語におけるゲームと小学校におけるその使用法（松田）	1,2,3,4	テキスト第7章3節のクイズについて読む。	1.5h	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	1.5h
9	異文化コミュニケーションとは何か：英語圏の子ども文化（松田）	1,2,3,4	テキスト第2章5節の異文化コミュニケーションについて読む。	1.5h	授業内容にしたがって、異文化コミュニケーションを生かしたレッスン・プランを考えてくる。	1.5h
10	小学校における異文化コミュニケーションの実践（松田）	1,2,3,4	テキスト第8章2節の教材研究について読む。	1.5h	グループごとでレッスン・プランをまとめて提出する。	1.5h
11	授業場面を意識した実践的な英語運用力（鈴木）■	1,2,3,4	学習指導要領の授業における言語活動に関する箇所に目を通す。	1.5h	授業で使用する実践的な英語運用能力を身につけることができる。	1.5h
12	使用する教科書の読みと板書などにおける英語の表記（「読むこと」・「書くこと」）（鈴木）■	1,2,3,4	テキストの第6章と学習指導要領の「読むこと」と「書くこと」に関する箇所に目を通す。	1.5h	「読むこと」と「書くこと」の指導に必要な知識と技術を身につけることができる。	1.5h
13	場面や目的に応じたALTとの会話（「話すこと［やり取り］）（クローズ）■	1,2,3,4	学習指導要領のALTと「話すこと[やり取り]」に関する箇所に目を通す。	1.5h	ALTとのTTを行うために必要な知識と技術を身につけることができる。	1.5h
14	英語のやり取りを中心とした言語活動（「聞くこと」・「話すこと」）（クローズ）■	1,2,3,4	テキストの第6章と学習指導要領の「聞くこと」と「話すこと」に関する箇所に目を通す。	1.5h	話すこと［やり取り］の指導に必要な知識と技能を身につけることができる。	1.5h
15	自己紹介・地域や文化などの紹介を通した英語の発話について（「話すこと［発表］」）（クローズ）■	1,2,3,4	学習指導要領の「話すこと[発表]」に関する箇所に目を通す。	1.5h	「話すこと[発表]」の指導に必要な知識と技能を身につけることができる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・授業（1～5回）は、第二言語習得の特徴を理解しながら、外国語学習の初期段階における指導の理論と方法を学ぶ。
・授業（6～10回）は、児童向けの英語の歌、チャンツ、ゲームなどを学び、英語に関わる文化を理解するとともに異文化コミュニケーションの力を養う。

・授業（11～15回）は、身につけた英語の知識や技能を用いて、授業指導を行うための英語コミュニケーション能力を培う。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

英語学概論

英文名：Introduction to English Linguistics
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES301
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
4 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
0 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

姉﨑　達夫

科目に関連した実務経験

姉﨑：英語教師として中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

英語学分野における主なテーマや問題について、異文化コミュニケーションの視点から考察し、国際共通語である英語に対する理解を深める。そのため授業では、様々な英語の用例を検討しながら、コミュニケーションでどのような役割を果たすのかを議論することに重点を置く。教科書の内容を踏まえ、異文化コミュニケーションの視点で英語学の基礎的内容を解説する講義形式と受講生とのディスカッションをまじえた形で進める。

到達目標

1. 英語の構造と機能を分析しながら、英語という言語の特徴を理解する。
2. 異文化コミュニケーションという場で、英語の果たす役割を理解する。■

使用教材

平賀正子. (2016). 『ベーシック新しい英語学概論』. 東京：ひつじ書房. 1,700円
ISBN:9784894765542

参考文献

講義内で紹介する。

評価方法

授業への参加度、発表、レポート（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題のフィードバックは翌週に提示する。

オフィスアワー

月曜2限、水曜3限
研究室：9号館3階303研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・英語学とは何か	1,2	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。	1.5 h	Warm-up用の配布プリントの内容を理解する。	1.5 h
2	英語の歴史とさまざまな英語（母語、第二言語、外国語としての英語）	1,2	教科書第2章を読む。	1.5 h	教科書第2章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
3	母語英語の特徴（イギリス英語、オーストラリア英語の音声、語彙、文法の特徴）	1,2	教科書第3章を読む。	1.5 h	教科書第3章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
4	母語英語の特徴（アメリカ英語、カナダ英語の音声、語彙、文法の特徴）	1,2	教科書第4章を読む。	1.5 h	教科書第4章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
5	英語と社会的属性（社会言語学の観点から）	1,2	教科書第5章を読む。	1.5 h	教科書第5章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
6	語用論と対人コミュニケーション	1,2	教科書第6章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第6章前半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
7	英語の発話行為	1,2	教科書第6章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第6章後半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
8	英語のポライトネスと談話分析 ■	1,2	教科書第7章を読む。	1.5 h	教科書第7章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
9	英語文化とコミュニケーション・スタイル	1,2	教科書第8章・9章を読む。	1.5 h	教科書第8章・9章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
10	語彙から見る英語らしさ（形態論の観点から）	1,2	教科書第10章を読む。	1.5 h	教科書第10章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	文法から見る英語らしさ（統語論の観点から）	1,2	教科書第11章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第11章前半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
12	語彙や文の意味から見る英語らしさ（意味論の観点から）	1,2	教科書第11章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第11章後半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
13	音声から見る英語らしさ（音声学の観点から）	1,2	教科書第12章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第12章前半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
14	音韻から見る英語らしさ（音韻論の観点から）	1,2	教科書第12章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第12章後半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
15	まとめ・国際共通語としての英語コミュニケーション■	1,2	教科書各章末の演習課題に取り組む。	1.5 h	教科書各章末の演習課題の内容を復習する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

学校英文法論

英文名：Theory of Teaching Grammar in English Classes
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES302
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也

科目に関連した実務経験

英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○		○	○			○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業は、英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実 践力を身につけるための科目である。特に、英語の文法に関する知識を習得し、学習者に分かりやすく英文の基本的な仕組みを説明できるようになる。
　授業は講義と発表、小テストとレポートに関する討論によって構成される。

到達目標

1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。
2.英語の文法に関する知識を理解し身につけることができる。
3.文法の知識を応用して、学習者に分かりやすく英文の基本的な仕組みを説明することができる。■

4.自ら進んで英語の文、品詞、準動詞、関係詞、構文、修飾語句などについて、発表したり議論したりして、文法の知識をさらに深めて学習者の疑問に答えることができる。

使用教材

教科書　『改訂版　英文法総覧』、安井稔、開拓社、2015、2,476円＋税

参考文献

参考となる文献についてはその都度紹介する。

評価方法

授業参加(10%)、小テスト(40%)、レポート(30%)、発表など(20%)等から総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

小テスト・レポートには、評価及びコメントを付けて返却する。発表については全員で検討し、その都度コメントやアドバイスをする。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
（9号館306研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス　（国際共通語としての英語の使用と日本の英語教育）	1,2,3,4	教科書の目次を読み、英文法の学修内容を概観する。	1.5h	講義内容、到達目標、学位受与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5h
2	英語の文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第1章～第7章に目を通す。	1.5h	英語の文法を理解し、英文の基本的な仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
3	品詞 (1)　名詞、代名詞、形容詞に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第8章～第10章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	名詞、代名詞、形容詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
4	品詞 (2)　冠詞、副詞、動詞に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第11章～第13章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	冠詞、副詞、動詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
5	品詞 (3) 助動詞、接続詞、前置詞に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第14章～第16章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	助動詞、接続詞、前置詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
6	準動詞に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第17章～第19章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	準動詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
7	関係詞に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第20章～第21章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	関係詞の文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	構文 (1)　時制に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第22章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	時制に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
9	構文 (2)　態に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第23章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	態に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
10	構文 (3)　仮定法、話法に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第24章～第25章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	仮定法、話法に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
11	構文 (4)　比較、否定に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第26章～第27章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	比較と否定に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
12	構文 (5)　動詞、名詞、形容詞に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第28章～第30章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	動詞、名詞、形容詞を中心とする構文に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
13	構文 (6)　一致、形式語 it、thereを中心とする構文に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第31章～第32章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	一致、形式語it、thereを中心とする構文に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
14	修飾語句に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第33章～第35章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	形容詞的修飾語句、副詞的修飾語句、副詞節、副詞句に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h
15	情報構造に関する文法とその仕組みの説明　■	1,2,3,4	教科書の第36章～第38章に目を通し、小テストの対策をする。	1.5h	文の主題と情報構造、協調、省略・挿入に関する文法を理解し、その仕組みを学習者に説明することができる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

質問はメールでも受け付ける。毎時間既習事項の小テストを行い、課題のレポートについての発表をする。これらの活動のための授業外学修（予習と復習）をしっかり行うこと。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

現代英語学の理論と応用

英文名：Theory and Practical Applications of English Linguistics
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B024
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

姉﨑　達夫

科目に関連した実務経験

姉﨑：英語教師として中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

英語学分野における主なテーマや問題について、関連する文献を英語で読み、実際の教育現場でどのように英語学の知識が活かせるのかを検討する。この授業を通して、英語の文章から必要な情報を素早く読み取る力を高める訓練を行いながら、英語の構造と機能の知識を身につけることを目的とする。授業は、教科書の内容を踏まえ、現代の英語学の基礎的な知識を解説する講義と受講生の発表を交えた形で進める。

到達目標

1. 英語の構造と機能を理解する。
2. 英語史、形態論、意味論、統語論、音韻論、音声学の理論が中学校・高等学校の外国語（英語）の授業内容、教材にどのように反映しているのかを理解できる。■
3. 比較的平易に書かれた英語学に関する文献を英語で読めるようになる。

使用教材

影山太郎他. (2004). First Steps in English Linguistics (2nd ed.). 東京：くろしお出版. 1,600円
ISBN 978-4-87424-277-3 C3082

参考文献

講義内で紹介する。

評価方法

授業への参加度、発表、課題（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題のフィードバックは翌週に提示する。

オフィスアワー

火曜3限、水曜3限
研究室：9号館3階303研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・Why Study English Linguistics (1): What is English Linguistics?		教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。	1.5h	授業の進め方、発表方法を理解する。	1.5h
2	Why Study English Linguistics (2): How English Has Been Studied	1,3	教科書第1章、第2章前半を読む。	1.5h	教科書第1章第2章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
3	How English Has Changed over the Centuries (1): The Old and Middle English Period	1,3	教科書第2章中間を読む。	1.5h	教科書第2章中間の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
4	How English Has Changed over the Centuries (2): The Modern English Period	1,3	教科書第2章後半を読む。	1.5h	教科書第2章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
5	How Words Are Made (1): Morphology	1,3	教科書第3章前半を読む。	1.5h	教科書第3章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
6	How Words Are Made (2): Derivation, Conversion, and Inflection	1,3	教科書第3章後半を読む。	1.5h	教科書第3章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
7	How Words Mean：Kinds of Meaning	1,3	教科書第4章を読む。	1.5h	教科書第4章の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
8	How English Phrases Are Formed (1): Syntax I	1,3	教科書第5章の指定された箇所を読む。	1.5h	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
9	第1章から第5章のまとめ■	1,2	第1章から第5章の演習問題に取り組む。	1.5h	教科書第1章から第5章で学んだ知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	The Sound of English (1): Phonetics	1,3	教科書第9章前半を読む。	1.5h	教科書第9章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
11	The Sound of English (2): Phonology	1,3	教科書第9章後半を読む。	1.5h	教科書第9章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
12	第7章から第9章のまとめ■	1,2	第7章から第9章の演習問題に取り組む。	1.5h	教科書第7章から第9章で学んだ知識をどのように中学校英語の授業に生かすか検討する。また音声学と音韻論の知識を実際に使うことができるようなスキルに高める。	1.5h
13	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (1): Theories of Language Acquisition	1,3	教科書第12章を読む。	1.5h	教科書第12章の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
14	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired(2)：Applied Linguistics	1,3	教科書第13章を読む。	1.5h	教科書第13章の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5h
15	本学期のまとめ、ディスカッション（英語史、形態論、意味論、統語論、音声学、音韻論の知識をどのように中学校・高等学校の英語の授業に応用するか）■	1,2,3	本学期で学んだ専門用語の意味をもう一度整理する。	1.5h	本学期で学んだ英語史、形態論、意味論、統語論、音声学、音韻論、言語習得の知識をどのように中学校英語の授業に取り入れるか、考えをまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

英語教育学

英文名：English Language Pedagogy
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B025
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也

科目に関連した実務経験

英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業は、英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性を高 めるための科目である。特に、英語教育学に基づいて、英語教育の基盤となる歴史的、理論的背景や 教授理論を学び、自立して英語を学び続ける力を育み、時代のニーズに応えられる英語教師をめざ す。実践的な内容を学ぶ英語科指導法Ⅱの授業と、対になる講義である。
　授業は主に講義形式で行い、その都度提示される課題について、その成果をレポートにまとめて提出するという形式で進められる。

到達目標

1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。
2.中学校英語教育で必要とされる英語教育の歴史的背景や現代の教授理論に関する知識を身につけ

ることができる。
3.英語教育に関する学校現場での問題点を整理して、解決策を講じ実践的に応用することができる。■
4.学習者や教育現場のニーズに応えられる英語教育の理論を、自ら進んで追求することができる。

使用教材

『新・英語教育学概論』高梨康雄、高橋正夫、金星堂、2023、3300円＋税

参考文献

参考となる文献については、その都度紹介する。

評価方法

授業参加(10%)、レポート(90%)等から総合的に評価する。レポートは各回6点満点で、計15回。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは、コメントを付けて返却する。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
（9号館306研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、外国語としての英語教育の目的	1,2,3,4	教科書のはじめにと第１章に目を通し、講義の目標と英語教育の目的を理解する。	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価などを確認する。また、日本の外国語学習の目的を理解できる。	1.5h
2	外国語教授法と小学校英語教育 ■	1,2,3,4	教科書の第2章と第11章に目を通す。	1.5h	外国語教授法と小学校英語教育について理解を深めることができる。	1.5h
3	我が国における外国語指導法の変遷	1,2,3,4	教科書の第3章に目を通す。	1.5h	指導法の変遷を学び、現代の主な指導法を理解できるようになる。	1.5h
4	授業論　■	1,2,3,4	教科書の第4章に目を通す。	1.5h	学習指導案に基づく授業展開と授業に関する研究について理解を深め、授業指導に応用できる知識をもつことができる。	1.5h
5	言語スキルと指導技術　■	1,2,3,4	教科書の第5章に目を通す。	1.5h	各スキルの指導原理を理解し、指導方法や技術を身につけることができる。	1.5h
6	ICTを活用した英語教育　■	1,2,3,4	教科書の第6章に目を通す。	1.5h	現代の様々な情報技能を英語教育に応用することの重要性を理解することができる。	1.5h
7	評価論　①　■	1,2,3,4	教科書の第7章、第1節から第3節に目を通す。	1.5h	評価に関する基本的な概念を理解する。	1.5h
8	評価論　②　■	1,2,3,4	教科書の第7章、第4節から第8節に目を通す。	1.5h	観点別評価など5領域の実践的な評価を展開できるよう知識を得ることができる。	1.5h
9	第二言語習得理論から見た英語教育　①	1,2,3,4	教科書の第9章、第1節から第2節に目を通す。	1.5h	第二言語習得理論から見た、母語修得や学習者要因と、第二言語習得の関係について理解することができる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	第二言語習得理論から見た英語教育　②	1,2,3,4	教科書の第9章、第3節から第4節に目を通す。	1.5h	第二言語習得の説明アプローチについて理解することができる。	1.5h
11	国際理解教育　■	1,2,3,4	教科書の第10章に目を通す。	1.5h	英語教育の中で扱うことができる国際理解教育について理解することができる。	1.5h
12	教師論、教育実習　■	1,2,3,4	教科書の第12章と13章に目を通す。	1.5h	求められる教師像と実習生として必要な能力について理解することができる。	1.5h
13	教材開発	1,2,3,4	教科書の第14章に目を通す。	1.5h	教材作成とその活用について学び、指導に活かすことができる。	1.5h
14	英文の難易度をいかに測定するか	1,2,3,4	教科書の第15章に目を通す。	1.5h	英文の難易度の測定の仕方を学び、学習者に適切なレベルの英文を提供できる。	1.5h
15	英語教育研究法　■	1,2,3,4	教科書の第16章に目を通す。	1.5h	英語教育関係の卒業研究について、研究方法や論文の書き方について理解することができる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

質問はメールでも受け付ける。オンラインで実施する、オンデマンド型授業。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

英語文学入門

英文名：Introduction to English Literature
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES305
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

松田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○							

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①英語文学が、いかに構築されてきたのかについて、社会的・歴史的なコンテキストを踏まえながら概観する。とりわけ、各時代における代表的なテキストを原文で確認し、その特徴をとらえながら、英語圏において、どのように文学が文化的・社会的な意味をもってきたのかについて考える。
②授業は講義形式で進み、理解を促すため映像資料・英語資料を用い、学生は適宜翻訳などの作業を行う。

到達目標

1.社会的・歴史的なコンテキストにしたがって英語文学史について理解する。
2.英語文学を原文で読む。
3.英語圏で文学テキストが担ってきた文化的・社会的な意味をとらえる。

使用教材

石塚久郎編『イギリス文学入門』（三修社、2014）

参考文献

講義で指定する。

評価方法

授業参加度（30%）、課題（20%）、最終試験（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題については添削・コメントをしたのち返却する。

オフィスアワー

金曜1、2限（9号館3階304室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション：英語文学とは何か	3	シラバスを読み、自身の英語文学体験について考えてくる。	1.5 h	ハンドアウトを確認する。	1.5 h
2	中英語チョーサー『カンタベリー物語』	1,2,3	テキスト「ジェフリー・チョーサー」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
3	ルネサンスの詩と演劇：宮廷・民衆・劇場	1,2,3	テキスト「16世紀：歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
4	シェイクスピア作品の概観	1,2,3	「ウィリアム・シェイクスピア」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
5	シェイクスピアを読む：『ハムレット』	1,2,3	ハムレットあらすじを読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
6	17世紀後半の詩と演劇	1,2,3	テキスト「17世紀：歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
7	18世紀における小説の登場	1,2,3	テキスト「18世紀：歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
8	ジャーナリズムと『ロビンソン・クルーソー』	1,2,3	「ダニエル・デフォー」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
9	Sentimentalの時代：リチャードソン『パメラ』	1,2,3	「サミュエル・リチャードソン」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
10	18世紀における小説の成熟：オースティン『高慢と偏見』	1,2,3	「ジェイン・オースティン」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
11	ゴシック小説と恐怖	1,2,3	「ゴシック・ファンタジー」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	ロマン主義の到来とロマン派詩人（ブレイク、ワーズワス、シェリー）	1,2,3	テキスト「ロマン主義の時代」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
13	ヴィクトリア朝の社会と文学：ダーウィニズム・都市化・帝国主義	1,2,3	テキスト「ヴィクトリア時代：歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
14	ヴィクトリア朝の小説：ディケンズ、トマス・ハーディ、キプリング	1,2,3	「チャールズ・ディケンズ」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h
15	20世紀の小説：ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』	1,2,3	テキスト「20世紀前半：歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・メールアドレスの欄にメールアドレスの記載（@→＃で）または連絡手段についての言及を。

印刷 閉じる

英語文学批評

英文名：English Literary Criticism
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES306
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

松田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

文学を論じる際に必要となる、文学理論について学ぶ。理解力・思考力・プレゼン能力を高めるため、担当者には、指定テキスト担当箇所についてのまとめと発表を課す。担当者は必ずハンドアウトを用意すること。また、テキスト終了後は、それらの文学理論を用いて、主に19世紀に書かれた英米の小説を毎時間読み、それについてディスカッションを行う。英米文学を出来るだけ多く読み、また実践的に英文学を論じる能力を得ることがこの授業の目的である。
　講義は基本的に学生の発表によって進む。学生同士での議論も行うため積極的に授業に参加すること。

到達目標

1.文学を批評的に論じるための文学理論について理解を深める。
2.英語圏の文学作品についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
3.英語圏の文学テキストを原語で読み、自らの考えを述べることができるようになる。

使用教材

適宜資料を配布する。

参考文献

講義で指定する。

評価方法

授業貢献度（30%）、授業での発表（50%）、毎回の課題（20%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題については添削・コメントをしたのち返却する。

オフィスアワー

金曜1、2限（9号館3階304室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、担当の決定		テキストの序章を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
2	英文学はどこから来たか	1,2,3	テキスト第1章を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
3	批評的態度とは何か	1,2,3	配布資料（批評的態度）を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
4	精神分析批評	1,2,3	テキスト「精神分析批評」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
5	ジェンダー批評	1,2,3	テキスト「ジェンダー批評」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
6	新歴史主義	1,2,3	テキスト「新歴史主義批評」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
7	ポスト・コロニアリズム	1,2,3	テキスト「ポスト・コロニアリズム批評」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
8	Conrad, “The Disturber of Traffic”を読む	1,2,3	テキストを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって発表をまとめる	1.5h
9	Woolf, "Lappin and Lapinova"を読む	1,2,3	テキストを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって発表をまとめる	1.5h
10	Stevenson, “The Bottle Imp”を読む	1,2,3	テキストを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって発表をまとめる	1.5h
11	Stevenson, “The Isle of Voices”を読む	1,2,3	テキストを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって発表をまとめる	1.5h
12	Gilman, “The Yellow Wallpaper”を読む	1,2,3	テキストを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	Doyle, “The Adventure of the Speckled Band”を読む	1,2,3	テキストを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって発表をまとめる	1.5h
14	Dickens, “The History of a Self-Tormentor”を読む	1,2,3	テキストを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって発表をまとめる	1.5h
15	Dickens, “A Tale about a Queer Client”を読む	1,2,3	テキストを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって発表をまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

英語文学論

英文名：Studies in English Literature
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES307
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

松田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①19世紀末のイギリス作家R. L. スティーヴンソンの短編を鑑賞・精読することで、文学作品を英語で読み、また、それを批判的に論じる方法について学ぶ。とりわけ、スティーヴンソンの小説のもつ様々な側面―ゴシック的要素、冒険小説とイギリス帝国主義、スコットランドとナショナル・アイデンティティ―に注目することで、文学作品と社会とがどのように関わっているのかについて考え、教員になるにあたって必要となる英語圏文化に関する知識を身につける。
②授業は教員による講義によって進める。英語文学についての理解を促すため、適宜映像資料や英語テキスト・資料を用いる。

到達目標

1.文学作品を英語で読解できるようになる。
2.英語圏の文化について理解する。
3.英語によるテキストを批評的に読解できるようになる。

使用教材

R. L. スティーヴンソン著『スティーヴンソン ポケットマスターピース 08』辻原登訳（集英社、2016年）

参考文献

講義で指定する。

評価方法

授業参加度（30%）、課題（40%）、最終課題（30%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題については添削・コメントをしたのち返却する。

オフィスアワー

金曜1、2限（9号館3階304室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・担当の決定		シラバスを読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
2	スティーヴンソンと19世紀末の医療言説	1,2,3	テキスト「ゴシック・ファンタジー」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
3	「ジキル博士とハイド氏」を読解する	1,2,3	「ジキル博士とハイド氏」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
4	「ジキル博士とハイド氏」と19世紀末の医療言説	1,2,3	「ジキル博士とハイド氏」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
5	「死体泥棒」を読解する	1,2,3	「死体泥棒」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
6	「死体泥棒」と19世紀末の医療言説	1,2,3	「死体泥棒」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
7	スティーヴンソンと冒険小説	1,2,3	『宝島』該当部を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
8	「声の島」を読解する	1,2,3	「声の島」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
9	「声の島」と南洋幻想	1,2,3	「声の島」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
10	「ファレサーの浜」を読解する	1,2,3	「ファレサーの浜」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
11	「ファレサーの浜」と植民地主義批判	1,2,3	「ファレサーの浜」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
12	スティーヴンソンとナショナル・アイデンティティ	1,2,3	『さらわれたデービッド』を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
13	『さらわれたデービッド』とスコットランドの歴史	1,2,3	『さらわれたデービッド』を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
14	「メリー・メン」を読解する	1,2,3	「メリー・メン」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
15	「メリー・メン」とスコティッシュネス	1,2,3	「メリー・メン」を読む	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

英語児童文学論

英文名：Studies in English Children’s Literature
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES308
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

松田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①英語児童文学の誕生と発展を、トピックに沿って理解する。適宜テキストを参照しつつ、描かれた子どもの表象を確認することで、近代社会の中で理想とされる子ども像がいかに形成されてきたのかを確認する。最終的に、何らかの児童文学作品について論じることができるようになることが、本授業の目的である。また、後半は作品の解説を学生自身が行う。
②授業は講義形式で進むが、英語の作品に親しむため、適宜映像資料や英語のテキストを用い、学生は自身で翻訳も行う。

到達目標

1.英語児童文学を原文で読めるようになる。
2.子どものありようが、英米児童文学のなかでどのように変化してきたのかを学ぶ。
3.多様な社会・文化における子ども像を理解し、教育と文学のかかわりについて考える。

使用教材

適宜資料を配布する。

参考文献

講義で指定する。

評価方法

授業参加度（40%）、課題（20%）、期末試験（40%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題については添削し返却する。

オフィスアワー

金曜1、2限（9号館3階304室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	3	今まで読んだことのある英米児童文学の作品名を挙げる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
2	〈子ども〉の発見と児童文学の誕生	1,2,3	テキスト「子どもの発見」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
3	教育と児童文学：乳母・学校・教師	1,2,3	「教育と児童文学」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
4	『トム・ブラウン』（1857）と『チョコレート戦争』（1974）	1,2,3	『チョコレート戦争』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
5	家族と児童文学	1,2,3	「家族と児童文学」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
6	『小公子』（1886）、『小公女』（1888）、『若草物語』（1868）	1,2,3	『小公子』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
7	社会問題と児童文学：孤児・労働・貧困	1,2,3	「社会問題と児童文学」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
8	『水の子』（1863）と『赤毛のアン』（1908）	1,2,3	『水の子』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
9	ファンタジーと児童文学	1,2,3	「ファンタジーと児童文学」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
10	『柳に吹く風』（1911）と『ホビット』（1937）	1,2,3	『柳に吹く風』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
11	J. M. バリ『ピーター・パン』①	1,2,3	『ピーター・パン』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
12	J. M. バリ『ピーター・パン』②	1,2,3	『ピーター・パン』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	『ネヴァーランド』をみる	1,2,3	『ネヴァーランド』あらすじをまとめる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
14	『ピーター・パン』まとめ	1,2,3	『ピーター・パン』と映画の相違点をまとめる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h
15	まとめ：現代の児童文学	1,2,3	「現代の児童文学」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

Communicative Classroom English I

英文名：Communicative Classroom English I
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES309
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

ステイシー・クローズ

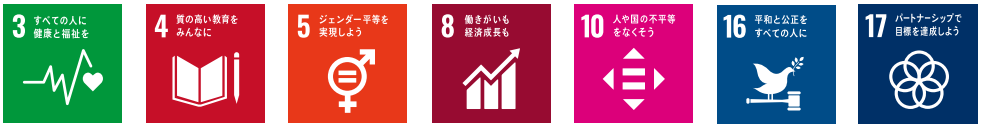
科目に関連した実務経験

ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

相互評価（ピアレビュー）

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

このコースの目標は、日本の教室で英語を効果的に使用するための基盤を提供することです。本コースでは、包括的で公平な授業を促進するための授業計画を作成、実演、議論することで、実践的な英語教育の応用に重点を置きます。英語はグローバルな言語であり、これらの教育実践を習得することは協力的な機会を促進し、公正で平等な教育システムを築くために重要です。
学生は、パペット、寸劇、ビデオなど、さまざまなメディアを使用して自分の授業アイデアを形にします。個別およびグループでのプレゼンテーションを行い、ピアレビューを通じて建設的なフィードバックを提供し、教育方法を洗練させます。
The goal of this course is to provide a foundation for effectively using English in the Japanese classroom. The

course will emphasize the practical application of English teaching through creating, demonstrating, and discussing lesson plans that promote inclusive and fair classroom practices. As English is a global language, mastering these teaching practices fosters cooperative opportunities and is essential to building a just and equitable educational system.
Students will use a variety of media, such as puppets, skits, and videos, to bring their lesson ideas to life. They will engage in both individual and group presentations, as well as participate in peer reviews to provide constructive feedback and refine their teaching methods.

到達目標

1.Acquire the ability to design and deliver effective English lessons that integrate the 5 Cs of communication, culture, connections, comparisons, and communities, in line with the ACTFL guidelines.
2.Develop the skills to create teaching materials that engage students in meaningful language learning activities, such as interpretive, interpersonal, and cultural communication.
3.Acquire the ability to use a variety of teaching techniques, including speech acts, pronunciation practice, and cultural education, to support students' language acquisition and enhance their English communication skills.
4.Develop proficiency in delivering mock lessons, applying effective lesson planning, classroom management, and peer feedback techniques for continual improvement in teaching.
5.Be effective in fostering student engagement and promoting inclusive, fair, and communicative English learning environments in junior high school classrooms.
1. ACTFL指針に基づき、コミュニケーション、文化、つながり、比較、地域社会の5つの要素を統合した効果的な英語の授業を設計し、実施する能力を習得する。
2. 解釈的、対話的、文化的なコミュニケーションを促進する学習活動を含む、学生を魅力的にする教材を作成するスキルを身につける。
3. 言語機能（スピーチアクト）、発音練習、文化教育などの様々な指導技法を用いて、学生の言語習得を支援し、英語コミュニケーションスキルを高める能力を習得する。
4. 模擬授業を実施し、効果的な授業計画、教室運営、ピアフィードバック技法を用いて、授業改善に向けて振り返りを行う能力を身につける。
5. 効果的に生徒の関与を促進し、包摂的で公平な英語学習環境を促進できる能力を習得する。

使用教材

Provided by instructor

評価方法

平常点40%（単語試験、提出物など）、発表30%, 定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法

課題はコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

金曜日の2限、水曜日の3限 (9号館307研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、中・の英語の授業に資する5領域の十分な英語運用能力について	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
2	Overview of ACTFL guidelines (ACTFL指針) and how they apply to teaching English in Japan, with a focus on learning outcomes (学習成果) ACTFL指針の概要と、日本での英語教育への適用方法、学習成果に焦点を当てて■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
3	Acquiring the ability to develop presentation skills (発表技法) for the classroom	1,2,3	Preparation for the a	1.5 h	Review the new words an	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	教室で発表技法を身につける能力を養う■		ctivity		d phrases	
4	Using visual aids and multimedia to be effective in communication 視覚教材やマルチメディアを活用して効果的なコミュニケーションを行う■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
5	Creating teaching materials for junior high school classrooms (e.g., posters, slides) to be effective in lesson delivery 授業の効果的な進行のために中学校の教室向け教材（例：ポスター、スライド）を作成する■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
6	Selecting and utilizing authentic reading materials (読解教材) for interpretive practice 解釈的練習のための実際の読解教材を選定し活用する■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
7	Creating materials for interpretive tasks (解釈的活動), including texts, songs, and dialogues, to be effective in language learning 言語学習に効果的な解釈的活動（テキスト、歌、対話など）のための教材作成■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
8	Selecting and utilizing authentic reading materials (読解教材) for interpretive practice 解釈的練習のための実際の読解教材を選定し活用する■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
9	Strategies to acquire the ability to design interpersonal learning activities (対話型学習活動) 対話型学習活動をデザインする能力を養う戦略■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
10	Creating communication-focused learning activities (学習活動) for junior high students 中学生向けのコミュニケーションに焦点を当てた学習活動の作成 ■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
11	Developing materials for interpersonal communication, such as role-play scenarios, to be effective in classroom practice ロールプレイのシナリオなど、教室実践に効果的な対話型コミュニケーションのための教材作成■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
12	Acquiring the ability to teach speech acts (言語機能) in language learning (requests, apologies, greetings) 言語学習における言語機能（依頼、謝罪、挨拶など）を教える能力を養う■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
13	Creating teaching materials to practice speech acts 言語機能を練習するための教材作成 ■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
14	Mock lessons on teaching speech acts through role-plays, aimed at effective communication in the classroom ロールプレイを通じて言語機能を教える模擬授業、効果的なコミュニケーションを目指す■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
15	Final review, presentations and peer feedback最終審査、プレゼンテーション、相互フィードバッ	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■:実務経験に基づく内容を示す。オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出にはGoogle Classroomを用いる。授業の課題や教材はGoogle Classroomを使用します。

印刷 閉じる

Communicative Classroom English II

英文名：Communicative Classroom English II
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES310
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

ステイシー・クローズ

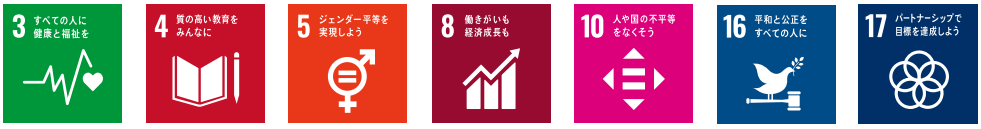
科目に関連した実務経験

ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

相互評価（ピアレビュー）

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

このコースの目標は、日本の教室で英語を効果的に使用するための基盤を提供することです。本コースでは、包括的で公平な授業を促進するための授業計画を作成、実演、議論することで、実践的な英語教育の応用に重点を置きます。英語はグローバルな言語であり、これらの教育実践を習得することは協力的な機会を促進し、公正で平等な教育システムを築くために重要です。
学生は、パペット、寸劇、ビデオなど、さまざまなメディアを使用して自分の授業アイデアを形にします。個別およびグループでのプレゼンテーションを行い、ピアレビューを通じて建設的なフィードバックを提供し、教育方法を洗練させます。
The goal of this course is to provide a foundation for effectively using English in the Japanese classroom. The

course will emphasize the practical application of English teaching through creating, demonstrating, and discussing lesson plans that promote inclusive and fair classroom practices. As English is a global language, mastering these teaching practices fosters cooperative opportunities and is essential to building a just and equitable educational system.
Students will use a variety of media, such as puppets, skits, and videos, to bring their lesson ideas to life. They will engage in both individual and group presentations, as well as participate in peer reviews to provide constructive feedback and refine their teaching methods.

到達目標

1.Acquire the ability to design and deliver effective English lessons that integrate the 5 Cs of communication, culture, connections, comparisons, and communities, in line with the ACTFL guidelines.
2.Develop the skills to create teaching materials that engage students in meaningful language learning activities, such as interpretive, interpersonal, and cultural communication.
3.Acquire the ability to use a variety of teaching techniques, including speech acts, pronunciation practice, and cultural education, to support students' language acquisition and enhance their English communication skills.
4.Develop proficiency in delivering mock lessons, applying effective lesson planning, classroom management, and peer feedback techniques for continual improvement in teaching.
5.Be effective in fostering student engagement and promoting inclusive, fair, and communicative English learning environments in junior high school classrooms.
1. ACTFL指針に基づき、コミュニケーション、文化、つながり、比較、地域社会の5つの要素を統合した効果的な英語の授業を設計し、実施する能力を習得する。
2. 解釈的、対話的、文化的なコミュニケーションを促進する学習活動を含む、学生を魅力的にする教材を作成するスキルを身につける。
3. 言語機能（スピーチアクト）、発音練習、文化教育などの様々な指導技法を用いて、学生の言語習得を支援し、英語コミュニケーションスキルを高める能力を習得する。
4. 模擬授業を実施し、効果的な授業計画、教室運営、ピアフィードバック技法を用いて、授業改善に向けて振り返りを行う能力を身につける。
5. 効果的に生徒の関与を促進し、包摂的で公平な英語学習環境を促進できる能力を習得する。

使用教材

Provided by instructor

評価方法

平常点40%（単語試験、提出物など）、発表30%, 定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法

課題はコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

金曜日の2限、水曜日の3限 (9号館307研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、中・の英語の授業に資する5領域の十分な英語運用能力について	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
2	Acquiring the ability to integrate cultural education (文化教育) into language lessons 言語授業に文化教育を統合する能力を養う■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
3	Mock lesson on integrating culture (文化の統合) through English language instruction 英語教育を通じて文化を統合する模擬授業■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
4	Effective strategies for teaching cultural differences (文化的差異) in the classroom	1,2,3	Preparation for the activ	1.5h	Review the new words and phra	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	教室で文化的差異を教えるための効果的な戦略■		ity		ses	
5	Techniques for maintaining effective teaching through vocal variety and clarity 声のバリエーションと明確さを活用して効果的な授業を維持する技術■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
6	Acquiring the ability to improve pronunciation using effective techniques 効果的な技法を使って発音を改善する能力を養う■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
7	Maintaining student engagement through dynamic vocal techniques and effective classroom instruction ダイナミックな声の技法と効果的な授業指導を通じて生徒の興味を維持する■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
8	Acquiring the ability to teach pronunciation techniques (発音技術) in the classroom 教室で発音技術を教える能力を養う■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
9	Creating materials for pronunciation drills (発音練習) 発音練習のための教材作成■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
10	Practical pronunciation exercises for students to be effective in producing accurate speech sounds 生徒が正確な発音を作るための実践的な発音練習■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
11	Acquiring the ability to select and use appropriate storybooks for junior high students 中学生に適切な絵本を選び使用する能力を養う■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
12	Effective methods for using books in lesson plans 授業計画で本を効果的に使用する方法■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
13	Mock lesson on reading comprehension (読解) using books and stories as central teaching resources 本や物語を中心教材として使った読解模擬授業■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
14	Acquiring the ability to teach using figurative language (比喩表現) and its role in language learning 比喩表現を使用して教える能力とその言語学習における役割を養う■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h
15	Final review, presentations and peer feedback 最終審査、プレゼンテーション、相互フィードバッ	1,2,3	Preparation for the activity	1.5h	Review the new words and phrases	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■:実務経験に基づく内容を示す。オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出にはGoogle Classroomを用いる。授業の課題や教材はGoogle Classroomを使用します。

印刷 閉じる ✕

Writing for English Teaching

英文名：Writing for English Teaching
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES311
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

ステイシー・クローズ

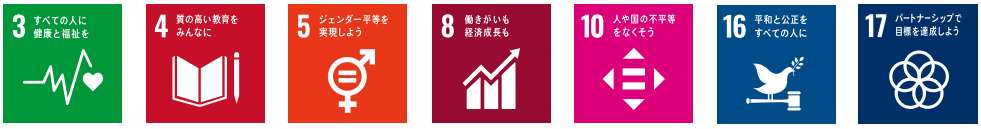
科目に関連した実務経験

ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

相互評価

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

Students will keep a writing journal for weekly assignments. Students will work in groups and discuss writing techniques. Students must come prepared to speak in English about their writing. As English is a global language, mastering good writing practices promotes future skills to promote cooperative opportunities between peoples and is a key factor in developing partnerships to build a just and equitable world. In the classroom, we will study how to use English as a tool to promote fairness and inclusion. We will analyze texts to learn the various purposes of writing and how to incorporate writing activities into the school English junior high school curriculum through mock lessons.

学生は、毎週の課題のためにライティングジャーナルを記録します。学生はグループで作業し、ライティング技術について話し合います。
学生は、自分のライティングについて英語で話す準備をしてくる必要があります。英語はグローバルな言語であり、良いライティングの実践を習得することは、人々の間で協力の機会を促進し、公正で公平な世界を築くためのパートナーシップを発展させるための重要な要素です。授業では、公正と包摂を促進するためのツールとして英語をどのように活用するかを学びます。また、テキストを分析し、ライティングのさまざまな目的を理解し、中学校の英語カリキュラムにライティング活動を組み込む方法を模擬授業を通じて学びます。

到達目標

1. ライティングプロセスとライティングの目的を理解する**
ライティングがどのように進むのか、その段階と目的を具体的に学びます。
2. 中学校での指導を想定した効果的なコミュニケーションのために、ライティングスキルを向上させる
教育現場で役立つ、わかりやすく適切な文章を書く能力を伸ばします。■
3.読解文を分析し、7つの異なるライティングジャンルで書けるようになる
多様な文章形式（例：説明文、説得文、物語など）を習得し、実際に書く練習を行います。
4.中学校でライティングを教えるために必要なスキル、語彙、文法を身につける
中学校の英語教育において、ライティング指導を実施できる能力を養います。■

使用教材

Provided by instructor

評価方法

平常点40%（単語試験、提出物など）、発表 30%, 定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは添削・コメントを付した後返却する。期末試験は採点後返却する。

オフィスアワー

月曜日の4限、水曜日の2限(9号館307研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction: Understanding writing genres	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
2	Mentor texts and descriptive writing. Students will work in groups to understand how to categorize texts■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
3	Descriptive writing■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
4	Narrative writing character and setting■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
5	Narrative writing story forms. Students will give peer feedback on story writing entries■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
6	Expository writing – general students will work in groups to discuss feathers of expository writing. ■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
7	Expository descriptive writing elements- in groups, students will analyze junior high textbook ex	1,2,3	Writing journal (every w	1.5h	Review new words and ph	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	pository writing. ■		eek)		rases	
8	Mid term test	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Study new words and phrases	1.5h
9	Compare and Contrast writing. Students will create a mock lesson using comparison■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
10	Cause and effect writing Students will work in groups to analyze news for cause and effect■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
11	Problem and solution writing Students will present a solution to a global problem.■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
12	Sequence writing Students will give presentations on their “how to” journal entries■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
13	Persuasive writing ■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
14	Presentations■	1,2,3	Writing journal (every week)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h
15	Final review, mock lessons and activities	1,2,3	Writing journal (summary)	1.5h	Review new words and phrases	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■:実務経験に基づく内容を示す。オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出にはGoogle Classroomを用いる

印刷 閉じる

異文化コミュニケーション論

英文名：Studies in Intercultural Communication
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES312
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

松田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①異文化について理解するための議論を参照しつつ、「文化とは何か」、「見える文化」と「見えない文化」、ステレオタイプ、集団主義と個人主義、外国語の学習、交渉力など、異文化間コミュニケーションにおける基本的な事項について学ぶ。国際化しつつある現代の教育現場において必要とされる異文化についての理解、コミュニケーション・スキルを得ることが、この講義の目的である。
②授業は講義形式で行うが、異文化コミュケーションの体験を促すため、2度の課外活動を行う。

到達目標

1.グローバル化社会における多様性と異文化理解の必要性を学ぶ。
2.グローバル化しつつある現代の教育現場において必要とされるコミュニケーション・スキルを身につける。
3.多文化主義を教育現場においてどのように実践するかについて学ぶ。

使用教材

八代京子ほか『異文化コミュニケーションワークブック』（三修社、2001年）

参考文献

講義で指定する。

評価方法

授業参加度（30%）、課題（20%）、最終試験（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題については添削・コメントをしたのち返却する。

オフィスアワー

金曜2限（9号館3階304室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	テキスト第1章「異文化コミュニケーションとは」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
2	ステレオタイプ・異文化理解への態度	1,2,3	テキスト「ステレオタイプ」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
3	文化とコミュニケーション	1,2,3	テキスト「文化とコミュニケーション」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
4	コンテキスト・双方向コミュニケーション	1,2,3	テキスト「コンテキスト」について読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
5	自己開示	1,2,3	テキスト「自己開示」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
6	パラ言語	1,2,3	テキスト「パラ言語」について読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
7	言語コミュニケーション	1,2,3	テキスト「言語コミュニケーション」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
8	非言語コミュニケーション	1,2,3	テキスト「非言語コミュニケーション」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
9	空間と対人距離	1,2,3	テキスト「空間と対人距離」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
10	価値観：ことわざ	1,2,3	テキスト「価値観」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
11	異文化ケース・スタディー・基本価値志向	1,2,3	「異文化ケース・スタディー」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
12	対立管理スタイル	1,2,3	テキスト「対立管理スタイル」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	共感（エンパシー）	1,2,3	テキスト「共感（エンパシー）」について読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
14	D.I.E.メソッド	1,2,3	テキスト「D.I.E.メソッド」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h
15	アサーティヴ・コミュニケーションとエポケー	1,2,3	テキスト「アサーティヴ・コミュニケーション」を読んでくる	1.5h	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンライン授業の場合、オンデマンド形式で動画を配信し、内容に応じたワークシートによって授業を進める。

印刷 閉じる

教育英文講読

英文名：Reading about Education in English
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B034
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也

科目に関連した実務経験

英語教師として中学校・高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この授業は、将来教育に携わろうとする学生が、日本の教育制度や英語教育に関する現状だけでなく、教育政策や改革の実施状況について、専門的な英文の読解を通して概観し、クラスメートとディスカッションをすることで、自分の教育実践に繋げていくことを目指すための科目である。
②授業は原則として日本語を用いて、個別の学修（英文読解）、協働学修（英文の内容の確認・ディスカッション）などを設定して進める。指定した英文をあらかじめ読んでくること。

到達目標

1. 日本の教育制度や英語教育についての基本的な語彙・英語表現を獲得する。■
2. 専門的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。■
3. 大学4年間の学習の成果として、読んだことをもとに自身の考えをまとめ、伝えることができるようになる。■

使用教材

各講義において資料等を配布する。

参考文献

参考となる文献については、随時紹介する。

評価方法

レポート（40%）、授業内の発表や貢献度（60%）等から総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにはコメントをつけて返却する。
授業中の貢献度についてはその都度評価する。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
（9号館306研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育制度	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
2	初等中等教育 ■	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
3	高等教育	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
4	生涯学習	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
5	教育行政	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
6	教育と雇用	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
7	授業研究	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
8	学校と地域社会	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
9	多文化共生	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
10	大学改革	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
11	教育の国際化と英語教育(1) ■	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	教育の国際化と英語教育(2) ■	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
13	教育の国際化と英語教育(3) ■	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
14	持続可能な開発のための教育	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h
15	まとめ	1,2,3	指定した英文をあらかじめ読んでくる。	0.5h	授業で出た意見を振り返り、テキスト本文でのリーディング・スキル向上を目指した復習をする。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

・毎回の授業では、十分に充電したデバイスを持参すること。
・質問はメールでも受け付ける。
・授業は、アクティブ・ラーニングの方法を用いて行うので、ペア・グループ・全体での発表などの活動では、積極的に参加すること。
・資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
・講義内容は、学生の興味・関心によって変更することもある。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

応用言語学

英文名：Applied Linguistics
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B035
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

姉﨑　達夫

科目に関連した実務経験

姉﨑：英語教師として中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

応用教育学分野における主なテーマや問題について、新しい英語教育研究の流れを概観しながら、英語を指導する力を養う。授業では、応用言語学研究とりわけ第二言語習得研究の知見に基づいた考え方について理解を深めるとともに、新しい英語教育の方向性についての理解を目指す。また、講義だけでなく、受講生による発表やディスカッションも行う。

到達目標

1.応用言語学・第二言語習得の理論的特徴を理解する。■
2.日本の英語教育の現場で、理論や研究また背景的知識に基づいた実践ができる。■

使用教材

鈴木 祐一. (2024).『あたらしい第二言語習得論: 英語指導の思い込みを変える』. 東京：研究社. 2,420 円 ISBN：978-4327411114

参考文献

中田 達也. (2023).『最新の第二言語習得研究に基づく英語学習法』. 東京：KADOKAWA. 1,650 円 ISBN：978-4046063496
アレン玉井光江. (2019).『小学校英語の文字指導』東京：東京書籍. 2,400円 ISBN：978- 4-487-81206-6

評価方法

授業への参加度、発表、レポート（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題のフィードバックは翌週に提示する。

オフィスアワー

月曜2限、水曜3限
（研究室：9号館3階303）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス：応用言語学とは	1,2	シラバス、教科書のまえがき・序章の内容を読んで、授業の目標などを理解する。	1.5 h	教科書序章の「13の問い」に答える。	1.5 h
2	第1章：文法指導■	1,2	教科書第1章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第1章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
3	第2章：語彙指導■	1,2	教科書第2章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第2章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
4	第3章：発音と語用論指導■	1,2	教科書第3章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第3章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
5	第1回～第4回のまとめ、ディスカッション	1,2	教科書第1章から第3章をもう一度読む。	1.5 h	言語知識とスキルの指導法について理解を深める。	1.5 h
6	第4章：インターラクションと協同学習■	1,2	教科書第4章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第4章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
7	第5章：訂正フィードバック■	1,2	教科書第5章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第5章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
8	第6章：認知・非認知能力の個人差■	1,2	教科書第6章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第6章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
9	第7章：学習者心理の個人差■	1,2	教科書第7章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第7章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
10	第6回～第9回のまとめ、ディスカッション■	1,2	教科書第4章から第7章をもう一度読む。	1.5 h	学習者中心のアプローチに置ける教師の役割について理解を深める。	1.5 h
11	第8章：言語形式重視の指導法■	1,2	教科書第8章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第8章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h
12	第9章：意味重視の指導法■	1,2	教科書第9章の指定された箇所を読む。	1.5 h	教科書第9章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	第10章：学習開始年齢と指導法■	1,2	教科書第10章の指定された箇所を読む。	1.5h	教科書第10章の専門用語の意味等を理解する。	1.5h
14	終章：SLA研究を通して「13の問い」振り返る■	1,2	教科書終章を読む。	1.5h	教科書終章の内容を理解し、授業における思い込みを問い直す。	1.5h
15	まとめ、ディスカッション（SLAの知見を実際の授業にどのように取り入れるか）■	1,2	教科書序章から終章まで専門用語を中心にもう一度読み返す。	1.5h	SLAの知見を実際の授業にどのように取り入れるか、その具体的な実践例を検討する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

英語文化論

英文名：Cultures in the English-speaking World
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B036
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

松田　幸子

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①現在の英語圏における多文化状況をえがいた映像作品やテキストにふれ、教育現場・現代社会で必須とされる現代的なイシューについて自ら考え、語ることができるようになる。
②講義は演習形式で行う。各回で映像作品を鑑賞し、その作品を論じたテキストを読み、ディスカッションを行うことで授業を進めていく。また受講者は必ずひとつテキストを担当し、テキストの内容についての発表を行う。

到達目標

1. 英語圏の映像作品を鑑賞し、そこで扱われている社会的問題について理解できるようになる。
2. 英語圏における多文化状況について論じたテキストを英語で読解できる。
3. 英語文化にかかわる現代的なイシューについて、自ら考え語ることができる。

使用教材

Joseph Tabolt, 森永弘司『Our Society, Our Diversity, Our Movies:映画に観る多文化社会のかたち』（金星堂、2020年）

参考文献

授業内で指示する。

評価方法

授業貢献度（30%）、課題（30%）、最終課題（40%）

課題・評価に対するフィードバック方法

課題等提出物はコメント・評価したうえで返却する。

オフィスアワー

金曜1、2限（9号館304室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：授業の進め方・受講者に求められることについて	1	シラバスを読んでくる	2h	次回以降の発表の準備	1h
2	Unit 1　United by Desperation: White Trash『スリー・ビルボード』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
3	Unit 2　Assigning a Label: LGBT『ムーンライト』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめるむ	1h
4	Unit 3　Prejudice and Egocentrism: Gender and Racial Segregation『ドリーム』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
5	Unit 4　Human vs. Property: Slavery Systems『それでも夜は明ける』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
6	Unit 5　Choosing a Home: Immigrants『ブルックリン』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
7	Unit 6 Be an Intercultural Interpreter: Immigrants『グラン・トリノ』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
8	Unit 7 An Illegal Life: Illegal Immigrants『扉をたたく人』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
9	Unit 8 Foreign Language and Self-Confidence: Foreign Language『マダム・イン・ニューヨーク』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
10	Unit 9 Frame of Mind: Cross-Cultural Communication『ロスト・イン・トランスレーション』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
11	Unit 10　An Individual or A Number: State Welfare『わたしは、ダニエル・ブレイク』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
12	Unit 11　Pushing Past Boundaries: Physical Disability『博士と彼女のセオリー』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
13	Unit 12 Does It Divide or Unite?: Disease『ダラス・バイヤーズクラブ』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	Unit 13　Finding a Cure: PTSD『アメリカン・スナイパー』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h
15	Unit 14　Is Your World Peaceful?: Refugees『ホテル・ルワンダ』	1,2,3	該当の映像作品をみる	2h	該当のテキストを読み、ワークシートをまとめる	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

受講者の発表・ディスカッションによって授業を進めます。積極的に議論に参加してください。
辞書、テキスト、端末を必ず持参してください。

印刷　閉じる

音楽実技

英文名：Musical Performance
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B037
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
4 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐藤　和貴　田中 悠一郎 中村 郁野

科目に関連した実務経験

佐藤：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）
田中：音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）
中村：音楽科教諭として中学校及び特別支援学校に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回の実技指導に対しその場でコメントを行い、より良い音楽表現方法について学生と対話を積み重ねていく。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本講義では，小学校教員に必要な歌唱や楽器演奏の技術のさらなる習得を目標とする。歌唱では，声楽の基本発声から独唱に必要な発声法の習得，および声楽アンサンブル，合唱の表現技法を学ぶ。楽器演奏では，学生の興味に応じてピアノ奏法や小学校教員として身につけるべき様々な楽器の独奏技術の上達を目指すほか，様々な楽器を組み合わせた合奏，アンサンブルを体験する。
　毎回の授業では，学生が準備してきた楽曲に対し教員の専門性を生かした指導を行う。また，習得した楽曲を発表する場を設定し，人前で演奏する経験を積み重ねていく。そのほか，演奏だけでなくコンサートを行うための準備（ステージの裏方の役割、広報）を体験する。将来，音楽の専門的な知識と経験を持った教員として，現場で活躍する力を身につける。

到達目標

1．歌唱表現に必要な発声法と表現技法を習得する。 ■
2．様々な楽器の演奏技法を習得する。 ■
3．合唱に必要な表現技法を習得する。 ■
4．様々な楽器を用いた合奏に必要な表現技法を習得する。 ■

使用教材

教科書は使用しないが，各教員から資料の配布，参考書の紹介などを予定している。

参考文献

授業内で紹介する。

評価方法

歌唱表現30%，楽器演奏30%， 合唱・合奏30%，日ごろの授業への参加度10%で総合的に評価する。また、5回欠席からは受験資格なしとなり、単位取得ができない。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎時の実技課題に対し，各教員からその都度コメントする。

オフィスアワー

佐藤和貴：火曜・２時限または，火曜・5時限(503研究室)
田中 悠一郎 ・中村 郁野：授業開始前，終了後

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・歌唱表現の発声法と表現技法① ■	1	シラバスを読み，講義の目標や内容を理解する。	1h	実技課題を復習する。	1h
2	歌唱表現の発声法と表現技法② 基本的な発声法の習得 ■	1	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
3	歌唱表現の発声法と表現技法③ 日本歌曲を題材として ■	1	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
4	歌唱表現の発声法と表現技法④ 世界の歌を題材として ■	1	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
5	歌唱表現の発声法と表現技法⑤ 発表 ■	1	発表に向けて練習しておく。	1h	発表での課題について整理し，次の課題に向けて練習する。	1h
6	様々な楽器の演奏技法① ピアノの練習曲を題材として ■	2	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
7	様々な楽器の演奏技法② ピアノ曲を題材として ■	2	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
8	様々な楽器の演奏技法③ 打楽器の奏法 ■	2	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
9	様々な楽器の演奏技法④ その他の楽器の奏法 ■	2	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
10	様々な楽器の演奏技法⑤ 発表 ■	2	発表に向けて練習しておく。	1h	発表での課題について整理し，次の課題に向けて練習する。	1h
11	合唱・合奏の演奏技法① 合唱曲の練習 ■	3,4	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	合唱・合奏の演奏技法② 合奏曲の練習 ■	3,4	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
13	合唱・合奏の演奏技法③ グループに分かれて発表課題に取り組む ■	3,4	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
14	合唱・合奏の演奏技法④ グループに分かれて発表課題に取り組む ■	3,4	予め配布された課題を練習しておく。	1h	実技課題を復習する。	1h
15	合唱・合奏の演奏技法⑤　発表 ■	3,4	発表に向けて練習しておく。	1h	発表での課題を整理する。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

本講義は，音楽基礎Ⅰ・Ⅱの学習内容を踏まえ，さらに音楽を専門的に学ぶものである。クラシック曲や合奏（連弾・楽器合奏），歌のアンサンブルなど，自身の音楽表現力をより高めたい学生のために開講する。授業では，学生それぞれが独奏として取り組んでみたい楽器に挑戦する。また，合唱など複数人でのアンサンブルを課題とし，自ら選択した音楽を中心に学ぶ。実技課題が毎回出されるので，毎日の予習・復習をして主体的に授業に臨むこと。学生が自ら学びたい内容を持って受講することを想定している。また，授業で扱う教材の譜読みは，学生個人で主体的に行うことを想定している。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

ヨーロッパ思想と多文化理解

英文名：History of European Culture and Philosophy
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES505
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
1 専門的知識
1 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

石原　綱成

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○		○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この講義は保育者・教育者をめざす学生が、より広い視野を持ち、社会により実践的に関ることで、
豊かな人間性を育むことができる科目である。
多様な文化を学ぶことで、自己を相対化し、他者理解を深めることをテーマにしている。
講義の進め方は、レポート、発表（報告）、文献購読、視覚教材にて行う。講義に関して必ずフィードバックを行う。

到達目標

1．あらゆる文化を総合的に理解できる
2．異なる文化を学ぶことで、自国の文化を相対的に理解できる。
3．保育者・教育者に必要な豊かな教養を身に着けることができる。
4．国際紛争の原因を理解することにより、異文化理解を深めることができる。

使用教材

講義スライドの資料を配布する。

参考文献

担当教員が逐次紹介する。

評価方法

学期末にレポート課題50点、与えられたテーマのプレゼンテーション30点、日常点20点

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された感想シートやレポートについて逐一コメントなどを提示する。

オフィスアワー

月曜３限、金曜2限
（8号館501研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	2	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する。	1.5 h	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。	1.5 h
2	子どもの発見－アリエスの学説	1,2,3	アリエスの『子供の発見』の指定されたページを読む。	1.5 h	現代の子ども観を再考する。	1.5 h
3	ペーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」を巡って①	1,2,3	配布したプリントをもとにブリューゲルの芸術作品を理解する。	1.5 h	「子どもの遊戯」の図像のテーマを理解する。	1.5 h
4	ペーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」を巡って②	1,2,3	配布したプリントをもとに子どもの図像から子どもの姿を理解する。	1.5 h	中世の子ども像を概観する。	1.5 h
5	絵で読む子供の社会史①	1,2,3	配布したプリントをもとに子どもの図像から子どもの姿を理解する。	1.5 h	中世の子ども像を概観する。	1.5 h
6	歴史の中の女性①―ジェンダーの起源ー	1,2,4	配布したプリントをもとに図像に現れた女性の姿を理解する。	1.5 h	近世における女性像を理解する。	1.5 h
7	歴史の中の女性②－聖書の中の女性―	1,2,4	キリスト教の教義を理解する。	1.5 h	配布した聖書を読む。	1.5 h
8	世界の宗教を理解する。―キリスト教―	1,2,4	キリスト教の教義を理解する。	1.5 h	キリスト世界の特徴を理解する。	1.5 h
9	世界の宗教を理解する。―仏教―	1,2,4	仏教の教えを理解する。	1.5 h	多神教と一神教の特色を理解する。	1.5 h
10	教育史のなかの「よい子」を考えるー戦中の教育―	1,2,3,4	配布したプリントをもとに戦争中現れた子どもの姿を理解する。	1.5 h	軍事教育とは何かを理解する。	1.5 h
11	戦争の本質ー多文化理解欠如の悲惨ー	1,2,4	戦争の歴史を理解する。	1.5 h	戦争の原因を理解する。帝国主義の末路を考える。	1.5 h
12	原子爆弾投下の背景	1,2,4	原子爆弾の構造と破壊力への理解。	1.5 h	ヒロシマ・ナガサキで起こったことを理解する。	1.5 h
13	ナチス・ドイツと戦争	1,2,4	ホロコーストについて調べる	1.5 h	人種差別の問題を問い直す	1.5 h
14	ハンナ・アーレントと全体主義	1,2,4	ハンナ・アーレントの思想を理解する。	1.5 h	全体主義の現代的意味を考察する	1.5 h
15	多文化理解と他者理解	1,2,3,4	今までの授業を総合的に振り返る。	1.5 h	教育者・保育者が心がけるべき「平和」を考える。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

表現演習

英文名：Expression Practice
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES506
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本　拡子

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

子どもを対象とした表現発表（とくに音楽表現を中心とした表現）の舞台制作について学ぶ。
授業は演習形式でグループワークを中心に行う。演目を考え，必要な道具や衣装も自身で制作する。また，発表に向けた練習に取り組む。

到達目標

1．子どもを対象とした表現発表の舞台制作を企画立案し，制作・発表を行う。
2．保育・教育現場における子どもの表現活動の指導方法の実際を学ぶ。

使用教材

必要に応じて資料等を配布する。

評価方法

課題への取り組み60%，期末レポート40%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎授業ごとに振り返りの時間を設け，次週までの課題を明確にして共有をはかる。

オフィスアワー

水曜日1限　金曜日2限
研究室　8号館4階404

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション。授業の概要説明とグループ分け。演目検討。	1	シラバスをよく読み，講義目標，到達目標を理解する。	1h	講義内容，評価方法を確認する。	1h
2	演目を選ぶ。必要に応じて台本制作，演出，舞台装置，衣装制作，出演者等の役割ごとの作業確認と準備。	1	どのような表現媒体を用いるか，検討しておく。	1h	授業時間内でまとまらなかった意見について検討しておく。	1h
3	各グループの演目について発表し，意見交換を行い内容についての再検討。	1	演目について発表準備を行う。	1h	表現媒体の準備を進める。	1h
4	音楽練習。使用楽曲の選曲，パート練習	1	予め使用楽曲について調べておく。	1h	音楽練習を進めておく。	1h
5	立ち稽古①　実際に演じながら練習および演技指導。	1	台本制作等準備を行う。	1h	修正点をグループ内で共有し練習する。	1h
6	中間発表。各グループの演目を発表し，意見交換，演技指導。	1	中間発表に向けてグループ内で課題について検討しておく。	1h	課題を明確化し，翌週の準備を行う。	1h
7	立ち稽古②　中間発表を踏まえて，修正，演技指導。	1	修正点をグループ内で共有し，発表準備を行う。	1h	課題を明確化し，翌週の準備を行う。	1h
8	通しリハーサル①　照明，衣装，舞台装置等確認	1	修正点をグループ内で共有し，発表準備を行う。	1h	課題を明確化し，翌週の準備を行う。	1h
9	通しリハーサル②　最終リハーサル	1	修正点をグループ内で共有し，発表準備を行う。	1h	課題を明確化し，翌週の準備を行う。	1h
10	舞台発表	1	準備不足のないようグループ内で意見交換を行っておく。	1h	発表の反省と評価を行う。	1h
11	発表後の振り返り　反省と評価	1,2	課題を明確にしておく。	1h	他者の意見を受けて，グループあるいは個々の課題を明確化する。	1h
12	子どもの発表会における表現活動の指導方法について。模擬保育の内容検討	2	模擬保育に実施する内容について検討しておく。	1h	授業内でまとまらなかった課題についてさらに検討しておく。	1h
13	表現活動の指導について。指導案の作成	2	指導案作成に向けての教材研究を事前に行っておく。	1h	授業内でまとまらなかった指導案の作成を終わらせておく。	1h
14	模擬保育　グループごとに発表し相互に評価し合う。	2	模擬保育に向けて必要な準備を各自で進める。	1h	反省点の振り返りを行う。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	指導案再検討　模擬保育後の反省と評価。指導案の再検討を行う。	2	指導案再検討に向けて課題を明確にしておく。	1h	個々の課題を明確にし，実践にいかす。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

印刷　閉じる

絵本学演習

英文名：Workshop on Picture Book Studies
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：B040
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本　拡子／今井　邦枝／佐々木　典彰／石川　徹／小柳　聡美

科目に関連した実務経験

今井：非常勤講師として幼稚園、小学校、子育て支援センターに勤務（経験）
石川：保育士として保育所、教諭として幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：認定絵本士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①認定絵本士として必要な資質を身につける。また、実際に絵本の魅力や可能性を伝え、教育・保育現場や地域の読書活動を充実させる役割を担うことができるようになることを目標とする。
②講義は、専門教員とゲストスピーカーでのオムニバスで実施する。各専門分野のゲストスピーカーを招聘し、より専門的な知識を深めてもらう。

到達目標

1.絵本に関する専門的な知識を理解する。
2.絵本に関する活動の意義を理解し、教育・保育現場での実践力を養う。■

使用教材

絵本専門士委員会　認定絵本士養成講座テキスト（第2版）中央法規出版　2024　1800円

参考文献

授業内に提示する。

評価方法

授業内課題70%、授業外課題30%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出したレポート、振り返りシートにコメントし、返却する。

オフィスアワー

授業の初回に連絡する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	絵本各論①（絵本の歴史、絵本賞について）【今井・佐々木】	1	教科書ｐ22～27までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	世界と日本の絵本の歴史について理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
2	絵本各論③（子どもの知的・社会的発達と絵本との関わり）【佐々木・石川】	1	教科書ｐ34～39までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	絵本が子どもの発達に及ぼす影響について理解したことをまとめる。	0.5h
3	心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性）【佐々木・石川】	1	教科書ｐ148～153までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	心のケアと絵本の関わり方について理解したことをまとめる。	0.5h
4	大人の心を豊かにする絵本（人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を）【今井・佐々木】	1	教科書ｐ166～171までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	絵本が大人に与える影響について理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
5	絵本と出会う①（はじめての絵本との出会い）【石川・今井】■	1,2	教科書ｐ64～69までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	乳幼児を対象にした絵本について理解したことをまとめる。	0.5h
6	絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い）【石川・今井】■	1,2	教科書ｐ58～63までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	保育・教育現場における絵本の意義と活動について理解したことをまとめる。	0.5h
7	絵本各論④（メディアとしての絵本の位置づけ）【小柳】	1	教科書ｐ40～45までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	情報メディアとしての絵本の特性とその影響について理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
8	絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る）【石川・岡本】■	1,2	教科書ｐ70～75までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	絵本が子どもに与える影響について理解したことをまとめる。	0.5h
9	子どもの心をとらえるもの（子どもの心をとらえてはなさないもの）【今井・石川】	1	教科書ｐ160～165までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	子どもの興味ついて理解したことをまとめる。	0.5h
10	絵本のある空間（絵本がある望ましい空間とは）【ゲストスピーカー：續木・岡本】	1	教科書ｐ154～159までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	絵本に関する空間やレイアウトについて理解したことをまとめる。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	絵本と出会う④（書店での出会い）【ゲストスピーカー：續木・岡本】	1	教科書ｐ82～88までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	絵本の流通や書店における絵本の売り場づくりの特性について理解したことをまとめる。	0.5h
12	絵本が生まれる現場②（絵本の編集）【ゲストスピーカー：滝西・岡本】	1	教科書ｐ184～189までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	絵本の編集について理解したことをまとめる。	0.5h
13	絵本と出会う③（図書館等での出会い～絵本の活用および地域連携の可能性～）【小柳】	1,2	教科書ｐ76～81までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動について理解したことをレポートにまとめる。	0.5h
14	ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませる為の手法を学ぼう）【岡本・今井】■	2	教科書ｐ172～177までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解したことをまとめる。	0.5h
15	ディスカッション【岡本・今井】■	2	教科書ｐ190～195までを読み、疑問点などを見つける。	0.5h	認定絵本士としての役割について理解したことをまとめる。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

ゲストスピーカー：横山由美子（おはなしの会）、續木あかり（絵本書店）、浦中こういち（絵本作家）、滝西友美（絵本出版編集部）
認定絵本士を申請する場合は、全授業の8割以上の出席が必要です。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

家庭教育と幼児教育

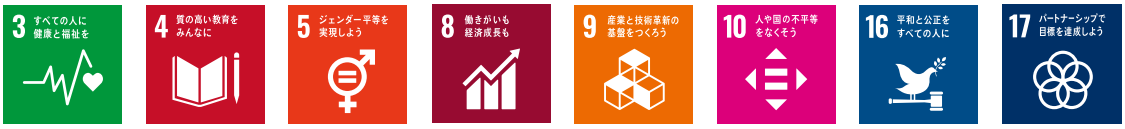
英文名：Home-based Education and Early Childhood Education and Care
科目区分：保育領域及び教科の内容
科目ナンバリング：CES508
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　麻美

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

既習の内容を踏まえ，本授業では，家庭教育と幼児教育，それぞれの役割や機能，両者の関係性に関する議論を歴史的に学ぶ。さらに，現在，家庭教育と幼児教育との関係は，どのように位置づけられているのかについて議論を通して，理解を深める。授業は，関係する文献を読み進めながら進む。

到達目標

1.　家庭教育と幼児教育，それぞれの役割や機能，両者の関係性に関する議論を歴史的に理解する。
2. 家庭教育と幼児教育，それぞれ独自の役割や機能について自分なりに考えを深めることができる。

使用教材

適宜資料を配布する

評価方法

授業内の小レポート40%，最終レポート60%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題の意義について説明する。
提出された課題にはコメントを付けて返却する。

オフィスアワー

オフィスアワー：火曜3限、金曜2限
研究室：8号館5階504

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	1,2	シラバスの内容を読んで，講義の目標などを理解する	1.5 h	講義内容，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを確認する	1.5 h
2	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ①幼児教育の誕生	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
3	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ②両者の対等性	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
4	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ③現在の問題と課題	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
5	近代家族と「学校」	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
6	近年の家庭教育関係施策	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
7	行政文書から捉える「家庭教育」	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
8	メディアから捉える「家庭教育」	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
9	家庭教育と幼児教育に対する自分たちのものの見方	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
10	家庭教育言説から捉える子ども像，親像　①文献検討	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
11	家庭教育言説から捉える子ども像，親像　②ディスカッション	1,2	他者と共有したい内容を整理する	1.5 h	ディスカッションを通して，気づいたことを整理する	1.5 h
12	家庭教育から幼児教育への移行　①親にとっての変化	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
13	家庭教育から幼児教育への移行　②親子が保育者と関わることの意味	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返り，自分の意見や考えを整理する	1.5 h
14	家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義　①グループディスカッション	1,2	これまでの授業内容を振り返り，自分なりの考えを整理する	1.5 h	ディスカッションを通して，気づいたことを整理する	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義　②レポート作成	1,2	これまでの授業内容を振り返り，自分なりの考えを整理する	1.5 h	レポートを読み返し，自分自身のものの見方がどのように変化したのかについて考えたり，気づいたりする	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、C-learningを用いてオンデマンド型授業とします。

印刷　閉じる

保育内容総論

英文名：Introduction to Early Childhood Education and Care
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW101
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　邦枝

科目に関連した実務経験

非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務（経験）
非常勤職員として子育て支援センターに勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本授業は，前期に学んだ保育原理を踏まえ，保育内容5領域について保育実践に即して理解を深める。また，保育内容5領域の各論における学びを深めるための土台となる授業である。
②パワーポイントを使いながら，授業を進める。授業では，映像資料や事例など，具体的な保育実践がイメージできる教材を使用する。

到達目標

1.保育内容のねらい及び内容について理解し，各領域で子どもが経験し身につけていく内容の総合性や関係性について理解する。
2.子どもの興味や関心，発達に応じた具体的な指導のあり方を理解し，実践するための技能を身につける。■

使用教材

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018　350円
フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画、教育・保育実習の手引その二　神永直美　萌文書林　2022　1800円

参考文献

授業内で紹介する

評価方法

授業での振り返りシート30%，授業内課題50%，授業態度20%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回，授業の後半に授業内容を一人一人が振り返り，レポートとしてまとめる。そのレポートにコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

月曜日2限
研究室：8号館5階507

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育の基本的な考え方	1	前期で学んだ保育原理，教育原理について復習する	0.5h	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第1章第1節の内容を理解する	0.5h
2	乳児保育のねらい・内容	1,2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第2章第1節を読み、ねらい・内容の考え方と視点について理解する	0.5h	乳児保育のねらい・内容について視点ごとにまとめる	0.5h
3	1歳未満児の姿事例検討①	1,2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第2章第2節のねらい・内容を読み、前回の授業内容を確認する	0.5h	1歳未満の子どもの姿から、対応する保育のねらい・内容を考える	0.5h
4	1歳以上3歳未満児保育に関するねらい・内容①	1,2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第2章第2節領域「健康」「人間関係」のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5h	乳児保育のねらい・内容と比較して，気づいたことをまとめる	0.5h
5	1歳以上3歳未満児保育に関するねらい・内容②■	1,2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第2章第2節5領域「環境」「言葉」「表現」のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5h	3歳未満の子どもの姿から、対応する保育のねらい・内容を考える	0.5h
6	3歳以上児保育に関するねらい・内容①	1,2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第2章第2節領域「健康」の3歳以上児のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5h	3歳未満児保育のねらい・内容と比較し、気づいたことをまとめる	0.5h
7	3歳以上児保育に関するねらい・内容②	1,2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第2章第2節領域「人間関係」「環境」の3歳以上時のねらい・内容を読み、内容を理解する	0.5h	3歳未満児保育のねらい・内容と比較し、気づいたことをまとめる	0.5h
8	3歳以上児保育に関するねらい・内容③	1,2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第2章第2節領域「言葉」	0.5h	3歳未満の子どもの姿から、対応する保育のねらい・内容を考える	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			「表現」の3歳以上児のねらい・内容を読み、内容を理解する			
9	３歳以上児の姿事例検討①■	1,2	保育内容5領域のねらいと内容を読み，理解を深める	0.5h	3歳未満の子どもの姿から、対応する保育のねらい・内容を考える	0.5h
10	３歳以上児の姿事例検討②■	1,2	保育内容5領域のねらいと内容を読み，理解を深める	0.5h	保育内容5領域の総合性について理解を深める	0.5h
11	子どもの姿を記録する①■	2	教科書「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」p14-23を読み、内容を理解する	0.5h	保育内容5領域の視点と結びつけて、自由あそび場面の記録ができるように復習する	0.5h
12	子どもの姿を記録する②■	2	前回の授業内容を振り返えり、実習での記録の取り方を理解する	0.5h	保育内容5領域の視点と結びつけて、クラス活動場面の記録ができるように復習する	0.5h
13	子どもの姿を記録する③■	2	前回の授業内容を振り返えり、実習での記録の取り方を理解する	0.5h	実習のねらいに対する考察について復習をする	0.5h
14	子どもの姿を記録する④■	2	前回の授業内容を振り返えり実習での記録の取り方を理解する 、	0.5h	授業を振り返り、保育が「子ども理解⇒指導計画⇒保育実践⇒評価」というサイクルで行われていることを理解する	0.5h
15	短期的指導計画の立案のポイント（ICTの活用）■	2	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第1章第2節を読み、保育における指導計画の意味を理解する	0.5h	子どもの興味，関心，発達に応じた指導計画を作成するための配慮点について振り返り，復習する	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

自分なりに気づいたり，感じたりしたことを発信する姿勢を望みます。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

保育内容健康

英文名：Methods of Early Childhood Education and Care (Health)
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW102
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

山西　加織

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①領域「健康」のねらいと内容を踏まえ、幼児期の心身の発達や学びの過程を理解するとともに、実際の援助や環境構成について考えていく。さらに、幼児期の発達段階に応じた運動遊びの指導計画を作成し、模擬保育の実践と振り返りを行うことで、保育に必要な指導技術や視点を身につける。また、領域「健康」に関する各場面へのICT活用のあり方を考え具体的な活用法を学ぶ。
②パワーポイントや配布資料を用いて、講義とグループワークで授業を進める。模擬保育では、模擬保育を実践後、意見交換によるフィードバックの機会を設ける。

到達目標

1.領域「健康」のねらいと内容を理解し、説明できる。
2.領域「健康」において幼児が身につける内容を理解し、指導上の留意点や具体的な援助と関連付けることができる。
3.幼児期の運動発達に応じた運動遊びについて、指導計画を作成し指導することができる。
4.子どもの健康をめぐる現代的課題から、改善に向けて援助や環境構成を考えることができる。

使用教材

教科書「乳幼児の健康―教育・保育に向けた計画と実践―〈改訂版〉」宮下恭子監修・茗井香保里・平山素子・山西加織編著（大学図書出版）、幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省）、幼稚園教育要領解説（文部科学省）、その他適宜資料を配布する。

参考文献

授業時に紹介する。

評価方法

授業への貢献度（20%）、指導案（20%）、模擬保育（20%）、レポート課題（40%）を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。

オフィスアワー

月曜日5時限、火曜日5時限
（8号館505研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　領域「健康」のねらい及び内容	1,3	領域「健康」のねらいと内容を確認する。	0.5h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5h
2	領域「健康」における他領域との関連と小学校との連携	1	各領域のねらいと内容を確認する。	0.5h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5h
3	基本的生活習慣に関する指導のポイント	2,3	教科書第2章（102～108頁）をよく読み、これまで学習した内容を復習する。	0.5h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5h
4	安全に関する指導のポイント	2,3	教科書第3章（133～146頁）をよく読み、これまで学習した内容を復習する。	0.5h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5h
5	運動遊びに関する指導のポイント	2,3	教科書第3章（90～96頁）をよく読み、これまで学習した内容を復習する。	0.5h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5h
6	運動遊びの教材研究と環境構成	2,3	運動遊びをひとつ取り上げ、遊び内容をノートにまとめる。	0.5h	取り上げた運動遊びについて、教材研究を行う。	0.5h
7	運動遊びの指導計画立案	2,3	取り上げた運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5h	取り上げた運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5h
8	模擬保育の実践（1）3歳児	2,3	3歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5h	立案した指導計画を修正する。	0.5h
9	模擬保育の振り返り（1）3歳児	4	3歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5h	立案した指導計画を修正する。	0.5h
10	模擬保育の実践（2）4歳児	4	4歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5h	立案した指導計画を修正する。	0.5h
11	模擬保育の振り返り（2）4歳児	4	4歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5h	立案した指導計画を修正する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	模擬保育の実践（3）5歳児	4	5歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5h	立案した指導計画を修正する。	0.5h
13	模擬保育の振り返り（3）5歳児	4	5歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5h	立案した指導計画を修正する。	0.5h
14	領域「健康」における現代的課題の事例検討と保育現場へのICT活用法の学修	1,2	子どもの健康や運動経験で課題となっていることを取り上げ、援助や対策を考える。	0.5h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5h
15	まとめ	1,2,3,4	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5h	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ（体育館用、外履き用）を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。

印刷 閉じる

保育内容人間関係

英文名：Methods of Early Childhood Education and Care（Human Relationships）
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW103
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

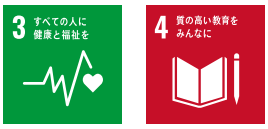
担当教員

内田　祥子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

乳幼児期における人間関係の発達と保育者の役割を踏まえ、適切な指導方法を実践できる視点獲得を目指す。指導計画立案、模擬授業等を実施し、実践的な視点から指導の仕方を考える。

到達目標

1.乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明することができる。
2.保育内容「人間関係」の位置づけを理解し、説明することができる。
3.模擬授業を通じて、「人間関係」の育ちを促す保育者の援助について理解し、実践することができる。
4.ICTを用いた保育実践の方法を理解する。
5.「人間関係」をめぐる現代的課題について理解し説明することができる。

使用教材

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「認定こども園保育・教育要領」

参考文献

授業時に紹介する

評価方法

授業の取り組み30%　期末試験70%　※評価方法は初回にアナウンスする

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にコメントし、返却する

オフィスアワー

月曜3限（8号館410研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業概要・評価方法の確認	1,2	シラバスを読んでくる	0.5h	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	0.25h
2	保育内容人間関係のねらいと内容	1,2	「人間関係」のねらいと内容を読んでくる	0.5h	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	0.25h
3	0～1歳児の人間関係の指導計画：入園初期の不安が強い乳幼児	1,2	入園児の幼児の心理について考えてみよう	0.5h	幼児の心理特徴をまとめる	0.25h
4	2～3歳児の人間関係の指導計画：遠足場面	1,2	援助方法を考えてみよう	0.5h	援助方法の要点をまとめる	0.25h
5	4～5歳児の人間関係の指導計画:幼児同士のいざこざ	1,2	幼児のいざこざの特徴を考えてみよう	0.5h	幼児の心理特徴をまとめる	0.25h
6	援助方法を話しあってみよう：幼児同士のいざこざ	3	援助方法を考えてみよう	0.5h	援助方法の要点をまとめる	0.25h
7	人間関係の育ちをねらいにした指導計画	3	指導計画の立案方法を確認する	0.5h	指導計画立案のポイントを理解し指導案を作成する	0.25h
8	教材研究の方法と意義	3	教材研究とは何かを調べる	0.5h	教材研究の方法を理解し教材研究をおこなう	0.25h
9	模擬授業の実施	3	模擬授業の実施に向けた準備	0.5h	模擬授業の良かった点・課題点を書きだす	0.25h
10	模擬授業の振り返り	3	模擬授業時の動画をみる	0.5h	模擬授業時の課題点をまとめる	0.25h
11	指導案の修正（グループワーク）	3	指導案の書き方を確認する	0.5h	指導案の修正点を反映させる	0.25h
12	小学校以降の人間関係の育ち	5	児童期の人間関係について考える	0.5h	援助方法の要点をまとめる	0.25h
13	行事と人間関係の育ち	5	年間を通してどのような行事があるかをまとめてくる	0.5h	援助方法の要点をまとめる	0.25h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	保育実践におけるICTの活用：ドキュメンテーションの作成方法を学ぶ	4	ドキュメンテーションについて調べる	0.5h	ドキュメンテーションの意義をまとめる	0.25h
15	保育実践におけるICTの活用：幼児がICTを使って同年代の子どもたちの様子を調べる方法を実践的に学ぶ	4	ICTを使った保育実践例を調べる	0.5h	保育内容人間関係におけるICTの活用例をかんがえる	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

オンラインで実施する場合はオンデマンド形式を中心とする。

印刷 閉じる

保育内容環境

英文名：Methods of Early Childhood Education and Care (Environment)
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW104
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

石川　徹

科目に関連した実務経験

保育士として保育所に勤務（経験）
幼稚園教諭として幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○			○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本授業では、保育内容「環境」について理解を深めるとともに、実際の保育現場における様々な「環境」について学んでいく。さらに乳児・幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが出来る様な保育内容「環境」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想や指導方法、実践力を身に付ける。
②毎時間プリントを配布し、保育内容環境の基礎を学んでいく。その後、保育場面を想定した模擬保育等の実践内容を主とした内容で進めていく。

到達目標

1.領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
2.領域「環境」に関わる様々な環境について理解する。

3.領域「環境」を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導方法を理解する。■
4.指導案の構造を理解し、具体的な保育場面を想定した指導案を作成することが出来る。
5.模擬保育の振り返りを通して、保育を省察・評価・改善を行うことが出来る。■

使用教材

教科書①　「幼稚園教育要領解説」平成30年3月
教科書②　「保育所保育指針解説」平成30年3月
教科書③　「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」平成30年3月
教科書④　「新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　環境」無藤隆・福元真由美、萌文書林、2018年、2,100円
教科書⑤　「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」　2021年　594円

評価方法

指導案作成・模擬保育(教材研究含)の実践(50%)、筆記試験(50%)

課題・評価に対するフィードバック方法

提出物等は適宜返却するので、各自見直しを行うこと。
指導案はコメントをつけて返却をするので、各自見直しを行うこと。

オフィスアワー

水曜1、2限（研究室301）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	領域「環境」の意義、ねらい、内容、内容の取扱い、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「環境」の関連について	1,2	シラバス及び教科書①、②、③を読んでおく。	0.5h	教科書①、②、③を理解する。	0.5h
2	様々な保育環境―人的環境・物的環境・自然環境等について―	2,3	教科書④の第2・4・5・6・7章を読んでおく。	0.5h	様々な環境について理解し、具体的な保育場面を想定する。	0.5h
3	保育室の環境構成を中心に身近な素材や道具、情報機器の活用を実践的に学ぶ■	2,3	教科書④の第2・4・9章を読んでおく。	0.5h	保育室で活用される身近な素材や道具、情報機器について理解を深める。	0.5h
4	自然環境としての動植物　－生物・自然(虫や植物について)－ネイチャーゲームの実践－	2,3	教科書④の第4章を読んでおく。	0.5h	自然環境の重要性や保育での活用方法を理解する。	0.5h
5	日常生活の中での興味・関心　－標識・文字、情報・施設について－	2,3	教科書④の第6・7章及び教科書①の第2章を読んでおく。	0.5h	・身近な標識や文字を乳幼児にどのように伝えていくのか理解する。 ・幼稚園・保育所・認定こども園以外の子どもを取り巻く施設を理解する。	0.5h
6	環境に関する内容の展開について―園内で行われる幼児の遊びや活動の事例検討―■	1,2,3	教科書④の第8章を読んでおく。	0.5h	保育の中で身近な環境がどのように活用されているのか読み取る力を深める。	0.5h
7	園行事の意義と指導方法―映像を通して園行事の環境(運動会、お遊戯会、お誕生日会等)を考える―	2,3	教科書④の第7章及び教科書①の第2章を読んでおく。	0.5h	地域との交流や園行事を理解する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	乳幼児期の安心・安全を保障する環境について ―事例を通しての検討―■	2,3	教科書①、②、③の該当箇所を読んでおく。	0.5h	環境構成をする際の安全面への重要性や配慮について理解する。	0.5h
9	模擬保育で活用する素材の収集及び教材研究	3,4	教科書⑤の第2章を読んでおく。	0.5h	領域「環境」に関する教材研究を行う。	0.5h
10	保育内容「環境」に関連する指導計画の立案	3,4	教科書⑤の第2章を読んでおく。	0.5h	領域「環境」に関する指導計画の立案を行う。	0.5h
11	身近な素材や物及び情報機器の活用を含めた模擬保育①	3,4	教科書⑤の第2章を読んでおく。	0.5h	保育実践の振り返りを行なう。	0.5h
12	身近な素材や物及び情報機器の活用を含めた模擬保育②	3,4	教科書⑤の第2章を読んでおく。	0.5h	保育実践の振り返りを行なう。	0.5h
13	身近な素材や物及び情報機器の活用を含めた模擬保育③	3,4	教科書⑤の第2章を読んでおく。	0.5h	保育実践の振り返りを行なう。	0.5h
14	模擬保育の振り返り、省察・評価・改善■	3,4,5	教科書⑤の第4章を読んでおく。	0.5h	模擬保育の省察・評価・改善をまとめる。	0.5h
15	保育内容「環境」から見た実践的課題 －小学校の教科等とのつながり－	1,2,3	教科書④の第1・9章、教科書⑤の第3章を読んでおく。	0.5h	保育内容「環境」と通した幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

・教科書①、②、③については読み込んでおくこと。
・質問等がある場合は授業の前後及びメール、またはオフィスアワーにて応じる。
■：実務経験に基づく内容を示す

印刷　閉じる

保育内容言葉

英文名：Methods of Early Childhood Education and Care (Language)
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW105
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　邦枝

科目に関連した実務経験

非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務（経験）
非常勤職員として子育て支援センターに勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
②授業は、講義形式と個人発表を含むグループワーク形式で実施する。各時間に配布するプリントにそって講義を進める。

到達目標

1．指針や要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。
2．幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

3．指導案の構造を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な保育を想定した指導案を作成する。■
4．模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。■
5．領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育構想に活用する。
6．幼稚園教育における評価の考え方を踏まえ、小学校の教科等とのつながりを理解する。■

使用教材

ことばと保育(改訂版)　近藤幹生他４名著　ひとなる書房　2016
幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領

参考文献

授業内で提示する。

評価方法

課題レポート40%、指導案作成30%、毎時間の授業振り返りシート30%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題、指導案、振り返りシートにコメントし、返却する。

オフィスアワー

月曜日3・4限（研究室8号館507）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の発達の基盤には信頼関係が不可欠であることや、言葉を獲得する前の非言語的なコミュニケーションの重要性について理解できるように、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。	1,2	教科書p30－79、保育指針p91－122を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h
2	乳幼児が人の話しを聞いたり、自分の思いや考えを伝えたりすることで、相互に伝え合う喜びを味わうように過程を具体的な事例を通して理解し、教師の援助の在り方を考える。	1,2	教科書p30－79、保育指針p123－181を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h
3	乳幼児の感情体験と言葉について、映像資料や事例等の子どもの姿を通して具体的に理解し、意見を調整し合えるようになるための教師の援助の在り方について考える。	1,2	教科書p80－99、保育指針p182－281を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h
4	乳幼児が遊びや生活の中で、文字の有用性や必要性に気付き、文字を使おうとしている事例を基に、教師の援助や環境構成について、具体的に考える。また、生活中にある情報機器での言葉体験の事例から、情報機器について有効的な活用方法を考える。	5	実習での文字環境についてまとめる。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h
5	ごっこ遊びにおける言葉の役割について、具体的な事例を基に理解し、展開していくための環境や教師の援助について、具体的に考える。■	1	実習でのごっこ遊びの事例をまとめる。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h
6	しりとりやなぞなぞ等の言葉遊びを体験し、言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解を深める。■	3	教科書p134－151を読んで、内容を理解する。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	カルタ遊びを体験したり、制作したりすることを通して、言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解を深める。■	3	実習でのカルタ遊びの実態や子どもの頃の経験をまとめる。	1.5h	カルタを制作する。	1.5h
8	言葉に関する活動の教材研究をグループで行い、言葉に関する教材について、導入や展開の方法など保育の視点を身に付ける。■	2,3	実習での言葉に関する活動をまとめる。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h
9	言葉に関する活動の指導案についてグループで作成し、指導案の書き方について理解する。■	2,3	教科書p134－151、教育要領p96－104を読んで、内容を理解する。	1.5h	指導案の構想を考える。	1.5h
10	乳幼児にとってのエプロンシアターの意義について理解し、子どもが経験する内容と指導上の留意点を考え、具体的な指導案を作成する。■	2,3	教材とするエプロンシアターを選び、教材研究をする。	1.5h	指導案を作成する。	1.5h
11	エプロンシアターの指導案を基に模擬保育を行い、ICT機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。①■	4	指導案を作成し、発表の練習をする。	1.5h	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5h
12	エプロンシアターの指導案を基に模擬保育を行い、ICT機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。②■	4	指導案を作成し、発表の練習をする。	1.5h	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5h
13	エプロンシアターの指導案を基に模擬保育を行い、ICT機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。③■	4	指導案を作成し、発表の練習をする。	1.5h	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5h
14	言葉に遅れがある子どもや外国籍の子ども等への援助について、具体的な事例を通して理解し、具体的な場面における教師の援助の在り方を考える。また、障害に適したITC機器に関する知識を深め、援助としての活用方法を理解する。	5	教科書p176－189を読んで，内容を理解する。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h
15	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における領域「言葉」について、映像資料や事例を通して理解し、小学校の評価に対する考え方の違いや連携について考える。■	6	教育要領p50－73、p121－123まで読んで、内容を理解する。	1.5h	授業内容を復習し、振り返りレポートにまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・課題、レポートの提出期日を厳守すること。
・作品発表については、各自事前に準備をすること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

保育内容表現

英文名：Methods of Early Childhood Education and Care (Arts and Expression)
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW106
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

岡本　拡子　石原　綱成

履修を必須とする資格

幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

乳幼児の発達や学びの過程を理解し，感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにするという保育内容「表現」の本質，および保育におけるさまざまな活動の場での子どもの表現についての基礎知識を深めながら，領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法について実践的に学ぶ。
授業は演習形式で行う。グループワークを中心に進め，各グループで取り組んだ課題について発表する時間を設ける。教材はテキストを用いる他，必要に応じてプリントを配布する。

到達目標

1.領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
2.実践事例を通して，子どもの表現過程について，発達的な視点から読み取りができるようにする。
3子どもの表現を育むための具体的な指導場面を想定した保育を構想し，環境構成や援助について学ぶ。

使用教材

岡本拡子・花原幹夫・汐見稔幸編　アクティベート保育学「保育内容『表現』」　ミネルヴァ書房
幼稚園教育要領解説，保育所保育指針解説，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

評価方法

課題への取り組み30%，実技試験と期末レポート70%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回授業終了時に振り返りを行い，個々の課題を明確化し共有する。
期末レポートについては個々の課題を明確に示したコメントを付して返却する。

オフィスアワー

岡本：水曜日1限　金曜日2限
研究室　8号館4階404
石原：月曜日3限　木曜日4限
研究室　8号館5階501

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	領域「表現」のねらい及び内容について，乳幼児の表現する姿を関連付けることを通して理解する(岡本)。	1	シラバスをよく読み，授業内容を理解しておく。	1h	領域「表現」についての理解を深めておく。	1h
2	幼児の表現あるいは表出に関する場面について，ビデオを視聴して具体的な事例を挙げ，その表現の背景や要因を考察し，さらにその表現が広がる指導方法について学習する(岡本)。	1,2	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各解説を読んでおく。	1h	実践事例と領域「表現」の関連についてまとめる。	1h
3	幼児期の表現活動と，小学校の体育，生活，音楽や図画工作，その他さまざまな教科と学びの連続性について具体的な実践例から学ぶ(岡本)。	1,2	領域「表現」の内容について熟読しておく。	1h	実践事例と領域「表現」の関連について課題をまとめる。	1h
4	国内外の保育研究の論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り，自ら保育構想の向上に取り組む(岡本)。	1,2,3	テキストの該当箇所を熟読しておく。	1h	保育構想についての課題をまとめる。	1h
5	インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性について，様々な素材を用いた具体的な事例を通して理解し，保育構想への活用について学習する岡本)。	1,2,3	模擬保育の準備を行う。	1h	保育構想についての課題をまとめ，発表準備を行う。	1h
6	五感を通した総合的な表現活動を実践し，活動の特徴や面白さ，留意点などを学ぶ(岡本)。	1,2,3	模擬保育の準備を行う。	1h	保育構想についての課題をまとめ，発表準備を行う。	1h
7	手足・身体を用いた総合的な表現活動を実践し，活動の特徴や面白さ，留意点などを学ぶ(岡本)。	1,2,3	模擬保育の準備を行う。	1h	保育構想についての課題をまとめ，発表準備を行う。	1h
8	自然や自然物を用いた幼児の総合的な表現活動を実践的に学習する。情報機器を用いて加工したり観察したりして，素材の特徴や活動の面白さ，留意点などを学ぶ(石原)。	1,2,3	模擬保育の準備を行う。	1h	保育構想についての課題をまとめ，発表準備を行う。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	OHCやプロジェクターなど情報機器を用いて，幼児の総合的な表現活動について実践的に学習する。様々な素材を用いた光と影による表現活動の面白さ，留意点などを学ぶ(石原)。	1,2,3	模擬保育の準備を行う。	1h	保育構想についての課題をまとめ，発表準備を行う。	1h
10	年齢による発達や環境等の様々な要因を考え，表現活動や遊びを広げるための言葉かけや教材の提示方法，環境を踏まえた教材研究について学ぶ(岡本)。	1,2,3	模擬保育の準備を行う。	1h	保育構想についての課題をまとめ，発表準備を行う。	1h
11	表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び，実際に体験することを通して，保育構想に活用できるアイディアについて学習する(石原)。	1,2,3	模擬保育の準備を行う。	1h	保育構想についての課題をまとめ，発表準備を行う。	1h
12	これまでの学びを踏まえ，総合的な表現活動を実践するために，指導案をグループで作成する(岡本)。	1,2,3	グループで指導案作成を行う。	1h	ねらいと内容の立て方の理解を深め，模擬保育での課題を解決する。	1h
13	総合的な表現活動を実践するために，グループで作成した指導案に沿って教材研究を深める(石原)。	1,2,3	グループで教材研究を進める。	1h	教材研究に対する理解を深め，模擬保育での課題を解決する。	1h
14	グループで総合的な表現活動を指導案に沿って実践し，その振り返りを通して改善を試みる(石原)。	1,2,3	グループで総合的な表現活動の準備を行う。	1h	総合的な表現活動に関する課題を解決する。	1h
15	これまで学んだ総合的な表現活動の実践を通して，保育の場における表現活動について考える。特に，写真や動画などを用いた記録方法としてのドキュメンテーションの手法を用いた保育の振り返りについて実践的に学ぶ(石原)。	1,2,3	ドキュメンテーションの手法についてグループで話し合っておく。	1h	自分自身の保育実践を行う上で，保育内容表現の意義や課題がどのように影響するか理解を深めておく。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

グループワーク，演習を中心に実施するため，積極的に授業に参加しグループワークをおこなう姿勢が求められる。

印刷 閉じる

保育内容指導法

英文名：Teaching Methods in Early Childhood Education and Care
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW107
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　麻美

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育内容5領域を総合的に実践するための具体的な方法に対する理解を深める。特に，子ども一人ひとりに応じた保育を実践するための「省察」と「計画」に対する学びを深める。学生自身が課題に取り組んだ上で得られる気づきを出発点に授業を進め，学生同士がディスカッションする機会を多く取りながら，授業内容を深めていく。

到達目標

1. 5領域のねらい及び内容を踏まえた，具体的な保育実践を構想することができる
2.子どもの興味や関心，発達に応じた保育内容を計画し，保育を改善する視点を身につける

使用教材

適宜資料を配布する。

評価方法

指導案60%，その他課題20%，小レポート20%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題には，コメントを付けて返却する。
課題の意義について説明する。

オフィスアワー

オフィスアワー：火曜3限、金曜2限
研究室：8号館5階504

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：授業の概要と進め方	1,2	シラバスの内容を読んで，講義の目標などを理解する	1.5h	講義内容，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを確認する	1.5h
2	5領域という視点から子どもの姿を理解する（1）3歳未満児	1	保育内容５領域のねらい・内容を振り返ってくる	1.5h	保育内容５領域を具体的な子どもの姿と結びつけながら，理解を深める	1.5h
3	5領域という視点から子どもの姿を理解する（2）3歳以上児	1	保育内容５領域のねらい・内容を振り返ってくる	1.5h	保育内容５領域を具体的な子どもの姿と結びつけながら，理解を深める	1.5h
4	5領域を踏まえた，ねらいの立て方	1	保育内容の各論の授業内容を振り返ってくる	1.5h	保育者がねらいを持って実践する意義について理解を深める	1.5h
5	子どもになったつもりで，戸外で心を動かしてみる	1,2	子どもになったつもりで，戸外を散歩してみる	1.5h	心動いた瞬間をとらえた写真を整理して，５領域とのつながりを考えてみる	1.5h
6	自らの実践エピソードについてグループでディスカッション	1,2	自らの実践をエピソードと考察の形でまとめる	1.5h	グループワークを通した気づきを反映させて，エピソードと考察をまとめ直す	1.5h
7	エピソードの共有（1）子ども一人ひとりに応じた保育を実践するための省察	1,2	ディスカッションで検討したい点をまとめる	1.5h	ディスカッションを通して気づいたことを整理する	1.5h
8	エピソードの共有（2）子ども一人ひとりに応じた保育の実践の難しさ	1,2	ディスカッションで検討したい点をまとめる	1.5h	ディスカッションを通して気づいたことを整理する	1.5h
9	エピソードの共有（3）自らの実践を共有することの意味	1,2	グループディスカッション，クラス全体でのディスカッションを通して気づいたことを整理してくる。	1.5h	他者と自らの実践を共有することの意味について学んだことを整理する	1.5h
10	模擬保育	1,2	模擬保育の準備をする	1.5h	模擬保育を振り返り，自分なりの気づきをノートに整理する	1.5h
11	模擬保育を振り返る（1）グループディスカッション	1,2	模擬保育を振り返り，他のメンバーと話し合いたい点を整理する。	1.5h	ディスカッションの内容を踏まえて，修正点を整理する	1.5h
12	模擬保育を振り返る（2）グループディスカッションの内容を発表し，クラス全体でディスカッション	1,2	グループディスカッションを振り返り，クラス全体でのディスカッション準備を行う	1.5h	ディスカッションの内容を踏まえて，修正点を整理する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	模擬保育の振り返りを踏まえた，指導計画案の練り直し	1,2	指導計画案の修正点を整理してくる	1.5h	これまでの授業内容を振り返りながら，指導計画案を自己添削する	1.5h
14	練り直された指導計画案についてグループディスカッション	1,2	グループディスカッションで検討したい点をまとめてくる	1.5h	ディスカッションを通して気づいたことを整理する	1.5h
15	5領域のねらい及び内容，子どもの興味，関心，発達に応じた保育内容を展開する上で大事なこと，大事にしたいこと	1,2	授業を通して，気づいたことや理解したことを整理する	1.5h	授業を通して学んできた指導案作成時の留意点が自身の指導案に反映されているか，自己評価を行う	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は，C-learningを用いてオンデマンド型授業とします。

印刷 閉じる

親子遊び論

英文名：Parent and Child Relationships through Play Activities
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW108
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

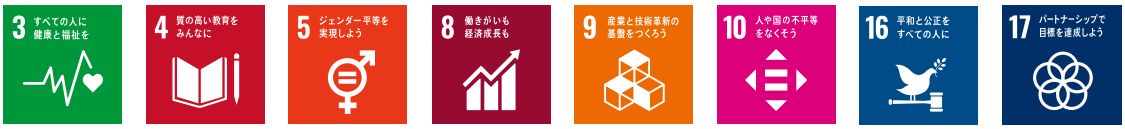
担当教員

今井　麻美

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

親子関係を多角的な視点から捉えうることを学び，理解を深めることを通して，保育者として親子を援助するための視野を広げる。指定した教科書以外にも，関係する文献を読む機会を多く取りながら授業を進める。

到達目標

1．現代の親子関係の在り方や遊びを多角的な視点から理解することができる
2．保育とのかかわりから親子関係や遊びを理解し，家庭生活とのつながりをもった保育内容を構想することができる

使用教材

資料については適宜配布する。

評価方法

毎回の授業終わりに提出する小レポート70%, 最終レポート30%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回授業の前半に，提出されたレポートに対するコメントや解説を行う。
課題の意義について説明する。

オフィスアワー

オフィスアワー：火曜3限、金曜2限
研究室：8号館5階504

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：授業の概要と進め方	1,2	シラバスの内容を読んで，講義の目標などを理解する	1.5 h	講義内容，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを確認する	1.5 h
2	親子関係を捉えるものの見方(1) 発達心理学の知見から	1,2	「親子」に関する既習の内容を振り返る	1.5 h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5 h
3	親子関係を捉えるものの見方(2) 社会学の知見から	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5 h
4	親子関係を捉えるものの見方(3) 歴史的な視点から	1,2	文献資料の指定箇所を読む	1.5 h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5 h
5	親子の遊びの観察(1) どのような遊びがなされているのか	1,2	自分が子どもだった頃家庭でどのような遊びをしたのか振り返ってくる	1.5 h	記録をまとめる	1.5 h
6	親子の遊びの観察(2) 父親と母親とでは遊び方や遊ぶ内容は違うのか	1,2	父親との遊び，母親との遊び，自分が持っているそれぞれの遊びに対するイメージを整理してくる	1.5 h	記録をまとめる	1.5 h
7	親子の遊びの観察(3) 保育現場で展開される遊びと違うのか	1,2	保育現場で展開される遊びと親子での遊びの違いについて考えてくる	1.5 h	自分なりに気づいた点をノートにまとめる	1.5 h
8	親子の遊びを5領域の視点から捉える	1,2	保育内容5領域を振り返ってくる	1.5 h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5 h
9	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性	1,2	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性について，既習の内容を振り返る	1.5 h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	1.5 h
10	家庭生活とつながりを持った保育内容を展開するための指導案 (1) 教材研究	1,2	指導案を立てる活動を考えてくる	1.5 h	自分なりの気づきをノートに整理する	1.5 h
11	家庭生活とつながりを持った保育内容を展開するための指導案 (2) グループディスカッション	1,2	教材研究を踏まえた指導案を考えてくる	1.5 h	グループディスカッションを踏まえて，指導案を修正する	1.5 h
12	模擬保育の実施	1,2	模擬保育の準備をしてくる	1.5 h	自分なりの気づきをノートに整理する	1.5 h
13	模擬保育を振り返り	1,2	グループディスカッションを踏まえて，指導案の改善点を考えてくる	1.5 h	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性について，理解を深める	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	保育者として親子関係や遊びを援助する方法や配慮事項	1,2	保育者として親子での遊びに対して，どのように援助できるのか考える	1.5 h	保育者として親子での遊びに対する援助方法を自分なりに深める	1.5 h
15	親子関係の在り方や遊びに対する自分自身の「ものの見方」の変化	1,2	これまでの授業内容と自分自身の気づきを振り返る	1.5 h	親子関係を多角的な視点から捉えうることが保育実践にどのように活きるのか自分なりに考える	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業で扱う資料を必ず読んだ上で，授業に参加することを求めます。また，授業内容を自分なりに噛み砕いて，自分なりの意見を持とうとする姿勢を求めます。
オンラインで実施する場合は、C-learningを用いてオンデマンド型授業とします。

印刷 閉じる

保育方法論

英文名：Child Care Methodology
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW109
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

千葉　千恵美

科目に関連した実務経験

公立保育所に保育士として勤務(経験)　学内子ども・家族支援センターで保育士　心理相談員勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育方法に必要な知識や技術を修得し、保育所・幼稚園等で対応する様々な関わりと保育者に求められる専門性を理解することを目指す。また大学内の子ども・家族支援センターの活動に参加し、実践と理論を総合的に習得する事も目指す。
授業の進め方：講義は前半後半の２部形式にわけ、前半は講義を行い、後半はグループワークを行い、それを発表し板書にてまとめ、授業終業後には毎回リアクションペーパーに記載しまとめを行う。インターナショナルスクールの施設訪問と併せ大学内設置子ども・家族支援センターの実践活動に参加し、これから必要となる具体的な保育方法を学ぶ形式を取る。書籍1、書籍2を併用し学習内容をスライドにして配布し学習を展開する。

到達目標

保育方法の理解に必要な知識と技術を修得し保育の方法について考える事が出来る。■
具体的な保育を体験する事で子どもや親に添った保育の方法を理解する事が出来る。■

保育方法を学ぶ事でし、応用的に保育を理解する事が出来る。　■
子どもの発達課題と親子の関係性から園との関わりや関係性を理解する事が出来る。■
理論と実践を通し、保育者に必要な専門性を総合的に理解する事が出来る。■

使用教材

１．千葉千恵美著　乳幼児保育と子育て支援　2023年　風詠社　２．保育方法論　神長美津子他　2023年　光生館

参考文献

保育所保育指針解説　幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園保育要領解説

評価方法

事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート20%、定期試験80%とする

課題・評価に対するフィードバック方法

授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィートバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。

オフィスアワー

火曜日　４，５限目
（８号館４階４０１講義室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	3	シラバスや書籍2 p2-p10を読み予習する。	1.5h	保育の基本と保育方法について講義内容を振り返り理解を深める。	1.5h
2	幼児理解と保育方法　保育における幼児理解ー　■	3,4	事前に書籍2第2章p13-p25　書籍1第2章p17-p31を読み内容にふれる。	1.5h	家庭との連携や保育者との信頼関係等の必要性について理解を深める。	1.5h
3	保育環境構成と子育てについて　■	3,4	事前に書籍2第3章p27-p37を読み、講義内容についてふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、現状の保育環境と子育て課題の理解を深める。	1.5h
4	子どもに添った一人一人の対応　■	3,4,5	事前に書籍2第4章p38-p50 書籍1p52-p53を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子育て支援に必要な支援の理解を深める。	1.5h
5	保育の質と評価について　■	3,4	事前に書籍2第5章p51-p62について読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、保育の質と評価に向けた内容の理解を深める。	1.5h
6	乳幼児期の遊びについて　■	3,4,5	事前に書籍2第6章p63-p73　書籍１第1章p14-24を読み、内容にふれる。	1.5h	資料を読み返し、乳幼児時期の遊びの理解を深める。	1.5h
7	生活指導　基本的な生活習慣と自立にむけた保育者の役割　■	3,4,5,10,11	事前に書籍2第７章p76-p88　書籍1第6章p57-68について読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、生活課題に向け保育者の役割理解を深める。	1.5h
8	園生活と保護者支援　■	3,4,10,11,16	事前に書籍2第8章p89-p100について読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、園生活からみた保護者支援の理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	地域子育て支援の展開　子ども・家族支援センターの事例検討　■	3,4,5,10,11	事前に書籍1第7章p69-p79について読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容資料を読み返し、地域子育て支援について理解を深める。	1.5h
10	子育て支援の実践に生かす視点（地域子育て施設見学インターナショナル認定こども園）　■	3,5,9,10	様々な保育実践むけ書籍2第10章pp113-p123を読み、内容にふれる。	1.5h	施設見学を行い、様々なに保育むけた実践を理解し深める。	1.5h
11	小学校との連携　円滑な接続方法について　　■	3,4,5,10,11	事前に書籍2第9章p101-p112を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、小学校連携とシステム作りの理解を深める。	1.5h
12	保育者に必要な学び育ちあうクラス作りについて　■	3,4,5,10,11,16	事前に書籍2第12章p140-p152を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、保育者に必要なクラス作りの理解を深める。	1.5h
13	保育者に求められる専門性	3,4,5,9	事前に書籍2第15章p178-p190を読み内容にふれる	1.5h	講義資料を読み返し、保育者の専門性について理解を深める	1.5h
14	保育の実践と理論について　■	3,4,5,10,11	子ども・家族支援センターの活動参加及び計画を立てる	1.5h	活動後グループディスカッションを行い実践と理論を統合し理解を深める	1.5h
15	まとめ　保育方法と今後に必要な保育の関わりと実践	3,4,5,10,16	今までやった資料を振り返り、総合的な内容を整理する	1.5h	講義資料をまとめ、総合的に保育方法を総合的に理解し整理する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

KEY WORS:保育の方法、親子関係、実践と支援、子育て
（■実務経験に基づく内容を示す）

印刷　閉じる

乳児保育Ⅱ

英文名：Infant Care and Education Ⅱ
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW151
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　麻美

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目:保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業では，3歳未満児の発達の過程や特徴を踏まえた関わり方や保育方法について，具体的に理解することを目標とする。さらに，施設保育における集団的な生活の中で，一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫について，具体的に考えようとする姿勢を持つことを目標とする。
授業は，映像資料や事例など，具体的な保育実践がイメージできる教材を使用しながら，グループワークやディスカッションを行う。

到達目標

1.乳児の発達に応じた関わり方について具体的に理解する
2.乳児の遊びや生活に応じた環境構成について具体的に理解する
3.一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫について，具体的に考えようとする

使用教材

「保育所保育指針解説書」厚生労働省編著(フレーベル館)　2018年320円+税
授業に必要な資料を配布する。

評価方法

授業内で取り組む課題（30%），期末試験（70%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題にはコメントや解説を付けて返却する。

オフィスアワー

金曜日1限，2限。メール対応可能
（研究室：　8号館　5階 504　）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスの内容を読んで、講義の目標等を理解する。	0.375h	講義内容、講義目標、到達目標、評価方法等を確認する。	0.375h
2	0歳児の発達と保育	1	実習時における０歳児の子どもたちや保育の様子を発達的な視点から振り返る。	0.375h	保育所保育指針解説の「乳児保育に関わるねらい及び内容」について読み，理解を深める。	0.375h
3	１歳児の発達と保育	1	実習時における１歳児の子どもたちや保育の様子を発達的な視点から振り返る。	0.375h	保育所保育指針解説の「１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」について読み，理解を深める。	0.375h
4	２歳児の発達と保育	1	実習時における２歳児の子どもたちや保育の様子を発達的な視点から振り返る。	0.375h	保育所保育指針解説の「１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」について読み，理解を深める。	0.375h
5	乳児の生活の流れ	1,2,3	実習時において学んだ乳児の１日の生活の流れを振り返る。	0.375h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	0.375h
6	乳児の遊び	1,2,3	実習時における乳児の遊びを振り返る	0.375h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	0.375h
7	乳児の遊びを支える環境構成	1,2,3	前回の授業内容を踏まえ，乳児の遊びが豊かになる環境について考える。	0.375h	授業内容を振り返りノートに整理し，自分なりに乳児の遊びを支える環境構成について考える	0.375h
8	乳児の生活を支える環境構成	1,2,3	乳児ならではの生活の過ごし方やそれに応じた配慮について，実習時の経験を振り返る。	0.375h	乳児の発達的な特徴や特性を踏まえた生活環境について，自分なりに考えまとめる。	0.375h
9	一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫　①グループディスカッション	1,2,3	実習時において感じた，一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工夫，疑問点について振り返る。	0.5h	グループディスカッションの内容をまとめる。	0.5h
10	一人一人の発達や気持ちに応じるための保育方法や工	1,2,3	実習時において感じた，一人一人の発達や気持ちに応じる	0.5h	グループディスカッションの内容をまとめる。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	夫　②グループディスカッションの内容の共有		ための保育方法や工夫，疑問点について振り返る。			
11	応答的な関わりとは　①実習時の経験とエピソードを通じて考える。	1,2,3	実習時において，保育者の応答的な関わりを感じたエピソードを振り返る。	0.5h	授業を通して考えたことをノートにまとめる。	0.5h
12	応答的な関わりとは　②グループディスカッション	1,2,3	前回の授業内容を踏まえ，グループで話し合いたいことを整理する。	0.5h	グループディスカッションを通して考えたことを整理する。	0.5h
13	乳児保育における計画	1,2,3	保育所保育指針解説の該当箇所（指示する）を読む。	0.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	0.5h
14	乳児保育を支える連携	1,2,3	保育所保育指針解説の該当箇所（指示する）を読む。	0.5h	授業内容を振り返りノートに整理し，復習する	0.5h
15	乳児保育の現在と課題	1,2,3	これまでの授業内容をノートにまとめ，気づきや疑問点を挙げる。	0.5h	乳児保育において必要とされる配慮や工夫について自分なりにまとめる。	0.5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

既習の内容や，実習での経験を踏まえて，自分なりに考える姿勢を求めます。
オンラインで実施する場合は，C-learningを用いてオンデマンド型授業とします。

印刷　閉じる

障害児保育Ⅱ

英文名：Childcare for Children with Disabilities II
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW152
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野田　敦史

科目に関連した実務経験

社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○		○	○	○	○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

障害児保育Ⅰでの学びに基づき、分離・統合保育実践現場それぞれを想定した事例検討、テーマ別研究、支援技術体験を通じ、高度な分析力と応用的な実践技術習得をめざす。進行方法として、グループワークを基本とし、それぞれの演習方法においてオリエンテーション→グループワーク→報告（発表）会の順で実施する。

到達目標

1.分離・統合保育現場における課題を抽出することができる。
2.専門的テーマに基づく情報集・分析・考察・解決方法の立案ができる。
3.障害児保育の実践現場を想定した他職種・他機関の連携の必要性・具体的協働方法の提示ができる。■
4.障害種別に特化した効果的な方法提示と実践ができる。■

使用教材

教科書：野田敦史・林恵編著「保育と障害のある子ども」みらい
その他、適宜レジュメを配布。DVDビデオも視聴する。

参考文献

適宜、授業で紹介。

評価方法

演習貢献度50%、演習成果物50%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習終了後に回収するレジュメ，リアクションペーパーは、コメントもしくは評価（A~C）を付けて返却する。演習成果物の評価結果は授業回3～5回を目安に開示する。

オフィスアワー

火曜２限と金曜1限、質問はメールでも受け付ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	集団生活と遊びの援助	1,2,3	教科書　第17章の演習課題に目を通しておく	1.5h	基本的日常生活動作と遊びの意義、保育者の配慮などを理解する	1.5h
2	保護者や家庭への支援■	1,2,3	教科書　第18章の演習課題に目を通しておく	1.5h	保護者支援の方法・実際などを理解する。	1.5h
3	小学校・特別支援学校との連携■	1,2,3	教科書　第19章の演習課題に目を通しておく	1.5h	就学前審査・相談の内容などを理解する	1.5h
4	事例検討（1）AD/HD■	1,2,3	教科書　第22章の事例課題に目を通しておく	1.5h	討議した内容を思い出しながら教科書　第9章を確認する。	1.5h
5	事例検討（2）自閉症スペクトラム■	1,2,3	教科書　第23章の事例課題に目を通しておく	1.5h	討議した内容を思い出しながら教科書　第10章を確認する。	1.5h
6	手話ダンス（1）技術習得方法と発表に向けて	4	インターネット等で手話ダンス動画作品を数点、視聴しておく	1.5h	自グループメンバーで役割等の確認・練習	1.5h
7	手話ダンス（2）技術習得	4	グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう	1.5h	自グループメンバーで役割等の確認・練習	1.5h
8	手話ダンス（3）発表	4	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5h	授業時に配布した資料の内容を理解する。	1.5h
9	点字翻訳と名刺製作（1）	4	前回授業時に配布した「点字表」に目を通しておく。	1.5h	点字器で課題に基づく製作物を作成する。	1.5h
10	点字翻訳と名刺製作（2）	4	点字器で課題に基づく製作物を作成する。	1.5h	授業時に配布した資料の内容を理解する。	1.5h
11	テーマ別研究（1）研究と発表の方法	1,2,3,4	前回授業時に配布した「研究計画書」を作成する。	1.5h	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	テーマ別研究（2）フィールドワーク■	1,2,3,4	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5h	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	1.5h
13	テーマ別研究（3）フィールドワーク■	1,2,3,4	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5h	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	1.5h
14	テーマ別研究（4）発表■	1,2,3,4	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5h	他グループの発表を振り返り自グループの発表に活かせるよう検討する。	1.5h
15	テーマ別研究（5）発表■	1,2,3,4	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	1.5h	リフレクションカードの記入と提出。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

社会的養護Ⅱ

英文名：Social Care II
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW153
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野田　敦史

科目に関連した実務経験

社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○	○	○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

社会的養護で学んだ原理・原則等をもとに、多様な社会的養護現場での実践的事象を把握・分析し、具体的な支援方法および関係機関・関連職種との連携・方策を学生個々が提示できることを目指す。進行方法としてグループワークを基本とし、授業回ごとに【個人ワーク】事例（資料）の通読→【グループワーク】ディスカッション→【全体共有】グループ内もしくは全体発表→【まとめ】講評・解説の順で実施する。

到達目標

1.社会的養護現場での実践的事象に対して社会的養護の原理・原則に基づき、課題を抽出できる。
2.抽出した課題に対して子どもの最善の利益に基づいた目標設定と具体的な実践方法を立案することができる。■
3.家庭支援、アフターケア等、我が国の社会的養護の課題全般に対して地域・他機関連携等を図りながら解決するソーシャルワークに立脚した支援方法の提示ができる。■

使用教材

教科書：吉田眞理編著「～演習～社会的養護」萌文書林
その他、適宜レジュメを配布。DVDビデオも視聴する。

参考文献

適宜、授業で紹介する。

評価方法

演習貢献度50%、演習成果物50%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習終了後に回収するレジュメ，リアクションペーパーは、コメントもしくは評価（A～C）を付けて返却する。演習成果物の評価結果は授業回3～5回を目安に開示する。

オフィスアワー

火曜２限と金曜1限、質問はメールでも受け付ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス　―社会的養護内容を学ぶ意義―		シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する。	1.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。	1.5 h
2	事例検討（1）児童の権利擁護■	1,2	教科書　第１章-Ⅰを読んでおく。	1.5 h	子どもの最善の利益，生存と発達の保障，子どもの権利擁護を理解する。	1.5 h
3	事例検討（2）保育士等の倫理および責務	1,2,3	教科書　第１章-Ⅱを読んでおく。	1.5 h	支援者の子ども観，バーンアウトと共依存の予防を理解する。	1.5 h
4	事例検討（3）施設養護の特性および実際①児童養護施設の暮らし■	1,2,3	教科書　第2章-Ⅱ-§1を読んでおく。	1.5 h	集団生活場面における個別対応の実践について理解する。	1.5 h
5	事例検討（4）施設養護の特性および実際②乳児院の暮らし■	1,2,3	教科書　第2章-Ⅱ-§2を読んでおく。	1.5 h	面会時の保護者支援の方法、措置変更に向けた援助内容などを理解する。	1.5 h
6	事例検討（5）施設養護の特性および実際③医療型・福祉型障害児入所施設の暮らし■	1,2,3	教科書　第2章-Ⅱ-§3を読んでおく。	1.5 h	重症心身障害児、脳性まひ児のケアの方法を理解する。	1.5 h
7	事例検討（6）施設養護の特性および実際④児童自立支援施設・情緒短期治療施設の暮らし■	1,2,3	教科書　第2章-Ⅱ-§4を読んでおく。	1.5 h	夫婦小舎制の利点・欠点，家庭裁判所の決定による入所などを理解する。	1.5 h
8	事例検討（7）施設養護の特性および実際⑤障害者支援施設の暮らし■	1,2,3	教科書　第2章-Ⅱ-§5を読んでおく。	1.5 h	障害者支援施設における知的障害者の支援内容などを理解する。	1.5 h
9	座談会（1）乳児院現場職員の語りから	3	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5 h	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					第3章-Ⅰ,Ⅱ,Ⅲで確認する。	
10	座談会（2）児童養護施設現場職員の語りから	3	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5h	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書第3章-Ⅰ,Ⅱ,Ⅲで確認する。	1.5h
11	座談会（3）アフターケア　―あの頃を振り返って―	3	前配布の資料に目を通しておく。	1.5h	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書で確認する。	1.5h
12	座談会（4）措置機関の職務と課題■	3	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5h	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書で確認する。	1.5h
13	ロールプレイ(1)スーパービジョン■	3	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5h	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書第3,4章で確認する。	1.5h
14	ロールプレイ(2)施設内でのケースカンファレンス■	3	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5h	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書第3,4章で確認する。	1.5h
15	ダイアローグ形式による情報共有とまとめ	1,2,3	事前配布の資料に目を通しておく。	1.5h	リフレクションカードの記入と提出。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

子どもの健康と安全

英文名：Health and Security for Children
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW154
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木　由美子

科目に関連した実務経験

臨床検査技師として小児病院に勤務（経験）、保育士キャリアアップ研修：保健衛生・安全対策（担当）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

子どもの成長・発達、健康状態の観察、健康の維持増進に向けた養護技術、疾病や事故の予防や対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的知識を学習する。また、保育・教育実習で役立つように、演習を通して実践能力の向上を図る。
適宜グループワークをおこない、意見の共有と課題の解決を図る。
毎回、リアクションペーパーを提出する。

到達目標

■1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
■2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。
■3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する。

■4．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について理解する。
■5．保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの成長・発達や健康増進に向けた具体的援助技術を修得する。
6．子どもの健康および安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解する。

使用教材

教科書は使用しない。資料を配布する。

評価方法

ミニテスト40%、保健計画20%、毎回の授業終了後のリアクションペーパー40%

課題・評価に対するフィードバック方法

授業ごとに提出するリアクションペーパーに記述された内容へのフィードバックと、理解不足に対する補足を次回の授業開始時に行い理解の充足を図る。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	■オリエンテーション、子どもの健康・安全と保育環境	1	シラバスから，本科目で何を学ぶのか、到達目標の内容を確認する。	0.5h	レジュメを再読し、保育環境と子どもへの援助についてまとめる。	1h
2	■子どもの発育：測定と評価	1,5	自分の母子健康手帳を見て、自分が育った過程を振り返る。	0.5h	レジュメを再読し、子どもの発育の過程と評価についてまとめる。	1h
3	■事故防止と安全対策・災害への備え	1,2	保育現場で起こった事故と保育現場でおこなう避難訓練の例について調べる。	1h	レジュメを再読し、保育者ができる事故防止についてまとめる。	1h
4	■保育における保健的対応・アレルギー	1,2,3	保育・教育現場で起こったアナフィラキシーショックによる事故を調べる。	0.5h	レジュメを再読し、子どもの基本的生活習慣を確立するための方法と正しいアレルギーへの対応方法についてまとめる。	1h
5	■健康安全管理と健康教育①健康安全管理と教育	1,2	保育現場でおこなう健康・安全教育の例を調べる。	0.5h	レジュメを再読し、健康安全管理と健康教育のあり方についてまとめる。	1h
6	健康・教育②教材作成	1,2	教材作成のための準備をする。	1h	教材を完成させ、使い方と工夫した点についてまとめる。	0.5h
7	健康・教育③発表（模擬保育）	1,2	模擬保育の準備をおこなう。	0.5h	模擬保育の振り返りをおこなう。	1h
8	■個別的な配慮を要する子ども	1,5	個別的な配慮を要する子どもとは、どんな子どもを指すのか調べる。	0.5h	レジュメを再読し、子どもの病気・医療的ケア・LGBTQについてまとめる。	1h
9	■子どもの心の健康①ストレス	1,5	子どもの精神保健について調べる。	0.5h	レジュメを再読し、子どもが抱えるストレスとその対処法についてまとめる。	1h
10	■子どもの心の健康②さまざまな症状	1,5	子どもの精神的な問題から生じる様々な症状について調べる。	0.5h	レジュメを再読し、子どもにみられるさまざまな症状とその対応についてまとめる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	■子どもの心の健康③発達障害等	1,5	発達障害について整理しておく。	0.5h	発達障害のある子どもの困り感とその対応についてまとめる。	1h
12	■保育所における感染症対策・予防接種	1,4,5	子どもがよく罹患する感染症について調べる。自分の母子健康手帳を見て、予防接種歴を確認する。	1h	レジュメを再読し、有効な感染症対策および、予防接種の機序と役割についてまとめる。	1h
13	■子どもの体調不良時の対応・心肺蘇生	1,3,4,5	子どもによくみられる体調不良の症状について調べる。	0.5h	レジュメを再読し、体調不良への対応をまとめる。また、再度動画を視聴して心肺蘇生法について確認する。	1h
14	■傷害および誤嚥・誤飲時の対応	1,3,5	子どもによく起こるケガや誤嚥・誤飲事故について調べる。	0.5h	レジュメを再読し、子どものケガへの対応と、誤嚥・誤飲時の対応方法についてまとめる。	1h
15	保健計画の作成と活用	6	保健計画作成の根拠について調べる。	0.5h	レジュメを再読し、保健計画を完成させる。	1h

合計時間（予習・復習）

22.5h

備考

■：臨床検査技師・保育士・学校心理士としての実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

子育て支援

英文名：Child Rearing Support
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW155
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

千葉　千恵美

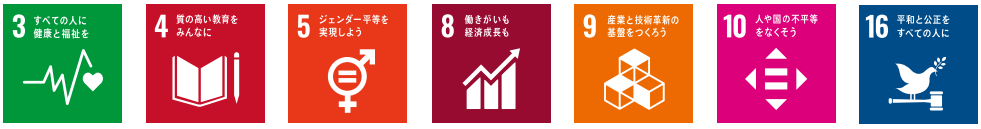
科目に関連した実務経験

公立保育所に保育士として勤務(経験)　学内子ども・家族支援センターで保育士　心理相談員勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

子育て支援の課題や現状を理解し、子育て支援に必要な支援方法を事例検討や分析する事により家族の関わりや背景、子育てに起因する問題解決を目指す。
授業の進め方:講義はスライド資料を基に前半の講義を行う。後半は講義の後、グループワークを行い、講義で学習した内容のディスカッションし発表形式を取る。まとめには発表した内容を板書しより具体的に学習した内容を展開させる。授業終了後にはリアクションペーパーに授業で得られた内容をまとめより理解を深める形にする。

到達目標

子育て支援の理論と意義について理解する事が出来る。■
具体的な子育て支援の方法・技術では事例検討を通じて、支援方法を考える事が出来る。
子育て支援を理解するとともに、児童虐待防止に向けた支援を考える事が出来る。■

子育て支援の過程で必要な記録、評価等、必要な事柄について理解することが出来る。■
他機関連携・協働等必要性並びに地域社会の資源と役割を総合的に理解する事が出来る。■

使用教材

千葉千恵美著　子育て支援の実践　現代図書　2020年度版

参考文献

保育所保育指針　厚生労働省編　フレーベル館

評価方法

事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート20%、定期試験80%とする

課題・評価に対するフィードバック方法

授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィートバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。

オフィスアワー

火曜日　４，５限目
（８号館４階４０１研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	3,4	シラバスを読み子育て支援の目標や到達目標等予備について予習する。	1.5 h	子育て支援にむけた組み立て講義内容を振り返り理解を深める。	1.5 h
2	我が国における子育て支援の理念と目標について	3,4,5	子育て支援の理念や目標について第１章p1-p9を読み、内容にふれる	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、子育て支援について理解を深める。	1.5 h
3	子育て支援の実践について　■	3,4,5,8	発達障害児と親を事前に第2章p10-p24を読み、講義内容についてふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、子育て支援の実践の関わりの理解を深める。	1.5 h
4	被虐待児への子育て支援について　■	3,5,10, 16	事前に第2章p25-p34を読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、被虐待児への子育て支援の理解を深める。■	1.5 h
5	国際結婚の子育て支援について(1)フィリピンの国籍の国際結婚　■	3,5,9,16	事前に第2章p33-p39ついて読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、国際結婚の子育て支援の理解を深める。■	1.5 h
6	国際結婚の子育て支援について(2)ブラジル国籍の国際結婚	3,5,9,16	事前に第2章p39-p41を読み、講義内容についてふれる。」	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、国際結婚の子育て支援の理解を深める。■	1.5 h
7	国際結婚の子育て支援について(3)中国籍の国際結婚	3,5,16	事前に第2章p41-p52を読み、講義内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、国際結婚の子育て支援の理解を深める。■	1.5 h
8	問題の早期発見と早期介入のための支援　■	3,4,10, 16	事前に第2章p53-p69を読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、子育て支援に必要な支援の理解を深める。	1.5 h
9	保育所における子育て支援の現状と課題	3,4,10, 16	事前に第3章p70-p82について読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し保育所並びに地域子育て支援の理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	子育て支援にむけた教育内容　■	3,4,5,10,16	事前に第4章ｐ83-p94について読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子育て支援に必要な教育内容理解を深める。	1.5h
11	子育て支援の理解に必要な発達障害について　■	3,4,5,10	事前に第4章p94-p105を読み、内容にふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し子育て支援に必要な発達障害の理解を深める。	1.5h
12	子育て支援に必要な愛着障害について　■	3,4,5,16	事前に第4章p106-p114を読み、内容についてふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、愛着障害についての理解を深める。	1.5h
13	子育て支援に必要な家族理解　■	2,3,5,10,16	事前に第4章p114-p121を読み、内容についてふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子育て支援に必要な家族理解を深める。	1.5h
14	子育て支援の実践について　■	3,4,5	事前に第4章p121-p129を読み、内容についてふれる。	1.5h	講義内容の資料を読み返し、子育て支援の実践に向けた理解を深める	1.5h
15	子育て支援の実践のまとめ	3,4,5,10,16	今まで授業で得られた内容についての振り返りをする。	1.5h	子育て支援の実践で得られた授業内容についてのまとめをする。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

KEY WORDS:子育て支援　親支援　虐待防止　発達障害　愛着障害　国際結婚　困難事例
（■:実務経験に基づく内容を示す）

印刷　閉じる

国語科指導法

英文名：Teaching Methods in Japanese Language
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW201
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

菅野　陽太郎

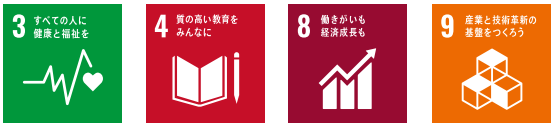
科目に関連した実務経験

中学校での国語科の指導（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○				○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
・小学校学習指導要領国語の目標及び内容について理解する。
・小学校国語科の教科書教材を用いて、グループごとに教材研究をおこない、学習目標・学習内容及び活動・評価等について検討し、学習指導案の作成および模擬授業をおこなう。
・上記により、小学校で国語科の授業をおこなうための知識・技能を確かなものとする。
②講義の実施方法
・小学校国語科の指導法に関する理論および教材の活用や実践の在り方について考えていく。第1回～第8回は国語科を取り巻く問題や個別の学習内容・指導に関する内容、第9回～第13回は授業づくりに関する内容と模擬授業、第14回～第15回は書写の指導に関する内容となる。
・講義形式の授業のほか、グループごとの検討や発表、模擬授業を実施する。

到達目標

1．学習指導要領に示される国語科の目標及び内容について理解することができる。
2．国語科において育む資質・能力について理解することができる。
3．小学校国語科の教科書教材から、学習内容や学習活動を構想することができる。
4．小学校国語科の授業を構想し、適切な教材や指導法を選択したり開発したりすることができる。■

使用教材

『小学校学習指導要領解説国語編』，その他は授業で配布

評価方法

・作成した学習指導案（30%）　・模擬授業（20%）　・課題の取り組み状況（50%）
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

作成した学習指導案にコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

水曜2限・木曜2限（8号館506研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	国語科の目標と内容について	1,2	学習指導要領の国語の「目標」に目を通す。	1h	学習指導要領解説の「国語科の目標」に目を通す。	2h
2	国語科における今日的な課題について	1,2,	全国学力・学習状況調査やPISAなどに関する情報を収集する。	2h	国語科における課題とそれに対する考えをまとめる。	1h
3	「言葉の特徴や使い方に関する事項」について	1,2,3	学習指導要領解説の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」に目を通す。	1h	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2h
4	「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について	1,2,3	学習指導要領解説の「(2)情報の扱い方に関する事項」「(3)我が国の言語文化に関する事項」に目を通す。	1h	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2h
5	「話すこと・聞くこと」の指導について（情報機器及び教材の活用を含む）	1,2,3	学習指導要領解説の「A話すこと・聞くこと」に目を通す。	1h	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2h
6	「書くこと」の指導について（情報機器及び教材の活用を含む）	1,2,3	学習指導要領解説の「B書くこと」に目を通す。	1h	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2h
7	「読むこと」（文学的文章）の指導について（情報機器及び教材の活用を含む）	1,2,3	学習指導要領解説の「C読むこと」に目を通す。	1h	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2h
8	「読むこと」（説明的文章）の指導について（情報機器及び教材の活用を含む）	1,2,3	学習指導要領解説の「C読むこと」に目を通す。	1h	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2h
9	「読むこと」における教材研究の事例と検討	1,2,3,4	指定された教科書教材について教材研究をおこなう。	1.5h	授業内容を振り返りながら指導方法について考える。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	国語科の授業における情報機器の活用など■	1,2,3,4	学習指導要領解説において情報（ICT）機器に言及している箇所に目を通す。	1.5h	模擬授業で想定する児童の実態や学習内容に合わせた情報機器の活用について考える。	1.5h
11	学習指導案の意義と作成について■	1,2,3,4	模擬授業に向けた教材研究をおこなう。	1.5h	模擬授業の学習指導案を作成する。	1.5h
12	国語科における板書の機能と構造■	1,2,3,4	模擬授業の板書内容をまとめる。	1.5h	模擬授業の板書計画を作成する。	1.5h
13	模擬授業の実施と振り返り■	1,2,3,4	模擬授業の内容・計画を見直す。	1.5h	模擬授業の振り返りをもとに学習指導案を修正する。	1.5h
14	書写の指導について(1)目標と内容など	1,2,3	学習指導要領解説の書写に関する箇所に目を通す。	1h	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2h
15	書写の指導について(2)手本中心型授業と課題発見型授業など■	1,2,3	学習指導要領解説の書写に関する箇所に目を通す。	1h	教科書教材を用いた授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・小学校学習指導要領および小学校学習指導要領解説国語編については、授業時に適宜該当箇所を紹介するが、各自必要に応じて購入（「小学校学習指導要領解説国語編」文部科学省・東洋館出版社・2018・175円）したり、文部科学省ホームページで確認したりすること。
・WordおよびPowerPointが使用できる環境を準備しておくこと。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

社会科指導法

英文名：Teaching Methods in Social Studies
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW202
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

栗原　幸正

科目に関連した実務経験

・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務（経験）
・市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○		○	○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

・授業実践で実際に作成された児童の作品やレポートを見ることを通して、リアルな授業観を習得する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学習指導要領に示された内容を、実際に実践された社会科授業の授業研究や，具体的な社会科に係る活動を行うことを通して理解し、実践のための方策や方法を習得することができる。社会科の実践を元にした講義に、関連した項目についてのワ

ークショップや協議・演習を組み合わせて、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う授業感想記述等を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。

到達目標

1.学習指導要領に基づく社会科における資質・能力の育成について理解する事ができる。
2.授業づくりに不可欠な、教材研究、授業技術、取り組み手法を習得し、実践することができる。
3.社会科の授業づくりに係る課題について知り、課題克服に向けて考える事ができる。■

使用教材

小学校学習指導要領解説社会編（平成29年3月告示　文部科学省）　　新社会科授業づくりハンドブック（全国社会科教育学会編　2260円＋税　明治図書）

参考文献

授業中に適宜資料を配付する。

評価方法

定期試験（40%）　授業後の小レポート（10%）
授業内で作製した成果物（20%）　模擬授業と発表（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。

オフィスアワー

8号館１階　学部長室　　火曜日2限・金曜日2限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義の概要＆社会科教育の現状と課題	1,3	小学校学習指導要領解説社会編p10～p19並びに新社会科授業づくりハンドブック第1章に目を通しておく。	1.5h	社会科教育の目標と、現状についてノートにまとめる。	1.5h
2	栗原実践から学ぶ（6年生単元　戦国時代の人々「真田幸村を追え」を通して）■	1,3	事前配布資料に目を通し、実践内容の概要をつかんでおく。	1.5h	実践内容の概略と意義についての自分の考えをまとめ、社会科の授業に大切な視点を理解する。	1.5h
3	社会科授業の実際Ⅰその1（単元「海物語」江ノ島編を通して①）■	2,3	社会科教育と教育の「画一化」について、自分の意見をまとめる。	1.5h	社会科における授業の画一化のメリットとデメリットについて理解する。	1.5h
4	社会科授業の実際Ⅰその2（単元「海物語」江ノ島編を通して②）■	1,2,3	単元「海物語」の授業構成をノートにまとめ、整理しておく。	1.5h	江ノ島に係る授業で、授業づくりに大切なポイントは何かをノートにまとめる。	1.5h
5	社会科授業の実際Ⅰその3（単元「海物語」横浜編を通して）■	1,2,3	江ノ島に係る授業で、児童が習得した資質・能力についてまとめる。	1h	単元「海物語」の実践から得られた質の高い社会科の授業づくりに不可欠な要素をノートにまとめ、説明できるようにする。	2h
6	社会科授業の実際Ⅱ（防災教育①：中澤実	1,2,3	新社会科授業づくりハンドブックp204～p213に目を通し	1h	中澤実践の概要をノートにまとめ、講義中のセッションを踏まえ	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	践を通して）		ておく。		て、実践の成果と課題について検討する。	
7	社会科授業の実際Ⅲ（防災教育②：山井実践を通して）	1,2,3	新社会科授業づくりハンドブックp214～p223に目を通しておく。	1h	山井実践の概要をノートにまとめ、講義中のセッションを踏まえて、実践の成果と課題について検討する。	2h
8	社会科授業の実際Ⅳ（防災教育③：大河原実践を通して）	1,2,3	新社会科授業づくりハンドブックp224～p234に目を通しておく。	1h	社会科の授業づくりに不可欠な教材研究及び保護者連携の重要性を理解する。	2h
9	社会科授業の実際Ⅴ（5年栗原実践「ハンバーガーショップを作ろう」①）■	2	前講義をふり返り、授業づくりの概略を把握し、実践の意義を検討する。	2h	5年社会科の授業づくりに不可欠な教材研究の重要性を理解する。	1.5h
10	社会科授業の実際Ⅴ（6年栗原実践「ハンバーガーショップを作ろう」②）■	2	前講義をふり返り、授業の概略を把握し、実践の意義を検討する。	1.5h	6年社会科の授業づくりに不可欠な多方面からの教材研究の重要性を理解する。	1h
11	模擬授業①（模擬授業の構想と授業づくり）	1,2	事前提示のあったテーマに沿って、授業化する領域・内容を検討しておく。	1.5h	授業づくりに取り組むための教材や方法に係る準備をする。	1.5h
12	模擬授業②（模擬授業づくり演習）	2	授業づくりに向けての各自のアイデアをノートにまとめておく。	1.5h	模擬授業実施に向けて、チームで方法・役割分担を決める。	1.5h
13	模擬授業③（模擬授業の実際と授業評価①）	2	模擬授業の方法についてチームで検討する。	1.5h	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	1.5h
14	模擬授業④（模擬授業の実際と授業評価②）	2	模擬授業の方法についてチームで検討する。	1.5h	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	1.5h
15	社会科指導法のまとめ・記述試験	1,2,3	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1h	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、社会科教育についての理解を深める。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

算数科指導法

英文名：Teaching Methods in Elementary Mathematics
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW203
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大橋　博

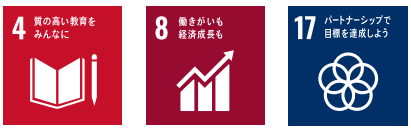
科目に関連した実務経験

小学校教諭として新潟県内の公立小学校に26年間勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○				○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①小学校算数科の目標および５領域の内容を教科固有の側面および教育的側面から考察しつつ理解する。それらをもとに算数科授業を行う上での実践的な授業力の基礎を身に付ける。
②１０回目までの講義は，担当が話題や課題を提供し，それをもとに履修生は授業を構想したり、指導案を作成したりする。１１回目以降は，グループ単位の模擬授業中心の演習を行う。

到達目標

1.小学校算数科の目標および５領域の内容について理解することができる。
2.小学校算数科の内容の系統性や教育的な意味について理解することができる。■
3.小学校算数科における授業の具体について、構想・計画，実施，評価をすることができる。■

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

参考文献

文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』　日本文教出版　224円

評価方法

授業内課題80%、期末レポート20%、その他授業中の発言等により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

・課題レポートについてはコメントを付けて返却する。

オフィスアワー

月曜，火曜1限。授業時間外の質問はメールにて受付。（9号館3階302）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	算数教育の目的と今日的な課題について知る	1	小学校学習指導要領解説・算数編第1章（p1～p20）をよく読む。	1.5h	学習指導要領における教科の目標について，講義内容と関連付けて考える。	1.5h
2	算数科の目標と学習内容の系統について知る	1,2	小学校学習指導要領解説・算数編第2章（p21～p74）をよく読む。	1.5h	学習指導要領の記述について，講義内容と関連付けて考える。	1.5h
3	「数と計算」領域について（１）領域の概観を知る	1,2	学習指導要領解説・算数編「A数と計算」領域（第2章p42～p49）をよく読む。	1.5h	学習指導要領における内容の系統について，講義内容と関連付けて考える。	1.5h
4	「数と計算」領域について（２）授業の実際■	1,2	学習指導要領解説の「A数と計算」領域における，四則計算に関連する記述を中心によく読む。	1h	「数と計算」領域の内容の系統と具体的な授業づくりについて，講義内容と関連付けて考える。	2h
5	「図形」領域について（１）領域の概観を知る	1,2	学習指導要領解説・算数編「B図形」領域（第2章p50～p56）をよく読む。	1.5h	学習指導要領における内容の系統について，講義内容と関連付けて考える。	1.5h
6	「図形」領域について（２）授業の実際■	1,2	学習指導要領解説の「B図形」領域における，図形の構成に関連する記述を中心によく読む。	1h	「図形」領域の内容の系統と具体的な授業づくりについて，講義内容と関連付けて考える。	2h
7	「測定」及び「変化と関係」領域について（１）領域の概観を知る	1,2	学習指導要領解説・算数編「C測定」および「D変化と関係」領域（第2章p56～p66）をよく読む。	1.5h	学習指導要領における内容の系統について，講義内容と関連付けて考える。	1.5h
8	「測定」及び「変化と関係」領域について	1,2	学習指導要領解説の「C測定」領域は3学年単元、「C変化と関係」領域は5学年単元を中心によく読む。	1h	「測定」および「変化と関係」領域の内容の系統と具体的な授業づくりに	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	（２）授業の実際■				ついて，講義内容と関連付けて考える。	
9	「データの活用」領域について（１）領域の概観を知る	1,2	学習指導要領解説・算数編「Dデータの活用」領域（第2章p67～p75）をよく読む。	1.5h	学習指導要領における内容の系統について，講義内容と関連付けて考える。	1.5h
10	「データの活用」領域について（２）授業の実際■	1,2	学習指導要領解説の「Dデータの活用」領域における，数学的活動に関連する記述を中心によく読む。	1h	「データ活用」領域の内容の系統と具体的な授業づくりについて，講義内容と関連付けて考える。	2h
11	算数科の授業づくりについて（１）模擬授業による演習１。■	1,2,3	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。	1h	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善する。	2h
12	算数科の授業づくりについて（２）模擬授業による演習２。■	1,2,3	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。	2h	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善する。	1h
13	算数科の授業づくりについて（３）模擬授業による演習３。■	1,2,3	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。	1h	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善する。	2h
14	算数科の授業づくりについて（４）模擬授業による演習４。■	1,2,3	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。	2h	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善する。	1h
15	算数科の授業づくりについて（５）模擬授業による演習５。■	1,2,3	模擬授業に関連する資料に目を通し、授業者役は授業準備をし、児童役は授業でどのような反応があるかを考え模擬授業で実践できるように準備する。同時に、これまでの講義内容をふり返り，整理し期末レポートの作成に備える。	1h	実施された模擬授業の振り返りを参考に、自分の授業を改善するとともに、指定された期末レポートの作成に取り組む。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・小学校学習指導要領解説算数編については，文部科学省ホームページを確認したり、各自で購入（「小学校学習指導要領解説算数編」文科省・日本文教出版・2018・224円）したりして，第2章（P75）までを読み込んでおく。
・演習は模擬授業や指導案作成を実際に行う。（オンラインへの変更時も基本的に，記載の内容で行うが，11回以降の演習部分については変更の可能性あり。）
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる ✕

理科指導法

英文名：Teaching Methods in Science
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW204
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪

科目に関連した実務経験

教諭（理科）として高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○		○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学習指導要領の内容を理解するとともに，小学校理科の授業における指導法を学ぶ。また，小学校理科の授業を行うにあたって計画，準備ができるようになるとともに，学習指導案の書き方を習得する。各講義の前半は，前回の授業の小テスト，学習指導要領に関する講義や学生の発表を行う。後半は学生が作成した学習指導案についての検討を行う。

到達目標

1.小学校理科の授業における指導法を学習指導要領の内容を理解する。
2.小学校理科の授業の計画，準備ができる。
3.詳細な学習指導案が書くことができる。■
4.学習指導要領の理科の目的に伴った理科授業が行える。■
5.情報機器（PCやタブレット等）及び教材の活用を含む理科の教材を開発することができる。

使用教材

小学校学習指導要領解説理科編，小学校理科教科書，自作プリント等

参考文献

授業において紹介。

評価方法

学習指導要領の解説のための資料（プレゼン資料，小テスト）作成10%，学習指導案20%，小テスト10%，考査50%，授業への参加度，態度，積極性等10%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

学習指導案に関して修正すべき点を示し，再度提出していただく。
小テストを返却する。

オフィスアワー

水曜3限、金曜2限
（9号館4階411研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション，学習指導要領について，教材開発（情報機器及び教材の活用を含む）について	1,2,3	学習指導要領解説理科編の総説，小学校理科の目標を読んでおく。	1.5h	講義の方針を確認するとともに，学習指導要領の内容を理解する。	1.5h
2	学習指導案の書き方，評価規準について	1,2,3	評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料。	1.5h	評価規準を理解し，学習指導案の構成を再度確認する。	1.5h
3	学習指導要領の総説，理科の目標及び内容について	1,2,3	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。	1.5h
4	現場教師による指導の実際（授業の組み立て方と学習指導案の書き方）	1,2,3,4	学習指導要領，評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料を読んでおく。	1.5h	講義内容を復習して授業の組み立て方と学習指導案の書き方を理解する。	1.5h
5	第３学年　A 物質・エネルギーの内容について■	1,2,3	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5h
6	第３学年　B 生命・地球の内容について■	1,2,3	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5h
7	第４学年　A 物質・エネルギーの内容について■	1,2,3,	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5h
8	第４学年　B 生命・地球の内容について■	1,2,3	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5h
9	第５学年　A 物質・エネルギーの内容について■	1,2,3,	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	第５学年　B 生命・地球の内容について■	1,2,3	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5h
11	第６学年　A 物質・エネルギーの内容について■	1,2,3	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5h
12	第６学年　B 生命・地球の内容について■	1,2,3	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5h
13	指導計画の作成と内容の取扱い他について	1,2,3	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。	1.5h	学習指導要領の内容を理解する。	1.5h
14	模擬授業　A 物質・エネルギーの内容■	1,2,3,4,5	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	模擬授業を振り返り，良い点，改善点をまとめておく。模擬授業の学習指導案を見直す。	1.5h
15	模擬授業　B 生命・地球の内容■	1,2,3,4,5	学習指導要領，小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5h	模擬授業を振り返り，良い点，改善点をまとめておく。模擬授業の学習指導案を見直す。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

生活科指導法

英文名：Teaching Methods in Living Environment Studies
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW205
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

栗原　幸正

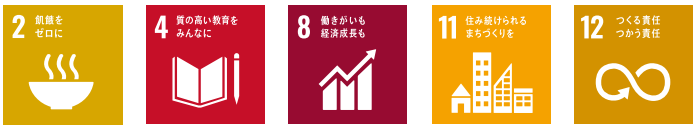
科目に関連した実務経験

・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務（経験）
・市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）
・保幼小連携教育協議会の役員として協議会を運営（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○	○	○	○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

・フィールドワークや物作り等を、受講生自らが体験することを通して、生活科の授業に不可欠なコミュニケーション能力や気づきや思いの具体化への技術や教授法等を習得する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

生活科における学習指導要領に基づく授業づくりについて、生活科で目指すべき資質・能力を理解した上で、具体的事例や具体的活動を通して、各学問と関連づけながら多面的に考える事ができる。また同時に、生活科に係る技術や方法を習得することで、生活科の授業実践をする事ができる。生活科の実践を元にした講義に、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせて、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う授業感想記述を活用して理解度を把

握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。

到達目標

1.児童や学校の実態に即した、学習指導要領の主旨に沿った、生活科の理論を習得する事ができる。
2.生活科に係る、授業技術や教材研究の手法を習得する。
3.生活科に係る授業づくりを行い、模擬授業を行うことができる。■

使用教材

生活科教科書（光村図書　上874円）
【小学校学習指導要領解説生活編（134円）　新しい生活科教育の創造―体験を通した資質・能力の育成ー（学術図書出版1900円＋税】については2年前期で購入済み。編入等の学生は自分で注文して要購入。

参考文献

授業内容に対応して、適宜資料を配付する。

評価方法

定期試験（40%）　授業後の小レポート（20%）課題レポート（20%）　成果物（20%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。

オフィスアワー

8号館１階　学部長室　　火曜日2限・金曜日2限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義ガイダンス・生活科の意義と目標・生活科お宝探偵団■	1,2	小学校学習指導要領解説生活編及び新しい生活科教育の創造に目を通しておく。	2h	目標と意義について、ノートにまとめる。お宝探偵団の課題に取り組む。	1h
2	生活科の実践Ⅰ：（栗原実践「基地づくり」を通して）■	1,2	事前配付資料に目を通しておく。	2h	生活科単元の広がりと、単元構成について理解する。	1h
3	生活科の実践演習：基地を創ろう■	1,2	栗原実践から、生活科のフィールドづくりに不可欠な条件を考える。	1.5h	生活科の趣旨に沿った基地作りの計画書を作成する。	1.5h
4	生活科の実践を読み解く：（栗原実践＆栽培に係る実践）■	1,2	栗原実践の概要について、ノートにまとめて把握しておく。	1.5h	生活科の授業を授業研究する際の視点についてまとめ、説明できるようにしておく。	1.5h
5	生活科の実際①：学区探検（学校に係る領域）	1,2	学習指導要領並びに教科書を読み、実践の概要をつかむ。自然観察の準備をすると共に、写真が撮れる機材をそろえておく。	1h	学区探検について、生活科としての留意点を理解する。見つけた季節を、所定の書式で発表用の資料としてまとめ提出する。	2h
6	生活科の実際②：おもちゃを作ろう（遊びに係る領域）	1,2	事前に指示された遊び道具づくりに必要な材料を準備する。	1.5h	作成した遊び道具を写真に撮り、振り返りを記述して提出する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	生活科の実際③：生活科の物作りについて考える	1,2	教科書の金田実践に目を通しておく。	2h	金田実践について教科書を用いて吟味し、課題についてレポートにまとめる。	1h
8	生活科の実際④：自分コラージュの制作構想（自分に係る領域）	1,2	コラージュ製作に必要な写真や新聞、文字等を準備しておく。	1.5h	コラージュの主旨がわかりやすくなるよう作品の構成を考える。	1.5h
9	生活科の実際⑤自分コラージュの制作（表現技術と評価）	1,2	作成コラージュの制作意図が他者に伝わるようなデザインを考える。	1.5h	作成したコラージュの完成度を上げ、制作意図を添付して提出する。	1.5h
10	生活科の単元構想演習	2,3	既に履修した「生活」の講義で説明された単元構想について、資料等を読み返しておく。	1.5h	指示されたテーマの単元構想を考え、シートにまとめて提出する事をとおして、次の講義からの模擬授業づくりに必要な教育方法をノートにまとめる。	1.5h
11	模擬授業の授業構想と教材研究・授業準備	2,3	授業づくりに向けての各自のアイデアをノートにまとめておく。	1h	模擬授業実施に向けて、チームで方法・役割分担を決める。	2h
12	模擬授業発表と授業研究①■(模擬授業の役割分担の把握)	2,3	模擬授業に向けての各自の分担に基づき教材研究を行う。	1.5h	模擬授業実施に向けて、授業の質を高める。	1.5h
13	模擬授業発表と授業研究②■（模擬授業の技術習得）	3	模擬授業の質を高めると共に、授業研究の視点を明確にする。	1.5h	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	1.5h
14	模擬授業発表と授業研究③■（模擬授業の授業評価）	3	模擬授業の質を高めると共に、授業研究の視点を明確にする。	1.5h	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点について理解する。	1.5h
15	生活科指導法のまとめと期末試験	3	教科書、配付資料、講義スライドに目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5h	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、生活科教育についての理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・オンラインで実施する場合はオンデマンド型授業とする。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

家庭科指導法

英文名：Teaching Methods in Home Economics
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW206
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

内田　幸子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○			○		○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

提出された学習指導案にコメントを付しフィードバックする

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校家庭科の目標、教育的意義、教育内容を理解した上で、家庭科の授業をつくるために必要な知識を理解し、指導案の作成・具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるようにする。授業の進め方は、分野毎の学習指導案を作成し、模擬授業と相互評価を行う。小学校家庭科教育の意義や目標を理解しながら、ICTを活用した教材の活用を通して指導のあり方を考える。

到達目標

1.小学校家庭科の学習内容について理解する
2.衣生活、食生活、家庭生活、消費生活の実践的な学びを深めることができる
3. 小学校学習指導要領「家庭」に基づいて教材研究や指導計画の立案できる

4.グループワークを通じて、他を尊重して自己表現できる
5.模擬授業の中で児童の考えを引き出す工夫ができる

使用教材

教科書「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）ISBN978-4-491-02374-8　　プリント

参考文献

参考図書　　「はじめての家庭科指導」櫻井順子著（開隆堂）ISBN978-4-304-02076-6
「家庭科の基本」流田直著（学研）ISBN978-4-05-405222-2

評価方法

授業内活動30%、提出された指導案と模擬授業70%により評価する
総合評価60%以上を合格とする

課題・評価に対するフィードバック方法

指導案は評価してフィードバックする

オフィスアワー

火曜日4限 (1号館505研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス　グループ分け　家庭科指導法を学ぶ意義	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5h
2	小学校家庭科の目標と内容	1,2	教科書と学習指導要領解説に目を通す	1.5h	小学校家庭科の目標と学習内容を理解する	1.5h
3	家庭科の授業づくり　教材研究（衣生活・住生活）	1,2,3,4	小学生用教科書のQRコードでデジタルコンテンツを確認する	1.5h	グループワークでグループ毎にまとめ、授業をつくる視点を広げる	1.5h
4	家庭科の授業づくり　教材研究（食生活）	1,2,3,4	小学生用教科書のQRコードでデジタルコンテンツを確認する	1.5h	グループワークでグループ毎にまとめ、授業をつくる視点を広げる	1.5h
5	家庭科の授業づくり　教材研究（家庭生活・消費生活）	1,2,3,4	小学生用教科書のQRコードでデジタルコンテンツを確認する	1.5h	グループワークでグループ毎にまとめ、授業をつくる視点を広げる	1.5h
6	家庭科の評価について	1,2,3	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	家庭科の評価について理解する	1.5h
7	家庭科と他教科との関連	1,2,3	前回配布したプリントに目を通す	1.5h	家庭科と他教科との関連について理解する	1.5h
8	学習指導案の書き方	1,2,3	前回配布した指導案作成用プリントに目を通す	1.5h	授業資料や小学生用教科書をもとに講義内容をふり返る	1.5h
9	学習指導案の作成と授業の工夫Ⅰ（衣生活・住生活）	1,2,3,4	小学校学習指導要領解説家庭編の該当箇所に目を通す	1.5h	学習指導案の作成（ICTを活用した教材の活用を含む）	1.5h
10	学習指導案の作成Ⅱと授業の工夫（衣生活）	1,2,3,4	小学校学習指導要領解説家庭編の該当箇所に目を通す	1.5h	学習指導案を作成する	1.5h
11	学習指導案の作成Ⅲと授業の工夫（家庭生活・消費生活）	1,2,3,4	小学校学習指導要領解説家庭編の該当箇所に目を通す	1.5h	学習指導案を作成する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	模擬授業と評価Ⅰ（衣生活・住生活）	1,2,3,5	模擬授業に備え準備する	1.5h	相互評価をする	1.5h
13	模擬授業と評価Ⅱ（食生活）	1,2,3,5	模擬授業に備え準備する	1.5h	相互評価をする	1.5h
14	模擬授業と評価Ⅲ（家庭生活・消費生活）	1,2,3,5	模擬授業に備え準備する	1.5h	相互評価をする	1.5h
15	模擬授業の振り返りとまとめ	1,2,3	模擬授業の振り返りと自己評価をする	1.5h	模擬授業の振り返りを通して、授業改善の視点を身につける	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷　閉じる

音楽科指導法

英文名：Teaching Methods in Music
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW207
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐藤　和貴

科目に関連した実務経験

音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○		○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本講義では、「音楽基礎Ⅰ・Ⅱ」、「音楽」等で学んだ音楽技術と知識を踏まえ、小学校における音楽科の指導法を学ぶ。具体的には、(1)幼稚園との接続を踏まえた初等音楽教育の目的と概要、(2)音楽科の各内容における指導方法の実際、(3)学習指導要領の内容を踏まえた授業の立案方法を学ぶ。
授業では、音楽科の各領域における題材例や教材を体験することを通して、指導すべき内容を実践的に理解していく。また、指導案の立案や模擬授業を行う中で、指導法や音楽教材についての考えを深めていく。各回、講義とともに弾き歌い（範唱・範奏）や模擬授業を行い、技術指導のポイントを習得することを積み重ね、音楽科授業の実践力を身に着ける。

到達目標

1.小学校における音楽科指導の意義・目的を理解し、説明できる。
2.児童の音楽表現力を引き出す指導者としての知識・技術を習得し、範唱・範奏、伴奏、弾き歌い、指揮等ができる。

3.音楽科授業作りの基礎能力を身につけ、学習指導案作成や模擬授業ができる。■
4.授業で扱う様々な音楽に関心を持ち、教材化について課題や意見を述べることが出来る。

使用教材

①『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』初等科音楽教育研究会編、音楽之友社
②『小学生のおんがく１』教育芸術社
③『小学生の音楽２』教育芸術社
④『小学生の音楽３』教育芸術社

参考文献

①『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編』文部科学省

評価方法

学習指導案の内容30%、範唱・範奏の内容30%、模擬授業の内容40%を総合する。

課題・評価に対するフィードバック方法

模擬授業はその都度コメントをする。授業課題はコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

水曜・2時限または、木曜・3時限
(503研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　音楽科の目標	1	使用教材①pp.12-15を読んでおく。	1h	音楽科の目標を理解し、まとめる。	2h
2	歌唱の学習と指導①「歌唱の意義と留意点」■	1,2,3,4	使用教材①pp.52-55を読んでおく。	1h	歌唱指導の意義をまとめる。	2h
3	歌唱の学習と指導②「歌唱教材研究」■	1,2,3,4	使用教材①pp.56-60を読んでおく。	1h	歌唱指導のポイントをまとめる。	2h
4	器楽の学習と指導①：打楽器■	1,2,3,4	使用教材①pp.61-68を読んでおく。	1h	器楽指導のポイントをまとめる。	2h
5	器楽の学習と指導②：リコーダー■	1,2,3,4	ソプラノリコーダーの運指（使用教材①p.107）を確認しておく。	1h	リコーダーの指導法や留意点をまとめる。（使用教材①pp.69-71）	2h
6	鑑賞の学習と指導①「鑑賞の意義と留意点」■	1,2,3,4	使用教材①pp.93-94を読んでおく。	1h	鑑賞指導の意義をまとめる。	2h
7	鑑賞の学習と指導②「指導法」■	1,2,3,4	使用教材①pp.95-97を読んでおく。	1h	鑑賞指導のポイントをまとめる。	2h
8	音楽づくりの学習と指導①「音楽づくりの意義と留意点」■	1,2,3,4	使用教材①pp.83-84を読んでおく。	1h	音楽づくりの意義をまとめる。	2h
9	音楽づくりの学習と指導②「指導法」■	1,2,3,4	使用教材①pp.85-92を読んでおく。	1h	音楽づくりのポイントをまとめる。	2h
10	学習指導案の書き方と作成■	1,3,4	これまで学習した音楽科の指導内容のポイントを復習しておく。	1h	学習指導案作成上の留意点を復習し、完成させておく。	2h
11	模擬授業（歌唱）■	3	指示された学習指導案を読んでおく。	1h	模擬授業の内容をまとめる。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	模擬授業（器楽）■	3	指示された学習指導案を読んでおく。	1h	模擬授業の内容をまとめる。	2h
13	模擬授業（鑑賞）■	3	指示された学習指導案を読んでおく。	1h	模擬授業の内容をまとめる。	2h
14	模擬授業（音楽づくり）■	3	指示された学習指導案を読んでおく。	1h	模擬授業の内容をまとめる。	2h
15	教材の範唱・範奏(発表)	2	範唱、範奏の準備をする。	1h	使用教材①pp.242-248を復習する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

1)講義で扱う教材は、充分に譜読みを行っておいてください。
2)講義で扱う楽曲はインターネット上で検索閲覧するなどして鑑賞し、予習をしておいてください。
3)器楽では、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカを使用します。音楽科授業で使用する上で適切な楽器を準備しておいてください。
4)歌唱や弾き歌い、ピアノ伴奏、リコーダー等の技術課題は、毎回予習復習をして授業に臨んでください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

図画工作科指導法

英文名：Teaching Methods in Drawing and Handicrafts
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW208
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

増田　金吾

科目に関連した実務経験

中学校美術科教諭として東京都公立中学校に勤務（経験）、幼稚園長として国立大学附属幼稚園に勤務（経験）、東京都公立小学校で教育実習の指導教員を行う（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○			○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

図画工作科を指導する際、子ども理解とその教科内容の把握が重要である。加えて、その内容をいかに児童に伝えていくかを考えた時、十分に検討された方法を踏まえなければ望ましい指導はできないと言えよう。
そのため、造形教育の歴史や様々な考え方を幅広く考察することを通して、子どもの日常生活から生まれる表現活動の意義を捉え、図画工作科の目標、教育内容・方法（実際の授業例や指導法など）の全体像を把握する。
また、講義受講に加えて模擬授業も行い、教育実践に結びつけるようにする。
担当教員は、学生全員が授業を充実して受けることができるよう努める。

到達目標

1.図画工作科の特性、子どもの発達、思考、表現、知識・技能などについて理解できる。
2.造形教育の歴史や意義を踏まえつつ、図画工作科教育の目標や課題が分かる。
3.教材や資料等（情報機器の活用を含む）について理解し、題材研究の仕方が分かる。
4.図画工作科の教育内容・実践的指導方法を理解し、学習指導案が書ける。■
これらのことに主体的に取り組み、多様な社会背景を理解しつつ、豊かな人間性と教養（専門的知識を含む）を身につける。

使用教材

⑴　教科教育学シリーズ⑧図工・美術科教育、橋本美保・田中智志監修、増田金吾編著、一藝社、平成27年発行、2,200円＋税
⑵　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編、文部科学省著作、日本文教出版、平成30年発行、100円＋税
教材は、講義そのものと同程度の割合で用いて、講義の補助、深化、内容理解の定着化のために使用する。

参考文献

必要に応じて、授業時に紹介する。

評価方法

中間まとめ（小テスト) (20%)、班ごとに作成する学習指導案(当該班共通の評価、20%)、最終段階での提出レポート（60%）の内容により総合的に判断する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

小テストは各自に返却し、テスト内容の解説と結果に対するコメントをクラス全体に行う。学習指導案には、班個々にコメントをつけて返却する。最終レポートについては、最終回に課題の解説を行う。これら課題について、評価の観点と規準を示す。

オフィスアワー

出講日の昼休み、9号館3階301研究室（または、講師控室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、今日の教育現場と図画工作科、図画工作科の目標について、実践的視点で解説する。■	2	シラバスの内容を読んで本講義の目標・内容などを理解する。使用教材⑴のまえがき、序章　今日の教育と美術科教育　第１・２・３節に目を通しておくこと。	2h	講義の到達目標、内容、学位授与方針、成績評価方法などを確認すること。	1h
2	図画工作科の実態-映画（DVD VIDEO）「トントンギコギコ　図工の時間」の鑑賞を通して。実践に基づいた詳細な説明を行う。■	1,3	使用教材⑵の中の学習指導要領部分「小学校学習指導要領　図画工作」に目を通しておくこと。	1.5h	「小学校学習指導要領　図画工作」を踏まえて、映画で見た授業から継承したい点をまとめること。	1.5h
3	美術教育の意義について。実践に基づいた説明を行う。■	2	使用教材⑴の第１章　美術教育の意義　第１・２・３・４節に目を通すこと。	1.5h	美術教育の意義を理解すること。	1.5h
4	戦前の図画工作教育の要点を示した上で、学習指導要領の変遷を中心とした戦後の図画工作教育について説明する。	1,2	使用教材⑴の第２章、第３章　美術教育の歴史　戦後　ー 学習指導要領の変遷を軸にして　第１・２・３・４節に目を通すこと。	1.5h	学習指導要領誕生の意義と変遷について理解すること。	1.5h
5	造形表現と発達段階⑴　なぐり描き期、前図式期、図式期。実	1	使用教材⑴の第５章　造形表現と子どもの成長　第１・２節、第３	1.5h	子どもの発達と造形表現との関係、なぐ	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	践に基づいた説明を行う。■		節１.と第３節２.の⑴～⑷に目を通すこと。		り描き期、前図式期、図式期を理解すること。	
6	造形表現と発達段階⑵　写実の芽生え期、擬写実期、決定期。実践に基づいた説明を行う。■この頃（時期未定）、中間まとめとして小テストを実施する。	1	教科書⑴の第５章　造形表現と子どもの成長　第３節２.の⑸～⑺に目を通すこと。	1.5h	写実の芽生え期、擬写実期、決定期を理解すること。	1.5h
7	表現と鑑賞の活動 ― 平成２９年版小学校学習指導要領図画工作科を踏まえて。実践に基づいた説明を行う。■	1,2,3	使用教材⑵全体に目を通すこと。	2h	平成29年版「小学校学習指導要領解説　図画工作」を理解すること。	1.5h
8	小学校低学年の題材と指導事例。実践に基づいた説明を行う。■	1,3	使用教材⑴の第８章　小学校低学年の題材と指導事例　第１・２・３節に目を通すこと。	1.5h	小学校低学年の図画工作の題材と指導事例を理解すること。	1.5h
9	小学校中学年・高学年の題材と指導事例。実践に基づいた説明を行う。■	1,3,4	使用教材⑴の第９章　小学校中学年の題材と指導事例　第１・２・３節、同　第10章　小学校高学年の題材と指導事例 ― 指導計画と評価　第１・２・３節に目を通すこと。	2h	小学校中学年・高学年の図画工作の題材と指導事例を理解すること。	1.5h
10	授業と学習の構想、指導計画・学習指導案（学習評価、情報機器の活用法を含む）の作成。実践に基づいた説明を行う。■	1,3,4	使用教材⑵の「指導計画の作成と内容の取扱い」を熟読すること。	1.5h	図画工作科指導計画・学習指導案の作成について理解すること。	1.5h
11	題材・教材研究についてグループワークで、ディスカッションする。	1,3	題材・教材研究について考えてくること。	1.5h	題材・教材研究について、ディスカッションしたことを整理すること。	1.5h
12	図画工作科学習指導案をグループワークでディスカッションし作成する。	1,3,4	自分の考える図画工作科学習指導案を考えてくること。	1.5h	図画工作科の学習指導案について考えること。	1.5h
13	図画工作科学習指導案をもとに、グループごとに模擬授業（プレゼンテーション）を行う⑴。実践に基づいた解説を行う。■	1,2,3,4	グループごとに模擬授業の準備をすること。	1.5h	図画工作科の教育内容・実践的指導方法について理解すること。	1.5h
14	図画工作科学習指導案をもとに、グループごとに模擬授業（プレゼンテーション）を行う⑵。実践に基づいた解説を行う。■	1,2,3,4	グループごとに模擬授業の準備をすること。	1.5h	図画工作科の教育内容・実践的指導方法について理解すること。	1.5h
15	最終レポート提出。図画工作科指導法のあり方。実践に基づいた説明を行う。■	1,2,3,4	最終の課題レポートを作成すること。本授業の全体をまとめること。	1.5h	図画工作科指導法の望ましいあり方を理解すること。	1.5h

合計時間（予習・復習）

46h

備考

・予習・復習の際に生じた不明な点があれば、当日の授業中のことも含め質問を授業中にしてください。クラス全員で共有することが重要であるためです。しかし、その後別の質問等が生じたら、メールで連絡してください。できるだけ速やかに答えます。
・ルールとして、けじめのある態度で受講するようお願いします。
・オンラインで実施する場合は、ほぼこの講義内容で、C-learningを用いてオンデマンド式（授業動画とパワーポイントのpdfを使用）による授業を行います。しかし、模擬授業は極力対面で行えるよう努めます。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

体育科指導法

英文名：Teaching Methods in Physical Education
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW209
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

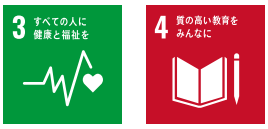
担当教員

山西　加織　金子　伊樹

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①小学校学習指導要領における体育科の目標と内容を踏まえ、生涯にわたって運動に親しみ、心と体の健康を維持する態度を育むための指導法について学習する。各学年における運動領域や保健領域の授業づくりに関して、基本的な進め方を理解し、指導計画の作成および教材づくり、評価など、授業を運営する能力を身につける。さらに、ビデオカメラ等を用いて児童が運動課題を視覚的に見つけて自らの技能を高められるようにするなど、学習場面に応じたICT機器の効果的な活用法を学習する。
②講義により小学校体育の授業計画・運営について概説する。その後、学習指導案の作成と模擬授業の実践を繰り返し進めていく。模擬授業後には、意見交換によるフィードバックの機会を毎回設ける。

到達目標

1.小学校学習指導要領「体育科」の目標および内容について説明することができる。
2.各運動領域における実践内容を理解し、指導することができる。
3.小学校体育科の学習指導案を作成することができる。

使用教材

教科書　「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省（東洋館出版社）、その他適宜資料を配布する。

参考文献

授業時に紹介する。

評価方法

授業への参加度・態度（30%）、貢献度（10%）、学習指導案（20%）、模擬授業（20%）、レポート課題（20%）を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。

オフィスアワー

月曜日5時限、木曜日3時限
（8号館505研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　なぜ「体育」の授業があるのか？	1,3	教科書を読み、小学校学習指導要領体育科の目標と内容を学習する。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
2	小学校体育科の目標及び各運動領域の内容	1,3	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。	1.5 h	授業で学習した内容をノートにまとめる。	1.5 h
3	体育科における年間・単元学習計画作成のポイント	1,3	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。	1.5 h	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。	1.5 h
4	体育科における指導方法と評価方法	1,3	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。	1.5 h	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。	1.5 h
5	体育科における教材研究と学習指導案作成	1,3	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。	1.5 h	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。	1.5 h
6	模擬授業の実践と振り返り（1）体つくり運動	1,2,3	学年を選択し、「体つくり運動」の学習指導案を作成する。	1.5 h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 h
7	模擬授業の実践と振り返り（2）器械・器具を使っての運動遊び、器械運動	1,2,3	学年を選択し、「器械・器具を使っての運動遊び」または「器械運動」の学習指導案を作成する。	1.5 h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 h
8	模擬授業の実践と振り返り（3）走・跳の運動遊び	1,2,3	低学年の「走・跳の運動遊び」の学習指導案を作成する。	1.5 h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 h
9	模擬授業の実践と振り返り（4）走・跳の運動、陸上運動	1,2,3	学年を選択し、「走・跳の運動」または「陸上運動」の学習指導案を作成する。	1.5 h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 h
10	模擬授業の実践と振り返り（5）水遊び、水泳運動	1,2,3	学年を選択し、「水遊び」または「水泳運動」の学習指導案を作成する。	1.5 h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	模擬授業の実践と振り返り（6）ゲーム	1,2,3	学年を選択し、「ゲーム」の学習指導案を作成する。	1.5h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5h
12	模擬授業の実践と振り返り（7）ボール運動	1,2,3	学年を選択し、「ボール運動」の学習指導案を作成する。	1.5h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5h
13	模擬授業の実践と振り返り（8）表現リズム遊び、表現運動	1,2,3	学年を選択し、「表現リズム遊び」または「表現運動」の学習指導案を作成する。	1.5h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5h
14	模擬授業の実践と振り返り（9）保健	1,2,3	学年を選択し、「保健」の学習指導案を作成する。	1.5h	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3	これまでに実施した学習指導案や模擬授業から課題を見つける。	1h	小学校体育科のおける学習指導案作成や授業実践のポイントをレポートにまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ（体育館用、外履き用）を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。

印刷 閉じる

外国語（英語）の指導法

英文名：Teaching Methods in Foreign Language (English) Classes
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW210
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

姉﨑　達夫・ステイシー クローズ・鈴木 文也

科目に関連した実務経験

姉﨑：英語教師として中学校に勤務（経験）
クローズ：英語教師として小学校に勤務（経験）
鈴木：英語教師として中学校・高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

ピアレビュー

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校外国語教育の役割を理解し、外国語活動(中学年)や外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な英語教育の知識や指導技術を身につける。これらの授業は講義形式と模擬授業、それらに関する討議などで構成し進める。

到達目標

1. 外国語（英語）教育を理解し、児童に対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。
2. 第二言語習得の特徴を理解し、実践に必要な基本的な指導技術（英語での語りかけなど）を身につけることができる。

3. 学習指導要領に基づいた、実際の授業づくりに必要な知識・技術（指導計画作成など）を習得することができる。■
4. 自ら進んで小学校の外国語教育に携わる意欲を高めることができる。

使用教材

『最新 小学校英語教育法入門』（樋口忠彦他、研究社、2023、2,420円）
ISBN：9784327411084
Let’s Try! 1 （文部科学省）ISBN：978-4-487-25870-3
Let’s Try! 2 （文部科学省）ISBN：978-4-487-25871-0

参考文献

小学校学習指導要領　（平成29年3月31日告示　文部科学省）https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf
その他、適宜授業内で紹介する。

評価方法

レポート・模擬授業80%、授業内の貢献度20%で評価する。
総合60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにはコメントをつけて返却する。
授業中の貢献度についてはその都度評価する。

オフィスアワー

姉﨑：月曜2限、水曜3限
（研究室：9号館3階303）
クローズ：月曜4限，火曜3限
（研究室：9号館3階307）
鈴木：火曜2限、木曜2限
（研究室：9号館3階306）
質問はメールでも受け付ける

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、学習指導要領にもとづく小学校外国語教育について(姉﨑)	1,2,3,4	テキストの資料②学習指導要領を読み、小学校外国語教育の目的と目標を確認する。	1.5h	学習指導要領をもう一度読み、外国語活動（中学年）と外国語（高学年）の違いを理解する。	1.5h
2	小・中・高の外国語教育における小学校の役割について(姉﨑)■	1,2,3,4	テキスト第1章に目を通す。特に小・中・高の外国語教育の目標を確認する。	1.5h	義務教育段階の外国語教育における外国語活動・外国語の役割を理解する。	1.5h
3	小学校外国語活動・外国語における主な教材の構成と内容について(姉﨑)	1,2,3,4	テキスト第4章の小学校外国語活動・外国語における教材に関する記述に目を通す。	1.5h	Let’s Try! 1・2の構成と内容を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	児童の多様性に応じた外国語の指導と母語使用について(姉﨑)	1,2,3,4	テキスト第2章に目を通す。特に児童の多様性に関する記述を確認する。	1.5h	外国語の指導において、いつ、そしてどの程度母語を使用すれば効果的であるかを児童の状況に応じて考えてみる。	1.5h
5	児童の発達段階の特性を踏まえた外国語の学習形態（一斉、グループ、ペア、個人）の選択について(姉﨑)	1,2,3,4	テキスト第2章に目を通す。特に児童の言語習得の特徴に関する記述に目を通す。	1.5h	児童の発達段階に即した授業づくりの例とそのねらいを理解する。	1.5h
6	コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りの重要性を理解し、受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについての理解とその指導（鈴木）	1,2,3,4	テキスト第7、8章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5h	国語と英語の両面から、コミュニケーションの重要性や面白さに気づく指導を身につけることができる。	1.5h
7	題材の選定、教材研究、ICT等の活用、文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方に関する実践練習（鈴木）	1,2,3,4	テキスト第9、10章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5h	適切な教材提示により、児童の読む活動、書く活動を円滑に行う指導を身につけることができる。。	1.5h
8	学習到達目標、指導計画（年間指導計画、学習指導案、短時間学習などの授業時間の設定を含むカリキュラム・マネジメント等）、学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）について （鈴木）■	1,2,3,4	テキスト第11、12章に目を通す。学習指導要領の目標に関する事項に目を通す。	1.5h	学習到達目標、指導計画、学習状況の評価等の基本を理解し、授業実践に結びつく指導案作成を行うことができる。	1.5h
9	模擬授業（5年生）、授業づくり（読む活動中心）についてのディスカッション（鈴木）■	1,2,3,4	テキスト第13章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5h	読む活動を中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5h
10	模擬授業（6年生）、授業づくり（書く活動中心）についてのディスカッション、まとめ（鈴木）■	1,2,3,4	テキスト第13章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5h	書く活動を中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5h
11	音声によるインプットの内容を類推し理解するプロセス、児童の発達段階の特徴を踏まえた音声によるインプットの在り方（クローズ）	1,2,3,4	テキスト第7章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5h	児童の発達段階を踏まえた音声指導を身につけることができる。	1.5h
12	児童の発話につながる英語での語りかけとやり取り、その実践練習（クローズ）	1,2,3,4	テキスト第7章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5h	教師やALT等の語りかけが、児童の発話につながる指導を身につけることができる。	1.5h
13	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方について（クローズ）	1,2,3,4	テキスト第9章4節に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5h	ALTとのTTに向けての準備、授業実践、評価を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5h
14	模擬授業（3年生）、授業づくり（発話につながる語りかけ）についてのディスカッション（クローズ）	1,2,3,4	テキスト第13章に目を通す。教科	1.5h	教科書を教材として、発話につながる語りかけを中心とした授業を行う知	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			書の関連箇所を予習。		識・技能を身につけることができる。	
15	模擬授業（4年生）、授業づくり（発話を引き出すやり取り）についてのディスカッション（クローズ）	1,2,3,4	テキスト第13章に目を通す。教科書の関連箇所を予習。	1.5h	教科書を教材として、発話につながる語りかけを中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・授業（1～5回）は、学習指導要領に基づいた小学校外国語活動・外国語の目的と目標及びその教材の特徴を理解し、児童の発達段階に応じた指導方法を学ぶ。
・授業（6～15回）は、身につけた授業指導の知識や技能を用いて、授業指導の実践を行うための知識・技能を身につける学修をおこなう。
・1～7回、9～11回、15回については対面で授業を行い、8回および12回～14回はオンデマンドで授業を行う。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

英語科指導法Ⅰ

英文名：English Teaching Methods Ⅰ
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW301
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也

科目に関連した実務経験

英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○				○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業は、中学校の英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を身につけるための科目である。小・中・高等学校の学習指導要領やそれぞれで使用される教科書を理解し、英語の授業指導に活かせる力を身につける。特に、5領域の能力とその背景的知識を身につけ、授業指導に活かせるようになる。
授業は主にパワーポイントを用いた講義、そして学生による模擬授業とその後の全体での授業検討等で進められる。

到達目標

1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。
2.英語科教育法の理論に基づいて5領域の指導方法と指導技術を理解することができる。■
3.5領域の指導を効率的に行うための指導方法と指導技術を身につけることができる。■

4.教育課程の意義及び編成の方法と「言語活動」や「言語材料」などを理解し、学習指導要領に従って、自ら進んで英語の授業を計画し、生徒の実態に即した授業指導を展開できる。■

使用教材

『英語授業の「型」づくり-おさえておきたい指導の基本』、小菅和也他、大修館書店、2021、2,200円＋税

参考文献

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編』（文部科学省）、その他参考となる文献についてはその都度紹介する。

評価方法

授業参加(10%)、授業中の議論の内容やレポート等(30%)、模擬授業とその指導案(60%)等から総合的に評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

模擬授業の指導案は事前に個別指導を行い、模擬授業終了後の全員での授業検討については、その都度コメントやアドバイスをする。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
（9号館306研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、英語教員に求められること、学習指導要領（小・中・高等学校）	1,2,3	教科書の目次や中学校学習指導要領の10ページから28ページに目を通す。	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法の確認と、英語教員が備えておくべき能力と学習指導要領（小・中・高等学校）について、理解することができる。	1.5h
2	小・中・高等学校で使用されている英語の教科書	1,2,3	指示に従い、配布されている検定教科書に目を通す。	1.5h	小・中・高等学校の英語の教科書を概観し、言語材料と言語活動に関して理解する。	1.5h
3	外国語として学ぶ英語の音声の特徴とその聞き方と発音の仕方　■	1,2,3	教科書の第3章のⅤ、第1章のⅥ、第2章のⅥに目を通す。	1.5h	英語の音声の特徴とその聞き方と発音の仕方について理解することができる。	1.5h
4	アルファベットからまとまりのある文章までの文字指導　■	1,2,3	教科書の第3章のⅪに目を通す。	1.5h	アルファベットから文章までの文字指導手順について理解することができる。	1.5h
5	授業指導で使用する英語の語、語句、文、文章の表現指導　■	1,2,3	教科書の第3章のⅥ・Ⅷに目を通す。	1.5h	英語の語、語句、文、文章の表現指導について理解することができる。	1.5h
6	授業指導で用いる文法　■	1,2,3	教科書の第2章の50～55ページ、58～66ページ、85～88ページに目を通す。	1.5h	英語習得の１つの手段として文法をとらえ、指導方法を理解することができる。	1.5h
7	話し手の意向などを理解できる「聞くこと」の指導　■	1,2,3	教科書の第1章のⅢ、第2章の55～58ページに目を通す。	1.5h	話し手の意向などを理解できる「聞くこと」の指導方法を身につけることができる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	語、語句、文単位からまとまりのある文章まで理解できる「読むこと」の指導　■	1,2,3	教科書の第1章のⅤ、第2章の88～90ページに目を通す。	1.5h	文単位からまとまりのある文章までの英語を読んで、書き手の意向などを理解できる「読むこと」の指導方法を身につけることができる。	1.5h
9	自分の考えなどを話す「話すこと[やり取り]」と「話すこと［発表］」の指導　■	1,2,3	教科書の第1章のⅦ、第2章の104～114ページに目を通す。	1.5h	自分の考えなどを話すことができる「話すこと[やり取り]」と「話すこと［発表］」の指導方法を身につけることができる。	1.5h
10	語、語句、文単位からまとまりのある文章を書く「書くこと」の指導　■	1,2,3	教科書の第2章の114～118ページに目を通す。	1.5h	文単位からまとまりのある文章を書くことができる「書くこと」の指導方法を身につけることができる。	1.5h
11	異文化（教科書に登場する外国の文化や外国の友など）の理解の指導　■	1,2,3	配布される資料に目を通す。	1.5h	教科書に登場する外国の文化やALTの出身地などの文化を、教材として活用して、異文化理解の指導に応用できる指導方法を身につける。	1.5h
12	学習到達目標に基づく複数の領域の学習指導案の作成とその模擬授業　■	1,2,3,4	教科書の第3章のⅠ～Ⅳ、Ⅻと「実習の手引き」に目を通す。	1.5h	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5h
13	英語でのインタラクションを中心とした学習指導案の作成とその模擬授業　■	1,2,3,4	教科書の第3章のⅠ～Ⅳ、Ⅻと「実習の手引き」に目を通す。	1.5h	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5h
14	生徒の実態や特性、習熟度を考慮した学習指導案の作成と模擬授業　■	1,2,3,4	教科書の第3章のⅠ～Ⅳ、Ⅻと「実習の手引き」に目を通す。	1.5h	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5h
15	ＡＬＴ等とのティーム・ティーチングの授業の学習指導案の作成と模擬授業　■	1,2,3,4	配布される資料に目を通す。	1.5h	外国語指導助手とのティーム・ティーチングの授業についての理解を深め、実践できるようにする。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

質問はメールでも受け付ける。授業指導で求められる、英語の知識・技能をしっかりと身につけておくこと。模擬授業の事前指導は余裕をもって受け、授業は英語で行うことが望まれる。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

英語科指導法Ⅱ

英文名：English Teaching Methods II
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW302
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也

科目に関連した実務経験

英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○				○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業は、中学校の英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を身につけるための科目である。中学校の英語教育の学習指導要領及び教科書について理解し、必要な英語教授法と英語科指導に関する知識と技術を身につける。さらに、学習到達目標を踏まえ、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画の作成と、その実践と評価の方法を学び、授業指導に活かせるようになる。理論的な内容を学ぶ英語科教育学Ⅱの授業と、対になる講義である。
授業は主に講義、そして学生による模擬授業とその後の全体での授業検討等で進められる。

到達目標

1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。
2.英語教授法の知識と技術、5領域の指導を行うための指導方法と技術を身につけることができる。■

3.英語科教育法の理論に基づいて、5領域を意識した授業計画を立て、生徒に5領域の能力を確実に身につけるよう指導することができる。■
4.学習到達目標を踏まえ、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画の作成と、その実践と評価の方法を学び、さらに外国語指導助手の活用などに配慮した授業等を実践することができる。■

使用教材

『英語授業の「型」づくり-おさえておきたい指導の基本』、小菅和也他、大修館書店、2021、2,200円＋税
必要な講義内容はプリントして配布する。

参考文献

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編』（文部科学省）、その他参考となる文献についてはその都度紹介する。

評価方法

授業参加(10%)、模擬授業とその指導案(60%)、授業中の議論の内容等(20%)、テストの作成(10%)等から総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

模擬授業の指導案は事前に個別指導を行い、模擬授業終了後の全員での授業検討については、その都度コメントやアドバイスをする。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
（9号館306研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、小・中・高等学校の英語教育と中学校及び高等学校の学習指導要領	1,2,3	教科書の第1、2、3章に目を通す。	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法の確認と、日本の小・中・高等学校の英語教育の実態を確認する。	1.5h
2	英語教授法を背景に、学習到達目標に基づいた授業の構想と展開　■	1,2,3	教科書の第7章に目を通す。	1.5h	授業の目標に応じた英語教授法を背景に、授業を構想し展開する能力を身につけることができる。	1.5h
3	学習到達目標に合った教材作成、言語活動、ICTの活用　■	1,2,3	教科書の第16章と第17章に目を通す。	1.5h	授業の目標に応じて、指導方法に合った教材作成等を行うことができる。	1.5h
4	「CAN-DOリスト」などに基づいた言語能力の測定と評価　■	1,2,3,4	教科書の第3章と第15章に目を通す。	1.5h	「CAN-DOリスト」を学び、教育課程や学習指導要領との関連性において、実際の授業で配慮することを理解することができる。	1.5h
5	学習指導案の構成と内容の理解及び年間指導計画や単元毎の指導計画との関連性　■	1,2,3,4	教科書の第3章、第4章、第15章に目を通す。	1.5h	学習指導案の構成と内容を理解し、教育課程に基づく年間指導計画や単元毎の指導計画との関連性を理解することができる。	1.5h
6	観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評価への総括　■	1,2,3,4	教科書の第3章、第4章、第15章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5h	学習指導案の例（教育課程を踏まえた『実習の手引』参照）を見て、学習指導案を作成し、実際の	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					授業との関連性を理解することができる。	
7	中学校3年間の英語学習過程と第二言語習得プロセス ■	1,2,3,4	教科書の第4章、第7章、第8章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5h	第二言語習得の理論に基づいた英語教育を理解し、英語教授法に基づいた学習指導案を学習者の実態に応じて作成することができる。	1.5h
8	学習指導案（日本語版・英語版）と実際の授業指導 ■	1,2,3,4	教科書の第14章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5h	学習指導案の日本語版と英語版を参考にして、実際の授業指導の展開を理解したり、構想したりすることができる。	1.5h
9	授業演習(1)　TTの学習指導案作成と模擬授業　■	1,2,3,4	TTの指導案を作成し、実践できるように準備する。	1.5h	TTの模擬授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5h
10	授業演習(2)　「聞くこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■	1,2,3,4	「聞くこと」の指導を中心とした学習指導案を作成し、実践できるように準備する。	1.5h	「聞くこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5h
11	授業演習(3)　「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業　■	1,2,3,4	「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の指導を中心とした学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5h	「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5h
12	授業演習(4)　「読むこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■	1,2,3,4	「読むこと」の指導を中心とした学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5h	「読むこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5h
13	授業演習(5)　「書くこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■	1,2,3,4	「書くこと」の指導を中心とした学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5h	「書くこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5h
14	授業演習(6)　ICTを活用した学習指導案の作成と模擬授業　■	1,2,3,4	ICTを活用した授業の学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5h	ICTを活用した授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5h
15	授業演習(7)　All in Englishの学習指導案の作成と模擬授業　■	1,2,3,4	All in Englishの授業の学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5h	All in Englishの授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

質問はメールでも受け付ける。模擬授業の事前指導は余裕をもって受ける。実習を意識した模擬授業を行うので、綿密な指導案の作成と指導案に基づいた授業を行うこと。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

英語科教材研究 I

英文名：English Teaching Materials I
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW303
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

姉﨑　達夫

科目に関連した実務経験

姉﨑：英語教師として中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○				○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学習指導要領に沿って、どのような教材を用いれば、生徒が効率的かつ興味をもちながら英語を学べるかを考える。そのため授業では、中学校で用いられる教科書を中心に、デジタル教材、オンライン教材などの基礎的知識を深める講義形式と教材の活用方法を学ぶための模擬授業・ディスカッションを交えた形で進める。

到達目標

1. 英語科の教材について、どのような教材があるのかを理解する。■
2. 英語科の教材がどのような目的・手順で開発（デザイン）されているのかを理解する。
3. 英語科の教材をどのように分析・評価すればよいのかを理解する。■
4. 中学校の英語教科書を使って、学習指導要領で示された5領域の指導ができるようにする。■

使用教材

講義内で適宜資料を配布する。

参考文献

和泉伸一. (2009). 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』. 東京：大修館書店. 2,200円
ISBN：978-4-469-24547-9

評価方法

授業への参加度、発表、課題（20%）、模擬授業（40%）、期末試験（40%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題のフィードバックは翌週に提示する。学習指導案にはコメントを付けて返却する。

オフィスアワー

月曜2限、水曜3限
（研究室：9号館3階303）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・中学校・高等学校外国語（英語）における教材について■	1,2	シラバスの内容、文部科学省の資料を読んで、授業の目標設定などについて理解する。	1.5h	学習指導要領を元に学習指導案、教材作成を行う場合の視点を理解する。	1.5h
2	教材研究の方法 (1): 言語材料の配列について■	1,2,3	中学校英語教科書数冊を読み、言語材料の配置等について比較する。中学校英語教科書出版社からシラバスの例をダウンロードし、特徴を把握する。	1.5h	中学校英語教科書数冊を比較検討し、その言語材料の配置の違いを理解する。	1.5h
3	教材研究の方法 (2): タスクの種類について■	1,2,3	タスクの種類について調べ、言語材料との関連を検討する。	1.5h	タスクの種類と言語材料との関連を踏まえた学習指導案略案を書く。	1.5h
4	中学校英語教科書の分析：第二言語習得理論と教材について■	1,2,3	第二言語習得論と教材との関連について調べる。	1.5h	中学校英語教科書を第二言語習得理論の観点から分析し、その教材の特徴をまとめる。	1.5h
5	小学校外国語活動・外国語（英語）の教科書、中学校英語教科書の違いについて■	1,2,3	小学校、中学校の英語教科書を読み、文法事項の取り扱い、文字・音声の扱いの相違点を調べる。	1.5h	小中連携の観点から、小学校6年生、中学校1年生で使用される英語教科書を比較する。特に小中での音声と文字に関する取扱いを比較し、スムーズな移行方法を検討する。	1.5h
6	フォーカスオンフォームを用いた英語指導について■	1,2,3	フォーカスオンフォームについて具体的手法を調べておく。	1.5h	フォーカスオンフォームの手法を実際に使うことができるように練習する。	1.5h
7	デジタル教材とオンライン教材の活用・作成について■	1,2,3	指定されたデジタル教材にアクセスして実際に使用し、比較する。	1.5h	授業で紹介されたデジタル教材とオンライン教材を作成し、分かりやすさを検証する。	1.5h
8	中学校英語教科書の活用（模擬授業）と振り返り	1,2,	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2h	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討す	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	（1）：タスクとクラスルームイングリッシュ	3,4			る。	
9	中学校英語教科書の活用（模擬授業）と振り返り（2）：タスクとクラスルームイングリッシュ	1,2,3,4	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2h	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1h
10	中学校英語教科書の活用（模擬授業）と振り返り（3）：タスクとクラスルームイングリッシュ	1,2,3,4	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2h	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1h
11	中学校英語教科書の活用（模擬授業）と振り返り（4）：タスクとフォーカス・オン・フォーム	1,2,3,4	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2h	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1h
12	中学校英語教科書の活用（模擬授業）と振り返り（5）：タスクとフォーカス・オン・フォーム	1,2,3,4	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2h	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1h
13	中学校英語教科書の活用（模擬授業）と振り返り（6）：タスクとフォーカス・オン・フォーム	1,2,3,4	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2h	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1h
14	中学校英語教科書の活用（模擬授業）と振り返り（7）：タスクとフォーカス・オン・フォーム	1,2,3,4	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2h	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1h
15	まとめ・中学校英語教科書の活用（模擬授業）と振り返り（8）：インプット、アウトプット、インタラクション	1,2,3,4	中学校英語教科書を使った模擬授業の準備をする。	2h	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

英語科教材研究Ⅱ

英文名：English Teaching Materials II
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW304
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
3 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
0 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

姉﨑　達夫

科目に関連した実務経験

姉﨑：英語教師として中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○				○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

中学校・高等学校の英語教科書を軸に、それぞれの内容と使い方について講義・ディスカッションを通じて理解を深め、教科書のもととなるシラバス、言語材料、言語活動、トピックなどについて研究する。また、教員としての授業実践力をつけるために、教科書をもとにした補助教材の作成を行い、実際に模擬授業を通して、作成した教材の改善点を検討する。

到達目標

1. 中学校英語教科書を様々な観点から分析し、教材の利点・欠点を述べることができる。■
2. 補助教材の作成においては、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を育成できるよう、フォーカス・オン・フォームやCLIL（内容言語統合型学習）の知見を踏まえた工夫ができる。
3. 中学校英語教科書と自作の補助教材を使って、実際に授業を行うことができる。■

使用教材

講義内で適宜資料を配布する。

参考文献

和泉伸一. (2009). 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』. 東京：大修館書店. 2,200円
ISBN：978-4-469-24547-9

評価方法

授業への参加度、発表（20%）、模擬授業（40%）、期末試験（40%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題のフィードバックは翌週に提示する。音声課題はコメントを付けて返却する。

オフィスアワー

火曜日3限、水曜日3限
研究室：9号館3階303研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・学習指導要領解説外国語編と学習指導案作成について■		シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。	1.5h	学習指導要領解説外国語編を読み、学習指導案を作成する際の留意点を理解する。	1.5h
2	学習指導要領解説外国語編の文構造の取り扱いについて■	1,2	中学校英語教科書数冊に目を通し、文構造の取り扱いの違いを理解する。	1.5h	中学校英語教科書数冊において、文構造がどのようなタスクの中で取り扱われているかを確認する。	1.5h
3	学習指導要領と中学校英語教科書をもとにした言語活動について■	1,2	中学校英語教科書数冊に目を通し、言語活動の種類を調べておく。	1.5h	中学校英語教科書数冊において、複数の技能を統合した活動がどれだけ含まれるかを確認する。	1.5h
4	学習指導要領と中学校英語教科書で扱われるトピックについて■	1,2	中学校英語教科書数冊に目を通し、トピックの種類を調べておく。	1.5h	中学校英語教科書数冊において、どのようなトピックが多く用いられているのかを確認する。	1.5h
5	中学校英語教科書を用いたICT活用の授業■	1,2	ICTを活用して授業を行うことを目的として、教材作成を行う。	1.5h	中学校英語教科書数冊において、ICTを活用した教材の種類を比較し、使い方を理解しておく。	1.5h
6	中学校英語教科書を用いたAI活用の授業■	1,2	AIを活用して授業を行うことを目的として、教材作成を行う。	2h	文部科学省の資料において、AIを活用した授業事例を比較し、考察する。	1h
7	中学校英語教科書に沿った技能別教材を用いた授業とその振り返り①■	2,3	中学校英語教科書を使い、技能別教材を作成する。	2h	自作の技能別教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1h
8	中学校英語教科書に沿った技能別教材を用いた授業とその振り返り②■	2,3	中学校英語教科書を使い、技能別教材を作成する。	2h	自作の技能別教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	中学校英語教科書に沿った技能別教材を用いた授業とその振り返り③■	2,3	中学校英語教科書を使い、技能別教材を作成する。	2h	自作の技能別教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1h
10	中学校英語教科書に沿った技能別教材を用いた授業とその振り返り④■	2,3	中学校英語教科書を使い、技能別教材を作成する。	2h	自作の技能別教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1h
11	中学校英語教科書に沿った技能統合型教材を用いた授業とその振り返り①■	2,3	中学校英語教科書を使い、技能統合型教材を作成する。	2h	自作の技能統合型教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1h
12	中学校英語教科書に沿った技能統合型教材を用いた授業とその振り返り②■	2,3	中学校英語教科書を使い、技能統合型教材を作成する。	2h	自作の技能統合型教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1h
13	中学校英語教科書に沿った技能統合型教材を用いた授業とその振り返り③■	2,3	中学校英語教科書を使い、技能統合型教材を作成する。	2h	自作の技能統合型教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1h
14	中学校英語教科書に沿った技能統合型教材を用いた授業とその振り返り④■	2,3	中学校英語教科書を使い、技能統合型教材を作成する。	2h	自作の技能統合型教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1h
15	まとめ・生徒の言語習得を促す教材とは何か■	1,2,3	教科書と補助教材を使って、中学生の英語の4技能5領域をどのように高めていくことができるのかを検討する。	1h	クラスメートの作った補助教材の長所・短所をまとめた上で、自作の補助教材の改善点を検討する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

幼児音楽演習 I

英文名：Music Practice for Nursery Teachers Ⅰ
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW501
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

坂田　恭子

科目に関連した実務経験

音楽教室主宰（ピアノ、リトミック、声楽、ソルフェージュ、音楽理論等指導）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育士，幼稚園教諭に必要な，音楽に関する知識と実践的な演奏技法を習得する。
具体的には，読譜に必要な音楽に関する知識をさらに深めるとともに，弾き歌いや伴奏法の習得をとおして，保育者・教師に必要な音楽的表現力を身につける。
授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については，テキストを使用して説明した後，小テストを実施する。また基礎技能の習得については，個別の指導を行った後，毎回発表を行う時間を設ける。
選択科目ではあるが，音楽の基礎知識に不安のある学生，音楽初学者は履修することが望ましい。

到達目標

1．音階，調号，和声，コード等，音楽に関する知識についての理解を深める。■
2．音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。■
3．伴奏しながら歌う弾き歌いの際の音楽的表現力を身につける。■

使用教材

井戸和秀編「こどものうた100」チャイルド社　石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー

参考文献

井戸和秀編「続こどものうた200」チャイルド社

評価方法

定期試験において，実技試験50%，毎回の授業課題40%,小テスト10%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回実技発表を行い，個々の課題について説明する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　音楽基礎知識に関する課題，実技発表■	1,2	シラバスをよく読み，講義目標，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを理解しておく。	1h	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。	1h
2	音楽の知識に関する理解①　　ハ長調■ 音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法① 「さんぽ」を教材として■	1.2	教科書の該当箇所を読み，音階、カデンツの練習をしておく。 「さんぽ」の楽譜を読み、弾いておく。	1h	ハ長調の理解を深め、授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
3	音楽の知識に関する理解② ハ長調■ 音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法② 「さんぽ」を教材として■	1.2	「さんぽ」を弾けるようにしておく。音楽的要素の留意点について考えておく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら、ハ長調の理解を深めておく。 授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
4	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法③ 「さんぽ」を教材として■	2	「さんぽ」を弾けるようにしておく。歌唱表現の留意点について考えておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
5	弾き歌いの伴奏技法① 「さんぽ」を教材として■	1.2.3	「さんぽ」を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
6	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法④ 「ドキドキドン１年生」を教材として■	2	「ドキドキドン１年生」の楽譜を読み、弾いておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
7	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑤	2	「ドキドキドン１年生」を弾けるようしておく。音楽的要素の留意点について考えておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	「ドキドキドン１年生」を教材として■					
8	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑥ 「ドキドキドン１年生」を教材として■	2	「ドキドキドン１年生」を弾けるようしておく。歌唱的表現の留意点について考えておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
9	弾き歌いの伴奏技法② 「ドキドキドン１年生」を教材として■	1.2.3	「ドキドキドン１年生」を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
10	音楽の知識に関する理解③ 二長調■ 音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑦ 「カレンダーマーチ」を教材として■	1.2	教科書の該当箇所を読み、音階、カデンツの練習をしておく。 「カレンダーマーチ」の楽譜を読み、弾いておく	1h	二長調の理解を深め、授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
11	音楽の知識に関する理解④ 二長調■ 音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑧ 「カレンダーマーチ」を教材として■	1.2	「カレンダーマーチ」を弾けるようにしておく。音楽的要素の留意点について考えておく。	1h	小テストの自己採点の結果を確認しながら、二長調の理解を深めておく。 授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
12	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑨ 「カレンダーマーチ」を教材として■	2	「カレンダーマーチ」を弾けるようにしておく。歌唱表現の留意点について考えておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
13	弾き歌いの伴奏技法③ 「カレンダーマーチ」を教材として■	1,2,3	「カレンダーマーチ」を歌いながら弾く練習をしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
14	弾き歌いにおける音楽的表現 「さんぽ」「ドキドキドン１年生」「カレンダーマーチ」を教材として■	1,2,3	課題を歌いながら弾く練習をしておく。音楽的表現について考えておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
15	音楽に関する知識をいかした，歌唱教材の弾き歌いにおける音楽的表現■	1,2,3	すべての課題曲について，音楽的表現を考えながら弾き歌いができるようにしておく。	1h	保育者・教師に必要な音楽的表現力とは何かについて理解を深めておく。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

選択科目ではあるが，音楽の基礎知識に不安のある学生，音楽初学者は履修することが望ましい。
予習・復習は欠かさず行うこと。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる ✕

幼児音楽演習Ⅱ

英文名：Music Practice for Nursery Teachers Ⅱ
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW502
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
1 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

坂田　恭子

科目に関連した実務経験

音楽教室主宰（ピアノ、リトミック、声楽、ソルフェージュ、音楽理論等指導）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

幼児音楽演習Ⅰに引き続き，保育士，幼稚園教諭に必要な，音楽に関する知識と実践的な演奏技法を習得する。
音楽に関する知識をさらに深め，弾き歌いにおける移調奏，コード奏，およびリズム遊びなどで用いる即興演奏の技法などを習得する。
授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については，テキストを使用して説明した後，小テストを実施する。
また基礎技能の習得については，個別の指導を行った後，毎回発表を行う時間を設ける。

到達目標

1．音階と調号に関する理解を深め，移調奏、コード奏についての知識を深める。■
2．こどもの歌の弾き歌いにおける移調奏，コード奏等の演奏技法を習得する。■
3．即興演奏の技法を習得する。■

使用教材

井戸和秀編「こどものうた100」チャイルド社　石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー

参考文献

井戸和秀編「続こどものうた200」チャイルド社

評価方法

定期試験において，実技試験50%，毎回の授業課題40%、小テスト10%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回実技発表を行い，個々の課題について説明する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　音楽基礎知識に関する課題，実技発表■	1,2	シラバスをよく読み，講義目標，到達目標，学位授与方針，成績評価方法などを理解しておく。	1h	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。	1h
2	音楽の知識に関する理解①　ヘ長調■ こどもの歌の伴奏技法①　「まっかな秋」を教材として■	1.2	教科書の該当箇所を読み，音階、カデンツの練習をしておく。 「まっか秋」を弾けるようにしておく。	1h	ヘ長調の理解を深め、授業内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
3	音楽の知識に関する理解②　ヘ長調■ こどもの歌の伴奏技法②　「まっかな秋」を教材として■	1.2	「まっかな秋」を弾けるようにしておく。音楽的要素、歌唱表現の留意点について考えておく。	1h	小テストの自己採点結果を確認しながら、ヘ長調の理解を深めておく。 授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
4	弾き歌いの伴奏技法①　「まっかな秋」を教材として■	1.2.	「まっかな秋」を歌いながら弾く練習をしておく。音楽的表現について考えておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
5	こどもの歌の伴奏技法③　「まつぼっくり」を教材として■	1.2	「まつぼっくり」を弾けるようにしておく。音楽的要素、歌唱表現の留意点について考えておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
6	弾き歌いの伴奏技法②　「まつぼっくり」を教材として■	1.2	「まつぼっくり」を歌いながら弾く練習をしておく。音楽的表現について考えておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
7	こどもの歌の伴奏技法④　移調奏「ゆき」「ゆきのこぼうず」を教材として■	1.2	「ゆき」「ゆきのこぼうず」を弾けるようにしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
8	こどもの歌の伴奏技法⑤　移調奏「ゆき」「ゆきのこぼうず」を教材として■	1.2	「ゆき」「ゆきのこぼうず」を移調して弾けるようにしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
9	こどもの歌の伴奏技法⑥　コード伴奏「どんぐりころころ」「やきいもグーチーパー」「あさのうた」「おかえりのうた」を教材として■	1.2	「どんぐりころころ」「やきいもグーチーパー」「あさのうた」「おかえりのうた」のメロディーを弾けるようにしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	子どもの歌の伴奏法⑦ コード奏「どんぐりころころ」「やきいもグーチーパー」「あさのうた」「おかえりのうた」を教材として■	1.2	「どんぐりころころ」「やきいもグーチーパー」「あさのうた」「おかえりのうた」をコード奏で弾けるようにしておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
11	即興演奏①　歩く■	1.2.3	歩いたりすることのできる音楽について調べておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
12	即興演奏②　歩く・走る■	1,2,3	歩いたり走ったりすることのできる音楽について調べておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
13	即興演奏③　スキップ■	1,2,3	スキップすることのできる音楽について調べておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
14	即興演奏④　様々な動き■	1,2,3	様々な動きのできる音楽について調べておく。	1h	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1h
15	音楽に関する知識をいかした，歌唱教材の弾き歌いにおける音楽的表現力■	1,2,3	すべての課題曲について，音楽的表現を考えながら弾き歌いができるようにしておく。	1h	保育者・教師に必要な音楽的表現力とは何かについて理解を深めておく。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

選択科目ではあるが，音楽の基礎知識に不安のある学生，音楽初学者は履修することが望ましい。
予習・復習は欠かさず行うこと。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

初等音楽演習

英文名：Music Practice for Elementary School Teachers
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：C031
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
4 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐藤　和貴

科目に関連した実務経験

音楽科教諭として高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○		○		○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

毎回の実技指導に対しその場でコメントを行い，より良い音楽表現方法について学生と対話を積み重ねていく。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本講義では，小学校等における音楽発表会を指導する場面を想定し，合唱や合奏を指導するために必要な，音楽の表現技能の習得を目指すことを目標とする。また，音楽発表会を企画立案し，発表会を開催するほか，実際の指導場面を想定した模擬授業を行うことを通して実践力を身に着ける。
　毎回の授業では，学生が準備してきた各回の課題に対し個別に指導を行う。また，習得した楽曲を発表する場を設定し，人前で演奏する経験を積み重ねていく。そのほか，演奏だけでなくコンサートを行うための準備（ステージの裏方の役割・広報）を体験する。将来，音楽の専門的な知識と経験を持った教員として，学校内でリーダーシップを取ることのできる力を身につける。

到達目標

1．合唱や合奏を指導するために必要な音楽の演奏技法を習得する。 ■
2．子どもや児童を対象とした表現発表の舞台制作を企画立案し，制作・発表を行う。 ■
3．小学校等における子どもの表現発表の指導方法の実際を学ぶ。 ■

使用教材

必要に応じて資料等を配布する。

参考文献

授業内で紹介する。

評価方法

表現発表の評価70%，模擬授業の評価30%を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の授業ごとに振り返りの時間を設け，次週までの課題を明確にして共有をはかる。

オフィスアワー

水曜・２時限または，木曜・３時限
(503研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション。授業の概要説明と合唱・合奏などのグループ分け。演目検討。 ■	1	シラバスをよく読み，講義目標，到達目標を理解する。	1h	講義内容，評価方法を確認する。	1h
2	合唱・合奏の演奏技法の習得① グループごとに練習し，課題を共有する。 ■	1	課題曲の練習をしておく。	1h	授業時間内でまとまらなかった意見について検討しておく。	1h
3	各グループの演奏を聴き合う。意見交換と内容についての再検討を行う。 ■	1	発表準備を行う。	1h	発表を通しての課題を共有しておく。	1h
4	合唱・合奏の演奏技法の習得② 共有した課題を解決するためにグループでの練習に取り組む。 ■	1	各自の課題に取り組んでおく。	1h	課題解決のための練習を進めておく。	1h
5	発表会に向けた練習①　音楽発表会の構成について企画立案する。 ■	2	各自で発表会の構成について考えておく。	1h	修正点をグループ内で共有し練習する。	1h
6	発表会に向けた練習② 各グループの演奏を中間発表し，意見交換する。 ■	2	発表に向けてグループ内で課題について検討しておく。	1h	課題を明確化し，翌週の準備を行う。	1h
7	発表会に向けた練習③ 中間発表を踏まえて，修正する。 ■	2	修正点をグループ内で共有し，発表準備を行う。	1h	課題を明確化し，翌週の準備を行う。	1h
8	通しリハーサル①　照明，衣装，舞台装置等確認 ■	2	修正点をグループ内で共有し，発表準備を行う。	1h	課題を明確化し，翌週の準備を行う。	1h
9	通しリハーサル②　最終リハーサル ■	2	修正点をグループ内で共有し，発表準備を行う。	1h	課題を明確化し，翌週の準備を行う。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	舞台発表 ■	2	準備不足のないようグループ内で意見交換を行っておく。	1h	発表の反省と評価を行う。	1h
11	発表後の振り返り，反省と評価。 ■	1,2	課題を明確にしておく。	1h	他者の意見を受けて，グループあるいは個々の課題を明確化する。	1h
12	子どもの発表会における表現活動の指導方法について。模擬授業の内容検討。 ■	3	模擬授業で行う内容について検討しておく。	1h	授業内でまとまらなかった課題についてさらに検討しておく。	1h
13	音楽表現活動の指導について。指導案の作成。 ■	3	指導案作成に向けての教材研究を事前に行っておく。	1h	授業内でまとまらなかった指導案の作成を終わらせておく。	1h
14	模擬授業　グループごとに発表し相互に評価し合う。 ■	3	模擬授業に向けて必要な準備を各自で進める。	1h	反省点の振り返りを行う。	1h
15	指導案再検討　模擬授業後の反省と評価。指導案の再検討を行う。 ■	3	指導案再検討に向けて課題を明確にしておく。	1h	個々の課題を明確にし，実践にいかす。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

実技課題は，毎回予習・復習をして授業に臨むこと。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

在宅保育論

英文名：Home Childcare Theory
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW504
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

富田　純喜

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：認定ベビーシッター資格

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①家庭訪問保育とは、保育所などの施設ではなく、乳幼児等の生活の基盤である個々の家庭で行う保育のことである。同じ保育の名が付いているものの、それらは施設での保育とは異なる知識や技能が必要となる。さらに、家庭訪問保育は一般型家庭訪問保育（ベビーシッター）と居宅訪問型保育に分けられる。本講義では、近年の子育て支援事業の展開を踏まえ、家庭訪問保育者として不可欠な知識や技能を体系的に学んでいく。
②授業は主に講義形式で進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。

到達目標

1．一般型家庭訪問保育・居宅訪問型保育の歴史や制度、役割、現状について説明できる。
2．施設における保育との違いについて説明できる。
3．一般型家庭訪問保育・居宅訪問型保育で必要とされる知識・技能を習得し、実践できる。

使用教材

全国保育サービス協会（2022）『家庭訪問保育の理論と実際　第3版』中央法規出版.

参考文献

厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説（平成30年3月）』フレーベル館.

評価方法

試験（70%）、授業内課題・参画度（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。

オフィスアワー

水曜5限、木曜5限（8号館406）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	家庭訪問保育の体系と保育マインド（序章1・2）	1,2	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	わが国の保育政策と家庭訪問保育の体系、保育マインドについて理解する。	1.5h
2	居宅訪問型保育の概要（第1章）	1,2	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	居宅訪問型保育の歴史や実態、有効性と課題について理解する。	1.5h
3	乳幼児の生活と遊び・発達と心理（第2・3章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	乳幼児期の子どもの発達、生活、遊びについて理解する。	1.5h
4	乳幼児の食事と栄養（第4章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	授乳・離乳、栄養、アレルギーおよび乳幼児期の食育について理解する。	1.5h
5	小児保健（第5・6章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	子どもに多い病気や事故とその対応について理解する。	1.5h
6	居宅訪問型保育の保育内容（第7章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	居宅訪問型保育の特徴を踏まえ、ニーズや配慮事項について理解する。	1.5h
7	居宅訪問型保育における環境整備（第8章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保育における環境とその整備、安全の確保について理解する。	1.5h
8	居宅訪問型保育の運営（第9章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	居宅訪問型保育の業務の流れ、マナーについて理解する。	1.5h
9	安全の確保とリスクマネジメント（第10章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	事故の予防や対応、リスクマネジメント、賠償責任について理解する。	1.5h
10	居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項（第11章）	1,2	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	職業倫理や自己管理、評価、地域や行政との関係について理解する。	1.5h
11	居宅訪問型保育における保護者への対応（第12章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	保護者支援の必要性と保護者への対応について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	子ども虐待（第13章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	子ども虐待の定義や実態、対応について理解する。	1.5h
13	特別に配慮を要する子どもへの対応（第14章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	特別に配慮を要する子どもの行動特徴と対応について理解する。	1.5h
14	保育技術（第15・16章）	2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	居宅訪問型保育に必要な保育技術を習得する。	1.5h
15	一般型家庭訪問保育の業務の流れ（第17・18章）	1,2,3	テキストを読み、わからない言葉を調べるなどして概要を理解する。	1.5h	一般型家庭訪問保育の事業形態や業務について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

小学校理科実験

英文名：Teaching Methods in Science
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW505
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：実験
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

片山　豪

科目に関連した実務経験

教諭（理科）として高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：なし

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○	○	○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小学校理科の授業における観察・実験及びその指導法を，模擬授業等を通して学ぶ。そして，模擬授業の評価をフィードバックすることで，児童の資質・能力を育む観察・実験を用いた授業の計画，準備ができるようになる。また，博物館や科学学習センターなどと連携，協力を測りながら，それらを積極的に活用する態度を養う。
実験（野外実習や博物館見学を含む）や学生による模擬授業を行う。
野外観察に出たり，博物館や科学学習センターなどに出向いたりすることがある。
現職教員による指導をお願いすることもある。

到達目標

1.小学校理科の授業における観察・実験及びその指導法を習得することができる。■
2.学生自ら観察・実験における既存の教材教具の問題点を改善し，新たな教材教具の開発ができる能力を身につけることが

できる。■

使用教材

小学校学習指導要領解説理科編，小学校理科教科書，自作プリント等

参考文献

授業において紹介。

評価方法

毎回提出するレポート80%，授業への参加度，態度，積極性等20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにおける修正すべき点を示し，再レポートを促す。
実験技術に関して修正すべき点を指摘し，改善のアドバイスを受けることができる。

オフィスアワー

水曜3限、金曜2限
（9号館4階411研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	観察・実験の方法，教材教具の開発方法	1,2	学習指導要領解説理科編の総説，小学校理科の目標を読んでおく。	0.5 h	講義の方針を確認するとともに，学習指導案の内容を理解する。	2.5 h
2	身近な生物の観察Ⅰ（野外実習）	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
3	身近な生物の観察Ⅱ（野外実習）	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
4	実験の指導（1）　第３学年　A 物質・エネルギーの内容■	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
5	実験の指導（2）　第３学年　B 生命・地球■	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
6	実験の指導（3）　第４学年　A 物質・エネルギーの内容■	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
7	実験の指導（4）　第４学年　B 生命・地球■	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
8	実験の指導（5）　第５学年　A 物質・エネルギーの内容■	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
9	実験の指導（6）　第５学年　B 生命・地球■	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	実験の指導（7）　第６学年　A 物質・エネルギーの内容■	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
11	実験の指導（8）　第６学年　B 生命・地球■	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
12	博物館や科学学習センターなどの利用（1）　講義	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
13	博物館や科学学習センターなどの利用（2）　実践	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
14	博物館や科学学習センターなどの利用（3）　まとめ	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h
15	教材教具案の発表会（学生の開発した教材教具案）	1,2	学習指導要領解説理科編，小学校の教科書を読んでおく。	0.5 h	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。フィールドに出ることもあるので，授業時間は柔軟に対応する。

印刷　閉じる

算数の探究

英文名：Exploration in Elementary Mathematics
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：C034
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
4 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

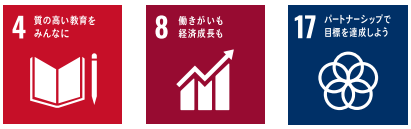
担当教員

大橋　博

科目に関連した実務経験

小学校教諭として新潟県内の公立小学校に26年間勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①小学校算数授業について「教材」「授業者（教師）」「学習者（児童）」の3要素について、教材論および認識論の観点から探究します。各要素の本質的理解と相互関係について、理論研究と実践研究の両面から考察を深めます。
②本科目では「教材」「授業者（教師）」「学習者（児童）」の3要素に関して提示された論文等の資料を履修者で読み込み、互いに解釈しあいながら3要素の算数授業における本質が何なのかを理解することを試みる。

到達目標

1. 算数教育における教材・教具の本質を理論的に理解し、教材分析・開発ができるようになる
2. 児童の数学的思考の発達過程を認識論的観点から理解し、適切な指導方法を構想できるようになる■
3. 教師の役割を理論的に理解し、効果的な授業デザインができるようになる■
4. 数学教育学に関する研究論文を読解し、実践に活かすことができるようになる

使用教材

適宜資料を配布する。

参考文献

中原忠男『算数・数学教育における構成的アプローチの研究』聖文社ほか、都度適宜紹介していく。

評価方法

授業での取り組み（授業貢献度、提出物の充実度50%）、期末最終レポート50%により総合的に評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業内での課題等へ回答については即時的に授業内でフィードバックを行う。提出されたレポート等についてはコメントを付して返却する。

オフィスアワー

月曜、火曜1限。授業時間外の質問はメールにて受付。（9号館3階302）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（授業の進め方や基本的な流れ、評価等）	4	シラバスを読み、授業の目的を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに第1回講義で学んだ数学教育学の考え方や言葉を自分なりに再構成しまとめる。	2h
2	教材論①（算数教材の本質：教材の数学的背景から考える）	1,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに第2回講義で学んだ教材論の考え方を自分なりに再構成しまとめる。	2h
3	教材論②（問題解決と教材：帰納的・類推的推論に基づいて考える）	1,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに第３回講義で学んだ教材論の考え方を自分なりに再構成しまとめる。	2h
4	教材研究①（教材論をもとに教材を見る）■	1,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料などをもとに、第4回講義で行った算数教材研究の続きを行う。	2h
5	教材研究②（教材論をもとに授業で使う教材にする）■	1,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料などをもとに、第5回講義で行った算数教材研究の続きを行い、自分が理想的とする教材にする。	2h
6	認識論①（数学的概念の形成から）	2,3,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに第６回講義で学んだ認識論の考え方を自分なりに再構成しまとめる。	2h
7	認識論②（数学的思考の発達から）	2,3,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに第7回講義で学んだ認識論の考え方を自分なりに再構成しまとめる。	2h
8	認識論③（数学化の課程の考え方から）	2,3,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに第8回講義で学んだ認識論の考え方を自分なりに再構成しまとめる。	2h
9	授業者論①（教師の役割は）■	2,3,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数	1h	参考文献及び講義中に配付された資料などをもとに、自分なりの算	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			学教育学で使われている単語等を理解しておく。		数授業者についての考え方をまとめる。	
10	授業者論②（授業改善の方向性を考える）■	2,3,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料などをもとに、自分なりに理想的な算数授業者像をまとめ、作り上げておく。	2h
11	学習者論①（数学的価値感と学習意欲について）■	2,3,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料などをもとに、算数授業における学習者の理想的な姿について考える。	2h
12	学習者論②（数学的コミュニケーションと個別化）■	2,3,4	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，数学教育学で使われている単語等を理解しておく。	1h	参考文献及び講義中に配付された資料などをもとに、算数授業における自分なりに理想的な学習者像をまとめ、作り上げておく。	2h
13	授業デザイン①（教材研究で考えた教材をもとに理想的な授業をデザインする）■	1,2,3,4	これまでの講義から導かれた教材、授業者像、学習者像を整理しておく	1h	これまでの講義から導いた理想とする教材、授業者像、学習者像を小学校の算数授業に当てはめて理想の授業を構想する。	2h
14	授業デザイン②（教材研究で考えた教材をもとに理想的な授業をデザインする）■	1,2,3,4	これまでの講義から導かれた教材、授業者像、学習者像を整理しておく	1h	これまでの講義から導いた理想とする教材、授業者像、学習者像を小学校の算数授業に当てはめて理想の授業を構想する。	2h
15	発表・まとめ（理想の算数授業デザインについて）	1,2,3,4	構想した授業が伝わるようにプレゼンの練習をしておく	1h	提出された意見等から理想とする授業を更に整備する	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・講義は教員と学生が双方向な意見のやり取りを行う。履修生にはプレゼンテーションを課すことがある。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

板書演習

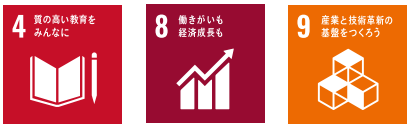
英文名：Practice for Blackboard Writing
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：C035
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

菅野　陽太郎

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①黒板をはじめとした板書のための書字能力を向上させるとともに、教科や学習内容及び学習活動の特性に応じた板書の活用についての理解を深め、実践する。
②前半は、板書に関する文献を輪読しながら、板書に求められる書写技能や学習内容等に応じた技術、学習者に応じて求められる諸要素などを確認する。後半は、練習してそれらの習得を図りながら、板書計画及び板書に焦点化した模擬授業をおこない、板書に関する見識と技能の向上を目指す。

到達目標

1．板書に求められる基礎的な書写技能を習得する。
2．教科や学習内容及び学習活動の特性や学習者に応じた板書の在り方について理解を深めることができる。
3．さまざまな板書技術や学習者への配慮等を踏まえた板書計画及び授業計画を立案し、実践することができる。

使用教材

必要に応じて資料を配布する

参考文献

『国語科書写の理論と実践』，全国大学書写書道教育学会，萱原書房，2020，1000円
『板書　子どもの思考を形成するツール』，藤井知弘・黒澤みほ子，日本国語教育学会監修，東洋館出版，2015，1800円
『「立体型板書」の国語授業10のバリエーション』，沼田拓弥，東洋館出版，2020，1900円
『楽しみながら力を付ける！国語授業のICT簡単面白活用術50』，細川太輔・鈴木秀樹，明治図書，2019，1800円

評価方法

模擬授業（50%），レポート（50%）

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにコメントを付して返却する。

オフィスアワー

水曜2限・木曜2限（8号館506研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス	2	シラバスを確認し、授業内容について理解する。	0.5h	教育実習で作成した指導案や授業実習の記録をもとに板書について省察する。	0.5h
2	国語科における板書の機能と構造	2	配布された資料を読む	0.5h	模擬授業をおこなう教材を選択する	0.5h
3	黒板における書字の基礎的事項	1	配布された資料を読み、自身の考察をまとめる。	1h	授業の内容と記録を振り返り、課題をまとめる。	1h
4	板書練習①（平仮名・片仮名）	1	配布された資料を読み、課題を確認する。	1h	授業の内容と記録を振り返り、課題をまとめる。	1h
5	板書練習②（楷書）	1	配布された資料を読み、課題を確認する。	1h	授業の内容と記録を振り返り、課題をまとめる。	1h
6	板書練習③（その他）	1	配布された資料を読み、課題を確認する。	1h	授業の内容と記録を振り返り、課題をまとめる。	1h
7	板書に求められる諸要素①（機能の類型）	1,2	配布された資料を読み、課題を確認する。	1h	授業の内容と記録を振り返り、課題をまとめる。	1h
8	板書に求められる諸要素②（機能に応じた補助具の検討）	1,2	配布された資料を読み、自身の考察をまとめる。	1h	授業の内容と記録を振り返り、課題をまとめる。	1h
9	板書技術①（立ち位置や文字の大きさ、適切な文字数など）	1,2	配布された資料を読み、自身の考察をまとめる。	1h	授業内容を踏まえて指導案及び板書計画を作成する。	1h
10	板書技術②（構造化など）	1,2	配布された資料を読み、自身の考察をまとめる。	1h	授業内容を踏まえて指導案及び板書計画を作成する。	1h
11	ICT機器の活用①（機能に応じた活用例）	1,2	配布された資料を読み、自身の考察をまとめる。	1h	授業内容を踏まえて指導案及び板書計画を作成する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	ICT機器の活用②（学習活動の特徴に応じた活用例）	1,2	配布された資料を読み、自身の考察をまとめる。	1h	授業内容を踏まえて指導案及び板書計画を作成する。	1h
13	模擬授業①	1,2,3	模擬授業の準備をおこなう。	1h	自身の板書の省察あるいは他者の板書に対する感想をまとめる。	1h
14	模擬授業②	1,2,3	模擬授業の準備をおこなう。	1h	自身の板書の省察あるいは他者の板書に対する感想をまとめる。	1h
15	模擬授業の振り返りとまとめ	1,2,3	これまでの学習内容を振り返る。	1h	指導案及び板書計画をもとにレポートをまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

29h

印刷 閉じる

英語教育実践演習

英文名：Practical Skills in Teaching English
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：C036
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也

科目に関連した実務経験

英語教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○				○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この授業は、小学校の教師や中学校の英語教師をめざす学生が、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の高度な専門性と実践力を身につけるための科目である。英語の学習指導要領及び教科書について理解し、必要な英語教授法と英語科指導に関する高度な知識と技術を身につける。さらに、学習到達目標を踏まえ、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画の作成と、その実践と評価の方法を学び、授業指導に活かせるようになる。外国語（英語）の指導法と、英語科指導法Ⅰ・Ⅱの応用編となる授業である（英語科指導法Ⅰ・Ⅱの単位習得は、受講の必須ではない）。
②授業は主に講義、そして学生による模擬授業とその後の全体での授業検討等で進められる。模擬授業は、それぞれの学生が各自で選んだ1つのレッスン・ユニット全体を担当し、概観した上で複数回行う。

到達目標

1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の高度な専門性と実践力を備えることができる。
2.英語教授法の知識と技術、5領域の指導を行うための高度な知識と技術を身につけることができる。■
3.英語科教育法の理論に基づいて、レッスン・ユニットの内容全体を見通した上で、5領域を意識した授業計画を立て、生徒に5領域の能力を確実に身につけるよう指導することができる。■

4.学習到達目標を踏まえ、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画の作成と、その実践と評価の方法を学び、さらに外国語指導助手の活用などに配慮した授業等を実践することができる。■

使用教材

『英語授業の「型」づくり-おさえておきたい指導の基本』、小菅和也他、大修館書店、2021、2,200円＋税
必要な講義内容はプリントして配布する。

参考文献

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』（文部科学省）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編』（文部科学省）
その他参考となる文献についてはその都度紹介する。

評価方法

授業参加(10%)、模擬授業とその指導案(60%)、授業中の議論の内容等(20%)、テストの作成(10%)等から総合的に評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

模擬授業終了後の全員での授業検討については、その都度コメントやアドバイスをする。

オフィスアワー

火曜日2限、木曜日2限
（9号館306研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、小・中・高等学校の英語教育と学習指導要領	1,2,3,4	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	0.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法の確認と、日本の小・中・高等学校の英語教育の実態を確認する。	0.5h
2	学習指導案の作成■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
3	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
4	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
5	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
6	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
7	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
8	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
10	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
11	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
12	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
13	模擬授業（45分または50分）と振り返り■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	授業に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h
14	模擬授業を行った範囲に関するテストの作成■	1,2,3,4	学習指導案を作成し、実践できるよう準備する。	0.5h	評価に関する基本的な概念を理解する。	0.5h
15	テストの実施、振り返り■	1,2,3,4	テストを完成する。	0.5h	テスト作成や実施に関する議論の反省事項を活かし、今後に反映することができる。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

実習を意識した模擬授業を行うので、綿密な指導案の作成と指導案に基づいた授業を行うこと。なお、学生の主体性を育てるために、各自の模擬授業の事前指導は行わない（質問は受け付ける）。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

モチベーション論

英文名：Motivational Theory
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：C037
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

ステイシー・クローズ

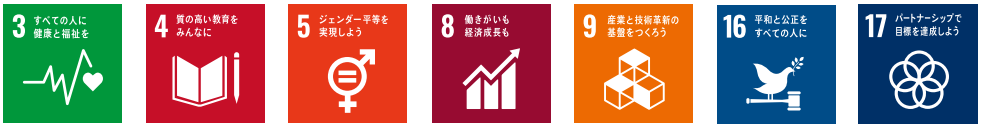
科目に関連した実務経験

ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

相互評価（ピアレビュー）

使用教材

Provided by instructor

評価方法

平常点40%（単語試験、提出物など）、発表30%, 定期試験30%を総合的に評価する。
Quizzes or homework due every week based on previous lesson.

課題・評価に対するフィードバック方法

課題はコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

金曜日の2限、水曜日の3限 (9号館307研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	コースの概要 教育における動機付けとは何か 教育における動機付けの重要性 Overview of the course What is educational motivation? Importance of motivation in education	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
2	動機付け理論の紹介: 内発的動機と外発的動機 主要な動機付け理論の概要: 行動主義理論 人間主義理論（マズロー、自己実現）Introduction to motivation theories: intrinsic vs. extrinsic motivation Overview of key motivation theories: Behaviorist theories Humanistic theories (Maslow, self-actualization)■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
3	SDTの主要な概念（自律性、能力、関連性） 教育における応用Key concepts of SDT (autonomy, competence, relatedness) Application in education ■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
4	学生の動機付けにおける目標設定の役割 SMART目標（具体的、測定可能、達成可能、関連性、期限付き）The role of goal-setting in motivating students SMART goals (Specific, Measurable, Achievable, Relevant, Time-bound)■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
5	期待と価値が動機付けに与える影響の理解 教育現場における期待価値理論の応用Understanding how expectations and values affect motivation Applications of expectancy-value theory in educational settings■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
6	動機付けにおける帰属の概念（内的帰属と外的帰属） 帰属が学生の学習行動と持続力に与える影響The concept of attribution in motivation (internal vs. external attributions) How attributions affect students' learning behaviors and persistence■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
7	バンデューラの自己効力感理論の理解 学業の動機付けにおける自己効力感の役割Understanding Bandura's theory of self-efficacy The role of self-efficacy in academic motivation■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
8	Midterm Exam / Project 中間試験/プロジェクト	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	文化的規範が動機付けに与える影響（集団ダイナミクス、階層、競争） 日本の教育システムと学生の動機付けへの影響The impact of cultural norms on motivation (group dynamics, hierarchy, competition) Japanese educational system and its influence on student motivation■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
10	異なる学習スタイル（視覚的、聴覚的、運動感覚的）の理解 学習スタイルが動機付けに与える影響Understanding different learning styles (visual, auditory, kinesthetic) How learning styles affect motivation ■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
11	How teachers can foster motivation in the classroom Strategies for creating an inspiring learning environment教師が教室で動機付けを促進する方法 インスピレーションを与える学習環境を作るための戦略 ■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
12	物理的および社会的教室環境と動機付けへの影響 動機付けとサポートを促進する教室文化の構築The physical and social classroom environment and its impact on motivation Building a motivating and supportive classroom culture■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
13	デジタルツールとテクノロジーが学生の動機付けを高める役割 ゲーミフィケーションとオンライン学習環境の探求 The role of digital tools and technology in enhancing student motivation Exploring gamification and online learning environments■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
14	協力が動機付けと学習成果をどのように高めるか グループダイナミクスと動機付けへの影響 How collaboration can enhance motivation and learning outcomes Group dynamics and its effect on motivation■	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h
15	コースを通じて学んだ重要な概念の総まとめ 学生の将来のキャリアにおける動機付け理論の適用についての最終議論 Summary of key concepts learned throughout the course Final discussion on the application of motivation theories in students’ future careers	1,2,3	Preparation for the activity	1.5 h	Review the new words and phrases	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■:実務経験に基づく内容を示す。オンライン授業の場合は、オンデマンド型で実施する。資料の配布や課題の提出にはGoogle Classroomを用いる。授業の課題や教材はGoogle Classroomを使用します。

印刷 閉じる ✕

心理データ分析

英文名：Psychological Data Analysis
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：C038
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
5 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木　典彰

SDGsとの関連

アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
心理データとはどのようなものかを知り、そのデータの分析法を具体的に学ぶ。
②講義の実施方法
知能検査を実際に体験し、各自のノートPC等を用いたデータ分析を行う。

到達目標

1.心理データ（知能検査）について理解する。
2.データ分析（統計学）の基礎を修得する。

使用教材

テキストは使用しない。適宜、資料等を配布する。

参考文献

熊上崇 他著　子どもの心理検査・知能検査 保護者と先生のための100%活用ブック　合同出版
その他、適宜紹介する。

評価方法

レポート課題（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート課題の評価結果をフィードバックする。その方法は別途伝える。

オフィスアワー

初回授業時に伝える。
（8号館409研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	心理データとは	1	「心理データ」を図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
2	知能検査の体験①	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
3	知能検査の体験②	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
4	知能検査の体験③	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
5	知能検査の体験④	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
6	知能検査の体験⑤	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
7	心理データ分析①（度数分布、代表値など）	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
8	心理データ分析②（分散、標準偏差など）	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
9	心理データ分析③（相関係数）	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
10	心理データ分析④（カイ二乗検定）	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
11	心理データ分析⑤（t検定）	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
12	心理データ分析⑥（分散分析）	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
13	心理データ分析⑦	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
14	心理データ分析⑧	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	0.375h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	0.375h
15	振り返り	1,2	講義全体を振り返る。	0.375h	講義全体のポイントを確認する。	0.375h

合計時間（予習・復習）

11.25h

印刷 閉じる

子どもの英語コミュニケーション指導

英文名：Teaching English Communication to Children
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW511
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木　文也　ステイシー・クローズ　村田　美和

科目に関連した実務経験

鈴木：英語教師として中学校・高等学校に勤務（経験）
クローズ：英語教師として小学校に勤務（経験）
村田：地域の子どもたちに対する英語コミュニケーション指導（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○						

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

この授業は、英語教育に携わろうとする学生が、子どもの英語コミュニケーション指導を行うにあたり、必要な英語運用能力と英語指導に関する知識と技能を学ぶための科目である。多様な子どもに対応できるように、ICTを駆使した教材提示やインターラクションの方法を身につける。
　授業は、個別の学修、協働学修、実践的指導の練習を設定して進める。

到達目標

1.英語コミュニケーション指導を理解し、子どもに対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。
2.英語コミュニケーション指導に必要な英語運用能力（クラスルームイングリッシュなど）と指導技術（英語の歌や言語活動など）の知識と技能を身につけることができる。■
3.多様な学習者（障がいのある子どもを含む）に対応した教材の提示やインターラクションが可能な、ICT機器を活用した

指導ができる。　■
4.自ら進んで多様な子どもの英語コミュニケーション指導に携わる意欲を高めることができる。

使用教材

各講義において資料等を配布する。

参考文献

参考となる文献については、随時紹介する。

評価方法

レポート（感想シート）40%、授業内の発表や貢献度60%で評価する。
総合60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートにはコメントをつけて返却する。
授業中の貢献度についてはその都度評価する。

オフィスアワー

鈴木：火曜日2限　（9号館306）
クローズ:月曜日2限　（9号館307）
村田：月曜日2限　（8号館502）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・英語を理解するための子どもの認知処理過程について（村田）	1,3,4	参考資料に目を通し、子どもの思考についてイメージする。	1.5h	子どもが英語を理解する認知処理過程について振り返る。	1.5h
2	多様な学習者を想定した英語活動（村田）■	1,3,4	特別支援教育の対象者とその特性についてまとめる。	1.5h	多様な学習者を想定した英語活動について振り返る。	1.5h
3	子どものための英語音韻指導（村田）	1,3,4	英語の音韻について、調べる。	1.5h	初期学習者に対する音韻指導の重要性について振り返る。	1.5h
4	ICTを活用した英語指導（村田）■	1,3,4	自分の持っているICTの中でできる英語指導教材について調べる。	1.5h	ICTを活用した英語指導について、自分の持っているデバイスで試してみる。	1.5h
5	世界と繋がるテレビ電話を活用した英語指導（村田）■	1,3,4	世界と繋がることの重要性について考える。	1.5h	教育業界で使われている世界と繋がる技術についてまとめる。	1.5h
6	子どもの英語コミュニケーション指導の理論と実践（聞くこと：英語の語句と音声）（鈴木）■	1,2,3,4	基本的な英語の語句の発音について確認する。	1.5h	音声学的な観点から英語の音声の聞き取りと発音の仕方が理解できる。	1.5h
7	子どもの英語コミュニケーション指導の理論と実践（話すこと[やり取り]：挨拶等）（鈴木）■	1,2,3,4	英語での挨拶などを発音に留意して指導する方法を考える。	1.5h	場面に応じた挨拶などのやり取りの指導ができる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	子どもの英語コミュニケーション指導の理論と実践（母語と目標言語の使用）（鈴木）	1,2,3,4	英語を指導する際に、目標言語だけでなく母語をどう活かせるかを考える。	1.5h	英語を指導する際に、目標言語だけでなく母語をどう活かせるか理解できる。	1.5h
9	子どもの英語コミュニケーション指導の理論と実践（言語習得の臨界期）（鈴木）	1,2,3,4	言語習得の臨界期について考える。	1.5h	言語習得の臨界期について理解できる。	1.5h
10	第6回～第9回の授業のまとめ・発展（鈴木）	1,2,3,4	第6回～第9回で学修したことを発展させるために掘り下げてくる。	1.5h	第6回～第9回で学修したことを自らの指導に具体的に活かすことができる。	1.5h
11	子どもの英語コミュニケーション指導のためのジェスチャーについて（クローズ）	1,2,3,4	歌を選んでジェスチャーを準備する。	1.5h	歌とジェスチャーを指導するために語句を復習する。	1.5h
12	子どもの英語コミュニケーション指導のための発音について（クローズ）	1,2,3,4	歌を選んで発音練習をする。	1.5h	歌にある語句の発音を復習する。	1.5h
13	歌やジェスチャーを用いた指導案の作成について（クローズ）	1,2,3,4	歌を選び指導案を作成し，ジェスチャーを準備する。	1.5h	歌を用いて指導案の構成について確認する。	1.5h
14	歌に合わせたオリジナルのジェスチャーの創作と使用について（クローズ）	1,2,3,4	教科書に出てくる英語の語句を歌詞にするための歌を選ぶ。	1.5h	教科書に出てくる英語の語句を確認する。	1.5h
15	模擬授業における指導力や評価方法について（クローズ）	1,2,3,4	模擬授業の準備をし、授業を評価するための規準を確認する。	1.5h	評価やフィードバックのための規準を確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

質問はメールでも受け付ける。ICTを活用しながら多様な子どもの認知過程を考慮した授業指導を行う工夫ができるようになること。歌やアクティビティを学修した後、子どもへの指導方法をグループで考える。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

学校危機管理論

英文名：Risk Management in Schools
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW512
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

平林　茂

科目に関連した実務経験

公立小・中学校の教諭、校長（経験）。県教委の指導主事・管理職(経験）。児童生徒の安全教育・安全管理、学校経営における危機管理業務、教育行政における危機管理に関する指導業務（経験）。
・元養護教諭（看護学科教員）をゲストスピーカーとして招く（第14回）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学校・園は子ども達が安全に安心して学べる場所でなければならない。教師には子ども自らが安全に行動できる資質・能力の育成とともに、危機等から子どもの命や安全を守る的確な判断や行動が求められる。学校安全、危機管理の理論を習得すると共に、実際の安全にかかわる諸問題に対して教師はどう対応すればいいのか、事前・発生時・事後の事例をもとに考え、危機対応の実践力をつける。
授業の進め方：各テーマの説明を聞くだけではなく、安全指導や危機対応の実際についての演習やグループワーク、ロールプレイを行いながら理解を深め、教師としての実践力をつけていきます。

到達目標

1.学校安全や危機管理の理論について理解できる。
2.安全教育の指導方法を習得し、実践に向けた取り組みを具体的に考えられる。 ■
3.事例を通して危機管理の実践力をつけることができる。 ■

使用教材

資料を配布する。

参考文献

授業内に紹介する。

評価方法

テストに50%、日常点（授業への参加、課題への取組、討論、授業貢献度等）に50%を配分して総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中の演習やグループワーク、貢献度については、その都度評価する。
試験の前後に出題の意図を説明したり、テスト返却時に解説したりする。

オフィスアワー

月曜1限、水曜2限
教職支援センター

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学校管理下における危機の現状■	1	学校管理下における事故の発生状況について関係する図書で調べる。	1.5 h	学校管理下の危機の状況の資料をまとめ、理解する。	1.5 h
2	学校安全の体系と位置づけ	1	学校安全について関係する図書などで調べる。	1.5 h	講義や配布資料をまとめ、学校安全について理解する。	1.5 h
3	安全教育の基本事項について	1,2	安全教育について関連する図書などで調べる。	1.5 h	学校における安全教育の理論と方法を理解する。	1.5 h
4	安全管理と安全教育の実際	1,2,3	学校・園における安全管理について関係の図書などで調べる。	1.5 h	資料を読んで学校管理と安全教育の実際についてまとめる。	1.5 h
5	幼稚園・保育園における安全学習と安全指導の展開■	2,3	幼稚園・保育園における必要となる危機管理について調べる。	1.5 h	幼稚園・保育園における安全指導についての展開例を復習する。	1.5 h
6	特別支援学校における安全学習と安全指導の展開■	2,3	特別支援学校における必要となる危機管理について調べる。	1.5 h	特別支援学校における安全指導についての展開例を復習する。	1.5 h
7	小・中学校における安全学習と安全指導の展開■	2,3	小・中学校における必要となる危機管理について調べる。	1.5 h	小・中学校における安全指導の展開例を復習する。	1.5 h
8	東日本大震災の概要	2,3	東日本大震災の際の学校の状況について調べる。	1.5 h	災害時の対応についてシュミレーションを重ね、危機管理について復習する。	1.5 h
9	学校・園における危機管理体制■	1,2	講義内容に関連する項目を、関連する図書などで調べる。	1.5 h	資料を読んで学校・園における危機管理体制についてまとめる。	1.5 h
10	緊急時における対応の基本的考え方	1,2	学校・園、教師の緊急時における対応について調べる。	1.5 h	緊急時や事後の対応についてまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	緊急時の対応の実際Ⅰ演習（事件・事故）■	3	学校・園、児童生徒をめぐる事件・事故について調べる。	1.5h	演習をもとに、事件・事故への対応について理解する。	1.5h
12	緊急時の対応の実際Ⅱ演習（災害）■	3	災害事故について調べる。	1.5h	演習をもとに、災害への対応について理解する。	1.5h
13	緊急時の対応の実際Ⅲ演習（いじめの問題発生）■	3	いじめ防止対策推進法について調べる。	1.5h	演習をもとに、いじめ問題への対応について理解する。	1.5h
14	応急手当の理論と実際■	1,2,3,	教師が行う応急処置について調べる。	1.5h	学校における応急手当の対応について、シミュレーションを重ねる。	1.5h
15	まとめ、学校危機管理と教師の取組	1,2,3	授業資料を整理し、教師の役割を理解する。	1.5h	授業を振り返り、学校危機管理の実践力を蓄える。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

家族療法

英文名：Family Therapy
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW513
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

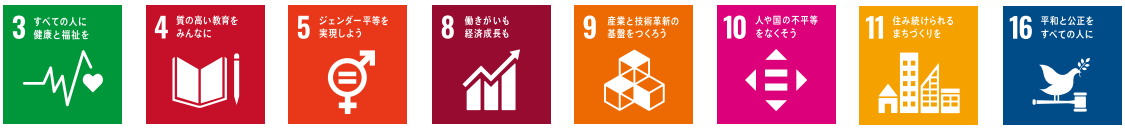
担当教員

千葉　千恵美

科目に関連した実務経験

公立保育所に保育士として勤務(経験)　学内子ども・家族支援センターで保育士　心理相談員勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

家族を家族メンバーの集合体として捉え、家族が抱える問題解決する。家族背景やジェノグラムを方法に用い知識、技術を学び、家族メンバー間の問題解決が出来る支援方法を目指す。
授業の進め方:授業スライドに添い講義を行う。講義は前半と後半に分け、前半では講義を行い家族問題が解決できるように取り組む。後半はグループワークを取り入れ、学生の意見や考えを表す形式をとる。話し合った内容の発表内容を板書しまとめを行う。又授業終了後に毎回リアクションペーパーで学んだ事を整理する形式を取る。

到達目標

家族療法の理論と技術を理解する事が出来る。　■
家族を視野に置いた支援方法を理解する事が出来る。■
困難事例を検討しながら、解決策を考える事が出来る。　■
実践的な対応を行うことや応用的な面接技法を取得する事が出来る。　■

使用教材

家族の心理　変わる家族の新しいかたち　小田切紀子　野口康彦　青木聡　金剛出版　2017年

参考文献

授業時に紹介する

評価方法

事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート20%、定期試験80%とする

課題・評価に対するフィードバック方法

授業終了後感想シートに学んだ事を記述し提出をする。質問があった場合はコメントを行いフィートバックする。試験課題についても内容をフィードバックする。

オフィスアワー

火曜日　４，５限目
（８号館４階４０１研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	3,4	シラバスを読み家族療法について予習する。	1.5 h	家族を治療するための講義内容を振り返り理解を深める。	1.5 h
2	家族とは何か　■	3,4	事前に序章p3-p9を読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、家族の発展や変化について理解を深める。	1.5 h
3	恋愛の心理　■	3,4,10	事前に第1章p11-p24を読み、講義内容についてふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、恋愛の心理や課題について理解を深める。	1.5 h
4	結婚の心理　■	3,5,8	事前に第2章p27-p42を読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、結婚の心理について理解を深める。	1.5 h
5	日本における離婚の現状　■	3,10,11,16	事前に第3章p47-p59について読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、日本の離婚状況について理解を深める。	1.5 h
6	再婚家庭と子ども　(1)ステップファミリーの課題　■	3,4,5,8,10	事前に第4章p71-p81を読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、家庭支援の相談援助について理解を深める。	1.5 h
7	再婚家庭の子ども　(2)幼児期の子どもの心理	3,4,5,10	事前に事例内容について読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、幼児期の子どもの考え方の理解を深める。	1.5 h
8	子ども発達と家族	3,4,5.8,16	事前に第5章p85-p97について読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、子どもの発達と家族について理解を深める。	1.5 h
9	中年期・老年期の家族	3,4,8,10	事前に第6章p103-p114を読み、内容にふれる。	1.5 h	講義内容の資料を読み返し、中年期・高年期の家族について理解を深める。	1.5 h
10	人間発達の可塑性―児童虐待からの再生―　■	3,4,10	事前に第6章p121-p131を読み、内容にふれる。	1.5 h	講義資料を読み返し、児童虐待からの再生について理解を深める。	1.5 h
11	家族の課題とその支援　少年・家事事件の現状	3,4,10	事前に第7章p139-p150を読み、内容にふれる。	1.5 h	講義資料を読み返し、少年・家事事件について理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	子ども虐待と被虐待児(者)の心理　■	3,4,10, 11, 16	事前に第8章p161-p166を読み、内容についてふれる。	1.5 h	講義資料を読み返し、子ども虐待と被虐待児の心理について理解を深める。	1.5 h
13	家族療法の基礎	3,4,5, 9,10, 16	事前に第8章p173-p192を読み内容にふれる。	1.5 h	講義資料を読み返し、家族療法の基礎について理解を深める。	1.5 h
14	心理療法についての体験　箱庭療法　家族の関係性を観察する　■	1,2,3	事前に箱庭療法について内容にふれる。	1.5 h	箱庭療法を体験した後、グループワークを行いさらに理解を深める。	1.5 h
15	まとめ　　家族療法について	1,2,3, 4	今までやった資料を振り返り、総合的な内容を整理する。	1.5 h	講義資料をまとめ、総合的に子ども家族療法のまとめをする。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

KEY　WORD：家族療法　家族メンバー　困難課題　問題解決　ジェノグラム
（■は実務経験に基づく内容を示す。）

印刷　閉じる

チーム医療アプローチ演習

英文名：Interprofessional Practice
科目区分：保育領域及び教科の指導法
科目ナンバリング：CEW514
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

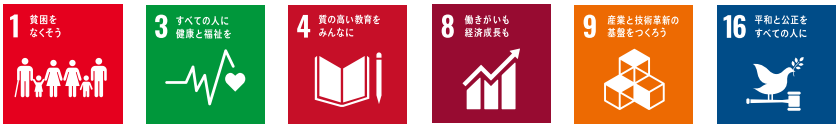
担当教員

渡邊秀臣（理学）、倉林しのぶ・梅原里美・小池洋子・茂木佐智子・内田真理子・中川裕・生方敬美（看護）、篠原智行・齊田高介（理学）、大林恭子・青森達・前田恵里・高橋恵美利・髙橋雄太・信田智哉・長嶺歩（薬学）、木村憲洋・三澤安利沙（情報）、竹内真理・河原田律子・野口礼於奈（栄養）、原田欣宏・富田俊・加藤大輔（社会福祉）、内田祥子（子ども教育）

科目に関連した実務経験

＊各学科のコア教員のみ
渡邊秀臣（理学）：非常勤医師（整形外科医）として病院に勤務
小池（看護）： 看護師として一般病院に勤務（経験）
篠原（理学）：理学療法士として急性期、回復期病院に勤務（経験）。生活期病院に非常勤勤務。
髙橋雄太（薬学）：薬剤師として大学病院に勤務（経験）、調剤薬局に非常勤勤務。
木村（情報）：病院経営企画及び診療情報管理にて病院に勤務（経験）
竹内（栄養）：管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）。健大附属クリニック管理栄養士兼務。
加藤（社会福祉）：ＭＳＷとしてケアミックス病院に勤務（経験）
内田（子ども教育）：保育者養成校での学外実習の指導（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①より安全で質の高い医療の提供にはチーム医療が欠かせない。その上で最善の医療や福祉を提供することができるよう、チームや多職種連携のあり方や課題、工夫について学び、自身の考えを述べられるようになる。

②グループワークのテーマは事前に座学形式で示す。グループワークのほとんどは複数学科の履修生で構成したグループで行う。最終的に模擬症例に対する最善の医療についてグループの成果物を作成し発表する。

到達目標

1．多職種間での情報伝達・共有の必要性を理解し、効果的な情報伝達・共有方法について考えを述べられる。■
2．各専門職の役割と活動について理解し、多職種が連携・協働することの意義を述べられる。■
3．チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の連携・協働の必要性を説明できる。■
4．チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。■

使用教材

関連する資料を随時配布する。

参考文献

指定なし。

評価方法

１～４回の振り返りシートの記述内容、演習参加への積極性・授業態度40%、５・６回の模擬症例検討内容等20%、７・８回の演習参加への積極性・授業態度および発表内容・発表態度20%、授業後レポート20%

課題・評価に対するフィードバック方法

模擬症例検討ではグループごとに発表し、教室担当の教員がフィードバックする。

オフィスアワー

渡邊（理学）：金曜3限、4号館2階学部長室
小池（看護）：月曜4限、5号館207研究室
篠原（理学）：水曜3限、4号館416研究室
髙橋雄太（薬学）：水曜2限、7号館323研究室
木村（情報）：月曜1限、7号館610研究室
竹内（栄養）：木曜2限、1号館308研究室
加藤（社会福祉）：木曜2限、1号館513研究室
内田（子ども教育）：月曜1限、8号館410研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス/ノンテクニカルスキル【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	ノンテクニカルスキルとは何かを整理する。	1.5h
2	効果的なチーム、チーミング【合同】■	1,2,3,4	チーム、チーム医療について調べておく。	1.5h	チーム、チーミングとは何かを整理する。	1.5h
3	効果的な情報伝達と共有；実践【合同】■	1	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5h	情報伝達と共有方法についての課題を整理する。	1.5h
4	効果的な情報伝達と共有；グループワーク【合同】■	1,2,3,4	情報伝達と共有方法について調べて考えておく。	1.5h	情報伝達と共有方法についての課題と工夫を整理する。	1.5h
5	チームカンファレンスの目的と方法【各学科】■	1,2,3,4	病院の内外で実施されるチームカンファレスにはどのようなものがあるかを調べておく。	1.5h	チームカンファレンスのあるべき姿や課題を整理する。	1.5h
6	模擬症例検討①　模擬症例に対する自職種の役割、アプローチ【各学科】■	1,2,3,4	模擬症例の疾病や治療について調べ、自職種の関わり方を考えておく。	1.5h	模擬症例への自職種の役割、アプローチを整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	模擬症例検討②　模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；グループワーク【合同】■	1,2,3,4	模擬症例への自職種の役割、アプローチを他職種に説明する準備をしておく。	1.5h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5h
8	模擬症例検討③　模擬症例への最善の医療に向けたチーム医療アプローチ；発表【合同】■	1,2,3,4	発表の準備をしておく。	1.5h	模擬症例への各職種の役割、チーム医療アプローチの意義を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

【履修条件】原則、チーム医療アプローチ論を履修していること。
【副専攻対象科目】（生物生産除く）本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム「多職種連携コース」の対象科目である。
副専攻履修者の単位認定時の評価は、「認定（N）」となり、GPAの算出や卒業必要対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる場合があり、その場合には、対象者に別途案内する、また、履修登録時にCAPのカウントには含めない。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

子どもの保健

英文名：Children’s Health
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU151
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
5 専門的知識
1 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

丸山　健一

科目に関連した実務経験

群馬大学医学部小児科講師、群馬県立小児医療センター院長、群馬県赤十字血液センター所長を歴任。医学博士、日本小科学会専門医、日本腎臓学会指導医。現群馬県立小児医療センター顧問。

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

子どもに多い疾患について、その症状と予防方法及び対処方法や簡単な処置の方法の知識を身につけ、乳幼児の保育・教育の現場で活用できるようにする。
教科書の内容を補完する形で資料を配布し、学生が理解しやすいように適時スライドやDVDを使用し進めていく。また、授業終了時に小レポートを実施し、受講者の理解度を把握し、講義を進めていく。

到達目標

1.子どもに多い疾患について理解し、現場で対応できるようになる。
2.保育中の子ども達の体調の変化に気付けるようになる。
3.子どもの保健に関する様々な情報に対する関心を高める。

使用教材

・子どもの保健テキスト　改訂第3版　編集・小林美由紀　編集協力・森脇浩一　診断と治療社　2,400円＋税
・保育所保育指針解説平成30年3月　厚生労働省編　フレーベル館　320円＋税

評価方法

定期試験70%、毎回授業終了時に提出する講義のまとめ及び質問・感想（小レポート）、授業参加度・学習態度30%。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業終了後の質問については、回答を次回講義の教材倉庫に掲載する。

オフィスアワー

金曜日　12：30～13：00　14：30～15：00
9号館3階301号室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、子どもの特性について	1,2,3	シラバスを読んで、子どもの健康に関するニュース、書籍に触れる。教科書の「発行によせて」「はじめに」に目を通す。	1.5h	講義内容、到達目標、評価方法などを確認する。	1.5h
2	母子保健について	1,2,3	教科書P.14～18、P.21～27、P.135～144に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5h
3	乳幼児の発達の概要：ビデオで学ぶ健康な乳幼児の発育　ビデオ「赤ちゃんの一年」	1,2,3	教科書P.31～43に目を通し、赤ちゃんの成長・発達を確認しておく。	1.5h	ビデオによる健康な赤ちゃんの成長・発達を教科書で再確認する。	1.5h
4	生理機能の発達	1,2,3	教科書P.45～52に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、講義内容の理解を深める。	1.5h
5	児童福祉など	1,2,3	教科書P.55～62に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、講義内容の理解を深める。	1.5h
6	予防接種について	1,2,3	教科書P.81～87に目を通す。	1.5h	教科書を読み直し、予防接種の意義、種類、スケジュール等について理解を深める。	1.5h
7	子どもの疾患の基礎知識1.子どもの感染症	1,2,3	教科書P.71～79に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5h
8	子どもの疾患の基礎知識2.慢性疾患について	1,2,3	教科書P.115～126に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5h
9	子どもの疾患の基礎知識3.低出生体重児及び脳・神経系疾患について	1,2,3	教科書P.99～104に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5h
10	子どもの疾患の基礎知識4.免疫とアレルギーについて	1,2,3	教科書P.106～113に目を通す.	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	子どもの疾患の基礎知識 5.目・耳・鼻・口・のどの疾患について	1,2,3	教科書P122～123に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5h
12	子どもの疾患の基礎知識 6.先天異常、染色体異常、遺伝性疾患について	1,2,3	教科書P.101～102に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5h
13	子どもの疾患の基礎知識 7.皮膚および運動器（筋肉・関節・骨）の疾患について	1,2,3	教科書P.68,122に目を通す。	1.5h	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5h
14	保育環境と衛生安全管理について：子どもの事故とその予防	1,2,3	教科書P.90～95及び配布資料に目を通す。	1.5h	配布資料及び教科書を読み直し、子どもの事故防止ための手法を考える。	1.5h
15	まとめ	1,2,3	教科書及び配布された資料を読み直す。	1.5h	子どもを保育する上での重要な点を再度確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：すべての講義内容は実務経験に基づく。

印刷 閉じる

子ども家庭支援の心理学

英文名：Child and Family Support Psychology
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU152
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
4 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

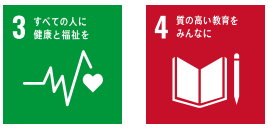
担当教員

佐々木　典彰

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標
子どもを取り巻く環境全体の広い視点から、子どもの発達に関する現代的問題や保護者支援の在り方について学ぶ。
②講義の実施方法
双方向の授業のために、適宜質問をしたり意見を求めたりする。

到達目標

1.現代の子どもの発達に関する問題や課題を知り、その解決策を考える。
2.現代の家族や保護者の多様性について理解する。

使用教材

テキストは使用しない。適宜、資料等を配布する。

参考文献

適宜紹介する。

評価方法

定期試験70%、リアクションペーパー30%

課題・評価に対するフィードバック方法

定期試験の結果をフィードバックする。その方法は別途伝える。

オフィスアワー

初回授業時に伝える。
（8号館409研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	人間の発達について	1	「子ども家庭支援」を図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
2	乳児期の現代的課題① 愛着形成について	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
3	乳児期の現代的課題② マザリーズについて	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
4	幼児期の現代的課題① 遊びについて	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
5	幼児期の現代的課題② 玩具や絵本について	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
6	児童期の現代的課題	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
7	青年期の現代的課題	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
8	中年期以降の現代的課題	1	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
9	多様な家族	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
10	虐待の現状	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
11	保護者への支援① 虐待防止について	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
12	保護者への支援② 親業、インリアル法について	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
13	子育ての悩み	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	発達障害児への支援	2	講義内容に関連することを図書やインターネットで調べる。	1.5h	ポイントを確認し、それに関連することをさらに調べる。	1.5h
15	振り返り	1,2	講義全体を振り返る。	1.5h	講義全体のポイントを確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

子どもの食と栄養Ⅰ

英文名：Food and Nutrition for Infant and Child Ⅰ
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU153
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大塚恵美子

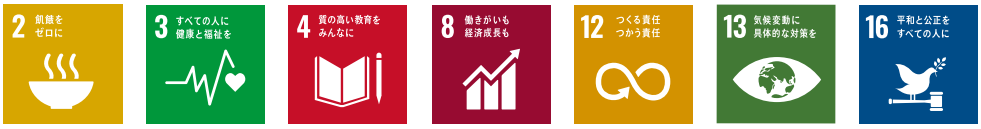
科目に関連した実務経験

非常勤管理栄養士として小児科医院に勤務。保健所保健衛生事業（赤ちゃん学級、乳幼児健診）における栄養、食生活相談等担当(経験)

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目:保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①子どもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康の基礎となり心身の発達にとても重要である。この授業では、子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について学修する。保育者として子どもを取り巻く社会や食環境を踏まえた上で、子どもの食生活の現状を理解し「食べる力」の支援に活かせる知識の習得を目標とする。
②授業は、教科書と配布資料をもとに講義形式の他、グループワーク・教材作成、発表、実習の方法を用いて進める。

到達目標

1.子どもの健康と食生活の意義について理解できる。■
2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解できる。■

3.栄養に関する基本的知識を習得できる。■
4.保育における食育の意義・目的、基本的な考え方や内容について理解できる。

使用教材

子どもの食生活ー栄養・食育・保育ー上田玲子編著,赤石元子、酒井治子、永井由利子、林薫、本田真美著（有限会社　ななみ書房）　2024年2,400円＋税，「保育所保育指針解説書」厚生労働省編著(フレーベル館)　2018年320円+税

評価方法

授業態度と参加意欲（10%）、授業内で取り組むレポート（小テストを含む）（30%）、定期試験（60%）で総合的に評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

理解度を確認するためのレポート（小テスト）にコメントを付し返却、解説をする。
期末試験後に、問題出題の意図を説明する。

オフィスアワー

水曜日3,4時限。メール対応可能。（研究室：8号館4階407）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 「子どもの食と栄養」を学ぶ目的・子どもの食生活の特徴・現状と課題■	1	シラバスの内容を読んで，講義の目標等を理解する。教科書第1章を読み予習する。子どもの食生活の現状および課題について理解する。	0.35h	講義内容，講義目標，到達目標，評価方法等を確認する。	0.4h
2	子どもの発育・発達■	2	教科書第2章を読み予習する。	0.35h	子どもの発育の特徴、食べる機能、消化吸収機能の発達について理解する。	0.4h
3	栄養に関する基礎知識 ①食品の分類、栄養素の種類と機能、食事摂取基準	3	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	6つの基礎食品、3色のグループの分類、五大栄養素、食事摂取基準について理解する。	0.4h
4	栄養に関する基礎知識 ②献立作成・調理の基本■	3	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	食事バランスガイド、献立の基本について理解する。	0.4h
5	栄養に関する基礎知識 ③食中毒、食品表示	3	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	食中毒、食品表示について理解する。	0.4h
6	胎児期（妊娠期）の食生活	1,2,3	教科書第7章を読み予習する。	0.35h	胎児期（妊娠期）の栄養の意義や妊娠期の食生活について理解する。	0.4h
7	乳児期の食生活■	1,2,3	教科書第4章を読み予習する。	0.35h	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について理解する。	0.4h
8	幼児期の心身の発達と食生活	1,2,3	教科書第5章を読み予習する。	0.35h	幼児期における心身の発達の特徴および食生活の特徴とその問題点について理解する。	0.4h
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活	1,2,3	教科書第6章、を読み予習する。	0.35h	学童期における心身の発達の特徴および食生活の	0.4h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					特徴とその問題点について理解する。	
10	食育の基本　①保育における食育の意義、目的と基本的考え方	1,2,4	教科書第10章と保育所保育指針解説第3章（健康および安全）を読み予習する	0.35h	保育所における食育の目的、必要性について理解する。保育所での食育の内容ついて理解する。	0.4h
11	食育の基本　②食育の内容と計画及び評価	1,2,4	教科書第10章と保育所保育指針解説第1章（保育の計画及び評価）を読み予習する	0.35h	食育の内容と計画づくりについて理解する。	0.4h
12	食育の基本　③食育の実践1	1,2,4	食育教材の作成準備をする。	0.35h	食育教材の内容を検討する。	0.4h
13	食育の基本　④食育の実践2	1,2,4	食育教材の作成準備をする。	0.35h	グループ発表準備をする。	0.4h
14	食育の基本　⑤食育の実践3	1,2,4	食育教材の作成をする。	0.35h	グループ発表準備、役割を確認する。	0.4h
15	まとめ、発表（作成した食育教材を用いて実演する）	1,2,4	グループ発表の準備をする。	0.35h	講義、演習内容を復習して整理する。	0.4h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。
※食育の実践では、食育教材作成の他に、食農体験をおこなうこともある。食農保育体験では、動きやすい服装、日よけ用帽子、手拭きタオル、飲み物を持参する。

印刷　閉じる

子どもの食と栄養Ⅱ

英文名：Food and Nutrition for Infant and Child Ⅱ
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU154
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大塚恵美子

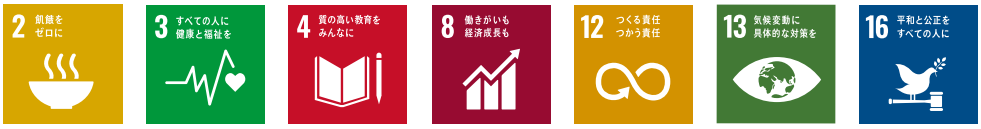
科目に関連した実務経験

非常勤管理栄養士として小児科医院に勤務。保健所保健衛生事業（赤ちゃん学級、乳幼児健診）における栄養、食生活相談等担当(経験)

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目:保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①この授業では、「子どもの食と栄養Ⅰ」の基礎的学修を基本として、子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について実践的に学修する。「味わうこと」とは、どのようなことなのかについて、味覚教育等の実践を通して習得する。保育者として、子どもの「食べる力」をはぐくむための食事支援について知識と技術の習得を目指し、保育の現場で活かせる応用力を深めることを目標とする。
②授業は、教科書と配布資料をもとに講義形式の他、グループワーク、実習等の方法を用いて進める。

到達目標

1.子どもの発育・発達過程ごとの食事の特徴、方法、支援について理解できる。■
2.子どもの発育・発達過程における食生活上の問題点について理解できる。■

3.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解できる。
4.特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解できる。 ■

使用教材

子どもの食生活ー栄養・食育・保育ー上田玲子編著,赤石元子、酒井治子、永井由利子、林薫、本田真美著（有限会社　ななみ書房）2024年2,400円＋税，保育所保育指針解説書」厚生労働省編著(フレーベル館)　2018年320円+税

参考文献

ピュイゼ　子どものための味覚教育　食育入門編　石井克枝、ジャック・ピュイゼ、坂井信之、田尻泉著（株式会社　講談社）2016年2,800円＋税

評価方法

授業態度と参加意欲（20%）、授業内で取り組む課題（30%）、最終レポート（50%）で総合的に評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

理解度を確認するための課題やレポートは、コメントをつけて返却する。

オフィスアワー

木曜日１,2時限。メール対応可能。（研究室：8号館 4階407）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、子どもの食生活の現状と課題について考える。	1,2	シラバスの内容を読んで，講義の目標等を理解する。	0.35h	講義内容，講義目標，到達目標，評価方法等を確認する。	0.4h
2	乳児期の食生活　①母乳栄養■	1,2	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	母乳育児、母乳栄養について理解する。	0.4h
3	乳児期の食生活　②人工栄養■	1,2	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	育児用ミルクの特徴や調乳の手順について理解する。	0.4h
4	乳児期の食生活　③離乳、離乳食■	1,2	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	離乳の必要性や離乳食の進め方について理解する。	0.4h
5	乳児期の食生活　④ベビーフード■	1,2	教科書第5章を読み予習する。	0.35h	市販のベビーフードを試食して、その特徴や利用についての利点、問題点について理解する。	0.4h
6	幼児期の食生活　①食機能の発達：食事支援の方法■	1,2	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	幼児期の食機能、食具、食事支援の方法について実践を踏まえて理解する。	0.4h
7	幼児期の食生活　②幼児食への理解　実践■	1,2	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	幼児期の食生活について、3歳未満児と以上児における幼児食の意義を実際に調理試食し理解する。	0.4h
8	幼児期の食生活　②間食の役割と必要性■	1,2	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	幼児期の間食の役割と必要性について理解する。	0.4h
9	幼児期の食生活　③間食（おやつ）の実践■	1,2	教科書第3章、口絵カラーページ：幼児期の間食を読み予習する。	0.35h	間食の役割について、実際に調理した間食を試食して理解する。	0.4h
10	乳幼児の食生活　食生活上の問題■	2	教科書第3章を読み予習する。	0.35h	幼児期の食生活上の問題について実践を踏まえて理解する。	0.4h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	家庭や児童福祉施設における食生活	1,2,3	教科書第5章を読み予習する。	0.35h	家庭や児童福祉施設における食事と栄養について理解する。	0.4h
12	特別な配慮を要する子どもの食生活　①体調不良、疾病のある子どもへの対応	1,2,4	教科書第6章を読み予習する。	0.35h	子どもの疾病の特徴と病児の食事と対応の仕方について理解する。	0.4h
13	特別な配慮を要する子どもの食生活　②食物アレルギーのある子どもへの対応■	1,2,4	教科書第6章を読み予習する。	0.35h	食物アレルギーの正しい知識と対応の仕方について理解する。	0.4h
14	特別な配慮を要する子どもの食生活　③障がいのある子どもへの対応	1,2,4	教科書第6章を読み予習する。	0.35h	摂食行動や摂食・嚥下機能発達を障がいする疾患の特徴と対応の仕方について理解する。	0.4h
15	まとめ	1,2,3,4	これまでの講義、演習内容を整理する。	0.35h	講義内容と実践を踏まえて、子どもの栄養と食生活について理解する。	0.4h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。
※調理実習時は、エプロン、三角巾（バンダナ）、マスク、手拭きタオルを持参する。身支度を整えて、調理室へ入室すること。

印刷　閉じる

子どもの理解と援助

英文名：Understanding and Supporting Children
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU101
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

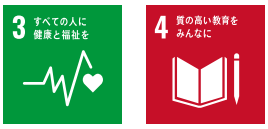
担当教員

内田　祥子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

こども理解は保育のあらゆる営みの基本となるものである。こどもの生活や遊びの実態に即して、こども一人ひとりの発達や学び及びその過程で生じるつまずきを把握し指導を改善するための原理や対応の方法を学ぶことを目指す。様々な記録方法や事例検討を通じて、子どもの発達や心情を理解する方法を具体的に示す。

到達目標

1. 幼児理解の意義を理解している
2. 幼児理解から発達及び学びを捉える原理を理解している
3. 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している
4. 観察及び記録の意義並びに目的に応じた観察方法等の基礎的な事柄を例示することができる。
5. 個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解している
6. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係及びその他の背景から理解することができる。
7. 保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解している。

使用教材

保育所保育指針解説　幼稚園教育要領解説　認定こども園教育保育要領解説

参考文献

授業時に紹介する

評価方法

授業の取り組み30%　期末試験70%　※評価の具体的方法と基準は初回にアナウンスする

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にコメントし、返却する

オフィスアワー

月曜日3限（8号館410研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児理解とは	1	シラバスを読んでくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h
2	過去の実習記録を振り返る	1,2,3	講義テーマについて考え、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h
3	保育における幼児理解の特質	1,2,3	保育における子ども理解の特質と意義について考え、自分なりの考えを書く	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h
4	幼児理解のための観察・記録方法①時系列記録	1,2,3,4	時系列記録の特徴をまとめる	1.5h	時系列記録を作成する	1.5h
5	幼児理解のための観察・記録方法②個人記録	1,2,3,4,5	個人記録の特徴をまとめる	1.5h	個人記録を作成する	1.5h
6	幼児理解のための観察・記録方法③エピソード記録	1,2,3,4,5	エピソード記録の特徴をまとめる	1.5h	エピソード記録を作成する	1.5h
7	幼児理解のための観察・記録方法④環境図記録	1,2,3,4,5	環境図記録の特徴をまとめる	1.5h	環境図記録を作成する	1.5h
8	気になる子どもの理解と方法	1,2,3,4,5,6	気になる子どもの理解においてどのような視点が重要かを考える	1.5h	授業内容に関する小レポート	1.5h
9	気になる子どもの理解と対応①気持ちのコントロールが苦手	1,2,3,4,5,6,	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h
10	気になる子どもの理解と対応②自己表現が苦手	1,2,3,4,5,6	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h
11	気になる子どもの理解と対応③集団活動が苦手	1,2,3,4,5,6	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h
12	保育におけるカウンセリングマインドの意義	1,2,3,4,5,6,7,	カウンセリングマインドとはなにか、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	保護者への対応（連絡帳等の活用）	1,2,3,4,5,6,7	保護者への対応に関して、自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h
14	視聴覚機器を用いた記録の意義	1,2,3,4,5,6,7	ビデオカンファレンスの意義について自分なりの考えを書いてくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h
15	現代の保育におけるこども理解の課題	1,2,3,4,5,6,7,	講義全体を通じて学んだことを書いてくる	1.5h	授業の内容に関する小レポート	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

幼児教育の方法と技術

英文名：Teaching Methods and Skills of Early Childhood Education and Care
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU102
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　邦枝

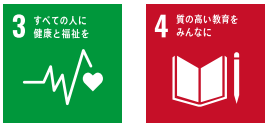
科目に関連した実務経験

非常勤講師として幼稚園に勤務（経験：今井）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○				○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①幼児教育の基本を理解し、実際の指導に生かすための専門性を高めることを目指す。
②授業は教員が作成した資料に基づき、適宜グループワークも取り入れながら講義形式で行う。

到達目標

1.幼児教育における活動と評価の特性について理解し説明することができる。
2.教材研究の重要性を理解し実践することができる。■
3.こどもの実態に即して適切な指導計画をたてることができる。■
4．ICTを活用した実践例を学び、自分の指導計画に取り入れることができる。

使用教材

幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育保育要領解説

参考文献

授業時に紹介する

評価方法

授業の取り組み30%　課題(教材ワークシート・指導案)70%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にコメントし、返却する

オフィスアワー

月曜日1、2限（8号館507研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児教育における方法と技術①主体的・対話的で深い学び	1	主体的・対話的で深い学びの特徴をまとめる	1.5 h	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる	1.5 h
2	幼児教育における方法と技術②育みたい資質能力と幼児理解に基づいた評価	1	幼児教育における評価の特徴をまとめる	1.5 h	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる	1.5 h
3	幼児教育における方法と技術③ICTを活用した幼児教育の意義	4	幼児理解における視聴覚資料の意義をまとめる	1.5 h	幼児教育におけるICT活用事例を調べる	1.5 h
4	子どもの姿に即した活動の展開①－１　制作活動における子ども■	1,2	製作活動における保育事例を読んでくる	1.5 h	製作活動における子どもへの留意事項を考える	1.5 h
5	子どもの姿に即した活動の展開①―２　グループでの話し合い（ICTの活用事例も含む）■	1,2	製作活動における子どもへの留意点を踏まえた指導内容を考える	1.5 h	グループワークでの学びをまとめる	1.5 h
6	子どもの姿に即した活動の展開②－１　ルール遊びにおける子ども■	1,2	ルール遊びにおける保育事例を読んでくる	1.5 h	ルール遊びにおける子どもへの留意事項を考える	1.5 h
7	子どもの姿に即した活動の展開②－２　グループでの話しあい（ICTの活用事例も含む）■	1,2	ルール遊びにおける子どもへの留意点を踏まえた指導内容を考える	1.5 h	グループワークでの学びをまとめる	1.5 h
8	教材研究の意義■	1,2	教材研究の意義を考える	1.5 h	教材研究の意義をまとめる	1.5 h
9	教材研究①－１　製作に関する題材■	1,2,3	題材の特性や面白さ、学びの可能性について考える	1.5 h	教材ワークシート作成	1.5 h
10	教材研究①－２　活動の流れと評価のポイントを考える■	1,2,3	教材ワークシート作成	1.5 h	教材ワークシート修正	1.5 h
11	教材研究②－１　ルール遊びに関する題材■	1,2,3	題材の特性や面白さ、学びの可能性について考える	1.5 h	教材ワークシート作成	1.5 h
12	教材研究②－２　活動の流れと評価のポイントを考える■	1,2,3	教材ワークシート作成	1.5 h	教材ワークシート修正	1.5 h
13	部分指導案作成	1,2,3,4	題材をきめる	1.5 h	指導案作成	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	全日指導案作成	1,2,3,4	題材を決める	1.5 h	指導案作成	1.5 h
15	まとめ：子どもの視点から指導計画をたてるということ	1,2,3,4	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる	1.5 h	本実習に向けての課題を明確にする	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

特別活動論

英文名：Special Activities
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：D007
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

栗原　幸正

科目に関連した実務経験

・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務（経験）
・市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：　小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○			○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学校教育全体を通して実施する小中学校の特別活動の意義と内容を理解し、具体的な実践事例を通して、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や方法を身に付ける事ができると共に、活動に潜む課題について検討し、教員としての実践力を高めることを目標とする。学習指導要領及び実務経験に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議・演習を組み合わせてアクティブラーニングを目指す。また、授業後に行う授業感想記述等を活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には紙媒体やC-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるよう

に、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。

到達目標

1.小中学校の特別活動の意義や目標、内容について理解し、説明することができる。
2.特別活動の学級活動や児童会・生徒会活動等の特質を理解するとともに、各教科との関連や指導の在り方について理解している。■
3.特別活動に係る課題について知り、話し合い活動や集団活動教員の意義を理解し、合意形成や意思決定につながる指導について例示することができる。■
4.特別活動における家庭・地域住民や関係機関等との連携の在り方を理解している。

使用教材

小学校学習指導要領解説　特別活動編、中学校学習指導要領解説　特別活動編

参考文献

講義中に適宜配付する。

評価方法

最終テストに40%、毎回の小テストの評価30%、日常点（リアクションペーパー、発表活動やグループ活動等の取組、貢献度等）に30%を配分して総合評価をする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業における取組の評価や課題のフィードバックはその都度行う。

オフィスアワー

8 号館 1 階 学部長室
火曜日2 限・金曜日2 限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	特別活動とは・・・	1	小中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、概要をつかんでおく。	1.5	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。また、特別活動の意義や目標、内容についての概要を理解する。	1.5
2	学級活動Ⅰ（生活づくり）■	2,3	小学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学級活動の概略を把握する。	1.5	効果的な学級経営のための具体的方法を理解し、ノートにまとめる事ができる。	1.5
3	学級活動Ⅱ（よりよい人間関係づくり）■	2,3	小学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学級活動の概略を把握する。	1.5	児童の人間関係づくりにおける学級活動における重要性を理解する。	1.5
4	学級活動Ⅲ（キャリア形成）■	2,3	自分の中学校時代の夢や希望、職業見学について想起しノートにまとめておく。	1.5	職場見学の計画立案を通して、働くことの意義について自分の考えをまとめておく。	1.5
5	児童会活動■	1,2	自分の小学校時代の児童会活動について想起しノートにまとめておく。	1.5	児童会活動の持つ意義や課題について、課題に取り組むことを通して自分の考えをまとめる。	1.5
6	小学校における学校行事Ⅰ（儀式的行事・文化的行事）■	1,2,4	経験した小学校における儀式的行事・文化的行事について、その内容と教育的	1.5	学校行事の持つ課題について自分の考えを説明することができる。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			効果についてノートにまとめておく。			
7	小学校における学校行事Ⅱ（健康安全体育的行事・遠足集団宿泊的行事・勤労生 産奉仕的行事）■	1,2,3	経験した小学校における健康安全体育的行事・遠足集団宿泊的行事・勤労生 産奉仕的行事について、その内容と教育的効果についてノートにまとめておく。	1.5	学校行事の持つ意義について自分の考えを説明することができる。	1.5
8	中学校における特別活動の意義と内容	1	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、概要をつかんでおく。	1.5	小学校特別活動と中学校の特別活動の違いを整理して理解する。	
9	中学校における学級活動①（思春期）■	1,2	学習指導要領に記述された「思春期」に関する内容に目を通しておく。	1.5	思春期の特性について理解し、自分の身の回りに存在した思春期に係る事例をレポートとしてまとめる。	1.5
10	中学校における学級活動②（集団づくり）■	1,2	中学校の頃の学級活動についてを発表できるようにしておく。	1.5	中学における特別活動の内容について知り、その内容を想起し、まとめておく。	1.5
11	中学校における学級活動の内容（適応と成長＆健康安全）■	1,2,4	中学校における学級活動について振り返り、説明できるようにする。	1.5	適応と成長や健康安全について、思春期との関連性で理解し、重要なポイントをノートにまとめる。	1.5
12	学業と進路■	1,2,4	中学校学習指導要領解説特別活動編の関連箇所に目を通しておく。	1.5	中学校における進路指導について理解する。	1.5
13	生徒会活動・部活動の現状と課題	1,2,4	中学校学習指導要領解説特別活動編の関連箇所に目を通しておく。また、部活を巡る課題について、新聞等から情報を集める。	1.5	生徒会の活動や部活についてのメリットとデメリットをノートにまとめる。	1.5
14	学校行事Ⅰ（健康安全体育的行事）と生徒指導■	1,2,3,4	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学校行事に係る概略を把握する。また、インターネット等で生徒指導提要について調べる。	1.5	特別活動における生徒指導の重要性について、説明する事が出来るようにする。	1.5
15	学校行事Ⅱ（旅行集団宿泊的行事）・期末試験	1,2,3,4	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学校行事Ⅱに係る概略を把握する。教科書、配付資料に目を通し、学修内容をまとめておく。	1.5	記述試験内容を振り返りノートにまとめ、中学校における特別活動についての理解を深める	1.5

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回小テストや資料の提示をc-learningで行いますので、パソコン等を持参してください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる ✕

教育方法論

英文名：Educational Methods
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：D008
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

栗原　幸正

科目に関連した実務経験

・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務（経験）
・市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：　小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○	○	○			○	

「その他」のアクティブラーニング実施方法

小テスト・レポートに対してコメントを付し、授業中に振り返りや質疑応答の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

次世代を作る児童生徒の資質・能力を育成するために必要な教育観・教育方法・教育技術についての基礎的な知識・技能を習得する。教科書に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての研究 協議・演習を組み合わせてアクティブラーニングを目指す。また、授業後に行う授業感想記述を活用 して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。資料の配布や課題の提出には、紙媒体並びに C-learning を用いる。なお、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を必ず学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。

到達目標

1.教育指導の質の向上に向けて、小中学校の教育方法の基礎的理論を理解している。
2.これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力の育成に効果的な教育方法の在り方について理解している。
3.学習指導要領の具現化に向けての基本的な観点や教育技術を習得し、学習指導案を作成することができる。■
4.ICT機器を活用した効果的な授業方法や情報活用能力を育成するための指導法を理解している。■

使用教材

テキスト　教育の方法と技術（吉田武夫監修、樋口直宏編著　ミネルバ書房2,420円）
また、その他必要な教材は講義内容ごとに配布する。

参考文献

小学校学習指導要領解説　総則編・中学校学習指導要領解説　総則編

評価方法

最終テストに40%、毎回の小テストの評価30%、日常点（リアクションペーパー、発表活動やグループ活動等の取組、貢献度等）に30%を配分して総合評価をする。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業における取組の評価や課題のフィードバックはその都度行う。

オフィスアワー

8 号館 1 階 学部長室
火曜日2 限・金曜日2 限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育方法と学習の基礎理論	1	予習内容：シラバスを読み，本科目の目標を理解する。小・中学校における授業の現状や課題について調べておく。	1.5	資料を読み直し，学習意欲についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
2	知識と学習（教えることと学ぶこと）	1,2	教師の学習指導の現状や課題について調べておく。	1.5	資料を読み直し，学習についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
3	学習意欲と動機付け支援	1,2	学習意欲を引き出すための課題について調べておく。	1.5	自身の学びを振り返り，学習意欲についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
4	学習指導の基本原理	1,2	学習指導の様々な学習指導の方法論について調べておく。	1.5	授業で配布した資料を読み直し，学習指導についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
5	授業における指導技術	2,3	自分の経験を振り返り、指導技術の課題について調べておく。	1.5	授業を振り返り、指導技術についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
6	個に応じる指導と学習集団	2,3	個に応じる指導の現状や課題について調べておく。	1.5	授業を振り返るとともに、個に応じる指導と学習集団の関係についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
7	教材と教科書	2,3	小中学校の教科書をもとに指導方法について調べておく。	1.5	教材研究の必要性についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	授業づくり	2,3	教師の授業づくりの現状や課題について調べておく。	1.5	授業計画と教材について理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
9	教育方法の実際①（小学校算数の授業研究）	2,3,4	視聴予定の小学校算数科の授業の目標や内容を調べておく。	1.5	授業計画と教材について理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
10	教育方法の実際②（群馬県教育委員会作成の映像資料）	2,3,4	群馬県のtsuluros（オンラインサポート授業）について調べておく。	1.5	群馬県の授業づくりのポイントについての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
11	教育評価	2,3,4	授業をどのように評価するのかについて調べておく。	1.5	資料を読み直し，授業評価の視点についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
12	授業研究	1,2,3	学校現場ではどのように授業研究をしているか調べておく。	1.5	資料を読み直し，授業研究についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
13	情報教育とICT	2,3,4	予習ICTを活用した授業について調べておく。	1.5	資料を読み直し、ICTを活用する意義についての理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
14	学習指導におけるデジタル教材の利用	2,3,4	デジタル教材を活用した授業について調べておく。	1.5	資料を読み直し、デジタル教材を活用する意義について理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5
15	思考力とメディア・リテラシー	2,3,4	ICTやデジタル教材を活用することのメリットとデメリットを考えておく。	1.5	資料を読み直し，メディアを活用する意義を理解を深めるとともに課題に取り組む。	1.5

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回小テストや資料の提示をc-learningで行いますので、パソコン等を持参してください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

教育におけるICT活用

英文名：ICT utilization in education
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU203
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
0 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大橋博　村田美和

科目に関連した実務経験

【大橋】小学校教員時代に情報教育の指導経験
【村田】高崎先端ICT教育協議会で小中学校におけるICT教育の指導・講習（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本科目では教育現場でのICT活用の現状や今後の方向性を理解する。その上で児童生徒が授業でICT活用をしたり，教員が授業・校務でICT活用をしたりするための考え方や能力を育むことを目指す。また，情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について，その構成要素および具体的な指導法，教育課程上の位置づけなどの理解も目指す。
本科目では，講義および視聴覚資料による解説・事例紹介を中心に授業を展開するが，学生自身がICT機器を使って体験的に学修する機会も設ける。

到達目標

1.教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する
2.ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する■

3.情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける

使用教材

自主作成教材を使用する。

参考文献

●文部科学省・情報教育の推進（2025.1 accessed）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369613.htm
●文部科学省・GIGAスクール構想の実現（2025.1 accessed）
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm
●初等中等教育にける情報教育推進（2025.1 accessed）
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/suishinkaigo2018/koyou/dai6/siryou4.pdf

評価方法

授業毎のリフレクション提出物（30%），期末試験（70%）で評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業感想・レポート・成果物等については評価規準を説明して評価内容を伝える。

オフィスアワー

大橋：月曜１限，火曜１限
（9号館3階302研究室），
村田：火曜2限，月曜3限
（8号館5階502研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育現場におけるICTを活用する意義について理解する	1	シラバスを読み、授業の目的を理解する。	1.5h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに教育現場におけるICTを活用する意義をまとめ，整理しておく。	1.5h
2	教育現場におけるICT活用の現在とこれからについて理解する	1,2	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し， ICT活用において教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに教育現場でのICT活用の現在とこれからがどのようになるのかをまとめ，整理する。	1.5h
3	特別支援・幼児教育におけるICT活用について理解する■	1,2	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，ICT活用において教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに特別支援・幼児教育におけるICT活用がどのように行われているかをまとめ，整理する。	1.5h
4	小中学校の授業の中でのICT活用について理解する■	2	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，ICT活用において教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに小中学校の授業の中でのICT活用がどのように行われているのかをまとめ，整理する。	1.5h
5	小中学校の授業や校務でのICT活用について理解する■	1,2,3	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，ICT活用において教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに小中学校の校務や授業の中でのICT活用がどのように行われているのかをまとめ，整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	児童生徒の情報活用能力の育成について理解する■	2,3	参考文献及び講義中に配付された資料に目を通し，情報活用能力育成を目指す教育現場で使われている単語等を理解しておく。	1.5h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに児童生徒の情報活用能力とはどのようなもので，どのように育てようとしているのかをまとめ，整理する。	1.5h
7	情報モラル教育と情報セキュリティ教育について理解する■	2,3	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに児童生徒の情報活用能力の育成とはどのようなもので，どのように育てようとしているかをまとめ，整理する。	1.5h	参考文献及び講義中に配付された資料をもとに児童生徒の情報モラル教育と情報セキュリティ教育とはそれぞれどのようなもので，どのように育てようとしているかをまとめ，整理する。	1.5h
8	様々な指導法と講座のまとめ・期末試験	2,3	参考文献及びこれまでの講義中に配付された資料をもとに本科目で学んだことをまとめ，整理する。	1.5h	試験内容を振り返り，教育現場でのICT活用についてまとめ，理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

・講義は教員と学生が双方向な意見のやり取りを行う。履修生によるプレゼンテーションを課すことがある。
・本講義中に、高崎市の小中学校におけるICTボランティアの紹介を行う。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 閉じる

総合的な学習の時間論A

英文名：Teaching Methods in Integrated Studies A
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU204
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

北村　陽

科目に関連した実務経験

教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○			○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

小・中学校における総合的な学習の時間の意義と役割・目標について、資質・能力を育成する視点から理解する。さらに、各教科等との関連性を熟慮した指導計画の作成と、評価の在り方を理解することが目標となる。これらの学修を通じて履修者自身が主体的に現状を分析し、課題を発見する力、課題解決に向けた計画力および創造力と実行力を身につけることもねらいとしたい。とりわけ自己の生き方を考えながら物事に柔軟で的確な対応をしていくためには、主体的に判断し行動できる資質や能力の育成が肝要である。そのため、各教科等で育まれる見方や考え方を総合的に活用し、課題解決・横断的かつ探究型学習を実践するための指導計画と指導法および評価方法について、十分に検討していきたい。
受講者には、各回、担当教員の解説内容から学ぶだけではなく、学んだことや調べた事柄に対する自分自身の考えや意見を

リアクションペーパー上で活字化し、まとめあげることを通じて理解の深化を期待したい。また、指導案作成・模擬授業に関連した発表の機会を設定し、実践的な授業構成力の育成を図りたい。

到達目標

1．総合的な学習の時間の意義と内容について、学習指導要領と関連付けて理解することができる。
2．総合的な学習の時間の授業づくりに必要な技術・教育評価・アクティブラーニングがいかなるものかを理解することができる。
3．総合的な学習の時間の授業づくりができる。■

使用教材

小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　総合的な学習の時間編（平成29年7月）文部科学省　（東洋館出版社　126円＋税）

参考文献

文献等は講義内で適宜紹介する。また、担当教員が作成した資料を配布することがある。

評価方法

リアクションペーパー20%（1回目～6回目が各3%、7回目～8回目が各1%）、指導案作成・模擬授業に関連した発表30%、最終のテスト50%の割合で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

試験前後に出題の意図などを説明する。また、リアクションペーパーや発表の内容については、様々な見解・事例を紹介しながらコメントをする。

オフィスアワー

月曜5限、金曜5限(9号館305研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、「総合的な学習の時間」の捉え方について■	1	シラバスおよび小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」に目を通しておく。	1.5 h	総合的な学習の時間の捉え方を整理し、自身の見解を交えてまとめる。	1.5 h
2	「総合的な学習の時間」が創設された経緯とその意義について	1	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第1章を読んでおく。	1.5 h	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第1章および講義内容をまとめる。	1.5 h
3	学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標とその役割について■	1,2	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第2章を読んでおく。	1.5 h	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第2章および講義内容をまとめる。	1.5 h
4	「総合的な学習の時間」の目標と実施内容の設定について■	1,2	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第3章を読んでおく。	1.5 h	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第3章および講義内容をまとめる。	1.5 h
5	「総合的な学習の時間」における年間指導計画および単元計画の作成と実施例について■	1,2	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第4章・第5章・第6章を読んでおく。	1.5 h	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第4章・第5章・第6章および講義内容をまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	「総合的な学習の時間」における指導の基礎・基本と評価の問題を考える■	1,2	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第7章・第8章を読んでおく。	1.5h	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第7章・第8章および講義内容をまとめる。	1.5h
7	「総合的な学習の時間」の実践に関する発表■	1,2,3	これまでの学修内容を踏まえ、自身が発表する際に用いる資料・情報の収集およびレジュメを作成する。	1.5h	自身の発表内容について、他者の発表内容と比較・検討をし、寄せられたコメント等も参考にしながら、実践的な総合的な学習の時間の授業のあり方を考察する。	1.5h
8	まとめ ～これまでの講義を振り返って～	1,2,3	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第9章を読んでおく。	1.5h	小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の第9章および講義内容をまとめると共に、全8回にわたる講義内容を振り返り、総合的な学習の時間への理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

状況に応じてオンラインで授業を実施する場合は、C-Learningで行います。その際、内容等に変更が生じる場合は、適宜C-Learning　　で指示します。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

初等道徳教育論

英文名：Elementary Moral Education
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU205
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大石　桂子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○				○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

道徳教育を通した人間形成は、道徳的な判断力のほか、他者への思いやりや共感（道徳的心情）、正しいことを行おうとする意志と実践力を身につけることでもある。本講義では道徳教育の歴史、道徳性とその発達に関する基礎的知識を習得するほか、児童・生徒の発達の段階に応じた教育課題の理解、それに応じた教育法を考察する。また生徒の思考を深め、道徳的実践力を育成する対話型授業の手法、指導案作成と模擬授業といった演習を通して、道徳教育に必要な素養と指導力を養う。
講義は使用教材と配布プリントを中心に行う。定期的に課題を与え、その内容について学生同士での意見交換を行う。

到達目標

1.教育勅語、教育基本法と、戦前・戦後の道徳教育の変化を理解し、概説できる。
2.道徳性について発達論的な視点や社会学的な視点から理解し、概説できる。
3.学習指導要領にある道徳教育の目標や内容、課題などについて理解し、概説できる。
4.道徳授業でのねらいの設定、展開や発問、評価の方法を理解し、応用できる。
5.講義内容をいかして指導案を作成し、模擬授業という形式で実践できる。

使用教材

文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』
中山幸男ほか『ともに学ぶ道徳教育―基礎理論から授業デザインまで―』
また、講義中に補助プリントを配布する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

指導案作成および模擬授業（50%）、講義中に作成する課題（50%）に参加態度などを加味して総合的に評価する。評価基準については、講義中に説明する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題内容については、講義中に学生発表、教員による評価を行う。また模擬授業については、学生による相互評価を取り入れる。

オフィスアワー

月曜日の3時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス：道徳とは何か、道徳教育の目標と現代的な課題	3	シラバスを読み、講義の目標・内容を確認する。「指導要領解説」の「改訂の経緯」に目を通す。	1h	「特別の教科　道徳」への改訂理由と、主な変更点を理解する。	1h
2	道徳教育の変遷① 教育勅語と修身科	1	教育勅語について調べる。	1h	戦前の道徳教育の変遷、国定教科書の内容などを理解する。	1h
3	道徳教育の変遷② 教育基本法、「特別の教科 道徳」へ	1	教育基本法について調べる。	1h	戦後の道徳教育の変遷、主な改訂の内容を理解する。	1h
4	学習指導要領と道徳教育の位置づけ	3	配布プリントに目を通す。	1h	学校教育における道徳教育の役割を理解する。	1h
5	道徳性の発達論的理解：ピアジェ、コールバーグ等	2	配布プリントに目を通す。	1h	子どもが自律的な道徳判断を獲得する過程を理解する。	1h
6	道徳性の社会学的理解：デュルケーム、ロールズ等	2	配布プリントに目を通す。	1h	道徳教育と社会的な目的の関連を理解する。	1h
7	初等道徳教育の特性と道徳的課題①公徳心と社会的態度	3	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1h	社会規範を尊重する意義を理解する。	1h
8	初等道徳教育の特性と道徳的課題②生命の尊重と人権	3	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1h	障害への多様な視点、生命の尊厳を理解する。	1h
9	初等道徳教育の特性と道徳的課題③自律性の獲得	3	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1h	自由のあり方、自律の意義について理解する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	道徳教育と家庭、地域社会の関わり	3	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1h	学校と家庭・地域社会の連携の実例、教育に対する市民の意識を理解する。 指導計画の意義を理解する。	1h
11	道徳教育の実践①指導方法と実践事例の分析	4	配布プリントに目を通す。	1h	児童の思考を深める「ねらい」の設定、発問の仕方を理解する。	1h
12	道徳教育の実践②教材研究の方法	4	配布プリントに目を通す。	1h	児童の思考を深める展開の手法を理解する。	1h
13	道徳教育の実践③指導案の作成、評価の方法	4	配布プリントに目を通す。	1h	評価の方法、指導案の内容や作成法を理解する。	1h
14	道徳教育の実践④模擬授業	5	模擬授業の指導案、使用する教材の準備をする。	14h	相互評価表などをもとに、授業の成功した点、改善点を分析する。	1h
15	模擬授業の振り返り、総括	4,5	これまでの配布プリントに目を通し、模擬授業の改善案を考える。	2h	模擬授業の改善策をまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンライン講義になった場合は、C-Leaning上で講義資料（PDF形式）の配布・課題提出で講義を行い、
模擬授業は指導案提出のみとします。

印刷　閉じる

中等道徳教育論

英文名：Secondary School Moral Education
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU301
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大石　桂子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○			○				○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

人々の価値観が多様化し、家庭や地域社会の教育力が低下がしたといわれる現在、学校の道徳教育への期待は高まっている。情報モラルの習得、自己肯定感の獲得、いじめ問題の解決など、学校教育の課題に、道徳教育はどのように貢献できるか。国内外の道徳教育の理論・手法を手引きに、学生各自が探求・考察することを目標とする。
講義は「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」と、配布プリントを中心に行う。また、多様な道徳授業の実践例について検討し、学生同士による意見交換、グループワークを行う。

到達目標

1.価値の多様化、情報化社会など、現代の状況から生じる道徳的課題を理解し、概説できる。
2.学習指導要領にある道徳教育の目標や内容、課題などについて理解し、概説できる。
3.道徳授業でのねらいの設定、展開や発問、評価の方法を理解し、概説できる。
4.国内外の道徳授業の、多様なアプローチを理解し、概説できる。
5.いじめなど学校教育の抱える問題について主体的に探究し、意見交換を通して思考を深めることができる。

使用教材

文部科学省「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」また、講義中に補助プリントを配布する。

参考文献

講義中に指示する。

評価方法

学生発表および模擬授業（50%）、講義中に作成する課題（50%）に参加態度などを加味して総合的に評価する。評価基準については、講義中に説明する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題内容については、講義中に学生発表、教員による紹介を行う。また学生発表については、学生による相互評価を取り入れる。

オフィスアワー

月曜日の3時限、金曜日の2時限。
（1号館6階601）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、道徳教育の目標と現代的な課題	1,2	シラバスを読み、講義の目標・内容を確認する。文部科学省HPから、指導要領解説をダウンロードし、「改訂の経緯」に目を通す。	1h	「特別の教科　道徳」への改訂理由と、主な変更点を理解する。	1h
2	道徳教育の変遷：戦前と戦後の道徳教育、「特別の教科　道徳」での改訂		配布プリントに目を通す。	1h	戦前の道徳教育の特徴、戦後の道徳教育の取り扱いの変遷を理解する。	1h
3	学習指導要領と道徳教育の位置づけ	2	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1h	指導要領改訂の具体的な内容、道徳性を構成する三要素を理解する。	1h
4	道徳性の発達論的理解と社会学的理解		配布プリントに目を通す。	1h	コールバーグ、デュルケムの理論と、それに基づいた教育の特徴を理解する。	1h
5	道徳のあり方：価値の多様性と共有	1	配布プリントに目を通す。	1h	価値の多様性や寛容の文化の特徴、共有可能な価値の特質を理解する。	1h
6	中等道徳教育の特性と道徳的課題①公徳心と社会的連帯	2	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1h	個人と社会のかかわりの意義、義務について理解する。	1h
7	中等道徳教育の特性と道徳的課題②相互理解と寛容	2	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1h	他者への理解、共感、相互に尊重することの意義を理解する。	1h
8	中等道徳教育の特性と道徳的課題③自律的判断と行動	2	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1h	自律の意味、範囲、意義について理解する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	学生発表（いじめ問題の現状と構造、有効な対処法について）	1,5	いじめが発生する心理、社会的背景や環境を調べる。	5h	グループワークの成果を踏まえて、課題を完成させる。	2h
10	道徳教育の実践①指導理論の分析（1）「価値の明確化」等	4	配布プリントに目を通す。	1h	価値の明確化授業の理論、授業展開、課題を理解する。	1h
11	道徳教育の実践②指導理論の分析（2）「モラルジレンマ授業」等	4	配布プリントに目を通す。	1h	モラルジレンマ授業の理論、授業展開、課題を理解する。	1h
12	道徳教育の実践③指導理論の分析（3）「モラルスキルトレーニング」等	4	配布プリントに目を通す。	1h	モラルジレンマ授業の理論、授業展開、課題を理解する。	1h
13	道徳教育の実践④教材研究の方法	3	配布プリントに目を通す。	1h	教科書、映像資料、書籍、新聞など多様な教材の取り扱い方を理解する。	1h
14	道徳教育の実践⑤指導案の作成方法と評価の方法	2,3	指導要領解説の該当箇所および配布プリントに目を通す。	1h	指導案作成の流れ、評価基準の設定方法などを理解する。	1h
15	模擬授業の発表と振り返り	1,2,3,4,5	模擬授業の指導案、ワークシート等を作成する。	10h	各自で模擬授業を振り返り、指導案に修正を加えて完成させる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンライン講義になった場合は、C-Leaning上で講義資料（PDF形式）の配布・課題提出で講義を行い、
模擬授業は指導案提出のみとします。

印刷 閉じる

幼小教育相談

英文名：Educational Counseling in Kindergartens and Elementary Schools
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU001
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

角野　善司

科目に関連した実務経験

カウンセラーとして臨床心理センターに勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①幼児や児童、その保護者等を対象とした相談活動で必要な基礎的事項を習得する。この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。
②授業期間全体を通じた授業の進め方：毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業は、難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。授業後には、復習課題に取り組むとともに、授業での学修を基に考察を深め、小レポートを作成し、提出することを求める。

到達目標

1.幼児児童の教育における教育相談の意義と理論を理解する。
2.幼児児童の教育において教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解す

る。　■
3.幼児児童の教育における教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。　■

使用教材

原田眞理（編著）「教育相談の理論と方法　改訂第２版」玉川大学出版部　2020年　2,400円＋税

評価方法

毎回の課題・小レポート60%、学期末レポート40%
※欠席は、回数に応じて減点する。
※総得点が60点以上であることに加え、毎回の課題・小レポートおよび学期末レポートの得点がいずれも配点の5割以上であることも、単位認定の条件とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

メールアドレス（#→@）

zsumino#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児児童の教育における教育相談の意義と課題	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。	1.5h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末レポートに向けた学修を始める。	1.5h
2	幼児児童の教育における教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念	1	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末レポートに向けた学修を重ねる。	1.5h
3	幼児児童の不適応や問題行動の意味／幼児児童の発するシグナルに気づき把握する方法　■	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
4	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(1): カウンセリングマインド　■	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
5	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(2): 受容・共感・傾聴　■	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
6	職種・校務分掌に応じた教育相談　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
7	学校・園における問題の理解と対応(1): いじめ　/　不登校　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	学校・園における問題の理解と対応(2): 学級崩壊　/　児童虐待　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
9	学校・園における問題の理解と対応(3): 非行　/　インターネットトラブル　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
10	学校・園における教育相談の年間計画および校内体制の整備　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
11	幼児児童の保護者に対する教育相談　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
12	地域の専門機関との連携　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
13	障害のある子どもの理解と対応　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
14	幼児児童に起こりやすい病気と対応　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
15	教員のメンタルヘルス　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

中学校教育相談

英文名：Educational Counseling in Junior High Schools
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU302
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

角野　善司

科目に関連した実務経験

カウンセラーとして臨床心理センターに勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①中学生およびその保護者等を対象とした相談活動で必要な基礎的事項を習得する。この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。
②授業期間全体を通じた授業の進め方：　講義形態は「講義」に分類されているが、「演習」の色彩が濃い授業と捉えてもらいたい。基本的に、毎回の授業は、[1] 講義 と [2] グループワーク の二相から構成される。[1]は2年前期科目「幼小教育相談」で学修したことと有機的に関連づけつつ、簡潔に進める。[2]は、時間が許す限り、授業テーマに関わるさまざまなワークを行う。

到達目標

1.中学校における教育相談の意義と理論を理解する。
2.中学校において教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。　■

3.中学校における教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。　■

使用教材

なし

参考文献

原田眞理（編著）「教育相談の理論と方法　改訂第２版」玉川大学出版部　2020年　2,400円＋税
※2年前期必修科目「幼小教育相談」においても使用。

評価方法

平常点（ワーク・ロールプレイ等への積極的参加度、小レポート）60%、学期末レポート40%。
※欠席は、回数に応じて減点する。
※総得点が60点以上であることに加え、平常点および学期末レポートの得点がいずれも配点の5割以上であることも、単位認定の条件とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

小レポートは毎回授業時に、学期末レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

メールアドレス（#→@）

zsumino#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	中学校における教育相談の意義と課題	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。事前配布資料を精読する。	1.5h	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末レポートに向けた学修を始める。	1.5h
2	中学校における教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念	1	事前配布資料を精読する。	1.5h	配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末レポートに向けた学修を重ねる。	1.5h
3	生徒の不適応や問題行動の意味／生徒の発するシグナルに気づき把握する方法　■	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
4	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(1): カウンセリングマインド　■	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
5	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(2): 受容・共感・傾聴　■	2	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
6	職種・校務分掌に応じた教育相談　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
7	中学校における問題の理解と対応(1): いじめ　■	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	中学校における問題の理解と対応(2): 不登校　■	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
9	中学校における問題の理解と対応(3): 非行　■	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
10	中学校における問題の理解と対応(4): インターネットトラブル　■	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
11	中学校における教育相談の年間計画および校内体制の整備　■	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
12	中学校における教育相談の年間計画および校内体制の整備　■	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
13	地域の専門機関との連携　■	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
14	障害のある生徒の理解と対応／生徒に起こりやすい病気と対応　■	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
15	教員のメンタルヘルス　■	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

生徒指導論Ａ

英文名：Student Guidance A
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU206
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

角野　善司

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○	○	○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①小学校教育において、学習指導と並ぶ重要な教育活動である生徒指導を効果的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。
②授業期間全体を通じた授業の進め方：　基本的に、毎回の授業は、 [1] 教科書の該当箇所に関する講義 と [2] 授業テーマと関連したグループディスカッション　の二相から構成される。[1]は、予習をしてあることを前提とするので、簡潔に進める。[2]は、小学校教育基礎実習での経験なども振り返りつつ積極的に討論してもらいたい。

到達目標

1. 生徒指導の意義や原理を理解する。
2. すべての児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
3. 児童の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

使用教材

文部科学省「生徒指導提要」（令和4年改訂版）
https://tinyurl.com/4pd8uat9

評価方法

毎回の課題45%（3点× 15回）、学期末筆記試験30%、学期末レポート 25%

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回の課題・小レポートは授業時に、学期末筆記試験・レポートは事後に講評解説の機会を設ける。

オフィスアワー

初回授業時に告知するとともに、研究室ドアに掲出する（8号館405室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育課程における生徒指導の位置付け	1	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。	1.5 h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を始める。	1.5 h
2	集団指導・個別指導の方法原理	1	教科書の該当箇所および事前配布資料を精読する。予習課題に解答する。	1.5 h	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学修を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。学期末試験・レポートに向けた学修を重ねる。	1.5 h
3	各教科・道徳教育における生徒指導	1	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
4	総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導	1	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
5	生徒指導と教育相談	1	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
6	生徒指導の意義や原理に関する総括	1	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
7	学校における生徒指導体制	2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
8	基本的な生活習慣の確立／規範意識の醸成に関する指導	2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
9	自己の存在感が育まれるような場や機会の設定	2	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
10	生徒指導上の課題及び対応(1):暴力行為	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h
11	生徒指導上の課題及び対応(2):いじめ	3	第2回に同じ	1.5 h	第2回に同じ	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	生徒指導上の課題及び対応(3):不登校	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
13	生徒指導上の課題及び対応(4):今日的な生徒指導上の課題	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
14	生徒指導に関する法制度等	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h
15	学校と家庭・地域・関係機関との連携	3	第2回に同じ	1.5h	第2回に同じ	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

毎回の予習が、知識獲得の中心である。その意識を強く持って、取り組んでもらいたい。対面授業における講義は難解な箇所に関する追加的な解説に重点を置く。

印刷 閉じる

キャリア教育論

英文名：Theory and practice of career education
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：D016
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：1単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

吉田　浩之

科目に関連した実務経験

公立学校教員（経験），教育委員会のアドバイザー及び委員等（現在）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：　小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○				○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

キャリア教育・進路指導の意義や目的を理解した上で，日常的な指導のあり方や方法を踏まえ，さらに，今日的な生キャリア教育・進路指導の課題に対する学級・ホームルーム経営のあり方，家庭や地域，関係機関との連携等を取り上げながら，キャリア教育・進路指導の基本事項の理解と今日的課題に対応する実践力が高まるよう，テキスト及び配付資料を通じて具体例を示し、学生相互の討議・発表等を取り入れ、講義を進める。

到達目標

１．キャリア教育・進路指導の意義や原理の理解に基づき，社会的・職業的な自立に向けた資質・能力の育成を支える実践方法を述べる　ことができる。
２．キャリア教育・進路指導に関連する規定及び事例を踏まえ，事案に対応する実践方法を述べることができる。■
３．学級・ホームルーム担任の立場からキャリア教育・進路指導の指導計画を構想することができる。■

使用教材

吉田浩之『令和版　生徒指導・キャリア教育の理解と実際』（北樹出版）　2025年3月刊行予定（本を持参し講義に参加のこと。）

参考文献

小・中・高校学習指導要領解説・総則編，小・中・高校学習指導要領解説・特別活動編

評価方法

毎時の理解度確認シートの内容（60%），レポート内容（20%），発表・対話的学びの内容（20%）

課題・評価に対するフィードバック方法

・前時の理解度確認シート記述状況について、次時に取り上げ、全体あるいは個別に解説する。
・課題提出前後に，出題意図を説明する。

オフィスアワー

質問等がある場合は授業前後や右記メール等で応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育課程におけるキャリア教育・進路指導の位置付け	1	テキスト本（第11キャリア教育・進路指導とは）を読み，概要を理解しておくこと。	1	本時確認シートをまとめておくこと。	2
2	キャリア教育・進路指導における組織的な指導及び家庭や関係機関等との連携	1	テキスト本（第12キャリア教育の充実）を読み，概要を理解しておくこと。	1.5	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5
3	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育・進路指導■	1，2，3	テキスト本（第13特別活動におけるキャリア教育）を読み概要を理解しておくこと。	1.5	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5
4	キャリア教育・進路指導の実践方法とキャリア・パスポートの活用■	2	テキス本（第14キャリア・パスポートの活用）を読み，概要を理解しておくこと。	1.5	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5
5	キャリア教育の授業の学習指導案の作成■	3	テキスト本（第15キャリア教育の学習指導案）を読み，概要を理解しておくこと。	1.5	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5
6	キャリア教育・進路指導の指導計画の作成■	3	テキスト本（第15キャリア教育の学習指導案）を読み，概要を理解しておくこと。	1.5	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5
7	キャリア形成の視点に立った評価■	2	テキスト本（第16キャリア教育の教材）を読み，概要を理解しておくこと。	1.5	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5
8	社会的・職業的自立に向けたキャリア教育・進路指導の総括■	1，2，3	テキスト本（第11～16）を読み，総合的に内容を理解しておくこと。	1.5	本時確認シートをまとめておくこと。	1.5

合計時間（予習・復習）

24時間

備考

実務経験に基づく内容を講義において取り上げる。講義内容とテキストは一体となっているため，テキスト持参で講義に参加すること。

印刷 閉じる

中等生徒指導論

英文名：Secondary Student Guidance
科目区分：保育及び教育の対象理解
科目ナンバリング：CEU303
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

北村　陽

科目に関連した実務経験

教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

生徒指導は、学校教育において学習指導（教科指導）と並ぶ重要な領域として位置づけられる。この授業では、学校における教師の生徒指導について、理論と実践の両面から考察していく。授業の進め方は、各テーマについて担当教員の解説（説明）から学ぶだけではなく、学んだことに対する受講者自身の考えや意見を毎回リアクションペーパー上で活字化し、まとめあげること等を通じて理解の深化を図る。

到達目標

1.生徒指導の理論について理解している。
2.生徒指導について実践的に思考することができる。■
3.生徒指導に関わる事例や情報を、文献や資料、メディア等から幅広く収集し、課題に対して意欲的に取り組むことができる。

使用教材

『生徒・進路指導の理論と方法』（工藤亘・藤平敦編著、玉川大学出版部、2024年、2,500円（税別））

参考文献

『生徒指導提要（改訂版）』（令和4年12月　文部科学省）

評価方法

レポート50%、リアクションペーパー45%（3%×15回）、科目に関係した作文課題5%により、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題における受講者の解答（回答）に対し、様々な見解を紹介しながらコメントをする。

オフィスアワー

月曜5限、金曜5限(9号館305研究室)

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、中等教育における生徒指導の位置づけ	1,3	シラバスを読み毎回の授業内容を確認し、生徒指導の必要性などを考えておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、生徒指導を学ぶ意味を理解する。	1.5h
2	校則・生徒心得について■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、校則・生徒心得について理解する。	1.5h
3	懲戒・体罰について■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、懲戒・体罰について理解する。	1.5h
4	不登校・ひきこもりについて■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、不登校・ひきこもりについて理解する。	1.5h
5	いじめについて■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、いじめについて理解する。	1.5h
6	非行について■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して授業の概要を確認し、非行について理解する。	1.5h
7	生徒指導における情報教育■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導における情報教育について理解する。	1.5h
8	生徒指導と学習指導■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と学習指導の関連性について理解する。	1.5h
9	生徒指導における家庭・地域・社会との連携■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導を巡る連携のあり方について理解する。	1.5h
10	キャリア教育の意義と理論	1,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の意義と理論について理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	キャリア教育の進め方■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、キャリア教育の進め方について理解する。	1.5h
12	生徒指導と教育相談■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と教育相談の関連性について理解する。	1.5h
13	中学校でのキャリア教育■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、中学校でのキャリア教育について理解する。	1.5h
14	高等学校でのキャリア教育■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、高等学校でのキャリア教育について理解する。	1.5h
15	生徒指導と生涯学習■	1,2,3	講義内容に関連する項目について、関係する文献・資料などで調べておく。	1.5h	資料を再読して概要を確認し、生徒指導と生涯学習の関連性について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習については、使用教材である『生徒・進路指導の理論と方法』等を活用し、補完してください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

保育実習Ⅰ（保育所）

英文名：Theory and Practice of Career Education and Care Ⅰ(Nursery)
科目区分：実習
科目ナンバリング：E001
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木典彰　今井 麻美　大塚 恵美子　石川　徹

科目に関連した実務経験

石川：保育士として公立保育所、幼稚園教諭として私立幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

実習日誌に対してコメントを付し返却し、実習終了後の面談にて、実習の振り返りや質疑応答等の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育実習Ⅰ（保育所）を通じて保育士の業務内容や職業倫理についての知識および技術習得をめざす。また、保育専門職としての健康管理能力や責任感を身につけさせる。実習の具体的目標は以下のとおりとする。
【保育所における実習】
子どもと関わることを通して，子どもへの理解を深めるとともに，保育所の機能や保育士の業務内容，職業倫理を具体的に学ぶ。

到達目標

1.保育所の目的や職員の役割などを具体的に説明できる。■
2.観察やかかわりを通して利用児の状態像を多面的に把握し、説明できる。
3.保育所における職務を理解し行動できる。■

使用教材

実習先により適宜

評価方法

実習日誌50%と評価票50%より総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育所に概ね2週間（1日8時間、週5～6日）11日間程度通う。上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。	1.2.3	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	適宜	実習日誌の記入。実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、事例検討用資料準備	適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考

履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。
また、実習後は事例検討会を予定しているため、実習後に自身の事例を整理しておくことを勧める。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

保育実習Ⅰ（施設）

英文名：Practice in Early Childhood Education and Care Ⅰ(Social welfare facilities)
科目区分：実習
科目ナンバリング：E002
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択
単位数：2単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木典彰　今井 麻美　大塚 恵美子　石川　徹　石原 綱成　野田 敦史　富田 純喜

科目に関連した実務経験

野田：指導員（社会福祉士・介護福祉士）として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務（経験）
石川：保育士として公立保育所、幼稚園教諭として私立幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

実習日誌に対してコメントを付し返却し、実習終了後の面談にて、実習の振り返りや質疑応答等の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育実習Ⅰを通じて保育士の業務内容や職業倫理についての知識および技術習得をめざす。また、保育専門職としての健康管理能力や責任感を身につけさせる。各実習種の具体的目標は以下のとおりとする。

【保育所における実習】
子どもと関わることを通して，子どもへの理解を深めるとともに，保育所の機能や保育士の業務内容，職業倫理を具体的に学ぶ。
【児童福祉施設等における実習】
生活や支援活動に参加し、児童・利用者との関わりや支援活動を通して児童・利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設などの機能や保育士・施設職員の役割及び職務内容などに関する知識・技術習得をめざす。

到達目標

1.保育所、児童福祉施設の目的や職員の役割などを具体的に説明できる。■
2.観察やかかわりを通して利用児者の状態像を多面的に把握し、説明できる。
3.保育所、児童福祉施設における職務を理解し行動できる。■

使用教材

実習先により適宜

評価方法

実習日誌50%（保育所25%，施設25%）と評価票50%（保育所25%，施設25%）より総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育所に概ね2週間（1日8時間、週5～6日）11日間程度通う、また児童福祉施設等に概ね2週間（1日8時間、週5～6日）11日間程度、宿泊もしくは通う。上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。	1,2,3	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認	適宜	実習日誌の記入。実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備	適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考

履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。
また、報告会を適宜予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成に着手することを勧める。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

保育実習指導Ⅰ（保育所）

英文名：Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care Ⅰ(Nursery)
科目区分：実習
科目ナンバリング：E003
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木　典彰　今井 麻美　大塚 恵美子　石川　徹

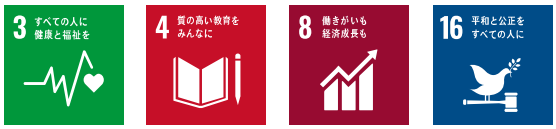
科目に関連した実務経験

石川：保育士として公立保育所、幼稚園教諭として私立幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育実習Ⅰ（保育所）に向けて円滑に準備ができ、実習中および実習後の学びの深化をめざす。具体的には以下を目標とする。
・保育実習の意義、目的を理解する。
・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

到達目標

1.事前に保育所の役割や機能を理解し、実習場面をイメージした目標や行動指針が立てられるようになる。■
2.子どもとの関わりや観察を通した記録、振り返りができるようになる。■
3.今後の実習に向け具体的な学習と目標設定ができるようになる。

使用教材

高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育実習の手引」その１、その２
保育所保育指針解説：厚生労働省編著(フレーベル館)　2018年320円+税
OHC（書画映写機）、スライド、DVDビデオ等も使用する。

評価方法

提出課題 60%、平常点　40%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題は、コメントを付けて返却する。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育所実習に向かう心構えと準備	1	1年次の実習を振り返り、自身の課題を明確化する。	0.375h	授業内容を踏まえ、実習に向けて必要な準備について整理する。	0.375h
2	保育所実習の実習先を決めるに向けて	1	希望する実習先を調べる。	0.375h	実習先の候補園の保育内容を調べる。	0.375h
3	保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める　①乳児	1,2	保育所保育指針解説p.89～90を読み、乳児の発達とその配慮について予習する。	0.375h	保育所保育指針解説p.118～120を読み、乳児への援助と配慮について復習する。	0.375h
4	保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める　②1歳以上3歳未満児	1,2	保育所保育指針解説p.121～122を読み、1歳以上3歳未満児の発達とその配慮について予習する。	0.375h	保育所保育指針解説p.180～181を読み、1歳以上3歳未満児への援助と配慮について復習する。	0.375h
5	保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める　③3歳以上児	1,2	保育所保育指針解説p.182～183を読み、3歳以上児の発達とその配慮について予習する。	0.375h	保育所保育指針解説p.282～284を読み、3歳以上児の発達とその配慮について復習する。	0.375h
6	保育所実習の日誌の書き方　①時系列の記録について■	1,2	1年次に記録した実習日誌を読み返し、自身の課題を明確化する。	0.375h	自身の課題に合わせて、授業内容を踏まえて、保育記録の留意点を復習する。	0.375h
7	保育所実習の日誌の書き方　②エピソード記録について■	1,2	「教育・保育実習の手引」の該当箇所を読み予習する。	0.375h	記録する上での留意点を復習する。	0.375h
8	保育所実習の日誌の書き方　③環境について■	1,2	「教育・保育実習の手引」の該当箇所を読み予習する。	0.375h	記録する上での留意点を復習する。	0.375h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	保育所実習の目的と意義	1,2	「教育・保育実習の手引」の該当箇所を読み予習する。	0.375h	授業内容を踏まえ、自己課題を考える。	0.375h
10	保育所実習に向けての自己課題	1,2	自己課題を整理する。	0.375h	自己課題を完成させる。	0.375h
11	保育所実習に向かうための手続きや諸準備	1,2	「教育・保育実習の手引き」の該当箇所を読み予習する。	0.375h	保育所実習に向かうための手続きや諸準備に関する今後の計画を確認する。	0.375h
12	保育所実習の指導案の作成■	1,2	責任実習に使用したい指導案を作成する。	0.375h	指導を踏まえて、指導案を修正する。	0.375h
13	保育所実習事後指導　①実習態度に対する振り返り	3	実習日誌を読み、自身の実習態度を振り返る	0.375h	次の実習に向けた自己課題を考える	0.375h
14	保育所実習事後指導　②実習内容に対する振り返り	3	実習日誌を読み、自身の実習内容を振り返る。	0.375h	次の実習に向けた自己課題を考える。	0.375h
15	保育所実習事後指導　③事例検討	3	実習日誌を読み、印象に残った子どもの姿や場面を振り返る。	0.375h	次の実習に向けた自己課題を整理する。	0.375h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

保育実習指導Ⅰ（施設）

英文名：Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care Ⅰ(Social walfare facilities)
科目区分：実習
科目ナンバリング：E004
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野田 敦史　石原 綱成　富田 純喜 大塚 恵美子

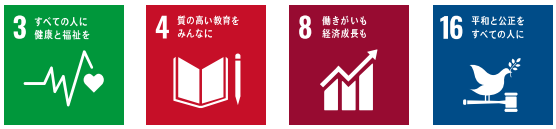
科目に関連した実務経験

野田：指導員（社会福祉士・介護福祉士）として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育実習Ⅰに向けて円滑に準備ができ、実習中および実習後の学びの深化をめざす。具体的には以下を目標とする。
・保育実習の意義、目的を理解する。
・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

到達目標

1.事前に保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実習場面をイメージした目標や行動指針が立てられるようになる。■
2.子ども・利用者との関わりや観察を通した記録、振り返りができるようになる。■
3.今後の実習に向け具体的な学習と目標設定ができるようになる。

使用教材

高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育実習の手引」その１、その２
保育所保育指針解説：厚生労働省編著(フレーベル館)　2018年320円+税
教科書：喜多一憲　他　編　保育士養成課程　五訂　福祉施設実習ハンドブック
OHC（書画映写機）、スライド、DVDビデオ等も使用する。

評価方法

提出課題 40%、ディスカッションへの参加度30%、平常点（出席、授業態度）30%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題は、コメントを付けて返却する。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	施設実習に向かう心構えと配属に向けて■	1	教育・保育実習の手引」その2全体編を読んでおく。	0.5h	配布資料に基づき各児童福祉施設の目的・実習の特徴を調べる。	0.5h
2	施設実習の配属調整・決定	1	前回授業時の配布資料を確認し配属希望が出せるようにしておく。	0.5h	配属実習種別の運営指針をダウンロードし目を通しておく。	0.5h
3	施設実習に関連する事務手続きとスケジュール・体調管理	1,2	「教育・保育実習の手引」その１を読んでおく。	0.5h	個人票の記入・提出。実習スケジュール自己管理表の記入・確認。	0.5h
4	施設実習の目的・目標・内容■	1,2	「教育・保育実習の手引」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅰ、Ⅱを読んでおく。	0.5h	施設実習の目的・目標などを理解する。	0.5h
5	施設実習の実際　①実習施設の事前学習■	1,2	「教育・保育実習の手引」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5h	施設種別の特徴、実習の相違点について理解する	0.5h
6	施設実習の実際　②事前オリエンテーションと準備物■	1,2	「教育・保育実習の手引」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5h	事前オリエンテーションに向けた手順、内容、留意点を理解する。	0.5h
7	施設実習の実際　③施設実習日誌の書き方■	1,2	「教育・保育実習の手引」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5h	施設実習日誌の書き方と留意点などを理解する。	0.5h
8	施設実習の実際　④実習中の心構え■	1,2	「教育・保育実習の手引」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅳを読んでおく。	0.5h	実習中におけるトラブルシューティングを理解する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	施設実習の実際　⑤事後指導の内容と方法	1,2	「教育・保育実習の手引」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅴを読んでおく。	0.5h	事後指導の内容と方法を理解する。	0.5h
10	施設実習事後集団指導　①報告書の作成および指導	1,2	実習報告書の下書きを完成させる。	0.5h	添削指導のコメントをもとに加筆修正および報告会発表準備をする。	0.5h
11	施設実習事後集団指導　②実習報告会　（児童養護施設）■	1,2	報告会発表準備をする。	0.5h	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5h
12	施設実習事後集団指導　③実習報告会　（乳児院・母子生活支援施設）■	1,2	報告会発表準備をする。	0.5h	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5h
13	施設実習事後集団指導　④実習報告会　（障害児入所施設・障害者支援施設）■	3	報告会発表準備をする。	0.5h	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5h
14	施設実習事後個別指導　①（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）■	3	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.5h	選択実習に向けたリフレクションカードの記入。	0.5h
15	施設実習事後個別指導　①（障害児入所施設・障害者支援施設）■	3	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.5h	選択実習に向けたリフレクションカードの記入。	0.5h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

保育実習Ⅱ（保育所）

英文名：Practice in Early Childhood Education and Care Ⅱ（Nursery）
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF155
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択
単位数：2単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木　典彰　　大塚　恵美子　今井　麻美　石川　徹

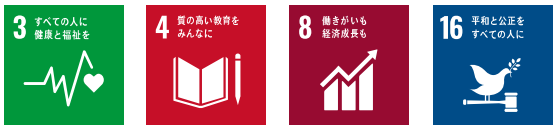
科目に関連した実務経験

石川：保育士として公立保育所、幼稚園教諭として私立幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

実習日誌に対してコメントを付し返却する。実習終了後の面談にて，実習の振り返りや質疑応答等の時間を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育所での実習を通して，乳幼児に対する保育実践，保護者支援を総合的に理解し，自らの実践力の向上をめざす。

到達目標

1.自分なりの課題や問題意識を持ちながら実習に取り組むことができる。
2.一人一人に応じる保育方法や援助方法について，試行錯誤する姿勢を持てる。■
3.実習における自己の課題を明確化する。

使用教材

高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その１，その２
OHC（書画映写機），スライド，DVDビデオ等も使用する。

評価方法

実習日誌 50%，評価票50%より総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

事後指導において実習日誌，評価表，提出物等を材料に適宜，口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは，他の科目で確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育所に概ね2週間（1日8時間，週5～6日）11日間程度通う。上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。	1,2,3	実習先に関する予習，実習指導で準備した資料の確認	実習中適宜	実習日誌の記入。実習先で教わったことの再確認，現場で得た実体験のまとめ，報告会用資料準備	実習中適宜

合計時間（予習・復習）

実習中適宜

備考

実習要件を確認した上で，履修すること。また，実習指導の履修登録が必要。予習，復習に必要な時間は特に明記しないが，実習期間中は現場に入る前に必ず学んだことや調べたことをチェックし，帰宅後も必ず思い出して指示されたことや学んだことを書き出すなどの行為が必要である。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

保育実習Ⅲ（施設）

英文名：Practice in Early Childhood Education and Care III(Welfare Facilities)
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF157
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択
単位数：2単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野田　敦史■／富田　純喜／大塚　恵美子

科目に関連した実務経験

社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務（野田）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育実習Ⅰで習得した保育士の業務内容や職業倫理についての基本的な知識・技術を踏まえて、より高度な保育・養護実践の経験を通じて汎用性のある実践力を養うことをめざす。具体的目標は以下のとおりとする。
1.児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。■
2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。■

3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。■
4.保育士としての自己の課題を明確化する。

到達目標

1.児童福祉施設の目的や職員の役割などを具体的に説明できる。
2.観察やかかわりを通して利用児者の状態像を多面的に把握・アセスメントできる。
3.利用児者の生活課題を抽出し個別の支援計画を立案できる。
4.児童福祉施設における職務・倫理を理解し社会福祉援助技術実践ができる。

使用教材

実習先により適宜

参考文献

高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育実習の手引き その2」

評価方法

実習日誌、評価票、提出物により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。

オフィスアワー

火曜２限と金曜1限、質問はメールでも受け付ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育実習Ⅲに規定する施設・事業所で実習を行う	1,2,3,4	保育実習指導Ⅲ及び実習先から提示された課題に取り組む	実習中適宜	保育実習指導Ⅲ及び実習報告書を作成する	実習中適宜

合計時間（予習・復習）

実習中適宜

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

保育実習指導Ⅱ(保育所)

英文名：Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care II
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF156
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

佐々木　典彰　　大塚　恵美子　今井　麻美　石川　徹

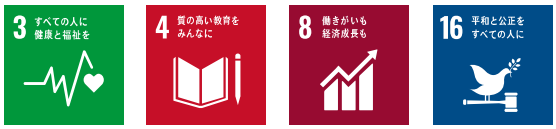
科目に関連した実務経験

石川：保育士として公立保育所、幼稚園教諭として私立幼稚園に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ，乳幼児に対する保育実践，保護者支援に対する理解を総合的に深め，実践力を養う。保育の記録，および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。その際，教員や仲間と対話しながら学びを深めることを大事に授業を進める。

到達目標

1.保育実習Ⅰや既習の教科の内容を踏まえ，事前指導において，自己の課題を明確にすることができる。
2.保育の様々な記録様式を学び，それぞれの利点と欠点について理解することができる。■
3.自身の保育実践を多角的な視点から省察する態度を持つことができる。■

使用教材

高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その１，その２
保育所保育指針解説

評価方法

提出課題 70%，平常点 30%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題にはコメントを付けて返却する

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育実習Ⅱの目的と意義	1	「保育・教育の手引き」の該当箇所を読み予習する	0.375h	保育実習Ⅱの目的と意義について理解を深める	0.375h
2	実習園決定に向けて	1	希望する実習先を考えたり，調べたりする	0.375h	実習先の候補園の保育内容を調べる	0.375h
3	保育実習Ⅰの振り返り　①記録■	1,3	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り，自身の課題を考える	0.375h	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する	0.375h
4	保育実習Ⅰの振り返り ②自身の子どもへの関わり■	1,3	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り，自身の課題を考える	0.375h	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する	0.5h
5	保育実習Ⅰの振り返り　③3歳未満児の保育実践■	1,3	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り，疑問点などを明らかにする	0.375h	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する	0.375h
6	保育実習Ⅱの実習日誌における記録方法　①新たな記録方法を学ぶ■	1,2,3	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り，自身の課題を明確にする	0.375h	新たな記録方法を復習する	0.375h
7	保育実習Ⅱの実習日誌における記録方法　②新たな記録方法で記録してみる■	1,2,3	これまで学んだ記録方法について，それぞれにおけるメリットデメリットについて考える	0.375h	新たな記録方法の留意点を整理して理解を深める	0.375h
8	保育所実習に向けての自己課題	1,2,3	保育実習Ⅱの自己課題を考える	0.375h	保育実習Ⅱの自己課題を明確化する	0.375h
9	保育実習Ⅱに向かうための手続きや諸準備	1	「教育・保育の手引き」の該当箇所を読み予習する	0.375h	保育実習Ⅱに向かうための手続きや諸準備に関する今後の予定を確認する	0.375h
10	事後指導　①グループディスカッション　自身の子どもへの関わり■	1,2,3	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.375h	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.375h
11	事後指導　②グループディスカッション　保育者の援助から学んだこと■	1,2,3	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.375h	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.375h
12	事後指導　③グループディスカッション　子どもの経験と保育環境	1,2,3	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.375h	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.375h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	事後指導　④グループディスカッション　記録	1,2,3	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.375h	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.375h
14	事後指導　⑤グループディスカッション　責任実習	1,2,3	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.375h	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.375h
15	事後指導　⑥　まとめ	1,2,3	グループディスカッションを通して，気づいた自己課題を整理する	0.375h	保育士としての自己の課題を明確化する	0.375h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

保育実習指導Ⅲ(施設)

英文名：Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care III
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF158
学年：4年
開講期：前期
選択・必修：保育・教育コース選択
単位数：1単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

野田　敦史■／富田　純喜／大塚　恵美子

科目に関連した実務経験

社会福祉士・介護福祉士・指導員として障害児入所施設・障害者支援施設に勤務（野田）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保育実習Ⅲに向けて円滑に準備ができ、実習中および実習後の学びの深化をめざす。具体的には以下を目標とし、各授業回で配布する資料や、提示する視聴覚教材をもとに説明・解説し、課題シート等への記述を通じた演習を実施する。アクティブラーニングの方法を用いたグループワークも行う。
・保育実習の意義、目的を理解する。
・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。

・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

到達目標

1.事前に児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実習場面をイメージした目標や行動指針が立てられるようになる。
2.子ども・利用者との関わりや観察を通した記録、振り返りができるようになる。
3.社会福祉援助技術を活用した保育実践ができるようになる。 ■

使用教材

高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育実習の手引き その1，その2」
保育所保育指針解説書
教科書： 山根 希代子　他　著 全国児童発達支援協議会 (監修), 障害児通所支援ハンドブック
OHC（書画映写機），スライド、DVDビデオ等も使用する。

参考文献

適宜、授業で紹介する。

評価方法

実習日誌、評価票、提出物により総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題は，コメントを付けて返却する。

オフィスアワー

火曜２限と金曜1限、質問はメールでも受け付ける。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	施設実習に向かう心構えと配属に向けて■	1	「教育・保育実習の手引き」その2全体編を読んでおく。	0.3h	配布資料に基づき各児童福祉施設の目的・実習の特徴を調べる。	0.45h
2	施設実習の配属調整・決定	1	前回授業時の配布資料を確認し配属希望が出せるようにしておく。	0.3h	配属実習種別の運営指針をダウンロードし目を通しておく。	0.45h
3	施設実習に関連する事務手続きとスケジュール・体調管理	1	「教育・保育実習の手引き」その１を読んでおく。	0.3h	個人票の記入・提出。実習スケジュール自己管理表の記入・確認。	0.45h
4	施設実習の目的・目標・内容■	1,2	「教育・保育実習の手引き」その2保育実習Ⅲ（施設）の部Ⅰ，Ⅱを読んでおく。	0.3h	施設実習の目的・目標などを理解する。	0.45h
5	施設実習の実際　①実習施設の事前学習■	1,2	「教育・保育実習の手引き」その2保育実習Ⅲ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.3h	施設種別の特徴、実習の相違点について理解する	0.45h
6	施設実習の実際　②事前オリエンテーションと準備物■	1,2	「教育・保育実習の手引き」その2保育実習Ⅲ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.3h	事前オリエンテーションに向けた手順、内容、留意点を理解する。	0.45h
7	施設実習の実際　③施設実習日誌の書き方■	1,2	「教育・保育実習の手引き」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.3h	施設実習日誌の書き方と留意点などを理解する。	0.45h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	施設実習の実際　④実習中の心構え■	1,2	「教育・保育実習の手引き」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅳを読んでおく。	0.3h	実習中におけるトラブルシューティングを理解する。	0.45h
9	施設実習の実際　⑤事後指導の内容と方法	2,3	「教育・保育実習の手引き」その2保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅴを読んでおく。	0.3h	事後指導の内容と方法を理解できる。	0.45h
10	施設実習事後集団指導　①報告書の作成および指導	2,3	実習報告書の下書きを完成させる。	0.3h	添削指導のコメントをもとに加筆修正および報告会発表準備をする。	0.45h
11	施設実習事後集団指導　②実習報告会　（児童養護施設・乳児院）	2,3	報告会発表準備をする。	0.3h	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.45h
12	施設実習事後集団指導　③実習報告会　（児童発達支援センター）	2,3	報告会発表準備をする。	0.3h	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.45h
13	施設実習事後集団指導　④実習報告会　（障害児入所施設・障害者支援施設）■	2,3	報告会発表準備をする。	0.3h	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.45h
14	施設実習事後個別指導　①（乳児院・児童養護施設）	2,3	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.3h	リフレクションカードの記入。	0.45h
15	施設実習事後個別指導　①（障害児入所施設・障害者支援施設　その他の施設）	2,3	個別指導の質問を想定したレクチャーの練習。	0.3h	保育実習Ⅲ総括レポートの作成	0.45h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

幼稚園教育基礎実習

英文名：Basic Teaching Practice in Kindergarten
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF101
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修/教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　邦枝　山西　加織　内田　祥子

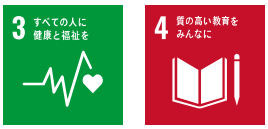
科目に関連した実務経験

非常勤講師として幼稚園に勤務（経験：今井）
現職の幼稚園教諭をゲストスピーカーとして招く(2回)

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

幼稚園教育基礎実習とは、幼稚園に出向いて1週間の教育実習をするもので、幼稚園での教師の役割や幼児の実態等について主に観察を通じて学ぶことが目的である。
また、幼稚園教育実習事前事後指導では、スムーズに実習に取り組めるよう実習の事前準備を行い、実習後には報告会などを通じて実習での学びの定着と課題の意識化をはかる。
授業は講義形式及びグループワーク形式で実施する。

到達目標

1.実習のねらいを理解し、自己課題を明確にする
2.実習に向けて主体的に準備に取り組む
3.日誌の記載方法を理解し、適切に記載できる■
4.幼稚園生活の流れ、幼児の実態、教師の役割を理解し、説明できる■
5.事後指導では、グループワークを通じて実習での経験を共有すると共に、自らの学びを振り返ることで課題を明確にする■

使用教材

「幼稚園教育要領解説」「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」「教育・保育実習の手引き　その一、その二」

参考文献

授業内で提示する.

評価方法

実習園における評価をもとに、事前事後指導への取り組み、実習記録の記入状況、実習報告会の内容を参考にしながら、実習担当者が総合的に評価する。事前指導30%、事後指導20%、実習評価50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出課題にはコメントをつけて返却する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には，授業開始もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・事前指導では、幼稚園教育基礎実習のねらいをふまえ、実習の自己課題を明確にする。また実習に向けて、課題に取り組んだり、必要な手続きを確認したり、実習生として相応しい態度を身に付ける。■ ・実習では、主に観察実習を通じて、幼稚園での教師の役割や幼児の実態等、一日の保育の流れ等について主に学ぶ。また毎日日誌を記載し、園に提出をする。 ・事後指導では、基礎実習での学びを、グループワークなどを通じて振り返り共有することで、新たな課題意識を持つことを目指す。■	1,2,3,4,5	事前に「実習の手引き」の該当部分を読んでくること。		実習に必要な課題や実習の準備、実習中の日誌提出、実習後の課題提出	

備考

・提出物は期日厳守で提出すること。
・無断での遅刻欠席は厳禁。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

小学校教育基礎実習

英文名：Basic Teaching Practice in Elementary School
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF201
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：1単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大橋博　佐藤和貴　菅野陽太郎

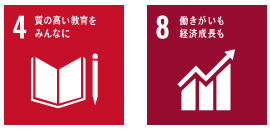
科目に関連した実務経験

大橋：小学校教諭として小学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○		○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①小学校教員免許取得のため必須となる3週間の小学校教育実習（以下、本実習）の基礎基本を身につけるため、1週間の小学校教育実習を行い、本実習で小学生に授業を行う上での目標を確立する。
②実習事前指導では、実習の手引き等の資料で実習の事前指導を行う。実習事後指導では、本実習生の実習報告会に参加し、基礎実習で見てきたことと比較しながら振り返り、本実習への目標レポートを作成する。

到達目標

1.小学校教員の授業を中心とした仕事や児童との関わり方について、観察や簡単な体験を行うことを通して、大学での学修に一層の動機づけをすることができる。
2.小学校教員の授業を中心とした仕事や児童との関わり方について、観察や簡単な体験を行うことを通して、学校・教育・教師・児童への理解を深めることができる。
3.小学校教員の仕事について、教師の目線で考えることができる。■

使用教材

『教育・保育実習の手引　その1（心構え・事務手続き　共通編）』(高崎健康福祉大学人間発達学部)
『教育・保育実習の手引　その2（事前・事後指導編）』(高崎健康福祉大学人間発達学部)

参考文献

参考となる文献については、各教員がその都度紹介する。

評価方法

実習の評価（実習校による評価、実習日誌等）（90%）、事前事後指導の評価（課題レポート等の提出状況および内容、実習報告会リアクションペーパー、授業参加度等）（10%）。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された課題（実習日誌や目標レポート等）に評価コメントなどを行う。

オフィスアワー

大橋：　月曜1限、火曜2限
（9号館3階302研究室）
佐藤：火曜2限 火曜5限
（8号館5階503研究室）
菅野：水曜2限 金曜2限
（8号5階 508研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習前は、実習の準備や実習校との打ち合わせ方を指導する。また、実習校の教育方針等を理解させ、言葉遣い・接遇等について指導する。■ ・実習中は実習校の担当教員の指導を踏まえ、大学の担当教員は実習生の実態に応じてEメール等を用いながら実習生に対する指導を行う。 ・実習後は、実習報告会参加などを通して、基礎実習での学びが今後の学修・進路にどのような意味をもつことができたかを考え、本実習までの学修計画を考える。■	1,2,3	・事前指導時に伝えられたことを行う。 ・実習校から受けた指示を準備する。 ・日誌の事前に書くべきところを書いておく。	2h	・実習日誌に記述不十分な箇所がないか確認し、適宜加筆修正完成させ、提出する。 ・実習報告会参加等を受け、本実習までの学修計画を考える。	3h

合計時間（予習・復習）

5h

備考

・提出物等は、期日時間厳守。
・実習日誌については、実習校の指導担当教員に提出して指導を受けること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

中学校教育基礎実習

英文名：Basic Teaching Practice in Junior High School
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF301
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：教員養成コース選択
単位数：1単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木文也・姉﨑達夫・松田幸子

科目に関連した実務経験

鈴木・姉崎：英語教師として中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

中学校教員免許（英語）を取得するにあたって、中学校に出向いて１週間の基礎的な教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、実習校と密に連携協力しながら、巡回等の方法で指導する。
講義は主に現場での実習となる。事前事後指導は、教員との個別面談と、資料・パワーポイント等を用いた学生の報告会によって進める。

到達目標

1. 中学校に出向いて、そこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割等について、実践を通して基礎的な観察・体験を行う。
2. 基礎的な実習を行うことで、大学での学修にいっそうの動機づけをする。
3. 基礎実習に基づいて、現場での学校・教育・教師についての理解を深める。■

使用教材

『保育・教育基礎実習の手引き』

評価方法

実習の実際（実習日誌、研究授業等）（50%）、実習校の評価（40%）、事前事後指導（報告会、出席状況）（10%）の総合評価。

課題・評価に対するフィードバック方法

実習日誌等については添削・コメントを付したのち返却する。

オフィスアワー

鈴木：火曜3限（8号館409号室）
姉﨑：水曜3限（9号館303号室）
松田：金曜2限（9号館304号室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。 ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問することで、実習生に対する指導を行う。 ・実習校に出向くにあたっては、事前の準備を周到に行う。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、報告会を開催するなど事後の指導を入念に行う。■	1, 2, 3				

備考

■：実務経験位基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

幼稚園教育実習（事前事後指導含む）

英文名：Teaching Practice in Kindergarten (Including Pre/Post Guidance)
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF102
学年：3年
開講期：通年
選択・必修：保育・教育コース必修
単位数：4単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

今井　邦枝　山西　加織　内田　祥子

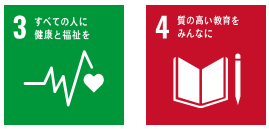
科目に関連した実務経験

非常勤講師として幼稚園に勤務（経験：今井）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○		○	○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

幼稚園教育実習は1年次におこなった基礎実習での学びを基礎とし、教師の役割や保育の展開方法について責任実習などを通じて理解を深め実践力を高めることを目的とする。
幼稚園教育実習事前事後指導では、スムーズに実習に取り組めるよう実習の事前準備を行い、実習後には報告会などを通じて実習での学びの定着と課題の意識化をはかる。
授業は講義形式及びグループワーク形式で実施する。

到達目標

1.基礎実習時の課題を踏まえ、本実習に向けての自己課題を明確にもつ
2.日誌の記載方法の理解し、適切に記載できる■
3.責任実習に向けて指導計画をたてることができる■
4.教材研究の重要性を知り、実際におこなうことができる■
5.指導計画に基づき適切に保育を展開できる■
6.事後指導では、グループワークを通じて実習での経験を共有すると共に、自らの学びを振り返ることで課題を明確にする■

使用教材

「教育・保育実習の手引その一、その二」「幼稚園教育要領解説」「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」

参考文献

授業内に提示する。

評価方法

実習園における評価をもとに、事前事後指導への取り組み、実習記録の記入状況、実習報告会の内容を参考にしながら、実習担当者が総合的に評価する。事前指導30%、事後指導20%、実習評価50%

課題・評価に対するフィードバック方法

課題にコメントをつけて返却する

オフィスアワー

質問及び学習相談には，授業開始もしくは終了後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・事前指導では、日誌の書き方を確認すると共に、模擬保育・指導案作成などを通じて責任実習に向けての準備をおこなう。また基礎実習での学びを振り返り、本実習での自己課題を明確にする。また実習のために必要な準備事項の確認をし、実習生として相応しい態度を身に付ける。 ・実習では、主に教師の役割や保育の展開方法について責任実習などを通じて理解を深め実践力を高める。また毎日日誌を記載し、園に提出をする。 ・事後指導では、実習での学びを、グループワークなどを通じて振り返り共有することで、新たな課題意識を持つことを目指す。■	1,2,3,4,5,6	事前に「実習の手引き」の該当部分を読んでくること・指導案作成と模擬保育準備	10h	実習の手続きに必要な課題や実習の準備・実習中の日誌提出・実習後の課題提出	5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

・提出物は期日厳守で提出すること。
・無断での遅刻欠席は厳禁。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

小学校教育実習（事前事後指導含む）

英文名：Teaching Practice in Elementary School(Including Pre/Post Guidance)
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF202
学年：3年
開講期：通年
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：4単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

大橋博　佐藤和貴　菅野陽太郎

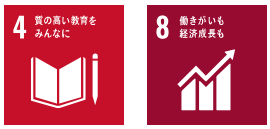
科目に関連した実務経験

大橋：小学校教諭として小学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①小学校3週間の教育実習を行い、実習経験に基づき自律的に小学校教員としてのやりがいを見出したり、問題解決を行ったりできる資質・能力を身につける。
②実習事前指導では、実習の手引き等の資料を通して、実習先での授業や指導案作成などの勤務の仕方、接遇等について事前指導を受ける。 実習中は実習校の指導を受けながら、小学生への授業や生活指導等を行う。 実習後、他の実習生たちと体験を共有したり、報告会に参加し、参会者に自分の学びを報告したりすることを通して、学校・教師・児童への理解と実践的力量について振り返り、教師としての自覚を深める。

到達目標

1.実習校に出向くにあたって、種々の心構え・態度等を身につけることができる。 ■
2.実習中は、実習校の指導のもと、授業実習中心の教育実習を行い、学校・教師・児童への理解を深め、実践力を養うことができる。
3.実習後は、教育に対する使命感を確立することができる。
4.授業を行うにあたって、留意すべきことを理解することができる。■

使用教材

『教育・保育実習の手引　その1（心構え・事務手続き　共通編）』(高崎健康福祉大学人間発達学部)
『教育・保育実習の手引　その2（事前・事後指導編）』(高崎健康福祉大学人間発達学部)

参考文献

参考となる文献については、各教員がその都度紹介する。

評価方法

実習の評価（実習校による評価、実習日誌、研究授業等）（90%）、事前事後指導の評価（課題の提出状況および内容、実習報告会におけるプレゼンテーション、授業参加度等）（10%）。

課題・評価に対するフィードバック方法

履修者は実習の報告を自分の経験や日誌などをもとに行い、それに対して実習担当者や報告会参加者が意見感想等のコメントを行う。

オフィスアワー

大橋：　月曜1限、火曜2限
（9号館3階302研究室）
佐藤：火曜2限 火曜5限
（8号館5階503研究室）
菅野：水曜2限 金曜2限
（8号5階 508研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・実習前は、実習の準備や実習校との打ち合わせ方を指導する。また、実習校の教育方針等を理解させ、言葉遣い・接遇等について指導する。■ ・実習中は、実習校の担当教員の指導を踏まえ、大学の担当教員が実習校を訪問して、実習生に対する指導を行う。 ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができない時はEメール等を用い、実習校の指導教員とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。 ・実習後は実習報告会などを通じて、実習での学びや今後の学修・進路に実習がどのような意味を持ったか等を報告し、これから授業実習を行う後輩へのアドバイスができるようにする。■	1,2,3,4	・事前指導の課題（学習指導案）を仕上げる。 ・実習校からの指示を準備する。 ・日誌の事前に書くべきところを書いておく。 ・学習指導案の書き方を総復習し、実習における授業実践の準備をする。	5h	・実習中に記録した実習日誌や作成した学習指導案に記述不十分な箇所がないか確認し、適宜加筆し完成させる。 ・実習を振り返り、実習報告会発表用のプレゼンを作成する。	10h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

・提出物等は、期日時間厳守で提出すること。
・実習日誌については、実習校の指導担当教員に提出して指導を受けること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

中学校教育実習（事前事後指導含む）

英文名：Teaching Practice in Junior High School (Including Pre/Post Guidance)
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF302
学年：3年
開講期：通年
選択・必修：教員養成コース選択
単位数：4単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
0 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

鈴木文也・姉﨑達夫・松田幸子

科目に関連した実務経験

鈴木・姉崎：英語教師として中学校に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

中学校教員免許（英語）を取得するにあたって、中学校に出向いて３週間の教育実習をするもので、実習が確実にできるように、実習校と密に連携協力しながら、巡回及び研究授業参加等の方法で指導する。講義は主に現場での実習となる。事前事後指導は、教員との個別面談と、資料・パワーポイント等を用いた学生の報告会によって進める。

到達目標

1. 中学校に出向き、教職員の仕事、役割、生徒の状況等について把握する。
2. 大学での学修を生かしながら、実際に授業を行い、授業実践力を身につける。
3. 教育実習を踏まえて、授業実践、生徒指導、教室運営などについての理解を深める。■

使用教材

『保育・教育実習の手引き』

評価方法

実習の実際（実習日誌、研究授業等）（50%）、実習校の評価（40%）、事前事後指導（報告会、出席状況）（10%）の総合評価。

課題・評価に対するフィードバック方法

実習日誌・報告書については添削・コメントを付したのち返却する。

オフィスアワー

鈴木：火曜3限(8号館409号室)
姉﨑：水曜3限（9号館303号室）
松田：金曜2限（9号館304号室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。 ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問したり電話やEメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。 ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができないときは電話やEメールを用い、実習校の指導教師とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。 ・3週間にわたる実習に臨むにあたっては、実習校と事前の準備を周到に行う。実習中も当該校及び当該校の担当教師と連絡をとりながら、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを確認するため巡回し、適宜実習生に助言指導する。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、実習報告会を開催して体験を報告させるなど事後の指導を入念に行う。■	1,2,3	実際に中学校で授業を行うための、指導要領の通読、教材研究、指導案の作成	10h	研究授業のまとめ、報告書の作成	5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

特別支援学校教育基礎実習（実習）

英文名：Basic Teaching Practice in Special Needs School
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF401
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：1単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

小竹　利夫　村田　美和　堀田　椋

科目に関連した実務経験

堀田椋:特別支援学校に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学生は、特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱）でどのような教育が実際に行われているか、児童生徒の実態・教育課程・時間割・日々の授業について、基礎的な事柄を具体的に学ぶ。特に、担当教員が児童生徒の実態をどのように把握し、どのように目標を設定して授業を組み立てているか、教材の準備・同僚との打ち合わせ・ティームティーチング・授業後の振り返りなどをどのように行っているかを観察し理解する。教員の指示の下で、授業の補助的な役割を体験する。特別支援学校における講話や実習記録を振り返り、自らの課題を明らかにする。

到達目標

1.特別支援学校における教育課程・時間割・授業についての基礎的な事柄を理解する。
2.特別支援学校に在籍する児童生徒の実態について理解する。

使用教材

教育・保育実習の手引

評価方法

実習校における評価と実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見（50%）、事前事後指導（報告会・レポートなど）（50%）から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。

オフィスアワー

小竹（8号館403号室）：月曜3限、火曜4限
村田（8号館502号室）：火曜2限、金曜2限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	1．事前学習として、実習生としての心構え、必要な基本的マナー、特別支援学校教育の概要、基礎実習の目的、実習記録の書き方などを講義する（3コマ）。■ 2．5日間（1日8時間、計40時間）の特別支援学校教育基礎実習を実施する。そこでは、児童生徒の実態、教育課程、時間割、毎回の授業の目標設定、使用する教材、授業実践、授業後の振り返り（評価）などについて、実習校からの説明を受け、担当クラスあるいは学習グループにおいて参与観察を行う。また、教員の指示により、授業の補助を行う。毎日、実習記録を書き、実習校の担当教員に提出する。人間発達学部の教員が実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。 3．事後学習として報告会を実施し、特別支援学校における講話や指導、実習記録を振り返り、3年次の特別支援学校教育実習に向けて各自が取り組むべき課題を明らかにする（3コマ）。	1,2	教育・保育実習の手引を読んでおくこと	5h	児童生徒の実態、教育課程、授業実践などについて理解する	10h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

・1年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。
・特別支援学校教育基礎実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。
・オンラインで実施する場合、c-learningを通じて課題を提示する。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

特別支援学校教育実習（事前事後指導を含む）

英文名：Teaching Practice in Special Needs School (Including Pre/Post Guidance)
科目区分：実習
科目ナンバリング：CEF402
学年：3年
開講期：通年
選択・必修：選択
単位数：3単位
講義形態：実習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

小竹　利夫　村田　美和　堀田　椋

科目に関連した実務経験

堀田椋:特別支援学校に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学生は、特別支援教育基礎実習で明らかになった課題について、教育実習においてどのように取り組むか、事前指導で具体的に検討し、教育実習の目的・方法を明確に自覚する。教育実習では、学生は特別支援学校での児童生徒との係わり方、児童生徒の実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・評価・学級経営など、教員に求められる基礎基本を修得する。事後指導において、学生は教育実習を振り返り、自らの課題達成状況や新たな課題を明確にする。

到達目標

1.児童生徒の実態把握を行い、それを基に指導案を作成することができる
2.児童生徒の実態に即した教材を作成することができる。
3.授業を実践し、授業評価を行い、それを次回の授業実践に活かすことができる。

使用教材

教育・保育実習の手引

参考文献

授業時に紹介

評価方法

実習校における評価と実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見（50%）、事前事後指導（報告会、レポートなど）（50%）から総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。

オフィスアワー

小竹（8号館403号室）：月3限、火4限
村田（8号館502号室）：火2限、金2限

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	・事前指導として、実習にあたっての心構え・身だしなみ・言葉づかいなど、障害のある児童生徒の心身・健康の理解、特別支援学校及び教員の仕事について、学習指導案の書き方、優れた教育実践の紹介等を行い、各自の課題を明確に意識させる。■ ・特別支援学校における実習では、参与観察も行いつつ、児童・生徒との係わり方、実態把握・指導案作成・授業実践・授業記録・評価・学級運営など、教員に求められる基礎基本の修得を促す。大学の教員が研究授業の日以外にも実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。 ・事後指導として、学生による実習体験の報告、研究授業内容の検討・確認、指導経験の報告、教職に向けての指導・助言などを行い、さらなる専門性と実践力の向上につなげる。	1,2,3	・教育・保育実習の手引を読んでおくこと ・3年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を振り返り、理解を深めておくこと	5h	児童生徒の実態、教育課程、授業実践などについて理解する	10h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

・3年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。
・特別支援学校教育実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。
・オンラインで実施する場合、c-learningを通じて課題を提示する。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

保育・教職実践演習（幼）

英文名：Seminar on Teaching Practice for Students of Early Childhood Education
科目区分：実践演習
科目ナンバリング：CEF601
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース必修
単位数：2単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

千葉千恵美　山西加織　内田祥子　富田純喜

科目に関連した実務経験

千葉：保育士として公立保育所に勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：幼稚園教諭・保育士

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○		○	○		○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

これまでの授業・実習を通して得た個々の課題を学生相互に共有しあい、夫々の課題にグループごとに取り組みながら解決を目指す。授業はグループワークを中心に行う。保育等の実習や保育現場におけるフィールドワークを生かし、保育・教職演習に必要な振り返りを行い、グループによる発表形式を取る。

到達目標

1．保育者としての使命感・責任観を持ち、愛情をもって子どもと関わる力を身に付ける。　■
2．保育者に必要な社会性や倫理観、対人関係能力を身に付ける。■
3．乳幼児の理解や学級運営に関する知識・能力を身に付ける。　■
4．保育内容の指導にむけた知識・能力を身に付ける。

使用教材

必要に応じて資料を配布する。

評価方法

グループワーク（フィールドワークを含む）での取り組み：60%、発表：20%、個人レポート：20%

課題・評価に対するフィードバック方法

個人レポートは、担当教員が適宜返却する。

オフィスアワー

千葉：火曜日4,5限目
山西：月曜日5限目、火曜日5限目
内田：月曜日2,3限目
富田：火曜日2限目、水曜日3限目

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　（全員）	1,2,3,4	シラバスを読み、本授業の目標・内容を予習する。	1.5h	担当教員から説明があった点、今後の授業内容について復習する。	1.5h
2	これまでに授業や実習で学んだことを振り返ってみよう（個人ワーク）（全員）	1,2,3,4	これまでの授業・実習を振り返り、課題について予習する。	1.5h	考えた課題について復習する。	1.5h
3	テーマ1：保育現場における現代的課題を話し合おう（①問題提起後、グループで具体的事例を出し合いながら検討する）　（富田）	1,2,3,4	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。	1.5h	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。	1.5h
4	テーマ1：保育現場における現代的課題を話し合おう（②グループで具体的な問題解決方法をディスカッションする）（富田）	1,2,3,4	具体化した課題の問題点を掲げ予習をする。	1.5h	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。	1.5h
5	テーマ1：保育現場における現代的課題を話し合う（③グループで話し合ったことを発表する）（富田）	1,2,3,4	発表資料を作成し、準備をする。	1.5h	発表の中で重要に感じた事柄や自分の保育に生かす方法を整理する。	1.5h
6	テーマ2：保育現場における現代的課題を話し合おう（①問題提起後、グループで具体的事例を出し合いながら検討する）　（山西）	1,2,3,4	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。	1.5h	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。	1.5h
7	テーマ2：保育現場における現代的課題を話し合おう（②グループで具体的な問題解決方法をディスカッションする）（山西）	1,2,3,4	具体化した課題の問題点を掲げ予習をする。	1.5h	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。	1.5h
8	テーマ2：保育現場における現代的課題を話し合う（③グループで話し合ったことを発表する）（山西）	1,2,3,4	発表資料を作成し、準備をする。	1.5h	発表の中で重要に感じた事柄や自分の保育に	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					生かす方法を整理する。	
9	テーマ3：保育現場における現代的課題を話し合おう（①問題提起後、グループで具体的事例を出し合いながら検討する）　（千葉）■	1,2,3,4	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。	1.5h	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。	1.5h
10	テーマ3：保育現場における現代的課題を話し合おう（②グループで具体的な問題解決方法をディスカッションする）（千葉）■	1,2,3,4	具体化した課題の問題点を掲げ予習をする。	1.5h	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。	1.5h
11	テーマ3：保育現場における現代的課題を話し合う（③グループで話し合ったことを発表する）（千葉）■	1,2,3,4	発表資料を作成し、準備をする。	1.5h	発表の中で重要に感じた事柄や自分の保育に生かす方法を整理する。	1.5h
12	テーマ4：保育現場における現代的課題を話し合おう（①問題提起後、グループで具体的事例を出し合いながら検討する）　（内田）	1,2,3,4	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。	1.5h	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。	1.5h
13	テーマ4：保育現場における現代的課題を話し合おう（②グループで具体的な問題解決方法をディスカッションする）（内田）	1,2,3,4	具体化した課題の問題点を掲げ予習をする。	1.5h	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。	1.5h
14	テーマ4：保育現場における現代的課題を話し合う（③グループで話し合ったことを発表する）（内田）	1,2,3,4	発表資料を作成し、準備をする。	1.5h	発表の中で重要に感じた事柄や自分の保育に生かす方法を整理する。	1.5h
15	まとめ（全員）	1,2,3,4	指示を受けた授業内容を確認して予習する。	1.5h	本授業で得られた成果を再度確認し復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業の進め方：4人の教員によるオムニバス形式で4年間の総まとめを行う。グループワークでは各テーマに基づきディスカッションを行い、話し合ってまとめたことを発表する。
Key Words:4年間のまとめ、個々の課題整理と解決策、グループディスカッション
オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

教職実践演習 （小中）

英文名：Seminar on Teaching Practice for Students of Elementary and Secondary Education
科目区分：実践演習
科目ナンバリング：CEF602
学年：4年
開講期：後期
選択・必修：保育・教育コース選択/教員養成コース必修
単位数：2単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

教職実践演習（小中）担当教員

科目に関連した実務経験

栗原：小学校教諭として小学校に勤務するとともに、小学校の教頭・校長を歴任（経験）
菅野：国語科講師として中学校に勤務（経験）
北村：社会科教諭として中学校に、公民科・福祉科教諭として高等学校に勤務（経験）
大橋：小学校教諭として小学校に勤務（経験）
片山：理科教諭として高等学校に勤務（経験）
姉崎：英語科教諭として中学校に勤務（経験）
堀田：特別支援学校教諭として特別支援学校に勤務（経験）
平林：保健体育科教諭として中学校に勤務するとともに、小学校の校長を歴任（経験）
鈴木：英語科教諭として中学校・高等学校に勤務（経験）
三村：数学科教諭として中学校に勤務するとともに、中等教育学校の副校長・校長を歴任（経験）
小竹：障害児母子通所施設支援員・代表として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：小学校教諭・中学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①教員をめざす４年間の学修の総仕上げとして、教職カルテを元に学生自身が教師となるにあたっての課題を明確にした上で、講義・講話（現職校長等）・事例研究等をとおして、教育現場の様々な現象を認識し、それに伴う諸問題に対応できる力を身に付けることを目標とする。講義・講話では教科指導、生徒指導、特別支援、職場環境、保護者や地域との連携などの観点から、教育現場の多様性を理解する。また、実習や学校ボランティア等の経験などをもとに、教育現場の多様性に対処するため社会性や対人関係能力を身に付け、柔軟な指導力の習得をめざす。本講義を通して学校現場の様々な現象を検討し、教師としての自覚、使命感や責任感、教育的愛情を養い、学校教育に携わろうとする意欲を高める。
②授業の進め方：講義、講話、討論、学校ボランティア等をとおして学校現場の状況を把握し、教師となるためのさらなる資質向上が図れるよう進める。また、講義内容が理解できるように、指定された予習と復習の内容を学修すること。レポート等の提出の際は、予習・復習の内容と講義の内容を充分に検討して作成すること。オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learning を用いる。

到達目標

1.教育現場の様々な現象を、教科指導、生徒指導、特別支援、職場環境、保護者や地域との連携などの観点から認識することができる。■
2.教育現場の多様性を理解し、それぞれの観点から諸問題に対応できる力を身に付けることができる。
3.実習や学校ボランティア等の経験などをもとに、現場での諸問題に対処するための指導の在り方の理解を深め、柔軟な指導力を身に付けることができる。
4.教師として教育現場で、児童生徒に対応できる資質・能力、及び、使命感や責任感、教育的愛情、さらには、社会性や対人関係能力等を備え、学校教育に携わろうとする意欲を高めることができる。

使用教材

担当教員による講義スライド等の教材を配付する。

参考文献

各教員がその都度紹介する。

評価方法

各講義の配点を10 点とし、合計150 点を100 点に換算する。レポート70%、授業への貢献度等30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された感想シートやレポート等について、コメントなどを提示する。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーは、他の科目で確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実践演習の意義、教員としての使命感や責任感、教育的愛情について（栗原）■	3,4	シラバスを読み、教職カルテと実習の体験をもとに講義の目標や内容を理解する。	1.5h	講義の方針を確認するとともに、討論で得た教員の使命や職務について理解する。	1.5h
2	国語科の指導について（菅野）■	1,2,3	国語の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導（模擬授業）について考えをまとめておく。	1.5h	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。	1.5h
3	社会科の指導について（北村）■	1,2,3	社会の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と	1.5h	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
			授業指導（模擬授業）について考えをまとめておく。		定着を図る指導法を理解する。	
4	算数科の指導について（大橋）■	1,2,3,4	算数の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導（模擬授業）について考えをまとめておく。	1.5h	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。	1.5h
5	理科の指導について（片山）■	1,2,3,4	理科の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導（模擬授業）について考えをまとめておく。	1.5h	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。	1.5h
6	英語科の指導について（姉崎）■	1,2,3,4	英語の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導（模擬授業）について考えをまとめておく。	1.5h	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。	1.5h
7	特別支援教育について（堀田）■	1,2	特別支援の授業に関して教材研究、教材・教具、学習形態、指導と評価を工夫した指導案の作成と授業指導（模擬授業）ならびに保護者支援について考えをまとめておく。	1.5h	教材研究を行い教科書の内容を十分理解し、子どもの反応を活かしながら、基礎学力の定着を図る指導法を理解する。また、保護者支援について理解する。	1.5h
8	体育科の指導について（平林）■	1,3,4	体育の授業に関して課題を把握するとともに、教材の工夫、学習形態、指導と評価を踏まえた授業について考えをまとめておく。	1.5h	体育の授業の進め方や教材研究の工夫、指導と評価のポイントを理解し、授業づくりをどう進めるかをレポートにまとめる。	1.5h
9	特別の教科 道徳の指導について（鈴木）■	1,2,3,4	学習指導要領を参考に、道徳の指導目標と取り扱う内容を中心に確認をしておく。	1.5h	道徳と「生徒指導・総合的な学習の時間・特別活動」との関連性および今後の課題について理解する。	1.5h
10	学校事故等と教師の対応・役割 （三村）■	1,2,4	小・中学校における学校事故について、概要と対応を調べまとめておく。	1.5h	学校安全の観点や学校事故の対応をまとめ、危機管理シミュレーションを行う。	1.5h
11	ICT 教育について（村田）	1,2,4	学校における ICT 教育について、インターネット等を用いて最新情報を集める。	1.5h	学校における ICT 教育について、現状と課題を理解し、まとめる。	1.5h
12	インクルーシブ教育と合理的配慮 （小竹）■	1,2,3,4	インクルーシブ教育の実践例を調べる。	1.5h	講義を振り返り、教職に就くことの意味を考える。	1.5h
13	学校現場の教師等を招いての講話及び協議（高崎市立〇〇小校長：〇〇教育を中核とした学級づくり・授業づくり） （角野・松田・クローズ）■	1,2,3,4	これまでの講義や資料を活用して、教職員の実務についての自分の考えをまとめておく。	1.5h	教職員の実務について、講義内容に関する課題をレポートにまとめる。	1.5h
14	学校現場の教師等を招いての講話及び協議（高崎市立	1,2,	これまでの講義や資料を活用して、教職員の実務についての自	1.5h	教職員の実務について、講義内容に関する課題をレポート	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	○○小校長：○○教育を中核とした学級づくり・授業づくり）（角野・松田・クローズ）■	3,4	分の考えをまとめておく。		にまとめる。	
15	学校現場の教師等を招いての講話及び協議（高崎市立○○小校長：○○教育を中核とした学級づくり・授業づくり）（角野・松田・クローズ）■	1,2,3,4	これまでの講義や資料を活用して、教職員の実務についての自分の考えをまとめておく。	1.5h	教職員の実務について、講義内容に関する課題をレポートにまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

特別支援教育概論

英文名：Introduction to Special Needs Education
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE411
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

浦﨑　源次

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

適宜、反転授業と予習課題への解答をもとに授業を進める。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

特別支援教育に関する教育学全般にわたる基礎的知識を得る。
主にパワーポイントを利用した義形式で進めるが、適宜予習課題についての小テストから開始する。

到達目標

1.特別支援教育の対象となりうる障害の種類と程度を言語化できる。
2.特別支援教育における先人の業績とその後の制度としての発展を通常の教育と対照して理解する。

3.特別支援教育の教育課程の特徴を通常の教育と対照して理解する。
4.自立活動と知的障害特別支援学校生活科の意義を理解する。

使用教材

教科書は使用しないが、『障害のある子供の教育支援の手引き』並びに特別支援学校学習指導要領とその解説を読むことを予習課題としている回があるので、各自購入していることが望ましい。（これらは文部科学省のHPで閲覧可能であるが、手元にある方が便利）

参考文献

柳本雄次・河合康編著、特別支援教育（第3版）一人ひとりの教育的ニーズに応じて、福村出版、2019
文部科学省、障害のある子供の教育支援の手引き～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの実現に向けて～、ジアーズ教育新社、2022
特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）
特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編
その他、授業中に適宜紹介する

評価方法

定期試験70%、課題提出等30%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義中にコメントする。
定期試験の前に、出題について口頭で示す。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる（9号館3階301）。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・特別支援学校教諭免許制度	1,3	教育職員免許法の第1章と第2章、教育職員免許法施行規則第7条を読む。	1.5h	特別支援学校教諭免許状の種類と取得の方法についてまとめる。	1.5h
2	障害概念と定義	1	ICF（国際生活機能分類）について調べる。	1.5h	ICFにおける障害の捉え方の特徴をまとめる。	1.5h
3	特別支援教育の対象：特別支援学校（視覚障害、聴覚障害）	1,2,3	「障害のある子供の教育支援の手引き」（本あるいは文部科学省のHP）の第3編74～86頁、103～117頁を読み理解する。	1.5h	視覚障害、聴覚障害、知的障害の特徴についてまとめる。	1.5h
4	特別支援教育の対象：特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱）	1,2,3	「障害のある子供の教育支援の手引き」（本あるいは文部科学省のHP）の第3編122～140頁、156～169頁、185～214頁を読み理解する。	1.5h	知的障害、肢体不自由、病弱の特徴についてまとめる。	1.5h
5	特別支援教育の対象：特別支援	1,2,3	「障害のある子供の教育支援の手引き」（本あるいは文部科学省のHP）の第3編232～239頁、25	1.5h	言語障害、自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	学級・通級による指導		4～263頁、276～282頁、296～303頁、316～323頁を読み、理解する。		障害の特徴についてまとめる。	
6	特別支援教育の現状	1,3	特別支援教育資料（文部科学省のHP）の最新版で、特別支援学校数・特別支援学級数、障害種別在籍児童生徒数を調べるとともに、「障害のある子供の教育支援の手引き」（本あるいは文部科学省のHP）の第2編の25～40頁を読み、理解する。	1.5h	予習でまとめたことを加除修正する。 就学先決定の仕組みをまとめる。	1.5h
7	欧米における障害児教育の創始と展開	1,2	視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育は、誰が、いつ、どこで、始めたのかを調べる。	1.5h	障害児教育の創始と展開を当時の教育・社会状況と関連させてまとめる。	1.5h
8	日本における障害児教育の創始	1,2	日本における視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育は、誰が、いつ、始めたのかを調べる。	1.5h	江戸時代までの障害者の状況と明治期前半の障害児教育の状況をまとめる。	1.5h
9	公教育としての障害児教育	1,2,3	小学校令における就学免除・猶予規定と「盲学校及聾唖学校令」について調べる。	1.5h	盲学校及び聾唖学校令の意義と問題点をまとめる	1.5h
10	第二次大戦後の障害児教育の展開	1,2,3	公立養護学校整備特別措置法について調べる。 養護学校の義務化がいつ実施されたかを調べる。	1.5h	盲学校、聾学校の義務化の過程をまとめる。 養護学校教育義務化への過程をまとめる。 養護学校の義務化を巡る議論を整理する。	1.5h
11	特殊教育から特別支援教育へ	1,2,3	国連障害者年、障害者の権利条約について調べる。	1.5h	特別支援教育に転換する前後の日本と世界的な動きをまとめる。	1.5h
12	教育課程の基礎	3	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）の160頁～165頁を読み、理解する。	1.5h	教育課程編成にかかわる法令を整理し、学習指導要領の法的根拠をまとめる。	1.5h
13	特別支援学校学習指導要領の変遷	3,4	配付資料（年表）から分かることをメモする。	1.5h	それぞれの時期の学習指導要領の特徴を小学校等の学習指導要領と比較しながら、まとめる。	1.5h
14	特別支援学校の教育課程	3,4	特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）の総則の166頁～202頁、331頁～348頁を読み理解する。	1.5h	特別支援学校の教育課程の特徴を小学校、中学校と比較しながらまとめる。	1.5h
15	特別支援学級・通級の経営	1,3,4	小学校学習指導要領解説総則編106頁～115頁を読み理解する。	1.5h	小・中学校に設置されることの長所と問題点を整理して文章化する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

本科目は、本学が開設する副専攻カリキュラム『多職種連携コース』の対象科目である。副専攻履修者の単位認定時 の評価は、「認定（Ｎ）」となり、ＧＰＡの算出や卒業必要単位の対象外となる。成績評価基準は、主専攻履修者と異なる 場合があり、その場合には、対象者に別途案内する。また、履修登録時にＣＡＰのカウントには含めない。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

知的障害児の心理・生理・病理

英文名：Psychological and Medical Understanding of Children with Intellectual Disabilities
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE421
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

堀田　椋

科目に関連した実務経験

特別支援学校に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

各回の学習内容を踏まえた「問題づくり」を行う。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

知的障害の生理・病理、知的障害の心理機能と支援、および知的障害に関連する他の障害について理解するための内容を取り扱う。授業期間全体を通じて、配付プリントに基づき説明しながら授業を進めていく。

到達目標

1.知的障害の生理・病理について説明できる。
2.知的障害の心理学的特徴について説明できる。
3.知的障害に関連する諸障害や支援について説明できる。

使用教材

講義のスライド等を随時プリントして配付する

参考文献

特になし

評価方法

試験の成績を90%、課題・授業態度10%として評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。

オフィスアワー

堀田椋（8号館5階508）：初回講義で提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスの内容に目を通し、本講義の目標を理解する。	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5h
2	知的障害の定義	1	知的障害について調べる。	1.5h	知的障害の定義について振り返る。	1.5h
3	知的障害の分類	1	知的障害について調べる。	1.5h	知的障害の分類について振り返る。	1.5h
4	知的障害の心理機能　知覚	2	知的障害の心理機能（知覚）について調べる。	1.5h	知的障害の心理機能について振り返る。	1.5h
5	知的障害の心理機能　記憶	2	知的障害の心理機能（記憶）について調べる。	1.5h	知的障害の心理機能について振り返る。	1.5h
6	知的障害の心理機能　学習Ⅰ	2	学習に関する理論とメカニズムについて調べる。	1.5h	学習に関する理論とメカニズムについて振り返る。	1.5h
7	知的障害の心理機能　学習Ⅱ	2	知的障害児の読み聞きについて調べる。	1.5h	知的障害児の読み聞きについて振り返る。	1.5h
8	知的障害の心理機能　学習Ⅲ	2	知的障害児の数認識について調べる。	1.5h	知的障害児の数認識について振り返る。	1.5h
9	知的障害の心理機能　言語コミュニケーションⅠ	2	言語機能について調べる。	1.5h	言語機能について振り返る。	1.5h
10	知的障害の心理機能　言語コミュニケーションⅡ	2	コミュニケーション支援について調べる。	1.5h	コミュニケーション支援について振り返る。	1.5h
11	知的障害の心理機能　言語コミュニ	1,2	言語コミュニケーションに関するアセスメント（LCスケール改	1.5h	言語コミュニケーションに関するアセスメント（LCスケール改	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	ケーションⅢ		訂版）とその活用について調べる。		訂版）とその活用について振り返る。	
12	知的障害に関連する諸障害　ダウン症	3	ダウン症について調べる。	1.5h	ダウン症について振り返る。	1.5h
13	知的障害に関連する諸障害　自閉症スペクトラム障害	3	自閉症スペクトラム障害について調べる。	1.5h	自閉症スペクトラム障害について振り返る。	1.5h
14	知的障害に関連する諸障害　強度行動障害	3	強度行動障害について調べる。	1.5h	強度行動障害について振り返る。	1.5h
15	まとめ	1,2,3	14回までの講義内容を復習する。	1.5h	全15回の講義内容を復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・専門用語や知識として覚えて欲しい事項が多い科目であり、説明が中心となる。積極的に復習を行うことを期待する。
・「知的障害者教育総論」を履修していることが望ましい。
・オンラインで実施する場合、c-learningを通じて課題を提示する。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

肢体不自由児の心理・生理・病理

英文名：Psychological and Medical Understanding of Children with Physical Handicaps
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE422
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

小竹　利夫

科目に関連した実務経験

障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの実態を理解し支援につなげること、また、医学的・心理学的な背景も理解すること。授業は資料を読み、映像を見て、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。

到達目標

1.肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の障害状況について理解すること。
2.肢体不自由児の発達状態を医学的・心理学的な背景も含めて理解すること。

3.肢体不自由児の支援の方法を把握する基本的視点を理解すること。■

使用教材

必要な資料は随時配布する。
「特別支援学校学習指導要領」を随時参照する。

参考文献

「障碍のある子どもとの教育的係わり合い」他。

評価方法

授業中の態度(30%)、毎回のプリントまたはレポート(60%)、作品(10%)を総合して評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回のプリントまたはレポートに書かれた感想・疑問・意見について、次回の授業の冒頭で取り上げ、補足説明や感想・意見を伝える。

オフィスアワー

質問及び学習相談には授業開始前もしくは後に応じる。　（8号館403号室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションー肢体不自由という概念について	1,2	資料を概観し、構成について理解する。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
2	肢体不自由児の状態像と配慮	1,2	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
3	肢体不自由児の医学的側面	2	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
4	肢体不自由児の心理	2	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
5	運動面の実態（障害の疑似体験を含む）	1	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
6	感覚・認知面の実態（障害の疑似体験を含む）	1	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
7	コミュニケーションの実態(その1)ー受信面■	1,2,3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
8	コミュニケーションの実態(その2)ー発信面　■	1,2,3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
9	日常生活動作の実態(その1)ー食事・排泄	1,2,3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
10	日常生活動作の実態(その2)ー着脱・清潔・移動	1,2,3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
11	知能の発達と学習支援の工夫（教材・遊具の制作を含む）■	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
12	感覚機能の発達と遊びの支援（教材・遊具の制作を含む）■	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
13	肢体不自由児の学校教育と卒後の生活	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
14	家庭との連携と保護者支援について	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
15	医療機関との連携　まとめ	1,2,3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

病弱児の心理・生理・病理

英文名：Psychological and Medical Understanding of Children with Health Impairments
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE423
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

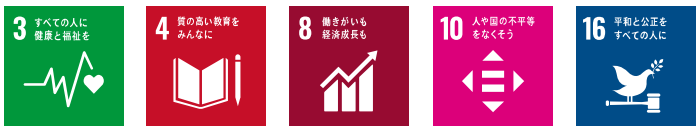
担当教員

村田　美和

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
	○							○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①病弱児について、病理面・心理面・生理面の観点から解説する。幼児・児童・生徒の疾患特性に合わせた個々への教育的アプローチや、その子の親やきょうだい児を含めた家庭や学校、関係機関との連携について理解する。また、近年の小児医療の急激な進歩に伴う、教育現場や子どもの成育環境の変遷についても学ぶ。
②授業は講義に加え、適宜ディスカッションの時間を織り交ぜながら進めていく。

到達目標

1.病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気（身体疾患や精神疾患）や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。
2.観察や検査、医療機関からの情報提供を通して病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解す

る。
3.家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性について理解している。

使用教材

必要な資料は随時配布する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。

参考文献

病気の子どもの教育支援ガイド・国立特別支援教育総合研究所・ジアース教育新社・2017

評価方法

毎回の課題(70%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回のリアクションペーパーに書かれた感想・疑問・意見について、次回の冒頭で補足説明を伝える。

オフィスアワー

火2限、金1限
（8号館502研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、病弱児の概念	1,2,3	シラバスを読み、病弱児について考察する	1.5h	講義の意味を理解し、病弱児の概念を理解する	1.5h
2	各県における病弱教育と家庭・学校・医療・福祉及び保健機関との連携の重要性	1,2	プリントの事前学習	1.5h	医療と教育の関係を正しく理解する	1.5h
3	群馬県における病弱児教育と医療の課題	1	プリントの事前学習	1.5h	群馬県の教育の特殊性と医療との関係を理解する	1.5h
4	病弱児における心理的諸問題Ⅰ観察や検査、医療機関からの情報の連携	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	病弱教育の場である病院の理解と児童生徒の心を理解する	1.5h
5	病弱児における心理的諸問題Ⅱ社会性の発達及び認知の特性把握	2,3	プリントの事前学習	1.5h	精神医学を含む心の問題を理解する	1.5h
6	小児がんと教育Ⅰ	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	小児がん患児の心理的特性と医療の変化を理解する	1.5h
7	糖尿病と教育	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	小児糖尿病の特殊性と教育の関係を理解する。	1.5h
8	肢体不自由児と病弱児の境界領域	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	肢体不自由児の教育を理解する	1.5h
9	腎疾患と病弱教育	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	腎疾患の治療の変化と教育の関係を理解する	1.5h
10	呼吸器疾患と病弱教育（感染症を含む）	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	呼吸器疾患の特殊性と共通性について理解する	1.5h
11	消化器疾患と病弱教育	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	食と教育について理解する	1.5h
12	自己免疫疾患と病弱教育	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	様々な自己免疫疾患について理解し、教育の現状を理解する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	心疾患と病弱教育	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	感染症の変化と教育現場について理解する	1.5h
14	病弱児の命と教育	1,2,3	プリントの事前学習	1.5h	命の教育について考察する	1.5h
15	まとめ	1,2,3	講義全体の振り返り	1.5h	講義全体の理解	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

障害児の発達診断

英文名：Developmental Diagnosis of Children with Special Needs
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE431
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

堀田　椋

科目に関連した実務経験

特別支援学校に勤務

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本講義では児童生徒や園児の実態把握に必要不可欠な発達アセスメントの技術を習得することを目指す。学生が①乳幼児期の発達の様相、②代表的な知能検査であるWISC－Ⅳと田中ビネー知能検査Ⅴについて理解するための内容を取り扱う。授業期間全体を通じて、配付プリントに基づき説明しながら授業を進めていく。

到達目標

1.発達障害児や発達障害が疑われる児童に対するアセスメントの意義や方法について説明できる。
2.乳幼児期の発達の様相について説明できる。
3.代表的な知能検査であるWISC－Ⅳと田中ビネー知能検査Ⅴについて説明できる。

使用教材

講義のスライド等を随時プリントして配付する

参考文献

特になし

評価方法

試験の成績を90%、レポート・授業態度10%として評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。

オフィスアワー

堀田椋（8号館5階508）：初回講義で提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス：発達アセスメントについて	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1.5h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5h
2	乳幼児期の社会性およびことばの発達	2	乳幼児期の社会性およびことばの発達を調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
3	乳幼児期の認知および情動の発達	2	乳幼児期の認知および情動の発達を調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
4	子どもの発達と気づきⅠ：感情の背景にある感覚について	2	感覚統合について調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
5	子どもの発達と気づきⅡ：障害への気づきとアセスメントの実態	2	子どもの発達について調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
6	知能検査について	1	知能検査について調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
7	WISC－Ⅳ①検査の概要と検査器具に触れる	3	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
8	WISC－Ⅳ②検査の実施と採点	3	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
9	WISC－Ⅳ③検査結果の整理と解釈	3	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
10	WISC－Ⅳ④検査結果による支援の立案	3	WISC－Ⅳについて調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
11	田中ビネー知能検査Ⅴ①検査の概要と検査器具に触れる	3	田中ビネー知能検査Ⅴについて調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h
12	田中ビネー知能検査Ⅴ②検査の実施と採点	3	田中ビネー知能検査Ⅴについて調べてくる。	1.5h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	田中ビネー知能検査Ⅴ②検査結果の整理と解釈	3	田中ビネー知能検査Ⅴについて調べてくる。	1.5 h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 h
14	田中ビネー知能検査Ⅴ③検査結果による支援の立案	3	田中ビネー知能検査Ⅴについて調べてくる。	1.5 h	配付資料やノートを読みなおす。	1.5 h
15	まとめ	1,2,3	14 回までの講義内容を振り返る。	1.5 h	全15 回の学習内容を復習しておく。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・特別支援学校教諭免許取得に関わる科目を複数履修していることが望ましい。
・オンラインで実施する場合、c-learningを通じた課題提示型授業とリモート型授業を組み合わせて行う。実際に検査道具に触れることが困難になるため、シラバス内容が大幅に変更される場合もある。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

知的障害児の指導

英文名：Curriculum and Teaching Methods for Children with Intellectual Disabilities
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE424
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

浦﨑　源次

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

後半に学生と教員で指導案分析、授業分析を実施する。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

知的障害児学校や学級で授業を計画し実践するために必要な知識を得る。さらに、知的障害教育における授業の通常の学校における授業との共通点と差異点を知る。
学習指導要領の検討、指導案の検討、授業の検討という流れで進める。第10回以降は受講生の意見交換を重視する。

到達目標

1. 知的障害特別支援学校の教育課程の特徴を理解する。
2. 知的障害教育における教科の特徴を理解する。
3. 知的障害教育における指導内容のスモールステップをつくることができる。
4. 指導案を作成できる。
5. 授業における教師の言動を評価する視点をもつ

使用教材

教科書は使用しないが、特別支援学校学習指導要領とその解説を読むことを予習課題としている回があるので、各自購入していることが望ましい。

評価方法

複数提出されたレポート80%、授業中の発言等20%
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義中にコメントする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる（9号館3階301）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	知的障害特別支援学校における教育課程の編成とマネジメント	1	特別支援学校の教育課程における履修の原則と例外について復習する。	1.5 h	特別支援学校における教育課程の特徴、知的障害特別支援学校の教育課程の特徴をまとめる。	1.5 h
2	知的障害教科における教科内容と教材教具	1,2,4	配布した予習課題に答える。	1.5 h	配付した復習課題に答える。	1.5 h
3	知的障害特別支援学校の教科内容（1）―生活科	1,2,3,4	学習指導要領と解説に記述されている小学校と知的障害特別支援学校の生活科の目標と内容を比較し、異同をまとめる。	1.5 h	基本的生活習慣（一部でよい）における教科内容のスモールステップを作成する。	1.5 h
4	知的障害特別支援学校の教科内容（2）―国語科	1,2,3,4	特別支援学校学習指導要領解説の小学部中学部の国語科の箇所を読む。	1.5 h	１段階の「話す・聞く」２段階までの「読む」、「書く」の教科内容のスモールステップを作成する。	1.5 h
5	知的障害特別支援学校の教科内容（3）―算数・数学科	1,2,3,4	特別支援学校学習指導要領解説の小学部中学部算数科数学科の箇所を読む。	1.5 h	「１０までの数」、「長さ」の教科内容のスモールステップを作成する。	1.5 h
6	知的障害特別支援学校における自立活動	1,3,4	「基本的生活習慣」に関することは生活科なのか自立活動なのか、「言語」に関することは国語科なのか自立活動なのか、について例をあげて考える。	1.5 h	生活科と自立活動、他の教科と自立活動の関係を整理する。	1.5 h
7	授業におけるノンバーバルコミュニケーション	5	ノンバーバルコミュニケーションについて調べる。	1.5 h	ノンバーバルコミュニケーションの種類と例をまとめる。	1.5 h
8	授業における言語コミュニケーション	5	言葉によって誤解が生じた経験を数例メモする。	1.5 h	学校で使われそうな、疑問文なのに、指示命令になっている例を10例あげる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	授業の検討―関わりの視点から	5	配付資料（指導記録）を読む。	1.5h	授業の講評をする。	1.5h
10	教科別の指導のデザイン	1,2,3,4,5	配付資料（指導案）を読んで、優れた点、問題点をみつける。	1.5h	指導案の講評をする。	1.5h
11	日常生活の指導のデザイン	1,2,3,4,5	配付資料（指導案）を読んで、優れた点、問題点をみつける。	1.5h	指導案の講評をする。	1.5h
12	遊びの指導のデザイン	1,2,3,4,5	配付資料（指導案）を読んで、2つの指導案の問題点をみつける。	1.5h	2つの指導案の改善点を文章化する。	1.5h
13	生活単元学習のデザイン	1,2,3,4,5	配付資料（指導案）を読んで、2つの指導案の問題点をみつける。	1.5h	2つの指導案の改善点を文章化する。	1.5h
14	買い物の授業の検討－教科別の指導か合せた指導か	1,2,3,4,5	配付資料（授業記録）を読む。	1.5h	授業の講評をする。	1.5h
15	個別の指導計画の作成・実施・評価	1,2	特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の第7章を読む。	1.5h	6区分のうち1つの区分について、自立活動の指導内容を考える。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

肢体不自由児の指導

英文名：Curriculum and Teaching Methods for Children with Physical Handicaps
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE425
学年：2年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

小竹　利夫

科目に関連した実務経験

障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学生が肢体不自由児（単一障害、重複障害）に対して、個々の実態に適した支援のあり方を具体的に理解すること。授業は資料を読み、映像を見て、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。

到達目標

1.肢体不自由のある幼児・児童・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達等を理解すること。
2.肢体不自由のある幼児・児童・生徒を対象とする特別支援学校や特別支援学級で実践されている教育課程や主な支援方法

の要点を理解すること。
3.一人一人の幼児・児童・生徒の実態を把握して支援の方針を考える基礎を身に付けること。■

使用教材

資料を読み、映像を見ながら進める。必要な資料は随時配布する。

参考文献

「障害のある子どもの保育・教育」（建帛社）、「特別支援学校学習指導要領」を随時参照する。

評価方法

授業中の態度(30%)、毎回のプリントまたはレポート(60%)、作品(10%)を総合して評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回のプリントまたはレポートに書かれた感想・疑問・意見について、次回の授業の冒頭で取り上げ、補足説明や感想・意見を伝える。

オフィスアワー

質問及び学習相談には授業開始前もしくは後に応じる。　（8号館403号室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションー肢体不自由児の状態像の多様性とカリキュラム	1,3	資料を概観し、構成について理解する。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
2	特別支援学校における教育課程	2	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
3	各種障害の疑似体験・介助体験による障害の理解と支援	1,3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
4	個別の指導計画と自立活動の支援■	2	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
5	教材・遊具の制作■	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
6	感覚・認知面の理解と支援	1	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
7	コミュニケーションの支援(その1)ー発信面■	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
8	コミュニケーションの支援(その2)ー受信面■	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
9	学習活動の支援（その1）ー国語■	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
10	学習活動の支援（その2）ー算数■	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
11	心理的な安定の支援ー気持ちの調整	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
12	日常生活動作の支援ー食事	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
13	余暇活動の支援ー遊び	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	保護者支援	3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
15	個別の指導計画の作成とまとめ■	2,3	資料を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

病弱児の指導

英文名：Curriculum and Teaching Methods for Children with Health Impairments
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE426
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

村田　美和

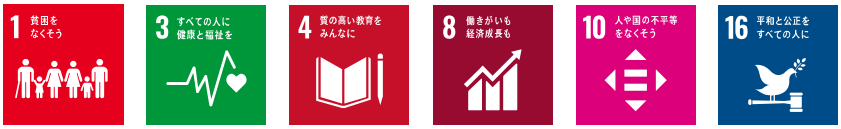
科目に関連した実務経験

病弱児に対する学習支援を小中学校、病院、大学にて行っている。

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○						○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①病弱の幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
②授業の後半では、理解を深めるためにディスカッションの時間を設け、知識や理解を定着させていく。

到達目標

1.生きる力として知・徳・体に加え、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力をはぐくむことを目指すために教育課程を編成することについて理解している。
2.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等並びに学習の進度を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することを理解している。
3.各教科等の年間指導計画を踏まえ、個々の幼児、児童又は生徒の実態に応じて適切な指導を行うために個別の指導計画を作成することを理解している。■
4. 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取り扱いについて理解するとともに、教科と自立活動の目標設定に至る手続の違いを理解している。
5. 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげることについて、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解している。

使用教材

必要な資料は随時配布する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。

参考文献

病気の子どもの教育支援ガイド・国立特別支援教育総合研究所・ジアース教育新社・2017

評価方法

授業中の発言(20%)、毎回のリアクションペーパー(20%)、試験(60%)を総合して評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回のリアクションペーパーに書かれた感想・疑問・意見について、次回の冒頭で補足説明を伝える。

オフィスアワー

火曜2限、金曜2限
（8号館502研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション－病弱児の実態と教育課程	1,2	病弱児を受け入れる特別支援学校のホームページを検索して、病弱児教育の骨格について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
2	病弱児教育の変遷と全国および群馬県の現状	1,2,3	群馬県の病弱児教育について調べる。	1.5 h	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。	1.5 h
3	病弱児への教科指導と自立活動の指導	1,2,3	自立活動について理解を深めておく。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
4	病弱児の学習又は生活上の困難を改善する力を育む教育課程	1,2,3,4,5	生活上の困難について事例を調べる。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
5	病気の状態に合わせた教科教育の選定及びカリキュラムの編成	3,4,5	教科教育のカリキュラム編成について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
6	各教科の年間指導計画を踏まえた個別の指導計画の作成	3,4,5	年間指導計画について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。	1.5 h
7	個別の指導計画とカリキュラムマネジメント	3,4,5	カリキュラムマネジメントについて理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	教科と自立活動の目標設定に至る手続きの違い	3,4,5	教科と自立活動について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
9	消化器疾患を伴う児童生徒の指導	1,2,3	消化器疾患を伴う児童生徒について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
10	脳性まひを伴う児童生徒の指導■	1,2,3	脳性まひについて理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
11	心身症・精神疾患を伴う児童生徒の指導	1,2,3	心身症・精神疾患について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
12	進行性筋ジストロフィ症を伴う児童生徒の指導	1,2,3	進行性筋ジストロフィ症について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
13	呼吸器疾患を伴う児童生徒の指導	1,2,3	呼吸器疾患について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
14	心臓疾患を伴う児童生徒の指導	1,2,3	心臓疾患について理解に努める。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h
15	死に瀕した児童生徒および周囲の人への指導	1,2,3	死に瀕した児童生徒への教育的係わりについて考える。	1.5 h	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

特別支援教育の課題と実践

英文名：Future Issues and Practice of Special Needs Education
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE412
学年：3年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

堀田　椋

科目に関連した実務経験

特別支援学校に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

特別支援教育に関する基礎的事項、特別支援教育に関する現状と課題、特別なニーズを要する子どもへの支援方法について理解するための内容を取り扱う。授業期間全体を通じて、配付プリントに基づき説明しながら授業を進めていく。

到達目標

1.特別支援教育に関する基礎的事項について説明できる。
2.特別支援教育に関する現状と課題について説明できる。

3.特別なニーズを要する子どもへの支援方法について説明できる。

使用教材

講義のスライド等を随時プリントして配付する

参考文献

特になし

評価方法

試験の成績を80%、課題・授業態度20%として評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。

オフィスアワー

堀田椋（8号館5階508）：初回講義で提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダン：特別支援教育について	1	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5 h
2	特別支援教育体制の現状と課題Ⅰ(特別支援学校)	2	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	特別支援学校における現状と課題について振り返る。	1.5 h
3	特別支援教育体制の現状と課題Ⅱ(特別支援学級)	2	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	特別支援学級における特別支援教育の現状と課題について振り返る。	1.5 h
4	特別支援教育体制の現状と課題Ⅲ(通常学級)	2	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	通常学級における特別支援教育の現状と課題について振り返る。	1.5 h
5	特別支援教育の実際Ⅰ(知的障害)	2,3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	知的障害児への対応について振り返る。	1.5 h
6	特別支援教育の実際Ⅱ(病弱)	2,3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	病弱児への対応について振り返る。	1.5 h
7	特別支援教育の実際Ⅲ(肢体不自由)	2,3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	肢体不自由児への対応について振り返る。	1.5 h
8	特別支援を必要とする子どもの幼児期における生活面等における課題とその対応	3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	幼児期の生活面における課題とその対応について振り返る。	1.5 h
9	特別支援を必要とする子どもの学齢期以降の生活面等における課題とその対応	3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	学齢期以降の生活面における課題と対応について振り返る。	1.5 h
10	特別支援教育を推進する条件の整備Ⅰ（特別支援教育コーディネーター）	3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5 h	特別支援教育コーディネーターの役割等について振り返る。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	特別支援教育を推進する条件の整備Ⅱ（家族支援、放課後保障）	3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5h	家族支援、放課後保障について振り返る。	1.5h
12	特別支援学校の授業づくりⅠ（教科）	3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5h	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5h
13	特別支援学校の授業づくりⅡ（自立活動）	3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5h	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5h
14	特別支援学校の授業づくりⅢ（教科等合わせた指導）	3	2年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1.5h	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5h
15	まとめ	1,2,3	14回までの講義内容を復習する。	1.5h	全15回の講義内容を復習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・「特別支援教育概論」を履修していることが望ましい。
・オンラインで実施する場合、c-learningを通じて課題を提示する。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

知的障害児教育演習

英文名：Teaching Practice for Children with Intellectual Disabilities
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE428
学年：4年
開講期：通年
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
3 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

浦﨑　源次

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○			○		○		

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

障害児教育の問題は情緒的に語られたり、経験至上主義に陥ることが多々ある。そこで、まず、理論的に考える習慣をみにつける。次に実践について多角的にみる習慣をみにつける。
受講生が輪番で文献等を選択し、発表し、それを受講生全員で討議する形式で進める。受講生の興味・関心によって、テーマの変更がありうる。

到達目標

1. 障害児教育の諸問題について自分なりの意見を論理的に表現できる。
2. 知的障害教育の諸問題について自分なりの意見を論理的に表現できる。
3. ＰＤＣＡの視点をもって授業を実践する態度をみにつける。
4. 研究的な視点をもって子どもとかかわる態度をみにつける。

使用教材

原則として検討する教材は学会誌などから学生がみつけたものとする。
指導案の検討においてはできれば学生が教育実習において作成した指導案を教材としたい。適当なものがない場合は学生が見つけた指導案を教材とする。

評価方法

レポート60%、演習中の発言40%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

演習中に適宜コメントする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる（9号館3階301）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業の概要と進め方（オリエンテーション）	4	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1h	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	0.5h
2	指導案の検討（１）日常生活の指導－指導計画について	2,3,4	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる。	0.5h
3	指導案の検討（２）日常生活の指導－授業の展開について	2,3,4	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5h
4	指導案の検討（３）遊びの指導－指導計画について	2,3,4	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5h
5	指導案の検討（４）遊びの指導－授業の展開について	2,3,4	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5h
6	指導案の検討（５）生活単元学習－指導計画について	2,3,4	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5h
7	指導案の検討（６）生活単元学習－授業の展開について	2,3,4	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	0.5h
8	「障害児教育は教育の原点である」について考える（１）語られ方と機能	1,2	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
9	「障害児教育は教育の原点である」について考える（２）原点の意味	1,2	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	「障害は個性である」について考える（１）積極的主張の立場	1,2	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
11	「障害は個性である」について考える（２）懐疑的立場	1,2	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
12	出生前診断について考える	1,2	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
13	早期発見・早期治療（支援）について考える	1,2	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
14	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える（１）生活重視の立場	2,3,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
15	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える（２）教科重視の立場	2,3,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
16	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える（３）「教科も生活も」は可能か	2,3,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
17	知的障害教育における学力について考える	1,2,3,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
18	インクルーシブ教育時代における知的障害教育の課題（制度）	1,2,3,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
19	インクルーシブ教育時代における知的障害教育の課題（教育課程）	4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
20	知的障害児の言語発達に関する文献を読む	4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
21	知的障害児の国語科に関する文献を読む。	4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
22	知的障害児の国語科の教科内容（話し言葉）	4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
23	知的障害児の国語科の教科内容（書き言葉）	4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
24	知的障害児の算数能力の発達に関する文献を読む	4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
25	知的障害児の算数・数学科に関する文献を読む	4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
26	知的障害児の算数・数学科の教科内容（数と計算）	4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
27	知的障害児の算数・数学科の教科内容（図形）	1,2,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
28	知的障害児の言語障害に関する文献を読む	1,2,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
29	知的障害児の青年期教育に関する文献を読む	1,2,3,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h
30	知的障害児教育の幼児教育・療育に関する文献を読む	1,2,3,4	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を１つ探して読む。	1h	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	0.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 閉じる

肢体不自由児教育演習

英文名：Teaching Practice for Children with Physical Handicaps
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE429
学年：4年
開講期：通年
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

小竹　利夫

科目に関連した実務経験

障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○				○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

肢体不自由等のある幼児・児童・生徒の映像や文字資料を通して、実態の捉え方、支援の仕方などを実践的に考える。肢体不自由児等の理解を深め、具体的にどのような支援を図るか考える場にしたい。また、実際に教材や遊具を考え、制作する機会をもうけたい。さらに、障害の疑似体験を通して、障害者の気持ちの理解や支援技術の向上を図る。

到達目標

肢体不自由等のある幼児・児童・生徒の状態・特性・発達段階を理解する。
特別支援学校（肢体不自由等）における教育課程の編成の意義について理解する。
特別支援学校（肢体不自由等）における教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントについて理解する。
肢体不自由等のある幼児・児童・生徒の実態に合わせて支援方法を身に付ける。 ■

使用教材

資料を読み、映像を見ながら進める。必要な資料は随時配布する。

参考文献

「障碍のある子どもとの教育的係わり合い」他。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。

評価方法

授業中の態度(30%)、リアクションペーパーまたはプリント(50%)、発表（10%）、作品(10%)を総合して評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

実践事例の資料を読んだり映像を見たりして、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。回答を発表し合うなかで、補足説明やコメントを述べる。

オフィスアワー

質問及び学習相談には授業開始前もしくは後に応じる。　（8号館403号室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その1)　保育所	1	障害についてこれまでに学んだことを振り返る。	1.5 h	配布資料を読み直す。	1.5 h
2	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その2)　幼稚園	1	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その2)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
3	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その3)　　児童発達支援施設	1	肢体不自由等のある幼児の保育・教育実践事例(その3)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
4	医療的ケア児について　　特別支援学校	1,2	医療的ケアについて調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
5	特別支援学校（肢体不自由）の教育課程	2	特別支援学校（肢体不自由）の教育課程を調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
6	障害の疑似体験（肢体不自由）	1,4	肢体不自由者のガイドの仕方を調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
7	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その1) ■　コミュニケーション（VOCAを含む）	3,4	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その1)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
8	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その2)　■ 国語（文字）	3,4	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その2)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
9	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その3)　■　算数（数）	3,4	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その3)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
10	障害者差別・合理的配慮について	2	障害者差別について調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	肢体不自由等のある児童の教材の制作■	4	障害のある児童の教材を調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
12	重度重複障害児について■	1,2	重度重複障害児について調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
13	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その4)　摂食	3,4	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その4)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
14	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その5)　情緒の安定	3,4	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その5)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
15	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その6)　■　自立活動	3,4	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その6)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
16	薬物療法について	1	薬物療法について調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
17	肢体不自由等のある児童の教育実践事例(その7)　遊び	3,4	肢体不自由等のある児童の遊びを調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
18	肢体不自由等のある児童の教材・教具の制作■	3,4	肢体不自由等のある児童の教材・教具を調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
19	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その1) ■　国語（文章構成）	3,4	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その1)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
20	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その2)　■　数学（計算）	3,4	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その2)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
21	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その3)　■　コミュニケーション（補助代替コミュニケーション手段を含む）	3,4	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その3)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
22	保護者支援について	4	保護者支援について調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
23	肢体不自由等のある生徒の教材・教具の制作。■	4	肢体不自由等のある生徒の教材・教具を調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
24	障害と虐待について	1	障害と虐待の関連を調べる。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
25	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その4) ■　自立活動	3,4	障害のある生徒の教育実践事例(その4)を読む。	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h
26	重複障害の疑似体験（盲ろう）	1,2	盲ろう者のガイドの仕方を調べる	1.5 h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
27	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その5)　作業	3,4	肢体不自由等のある生徒の教育実践事例(その5)を読む。	1.5h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5h
28	卒業後の教育実践事例(その1) ■　就労支援	3,4	卒業後の教育実践事例(その1)を読む	1.5h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5h
29	卒業後の教育実践事例(その2)　生活介護	3,4	卒業後の教育実践事例(その2)を読む。	1.5h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5h
30	この演習で学んだことを振り返る	1,2,3,4	これまで読んできた教育実践で特に関心を持った事例を読み返す。	1.5h	授業を振り返り、理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷　閉じる

病弱児教育演習

英文名：Teaching Practice for Children with Health Impairments
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE430
学年：4年
開講期：通年
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

村田　美和

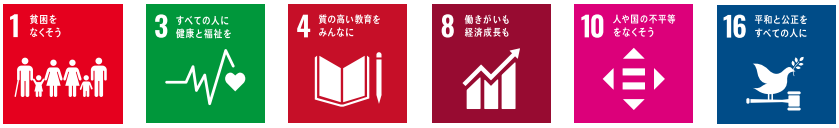
科目に関連した実務経験

病弱児、不登校児に対する学習支援を小中学校、病院、大学にて定期的に実施（現在）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○		○	○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①これまで学習してきた知識を生かし、具体的な病気に合わせた指導とその周辺知識について演習する。病弱児一人ひとりの実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、具体的な支援についての考えを深めていく。
②病弱児特別支援学校や病弱児特別支援学級に在籍している児童・生徒を対象とした事例研究に関する研究的な討議を行い、多様な病状にある子どもの個々の状態に応じた合理的配慮について調べたものを基に発表し合い検討する。それぞれの内容について、意見を交換しながら授業を進めていく。

到達目標

1.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等を踏まえ、学習環境に応じた学習効果を高めるために、間接体験や疑似体験、仮想体験を効果的に取り入れることについて理解している。■
2.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等を踏まえ、各教科等の指導の効果を高めるために、ICTの有効な活用と

ともに教材・教具や補助用具を工夫することについて理解している。
3.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等を踏まえ、心身に負担過重とならないように、適切な活動量や活動時間の設定、姿勢の返還や適切な休養の確保に留意することについて理解している。
4.病気や障害の状態、特性及び新進の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができるとともに、授業改善の視点を身に付けている。

使用教材

学習指導要領。その他、必要な資料を授業内で配布する。

参考文献

病気の子どもの教育支援ガイド・国立特別支援教育総合研究所・ジアース教育新社・2017

評価方法

収集した資料の内容、資料整理の状態を50%、研究討議における発言、報告会での発表を50%として評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

発表や資料に関して、その都度解釈と評価をフィードバックする。
疑問点や不明点について、質問を受け付ける。

オフィスアワー

火曜2限、金曜1限
（8号館502研究室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	シラバスの内容に目を通し、本講義の目標を理解する。	1.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針などを確認する。	1.5 h
2	病弱児の心理等の実態について実践研究の事例検討	1,3,4	参考となりそうな書籍を自ら探す。	1.5 h	病弱児の心理等の実態について理解する。	1.5 h
3	病弱児の教育課程に関する事例を検討	1,2,3,4	参考となりそうな書籍を自ら探す。	1.5 h	病弱児の教育課程について理解する。	1.5 h
4	病弱児の指導法に関する実践事例を検討	1,2,3,4	参考となる書籍を熟読する。	1.5 h	病弱児の指導法について理解する。	1.5 h
5	病弱児の実践事例に関する発表及び討論	1,3,4	参考となる書籍の内容を資料にまとめる。	1.5 h	実践研究の論文の読み方について理解する。	1.5 h
6	病弱児の保護者、所属機関との関係について	1,3,4	実践事例と報告書が掲載されているページを確認する。	1.5 h	保護者や所属機関に対する配慮について理解する。	1.5 h
7	先進的な病弱教育	1,2,3,4	実践報告書を熟読する。	1.5 h	先進的な病弱教育についてホームページなどを確認し理解する。	1.5 h
8	病弱児教育に関する先進的な実践事例について	1,2,3,4	実践報告書を発表資料としてまとめる	1.5 h	参考文献の活用について理解し、文献を実際に探してみる。	1.5 h
9	先進的な病弱教育の事例に関する発表及び討論①発表を通して知識を広げる	1,2,3,4	発表のための準備をする。	1.5 h	先進的な実践研究の事例について理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	先進的な病弱教育の事例に関する発表及び討論②討論を通して理解を深める	1,2,3,4	発表資料を熟読する。	1.5h	先進的な実践研究の事例について理解する。	1.5h
11	病弱児を支える社会とテクノロジーに関する研究討議■	2	参考資料に目を通す。	1.5h	病弱児を支える社会とテクノロジーについて理解する	1.5h
12	病弱児の間接体験や疑似体験、仮想体験の実践事例の検討■	1,2	参考資料に目を通す。	1.5h	病弱児に対する各体験の実践事例の指導案を理解する	1.5h
13	病弱児に対するABLの授業実践の検討■	1,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	病弱児に対するABLの授業実践について理解する	1.5h
14	実践事例を踏まえた病弱児の環境等の整備に関する研究討議	1,2,3	参考資料に目を通す。	1.5h	実践事例を踏まえた病弱児の環境等の整備について理解する。	1.5h
15	実践事例の中間報告会	1,2,3,4	発表資料の準備をする。	1.5h	他の人の発表を理解し、今後の自分の発表に生かせる部分についてまとめる。	1.5h
16	ICTの有効な活用事例の検討	2	参考資料に目を通す。	1.5h	ICTの有効な活用事例について理解する。	1.5h
17	デジタル端末と教材・教具や補助用具の工夫	1,2	参考資料に目を通す。	1.5h	デジタル端末と教材・教具や補助用具について理解する。	1.5h
18	個々の状態を踏まえた活動量及び活動時間の設定に関する事例検討	3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	活動量及び活動時間の設定について理解する。	1.5h
19	個々の状態を踏まえた姿勢の変換及び適切な休養の確保に関する事例検討	3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	姿勢の変換及び適切な休養の確保について理解する。	1.5h
20	病気の状態に応じた自立活動と教科指導の事例検討	1,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	自立活動と教科指導の事例について理解する。	1.5h
21	自立活動との関連を踏まえた各教科等の指導案作成	1,2,3	参考資料に目を通す。	1.5h	教科の指導案について理解する。	1.5h
22	心臓病・腎臓病の状態等に応じた指導案の検討	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	心臓病・腎臓病の指導案について理解する。	1.5h
23	不登校の状態等に応じた指導案の検討	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	不登校と指導案の事例について理解する。	1.5h
24	発達障害の状態等に応じた授業実践の検討	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	発達障害の授業実践の事例について理解する。	1.5h
25	糖尿病の状態等に応じた授業実践の検討	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	糖尿病の授業実践について理解する。	1.5h
26	食物アレルギーの状態等に応じた指導上の合理的配慮の検討■	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	病弱児を支える社会とテクノロジーについて自分の考えをまとめる。	1.5h
27	喘息の状態等に応じた指導上の合理的配慮の検討■	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	喘息の状態と合理的配慮について理解する。	1.5h
28	てんかんの状態等に応じた指導上の合理的配慮の検討	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	てんかんの状態と合理的配慮について理解する。	1.5h
29	病弱児を支える社会とテクノロジーに関するまとめ	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	病弱児を支える社会とテクノロジーについて自分の考えをまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
30	実践事例を踏まえた病弱児の合理的配慮に関する報告会	1,2,3,4	参考資料に目を通す。	1.5h	病弱児の合理的配慮について再確認する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

■：実務経験に基づく内容を示す

印刷 閉じる

視覚障害・聴覚障害教育総論

英文名：Education for Children with Visual and Hearing Impairments
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE433
学年：2年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

金澤　貴之／中村　保和

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
					○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

　視覚障害教育および聴覚障害教育の概要と特徴について理解し、視覚障害児および聴覚障害児の指導の基本について理解を深め、こうした子どもたちに対する特別支援教育の視点を養う。
講義中に適宜、質問の時間を確保したり、講義後にリプライカードを配付したりして、受講生の授業に対する理解度を把握し、定着を図りながら講義を進めていく。

到達目標

1.視覚障害および聴覚障害の生理・病理の基礎的事項について説明することができる。
2.視覚障害児および聴覚障害児の心理について理解し、教育場面や生活場面における心理面への対応を説明することができる。

3.視覚障害教育および聴覚障害教育の歴史や制度等について、保育や教育に関する基礎的事項を説明することができる。
4.視覚障害教育および聴覚障害教育の特徴を踏まえて、こうした子どもたちの教育課程や指導法の概要について説明することができる。

使用教材

講義のスライドを随時プリントして配布する。

参考文献

講義の中で適宜紹介する。

評価方法

　視覚障害教育に関する最終レポート（５０%）と聴覚障害教育に関する最終レポート（５０%）を総合して評価し、総合評価６０%以上を合格とする。なお、これらの最終レポートは本講義数（全１５回）の２／３以上を出席した者が提出できるものとし、出席回数が満たない者のレポートは評価の対象としない。

課題・評価に対するフィードバック方法

特に行わない。質問等があれば個別に応じる。

オフィスアワー

質問等がある場合は授業の前後に応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義ガイダンス：視覚障害教育と聴覚障害教育のそれぞれの特徴や違いについて	2, 4	シラバス内容を読んで講義の目標等を理解する。	1.5時間	講義内容、到達目標、学位授与の方針、成績評価方法などを確認する。	1.5時間
2	視覚障害Ⅰ：視覚障害教育とは？視覚障害の定義、視覚障害教育の歴史と変遷、教育課程	3	視覚障害教育の概要を文献等で調べ確認する。	1.5時間	視覚障害の定義を踏まえたうえで、視覚障害教育の概要を理解する。	1.5時間
3	視覚障害Ⅱ：視覚障害の理解①　ものを見る仕組みとその障害	1	通常の目の働きについて、図書やインターネットを通して把握しておく。	1.5時間	目のしくみやその障害について、理解する。	1.5時間
4	視覚障害Ⅲ：視覚障害の理解②　見え方の個人差と視機能評価	1, 2	ものの見え方や視力検査の方法などについて図書やインターネットで調べる。	1.5時間	眼疾患ごとの見え方の違いについて理解し、視機能評価の種類について知る。	1.5時間
5	視覚障害Ⅳ：シミュレーションレンズによる弱視疑似体験、体験の振り返りと共有	1, 2	屈折異常や視野狭窄など種々の視覚障害の種類や程度について調べておく。	1.5時間	疑似体験で感じたことを振り返り、視覚障害の程度や種類の理解を深める。	1.5時間
6	視覚障害Ⅴ：視覚障害の子どもが日常生活および学校生活で遭遇する困難とそれへの配慮	2	視覚障害児の抱える困難について調べておく。	1.5時間	視覚障害がもたらす生活・学習上の困難とそれへの配慮について理解する。	1.5時間
7	視覚障害Ⅵ：視覚重複障害―盲ろう二重障害を中心に―	3	知的障害や肢体不自由病弱などの他の障害種の特徴について確認しておく。	1.5時間	視覚障害に他の障害を有する子ども達の発達上の困難について理解を深める。	1.5時間

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	視覚障害Ⅶ：初期学習と概念形成―点字導入に向けて―	4	盲学校（視覚特別支援学校）における学習内容や教育課程について調べておく。	1.5時間	触覚による概念形成の特徴や点字学習の基礎について理解を深める。	1.5時間
9	聴覚障害 Ⅰ：「聴覚障害」とは？	1, 2	「聴覚障害」の概要を文献等で調べ確認する。	1.5時間	聴覚障害の定義，特性を理解する。	1.5時間
10	聴覚障害 Ⅱ：聴覚特別支援学校（聾学校）の教育課程・指導法	3	聾学校（聴覚特別支援学校）の教育課程と指導法について文献で調べておく。	1.5時間	聾学校（聴覚特別支援学校）の教育課程の構造を確認し，指導法を整理する。	1.5時間
11	聴覚障害 Ⅲ：乳幼児期の関わり方	1, 2	乳幼児期の聴覚障害児への関わり方について，インターネット等で調べておく。	1.5時間	乳幼児期の関わりにおいて大切なことを理解する。	1.5時間
12	聴覚障害 Ⅳ：言語獲得の課題（話し言葉）	3	聴覚障害児の話し言葉の獲得を巡る諸課題について，インターネット等で調べておく。	1.5時間	言語指導の変遷および言語獲得のポイントを整理し，理解する。	1.5時間
13	聴覚障害 Ⅴ： 言語獲得の課題（書き言葉）	3	聴覚障害児の書記日本語の習得を巡る諸課題について，インターネット等で調べておく。	1.5時間	書記日本語の獲得を巡る課題および改善に向けた方策について理解する。	1.5時間
14	聴覚障害Ⅵ：手話の位置づけ	3	「手話」について，文献およびインターネット等で調べる。	1.5時間	言語としての手話について理解を深め，その使用を巡る聾教育での課題について整理し，理解する。	1.5時間
15	聴覚障害 Ⅶ：重複障害児者の教育および卒後の支援	3, 4	「聾重複」について，文献およびインターネット等で調べる。	1.5時間	聾重複障害児者の教育および卒後の支援について，構造的に理解する。	1.5時間

合計時間（予習・復習）

45時間

備考

講義時および講義後の質問は積極的に受け付ける。講義担当者は非常勤講師のため、講義外での質問はメールで受け付ける。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

知的障害者教育総論

英文名：Education for Children with Intellectual Disabilities
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE427
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
4 専門的知識
2 問題発見・解決力
1 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

浦﨑　源次

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
									○

「その他」のアクティブラーニング実施方法

適宜、反転授業と課題への解答をもとに授業を進めるとともに、小学校第一学年以前の教科内容の実例をもとに教科内容について考える機会を設ける。

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

後に履修する知的障害に関する心理・生理・病理や教育課程・指導法などの各論を学習するための基礎学習として、知的障害教育にかかる全般についての概念や用語など基礎的な知識を得る。
パワーポイントを利用しながら講義形式で進める。

到達目標

1. 知的障害の概念を理解する。
2. 知的障害児の行動特性を理解する。
3. 知的障害の原因を理解する。
4. 特別支援教育史における知的障害児教育の歴史の特徴を理解する。
5. 知的障害児教育の教育課程の特徴を理解する。

使用教材

教科書は使用しない。
なお、第10回以降の講義では予習課題や授業の資料として、以下の資料を使用するので、各自購入することが望ましい。
特別支援学校教育要領・小学部中学部学習指要領
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）
特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編
その他、適宜紹介する。

参考文献

上記学習指導要領、同解説のほか、適宜紹介する。

評価方法

定期試験90%、授業中の発言等10%で評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義中にコメントする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる（9号館3階301）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	「知的障害」の概念と定義	1	アメリカ知的・発達障害協会（ＡＡＩＤＤ）、における知的障害の定義を調べ、理解する。	1.5h	知的障害の定義と分類、診断についてまとめる。	1.5h
2	知的障害児の心理Ⅰ－認知	1,2	知的障害児の知覚や記憶について関連図書などで調べる。	1.5h	知的障害児の知覚や記憶の特徴についてまとめる。	1.5h
3	知的障害児の心理Ⅱ－言語と発達	1,2	知的障害児の言語発達について関連図書などで調べる。	1.5h	知的障害児の言語発達や行動の特性についてまとめる。	1.5h
4	知的障害の原因Ⅰ―出生前	3	ダウン症候群（ダウン症）と出生前診断について関連図書などで調べる。	1.5h	知的障害の出生前における原因をまとめる。	1.5h
5	知的障害の原因Ⅱ―周産期、出生後	3	周産期医療について関連図書などで調べる。	1.5h	知的障害の周産期、出生後の原因をまとめる。	1.5h
6	欧米の知的障害教育史	1,4	エドゥアール・セガンの人と業績について調べる。 優生思想について調べる。	1.5h	欧米における知的障害教育の創始と発展を他の障害と比較しながらまとめる。	1.5h
7	日本の知的障害教育史―第二次大戦前	1,4	石井亮一の人と業績について調べる。	1.5h	日本における知的障害教育の創始を他の障害や欧	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					米と比較しながらまとめる。	
8	日本の知的障害教育史―第二次大戦後	1,4	糸賀一雄の人と業績について調べる。 コロニーについて調べる。	1.5 h	知的障害教育の義務化の過程を他の障害と比較しながらまとめる。	1.5 h
9	知的障害特別支援学校の教育課程―履修の原則と例外	2,5	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）331～344頁を読む。 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）22～36頁を読む。	1.5 h	知的障害特別支援学校に適用される履修の例外をまとめる。	1.5 h
10	知的障害特別支援学校の教育課程－生活科と自立活動	2，5	特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）40～76頁を読む。	1.5 h	知的障害生活科と小学校生活科との異同をまとめる。 知的障害の自立活動と他の障害の自立活動との異同をまとめる。	1.5 h
11	知的障害特別支援学校における指導形態-教科別の指導	5	特別支援学校基礎実習の際に参観した教科別の指導のエピソードを書く。	1.5 h	教科別の指導の留意点をまとめる。	1.5 h
12	知的障害特別支援校における指導の形態-日常生活の指導・遊びの指導	2,5	特別支援学校基礎実習の際に参観した日常生活の指導のエピソードを書く。	1.5 h	日常生活の指導と遊びの指導の留意点をまとめる。	1.5 h
13	知的障害特別支援校における指導の形態-生活単元学習・作業学習	2,5	特別支援学校基礎実習の際に参観した生活単元学習のエピソードを書く。	1.5 h	生活単元学習と作業学習の留意点をまとめる。	1.5 h
14	知的障害教育方法史	4,5	「合わせた指導」と「教科別の指導」の長短について調べる。	1.5 h	「合わせた指導」と「教科別の指導」の長短についてまとめる。	1.5 h
15	個別の教育支援計画と指導計画	1,2,5	個別の指導計画の例を2つ検索して、異同を調べる。	1.5 h	個別の指導計画作成の要点をまとめる。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

特別支援教育概論を受講していることが望ましい。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

重複障害児教育総論

英文名：Education for Children with Multiple Handicaps
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE434
学年：1年
開講期：後期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
3 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

小竹　利夫

科目に関連した実務経験

障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
								○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

学生が重複障害児に対して、個々の実態に適した支援のあり方を具体的に理解すること。
授業は教科書・資料等を読み、映像を見て、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。

到達目標

重複障害児の多様性を踏まえて教育課程を理解する。
重複障害児の実態を把握する際の心理学的、医学的な視点を疑似体験も踏まえて理解する。

重複障害児に対して具体的な支援方法を理解する。■

使用教材

教科書「障碍のある子どもとの教育的係わり合い」・小竹・川島書店・2016年・2200円。

参考文献

「特別支援学校学習指導要領」を随時参照する。

評価方法

授業中の態度(30%)、毎回のプリントまたはレポート(60%)、作品(10%)を総合して評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回のプリントまたはレポートに書かれた感想・疑問・意見について、次回の授業の冒頭で取り上げ、補足説明や感想・意見を伝える。

オフィスアワー

質問及び学習相談には授業開始前もしくは後に応じる。　（8号館403号室）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	重複障害という概念について	1	重複障害児についてインターネットで調べる。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
2	重複障害児の状態像	2	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
3	重複障害児教育の歴史と現状	1	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
4	重複障害児の就学と教育課程	1,	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
5	重複障害児の実態把握(医学的側面)	2	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
6	重複障害児の実態把握(心理的側面)疑似体験を含む	2	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
7	重複障害児の指導計画－指導計画の具体例	1	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
8	重複障害児の教材・教具の制作■	3	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
9	重複障害児の探索活動■	1,2,3	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
10	重複障害児のコミュニケーション活動(その1)ー受信面■（手話・点字を含む）	1,2,3	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	重複障害児のコミュニケーション活動(その2)－発信面■（手話・点字を含む）	1,2,3	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
12	医療的ケアを必要とする重複障害児の支援	1,2,3	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
13	重複障害児の就学前の支援■	1,2,3	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
14	重複障害児の卒業後の支援■	1,2,3	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h
15	まとめ	1,2,3	教科書等を読み理解に努める。	1.5h	授業内容と視聴した映像について振り返る。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

オンラインで実施する場合は、オンデマンド型授業とする。資料の配布や課題の提出にはC-learningを用いる。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

発達障害児教育総論

英文名：Education for Children with Developmental Disabilities
科目区分：特別支援
科目ナンバリング：CEE432
学年：1年
開講期：前期
選択・必修：選択
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
1 豊かな人間性と教養
3 専門的知識
2 問題発見・解決力
3 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
1 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

村田　美和　堀田　椋

科目に関連した実務経験

堀田椋：特別支援学校に勤務

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：特別支援学校教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○					○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

「見えない障害」と称される発達障害の概念や具体的な障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害など）の特性について理解することにより、幼稚園・保育所および通常学級に通う子どもたちの多様性を捉える力をもつようになる。そして、子どもの実態を捉える方法（アセスメント）の結果に基づき指導方法・指導の手立てについて、ディスカッションも交えながら検討していくことで、基礎的な実践力を身につけていくことを目的とする。

到達目標

1.発達障害の定義や障害種について説明できる。
2.発達障害に対するアセスメントについて説明できる。
3.発達障害に対する支援方法について説明できる。

使用教材

講義のスライド等を随時データで配付する

参考文献

・参考図書① 学校でのICT 利用による読み書き支援（金子書房）近藤武夫 編著
・参考図書②「行動問題」解決ケーススタディ やさしく学べる応用行動分析（中央法規出版）小笠原恵編著
・その他の参考図書については、ガイダンス等で紹介する。

評価方法

試験の成績を90%、レポート・授業態度10%として評価する。
総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。

オフィスアワー

村田（8 号館5 階502）：火曜2 限、金曜2 限
堀田椋（8号館5階508）：初回講義で提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス 発達障害とは	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1.5 h	講義内容、到達目標、学位授与方針などを確認する。 発達障害の定義について理解する。	1.5 h
2	発達障害児の理解Ⅰ（ADHD）	1	参考図書に目を通す。	1.5 h	ADHD について理解する。	1.5 h
3	発達障害児の理解Ⅱ（自閉症スペクトラム障害）	1	参考図書に目を通す。	1.5 h	自閉症スペクトラム障害について理解する。	1.5 h
4	発達障害児の理解Ⅲ（LD）（村田）	1	参考図書に目を通す。	1.5 h	LD について理解する。	1.5 h
5	学習面におけるアセスメントⅠ（読み書きの速度とICT の評価）（村田）	2	参考図書①第3、4 章に目を通す。	1.5 h	学習面においてなぜアセスメントが必要なのか理解する。	1.5 h
6	学習面におけるアセスメントⅡ（認知機能の評価）（村田）	2	参考図書①第2 章に目を通す	1.5 h	学習面におけるアセスメントの内容と種類について理解する。	1.5 h
7	学習面における支援方法Ⅰ（学校のリソースとICT について）（村田）	3	参考図書①第5,6,10 章に目を通す。	1.5 h	支援方法の根拠となる資料の解釈について理解する。	1.5 h
8	学習面における支援方法Ⅱ（小中学校における事例）（村田）	3	参考図書①第7、8 章に目を通す	1.5 h	ICT を活用した支援方法について理解する。	1.5 h
9	学習面における支援のまとめ（村田）	2,3	参考図書①第1 章に目を通す。	1.5 h	学習面の困難さの多様性について理解する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
10	社会的コミュニケーションに対するアセスメント	2	参考図書に目を通す。	1.5 h	社会的コミュニケーションに対するアセスメントを理解する。	1.5 h
11	社会的コミュニケーションに対する支援方法	3	参考図書に目を通す。	1.5 h	社会的コミュニケーションに対する支援方法について理解する。	1.5 h
12	行動問題に対するアセスメント	2	参考図書②に目を通す。	1.5 h	行動問題に対するアセスメントについて理解する。	1.5 h
13	行動問題に対する支援方法	3	参考図書②に目を通す。	1.5 h	行動問題に対する支援方法について理解する。	1.5 h
14	社会的コミュニケーション・行動問題に対する支援のまとめ	2,3	参考図書②に目を通す。	1.5 h	社会的コミュニケーションと行動問題に対する支援について理解する。	1.5 h
15	まとめ	1,2,3	14 回目までの講義内容を振り返る。	1.5 h	14 回までの講義内容を振り返り、発達障害に対する支援の全体像を理解する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

卒業研究

英文名：Research for Graduation Thesis
科目区分：卒業研究
科目ナンバリング：CET601
学年：4年
開講期：通年
選択・必修：必修
単位数：4単位
講義形態：演習
学位授与方針との対応：
比重 DP
2 豊かな人間性と教養
2 専門的知識
2 問題発見・解決力
2 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
2 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

子ども教育学科各ゼミ担当教員

科目に関連した実務経験

・公立小学校、中学校、高校に勤務（経験）
・公立または私立幼稚園、保育園、認定こども園に勤務（経験）
・養護施設や社会福祉法人に勤務（経験）
・都道府県や市町村教育委員会に、指導主事として勤務（経験）

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
○		○	○	○	○	○			

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

卒業研究は、学生が4年間の学修の集大成として、自ら研究テーマを設定し研究目的にそって体系的・論理的に研究課題を検証し、指定された形式で論文を作成するための科目である。この卒業研究でのテーマは、保育・教育に関わる諸課題であり、事実に基づく実証的論文である。音楽・美術などの実技的分野においては、表現発表も可能であるが、その場合でも卒業研究論文を作成する。各ゼミの実施と卒業研究論文の作成は、到達目標に従い各ゼミの構成メンバーの実態に応じて行う。

到達目標

1.保育・教育を巡る諸課題に関する明確な問題意識を持つことができる。
2.問題を整理し、先行研究を踏まえて研究目的を明確にすることができる。
3.研究目的にふさわしい研究方法を考え、具体化することができる。
4.研究方法に基づいて、先行研究論文等を読み、データを収集することができる。
5.データを適切な方法で整理し、分析することができる。
6.研究目的に照らしてデータから言えることは何かを検討することができる。
7.問題意識に照らして、今後の検討課題は何であるかを検討することができる。
8.学科の定めた卒業研究論文の様式に従って文章化することができる。

使用教材

卒業研究に必要な教材は、随時紹介または提供する。

参考文献

参考となる文献については、各教員がその都度紹介する。

評価方法

テーマの内容、問題意識、文献の検索、取り組みへの積極性、執筆に際しての主体性、執筆内容、ゼミでの発言、発表の仕方等を総合して評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

学生の研究テーマや研究方法はそれぞれ異なることから、ゼミの担当教員は随時学生に必要なフィードバックを行う。なお、学生の自主性・自律性を最大限尊重するために、教員からのアドバイスは必要最小限に留める。

オフィスアワー

担当教員のオフィスアワーと研究室は、他の科目で確認すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	卒業研究とは	1,2	先輩の卒業研究論文や卒業論文抄録集を読み、卒業研究の構想を考える。	1.5 h	ゼミで出た意見を参考にして構想を深める。	1.5 h
2	保育・教育を巡る諸課題についての検討(その1)－研究テーマの検討	1,2	自分の関心事に関する新聞記事やインターネットのニュースを読む。	1.5 h	ゼミで出た意見を参考にして、テーマ設定について考える。	1.5 h
3	保育・教育を巡る諸課題についての検討(その2)－暫定的研究テーマの決定	1,2	新聞記事やインターネット、書籍等の資料に目を通し、研究テーマを考える。	1.5 h	ゼミで出た意見を参考にして、研究テーマの暫定案を決める。	1.5 h
4	研究テーマに関連する先行研究の検討(その1)－先行研究の探索	1,2	研究テーマに関連する先行研究を探し、目を通す。	1.5 h	ゼミで出た意見を参考にして、さらに先行研究を探し、目を通す。	1.5 h
5	研究テーマに関連する先行研究の検討(その2)－問題意識のすり合わせ	1,2	先行研究に目を通し、自分の問題意識とすり合わせる。	1.5 h	ゼミで出た意見を参考にして、先行研究を概括する。	1.5 h
6	研究目的に関する検討(その1)－研究目的の明確化	1,2,3	自分の問題意識と先行研究をもとにして、研究目的の明確化を図る。	1.5 h	ゼミで出た意見を参考にして、研究目的について検討を深める。	1.5 h
7	研究目的に関する検討(その2)－研究目的の文章化	1,2,3	研究目的の文章化を図る。	1.5 h	ゼミで出た意見を参考にして、研究目的の文章を整える。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	研究方法に関する検討(その1)－研究方法の明確化	1,2,3	研究目的に適した研究方法について検討する。	1.5h	ゼミ出た意見を参考にして、研究方法の明確化を図る。	1.5h
9	研究方法に関する検討(その2)－研究方法の文章化	1,2,3	研究方法の文章化を図る。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、研究方法の文章を整える。	1.5h
10	データの整理方法についての検討(その1)－データ整理に関する先行研究参照	4,5	データの整理方法について先行研究も参考にして調べる。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について考える。	1.5h
11	データの整理方法についての検討(その2)－データ整理の明確化	4,5	データの整理方法について明確化を図る。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について明確化を図る。	1.5h
12	データの整理方法についての検討(その3)－データ整理の文章化	4,5	データの整理方法について文章を整える。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について文章を整える。	1.5h
13	データの分析方法についての検討(その1)－データ分析の準備	4,5	データの分析方法について下調べをする。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析の方法について検討を加える。	1.5h
14	データの分析方法についての検討(その2)－データ分析方針の検討	4,5	データ分析の方針を検討する。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析の方法を決める。	1.5h
15	データの分析結果についての検討(その1)－データ分析の概括	5,6	データの分析に着手し、結果の概括を進める。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析を進める。	1.5h
16	データの分析結果についての検討(その2)－データ分析の進化	5,6	データ分析を進める。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析を進める。	1.5h
17	データの分析結果についての検討(その3)－データ分析の文章化	5,6	結果の概括を踏まえて文章化を進める。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、結果の総括を文章化する。	1.5h
18	データの分析結果についての検討(その4)－データ分析の文章整理	5,6	結果の文章を整える。	1.5h	ゼミで出た意見を踏まえて、結果の文章を整える。	1.5h
19	考察の検討(その1)－考察の柱立て	6,7	考察の柱立てを考える。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、考察の柱立てと内容を考える。	1.5h
20	考察の検討(その2)－考察の文章化	6,7	考察の柱に沿って、文章化に着手する。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、文章化を進める。	1.5h
21	考察の検討(その3)－考察の深化	6,7	考察全体の文章化を進める。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、 考察の文章を整える。	1.5h
22	卒業研究論文全体を通しての検討	6,7	卒業研究論文全体の構成や文章を見直す。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究論文全体を整える。	1.5h
23	卒業研究論文提出に向けての最終チェック(その1)－論文の整合性チェック	6,7	研究テーマ・研究方法・研究結果・考察・文献など、内容の整合性を検討する。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究論文全体を見直す。	1.5h
24	卒業研究論文提出に向けての最終チェック(その2)－論文様式のチェック	8	卒業研究論文の様式が学部指定の様式に合致しているか検討する。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究論文の様式を確認し、必要な修正を加える。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
25	卒業研究論文を提出した後の振り返り	1,2,6,7	卒業研究を通して学んだことを振り返る。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究全体を振り返る。	1.5h
26	卒業研究論文の抄録用原稿作成	6,7	抄録用の原稿を作成する。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、抄録用の原稿を完成させる。	1.5h
27	卒業論文発表会のパワーポイント作成	6,7	卒業論文発表会用のパワーポイントを作成する。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、パワーポイントを完成させる。	1.5h
28	卒業論文発表会のリハーサル(その1)－発表原稿の作成	6,7	卒業論文発表会用の原稿を作成する。	1.5h	ゼミでのリハーサルで出た意見を参考にして、発表用原稿を整える。	1.5h
29	卒業論文発表会のリハーサル(その2)－発表原稿の修正	6,7	発表の練習を繰り返し、原稿の修正を行う。	1.5h	ゼミでのリハーサルで出た意見を参考にして、原稿を完成させる。	1.5h
30	卒業論文発表会の振り返り	6,7	パワーポイントと発表原稿が意を尽くしていたか、振り返る。	1.5h	ゼミで出た意見を参考にして、今後の課題を考える。	1.5h

合計時間（予習・復習）

90h

備考

保育・教育をめぐる諸問題に関して普段から問題意識を持っていること。研究テーマや研究の目的を明確にし、先行研究や文献研究を丁寧に行うこと。研究によってはデータを収集し、整理し、分析し、研究目的に照らしてデータから言えることは何かを検討すること。今後の検討課題は何であるか明らかにするとともに、学科の定めた卒業論文の様式に従って文章化する。

印刷 閉じる

学校経営と学校図書館

英文名：School Management and School Library
科目区分：司書教諭
科目ナンバリング：–
学年：4年
開講期：前期
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
– 豊かな人間性と教養
– 専門的知識
– 問題発見・解決力
– 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
– 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

青木　いず美

科目に関連した実務経験

教員として県内の小中学校に勤務（経験）
県内小中学校で担任をしながら司書教諭として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：司書教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○					

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学校経営の視点を重視し、学校図書館の読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を現場の状況に即して学習する。教師と司書教諭、学校図書館職員の連携・協働の大切さを理解し、学校の教育活動における学校図書館活動の課題と展望を考察する。
②授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に提示するスライドに沿って進めていく。また、第3回～第13回講義では、講義内容に合わせたグループワークまたはディスカッションを行い、課題の提出を求める。

到達目標

1.学校教育における学校図書館活動の重要性を理解する。
2.実際の学校教育に生かす方法を考え、実践できるようになる。

使用教材

「探究　学校図書館学」編集委員会編著『学校経営と学校図書館』（探究 学校図書館学第1巻）全国学校図書館協議会
ISBN978-4-7933-2274-7
必要に応じて資料を配付

参考文献

中村百合子編著『学校経営と学校図書館』（樹村房）　ISBN978-4-88367-251-6　　授業中に提示

評価方法

平常点70%(毎回の課題や授業貢献度等）、最終レポート・プレゼンテーション30%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各授業終了時に学生から感想等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（学習の方法・授業評価）、	1	シラバス、授業の進め方、教科書の監修者の言葉、序文、第1章を読み、本講義の実施概要、到達目標、評価方法等を確認する。	1h	講義の実施概要、到達目標、評価方法等を理解し、自分なりの学習計画を立てる。司書教諭の資格について理解する。	1ｈ
2	学校教育の変遷と学校図書館（１） ・学校教育の理念と学校図書館	1	第１章（１～３）を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校教育の理念と学校図書館緒について理解する。	1.5ｈ
3	学校教育の変遷と学校図書館（２） ・学校図書館法の制定と学校図書館	1	第１章（４～５）を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校図書館法の制定と学校図書館について理解する。	1.5ｈ
4	学校図書館の法と行政（１） ・３の学校図書館の関連法令について、グループごとに分担してまとめる。(ジグソー法で行う)	1	第2章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。 ・ジグソー法について調べておく。	1.5ｈ	学校図書館をめぐる法体系について理解する。特に、学校図書館の関連法令について。	2ｈ
5	学校図書館の法と行政（２） ・４の学校図書館の基準・規則などについて、グループごとに分担してまとめる。(ジグソー法で行う)	1	第2章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	2h	日本における図書館制度及び学校図書館のあり方について理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	学校の教育課程と学校図書館	1	第3章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5h	学習指導要領の変遷と学校図書館、カリキュラム・マネージメントについて理解する。	1.5h
7	学校図書館の経営（１） ・学校図書館経営の過程と内容	1	第4章(1～3)を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校図書館の経営の過程と内容を理解する。	1.5h
8	学校図書館の経営（２） ・学校図書館担当者の役割と任務	1	第4章(4～5)を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校図書館職員の現状を理解し、学校内の協力体制と、学校図書館専門職の成立の可能性について理解する。	2h
9	学校図書館の経営の実際 ■学校図書館の運営と管理、施設・設備 ・学校図書館メディアの収集と整理	1,2 ■	第5章(1～2)を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校図書館の運営と管理、施設・設備に次緒て理解する。	2h
10	学校図書館の経営の実際 ■学校図書館メディアの提供 ・学校図書館の広報活動・行事や集会活動	1,2 ■	第5章(3～4）を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校図書館メディアの収集と整理とその提供について理解する。	2h
11	■学校図書館の経営の実際 ・児童・保護者・教職員向けの図書館だよりを作成する。 ・学校図書館の行事や集会活動案を考える。	1,2 ■	第5章(5)を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。 ・児童・保護者・教職員向けの図書館だよりの案を考える。	2h	学校図書館の行事や集会活動の具体例を考え、まとめる。	2h
12	学校図書館の学習活動への支援（１） ■学校図書館の教科・授業・探究学習への支援	1,2 ■	第6章(1～2)を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校図書館の教科・授業・探究学習への支援について理解し、自分事としてまとめる。	2h
13	学校図書館の学習活動への支援（2） ・学校図書館の情報教育、特別活動への支援	1,2	第6章(3～4）を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校図書館の情報教育、特別活動への支援について理解する。 図書委員会活動について自分なりにまとめる。	2h
14	学校図書館の連携・協力と将来像 最終レポートの準備	1,2	第7章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	最終レポート（詳細は講義の中で発表）を作成し、発表の準備をする。	2h
15	最終レポートの発表 まとめ	1,2	最終レポート（詳細は講義の中で発表）を作成し、発表の準備をする。	2h	学校図書館の発展のため社会的課題は何か、何をなすべきか自分なりの学校図書館像を考えてみる。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業では、積極的に発言することを期待する。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

学校図書館メディアの構成

英文名：Selection and Organization of School Library Media Resources
科目区分：司書教諭
科目ナンバリング：–
学年：4年
開講期：前期
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
– 豊かな人間性と教養
– 専門的知識
– 問題発見・解決力
– 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
– 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

小柳　聡美

科目に関連した実務経験

学校図書館司書として公立小中学校に勤務(現在)
教務職員として進学塾に勤務(経験)

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：司書教諭

SDGsとの関連





アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
				○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

司書教諭として、学校図書館メディアの構成が出来るようになることを目的とする。そのために学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・保存・提供等について考察する。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための資料組織化の技術を習得する。

到達目標

1.学校図書館メディアの構成について、基本的な知識を身につける。
2.日本十進分類法による分類を説明できる。■
3.学校図書館メディアを日本十進分類法により、組織化できる。■
4.学校図書館メディアの収集・組織・提供ができる。■
5.学校図書館メディアの配架ができる。■

使用教材

『学校図書館メディアの構成』探究　学校図書館学　第2巻　「探究　学校図書館学」編集委員会　編著
（全国学校図書館協議会）　ＩＳＢＮ9784793322754

参考文献

『情報資源組織法　第２版』志保田務　高鷲忠美　編著　平井尊士　共著（第一法規）
ＩＳＢＮ9784474054301

評価方法

筆記試験６０％、授業時間内発表及び提出物３０％、授業参加度１０％で評価する。
総合評価６０％以上を合格とする。なお詳しい評価基準は、初回講義時に提示する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートは講義内で発表時間を設け、講評する。
筆記試験の意図は、第１回の講義で説明する。

オフィスアワー

質問には講義開始前もしくは終了後に
教室等で応じます

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学校図書館メディアの意義・役割	1	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書教諭免許を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。	1.5h	学校図書館メディアの構成とは何かを理解する。	1.5h
2	学校図書館メディアの種類・特性　■	1	奥付とは何かを理解し、実例を挙げられるようにしておく。	1.5h	学校図書館メディアの定義・種類・特性を理解する。	1.5h
3	学校図書館メディアの選択と構成	1,4	「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会）を調べ、目を通しておく。	1.5h	資料選択方針について、理解する。	1.5h
4	学校図書館メディアの組織化（１）分類の意義と機能	1,2	分類とは何か、自分なりに説明できるようにしておく。	1.5h	分類とは何か、近代分類法出現以降の主要な分類表の歴史について理解する。	1.5h
5	学校図書館メディアの組織化（２）日本十進分類法の概要	1,2	これまでに日本十進分類法を活用した経験について考える。	1.5h	類目表、綱目表、要目表について理解する。	1.5h
6	第1章　高度情報社会における学校教育と学校図書館メディア	1,2,3	教科書p9～18。	1.5h	学校図書館メディアについて復習する。	1.5h
7	第2章　学校図書館メディアの種類と特性	1,2,3	教科書p19～37。	1.5h	関連資料を読む。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	第3章　学校図書館のコレクション構築	1,2,3	教科書p38～58。	1.5h	選書において大切なことは何か説明できるようにしておく。	1.5h
9	第3章　学校図書館のコレクション構築	1,4	教科書p59～78。	1.5h	ファイル資料について理解する。	1.5h
10	第4章　学校図書館メディア組織化の意義と展開	1,4	教科書p79～89。	1.5h	配架の原則、目録とは何かを理解する。	1.5h
11	第5章　学校図書館メディア組織化の実際:目録法	1,4	教科書p90～114。	1.5h	目録規則の意義と構成について理解する。	1.5h
12	第6章　学校図書館メディア組織化の実際：主題索引法	1,4	教科書p116～144。	1.5h	分類法、件名標目法について理解する。演習問題。	1.5h
13	学校図書館メディアの組織化に伴う発表	1,4	発表準備。	1.5h	自分以外の発表について考察する。	1.5h
14	学校図書館メディアの組織化に伴う発表	1,4	発表準備。	1.5h	自身の振り返りと自分以外の発表についての考察。	1.5h
15	まとめ　多様な学習環境と学校図書館メディアの配置　■	1,5	自身が利用してきた学校図書館について、学習環境とメディア配置の特長、改善点について考察する。NDC第2次区分を暗記する。	1.5h	全講義、振り返り。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

第２回より、導入で前回の講義内容を４００字でまとめて提出。
対面講義を前提としています。オンライン等で実施の場合は、改めてご連絡します。基本的にはシラバスの順序に従って教科書を用い、講師オリジナルの内容説明資料を配信します。連絡・相談にも随時応じます。
日本十進分類法　第２次区分表を暗記すること（教科書p119に収録されています）。
一昨年度とは使用教材が違いますので、ご注意下さい。
■実務経験に基づく内容を示す。
alskoyanagi@yahoo.co.jp
授業初回時に別途指示する。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

学習指導と学校図書館

英文名：School Curriculum and School Library
科目区分：司書教諭
科目ナンバリング：–
学年：4年
開講期：後期
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
– 豊かな人間性と教養
– 専門的知識
– 問題発見・解決力
– 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
– 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く すべて閉じる

担当教員

青木　いず美

科目に関連した実務経験

教員として県内の小中学校に勤務（経験）
県内小中学校で担任をしながら司書教諭として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：司書教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○				

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①司書教諭として、児童生徒の学習指導に学校図書館を活用し、教師の学習指導に対して支援ができるようになることを目指す。
②授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎のパワーポイントに沿って進めていく。また、各講義では、講義内容に合わせたグループワークまたは演習を行い、課題の提出を求める。その中に、中間課題と最終課題を設定する。

到達目標

1.児童生徒が、発達段階に応じて学校図書館メディアを活用できる。
2.学習指導において、教師の学校図書館メディア活用を支援できる。

使用教材

探究　学校図書館学」編集委員会編著『学習指導と学校図書館』（探究 学校図書館学第3巻）全国学校図書館協議会
ISBN978-4-7933-2276-1
必要に応じて資料を配付

参考文献

塩谷京子『探究の過程におけるすぐに実践できる情報活用スキル５５』(ミネルヴァ書房　２０１９）9784623084456
授業中に提示

評価方法

講義ごとの課題と授業貢献度60%、中間・最終課題40%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各講義終了時に学生から感想等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の講義で解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス（学習の方法・授業評価について説明する） 現代の学校教育と学校図書館	1	シラバス、授業の進め方、教科書の監修者の言葉から第1章を読み、本講義の実施概要、到達目標、評価方法等を確認する。	1h	講義の実施概要、到達目標、評価方法等を理解し、自分なりの学習計画を立てる。学習と図書館の役割について理解する。	2h
2	■教育課程の編成と学校図書館 学習指導要領と学校図書館	1■	第2・3章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	教育課程の編成と学校図書館・学習指導要領と学校図書館について理解する。	2h
3	■学校図書館における情報活用能力の育成	1,2■	第4章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	学校図書館における情報活用能力の育成について理解する。	2h
4	■情報活用能力等の育成と評価（１）課題の設定	1,2■	第5章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	情報活用能力等の育成と評価の課題の設定について理解する。	2h
5	■情報活用能力能力等の育成と評価(2)情報の収集	1,2■	第6章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	情報活用能力等の育成と評価の情報の収集について理解する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	■情報活用能力能力等の育成と評価(３)整理・分析	1,2 ■	第7章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	理情報活用能力等の育成と評価の整理・分析について理解する。	2h
7	■情報活用能力能力等の育成と評価 （４）まとめと表現 中間課題の準備	1,2 ■	第8章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	情報活用能力等の育成と評価もまとめと表現について理解する。 中間課題（詳細は講義の中で発表）を作成し、発表の準備をする。	2h
8	中間課題の発表(発表に対する質問・意見・感想)	1,2	中間課題（詳細は講義の中で発表）を作成し、発表の準備をする。	2.5h	中間課題の反省	0.5h
9	情報サービスと学校図書館	1,2	第9章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	レファレンスサービスとレファレンス協同データベースの活用方法について理解し、活用できるようにする。	2h
10	■発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択 学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備	1,2 ■	第10・11章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択について、学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備について理解する。	2h
11	■教科等の学習指導の実際と学校図書館	1,2 ■	第12章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。ゲストスピーカーの実践事例について調べてみる。	1h	教科等の学習指導の実際と学校図書館について理解する。	2h
12	■総合的な学習・探究の時間と学校図書館 特別な教育的ニーズと学校図書館	1,2 ■	第13・14章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1h	総合的な学習・探究の時間と学校図書館、特別な教育的ニーズと学校図書館について理解する。について理解する。	2h
13	最終課題の準備	1,2	最終課題（詳細は講義の中で発表）の準備をする。	1h	最終課題のプレゼンテーションを作成し、発表の準備をする。	2h
14	最終課題の発表(発表に対する質問・意見・感想)	2	最終課題のプレゼンテーションを作成し、発表の準備をする。	2.5h	最終課題の反省	0.5h
15	講義のまとめ 司書教諭の役	1,2	第15章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。教科書、配布資料、ノ	2h	司書教諭の役割と学習指導と学校図書館についいいてまとめ、司書教諭のあり方に	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	割と学習指導と学校図書館		ート等を確認し、自分の関心・疑問を整理し、疑問点や質問事項があれば講師に事前に連絡する。		ついての自分の考えをまとめる。	

合計時間（予習・復習）

45h

備考

講義では、積極的に発言することを期待する。
学習指導に学校図書館を活用する意義を理解し、現場で応用できるスキルを身につけること。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

読書と豊かな人間性

英文名：Theories of Reading and Personal Development in Schools
科目区分：司書教諭
科目ナンバリング：–
学年：4年
開講期：後期
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
– 豊かな人間性と教養
– 専門的知識
– 問題発見・解決力
– 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
– 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

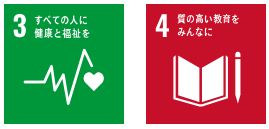
担当教員

秋山　美和子

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：司書教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
		○	○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学校図書館の読書センターとしての役割を理解し、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を実践することができるようにする。
②授業は、参考資料も適宜配付しながら、授業毎に配付するレジュメに沿って進めていく。また、講義内容に合わせた実践的な活動を多く取り入れて現場で活用できるスキルを身につけられるようにすると共に、グループワークまたはディスカッションを通して理解を深める。

到達目標

1.読書の意義と目的を理解し、生涯にわたる読書習慣を身につけるための指導ができる。
2.発達段階に応じた読書の指導と計画の立案ができる。
3.児童生徒に適した資料（紙・デジタル）を理解し、有効活用を図るための支援ができる。

使用教材

『読書と豊かな人間性』（探究 学校図書館学第4巻）全国学校図書館協議会　ISBN978-4-7933-2277-8

評価方法

実技・ディスカッション・グループワーク60%、課題・プレゼンテーション20%､授業貢献度等20%で評価する。総合評価60%以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各授業終了後に学生から意見・感想・質問等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の授業で解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に教室等で応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、読書の意義と目的	1	シラバス、教科書第1章を読んでおく。	1h	現代における読書の意義について理解する。	2h
2	読書教育の系譜	1	教科書第2章を読んでおく。	1.5h	読書教育の歴史について理解する。	1.5h
3	読書指導と学校図書館	1,2,3	教科書第3章を読んでおく。「ブックウェビング」のための本を選書しておく。	2.5h	学校教育における読書について理解し、「ブックウェビング」の手法を活用できるようにする。	0.5h
4	子どもの読書環境	1,2,3	教科書第4章を読んでおく。	1.5h	子どもの読書の実態を理解し、「味見読書」を体験して読書教育として活用できるようにする。	1.5h
5	発達に応じた読書指導	1,2,3	教科書第5章を読んでおく。	1.5h	子どもの読書能力の発達段階に応じた読書指導について理解する。	1.5h
6	子どもの本の種類と提供、読書環境の整備	1,2,3	教科書第6,7章を読んでおく。	1.5h	本の提供と読書環境の整備について理解する。	1.5h
7	子どもと本を結ぶための方法(1)ブックトーク、アニマシオン	1,2,3	教科書第8章を読んで、「アニマシオン」について調べておく。	2h	実演を経験することで、実際の現場で活用できるようにする。	1h
8	子どもと本を結ぶための方法（2）ビブリオバトル・読書会	1,2,3	「ビブリオバトル」のための本を選書しておく。	2.5h	実演を経験することで、実際の現場で活用できるようにする。	0.5h
9	各教科等での読書指導・探究的な学習と読書指導	1,2,3	教科書第9章を読んでおく。	1.5h	探究的な学習を行うために、「点検読書」の手法を活用できるようにする。	1.5h
10	読書活動の実際（1）校種別の読書活動	1,2,3	教科書第10,11章を読み、「一箱本棚」のためテーマを決め、本を選書しておく。	2.5h	本を提供する際のテーマの選択と選書について理解する。	0.5h
11	読書活動の実際（2）読書旬間の取組の検討	1,2,3	教科書第10,11章の事例を参考に、「読書旬間」の取組について検討しておく。	2h	子どもの読書活動を推進するための「読書旬間」の意義を理解する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
12	読書活動の実際（3)読書旬間の取組のプレゼンテーション・ディスカッション	1,2,3	「読書旬間」の取組についてプレゼンテーションし、ディスカッションできるように準備しておく。	2.5h	子どもの読書活動に関する事業が企画ができるようにする。	0.5h
13	読書活動の推進と司書教諭・学校司書	1,2,3	教科書第12章を読んでおく。	1.5h	司書教諭と学校司書の役割について理解する。	1.5h
14	個に応じた読書指導	1,2,3	教科書第13章を読んでおく。	1.5h	特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する読書指導について理解する。	1.5h
15	地域社会との連携	1,2,3	教科書第14章を読んでおく。	1.5h	地域の関係機関と学校図書館との連携について理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業における実技、ディスカッション、グループワークでは、積極的に発言することを期待する。
読書の意義を理解し、現場で応用できるスキルを身につけること。
※オンライン（オンデマンド）で授業を行う場合
①教材のデータを授業日の前日までにC-learningに配信する。
②配信された教材の内容を理解し、提示された課題のレポートをC-learningで提出する。
③レポートの提出をもって「出席」とする。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.

情報メディアの活用

英文名：Utilization of School Library Media
科目区分：司書教諭
科目ナンバリング：–
学年：4年
開講期：後期
単位数：2単位
講義形態：講義
学位授与方針との対応：
比重 DP
– 豊かな人間性と教養
– 専門的知識
– 問題発見・解決力
– 多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）
– 自律的・意欲的に学習する力

すべて開く　すべて閉じる

担当教員

青木　いず美

科目に関連した実務経験

教員として県内の小中学校に勤務（経験）
県内小中学校で担任をしながら司書教諭として勤務（経験）

履修を必須とする資格

免許・資格指定科目：司書教諭

SDGsとの関連



アクティブラーニング実施方法

PBL（課題解決型学習）	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	演習、実験、実習、実技	フィールドワーク	指導案作成、模擬授業	リアクションペーパー	その他
			○	○	○			○	

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

講義の目標
1　学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用法を理解する。
2　知的財産権や情報リテラシー、社会的連携や特別支援など情報を活用する上で必要な知識を身につける。
講義の実施方法
教科書と配付資料とプレゼンテーションスライドの提示,参考図書など実物の使用法を示して説明する。復習として、情報資源を活用した情報検索等の課題を課す。各講義では、講義内容に合わせたワークショップやディスカッションを行い、課題

の提出を求める。
最終課題についてはテーマを示しそれについてPowerPoint制作し発表を行う。受講生にはそれらの成果を互いに共有し、意見交換の時間を設ける。毎回、振り返りを行う。

到達目標

１情報メディアの特性を理解し選択できる。
２教育活動において,視聴覚メディア、インターネット情報資源や紙媒体の情報資源を活用できる。
３学校図書館メディアと著作権について理解する。

使用教材

「探究学校図書館学」編集委員会『情報メディアの活用』(探究学校図書館学第5巻)全国学校図書館協議会ISBN978-4-7933-2278-5
必要に応じて、C-learningまたは講義中に資料を配付する。

参考文献

『ネット情報におぼれない学び方』梅澤貴典著　岩波ジュニア新書　2023年

評価方法

平常点70%　（毎回の課題、授業貢献度）、最終課題30%　　総合評価60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

各講義終了時に学生から感想等の提出を受け、疑問点やさらに解説が必要な事項等について次回の講義で解説する。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前や終了後に教室等で応じる。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス(科目オリエンテーション) Canva、Padletを使用するので、その方法について知る。	1,2	学校図書館との関わりを考えてくる。 「司書教諭とは？」に対する自分の考えを一文で考えてくる。 具体的な「情報メディア」を考えてくる。	1.5h	講義の振り返りを行う。 Canvaで自己紹介カードを作成し、Padletに提出する。	1.5h
2	■情報化が進展する社会 ・情報活用能力 ・GIGAスクール構想 ・学校図書館と情報メディアの活用	1,2 ■	第1章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5h	講義の振り返りを行う。	1.5h
3	■教育・学習理論と情報メディアの活用 ・情報リテラシー ・学校図書館を取り巻く今日的課題	1,2 ■	第２章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5h	講義の振り返りを行う。	1.5h
4	教育メディアの歴史 ・放送教育からデジタルコンテンツへ ・コンピューターの教育利用 ・多様な教育・学習アプリケーション	1,2	第３・４章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5h	講義の振り返りを行う。 ・教育・学習アプリケーションを体験し、その感想を提出	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	■情報メディアの種類と特性（１） ・図書資料 ・逐次刊行物(新聞)	1,2 ■	第５章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5h	講義の振り返りを行う。	2h
6	■情報メディアの種類と特性（２） ・デジタルメディア情報源 ・電子書籍	1,2 ■	第６章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。 ・大学図書館内を巡って,どのようなメディアを備えているか確認する。	1.5h	講義の振り返りを行う。 ・大学図書館契約のe-bookを使う。	１h
7	■学校におけるICTの活用 ・教育用ソフトウェア一	1,2 ■	第７章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5h	講義の振り返りを行う。	1.5h
8	インターネット情報源と情報検索 ・インターネット情報源の活用 ・図書館蔵書検索システム ・オンラインデーターベースの活用	1,2	第８章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。 インターネット利用上の情報セキュリティの例を考える。	1.5h	講義の振り返りを行う。 ・大学図書館契約のDBを使う。	1.5h
9	児童生徒の情報行動の実態と指導 ・情報モラル教育 ・知的財産権 ・学校生活と著作権	3	第９・15章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。 ・学校教育における著作権の問題を3つ以上考えてくる。	1.5h	講義の振り返りを行う。	1.5h
10	■情報メディアの活用事例(小学校) ・体系的な情報リテラシーの育成 ・プログラミング教育 ・情報メディアの活用と司書教諭の役割	1,2 ■	第10章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5h	講義の振り返りを行う。	1.5h
11	情報メディアの活用事例(中学校) ・学校図書館における情報メディア環境の整備	1,2	第11章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。 大学図書館で百科事典、年鑑等を確認する。	1.5h	講義の振り返りを行う。	1.5h
12	情報メディアの活用事例(高等学校) ・教科「情報」 ・探求型学習における情報メディアの活用	1,2	第１２章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5h	講義の振り返りを行う。	0.5h
13	特別な支援をようする児童生徒への情報メディアの活用事例	1,2	第13章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。 ・学校図書館における特別支援を考える。	1.5h	講義の振り返りを行う。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	■情報メディアを取り巻く連携の事例 情報メディアをめぐる課題と展望 ・最終課題について	1,2 ■	第14・15章を読み、自分の関心・疑問を整理するとともに、必要に応じて関連する文献・資料などで調べておく。	1.5 h	最終課題の制作をする。 講義の振り返りを行う。	2.5 h
15	最終課題の発表	1,2	最終課題の制作をする	2.5 h	講義の振り返りを行う。	0.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

この科目は、提出課題が多い科目です。受講者は提出課題が多いことを理解のうえ受講してください。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

Copyright © 2025 Takasaki University of Health and Welfare All rights reserved.